

栃木県埋蔵文化財調査報告第359集

# 山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡

—経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2013.3

栃木県教育委員会  
（財）とちぎ未来づくり財団

# 山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡

—経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2013.3

栃木県教育委員会  
(財)とちぎ未来づくり財団



## 序

山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は、栃木県の東部、さくら市鹿子畑地内に所在します。当地は喜連川丘陵と呼ばれる丘陵地帯を荒川、内川、江川、岩川などの河川が東南流しています。これらの河川に臨む段丘上や丘陵の裾には多くの遺跡が分布しており、この一帯が古来より人々の生活に適した豊かな土地であったことを物語っています。

このたび、江川南部Ⅱ地区の農地整備事業に先立ち、計画地内に所在する遺跡の取扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

発掘調査では、山の神Ⅱ遺跡が奈良・平安時代の集落を中心とする遺跡であり、中世から近世においても建物跡や溝跡などが見つかりました。また、欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は、縄文時代前期および古墳時代中期、さらに奈良・平安時代と断続的に人々の生活が営まれていたことが明らかとなりました。

本報告書は、江川南部Ⅱ地区に所在する山の神Ⅱ遺跡、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が、県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました、栃木県農政部、さくら市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

栃木県教育委員会

教育長 古澤 利通

## 例 言

- 1 本書は、栃木県さくら市金枝地内に所在する山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査である。
- 3 調査は、栃木県農政部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、財団法人とちぎ生涯学習文化財団（平成23年度より財団法人とちぎ未来づくり財団）埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 4 発掘調査から整理・報告書作成までの期間および担当は以下の通りである。

### 平成19年度 発掘調査（発掘 山の神Ⅱ遺跡）

期 間 平成19（2007）年4月24日～平成20（2008）年3月30日

担当者 調査部調査第一担当主査 手塚達弥  
嘱託調査員 平山紋子

### 平成20年度 発掘調査（発掘 山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡）

期 間 平成20（2008）年4月23日～平成21（2009）年3月30日

担当者 山の神Ⅱ遺跡

調査部調査第一担当係長 芹澤清八  
主 査 手塚達弥  
嘱託調査員 田村雅樹

欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡

調査部調査第一担当係長 塚本師也  
嘱託調査員 村田沙織

### 平成21年度 発掘調査（整理）

期 間 平成21（2009）年5月1日～平成22（2010）年3月30日

担当者 調 査 部 副 主 幹 藤田典夫  
係 長 芹澤清八 塚本師也  
主 査 篠原祐一 塚原孝一 篠原浩恵  
内山敏行 今平昌子 亀田幸久  
嘱託調査員 田村雅樹 長濱健一 宅間清公

### 平成22年度 発掘調査（整理）

期 間 平成22（2010）年4月30日～平成23（2011）年3月30日

担当者 調査部調査第二担当副主幹 塚本師也  
主 査 中村享史

### 平成23年度 発掘調査（整理）

期 間 平成23（2011）年7月1日～平成24（2012）年3月29日

担当者 調査部調査第二担当副主幹 塚本師也

平成24年度 発掘調査(整理・報告)

期 間 平成24(2012)年7月1日～平成25(2013)年3月28日

担当者 整理課嘱託調査員 永井三郎

5 発掘調査の参加者は、次の通りである。

相ヶ瀬征美	阿久津ヒロ	天羽 國廣	荒井 和子	石井サキ子	植松 千晶
碓氷ヒロ子	大島 静江	小川 征男	小野 幸夫	加藤 達雄	川上 保乃
久郷ヨシエ	久郷 好子	桑原恵美子	児島 哲子	小島 利三	小森 英二
齋藤 和子	齋藤 貴仁	佐藤 強	佐藤 美子	塩田 治男	鳥村 洋子
鈴木 一男	墨野倉弘美	高瀬キミ子	高月 アイ	田所 清一	田中キミエ
豊田裕美子	中村洋一郎	樋山 稔	藤田 斌久	増田 早苗	溝上 吉博
皆川 晶	横田 栄	横田 シナ	横田リサ子	渡辺久仁子	渡辺ヒロ子

6 整理、報告書作成作業の参加者は次の通りである。

阿部めぐみ	天野 崇弘	市川 貴子	大出美智子	沖田 有孝	尾見 愛
金井千佳子	蒲生 光子	川上須美代	河又 智美	熊谷 早苗	篠原 彩子
菅 智子	佐久間京子	砂子坂紀余子	関 和美	高橋久美子	田崎 訓子
田中 宏彰	鶴見 里子	戸崎 眞弓	広瀬 裕美	堀山 裕子	松岡 葉子
松崎 和子	松本 美穂	村上 啓子	元西 幸子	矢島 早苗	米野 裕子

7 本書の執筆・作成は、整理補助員佐久間京子・田崎訓子・松崎和子・元西幸子の協力を得て、永井が行った。

8 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡出土縄文土器及び石器の分類・所見は塚本が行った。

9 石器の使用痕分析は株式会社アルカに委託して行った。

10 遺構の写真撮影は現場担当者が行い、遺跡航空写真撮影は中央航業株式会社に委託して行った。

11 出土遺物の写真撮影は永井が行った。

12 本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報、栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書をもって正式報告とする。

13 本遺跡の出土遺物、図面写真等資料等については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

## 凡 例

### 1 遺跡

1. 遺跡の略号はS R-Y M (SAKURA-YAMANOKAMI)、S R-K K (SAKURA-KAKENOUÉ)である。
2. 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いるSA(堀、欄列)、SB(建物)、SD(溝)、SE(井戸)、SI(住居)、SK(土坑)に準拠する。
3. 遺構図の縮尺は、竪穴建物跡・掘立柱建物跡は1/80、土坑は1/60を基本とし、必要に応じて1/40、1/20を用い、挿図中にスケールで示した。
4. 方位は国土方眼座標に拠っている。
5. 実測図中のスクリーントーンは以下のとおりである。



### 2 遺物

1. 実測図は、縄文土器は1/3、その他の土器は1/4縮尺を基本とし、図中にスケールを示した。
2. 実測図中の遺物番号は、遺構実測図毎の出土番号及び遺物観察表に対応する。
3. 作図にあたっては、以下の点に留意した。
  - ① 実測方法は四分割法を用い右側二分の一には内面と断面、左側には外面を記録した。
  - ② 残存率の良いものは土器の状態を忠実に示すため割付実測を行い、欠損部分についてのみ復元もしくは反転して作図した。
  - ③ 残存率の悪いものは、土器の中心を算出し、反転復元して作図した。この場合、反転に伴い左右の外形線は同一、併せて稜線も直線で表現している。
  - ④ 沈線や強い稜線、くびれ、脚(台)部の境等は実線で表現した。
  - ⑤ 断面図内の点線は、粘土紐や脚(台)部等の接合を表現する。なお、表記のないものには、観察上明確に接合部が特定できないものも含まれている。
  - ⑥ ヘラケズリやヘラナデの作法を表現する中で示される矢印は、工具の動いた方向を表す。
  - ⑦ 砥石等を表現する中で示される矢印は、擦痕の動いた方向を表す。
4. 遺物観察表中の胎土は、肉眼観察で土器全体に占める砂粒の粗密によつての多い、少ないであり、一定面積内の含有量を定めた基準を設けたものではない。
5. 焼成は、不良、良、良好の三段階に分け、土師器の場合、硬質感のあるものを良好、通常認められる程度のを良、表面が水に溶けるものなどを不良とした。
6. 実測図中のスクリーントーンは以下のとおりである。



# 目 次

序  
例言  
凡例  
目次

第一章 調査の経緯	
第一節 調査に至る経緯	1
第二節 調査の方法	2
第二章 遺跡の環境	
第一節 地理的環境	5
第二節 歴史的環境	5
第三章 山の神Ⅱ遺跡の調査	
第一節 調査区の概要	20
第二節 縄文時代の遺構	
第一項 土 坑	27
第二項 遺構外出土の縄文時代遺物	27
第三節 古墳時代・古代の遺構	
第一項 竪穴建物跡	33
第二項 掘立柱建物跡	112
第三項 土 坑	118
第四項 溝	124
第五項 遺構外出土の古代遺物	125
第四節 中近世の遺構	
第一項 掘立柱建物跡	127
第二項 柵 列	161
第三項 方形竪穴状遺構	166
第四項 井 戸	175
第五項 溝	177
第六項 土 坑	181
第七項 近世墓	267
第八項 遺構外出土の中近世遺物	273
第五節 まとめ	
第一項 集落の動向	275
第二項 墨書土器	277
第三項 中近世掘立柱建物跡の柱間寸法	277
第四章 欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡の調査	
第一節 調査区の概要	282

第二節 縄文時代の遺構	
第一項 竪穴建物跡	288
第二項 土坑	327
第三項 埋没谷	329
第四項 遺構外出土の縄文時代遺物	352
第三節 古墳時代・古代の遺構	
第一項 竪穴建物跡	383
第二項 掘立柱建物跡	447
第三項 土坑	456
第四項 埋没谷出土舟形土製品	461
第四節 中世の遺構	
第一項 土坑	462
第五節 近世の遺構	
第一項 近世墓	475
第二項 土坑	475
第三項 近世の遺物	475
第四項 遺構外出土の近世遺物	480
第六節 まとめ	
第一項 集落の動向	481
第二項 墨書土器	482
第三項 舟形土製品	484
付 章 石器の分析	
石器の使用痕分析 (株式会社 アルカ)	501

## 挿 図 目 次

### 山の神Ⅱ遺跡

第1図 遺跡位置図	3	第16図 縄文時代の土坑実測図(2)	30
第2図 遺跡の範囲と調査区位置図	4	第17図 縄文時代の上坑出土遺物実測図	30
第3図 遺跡の地理的環境	6	第18図 縄文時代の遺構外出土遺物実測図	31
第4図 周辺の遺跡 旧石器時代・縄文時代・弥生時代	8	第19図 古墳時代・古代の遺構位置図(1)	34
第5図 周辺の遺跡 古墳時代	11	第20図 古墳時代・古代の遺構位置図(2)	35
第6図 周辺の遺跡 古代	15	第21図 SI-44実測図	36
第7図 周辺の遺跡 中世	17	第22図 SI-44出土遺物実測図	36
第8図 調査区とグリット配置図	21	第23図 SI-45実測図(1)	37
第9図 山の神Ⅱ遺跡Ⅰ区全体図	22	第24図 SI-45実測図(2)	38
第10図 山の神Ⅱ遺跡Ⅱ区全体図	23	第25図 SI-45出土遺物実測図	38
第11図 山の神Ⅱ遺跡Ⅲ・Ⅳ区全体図	24	第26図 SI-50実測図	40
第12図 山の神Ⅱ遺跡Ⅴ区全体図(1)	25	第27図 SI-50出土遺物実測図	40
第13図 山の神Ⅱ遺跡Ⅴ区全体図(2)	26	第28図 SI-62実測図	41
第14図 縄文時代の遺構位置図	28	第29図 SI-64実測図	42
第15図 縄文時代の上坑実測図(1)	29	第30図 SI-65実測図	42



第3 1 図	SI-65出土遺物実測図	43	第8 3 図	SI-1498実測図	93
第3 2 図	SI-80・81実測図	44	第8 4 図	SI-1631・1672実測図	94
第3 3 図	SI-80出土遺物実測図	45	第8 5 図	SI-1631出土遺物実測図	94
第3 4 図	SI-81出土遺物実測図(1)	46	第8 6 図	SI-1661・1671実測図	96
第3 5 図	SI-81出土遺物実測図(2)	47	第8 7 図	SI-1661出土遺物実測図	96
第3 6 図	SI-82・82実測図	50	第8 8 図	SI-1690実測図	97
第3 7 図	SI-82出土遺物実測図	51	第8 9 図	SI-1690出土遺物実測図	97
第3 8 図	SI-83出土遺物実測図	52	第9 0 図	SI-1716実測図	98
第3 9 図	SI-90出土遺物実測図	53	第9 1 図	SI-1716出土遺物実測図	98
第4 0 図	SI-90実測図	54	第9 2 図	SI-1920実測図	99
第4 1 図	SI-91・92実測図	56	第9 3 図	SI-1920出土遺物実測図	99
第4 2 図	SI-91出土遺物実測図	57	第9 4 図	SI-2104実測図	100
第4 3 図	SI-92出土遺物実測図	58	第9 5 図	SI-2104出土遺物実測図	100
第4 4 図	SI-106実測図	59	第9 6 図	SI-2594実測図	101
第4 5 図	SI-113実測図	59	第9 7 図	SI-2594出土遺物実測図	101
第4 6 図	SI-114実測図	60	第9 8 図	SI-2595実測図	102
第4 7 図	SI-114出土遺物実測図	61	第9 9 図	SI-2595出土遺物実測図	102
第4 8 図	SI-115実測図	63	第100 図	SI-2596実測図	103
第4 9 図	SI-115出土遺物実測図	64	第101 図	SI-2596出土遺物実測図	103
第5 0 図	SI-143実測図	65	第102 図	SI-2700実測図	104
第5 1 図	SI-143出土遺物実測図	66	第103 図	SI-2700出土遺物実測図	105
第5 2 図	SI-157実測図	68	第104 図	SI-2725実測図	106
第5 3 図	SI-925実測図	68	第105 図	SI-2725出土遺物実測図	106
第5 4 図	SI-925出土遺物実測図	69	第106 図	SI-2727実測図	107
第5 5 図	SI-1035実測図	71	第107 図	SI-2727出土遺物実測図	108
第5 6 図	SI-1035出土遺物実測図	72	第108 図	SI-2735実測図	108
第5 7 図	SI-1277実測図	73	第109 図	SI-2735出土遺物実測図	108
第5 8 図	SI-1306実測図	73	第110 図	SI-2740実測図	109
第5 9 図	SI-1306出土遺物実測図	74	第111 図	SI-2740出土遺物実測図	109
第6 0 図	SI-1372実測図	74	第112 図	SI-2743実測図	110
第6 1 図	SI-1372出土遺物実測図	75	第113 図	SI-2743出土遺物実測図	110
第6 2 図	SI-1373・1374実測図	77	第114 図	SB-100実測図	112
第6 3 図	SI-1373出土遺物実測図	78	第115 図	SB-100出土遺物実測図	113
第6 4 図	SI-1374出土遺物実測図	78	第116 図	SB-727a・b実測図	114
第6 5 図	SI-1375実測図	79	第117 図	SB-1460実測図	115
第6 6 図	SI-1375出土遺物実測図	79	第118 図	SB-1707実測図	116
第6 7 図	SI-1376実測図	80	第119 図	SB-2820実測図	116
第6 8 図	SI-1377実測図	80	第120 図	古代の上坑実測図(1)	119
第6 9 図	SI-1377出土遺物実測図	81	第121 図	古代の上坑実測図(2)	120
第7 0 図	SI-1378実測図	82	第122 図	古代の上坑実測図(3)	121
第7 1 図	SI-1378出土遺物実測図	82	第123 図	古代の上坑出土遺物実測図	122
第7 2 図	SI-1425・1426実測図	84	第124 図	古代の溝セクション図	124
第7 3 図	SI-1425・1426出土遺物実測図	85	第125 図	SD-1082出土遺物実測図	124
第7 4 図	SI-1440実測図	86	第126 図	古代の遺構外出土遺物実測図	125
第7 5 図	SI-1440出土遺物実測図	86	第127 図	中近世の遺構位置図(1)	128
第7 6 図	SI-1465実測図	87	第128 図	中近世の遺構位置図(2)	129
第7 7 図	SI-1467実測図	88	第129 図	SB-167実測図(1)	130
第7 8 図	SI-1495実測図	88	第130 図	SB-167実測図(2)	131
第7 9 図	SI-1495出土遺物実測図	89	第131 図	SB-167実測図(3)	132
第8 0 図	SI-1496実測図	90	第132 図	SB-167出土遺物実測図	132
第8 1 図	SI-1496出土遺物実測図	90	第133 図	SB-169出土鉄製品実測図	133
第8 2 図	SI-1498出土遺物実測図	92	第134 図	SB-169・SA-241実測図	134

第135図	SB-289実測図	135	第187図	中近世の上坑実測図(7)	188
第136図	SB-311実測図	135	第188図	中近世の上坑実測図(8)	189
第137図	SB-312実測図	136	第189図	中近世の上坑実測図(9)	190
第138図	SB-313実測図	137	第190図	中近世の上坑実測図(10)	191
第139図	SB-681実測図	138	第191図	中近世の上坑実測図(11)	192
第140図	SB-938実測図	139	第192図	中近世の上坑実測図(12)	193
第141図	SB-967実測図	140	第193図	中近世の上坑実測図(13)	194
第142図	SB-1078実測図	141	第194図	中近世の上坑実測図(14)	195
第143図	SB-1548実測図	141	第195図	中近世の上坑実測図(15)	196
第144図	SB-1592実測図	142	第196図	中近世の上坑実測図(16)	197
第145図	SB-2068実測図	143	第197図	中近世の上坑実測図(17)	198
第146図	SB-2248実測図	144	第198図	中近世の上坑実測図(18)	199
第147図	SB-2350実測図	145	第199図	中近世の上坑実測図(19)	200
第148図	SB-2522実測図	146	第200図	中近世の上坑実測図(20)	201
第149図	SB-2546実測図	146	第201図	中近世の上坑実測図(21)	202
第150図	SB-2720実測図	147	第202図	中近世の上坑実測図(22)	203
第151図	SB-2798・SA-2799実測図	148	第203図	中近世の上坑実測図(23)	204
第152図	SB-2800実測図	148	第204図	中近世の上坑実測図(24)	205
第153図	SB-2801実測図	149	第205図	中近世の上坑実測図(25)	206
第154図	SB-2802実測図	149	第206図	中近世の上坑実測図(26)	207
第155図	SB-2803実測図	150	第207図	中近世の上坑実測図(27)	208
第156図	SB-2804実測図	151	第208図	中近世の上坑実測図(28)	209
第157図	SB-2805実測図	152	第209図	中近世の上坑実測図(29)	210
第158図	SB-2806実測図	153	第210図	中近世の上坑実測図(30)	211
第159図	SB-2808実測図	154	第211図	中近世の上坑実測図(31)	212
第160図	SB-2809実測図	155	第212図	中近世の上坑実測図(32)	213
第161図	SB-2812実測図	156	第213図	中近世の上坑実測図(33)	214
第162図	SB-2817実測図	156	第214図	中近世の上坑実測図(34)	215
第163図	SB-2818実測図	157	第215図	中近世の上坑実測図(35)	216
第164図	SB-2819実測図	157	第216図	中近世の上坑実測図(36)	217
第165図	SA-250・258実測図	162	第217図	中近世の上坑実測図(37)	218
第166図	SA-708・934・988実測図	163	第218図	中近世の上坑実測図(38)	219
第167図	SA-1003・1213・1214・2807実測図	164	第219図	中近世の上坑実測図(39)	220
第168図	中近世の櫛列出土器実測図	165	第220図	中近世の上坑実測図(40)	221
第169図	方形竪穴状上坑実測図(1)	168	第221図	中近世の上坑実測図(41)	222
第170図	方形竪穴状上坑実測図(2)	170	第222図	中近世の上坑実測図(42)	223
第171図	方形竪穴状上坑実測図(3)	171	第223図	中近世の上坑実測図(43)	224
第172図	方形竪穴状上坑実測図(4)	172	第224図	中近世の上坑実測図(44)	225
第173図	方形竪穴状上坑出土遺物実測図	173	第225図	中近世の上坑実測図(45)	226
第174図	SK-1839出土土器実測図	174	第226図	中近世の上坑実測図(46)	227
第175図	SE-61出土土器実測図	175	第227図	中近世の上坑実測図(47)	228
第176図	SE-61・75・997・1100実測図	176	第228図	中近世の上坑実測図(48)	229
第177図	中近世の講セクション図(1)	178	第229図	中近世の上坑実測図(49)	230
第178図	中近世の講セクション図(2)	179	第230図	中近世の上坑実測図(50)	231
第179図	中近世の講出土土器・石器実測図	180	第231図	中近世の上坑実測図(51)	232
第180図	中近世の講出土鉄製品実測図	180	第232図	中近世の上坑実測図(52)	233
第181図	中近世の上坑実測図(1)	182	第233図	中近世の上坑実測図(53)	234
第182図	中近世の上坑実測図(2)	183	第234図	中近世の上坑実測図(54)	235
第183図	中近世の上坑実測図(3)	184	第235図	中近世の上坑実測図(55)	236
第184図	中近世の上坑実測図(4)	185	第236図	中近世の上坑実測図(56)	237
第185図	中近世の上坑実測図(5)	186	第237図	中近世の上坑実測図(57)	238
第186図	中近世の上坑実測図(6)	187	第238図	中近世の上坑実測図(58)	239

第239回	中近世の土坑実測図 (59) .....	240
第240回	中近世の土坑実測図 (60) .....	241
第241回	中近世の土坑実測図 (61) .....	242
第242回	中近世の土坑実測図 (62) .....	243
第243回	中近世の土坑実測図 (63) .....	244
第244回	中近世の土坑実測図 (64) .....	245
第245回	中近世の土坑実測図 (65) .....	246
第246回	中近世の土坑実測図 (66) .....	247
第247回	中近世の土坑実測図 (67) .....	248
第248回	中近世の土坑実測図 (68) .....	249
第249回	中近世の土坑実測図 (69) .....	250

第250回	中近世の土坑実測図 (70) .....	251
第251回	中近世の土坑実測図 (71) .....	252
第252回	中近世の土坑出土遺物実測図 (1) .....	253
第253回	中近世の土坑出土遺物実測図 (2) .....	254
第254回	中近世の土坑出土鉄製品実測図 .....	256
第255回	近世墓実測図 (1) .....	269
第256回	近世墓実測図 (2) .....	270
第257回	近世墓出土鉄製品実測図 .....	271
第258回	遺構外出土の中近世土器実測図 .....	273
第259回	遺構外出土の中近世鉄製品実測図 .....	274
第260回	主な墓書上器 .....	278

## 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡

第261回	調査区とグリッド配置図 .....	283
第262回	欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡全体図 (1) .....	284
第263回	欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡全体図 (2) .....	285
第264回	帛織確認調査出土遺物実測図 .....	286
第265回	縄文時代の遺構位置図 .....	287
第266回	SI-1067実測図 (1) .....	288
第267回	SI-1067実測図 (2) .....	289
第268回	SI-1067出土土器実測図 .....	289
第269回	SI-1067出土土器実測図 (1) .....	290
第270回	SI-1067出土土器実測図 (2) .....	291
第271回	SI-1309実測図 .....	292
第272回	SI-1309出土土器実測図 .....	293
第273回	SI-1309出土土器実測図 .....	293
第274回	SI-1366実測図 .....	294
第275回	SI-1366出土土器実測図 .....	295
第276回	SI-1366出土土器実測図 .....	295
第277回	SI-1459実測図 .....	296
第278回	SI-1459出土土器実測図 .....	297
第279回	SI-1459出土土器実測図 .....	297
第280回	SI-1518実測図 .....	299
第281回	SI-1518出土土器実測図 (1) .....	300
第282回	SI-1518出土土器実測図 (2) .....	301
第283回	SI-1518出土土器実測図 (3) .....	302
第284回	SI-1518出土土器実測図 (1) .....	303
第285回	SI-1518出土土器実測図 (2) .....	304
第286回	SI-1592出土遺物実測図 .....	305
第287回	SI-1592実測図 .....	306
第288回	SI-1672実測図 .....	307
第289回	SI-1672出土土器実測図 .....	307
第290回	SI-1674実測図 .....	308
第291回	SI-1674出土土器実測図 (1) .....	309
第292回	SI-1674出土土器実測図 (2) .....	310
第293回	SI-1674出土土器実測図 .....	310
第294回	SI-1679実測図 (1) .....	311
第295回	SI-1679実測図 (2) .....	312
第296回	SI-1679出土土器実測図 (1) .....	313
第297回	SI-1679出土土器実測図 (2) .....	314

第298回	SI-1679出土土器実測図 (3) .....	315
第299回	SI-1679出土土器実測図 (1) .....	316
第300回	SI-1679出土土器実測図 (2) .....	317
第301回	SI-1680実測図 .....	318
第302回	SI-1680出土土器実測図 .....	318
第303回	SI-1680出土土器実測図 .....	318
第304回	SI-1688実測図 .....	320
第305回	SI-1688出土土器実測図 (1) .....	321
第306回	SI-1688出土土器実測図 (2) .....	322
第307回	SI-1688出土土器実測図 (1) .....	323
第308回	SI-1688出土土器実測図 (2) .....	324
第309回	SI-1689実測図 .....	325
第310回	SI-1689出土土器実測図 .....	326
第311回	SI-1689出土土器実測図 .....	326
第312回	縄文時代の土坑出土遺物実測図 .....	327
第313回	縄文時代の土坑実測図 .....	328
第314回	埋没谷出土土器実測図 (1) .....	334
第315回	埋没谷出土土器実測図 (2) .....	335
第316回	埋没谷出土土器実測図 (3) .....	336
第317回	埋没谷出土土器実測図 (4) .....	337
第318回	埋没谷出土土器実測図 (5) .....	338
第319回	埋没谷出土土器実測図 (6) .....	339
第320回	埋没谷出土土器実測図 (7) .....	340
第321回	埋没谷出土土器実測図 (8) .....	341
第322回	埋没谷出土土器実測図 (9) .....	342
第323回	埋没谷出土土器実測図 (10) .....	343
第324回	埋没谷出土土器実測図 (11) .....	344
第325回	埋没谷出土土器実測図 (1) .....	345
第326回	埋没谷出土土器実測図 (2) .....	346
第327回	埋没谷出土土器実測図 (3) .....	347
第328回	埋没谷出土土器実測図 (4) .....	348
第329回	埋没谷出土土器実測図 (5) .....	349
第330回	埋没谷出土土器実測図 (6) .....	350
第331回	包含層出土土器実測図 (1) .....	358
第332回	包含層出土土器実測図 (2) .....	359
第333回	包含層出土土器実測図 (1) .....	360
第334回	包含層出土土器実測図 (2) .....	361

第335図	包含層出土石器実測図(3)……………	362
第336図	包含層出土石器実測図(4)……………	363
第337図	表上・覆乱出土石器実測図(1)……………	364
第338図	表上・覆乱出土石器実測図(2)……………	365
第339図	表上・覆乱出土石器実測図(1)……………	365
第340図	表上・覆乱出土石器実測図(2)……………	366
第341図	表採石器実測図(1)……………	368
第342図	表採石器実測図(2)……………	369
第343図	表採石器実測図(1)……………	370
第344図	表採石器実測図(2)……………	371
第345図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(1)……………	372
第346図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(2)……………	373
第347図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(3)……………	374
第348図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(4)……………	375
第349図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(1)……………	375
第350図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(2)……………	376
第351図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(3)……………	377
第352図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(4)……………	378
第353図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(5)……………	379
第354図	縄文時代以外の遺構出土石器実測図(6)……………	380
第355図	古代の遺構位置図……………	382
第356図	SI-19実測図……………	383
第357図	SI-19出土遺物実測図……………	384
第358図	SI-56出土遺物実測図……………	384
第359図	SI-56実測図……………	385
第360図	SI-144実測図……………	386
第361図	SI-144出土遺物実測図……………	386
第362図	SI-234出土遺物実測図……………	387
第363図	SI-234実測図……………	388
第364図	SI-306出土遺物実測図……………	389
第365図	SI-306実測図……………	390
第366図	SI-429出土遺物実測図……………	391
第367図	SI-429実測図……………	392
第368図	SI-529実測図(1)……………	393
第369図	SI-529実測図(2)……………	394
第370図	SI-529出土遺物実測図……………	394
第371図	SI-766実測図……………	395
第372図	SI-766出土遺物実測図……………	395
第373図	SI-934実測図……………	396
第374図	SI-934出土遺物実測図……………	396
第375図	SI-989実測図……………	397
第376図	SI-989出土遺物実測図……………	397
第377図	SI-1002実測図……………	398
第378図	SI-1053実測図……………	399
第379図	SI-1053出土遺物実測図……………	399
第380図	SI-1083実測図(1)……………	401
第381図	SI-1083実測図(2)……………	402
第382図	SI-1083実測図(3)……………	403
第383図	SI-1083実測図(4)……………	404
第384図	SI-1083出土遺物実測図……………	405
第385図	SI-1143実測図(1)……………	408
第386図	SI-1143実測図(2)……………	409

第387図	SI-1143出土遺物実測図……………	409
第388図	SI-1370実測図(1)……………	411
第389図	SI-1370実測図(2)……………	412
第390図	SI-1370出土遺物実測図……………	413
第391図	SI-1641実測図(1)……………	416
第392図	SI-1641実測図(2)……………	417
第393図	SI-1641出土遺物実測図(1)……………	418
第394図	SI-1641出土遺物実測図(2)……………	419
第395図	SI-1642実測図(1)……………	422
第396図	SI-1642実測図(2)……………	423
第397図	SI-1642実測図(3)……………	424
第398図	SI-1642出土遺物実測図(1)……………	425
第399図	SI-1642出土遺物実測図(2)……………	426
第400図	SI-1643実測図(1)……………	430
第401図	SI-1643実測図(2)……………	431
第402図	SI-1643実測図(3)……………	432
第403図	SI-1643出土遺物実測図……………	433
第404図	SI-1644実測図……………	436
第405図	SI-1644出土遺物実測図……………	437
第406図	SI-1645実測図……………	438
第407図	SI-1645出土遺物実測図……………	439
第408図	SI-1677実測図(1)……………	440
第409図	SI-1677実測図(2)……………	441
第410図	SI-1677出土遺物実測図……………	442
第411図	SI-1682実測図……………	444
第412図	SI-1682出土遺物実測図……………	445
第413図	SI-1713実測図……………	445
第414図	SB-21実測図……………	448
第415図	SB-1074実測図……………	449
第416図	SB-1207実測図……………	450
第417図	SB-1260実測図……………	451
第418図	SB-1314実測図……………	452
第419図	SB-1343実測図(1)……………	453
第420図	SB-1343実測図(2)……………	454
第421図	SB-1074出土遺物実測図……………	455
第422図	古代の上坑実測図(1)……………	457
第423図	古代の上坑実測図(2)……………	458
第424図	古代の上坑実測図(3)……………	459
第425図	古墳時代・古代の上坑出土遺物実測図……………	460
第426図	奇形土製品実測図……………	461
第427図	中世の遺構位置図……………	462
第428図	中世の上坑実測図(1)……………	463
第429図	中世の上坑実測図(2)……………	464
第430図	中世の上坑実測図(3)……………	465
第431図	中世の上坑実測図(4)……………	466
第432図	中世の上坑実測図(5)……………	467
第433図	中世の上坑実測図(6)……………	468
第434図	中世の上坑実測図(7)……………	469
第435図	中世の上坑実測図(8)……………	470
第436図	中世の上坑実測図(9)……………	471
第437図	中世の上坑出土鉄製品実測図……………	473
第438図	近世の遺構位置図……………	474

第439回	近世の土坑実測図(1).....	476
第440回	近世の土坑実測図(2).....	477
第441回	近世の土坑実測図(3).....	478
第442回	近世の土坑出土遺物実測図.....	479
第443回	近世の土坑出土鉄製品実測図.....	479
第444回	近世の道構外出土遺物実測図.....	480
第445回	主な墨書土器.....	483

第446回	舟形土製品(弥生時代中～後期).....	495
第447回	舟形土製品(古墳時代前期).....	496
第448回	舟形土製品(古墳時代中期).....	497
第449回	舟形土製品(古墳時代後期).....	498
第450回	舟形土製品(参考)一覧表.....	499
第451回	準構造船の構造.....	499
第452回	袴狭道跡出土線刻木製品.....	500

## 表 目 次

### 山の神Ⅱ遺跡

第1表	周辺の道跡一覧表 旧石器・縄文・弥生時代.....	9
第2表	周辺の道跡一覧表 古墳時代.....	12
第3表	周辺の道跡一覧表 古代.....	16
第4表	周辺の道跡一覧表 中世.....	18
第5表	縄文時代の土坑一覧表.....	30
第6表	縄文時代の土坑出土遺物観察表.....	30
第7表	縄文時代の道構外出土遺物観察表.....	32
第8表	SI-44出土遺物観察表.....	36
第9表	SI-45出土遺物観察表.....	39
第10表	SI-50出土遺物観察表.....	41
第11表	SI-65出土遺物観察表.....	43
第12表	SI-80出土遺物観察表.....	45
第13表	SI-81出土遺物観察表.....	48
第14表	SI-82出土遺物観察表.....	51
第15表	SI-83出土遺物観察表.....	52
第16表	SI-90出土遺物観察表.....	55
第17表	SI-91出土遺物観察表.....	57
第18表	SI-92出土遺物観察表.....	58
第19表	SI-114出土遺物観察表.....	62
第20表	SI-115出土遺物観察表.....	64
第21表	SI-143出土遺物観察表.....	67
第22表	SI-925出土遺物観察表.....	70
第23表	SI-1035出土遺物観察表.....	71
第24表	SI-1306出土遺物観察表.....	74
第25表	SI-1372出土遺物観察表.....	76
第26表	SI-1373出土遺物観察表.....	78
第27表	SI-1374出土遺物観察表.....	78
第28表	SI-1375出土遺物観察表.....	79
第29表	SI-1377出土遺物観察表.....	81
第30表	SI-1378出土遺物観察表.....	83
第31表	SI-1425・1426出土遺物観察表.....	85
第32表	SI-1440出土遺物観察表.....	87
第33表	SI-1495出土遺物観察表.....	89
第34表	SI-1496出土遺物観察表.....	91
第35表	SI-1498出土遺物観察表.....	93
第36表	SI-1631出土遺物観察表.....	95
第37表	SI-1661出土遺物観察表.....	96
第38表	SI-1690出土遺物観察表.....	97
第39表	SI-1716出土遺物観察表.....	98

第40表	SI-1920出土遺物観察表.....	99
第41表	SI-2104出土遺物観察表.....	100
第42表	SI-2594出土遺物観察表.....	101
第43表	SI-2595出土遺物観察表.....	102
第44表	SI-2596出土遺物観察表.....	103
第45表	SI-2700出土遺物観察表.....	104
第46表	SI-2725出土遺物観察表.....	106
第47表	SI-2727出土遺物観察表.....	107
第48表	SI-2735出土遺物観察表.....	108
第49表	SI-2740出土遺物観察表.....	109
第50表	SI-2743出土遺物観察表.....	110
第51表	古代の竪穴建物跡一覧表.....	111
第52表	SB-100出土遺物観察表.....	113
第53表	古代の竪穴柱建物跡一覧表.....	117
第54表	古代の竪穴柱建物跡柱穴規模一覧表.....	117
第55表	古代の土坑一覧表.....	121
第56表	古代の土坑出土遺物観察表.....	123
第57表	SD-1082出土遺物観察表.....	124
第58表	古代の道構外出土遺物観察表.....	126
第59表	SB-167出土遺物観察表.....	133
第60表	SB-169出土鉄製品観察表.....	133
第61表	中近世の竪穴柱建物跡一覧表.....	158
第62表	中近世の竪穴柱建物跡柱穴規模一覧表.....	159
第63表	中近世の櫓列一覧表.....	165
第64表	中近世の櫓列柱穴規模一覧表.....	165
第65表	中近世の櫓列出土器観察表.....	165
第66表	方形竪穴状土坑一覧表.....	169
第67表	方形竪穴状土坑出土遺物観察表.....	173
第68表	SK-1839出土銅銭観察表.....	174
第69表	中近世の井戸一覧表.....	175
第70表	SE-61出土土器観察表.....	175
第71表	中近世の溝出土土器・石器観察表.....	180
第72表	中近世の溝出土鉄製品観察表.....	180
第73表	中近世の土坑出土遺物観察表.....	255
第74表	中近世の土坑出土鉄製品観察表.....	256
第75表	中近世の土坑一覧表.....	257
第76表	近世墓出土鉄製品観察表.....	272
第77表	近世墓一覧表.....	272
第78表	道構外出土の中近世土器観察表.....	273

第79表	遺構外出土の中近世鉄製品観察表	274
第80表	古墳時代・古代建物跡時期一覧表	276

第81表	主な黒書土器一覧表	279
第82表	中近世掘立柱建物跡柱間寸法計測値一覧表	281

## 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡

第83表	頭庫確認調査出土遺物観察表	286
第84表	SI-1067出土石器観察表	291
第85表	SI-1309出土石器観察表	293
第86表	SI-1366出土石器観察表	295
第87表	SI-1459出土石器観察表	297
第88表	SI-1518出土石器観察表	305
第89表	SI-1592出土石器観察表	305
第90表	SI-1674出土石器観察表	310
第91表	SI-1679出土石器観察表	317
第92表	SI-1680出土石器観察表	318
第93表	SI-1688出土石器観察表	324
第94表	SI-1689出土石器観察表	326
第95表	縄文時代の型穴建物跡一覧表	326
第96表	縄文時代の土坑出土石器観察表	327
第97表	縄文時代の土坑一覧表	328
第98表	埋没谷出土石器観察表	351
第99表	包含層出土石器観察表	363
第100表	表土・覆瓦出土石器観察表	367
第101表	表採石器観察表	369
第102表	縄文時代以外の遺構出土石器観察表	381
第103表	SI-19出土遺物観察表	384
第104表	SI-56出土遺物観察表	384
第105表	SI-144出土遺物観察表	386
第106表	SI-234出土遺物観察表	387
第107表	SI-306出土遺物観察表	389
第108表	SI-429出土遺物観察表	391
第109表	SI-529出土遺物観察表	394
第110表	SI-766出土遺物観察表	395
第111表	SI-934出土遺物観察表	396

第112表	SI-989出土遺物観察表	397
第113表	SI-1053出土遺物観察表	400
第114表	SI-1083出土遺物観察表	406
第115表	SI-1143出土遺物観察表	410
第116表	SI-1370出土遺物観察表	414
第117表	SI-1641出土遺物観察表	420
第118表	SI-1642出土遺物観察表	426
第119表	SI-1643出土遺物観察表	434
第120表	SI-1644出土遺物観察表	437
第121表	SI-1645出土遺物観察表	439
第122表	SI-1677出土遺物観察表	442
第123表	SI-1682出土遺物観察表	445
第124表	古代の型穴建物跡一覧表	446
第125表	古代の掘立柱建物跡一覧表	455
第126表	古代の掘立柱建物跡柱穴規模一覧表	455
第127表	SB-1074出土遺物観察表	455
第128表	古墳時代・古代の土坑一覧表	459
第129表	古墳時代・古代の土坑出土遺物観察表	459
第130表	舟形土製品観察表	461
第131表	中世の土坑一覧表	472
第132表	中世の土坑出土鉄製品観察表	473
第133表	近世の土坑一覧表	479
第134表	近世の土坑出土鉄製品観察表	479
第135表	遺構外出土の近世遺物観察表	480
第136表	古墳時代・古代建物跡時期一覧表	481
第137表	主な黒書土器一覧表	482
第138表	舟形土製品一覧表	492
第139表	舟形土製品参考例	494

## 図 版 目 次

図版一	山の神II遺跡 航空写真、縄文時代の遺構 遺跡と周辺の環境（南から） SK-1182遺物出土状況（西から） SK-1888完壺（南から） SK-1932完壺（東から） SK-2737完壺（南東から）
図版二	山の神II遺跡 古代の遺構 SI-44完壺（南東から） SI-45完壺（南西から） SI-50遺物出土状況（南から） SI-62検出状況・SE-61セクション（南から） SI-65遺物出土状況（南東から） SI-81～83壺方完壺（東から）

SI-81遺物出土状況（南東から）	SI-82カマド完壺（南から）
山の神II遺跡 古代の遺構	SI-82・83遺物出土状況（南から）
SI-82・83遺物出土状況（南から）	SI-83カマド遺物出土状況（南東から）
SI-83カマド遺物出土状況（南東から）	SI-90完壺（南西から）
SI-90完壺（南西から）	SI-90遺物出土状況（南から）
SI-90遺物出土状況（南から）	SI-91・92遺物出土状況（南から）
SI-91・92遺物出土状況（南から）	SI-92完壺（南東から）
SI-92完壺（南東から）	SI-114完壺（南東から）
SI-114完壺（南東から）	SI-114遺物出土状況（東から）
SI-114完壺（南東から）	山の神II遺跡 古代の遺構
SI-114遺物出土状況（東から）	SI-114遺物出土状況（南から）
山の神II遺跡 古代の遺構	
SI-114遺物出土状況（南から）	



	SI-115完履 (南東から)	図版一〇	山の神Ⅱ遺跡 古代・中・近世の遺構
	SI-143遺物出土状況 (南から)		SK-1363遺物出土状況 (北から)
	SI-143張り出しピット遺物出土状況 (北から)		SK-1540遺物出土状況 (南から)
	SI-157完履・セクション (南西から)		SD-1082・SE-1100完履 (南から)
	SI-925・1376完履 (東から)		SB-167完履 (南東から)
	SI-925完履 (南から)		SB-169完履 (北東から)
図版五	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺構		SB-1460完履 (南西から)
	SI-1035完履 (南西から)		SB-2068完履 (南東から)
	SI-1035遺物出土状況 (南から)	図版一一	山の神Ⅱ遺跡 中・近世の遺構
	SI-1035遺物出土状況 (東から)		SK-981完履 (西から)
	SI-1277完履 (南から)		SK-1827完履 (南から)
	SI-1306堀方確認状況 (南から)		SK-1839遺物出土状況 (西から)
	SI-1372完履 (南から)		SK-1839土師質土器皿出土状況 (西から)
	SI-1372漆器器出土状況 (南から)		SK-1839漆器皿出土状況 (北から)
	SI-1372カマド遺物出土状況 (南から)		SK-1980セクション (南から)
	SI-1373・1374完履 (南東から)		SK-1986完履 (東から)
図版六	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺構		SK-1995完履 (南西から)
	SI-1375完履 (北西から)	図版一二	山の神Ⅱ遺跡 中・近世の遺構
	SI-1376完履 (南東から)		SK-2041完履 (東から)
	SI-1377完履 (北東から)		SK-2556焼土堆積状況・セクション (北西から)
	SI-1378完履 (南東から)		SE-61完履 (南から)
	SI-1378遺物出土状況 (東から)		SK-2～5完履 (南東から)
	SI-1425堀方完履 (南東から)		SK-3・4セクション (南から)
	SI-1425遺物出土状況 (南東から)		SK-1068完履 (東から)
	SI-1440遺物出土状況 (南から)		SD-1000完履 (東から)
図版七	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺構		SD-1000セクション A (南東から)
	SI-1465完履 (南から)	図版一三	山の神Ⅱ遺跡 中近世の遺構
	SI-1495・1496完履 (東から)		SD-1421完履 (南から)
	SI-1496貯蔵穴 (東から)		SZ-95人骨出土状況 (東から)
	SI-1498完履 (西から)		SZ1412～1415完履状況 (南西から)
	SI-1498カマド遺物出土状況 (西から)		SZ-1412完履 (南から)
	SI-1631・1672確認状況 (南から)		SZ-1413完履 (南から)
	SI-1671完履 (南から)		SZ-1415完履 (西から)
	SI-1690完履 (南東から)		SZ-2645焼土検出状況 (南西から)
図版八	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺構		SZ-2679人骨出土状況 (西から)
	SI-1716遺物出土状況 (東から)	図版一四	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 全景
	SI-1920完履 (南東から)		遺跡全景 (北東から・北から)
	SI-2104完履 (南から)	図版一五	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 縄文時代の遺構
	SI-2594完履 (南東から)		SI-1067遺物出土状況 (南から)
	SI-2595完履 (南から)		SI-1309遺物出土状況 (西から)
	SI-2595遺物出土状況 (南東から)		SI-1366完履 (南から)
	SI-2596完履 (南から)		SI-1459完履 (東から)
	SI-2700遺物出土状況 (南西から)		SI-1518完履 (南から)
図版九	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺構		SI-1592完履 (東から)
	SI-2725完履 (南から)		SI-1672完履 (東から)
	SI-2727遺物出土状況 (南東から)		SI-1674完履
	SI-2735完履 (南西から)	図版一六	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 縄文時代、古代の遺構
	SI-2740完履 (北西から)		SI-1680完履 (南から)
	SI-2743完履・セクション (北から)		SI-1688完履 (北から)
	SB-100柱痕跡確認状況 (南から)		SK-841遺物出土状況 (南から)
	SB-100完履 (南から)		SI-19完履 (南から)
	SK-1356遺物出土状況 (北から)		

	SI-19カマド完履 (南から)	SI-50	
	SI-56完履 (南から)	SI-65	
	SI-144完履 (南から)	図版二二	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-234完履 (南から)	SI-80	SI-81
図版一七	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 古代の遺構	SI-82	SI-83
	SI-306完履 (西から)	SI-90	
	SI-429完履 (南から)	図版二四	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-529完履 (南から)	SI-90	SI-114
	SI-766完履 (南から)	SI-143	SI-925
	SI-989完履 (南から)	図版二五	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-1002完履 (南から)	SI-925	SI-1035
	SI-1053完履 (南から)	SI-1372	SI-1374
	SI-1083土壁検出状況 (南から)	SI-1378	SI-1425
図版一八	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 古代の遺構	SI-1440	SI-1496
	SI-1083完履 (西から)	図版二六	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-1083東コーナー遺物出土状況 (西から)	SI-1495	SI-1496
	SI-1083 P7遺物出土状況 (西から)	SI-1498	SI-1631
	SI-1083遺物出土状況 (北西から)	SI-1690	SI-1920
	SI-1143・1679完履 (南から)	SI-2104	SI-2595
	SI-1143遺物出土状況 (南西から)	SI-2700	
	SI-1370完履 (南東から)	図版二七	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-1641完履 (西から)	SI-2700	SI-2727
図版一九	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 古代の遺構	SI-2743	SK-1356
	SI-1641カマド (西から)	SK-1322	SK-1533
	SI-1641東壁付近遺物出土状況 (北西から)	SK-1540	SK-1736
	SI-1641カマド東側遺物出土状況 (東から)	SD-1082	遺構外
	SI-1641カマド遺物出土状況 (南西から・北東から)	図版二八	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-1642完履 (南から)	SI-1495	SI-1496
	SI-1643A・1643B完履 (南から)	SI-1306	SK-1349
	SI-1643 P3遺物出土状況 (南から)	SK-1660	遺構外
図版二〇	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 古代の遺構	SI-1299	SK-1436
	SI-1643B遺物出土状況 (東から)	SI-1631	SK-1208
	SI-1644完履 (南から)	図版二九	山の神Ⅱ遺跡 古代の遺物
	SI-1645完履 (南から)	SI-1496	SI-81
	SI-1677完履 (南から)	遺構外	SI-114
	SI-1682完履 (南から)	SI-1495	SI-1372
	SB-21完履 (南から)	SI-2743	
	SB-1074完履 (西から)	図版三〇	山の神Ⅱ遺跡 古代、中近世の遺物
	SB-1207完履 (南から)	SI-45	SI-1373
図版二一	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡 古代、中近世の遺構	SK-397	遺構外
	SB-1260完履 (南から)	SI-114	SK-392
	SB-1343完履 (南から)	SB-167	SK-1839
	SK-1286遺物出土状況 (南から)	SK-1837	
	SK-54完履 (西から)	図版三一	山の神Ⅱ遺跡 中近世の遺物
	SK-58完履 (北西から)	SI-1839	
	SK-59完履 (西から)	図版三二	山の神Ⅱ遺跡 中近世の遺物
	SK-145a・145b完履 (西から)	SK-56	SD-1000
	SK-950人骨出土状況 (南から)	SK-55	SE-60-61
図版二二	山の神Ⅱ遺跡 縄文時代、古代の遺物	SK-1800	SK-1578
	SK-1182	SK-1914	SK-1643
	遺構外出土の縄文土器・刺片・石器	SA-938	SD-1256
	SI-45	SD-1020	遺構外

	SK-105	SK-101			
	SK-173	SK-123			
	SI-90	SB-167			
	SD-119-150				
	SK-155	SK-1103			
	SK-1883	SK-1272			
	SA-258				
図版三三	山の神Ⅱ遺跡	中近世の遺物			
	SK-101	SK-1099			
	SK-55	SK-1973			
	SD-1000	SK-70C			
	SK-108	SK-1914			
	SK-1913	SD-2082			
	SK-1962	SK-1900			
図版三四	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	縄文時代の遺物			
	SI-1067	SI-1688			
	SI-1674	SI-1679			
	SI-1143	埋没谷			
	包含層				
図版三五	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	縄文時代の遺物			
	土師遺構混在				
	埋没谷	包含層			
	表採	表土・攪乱			
	SI-1518	SI-1067			
	SI-1674	SI-1459			
図版三六	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	縄文時代・古代の遺物			
	土師遺構混在				
	包含層				
	表土・攪乱				
	埋没谷	SI-1518			
	SI-529	SI-1053			
	SI-1083	SI-1143			
図版三七	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	古代の遺物			
	SI-1143	SI-1370			
	SI-1641	SI-1642			
図版三八	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	古代の遺物			
	SI-1642	SI-1643			
図版三九	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	古代の遺物			
	SI-1643	SI-1644			
	SI-1645	SI-1677			
	SB-1074	埋没谷			
図版四〇	欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡	古代、中近世の遺物			
	SI-1370	SI-1053			
	SI-1642	SI-1643			
	SI-56	SI-1677			
	SI-1645	SI-1083			
	SI-1641	SK-1286			
	SK-649				

## 第一章 調査の経緯

### 第一節 調査に至る経緯（第1・2図）

栃木県農政部が実施する経営体育成基盤整備事業は、農業生産を効率的に行うための基盤づくり、農村社会の生活環境の改善、土地利用の整序化などを図るための水田や畑の圃場整備事業である。具体的には、各圃場の区画や形質の改良と排水水路や農道の整備などにより、稲作を中心とする農業経営を合理化し、食料の安定供給と農業の持続的発展を図るものである。また、農地、水路、道路の整備などを一体的に実施し、換地制度により土地を移動、集約することにより、農地の規模拡大と集団化を行うものである。併せて農村社会の生活面での利便性向上、優良農地の確保、および無秩序な開発を防ぎ、美しい環境の維持・調和に寄与するものでもある。

こうした事業の一つとして、さくら市の北東部、江川流域の耕作地が事業対象地として計画された。事業地は大字によって二分割され、別事業として実施されており、大字金枝地区については、経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区として、115haを対象に、平成14年度に着手された。下流の大字鹿子畑地区については経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区として、平成13年度に着手されている。

さて、事業が計画されるにあたって、県農務部農地計画課（現農地整備課）と、事業地内の遺跡の取扱いについて協議を開始し、平成13年度に所在調査を実施した。また、同時期に実施されていた旧喜連川町（現さくら市）の町史編纂事業において、遺跡の分布調査が実施され、これらの結果、それまでに未確認であった遺跡が多数確認されることとなった。最終的に、江川南部Ⅱ地区内には取扱いについて協議を要すべき遺跡として、計10遺跡が把握された。そして、今後の取扱いについて判断するために確認調査を実施することとなった。

確認調査は、事業地内の遺跡面積が広大なため、(財)とちぎ生涯学習文化財団（現(財)とちぎ未来づくり財団）に教育委員会が委託して実施することとし、事業の着手後、文化財課と農地整備課の協議により条件が整ったので、平成15年度に上金枝Ⅰ遺跡他7遺跡、16年度に古屋敷遺跡他1遺跡について実施した。

各遺跡とも、2m×5mを基本とするトレンチを設定し、ローム層などの遺構確認面まで掘削し、遺構・遺物の有無と、その出土地点や層位、遺構確認面までの深度について把握した。

この結果に基づいて文化財課は、県農務部（現農政部）農地整備課、塩谷農業振興事務所（現塩谷南部須農業振興事務所）と工事計画と遺跡の取扱いについて協議を行い、上金枝Ⅰ遺跡、上金枝Ⅱ遺跡、上金枝Ⅲ遺跡、山の神Ⅱ遺跡、欠ノ上Ⅰ遺跡、欠ノ上Ⅱ遺跡について、工事により破壊される部分は記録保存のための発掘調査を実施することとした。また、全体の工事計画の進捗に伴い、江川上流側の上金枝Ⅰ遺跡、上金枝Ⅱ遺跡、上金枝Ⅲ遺跡から現地調査を優先させて、平成18年度から順次発掘調査を実施するように計画を立てた。

県教育委員会教育長は、平成18年9月5日付農整第281号「経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区の文化財発掘調査について」にて農務部長から依頼を受け、これに基づき栃木県は、平成18年9月29日付文財第560号「平成18年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区における埋蔵文化財発掘調査（上金枝Ⅰ・上金枝Ⅱ・上金枝Ⅲ遺跡）の委託契約の締結について」により(財)とちぎ生涯学習文化財団と委託契約を締結し、発掘調査を埋蔵文化財センターが実施した。

同様に、平成19年4月24日付文財第160-1号「平成19年経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区における埋蔵文化財発掘調査（山の神Ⅱ遺跡）の委託契約について」により、(財)とちぎ生涯学習文化財団と委

託契約を締結し、発掘調査を埋蔵文化財センターが実施した。

さらに、平成20年4月23日付文財第120-1号「平成20年度経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅱ地区における埋蔵文化財発掘調査（山の神Ⅱ遺跡、欠ノ上Ⅰ遺跡、欠ノ上Ⅱ遺跡）の委託契約について」により、(財)とちぎ生涯学習文化財団と委託契約を締結し、発掘調査を埋蔵文化財センターが実施した。

整理作業については、事業地内の現地調査を優先するという方針により、現地調査が全て終了した平成21年度から部分的に実施することとなった。平成22年度も断続して整理作業を進め、平成23年度には調査報告書『上金枝Ⅰ遺跡・上金枝Ⅱ遺跡・上金枝Ⅲ遺跡』が江川南部Ⅱ地区内の他の遺跡に先行して整理作業を終了し、刊行に至っている。

また、事業地内とその隣接地には県道那須烏山矢板線が通過しており、バイパスを一部に新設する改良工事を実施する計画となっていた。このため、圃場整備事業の調査成果から、同じく記録保存の調査を実施することとなり、平成21年度に上金枝Ⅰ遺跡と上金枝Ⅱ遺跡について、平成22年度には山の神Ⅱ遺跡について発掘調査を実施し、同じく平成23年度に報告書『上金枝Ⅰ遺跡・上金枝Ⅱ遺跡・山の神Ⅱ遺跡』を刊行している。また、このバイパスに接して圃場整備用地内に一部法面形成工事が施されたが、この際県文化財課が立ち会い調査を実施しており、その成果も本報告書に反映されている。

なお、江川南部Ⅱ地区の下流側に隣接して圃場整備事業が進められた江川南部Ⅰ地区についても、埋蔵文化財の記録保存調査が進められ、森後遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡の発掘調査が行われた。森後遺跡については平成17年度に発掘調査が、平成18年度から21年度にかけて整理・報告書作成作業が進められ、平成22年3月26日に『森後遺跡—経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査—』として成果が報告されている。小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡については、平成20・21年度に発掘調査が、平成22年度から24年度にかけて整理・報告書作成作業が進められ、本書同様平成25年3月28日に『小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡—経営体育成基盤整備事業江川南部Ⅰ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査—』として成果を報告している。

小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡と、本書で報告している欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は隣接しており、関係性の強い遺跡と言える。本書で報告している竪穴建物跡2軒が小鍋内Ⅰ遺跡の調査区内に食い込んでおり、両遺跡は便宜上分かれているに過ぎない。この2軒については本書で報告しているが、他の小鍋内遺跡に属する遺構については『小鍋内Ⅰ遺跡・小鍋内Ⅱ遺跡』を参照願いたい。

## 第二節 調査の方法

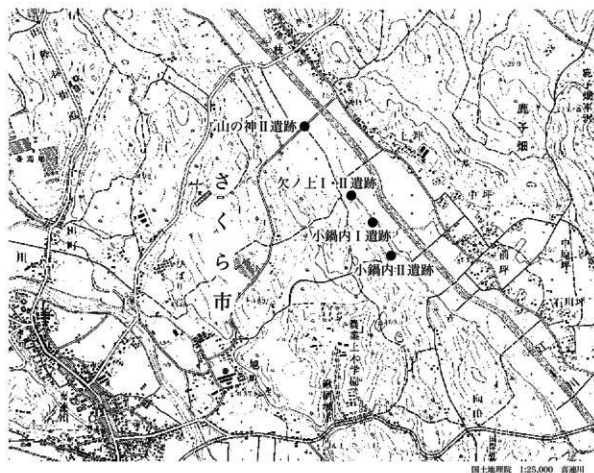
山の神Ⅱ遺跡の調査区は、調査対象外である県道および農道によって分割され、これらを北から順にⅠ～Ⅴ区とした。表土の除去は重機により行い、遺構の精査・掘削は人力によって行った。遺構の図化は、平面図・断面図・エレベーション図・遺物出土状況図等を必要に応じて作成した。この図化作業は株式会社シン技術コンサル製遺跡管理システムにより測量・データベース化する方法で行い、整理段階で修整・加工を加えて本報告書に用いている。遺構の写真は35mmモノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムにて行った。遺構の位置や遺物出土位置を表すグリッドは、世界測地系X=81860 Y=18350を原点とし、調査区全体をカバーするよう10m×10mのグリッドを設定した。東西方向は東へ向かってA、B、Cと増していき、南北方向は南に向かって1、2、3と増す。すなわち原点を含むグリッドはA1と表現される。

欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査区は、調査対象外の県道を挟んで大小2地区に分かれる。表土の除去は重機により行い、遺構の精査・掘削は人力によって行った。遺構の図化は、平面図・断面図・エレベーション図・遺

物出土状況等を必要に応じて作成した。遺構の写真は35mmモノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムにて行った。遺構の位置や遺物出土位置を表すグリッドは、世界測地系X=81300 Y=18760を原点とし、調査区全体をカバーするよう20m×20mのグリッドを設定した。東西方向は東へ向かってA、B、Cと増していき、南北方向は南に向かって1、2、3と増す。すなわち原点を含むグリッドはA1と表現される。

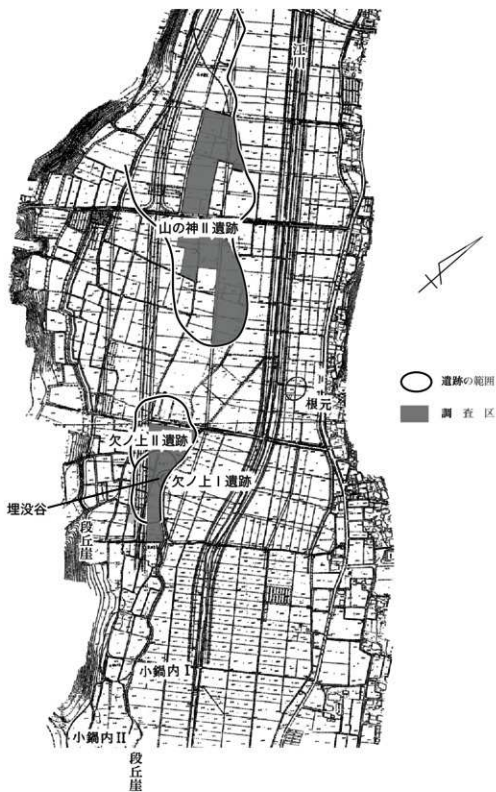
遺跡航空写真撮影は、中央航業株式会社に委託し、ヘリコプターから4×5モノクロリバーサルフィルム・カラーリバーサルフィルム、35mmカラーリバーサルフィルムにて行った。

整理作業を実施する際、遺跡管理システムによってCADデータ化された遺構図は、Adobe社製Illustrator CS2で修整・加工・レイアウト作業を行った。出土遺物実測図はベントレースとデジタルトレースを併用し、ベントレースしたものをスキャン、最終的にIllustratorでレイアウトを行った。遺物の写真撮影はニコン社製デジタルカメラD7000で行い、Adobe社製PhotoshopElementsで若干の修正を行った。



第1図 遺跡位置図





第2図 遺跡の範囲と調査区位置図

## 第二章 遺跡の環境

### 第一節 地理的環境 (第3図)

山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は、さくら市北東部(旧喜連川町)の丘陵部に位置する。さくら市は栃木県中央部に位置し、塩谷郡旧氏家町と旧喜連川町に該当する。旧氏家町域は鬼怒川左岸の低地で水田が広がるとともに、国道4号線・東北本線などが南北に通る塩谷部の中心的都市である。また宇都宮市から至近の距離にありベットタウンとしても機能している。旧喜連川町域は喜連川丘陵(塩那丘陵)と呼ばれる丘陵上に位置し丘陵部と河川により開析された平野部からなる。丘陵部はゴルフ場開発・工業団地造成などが進んでいる。

那須火山群・塩原火山群を含む下野山地と八満山地に挟まれた範囲は、かつて、東西幅30km、南北100kmもの鬼怒川地溝帯あるいは鬼怒川低地と呼ばれる低地を形成していた。この低地の北側半分ほどには、180～80万年前にかけて、那須火山群・塩原火山群の噴出物および山体崩壊物、あるいは福島県白河地域からの火山噴出物が堆積して扇状地を形成した。この堆積物は境林礫層と呼ばれ、深さは喜連川元湯で100m、さくら市箱森新田で90m、高根沢町大谷で60mとなっている。境林礫層の上には、いわゆる関東ローム層と呼ばれる火山灰土層が厚さ約40m堆積しているが、喜連川丘陵西部では大田原火砕流堆積物と呼ばれる高原山の噴出物が挟んでいる。

70～60万年前になると、鬼怒川低地の一部が隆起し、喜連川丘陵を生み出す。喜連川丘陵は北西の高原山から南東の鶏足山地にかけて丘陵地帯を形成し、北側の境林礫層が厚く堆積した地域と南側の鬼怒川流域低地を分ける格好となった。鬼怒川地溝帯の北端は境林礫層の上にさらに那須火山群の噴出物・山体崩壊物が堆積して高久丘陵を形成し、高久丘陵と喜連川丘陵に挟まれた地域は広大な扇状地としての姿を残し那須野原と呼ばれる。広大な扇状地とそれを堰き止めるような場所に形成された喜連川丘陵が那須という地域を生み出すのに大きな役割を果たしていると言える。

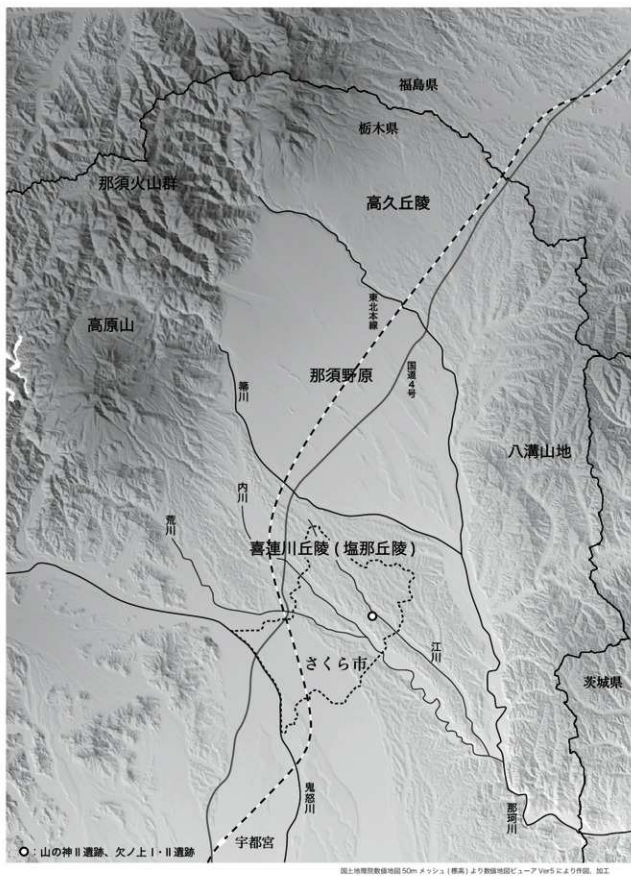
喜連川丘陵は高原山に発する荒川、内川、江川、岩川とその支流の河川によって侵食谷が形成され、この河岸段丘上に集落が展開、遺跡もまた散在している。特に荒川と内川の合流部は広い河岸段丘面が存在して利便性が良く、喜連川の市街地が形成されている。また扇状地の扇央部であり、河川も集中していることから湧水は豊富で、明治時代以降「つきぬき井戸」と呼ばれる自噴井が数多く掘られた。

### 第二節 歴史的環境 (第4～7図、第1～4表)

山の神Ⅱ・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡が所在するさくら市の旧喜連川町域では、旧石器時代から中近世までの多くの遺跡が確認されている。本遺跡が位置するさくら市北東部域(旧喜連川町)を中心に、那珂川町西部域(旧小川町)及び那須烏山市西部域(旧南那須町)の遺跡を併せて概観することとしたい。

#### 【旧石器時代】

旧喜連川町内の範囲で概期の遺跡は、これまでに10遺跡が確認されている。これらは立地から、荒川や江川などの主要河川の河岸段丘上に位置するもの、そこから離れた丘陵中に位置するものの二つに大別される。前者は荒川流域の**將軍道Ⅰ遺跡(1)・野辺山Ⅱ遺跡(2)・テサライⅠ遺跡(3)**、江川流域の**湯泉山Ⅱ遺跡(4)・引田原Ⅱ遺跡(5)・石間平遺跡(8)**の6遺跡が該当し、後者は、鹿子畑・穂積にかけての丘陵に所在する、**内越遺跡(6)・鹿子畑軍沢Ⅱ遺跡(7)・タヤ久保Ⅰ遺跡(9)・タヤ久保Ⅱ遺跡(10)**の4遺跡が挙げられている。水の得やすい前者の遺跡は「生活の場」、現在より支谷が未発達で水が得にくかったと推測される後



第3図 遺跡の地理的環境

者は「一過性の強い」存在と考えられている。山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は江川右岸の段丘上に立地することから、この分類からは「生活の場」としての性格が強い遺跡となろう。以下、上記の10遺跡について概略を述べる。

**将軍道Ⅰ遺跡**は荒川左岸の段丘上平坦面に立地し、流紋岩または頁岩製のドリル1点が採取されている。**野辺山Ⅱ遺跡**は、荒川右岸の段丘平坦面に立地し、頁岩製有舌尖頭器や珪質頁岩の剥片が採取されている。**テサライⅠ遺跡**は内川右岸の段丘上に位置し、高原山黒曜石製の尖頭器または削器と思われる資料1点が出土した。**湯泉山Ⅱ遺跡**は江川右岸の丘陵中腹に位置し、珪質凝灰岩剥片1点が採取されている。**引田原Ⅱ遺跡**は引田川と江川の合流点近くの丘陵裾部に立地する。珪質頁岩製の大型縦長剥片も採取された。ここから引田川を約1km北上した引田-A地点では、小川スコリア層と鹿沼軽石層の間から石核・焼礫・黒曜石チップなどが発見され、石器の出土層位が確認された。**内越遺跡**は、江川左岸の丘陵中に立地し、赤色珪岩製の小型の剥片が採取された。金枝・鹿子畑地区の旧石器時代遺跡として貴重な存在である。**鹿子畑筆沢Ⅱ遺跡**は、小鍋内遺跡と江川を挟んだ東側の丘陵の東麓に所在し、江川支流の岩川右岸の段丘上に立地する。縄文期の遺物と共に高原山産出の黒曜石製削器が採取された。その他、**石関平遺跡**で珪質凝灰岩製削器、縄文時代後期の**タヤ久保Ⅰ遺跡**で頁岩の細石核、瑪瑙の細石刃、珪岩製の縦長剥片、珪質頁岩あるいは流紋岩製の柳葉形尖頭器などが出土している。この遺跡の東約300mに位置する**タヤ久保Ⅱ遺跡**でも珪質凝灰岩の大振りの石核が採取された。

#### 【縄文時代】

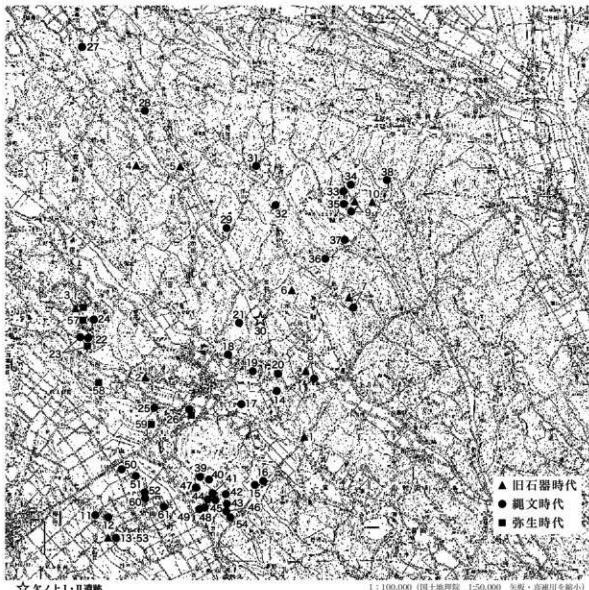
早期では、**星の宮裏遺跡 (24)**で燃糸文期、井草Ⅰ式の土器破片が出土している。小鍋内遺跡の南西約1kmの丘陵頂部に立地する**寺久保トヤ遺跡 (14)**では、採取された土器片に条痕文、斜位の擦痕、アナダラ種の貝殻腹縁による押圧文などがみられ、早期中葉から後葉にかけての集落跡と考えられる。また、丘陵裾部に立地する**外山Ⅰ遺跡 (15)**でも、早期前葉の井草Ⅱ式土器が出土している。また、**薬師下Ⅰ遺跡 (19)**では早期擦痕文土器破片が採取された。**梨ノ木遺跡 (20)**では、早期前半から中葉にかけての、燃糸文系・沈線文系の三戸式期および無文系土器文化期の破片が出土した。**トフヨⅡ遺跡 (21)**では早期前葉の稲荷原式期、天矢場式期の土器や、後葉の条痕文系土器が採取され、子母口式期・常世Ⅱ式期に比定されている。

前期の遺跡では、上記の**外山Ⅱ遺跡 (16)**が挙げられる。遺物出土量が少ないが、土製杖状耳飾り等が出土し、前期頃の集落跡の可能性がある。**北ノ内Ⅱ遺跡 (28)**は昭和52・53年に造成に伴う調査が実施され、前期では黒浜式・浮島Ⅰ式期の土器破片を中心に多数の遺物が採取された。**欠ノ上Ⅰ遺跡 (30)**も、黒浜式期・諸磯a式期の土器を多く出土し、前期の集落跡と考えられる。**薬師下Ⅰ遺跡**では前期黒浜式の土器破片および、等地域では珍しい諸磯a式期の土器片が採取された。

中期の主要遺跡では、**百巻塚Ⅰ遺跡 (23)**、**東高月遺跡 (27)**、**北ノ内Ⅱ遺跡 (28)**、**穂積高畑遺跡 (33)**などが挙げられる。**百巻塚Ⅰ遺跡**は昭和44年に発掘調査が行われ、土器捨て場と思われる箇所が確認できた。中期では、阿玉台式Ⅱ・Ⅲ式期、大木7b式期、加曾利EⅠ・EⅡ・EⅢ・EⅣ式期、大木8a式期の土器破片が出土した。**東高月遺跡**は中期から後期にかけての大集落跡と考えられ、中期では阿玉台式期・加曾利EⅡ～EⅣ式期の土器破片が多量に採取されている。**北ノ内Ⅱ遺跡**は先述のとおり、前期の土器破片が多数採取されているが、中期の阿玉台式Ⅱ式期、大木7b式期、加曾利EⅠ式期の土器資料も採取されている。**穂積高畑遺跡**は中期から後期にかけての広大な集落跡で、中期の遺物としては加曾利EⅠ・EⅡ・EⅢ・EⅣ式期の土器破片大量に採取されている。また、該期の筒型土偶も特筆すべき遺物である。この他、内川・荒川合流地点の右岸段丘上に位置する**大天箱Ⅱ遺跡 (17)**で阿玉台式期終わり頃の土器破片が採取され、喜連川

市街地の北東に位置する大目下Ⅱ遺跡(18)では、中期中葉の大木8a式・加曾利EⅡ式期の土器片が採取され、地形の状況から、中期の広範囲におよぶ集落跡と考えられる。波木遺跡(22)は小規模な散布地と考えられるが、阿玉台式期・加曾利EⅡ式期の土器破片が採取されている。石関平遺跡(8)は広範囲に及ぶ集落遺跡と考えられるが、阿玉台式期・加曾利EⅠ・同EⅡ式期の遺物が採取されている。高畑屋敷前遺跡(34)は加曾利EⅡ式期の遺物が多く採取される。

後期では東高月遺跡(27)、穂積高畑遺跡(33)、タヤ久保Ⅰ遺跡(9)などが主要な遺跡として挙げられる。東高月遺跡では中期に続いて称名寺式期、堀之内式期、大木9・10式期の後期の土器破片も多く採取され、大規模な集落がこの時期まで継続すると推測されている。穂積高畑遺跡では後期の遺物として堀之内Ⅰ・Ⅱ式期、加曾利BⅠ・Ⅱ式期、東北部系の綱取Ⅰ・Ⅱ式期の土器破片が出土している。タヤ久保Ⅰ遺跡は、平成13(2001)年に喜連川町史編さん委員会によって発掘調査され、円形の土坑等が確認された。出土遺物としては南関東系の称名寺Ⅰ・Ⅱ式期、堀之内Ⅰ・Ⅱ式期、加曾利BⅠ・B2・B3式期、曾谷式期、安行Ⅰ式期、および南東北系の新地式期、金剛寺式期の瘤付き土器などが出土した。



第4図 周辺の遺跡 旧石器時代・縄文時代・弥生時代

第1表 周辺の遺跡一覧表 旧石器・縄文・弥生時代

No	時代	遺跡名	所在地	時期		縄文時代				弥生時代			備考		
				時期区分	土器形式	早期	前期	後期	前期	中期	後期				
1	旧石器時代	野田道1遺跡	さくら市大字野田	—	—										
2		野田山1遺跡	さくら市大字野田山	—	—										
3		宇ケイ1遺跡	さくら市大字野田	—	—										
4		福山山1遺跡	さくら市大字大河	—	—										
5		引田原1遺跡	さくら市大字大河	—	—										
6		内蔵遺跡	さくら市大字余枝	—	—										
7		熊子畑甲1遺跡	さくら市大字熊子畑	—	—										
8		石階平遺跡	さくら市大字熊子畑	—	—										
9		タケ久保1遺跡	さくら市大字榑崎	—	—										
10		タケ久保2遺跡	さくら市大字榑崎	—	—										
11		浜式門遺跡	氏家町上野字上野	—	—										
12		民開田人遺跡	氏家町民開田字氏家道下	—	—										
13		柿木沢上遺跡	氏家町柿木沢字藤原	—	—										
14	縄文時代	寺久保トヤ遺跡	さくら市大字葛城	早期・中葉～後葉	茶碗文		●								
15		内山1遺跡	さくら市大字葛城	早期前葉			●								
16		内山2遺跡	さくら市大字葛城	前期				●							
17		大丸山1遺跡	さくら市大字葛城	中葉・中葉	阿玉式・式部式				●						
18		大山下1遺跡	さくら市大字善道田	中葉・中葉	大木8a・加賀利1B					●					
19		栗原下1遺跡	さくら市大字善道田	早期・前期	黒土式・加賀利式				●	●					
20		熊ノ木遺跡	さくら市大字善道田	早期前葉～中葉	熊木文系・沈黙文系の 二ツ式						●				
21		トツノ1遺跡	さくら市大字善道田	早期	稲穂型式部・丸尾式部・茶碗文系				●						
22		波木遺跡	さくら市大字小入	中期	阿玉式部・加賀利1B式部						●				
23		百巻塚1遺跡	さくら市大字小入	中期							●				
24		早谷遺跡	さくら市大字小入	早期	熊木文系				●						
25		早乙女富士山遺跡	さくら市大字早乙女												
26		緑谷小筋遺跡	さくら市大字早乙女												
27		東倉井遺跡	さくら市大字大河	中期・後期	阿玉式部・加賀利1B～1D式部・5式部・堀之内式部・大木8a・10式部							●	●		
28		北ノ内山1遺跡	さくら市大字大河	前期・中期	黒土式部・伊豆1式部・阿玉式部1式部・大木7式部・加賀利1式部						●	●			
29		愛宕山1遺跡	さくら市大字南田									●			
30		欠ノ上1遺跡	さくら市大字余枝	前期	黒土式部・式部式							●			
8	石階平遺跡	さくら市大字熊子畑	中期	阿玉式部・加賀利1B・5式部											
7	熊子畑甲1遺跡	さくら市大字熊子畑													
32	菅田遺跡	さくら市大字榑崎													
33	榑崎高塚遺跡	さくら市大字榑崎	中期・後期	加賀利1・4B・4a・白土式部・堀之内1・1B式部・加賀利1B・5式部・東北西部系縄文1・2式部							●	●			
34	高塚原歌石遺跡	さくら市大字榑崎	中期	加賀利1B式部							●				
35	尾畑久保遺跡	さくら市大字榑崎													
9	タケ久保1遺跡	さくら市大字榑崎	後期										●		
36	広久保遺跡	さくら市大字榑崎													
37	下少山山遺跡	さくら市大字榑崎													
38	鹿見トヤ遺跡	さくら市大字榑崎													
39	坂ノ遺跡	氏家町殿治ヶ沢字坂下													
40	永徳遺跡	氏家町殿治ヶ沢字永徳	中・後期								●	●			
41	共同森原遺跡	氏家町殿治ヶ沢字永徳	中期								●	●			
42	陣塚遺跡	氏家町殿治ヶ沢	中期								●	●			
43	トヤ遺跡	氏家町殿治ヶ沢字日輝	中期								●	●			
44	古原歌石遺跡	氏家町殿治ヶ沢字永徳													
45	共同森原南遺跡	氏家町殿治ヶ沢字永徳	前期								●	●			
46	長塚遺跡	氏家町殿治ヶ沢字日輝	前期								●	●			
47	八幡前遺跡	氏家町民開田字八幡前													
48	中畑内遺跡	氏家町殿治ヶ沢字五反田	中期～古墳時代								●	●			
49	ハットヤ遺跡	氏家町民開田字原本	中・後期								●	●			
50	藤原寺遺跡	氏家町民開田字道梨													
51	道梨遺跡	氏家町民開田字道梨													
52	谷ノ中宮宮遺跡	氏家町民開田字谷ノ中													
53	柿木沢上遺跡	氏家町柿木沢字藤原													
54	下遺跡	氏家町殿治ヶ沢													
55	弥生時代	善道田大日向遺跡		前期	茶碗文							●			
56		古原塚1遺跡	さくら市大字小入	後期	十三行式部									●	
57		百巻塚1遺跡	さくら市大字小入	中期後半										●	
3		テケイ1遺跡	さくら市大字野田	中期前半	茶碗文									●	
57		瓜平遺跡	さくら市大字小入	中期中葉～後葉										●	
38		新坂上遺跡	さくら市大字早乙女	中期	茶碗文・熊木文									●	
26		緑谷小筋遺跡	さくら市大字早乙女	中期	茶碗文・熊木文									●	
39		中塚1遺跡	さくら市大字早乙女	中期	茶碗文・熊木文									●	
60		お新塚北遺跡	氏家町民開田字道梨												
81		四斗崎遺跡	氏家町民開田字四斗崎	弥生～古墳時代中期											



## 【弥生時代】

弥生時代前期の遺跡としては、喜連川大日向遺跡（55）が挙げられる。ここでは、開墾中に前期の条痕文の甕1点が出土し、喪棺墓の可能性も指摘されている。

その他の遺跡はほとんどが中期以降のものである。山の神Ⅱ・欠ノ上Ⅰ・欠ノ上Ⅱ遺跡周辺では、西側丘陵上の古屋敷Ⅱ遺跡（56）で後期の十王台式期の土器破片が採集されている。百巻塚Ⅰ遺跡（23）でも中期後半の土器片が発見された。一方、テサライⅠ遺跡（3）は昭和53年（1978）に発掘調査が行われ、円形・楕円形などの土坑33基が発見された。出土土器には条痕文を施すものが多く、中期前半頃の遺構と考えられる。この遺跡の南に位置する瓜平遺跡（57）も同時に調査され、中期中葉から後葉にかけての土器が出土した。前坂上遺跡（58）、鍛冶小路遺跡（26）、申塚Ⅰ遺跡（59）でも条痕文・燃糸文を施した中期の土器破片がわずかに採集されている。

## 【古墳時代】

山の神Ⅱ遺跡では、古墳時代中期～後期の竪穴建物跡4軒、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では古墳時代前期末～中期の竪穴建物跡3軒が調査された。中期の集落遺跡が少ない当地域において、その時期の集落の一部が確認できたことは、大きい成果と言える。

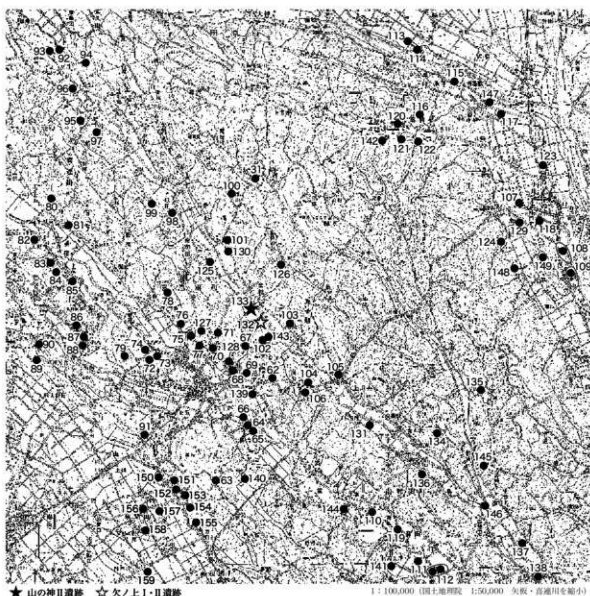
**古墳時代前期** 江川の流域では、江川左岸丘陵上に前方後方墳の可能性も指摘される高山古墳（105）が存在する。森後遺跡からは、東方0.5kmと近接しており関連性が推測される。また、江川右岸の上山枝Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡（125）では、竪穴住居が2軒確認されており、小規模な集落が展開していると考えられる。この他のさくら市域内の集落としては、江川左岸に軍沢遺跡（126）、岩川左岸に萱場遺跡（31）、荒川左岸の広島遺跡（127）、大日下Ⅰ遺跡（128）が確認されている。一方、那珂川町域の那珂川流域では、この時期における県内でも有数の古墳密集地域である。特に、前方後方墳と方墳で古墳群が形成される特徴を有する。那珂川と那珂川支流の権津川合流地点では、前方後方墳である駒形大塚古墳（107）、及び前方後方墳の吉田温泉神社古墳と20基の方墳からなる吉田温泉神社古墳群（108）、前方後方墳の那須八幡塚古墳と方墳の吉田富士山古墳からなる那須八幡塚古墳群（109）が相次いで造営される。さらに、三輪仲町遺跡（129）においても方墳が8基確認されている。

**古墳時代中期** 当地域におけるこの時期の遺跡は極端に少ない。江川流域では、百姓原遺跡（130）と黒尾原A遺跡（131）において、集落に関連すると推測される土坑や溝が確認されているに過ぎない。

**古墳時代後期・終末期** この時期には、中期とは対照的に喜連川丘陵上に多くの古墳が造営され、荒川・江川流域には多くの集落が営まれる。また、終末期には喜連川丘陵断崖に横穴墓が多く造られており、県内でも屈指の横穴墓密集地域である。

当観期の古墳としては、次の遺跡が確認されている。江川流域には石関平古墳群（104）、古屋敷古墳群（102）、東山古墳（100）が存在し、特に石関平古墳群は森後遺跡に近接し、江川を挟んで対岸に位置する。荒川流域のさくら市域では、畑中古墳（65）、大日下古墳群（68）、大日山古墳群（67）、行人塚古墳（70）、田町古墳（75）、夜打内古墳群（76）が存在し、那須烏山市域では、戸田古墳群（110）、久保前古墳（111）、大和久古墳群（112）がある。那珂川・澗川流域では、蛭田富士山古墳群（114）、新屋敷古墳（115）、荒屋古墳（116）、梅曾大塚古墳（117）、首長原古墳（118）が造営されている。横穴墓は、さくら市域の荒川流域には、総数35基を数える葛城横穴墓群が造られている。下流の那須烏山市域では、古館横穴墓群（144）が造営されている。那須烏山市の江川と岩川の合流地点付近には、小志鳥横穴墓群（145）と山崎横穴墓群（146）が造られている。那珂川・権津川流域では、観音堂横穴墓群（147）や岩谷内横穴墓群（148）が造営されている。

この時期、多くの集落が形成され始め、その殆どが奈良・平安時代まで継続していく。さくら市域の江川流域には、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡(132)、山の神Ⅱ遺跡(133)、百姓原遺跡が形成される。那須烏山市域では、江川・岩川流域に黒尾原A遺跡、金草遺跡(134)、鳥の子沢遺跡(135)、宮前遺跡(136)、後俵遺跡(137)、町田遺跡(138)が営まれる。荒川流域では、さくら市域の大日下Ⅰ遺跡、三角遺跡(139)、星の宮Ⅰ遺跡(140)が、那須烏山市域では三百目遺跡(141)が該期の遺跡と確認されている。那珂川・権津川流域では、概期以降の大規模集落である三輪仲町遺跡や藤柄遺跡(142)が形成される。



第5図 周辺の遺跡 古墳時代

第2表 周辺の遺跡一覧表 古墳時代

No	時代	時期 時期区分	遺跡名	所在地	古墳時代				備考
					前期	中期	後期	終末期	
62	古墳時代		外久保古墳	さくら市大字葛城				古墳	円墳、墳長約16m。
63			大仏古墳	さくら市大字葛城				古墳	方墳、墳長約9m。近所の供養塚の可能性あり。
64			阿久津古墳	さくら市大字葛城				古墳	円墳、墳長9m。
65		後期-終末期	御中古墳	さくら市大字葛城				● ●	古墳、墳長東西約8m、南北10.2m。
66		後期	葛城磯六郎古墳	さくら市大字葛城				● ●	破穴古墳 35基中現在確認できるのは16基。昭和28年さくら市の調査、平成14年町史編纂事業により再調査が実施。
67		後期-終末期	大江山古墳群	さくら市大字青蓮田				● ●	古墳 円墳5基、近世塚4基、1号墳墳長5m、2号墳墳長6m、3号墳墳長4m、4号墳墳長4.5m、5号墳墳長5m。
68		終末期 (7世紀初)	大田下古墳群	さくら市大字青蓮田				●	古墳 円墳2基が青蓮田高校改築時に消滅。
69			菊園山古墳	さくら市大字青蓮田					古墳 方墳、東西15～16m、南北13～16m。
70		後期-終末期	行人塚古墳	さくら市大字青蓮田				● ●	古墳 墳首はすべて削平、破穴式石室も消失。
71		前期か	大沼古墳群	さくら市大字青蓮田	●				
72			八幡舟1古墳群	さくら市大字青蓮田					古墳
73			八幡舟2古墳群	さくら市大字青蓮田					古墳
74			日枝神社古墳群	さくら市大字青蓮田					古墳
75		終末期 (7世紀初頃か)	田町古墳 (磯崎古墳)	さくら市青蓮田				● ●	古墳 前方後円墳、墳長53.4m、平成14年度町史編纂事業に準ず調査実施。
76		後期-終末期	後行内古墳群	さくら市大字青蓮田				● ●	古墳 円墳2基、1号墳墳長約15m、2号墳墳長12m。
77			大沼古墳	さくら市大字青蓮田					古墳
78			常神山下古墳	さくら市大字青蓮田					古墳
79			猪ノ子古墳群	さくら市大字青蓮田					古墳
80			塚上山古墳群	さくら市大字舞臺					古墳
81			雲雲山古墳	さくら市大字舞臺					古墳
82			船内古墳群	さくら市大字舞臺					古墳
83			中塚古墳群	さくら市大字舞臺					古墳
84			西原古墳	さくら市大字舞臺					古墳
85			下原古墳群	さくら市大字舞臺					古墳
86			成平古墳	さくら市大字小人					古墳
87			小人早刈妻古墳群	さくら市大字小人					古墳
88			古春塚古墳	さくら市大字小人					古墳
89			早乙女古墳	さくら市大字早乙女					古墳
90			船山古墳	さくら市大字早乙女					古墳
91			中塚古墳	さくら市大字早乙女					古墳
92			鶴山古墳	さくら市大字下河					古墳
93			船内古墳	さくら市大字下河					古墳
94			船底川古墳	さくら市大字下河					古墳
95			浄土古墳	さくら市大字下河					古墳
96			山形古墳群	さくら市大字下河					古墳
97			大田ノ原古墳	さくら市大字下河					古墳
98			下河ノ原古墳	さくら市大字下河					古墳
99			船山古墳群	さくら市大字下河					古墳
100		後期-終末期	東山古墳	さくら市大字南和田				● ●	古墳 円墳、墳長17.5m。
101			愛宕山古墳	さくら市大字南和田				● ●	古墳 円墳、墳長7m、鮮塚の可能性あり。
102		後期-終末期	古原敷古墳群	さくら市大字藤子塚				● ●	古墳 円墳8基。
103		中期か	鶴山古墳	さくら市大字藤子塚					古墳 円墳。
104		後期-終末期	石田平古墳群	さくら市大字藤子塚				● ●	古墳 円墳3基。
105		前期	船山古墳	さくら市大字藤子塚	●				古墳 墳長約30m。前方後円墳の可能性あり。
106			瀧口ノパン古墳	さくら市大字藤子塚					古墳 円墳、墳長11.5m。
107		前期	駒形大塚古墳	郡山町小田	●				古墳 国指定史跡、昭和49年調査。前方後円墳、墳長約60.5m。本塚様。
108		前期	古田原皇神古墳群	郡山町古田					古墳 国指定史跡、柱である前方後円墳の古田皇神神社古墳と方墳2基(観音古墳等)からなる古墳群。郡山八幡塚古墳群と併せて古田新宮古墳群を形成。
109		前期	郡山八幡塚古墳群	郡山町小田・古田	●				古墳 国指定史跡。前方後円墳の郡山八幡塚古墳(1号墳)と方墳の古田皇神山古墳(2号墳)からなる古墳群。古田皇神神社古墳群と併せて古田新宮古墳群を形成。
110		後期-終末期	戸田古墳群	郡山島山寺田二				● ●	古墳 前方後円墳1基(1号墳)・円墳2基(2・3号墳)、1号墳墳長25m、2・3号墳墳長10m前後。
111		後期-終末期	久保古墳	郡山島山寺田二				● ●	古墳 円墳、墳長東西2.5m・南北27m。
112		後期-終末期	大和久古墳群	郡山島山寺田大和久				● ●	古墳 昭和34-60年調査。寺田・原の前・林先の3支那に分かれ、30基以上存在していた可能性がある。林先支那の5基現存。寺田支那は7基の円墳を調査。林先支那は前方後円墳2基・円墳3基の現存。
113			船田富士山古墳	大田原市船田					古墳 前方後円墳、墳長40m。
114		中・後期	船田富士山古墳群	大田原市船田				● ●	古墳 昭和50年調査。円墳4基、造式石槨・磐穴式石室など8基。古墳時代中期の約6注162群。
115		後期-終末期	新原敷古墳	郡山町津波寺				● ●	古墳 円墳、墳長約15m、破穴式石室。
116		後期-終末期	笠原古墳	郡山町新栗川				● ●	古墳 円墳(1基)。
117		後期-終末期	鴨沢大塚古墳	郡山町小田				● ●	古墳 昭和39年調査。前方後円墳、墳長50m。破穴式石室2基。
118		後期-終末期	笠原古墳	郡山町二輪				● ●	古墳 平成4年調査。前方後円墳か。円形石4ノ周・破穴式石室。
119			船後古墳群	郡山島山寺田二					古墳 円墳3基現存。墳長10m以下。
120			中河古墳	郡山町新栗川					古墳 円墳(1基)。

№	時代	時期 時期区分	遺跡名	所在地	古墳時代				備考		
					前期	中期	後期	終末期		種別	
121	古墳時代		福崎古墳	郡山町栗利					古墳	円墳(円墳)。	
122			塚原古墳群	郡山町栗利					古墳	南方後円墳1基と円墳1基(円墳)。	
123			上の原古墳	郡山町山小					古墳	円墳(円墳)。	
124			升ノ内古墳	郡山町西古平					古墳	通称熊野神社古墳。南方後円墳か。	
125	前期～平安・中世・近世		土倉枝Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	さくら市金枝	●				集落	平成18・21年度調査。平成18年度Ⅰ遺跡(中世世の遺跡)、Ⅱ・Ⅲ(本・土壇多数)。日蓮師(古墳時代前期)の塚(Ⅰ区1棟。平安時代の塚(Ⅱ区)2棟。中世世の遺1基・Ⅲ区3本・土壇)。Ⅲ遺跡(古墳時代前期)の塚(Ⅲ区1棟。平安時代の遺3基・Ⅲ区3基・土壇)。	
126	前期		甲子遺跡	さくら市金枝	●				集落	古墳時代前期の土師器が表出。	
31	前期		菅塚遺跡	さくら市大字林池	●				集落		
127	前期		広島遺跡	さくら市大字藤田	●				集落		
128	前期～後期		大目下Ⅰ遺跡	さくら市大字藤田	●	●	●		集落		
129	旧石器～中世		二輪神町遺跡	郡山町二輪	●			●	集落	散在に渡る調査が実施。古墳から奈良・平安時代の塚(Ⅰ区)6区(30軒以上確認)。大塚(Ⅱ区)集落が確認。古墳時代前期の円墳3基。また古墳時代の塚(Ⅲ区)の土壇2基の遺跡が走行(遺跡)。	
130	中期～奈良・平安		古姓原遺跡	さくら市大字南和田		●			集落	平成16年度奈良県埋蔵文化財調査で古墳時代(中期)の土壇確認。	
131	中期～中世		黒尾畑A遺跡	郡山島山市上川井		●	●	●	集落	平成8年度調査。古墳時代後期の塚(Ⅰ区)2棟・中期の遺1基。奈良・平安の遺4基。中世の土壇2基・遺1基。	
132	後期～終末期		矢ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡	さくら市金枝				●	●	集落	
133	後期～中世		山の神Ⅱ遺跡	さくら市金枝		●			●	集落	平成19・20年度調査。平成19年度調査区(Ⅰ区)から、塚(Ⅰ区)31軒(古墳時代後期)2棟・奈良・平安時代(35軒)。鎌倉社遺跡7棟(奈良・平安時代(本・中世(6基))。中世の塚(Ⅰ区)1基。古墳時代(遺1基)が確認。
134	後期～終末期		金草遺跡	郡山島山市古志				●	●	集落	
135	後期～終末期		鳥の子沢遺跡	郡山島山市古志				●	●	集落	
136	後期～奈良・平安		宮前遺跡	郡山島山市下川井				●	●	集落	この地域の拠点集落か。
137	後期～奈良・平安		後萩遺跡	郡山島山市熊田				●	●	集落	
138	後期～終末期		新田遺跡	郡山島山市片次				●	●	集落	
139	後期～終末期		三角遺跡	さくら市大字藤田				●	●	集落	
140	後期～奈良・平安		塚の野Ⅰ遺跡(Ⅰ内山遺跡)	さくら市藤城				●	●	集落	
141	後期～奈良・平安		二百日遺跡	郡山島山市藤田				●	●	集落	昭和60年調査。塚(Ⅰ区)39軒、鎌倉社遺跡4棟。遺1基。
142	後期～終末期		藤崎遺跡	郡山町新方井				●	●	集落	昭和55年度調査。塚(Ⅰ区)39軒。
143	古墳～奈良・平安時代		小瀬内Ⅰ・Ⅱ遺跡	さくら市鹿子畑						集落	平成15年度奈良県埋蔵文化財調査実施。平成20年度矢ノ上Ⅱ遺跡と併せてⅡ遺跡調査(古墳～奈良時代の塚(Ⅰ区)13軒・遺跡24基・土壇268基)。平成21年度Ⅱ遺跡調査。
144	後期～終末期		古志磯穴(集落)	郡山島山市二田				●	●	集落	7基確認。
145	後期～終末期		小志崎磯穴(集落)	郡山島山市古志				●	●	集落	41基確認。
146	後期～終末期		山崎磯穴(集落)	郡山島山市熊田				●	●	集落	3基確認。
147	後期～終末期		観音堂磯穴(集落)	郡山町新法寺				●	●	集落	2基確認。
148	後期～終末期		岩谷内磯穴(集落)	郡山町西古平				●	●	集落	
149	中期		神田南遺跡	郡山町二輪		●				集落	昭和42年度調査。塚(Ⅰ区)59軒。
150			高小塚古墳	氏家町箕原田字新本					●	古墳	
151	後期		上根本遺跡	氏家町箕原田字上根本					●	古墳	
152	後期		ウラ山古墳群	氏家町箕原田字上根本					●	古墳	
153	後期		六蔵古墳群	氏家町箕原田字新本					●	古墳	
154			ハツヤ北古墳	氏家町箕原田字新本八斗屋						古墳	
155	後期		西ツ塚古墳群	氏家町箕原田字新本八斗屋					●	古墳	
156			お萩古墳	氏家町箕原田字中根						古墳	
157	弥生時代～古墳時代(中期)		西斗崎遺跡	氏家町箕原田字西斗崎		●				集落	
158			一の塚古墳	氏家町箕原田字北原					●	古墳	
159			竹橋北Ⅰ遺跡	氏家町新本2字藤原						散在	

## 【奈良・平安時代】

『和名類聚抄』によると下野国には、足利郡・梁田郡・安蘇郡・都賀郡・寒川郡・河内郡・芳賀郡・塩屋郡・那須郡の九郡ありと記されている。山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡が位置するさくら市（旧喜連川町）は、荒川以東が那須郡、以西が塩屋郡と推測される（荒川と内川の合流点以北は内川が境界か）。ただ、**森後遺跡（171）**の南方に川井（那須烏山市上川井・下川井）という地名が残っていることから、周囲を塩屋郡河會郷に比定する考えもある。律令国家による地方支配の拠点として、各地に官衙が設置され、国の行政施設としては国府が置かれた。下野国府は都賀郡に設置され、発掘調査によって栃木市田村町に所在することが明らかになっている。各部には郡衙（郡家）が置かれ、那須郡衙は那須川町（旧小川町）所在の**那須官衙遺跡（160）**である。山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡の南西約4.5kmには**長者ヶ平遺跡（161）**が位置する。平成13年度～平成17年度の発掘調査によって、「コの字」型配置の政庁や多くの倉庫で構成される倉院などが確認され、**長者ヶ平遺跡**が官衙遺跡であることが判明した。この官衙は、古代の芳賀郡に属していることから、「芳賀郡衙出先機関」や「芳賀郡内に置かれた東山道駅路の新田駅家」、または「芳賀郡衙出先機関と新田駅家を複合した官衙施設」と想定されている。

官衙の整備に相前後して郡寺も設置され、那須郡では那須官衙遺跡の北約400mに**浄法寺廃寺跡（162）**が置かれた。また、那須官衙遺跡の南方約3kmには延喜式内社の**三和神社（163）**が設置されている。さらに、那須官衙遺跡周辺からは、那須郡衙に関連する遺跡も確認されている。**上宿遺跡（164）**からは、備品台帳の草案を記したと推測される漆紙文書が出土しており、漆関連の工房跡と推測されている。**上の台遺跡（165）**からは、赤色顔料工房跡が確認されている。そして、**駒形6号墳周辺遺跡（166）**からは、平安時代の整穴住居から「南曹司」と書かれた墨書土器が出土しており、官衙関連施設の可能性を指摘できる。

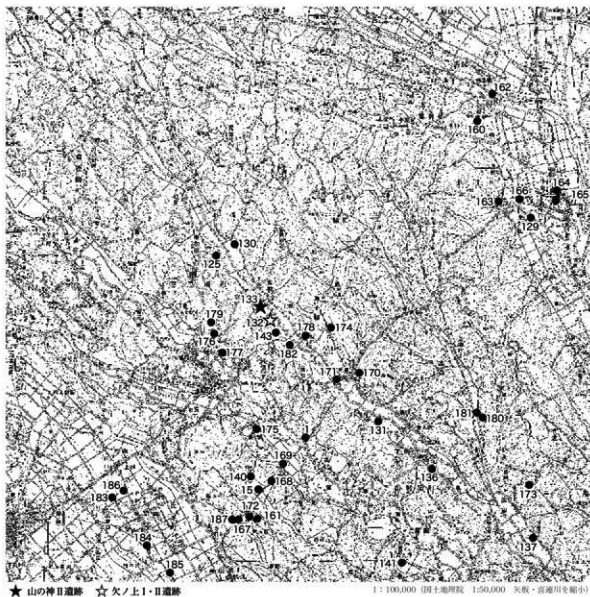
国家体制が整うと、全国的な道路網（官道）が整備され、下野国には東山道（駅路）が作道される。さくら市と那須烏山市境には將軍道と呼ばれる古道が残り、昭和63年度栃木県教育委員会により**殿久保遺跡（167）**の発掘調査が行われ、この古道が東山道の可能性が高い事が判明している。この將軍道は保存状況がよく、平成15年度～平成18年度に**長者ヶ平遺跡**と併せた史跡整備事業のための発掘調査が那須烏山市教育委員会により実施された。**殿久保遺跡・助治久保遺跡（168）・清水畑遺跡（169）**の三遺跡において、7地点の調査が行われた。また、**新道平遺跡（170）**や那須官衙遺跡においても、東山道の可能性が高い道路遺構が確認されている。**森後遺跡**の発掘調査では、東山道と推測される道路遺構は確認出来なかったことから、東山道は**森後遺跡**の南方を通過していたと考えられる。さらに、東山道以外の道路遺構も確認されている。**長者ヶ平遺跡**の西隣を南北に通る通称**タツ街道（172）**は、発掘調査の結果、古代まで遡る道路遺構と判明し、**長者ヶ平遺跡**の北側で東山道と交差する事も明らかになった。芳賀郡衙と塩屋郡衙を結ぶ、郡衙間連絡道（伝路）の可能性も考えられる。

8世紀には那須郡においても窯業生産が開始され、8世紀後葉には喜連川丘陵上にも須恵器窯の中山窯跡（那須烏山市中山）が作られ、9世紀前半には**銭神窯跡群（173）**に受け継がれる。また、那須郡では古代から中世にかけて製鉄が盛んに行われており、製鉄関連遺跡も多く確認されている。**大多坊遺跡（174）**や**畑中遺跡（175）**からは、鉄滓が表採されており、製鉄遺跡の分布範囲が西に広がる可能性が指摘されている。

奈良時代（8世紀）の集落は、当地域では、古墳時代後期に形成された集落から継続して営まれる場合が多い。江川流域には、**森後遺跡**、**山の神Ⅱ遺跡（133）**、**小鍋内Ⅰ・Ⅱ遺跡（143）**、**百姓原遺跡（130）**、**黒尾原A遺跡（131）**、**宮前遺跡（136）**、**後俵遺跡（137）**が、荒川流域には**星の宮Ⅰ遺跡（140）**、**三百目遺跡（141）**が、那須川支流権津川流域には**三輪仲町遺跡（129）**が古墳時代後期からの継続集落である。新たに形成され

たと考えられる集落としては、荒川・内川流域の**大沼臺遺跡**（176）、**行人塚Ⅰ遺跡**（177）などが挙げられる。**大沼臺遺跡**からは、瓦塔が出土していることから集落内の仏堂の存在も推測できる。また、整備された東山道沿いにも、新たに**將軍道Ⅰ遺跡**（1）や、**外山Ⅰ遺跡**（15）等の集落が形成され、東山道に関連した遺跡と考えられる。

平安時代（9世紀以降）になると、律令制下の集落は解体する傾向にあり、丘陵上や沖積地への小規模集落（散居的集落）が増加する。**切上遺跡**（178）、**上金枝Ⅱ遺跡**（125）、**田町Ⅱ北遺跡**（179）、**古沢遺跡**（180）などは、少数の堅穴住居で構成される集落跡である。



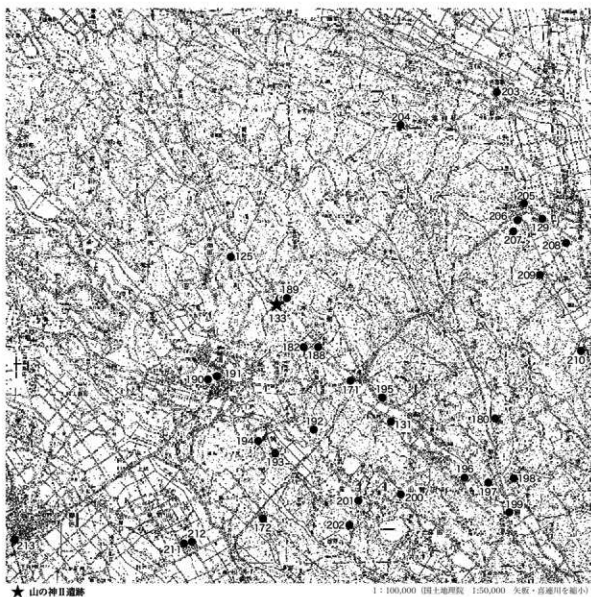
第6図 周辺の遺跡 古代

第3表 周辺の遺跡一覧表 古代

No	時代	時期 時期区分	遺跡名	所在地	古代 種別	備考
125	古代	前期・平安・中世・近世	上金枝1・B・B遺跡	さくら赤松枝	集落	平成18・21年度調査。平成18年度1遺跡(中世期の遺8号・井ノ7号・土坑5号)、B遺跡(古墳時代前期の埋没土坑1号、平安時代の堀穴1号2棟、中世期の遺1号・井ノ3号・土坑)、B遺跡(古墳時代前期の堀穴1号1棟、中世期の遺2号・井ノ3号・土坑)。
129		行石遺・中世	二輪町神道跡	郡山川田二輪	集落	数年度に渡る調査が実施。古墳から奈良・平安時代の堀穴130軒以上を確認。大規模集落が確認。古墳時代前期の埋没土坑。また奈良時代の堀穴1号の土を2号の遺跡が先行した(遺跡)。
130		中期・奈良・平安	吉野遺跡	喜連川大字吉野田	集落	平成16年度発掘調査報告書調査で古墳時代前期の土坑遺跡。
131		中期・奈良	長尾丸A遺跡	郡山川田市上川井	集落	平成26年度調査。古墳時代後期の堀穴1号2棟・中期の遺1号、奈良・平安の遺4号、中世の土坑2号・遺1号。
132		後期・終末期	矢ノ上1・B遺跡	さくら赤松枝	集落	平成19・20年度調査。平成19年度調査区1号から、堀穴1号37軒(古墳時代後期2棟、奈良・平安時代35軒)、堀穴1号1棟(古墳時代1棟、中世6棟)、中世の堀1号・方形堀1遺跡1棟が確認。
136		後期・奈良・平安	宮前遺跡	郡山川田市上川井	集落	この地域の拠点集落か。
137		後期・奈良・平安	森後遺跡	郡山川田市西田	集落	
140		後期・奈良・平安	早の宮1遺跡(内山遺跡)	さくら赤松枝	集落	
141		後期・奈良・平安	二百目遺跡	郡山川田市藤田	集落	堀田内山遺跡。堀穴1号10軒、堀穴1建物4棟、溝1基。
143		古墳・奈良・平安時代	小瀬内1・B遺跡	さくら赤松枝	集落	平成15年度発掘調査報告書調査で奈良・平安時代の堀穴1号2遺跡と併せ1遺跡調査(古墳・奈良時代の堀穴1号13軒・遺跡24号・土坑268基)、平成21年度発掘調査調査。
160		奈良・平安時代	郡山宮前遺跡	郡山川田梅首	宮前	郡山駅前、東西600m・南北200mの範囲内に、溝で区画された4つのブロックを形成(西・中央・東・南東)。西ブロックは「正倉院」、梅ブロックは「曹司」、南東ブロックは「藤原宮」と考えられる。西ブロックと中央ブロックの間は東山遺跡が通る。
161		奈良・平安時代	長者ヶ平遺跡	郡山川田市郡野山	宮前	範囲は南北220m、東西350m以上。5ブロックを形成(中央・西・東・南東・北)。中央ブロックは大規模な建物(宮前・藤原)が「この」の南東に配置(仮定)。西ブロックは木柱式土間建物と土間建物を中心とし、東西方向に並列(仮定)。東ブロックにも倉庫が建てられる。南東ブロックには堀穴1号何れや小型堀立建築物が建てられていた。北ブロックには特殊な種類の建築物が建てられていた。大まか3期相(1・2・3期)に発達。新田源家と芳賀源純正倉院の複合宮前か。
162		奈良・平安時代・飛鳥(守屋&梅原か)	淨法寺発着跡	郡山川田浄法寺	寺院	浄法寺遺跡のようにより建てられている可能性が高い。
163		奈良・平安時代	二輪神社	郡山川田二輪	神社	延長寺内社。
164		奈良・平安時代	上原遺跡	郡山川田小川	集落	段石や寺院などで作成された備前石の専業主と考えられる播磨文化出土。段石遺1号か。
165		古墳・奈良・平安時代	上の内遺跡	郡山川田小川	集落	大塚工所1棟。赤色顔料を用いた工房か。
166		奈良・平安時代	鶴形川墳場遺跡	郡山川田小川	集落	昭和33年度の調査において墓内陪の東山遺跡と確認。平成15・16年度調査。東山遺跡。
167		奈良・平安時代	狭久保遺跡	郡山川田市郡野山	古代道路	昭和33年度の調査において墓内陪の東山遺跡と確認。平成15・16年度調査。東山遺跡。
168		奈良・平安時代	駒吉保遺跡	郡山川田市小川井	古代道路	平成16・17年度調査。東山遺跡。
169		奈良・平安時代	清水堀遺跡	郡山川田市小川井	古代道路	平成18年度調査。東山遺跡。
170		奈良・平安時代	新道平遺跡	郡山川田市上川井	古代道路	平成18・20年度調査。東山遺跡。
171		古墳期前・近世	森後遺跡	喜連川大字森子畑	集落・宮前遺跡	本報告(経路体育成基盤整備事業)郡山川田南部1期C部分。由緒不明川田山山山遺跡と同一遺跡か。
172		奈良・中世	タツ岩遺	郡山川田市郡野山	古代道路	平成15・16年度調査。芳賀源純と長尾源家を結ぶ連絡道(七路)か。
173		平安時代	神神原遺跡	郡山川田市西田	筑前屋敷跡か	平成元年調査。4基の宮跡。
174		奈良・平安時代	大多崎遺跡	喜連川大字森子畑	製鉄関連遺跡か	
175		奈良・平安時代	藤中遺跡	さくら赤松枝	製鉄関連遺跡か	
176		奈良・平安時代	大沼遺跡(田町1遺跡)	さくら赤松枝	集落	8世紀から9世紀の大規模集落か。五層の堀の上から広帯の石も存在。堀。
177		奈良・平安時代	行人塚1遺跡	喜連川大字喜連川	集落	奈良平安時代の拠点的な集落か。
178		奈良・平安時代	野原1遺跡	喜連川大字葛城	集落	東山遺跡に関連した集落か。
179		奈良・平安時代	外山1遺跡	喜連川大字葛城	集落	堀田に小堀遺跡跡が加わり、東山遺跡跡に増した集落か。
180		平安時代	切上遺跡	さくら赤松枝	集落	平成14年度発掘調査報告書調査で奈良・平安時代の堀穴1号11棟1軒確認。平成20年度調査。平安時代の堀穴1号1棟。取柄の集落か。
181		奈良・平安時代・中世	古沢遺跡	郡山川田市志高	集落	平成15年度調査。平安時代の堀穴1号10軒。中世以降の堀穴1遺跡2基・土坑1基・井ノ5基・溝5基。
182		平安時代	河田遺跡	郡山川田市志高	集落	
183		古墳・奈良・平安・中世	長尾丸遺跡	喜連川大字森子畑	城跡か	鏡子型鉄器群出土の城跡跡か。
184		奈良・平安時代	代文遺跡	氏家町賀田田字代文	集落跡	
184		奈良・平安時代	竹嶋1遺跡	氏家町終末田字竹嶋	集落跡	
185		平安時代	竹嶋2遺跡	氏家町終末田字竹嶋	集落跡	
186		奈良・平安時代	鶴山遺跡	氏家町賀田田字高沢	集落跡	
187			東山遺跡	氏家町鶴山・沢	古道	

## 【中世】

山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡が所在する鹿子畑・金枝地区は、那須氏の支配地域であり、鹿子畑館跡(188)、古屋敷遺跡(182)、金枝城跡(189)が築かれ、江川以西を領有した宇都宮氏一族の塩谷氏と対峙していた。荒川両岸には、塩谷氏の城館として、喜連川城跡(190)、喜連川館跡(191)、中畑Ⅰ遺跡(192)、葛城城跡(193)、葛城竜貝城跡(194)などが築城された。また、那須烏山市の荒川や那珂川町の那珂川・権津川流域の崖線には、那須氏一族の居城として多くの城館が築かれた(194～210)。また、江川流域の山の神Ⅱ遺跡(133)、上金枝Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡(125)、黒尾原A遺跡(131)、岩川流域の古沢遺跡(180)、権津川流域の三輪仲町遺跡(129)からは、中世以降の溝や墓穴・竪穴遺構などが確認されている。



第7図 周辺の遺跡 中世



第4表 周辺の遺跡一覧表 中世

№	時代	時期	遺跡名	所在地	種別	備考
125	中世	古墳時代前期～中世・近世	上倉林1・B・Ⅲ遺跡	さくら市倉林	集落	平成18・21年度調査。平成18年度1遺跡（中倉氏の溝8条・井ノ7本・土丘多数）、Ⅲ遺跡（古墳時代前期の穴六石1棟、平安時代の穴六石2棟、中倉氏の溝1条・井ノ3本・土丘）、Ⅳ遺跡（古墳時代前期の穴六石11軒、中倉氏の溝3条・井ノ3本・土丘）。
129		旧石器～中世	三輪仲町遺跡	那珂川町三輪	集落	数度に渡る調査が実施。古墳から奈良・平安時代の層が130軒以上確認。大規模集落が確認。古墳時代前期の方墳8基。また奈良時代の層六石の1号之次の遺跡が先行（遺跡跡）。
131		中世～中世	旭見取山遺跡	那須塩山市上川岸	集落	平成6年調査。古墳時代後期の層六石12軒・中世の溝1条。奈良・平安の溝4条。中世の土壇2基・溝1条。
133		古墳時代後期～中世	山の神山遺跡	さくら市倉林	集落	平成19・20年度調査。平成19年度調査区区内から、層六石1953軒（古墳時代後期2軒、奈良・平安朝時代5軒）、墓の柱礎跡7棟（奈良・平安時代1棟、中世6棟）、中世の堀跡1条、方形埴田遺跡1基を確認。
171		古墳前期～近世	森山遺跡	喜連川町大字森子畑	集落・宮内御所跡	本報告（東洋体育成草堂跡事業）川南郡1地区部分。南側の郡宮山山頂古墳遺跡と同一遺跡か。
172		奈良～中世	タツ街道	那須塩山市南野山	古代道路	平成15・16年度調査。方賀御所と堀原御所を結ぶ連絡道（土道）か。
180		奈良～平安時代～中世	古沢遺跡	那須塩山市志島	集落	平成25年度調査。平安時代の層六石192軒。中世以降の層六石遺跡2基・土壇3基・井ノらも。調査中。
188		中世	藤子畑遺跡（前坪遺跡）	さくら市藤子畑	城跡	土壇遺子畑（築城）。天正11（1542）年廃す。
182		古墳～奈良・平安・中世	古塚敷遺跡	喜連川町大字藤子畑	城跡か	藤子畑跡跡私伝の城跡跡か。
189		中世	金枝城跡（資濟寺周辺遺跡）	さくら市倉林	城跡	親部の山城。正平年間（1346～1350）。那須政棟内膳藤原城跡。
190		中世	喜連川城跡（倉ヶ輪城跡、飯沼氏城跡）	さくら市喜連川	城跡	連部式山城。文治2（1186）年。塩谷重弘築城か。天享8（1590）年焼城。喜連川備前氏17代城跡。
191		中世	喜連川城跡（足利氏城跡）	さくら市喜連川	城跡	吉世には足利氏城跡跡。
192		中世末	中野1遺跡	喜連川町大字新堀	城跡か	
193		中世	葛城城跡（泉ノ宮遺跡）	さくら市赤松	城跡	山城。長祿元（1457）年。備前安房守重隆築城か。大永4（1524）年焼城か。
194		中世	葛城山日輪城跡	喜連川町大字葛城	城跡	山城。
195		中世	上川城跡（小堀館跡）	那須塩山市上川岸	城跡	平野の平城。那須友家築城か。大永元（1521）年焼城。
196		中世	堀之内館跡	那須塩山市上川岸	城跡	平野の村館。
197		中世	下川城跡	那須塩山市下川岸	城跡	連部式山城。那須友家築城か。川并氏築城の城。天正18（1590）年焼城。山城。
198		中世	小志島城跡	那須塩山市志島	城跡	山城。
199		中世	旗山城跡（熊山館跡）	那須塩山市旗山	城跡	吉正年間（1222-1223）に那須光俊築城。天正18（1590）年焼城。
200		中世	戸田城跡	那須塩山市三浦	城跡	平野の山城。
201		中世	堀古館跡	那須塩山市三浦	城跡	親部の山城。
202		中世	人江野城跡	那須塩山市三浦	城跡	連部式山城。永祿6（1563）年秋久山奉養築城。天正14（1586）年焼城。
203		中世	淨法寺館跡	那珂川町浄法寺	城跡	昭和59年～60年度調査。中世以後の遺跡は、井ノ2本、方形層六石、土壇25基、溝1条、内堀、外堀。那須氏支家浄法寺守護城。文禄・慶長（1592～1615）年間に廃止。
204		中世	箱田城跡	那珂川町芳井	城跡	山城。
205		中世	三輪城跡（三輪館跡）	那珂川町三輪	城跡	坪平氏築城か。昭和7年調査。中世以降の遺跡は、中世の方形層六石4基、層六石建物7棟、井ノ11本。
206		中世	後城館跡	那珂川町三輪	城跡	方形平野の平野。
207		中世	戸田城跡	那珂川町東戸田	城跡	連部式山城。
208		中世	那須新田城跡	那珂川町三輪	城跡	国指定史跡。昭和42年調査。平野式長方形プランの平野。12世紀半ば那須直貞築城か。那須氏親戚家代（3本拠地）。
209		中世	六平城跡	那珂川町六平	城跡	連部式山城。
210		中世	久久城跡	那珂川町久久	城跡	山城。
211		中世	箕原田城跡	さくら市箕原田	城跡	
212		中世	藤ノ口遺跡	さくら市箕原田	集落跡	
213		中世	田内藤寺遺跡	さくら市氏家	寺院跡	

## 参考文献

宇都宮市教育委員会 2005 『栃木の城シリーズ① 宇都宮氏一族の城』とびやま歴史体験館第1回企画展

小川町教育委員会 1985 『小川町遺跡分布調査報告書』

小川町教育委員会 1991 『増補改訂 小川町の遺跡』

小川町教育委員会 1997 『栃木県小川町 三輪仲町遺跡』小川町埋蔵文化財調査報告第11冊

小川町教育委員会 1999 『那須吉田新宿古墳群』小川町埋蔵文化財調査報告第12冊

喜連川町史編さん委員会 2003 『喜連川町史 第1巻 資料編1 考古』喜連川町

喜連川町教育委員会 1990 『栃木県喜連川町 田町Ⅱ北遺跡』

(財)とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センター 2007 『埋蔵文化財センター年報』第17号（平成19年度版）

(財)とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センター 2008 『埋蔵文化財センター年報』第18号（平成20年度版）

(財)栃木県文化振興事業団 1983 『栃木県の中世城館跡』

栃木県教育委員会 1997 『栃木県埋蔵文化財地図』

栃木県教育委員会 2004 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 26 平成14年度（2002）』栃木県埋蔵文化財調査報告第278集

- 栃木県教育委員会 2005『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 27 平成15年度 (2003)』栃木県埋蔵文化財調査報告第285集
- 栃木県教育委員会 2006『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 28 平成16年度 (2004)』栃木県埋蔵文化財調査報告第298集
- 栃木県教育委員会 2007『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 29 平成17年度 (2005)』栃木県埋蔵文化財調査報告第306集
- 栃木県教育委員会 2008『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 30 平成18年度 (2006)』栃木県埋蔵文化財調査報告第315集
- 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 1994『三輪仲町遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第143集
- 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 1994『三百目遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第146集
- 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 2000『那須官衙関連遺跡発掘調査報告Ⅱ』 栃木県埋蔵文化財調査報告第235集
- 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2001『那須官衙関連遺跡Ⅶ』 栃木県埋蔵文化財調査報告第249集
- 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2007『長者ヶ平遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第300集
- 栃木県教育委員会・栃木県立なす風土記の丘資料館 2005『平成17年企画展 那須与一とその時代』 栃木県立なす風土記の丘資料館展示図録第14冊
- 栃木県教育委員会・栃木県立なす風土記の丘資料館 2006『平成18年企画展 東山道 あずまのやまのみち』 栃木県立なす風土記の丘資料館展示図録第15冊
- 栃木県那須烏山市教育委員会 2007『東山道駅路発掘調査報告書』 那須烏山市埋蔵文化財報告第1集
- 南那須町教育委員会 1987『大和久古墳群』
- 南那須町教育委員会 1991『南那須町の遺跡』 南那須町文化財調査報告第6集
- 南那須町教育委員会 1992『古沢遺跡』 南那須町文化財調査報告第8集
- 南那須町教育委員会 1992『銭神窯跡群』 南那須町文化財調査報告第9集
- 南那須町教育委員会 1994『古沢遺跡 (2)』 南那須町文化財調査報告第11集
- 南那須町教育委員会 2000『黒尾原A遺跡』 南那須町文化財調査報告第15集
- 南那須町史編さん委員会 1993『南那須町史史料編』 南那須町
- 南那須町史編さん委員会 2000『南那須町史通史編』 南那須町
- 橋本澄朗 1989『荒川・内川流域における古墳出現期の問題-矢板市堂山遺跡出土土器の理解を中心として-』『栃木県立博物館研究紀要第6号』 栃木県立博物館
- 吉田東伍 1903『大日本地名辞典第六巻坂東』 富山房

## 第三章 山の神Ⅱ遺跡の調査

### 第一節 調査区の概要

山の神Ⅱ遺跡の発掘調査は第一章で述べた通り圃場整備事業に伴うものであり、調査前の状況は水田である。江川により形成された谷底平野には2～3の低い段丘面が存在し、山の神Ⅱ遺跡は最も低い段丘面上に位置する。調査対象外である道路及び農道によって区切られた調査区を便宜的に北からⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳ区・Ⅴ区に分け調査を行った。調査面積は33,500㎡である。田面から遺構検出面までの深さは0.1m～0.5mで、検出面の標高は、調査区中央でⅠ区：159.6m、Ⅱ区：159.2m、Ⅲ区：158.6m、Ⅳ区：158.4m、Ⅴ区：158.1mである。付近の江川の河床標高は155.6mであり、比高差は2.5～4.0mである。

遺跡に於ける基本層所は、①黒褐色土層（表土・耕作土）、②黒褐色粘質土層（旧耕作土）、③黒色土層、④七木桜バミス層、⑤ローム層となっている。Ⅱ区におけるこれらの層の厚さは①約0.25m、②約0.20m、③約0.15mで、④層は⑤層上面に僅かに見られる程度である。③層を除いた④層および⑤層上面が遺構検出面で、多くの遺構で③層類似の黒色土が遺構埋土となっている。また場所によっては整地土層が①層下に見られた。

調査の結果、竪穴建物跡55軒、掘立柱建物跡38棟、柵列11列、井戸跡4基、縄文時代の陥穴5基、方形竪穴10基、近世墓18基、溝33条とその他多数の土坑を検出した。遺構総数は2820基である。

Ⅰ区では、竪穴建物跡27軒、掘立柱建物跡14棟、柵列4列、井戸跡2基、近世墓2基、溝6条、その他多数の土坑を検出した。

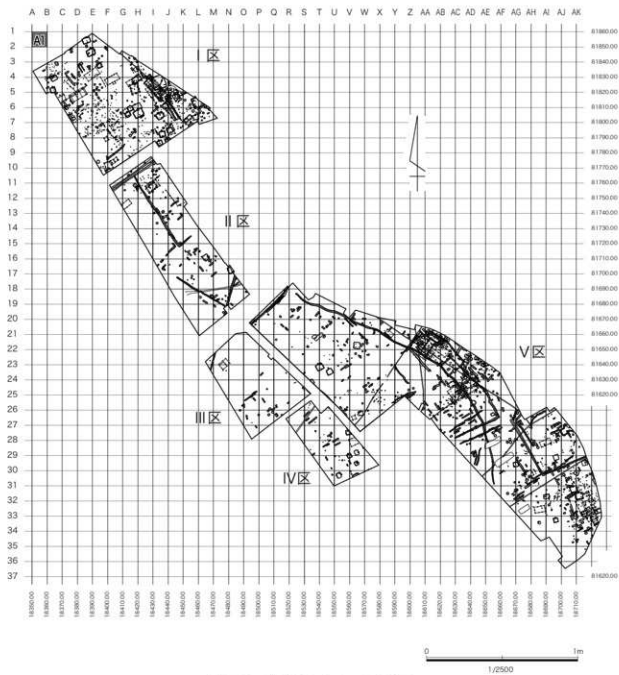
Ⅱ区では、竪穴建物跡3軒、掘立柱建物跡3棟、柵列3列、井戸跡1基、方形竪穴2基、近世墓7基、溝4条とその他多数の土坑を検出した。

Ⅲ区では、掘立柱建物跡1棟、柵列1列、溝1条とその他多数の土坑を検出した。

Ⅳ区では、竪穴建物跡6軒、掘立柱建物跡1棟、縄文時代の陥穴2基、近世墓1基とその他多数の土坑を検出した。

Ⅴ区では、竪穴建物跡19軒、掘立柱建物跡19棟、柵列3列、井戸跡1基、縄文時代の陥穴3基、方形竪穴8基、近世墓8基、溝22条とその他多数の土坑を検出した。

時代別にみると、縄文時代に属する遺構は、陥穴5基、その他土坑2基の計7基である。古墳時代・古代に属する遺構は、古墳時代の竪穴建物跡4軒、古代の竪穴建物跡51軒、古代の掘立柱建物跡6棟、古代の土坑10基、古代の溝2条、その他多数の土坑である。中近世に属する遺構は、掘立柱建物跡32棟、柵列11列、井戸跡4基、方形竪穴10基、近世墓18基、溝31条とその他多数の土坑である。遺構数からは古代の竪穴建物が中心の集落遺跡ということが出来る。中世の掘立柱建物跡も多く検出されているが、時期の特定が難しく、若干の出土物からは13世紀代から16世紀後半まで断続的に利用されてきたことが伺われる。また掘立柱建物跡のうち多くが、梁行が長大で一間しかない「梁間一間型建物」である。近世はⅠ区で掘立柱建物が検出されているが、他の全ての調査区で生活に直接結びつく遺構は見られず、墓坑と思われる方形・円形の土坑が見られる。このことから近世には集落の縁辺部となったと考えられる。



第8図 調査区とグリッド配置図



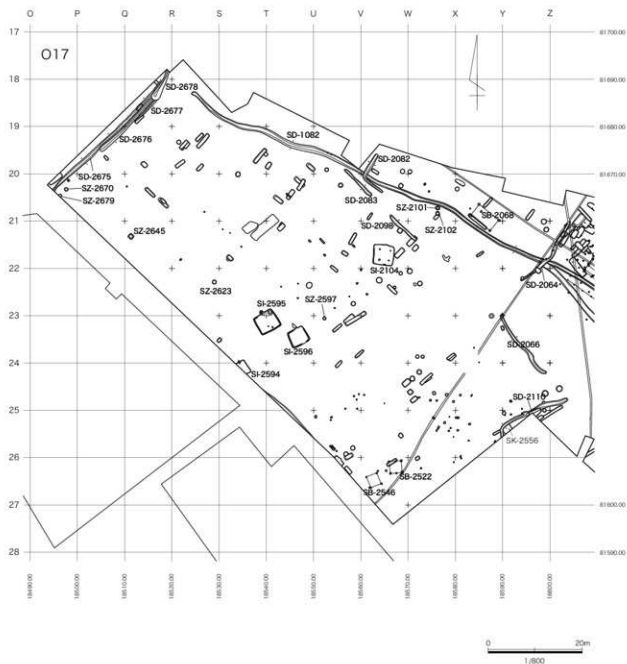
第9図 山の神Ⅱ遺跡Ⅰ区全体図



第10図 山の神Ⅱ遺跡Ⅱ区全体図



第11図 山の神Ⅱ遺跡Ⅲ・Ⅳ区全体図



第12図 山の神Ⅱ遺跡V区全体図(1)





第13図 山の神Ⅱ遺跡V区全体図(2)

## 第二節 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は陥穴5基、その他土坑2基の計7基の土坑を検出した。SK-1182から前期の鉢とコップ型土器が出土しており、当該期の竪穴建物跡などは検出されていないがこれらの遺構も縄文時代前期に属するものと判断される。

なお第四章で述べる欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡では、黒浜式土器・諸磯式土器を出土する縄文時代前期の竪穴建物跡が多数確認されている。縄文時代の山の神Ⅱ遺跡は集落の縁辺部にあたるものと考えられる。

### 第一項 土 坑 (第15～17図、第5・6表、図版一・二)

#### SK-1182

V区南端に位置する。周囲に同時期の遺構はなく、単独で存在する極小規模な土坑である。ほぼ床着状態で2点の黒浜式土器が出土している。1はやや小型の鉢型土器で、口縁部から頸部にかけて櫛歯状工具により条線文を施す。2はコップ型土器で、無文の胴部に粗い条線文を斜めに施すほか、口縁部にも一条施す。

#### SK-2696

Ⅳ区で検出されたが、陥穴の列より北へ外れた位置で検出された。形状も円形で陥穴とは異質であるが、埋土が非常に硬くしまっていることから縄文時代の遺構と判断した。出土遺物はない。

#### SK-1888、SK-1894、SK-1932、SK-2737、SK-2762

陥穴である。いずれも平面形が不整な長方形で、短軸断面形は逆台形を呈する。床面中央にピットを持ち、埋土は硬く締まる。いずれの陥穴からも出土遺物はない。陥穴はⅣ区とⅤ区中央部に北東―南西方向に直線上に一定間隔で並んで検出されている。一般的に陥穴は水場へ集まる動物の捕獲を目的とし、水場への斜面上同一レベルに併設されるが、当遺跡と欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡の間に推定される埋没谷へと水を求めて集まる動物をねらったものと考えられる。

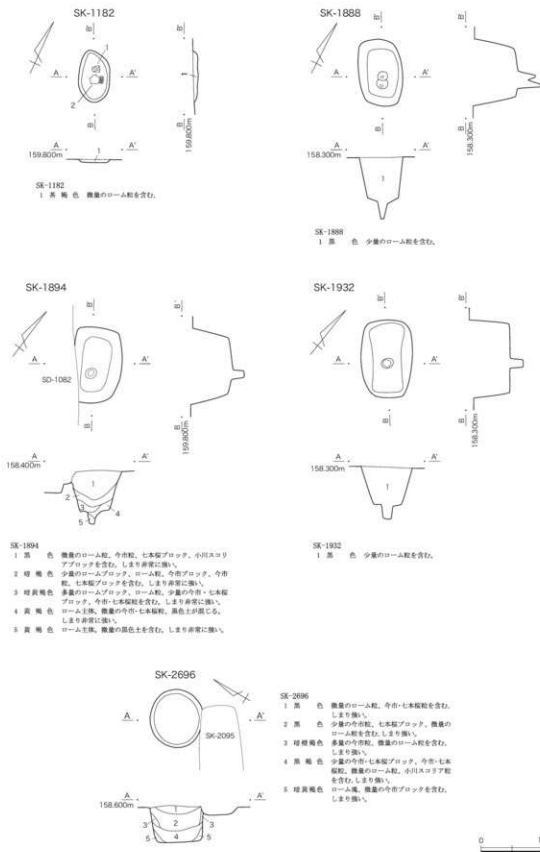
山の神Ⅱ遺跡で検出された縄文時代の遺構はこの7基のみで、縄文土器もほとんど出土していない。一方、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では竪穴建物跡を含め多くの遺構遺物が検出されている。この違いは欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡が江川との比高差4.8～6.0mであるのに対し、山の神Ⅱ遺跡における江川との比高差が2.5～4.0mと小さいことが要因として挙げられる。僅かな差だが、当地域に於ける時期ごとの遺跡立地様相を表していると考えられる。

### 第二項 遺構外出土の縄文遺物 (第18図、第7表、図版二)

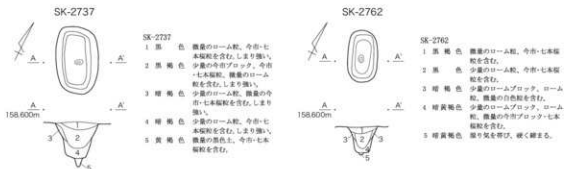
若干の遺構外出土遺物を図示する。1～3は前期、4・5は中期、6・7は後期の縄文土器である。8・9は石鏃、10・11は剥片だが10は両側縁部に使用痕が認められる。12は磨石、13は凹石、14は石皿、15～17は打製石斧である。



第14図 縄文時代の遺構位置図



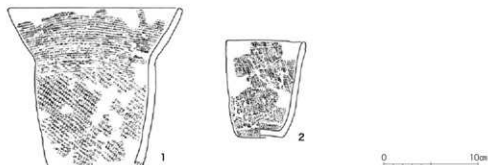
第15図 縄文時代の土坑実測図(1)



第16図 縄文時代の土坑実測図(2)

第5表 縄文時代の土坑一覧表

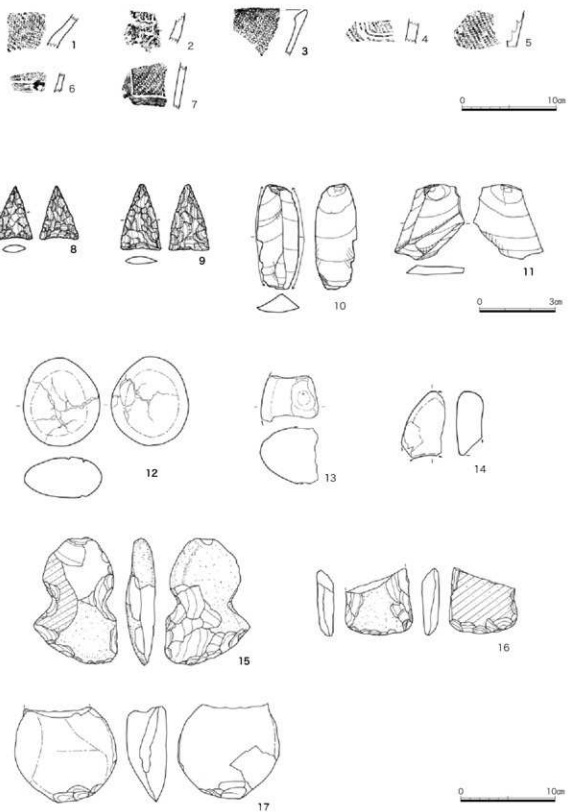
遺構番号	遺構種別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1182	小穴	0.83	0.48	0.05			V	AI32
SK-1888	陥穴	1.05	0.70	0.73			V	AD24
SK-1894	陥穴	1.20	(0.7)	0.65		-SD-1082	V	AC24
SK-1932	陥穴	1.22	0.80	0.60		-SK-2695	V	AB25
SK-2696	土坑	0.92	(0.80)	0.58			IV	T27
SK-2737	陥穴	1.05	0.66	0.57			IV	T30
SK-2762	陥穴	0.82	0.47	0.40	SI-2735の床下		IV	V29



第17図 縄文時代の土坑出土遺物実測図

第6表 縄文時代の土坑出土遺物観察表

実測図No	図版No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	一一一	縄文土器	鉢	18.0		(16.8)	7.5YR5/4 にぶい濁	10YR3/1 黒濁	白色細～粗粒	良	2/3	口縁部から頸部に掛けて 欄干状工具による条線文 (5本単位?) 体部外面 縄文	前期
2	一一一	縄文土器	コップ形土器	8.2	4.8	10.4	10YR5/3 にぶい黄濁	10YR3/2 黒濁	白色細粒 雲母	良	口縁から 体上半 1/2欠損	口縁部外面横方向に比喩 体部外面横方向に子で後 斜め方向に条線文 底部 外面子で	前期



第18図 縄文時代の遺構外出土遺物実測図

第7表 縄文時代の遺構外出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二二	縄文 土器				(3.5)	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	白色黄～粗粒 雲母	良	破片		前期中葉 SK-124
2	二二	縄文 土器				(3.3)	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR1.7/1 黒	白色細粒 赤色 細粒	良	破片		前期末 SK-2684
3	二二	縄文 土器				(4.9)	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	白色黄～粗粒 黒色細粒 雲母	良好	破片		前期末 SD-1082
4	二二	縄文 土器				(2.4)	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	白色細粒 青灰 色細粒 雲母	良	破片		中期 SK-1677
5	二二	縄文 土器				(4.0)	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	白色粗粒 雲母	良	破片		中期 SI-83
6	二二	縄文 土器				(2.1)	5Y5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/6 橙	白色黄～粗粒 赤色粗粒 雲母	良	破片		後期 堀の内 式 SD-1082
7	二二	縄文 土器				(5.0)	10YR6/4 にぶい黄褐	2.5Y7/3 浅黄	白色粗粒 赤色 細粒 雲母	良	破片		後期 堀の内 式 SD-1082
8	二二	石器	石匙	長さ 4.2	幅 3.1	厚さ 0.6							SK-1806 チヤート
9	二二	石器	石匙	長さ 5.2	幅 3.2	厚さ 0.6							SK-114 黒曜石
10	二二	石器	剥片	長さ 8.3	幅 3.3	厚さ 0.9							両側面に使用痕 SK-80 チヤート
11	二二	石器	剥片	長さ 6.0	幅 5.5	厚さ 0.8							SK-80 安山岩
12	二二	石器	磨石	長さ 9.5	幅 8.2	厚さ 4.3							399.3g 直紋 岩製 全体に 研磨痕 SI-1496 安山岩
13	二二	石器	凹石	長さ (5.0)	幅 (6.0)	厚さ 5.9							204.5g 甲き 石 SI-1498 安山岩
14	二二	石器	石皿	長さ (4.7)	幅 6.7	厚さ 2.8		10YR5/3 にぶい黄褐					安山岩 105.1g 図下 面は欠損後使 用しており丸 みを付つ SA-258
15	二二	石器	打製 石弁	長さ 13.4	幅 8.9	厚さ 3.0							37.05g SK-61 安山 岩
16	二二	石器	打製 石弁	長さ (7.1)	幅 6.8	厚さ 1.8							100.2g SK- 1083 チヤート
17	二二	石器	打製 石弁	長さ (9.1)	幅 10.8	厚さ 4.4							590.0g SK- 1377 チヤート

### 第三節 古墳時代・古代の遺構

古墳時代および古代の遺構は、古墳時代の竪穴建物跡4軒、古代の竪穴建物跡51軒、古代の掘立柱建物跡6棟、古代の土坑10基、古代の溝2条、その他多数の土坑を検出した。

古墳時代の竪穴建物跡はⅠ区谷側に4軒が検出され、山の神Ⅱ遺跡における古墳時代の遺構はこの4軒のみである。同時期の竪穴建物は、本報告書後半で述べる欠ノ上Ⅰ・欠ノ上Ⅱ遺跡とその南に位置する小鍋内Ⅰ・小鍋内Ⅱ遺跡でも数件確認されており、集落規模は定かではないが、江川流域に古墳時代の建物跡が散在していることが発掘調査で確認された。同時期の集落は喜連川丘陵では希薄であり、空白地帯を埋める資料となる。

古代の遺構はすべての調査区で検出されている。特にⅠ区、Ⅳ区～Ⅴ区の北部、Ⅴ区の南部に竪穴建物跡が集中してみられる。このうちⅠ区の集中地点には掘立柱建物跡が見られ、また古墳時代の竪穴建物跡4軒も見られることから、古墳時代～古代に於いて継続して集落が営まれた地点であると言える。一方Ⅴ区南部の集中地点には、灰釉陶器を含む多量の土器が出土する土坑群が伴っており、Ⅰ区集中地点にはない、別の様相が垣間見られる。

#### 第一項 竪穴建物跡

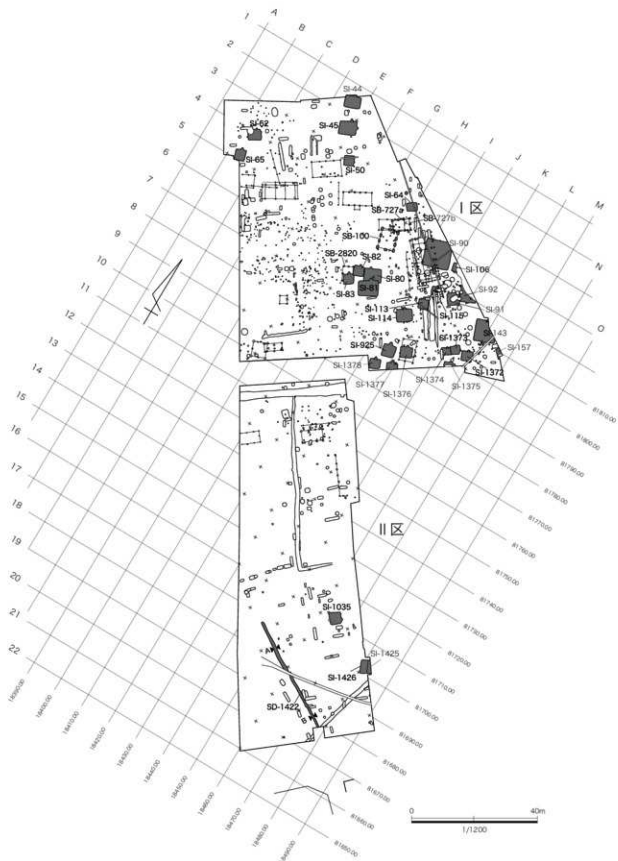
竪穴建物跡は、古墳時代に属するものが4軒（SI-90、92、143、1375）、古代に属するものが51軒の、計55を検出した。古墳時代に属する建物跡は、いずれもⅠ区に確認されている。建物規模は、3～4mの小規模なものが多い。カマドは北カマドが多く、一部東カマドである。全調査区を通じて遺存状態は悪く、検出面からの深さは0.10～0.20m程度である。遺物の遺存状態も悪く、出土遺物は全般に少ない。建物規模等に関しては本項末に「竪穴建物跡一覧」を掲載しているので参照されたい。

#### SI-44（第21・22図、第8表、図版二）

Ⅰ区、グリットDⅠに位置する。調査した竪穴建物跡の中で最も北に位置する。3.84×5.06mのやや偏平な方を呈する。カマドは北壁東寄りに設置し、袖は残存していなかったが、奥壁に近いところで支脚が据えたままの位置で検出された。カマド埋土は多量の焼土と微量の炭化物を含む。貼床は全面に施し、比較的しっかりとした床面を形成している。入口部分から西半に掛けて強く硬化が見られた。柱穴は建物中心に1本と出入り口ピットを検出したが、中央のピットは浅く主柱穴とは考えにくい。周溝は全周で確認した。確認面からの深さは0.2mである。埋土は壁際から堆積し、レンズ状の堆積状況が確認されるため、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、1が土師器環で、ロクロ成形、内面をヘラミガキし黒色処理する。口径13.1cm、底径6.8cm、器高3.9cmで、体部は直線的に伸び口縁が僅かに外反する。9世紀中葉に比定しうる。2は須恵器裏の胴部片で外面平行タタキ、内面は当て具による青海波文が見られる。3は砂岩を不整六角柱状に加工した支脚で、カマド内奥壁に近いところから立った状態で出土した。被熱による赤化はない。図は出土時と同じ正位で図化している。建物跡の年代は土師器環から9世紀中葉と考えられる。

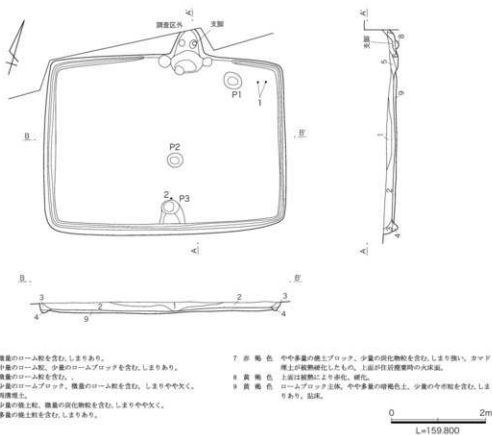




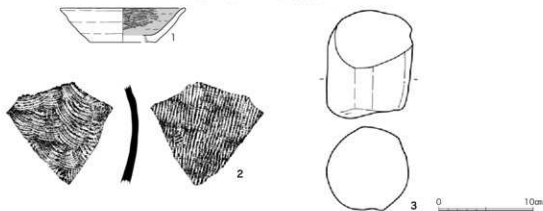
第19図 古墳時代・古代の遺構位置図(1)



第20図 古墳時代・古代の遺構位置図(2)



第21図 SI-44実測図



第22図 SI-44出土遺物実測図

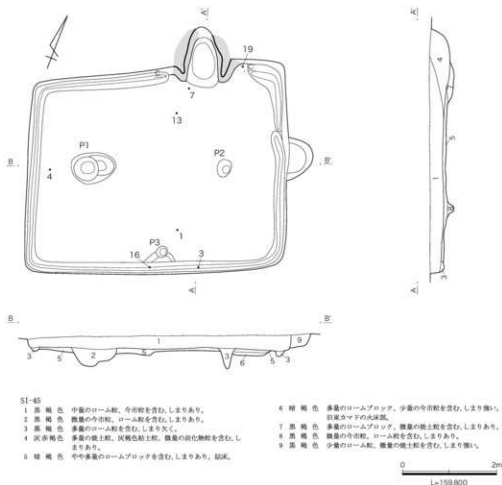
第8表 SI-44出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	杯	13.1	6.8	3.9	10R 7/4 に赤い黄緑	10R 1.7/1 黒	白色粒	良	1/3	口縁から底部内面へハミ ガキ	内面黒色処理
2		須恵 器	甗			(10.8)	N4 灰	N3 暗灰	白色粒	良好	破片	胴部外面平行叩き 内面背割文	胴部 内面背割文
3		支脚		長さ (10.4)	幅 9.0	厚さ 8.9	5Y 8/1 灰白		黒色粗粒 雲母 小石	良	破片	不整六角形に加工	69号製 504 4g 出土 時の正位で因 化 被熱。赤 化なし

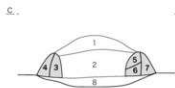
SI-45（第23～25図、第9表、図版二・二二・三〇）

I区、グリッドD2に位置する。4.4×5.48mのやや偏平な方形を呈する。カマドは北壁東寄りに設置し、両袖とも遺存していた。袖は灰褐色粘土で構築され、左右奥壁まで同様の材により構築している。比熱によりよく赤化し、硬化している。床は全面に貼床を施し、柱穴は主柱穴2本と出入り口ピットを検出した。周溝は全周で確認した。確認面からの深さは0.28mである。また、東壁中央に突出部が見られる。埋土の状態から建物廃棄時には機能していない旧カマドと考えられる。

出土遺物は、1～10が土師器杯、11～14が須恵器杯、15～19が土師器甕である。内面黒色処理した土師器杯が多く出土し、内5点に墨書が見られる。墨書はいずれも〈双葉〉のような記号「𠃉」で体部に描かれている。この「𠃉」墨書はSI-45のほかSI-1373で一点出土し、また近隣の遺跡においても出土例のないものである。1は口径14.2cmで体部から口縁まで直線的に伸びる。底部は回転糸切りである。2はやや器高が高く体部から口縁は直線的である。3は口径13.8cmとやや大きく、体部から口縁は直線的に伸びる。4は口径12.0cmであるが器高が高く、口縁が外反する。9世紀中葉のものと考えられる。須恵器杯は11の口径が15.2cmと大きく、体部から口縁が直線的に伸びて9世紀前葉の特徴を残すが、13・14は体部下端をヘラケズリして新しい時期の特徴を示す。建物跡の年代は土師器杯から9世紀中葉と考えられる。



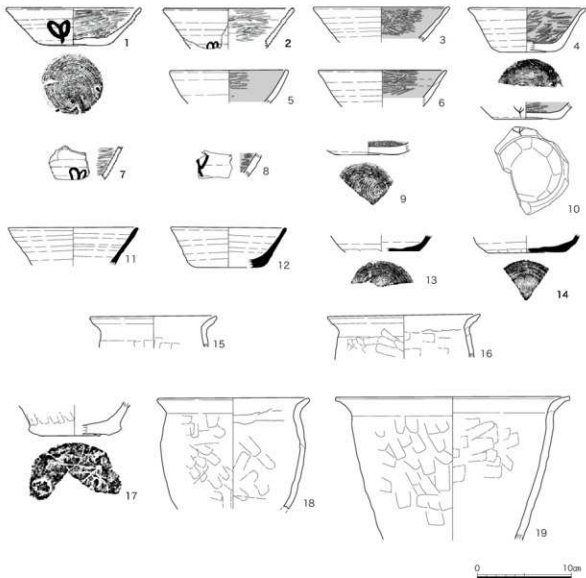
第23図 SI-45実測図（1）



- SI-45 北カマド
- 1 赤 輪 色 中量のローム状、中量鉄を含む、しまりあり。
  - 2 赤 輪 色 少量の焼土粒、同量の粘土粒、微量の炭化物粒を含む、しまりあり。
  - 3 赤 輪 色 鉄屑・赤化層。
  - 4 赤 輪 色 炭化物粒、少量の焼土粒を含む、しまり強い。
  - 5 赤 輪 色 鉄屑・赤化層。
  - 6 赤 輪 色 鉄屑・赤化層、5層より鉄屑密度は高い。
  - 7 赤 輪 色 炭化物粒、少量の焼土粒を含む、しまり強い。
  - 8 赤 輪 色 多量のロームブロック、微量の焼土粒を含む、しまりあり。



第24図 SI-45実測図(2)



第25図 SI-45出土遺物実測図

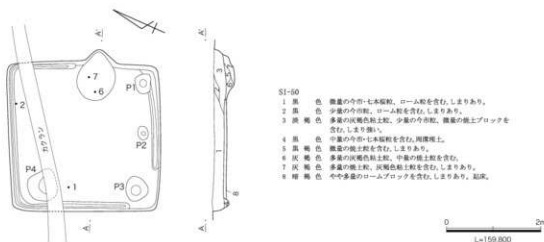
第9表 SI-45出土遺物観察表

表測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考
				口徑	底徑	高さ	外	内					
1	一一	土師器	坏	14.2	6.4	4.0	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄緑	白色粒 ガラス 質粒 赤色粒	良	口縁部 1/8欠損	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
2	三〇	土師器	坏	13.6		4.3	7.5Y5/4 にぶい黄	N1.5 黒	白色微粒 黒雲 母	良	口縁から 体部1/8	内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
3		土師器	坏	13.8		3.8	5YR4/8 赤褐	5YR2/1 黒褐	雲母微細破片 白色粒 砂粒	良	口縁から 体部1/8	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
4		土師器	坏	12.0	5.6	4.7	7.5YR5/8 明褐	7.5YR2/1 黒	微砂粒 ガラス 質粒	良	口縁から 底部1/2	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
5		土師器	坏	12.1		(3.5)	5YR5/6 明赤褐	5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	口縁部 1/8	口縁部外面ロクロナデ 口縁から体部内面ミガキ	内面黒色処理
6		土師器	坏	13.4		(3.9)	10YR7/4 にぶい黄緑	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	口縁部 1/8	口縁から体部内面ロクロナデ 口縁から体部内面ロクロナデ後ヘラミガキ	内面黒色処理
7	三〇	土師器	坏			(3.6)	10YR5/4 にぶい黄緑	10YR2/1黒	白色砂粒 黒色 砂粒	良	破片	内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
8	三〇	土師器	坏			(2.5)	10YR8/4 浅黄橙 2.5YR7/3 淡赤橙	7.5YR2/1 黒	雲母微量 砂粒少量	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
9		土師器	坏		6.8	(1.4)	7.5YR7/4 にぶい黄	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	底部1/3	底部外面回転糸切り後 底部外面回転ヘラケズリ 底部内面ミガキ	内面黒色処理
10	三〇	土師器	坏		6.8	(1.8)	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	体から底 部	底部外面回転糸切り後 ヘラケズリ 内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
11		須恵器	坏	15.2		(4.0)	5Y5/1 灰 5Y7/2 灰白	5Y6/1 灰白 5Y7/1 灰白	白色粒	良	口縁から 体部1/8 周	口縁から体部内外面とも にロクロナデ	
12		須恵器	坏	12.0	6.8	4.3	5Y6/1 灰	5Y5/1 灰	砂粒含む	良	口縁から 体部1/8 底部一部	口縁から体部内外面とも にロクロナデ 底部外面 ヘラケズリ	
13		須恵器	坏		7.0	(2.0)	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/4 浅黄	白色粒	良	体から底 部1/2	底部外面回転糸切り後周 辺回転ヘラケリ	部分的に酸化
14		須恵器	坏		8.0	(1.8)	10YR7/8 黄橙 10YR6/1 褐灰	10YR8/4 浅黄橙 10YR6/1 褐灰	白色粒	良	底部1/4 周	底部外面回転糸切り後周 辺ヘラケズリ	酸化
15		土師器	甕	13.0		(3.2)	5YR5/6 明赤褐	7.5YR1/6 浅黄橙	砂粒 ガラス質粒 少量の雲母片	良	口縁部 1/8	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ヨコナデ	
16		土師器	甕	15.8		(4.6)	5YR5/8 明赤褐	5YR6/8 橙	砂粒・雲母含ガ ラス質粒	良	口縁部 1/5	口縁部外面ヨコナデ 製部外面ヘラナデ 口縁 部内面ヨコナデ 製部内 面ヘラナデ	
17		土師器	甕		7.2	(3.2)	10R5/6 赤 5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙	ガラス質粒 砂 粒	良	底部3/5	製部外面ヘラナデ 底部 木葉痕	
18		土師器	甕	15.8		(11.8)	7.5YR6/6 橙 7.5YR7/4 にぶい黄	7.5YR7/6 橙 10YR8/3 浅黄橙	砂粒・多量ガラ ス質粒多量 雲 母少量	良	口縁部 1/3	口縁部外面ヨコナデ 製部外面ヘラナデ 口縁 部内面ヨコナデ 製部内 面ヘラナデ	
19		土師器	甕	24.4		(15.2)	7.5YR7/6 橙 7.5YR4/4 褐	10YR7/6 明黄緑	砂粒多量 ガラ ス質粒 雲母片	良	口縁から 製部1/4	口縁部外面ヨコナデ 体部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 製部内 面ヘラナデ	

SI-50 (第26・27図、第10表、図版二・二二)

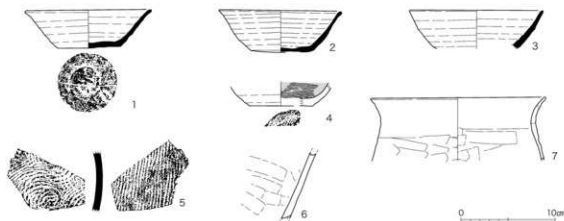
I区、グリットE3に位置する。3.2×3.2mの方形を呈する。カマドは東壁中央に設置するが、袖は残存していなかった。東カマドの建物は少なく、I区ではSI-50のみである。床は全面に貼床を施し、柱穴は主柱穴3本を各コーナー部に検出した。北東コーナー部の柱穴は攪乱により壊されている。またP2は、カマドの対面ではないが、出入り口ピットか。周溝はほぼ全周で確認した。確認面からの深さは0.2mである。

出土遺物は、1～3が須恵器環である。1の須恵器環は、体部が直線的に開口口縁で外反し、口径は12.9cmである。底部は回転ヘラ切りで、「一」のヘラ記号を施す。2は、若干内湾する体部で口縁は外反する。底部は回転ヘラ切りである。3の須恵器環もやや内湾する体部を持ち口縁は直線的に取める。4は底部回転系切りの土師器環で、内面黒色処理する。建物跡の年代は、須恵器環の口径が13cm前後～14cmである、口縁が外反するといった特徴から、9世紀中葉～後葉の範囲と考えられる。5は須恵器甕で、外面平行タタキ、内面に同心円状の当て具痕が見られる。6・7は土師器甕である。



- SI-50
- 1 黒色 数量の今形・七本筋紋、ローム粒を含む。しまりあり。
  - 2 黒色 少量の今形紋、ローム粒を含む。しまりあり。
  - 3 黒色 多量の沢褐色粘土粒。少量の今形紋。数量の焼土ブロックを含む。しまり強い。
  - 4 黒色 中量の今形・七本筋紋を含む。黒炭粒上。
  - 5 黒褐色 数量の焼土粒を含む。しまりあり。
  - 6 灰褐色 多量の沢褐色粘土粒。中量の焼土粒を含む。
  - 7 灰褐色 多量の焼土粒。沢褐色粘土粒を含む。しまりあり。
  - 8 緑褐色 やや多量のロームブロックを含む。しまりあり。粗末。

第26図 SI-50実測図



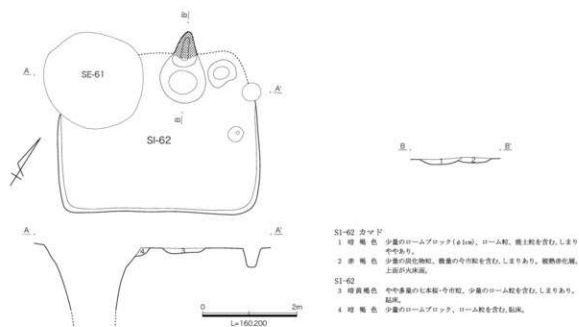
第27図 SI-50出土遺物実測図

第10表 SI-50出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残存率	調 整	備 考
				口徑	底徑	高さ	外	内					
1	一一一	須恵器	坏	12.9	7.0	4.0	N5 灰 7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	小礫微砂粒少量	良好	底部全周 口縁から 体部2/3 周	底部外面へラ切り	内面自然釉 底部外面へ ラ切号
2	一一二	須恵器	坏	12.7	6.7	4.5	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 黒色粒	良	口縁部 1/4欠損	底部外面へラ切り	
3	一一三	須恵器	坏	13.8		(4.1)	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/2 灰黄	白色粒	良	破片	口縁から体部内外面とも にクロロナデ	口縁外面以外 は酸化のため 赤色化
4	一一四	土師器	坏		6.7	(2.6)	5YR5/4 にぶい黄橙	5YR1.7/1 黒	白色粒 ガラス 質粒	良	体部から 底部	底部外面へラ切り 体 から底部内面へラミガキ	内面黒色処理
5	一一五	須恵器	甕			(6.2)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	微砂粒 黒色粒	良好	破片	胴部外面平行印き 胴部 内面青黒改文	
6	一一六	土師器	甕			(7.2)	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR6/6 橙	白色粒 石英 粒	良	胴部下位 破片	胴部外面横ナデ 胴部 内面へラナデ	
7	一一七	土師器	甕	18.2		(6.7)	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	雲母微片 微砂 粒	良好	口縁部 1/5 胴部一部	口縁部外面横ナデ 胴部 外面へラケズリ 口縁部 内面横ナデ 胴部内面へ ラナデ	

SI-62 (第28図、図版二)

I区、グリットB4に位置する。3.38×4.22mのやや偏平な方形を呈する。削平を受け掘り方のみ検出した。また重複する中世の井戸SE61に北西コーナー部を切られている。カマドは北壁東寄りに設置し、袖は残存せず、火床部のみ検出した。奥壁側がよく焼けて被熱赤化している。出土遺物は無し。



第28図 SI-62実測図



SI-64 (第29図)

I区、グリットG 3に位置する。3.4×2.6mの範囲で掘り方のみ検出した。中央部を攪乱と中近世の土坑によって壊されている。出土遺物は無し。

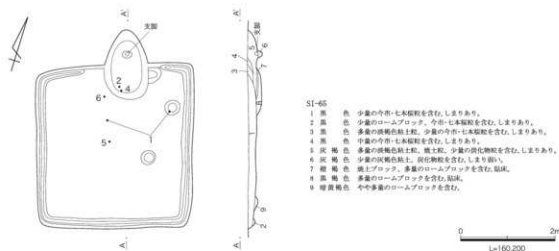


第29図 SI-64実測図

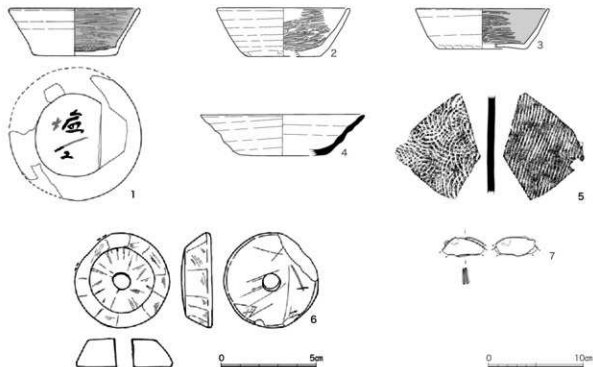
SI-65 (第30・31図、第11表、図版二・二二)

I区、グリットB 4に位置する。3.48×3.26mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し、袖は残存していなかったが、支脚が据えられた状態で遺存していた。貼床は施さず、柱穴も検出できなかった。周溝は全周で確認した。確認面からの深さは0.18mである。

出土遺物は、1～3が土師器環である。1は体部が一度括れてから大きく直線的に開く。内面はミガキが施され黒色処理される。底部は切り離した後丁寧にヘラケズリされ、「塩□」と墨書する。「塩屋」か。2は内湾気味だが直線的な体部を持ち、体部外面下端を手持ちヘラケズリする。内面はミガキが施される。底部は回転ヘラ切りされる。3も直線的な体部に、下端を手持ちヘラケズリを施す。底部は回転ヘラ切り後外周のみヘラケズリを施す。4は須恵器環で、器高が低く体部が大きく開く。口径は14.0cm。5は須恵器甕、6は石製の紡錘車で、擦痕が多数付き、またよく使い込まれている。7は刀子で、折れて癒着したものが。建物跡の年代は、土師器環の口径が14cm前後、体部下端にヘラケズリを施すといった特徴から、9世紀中葉～後葉と考えられる。



第30図 SI-65実測図



第31図 SI-65出土遺物実測図

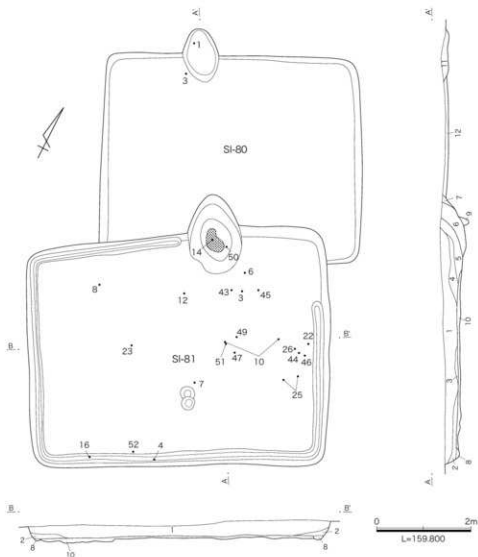
第11表 SI-65出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二	土師器	杯	13.7	8.9	5.1	10YR5/4 にぶい黄褐色	N1.5 黒	黒色微粒 白色 細粒 白針	良好	1/2	底部外面ヘラケズリ仕上げ 口縁から底部内面へラミガキ	内面黒色処理 外面底部に墨書「塩屋」か
2		土師器	杯	13.7	7.8	5.1	7.5YR4/6 褐色	7.5YR5/4 ～2/1 に ぶい褐色～黒	白色粒 ガラス 質粒 白色斜状 物質	良好	1/3	体部外面下位ヘラケズリ 底部外面回転ヘラ切り仕上げ 口縁から底部内面へラミガキ	
3		土師器	杯	13.8	8.9	4.3	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒	白色粒 ガラス 質粒	良	1/4	体部外面下位ヘラケズリ 底部外面ヘラ切り後外周ヘラケズリ 口縁から底部内面へラミガキ	内面黒色処理
4		須恵器	杯	14.0	7.4	4.4	N5/1 灰	N6/1 灰	砂粒・白色粒少量	良好	体部1/4	口縁から体部内外面ともにロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラケズリ	
5		須恵器	甕			(10.6)	7.5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	微砂粒 白色粒	良好	破片	胴部外面平行叩き 胴部内面青海流文	
6	二	石製紡車		長さ 5.0	幅 4.9	厚さ 1.5	5Y2/1 黒			ほぼ 完形			737g 良く使 い込まれ光沢 がある 表面 に無数のキズ あり
7		鉄製品	刀子	長さ (4.6)	幅 2.1	厚さ 0.8							8.19g 2枚 磨研 1枚の 厚さ0.4cm

SI-80 (第32・33図、第12表、図版二三)

I区、グリットG6に位置する。重複するSI-81に切られておりSI-81が新しい。4.4×5.48mの範囲で掘り方のみ検出した。掘方埋土は多量のロームブロックを含む暗褐色土で、全面に貼床を施したものとと思われる。カマドは北壁西寄りに設置しているが、埋土中に焼土を確認したのみである。

出土遺物は、1が土師器環である。口径13.6cm、器高6.1cmと器高が高い。底部は回転ヘラ切りで、体部下端を回転ヘラケズリする。9世紀後葉の所産であろう。2は土師器甕の口縁部片で受け口状を呈する。3は須恵器甕の体部破片で、外面平行タタキ、内面は当て具による青海波文がみえる。いずれも掘方埋土からの出土である。



SI-81

- |   |   |
|---|---|
| 1 黒褐色 少量のローム粒。微量の白色粒を含む。しりりあり。                | 8 黒褐色 多量のローム粒を含む。しりりやややく。               |
| 2 黒褐色 微量のローム粒を含む。しりりあり。                       | 9 赤褐色 腐敗・硬化している。                        |
| 3 暗赤褐色 中量の焼土粒。微量の焼土ブロック(φ0.5cm)を含む。しりりやややく。   | 10 暗褐色 やや多量のロームブロック。少量の今市粒を含む。しりりあり。貼床。 |
| 4 灰褐色 中量の河原色粘土。微量の焼土粒。炭化物粒を含む。しりりあり。          | SI-80                                   |
| 5 赤褐色 中量の焼土粒。焼土ブロック(φ0.5cm)。微量の炭化物粒を含む。しりりあり。 | 11 暗褐色 多量の焼土粒を含む。カマド跡上。                 |
| 6 黒褐色 多量の焼土粒。微量の焼土ブロック(φ0.5~1cm)を含む。しりりあり。    | 12 暗褐色 やや多量のロームブロック。少量の今市粒を含む。しりりあり。貼床。 |
| 7 黒褐色 微量の焼土粒を含む。しりりあり。                        |   |

第32図 SI-80・81実測図



第33図 SI-80出土遺物実測図

第12表 SI-80出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二三	土師器	坏	13.6	5.4	6.1	10YR7/3 にふい黄 灰	5YR5/8～ 2.5Y5/1 明赤褐～黄 灰	白色粒 ガラス 質粒	良	体部2/3 欠損	底部外面回転ヘラ切り (逆位で体部下位回転ヘ ラケズリ) 口縁から底部 内面へラミガキ	
2		土師器	甕			(1.9)	7.5YR5/4 にふい褐	10YR5/3 にふい黄褐	白色粒 ガラス 質粒	良	口縁部破 片	口縁部内外面ともにココ ナデ	
3		須恵器	甕			(14.0)	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	白色粒 黒色粒 小石	良好	破片	胴部外面平行印き 胴部 内面青海渡文	

SI-81 (第32・34・35図、第13表、図版二・二三・二九)

I区、グリットG6に位置する。重複するSI-80を切っておりSI-81が新しい。4.9×6.36mのやや扁平な方を呈する。カマドは北壁東寄りに設置し、袖は残存していなかった。良く焼けた火床面が検出されている。床は全面に貼床を施し、周溝は北東コーナー部を除き確認した。確認面からの深さは0.28mである。

出土遺物は坏類が多く出土しているが、埋土の上部からの出土が多い。1～7は土師器坏で、器厚が厚く、体部外面下半にヘラケズリを施す。内面はへらミガキし2、3、4、7は内面黒色処理する。5を除き底部はヘラケズリで仕上げている。

8～13も土師器坏で、器厚が厚く口縁部先端が外反する。底部は回転糸切りである。14～16も土師器坏で、特に器厚が厚い一群である。底部は回転糸切りである。

17～24はいずれも土師器坏の破片である。土師器坏のうち6点に不明墨書が見られる。

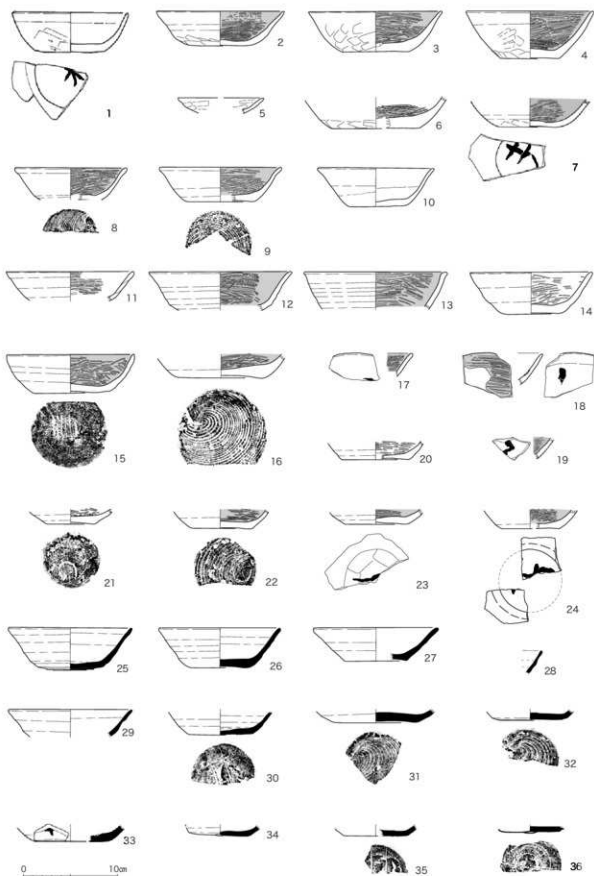
これらの土師器坏は、体部をヘラケズリ調整する、碗形に近づいた器形といった特徴から9世紀末～10世紀前半葉の所産と考えられる。

25～36は須恵器坏で、直線的な体部と口縁部で、口縁径と底部径に差があり、体部は開き気味である。30と35の底部外面にヘラ記号「二」が、36の底部外面にヘラ記号「一」が見られる。33には不明墨書が見られる。

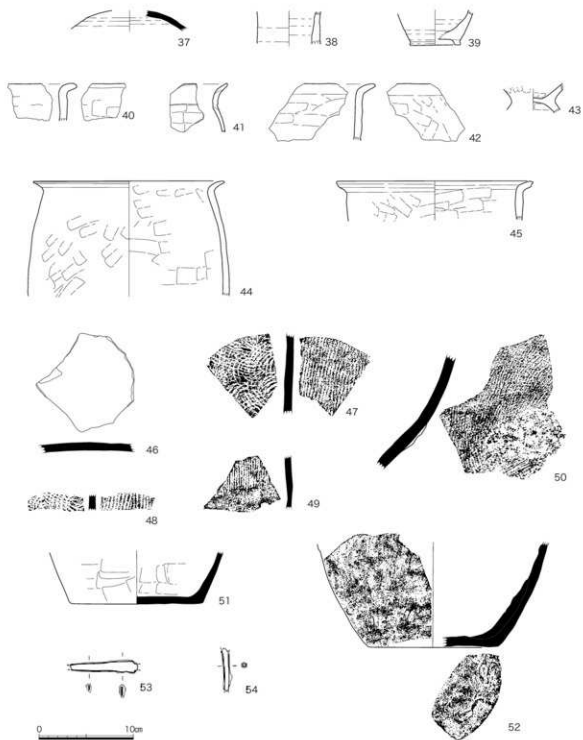
37は須恵器蓋、38は灰軸陶器の壺頸部、39は灰軸陶器の壺体部から底部である。40～45は土師器甕で、43は台付き甕の胴部～脚部であろう。46～52は須恵器甕である。

鉄製品は53が刀子、54が鉄鏃である。

建物跡の年代は、9世紀後半以降のSI-80を切ること、土師器坏の年代から、9世紀末～10世紀初と考えられる。



第34図 SI-81出土遺物実測図(1)



第35図 SI-81出土遺物実測図(2)

第13表 SI-81出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼成	残存率	調 整	備 考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1	二 三	土器	坏	12.1	7.4	4.2	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y5/1 黄灰	黒色砂～粗粒 赤色砂粒	良	1/8 周 1/4周	口縁から 底部へラズリ仕上げ	底部外面黒書 内面摩耗のため 黒色処理・ ミガキみえな い	
2		土器	坏	13.2	6.6	3.7	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	1/3	底部外面下位へラズリ 底部外面へラズリ仕上げ 口縁から底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
3		土器	坏	13.7	7.0	4.3	10YR8/2 灰白	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	普	1/3	口縁から底部外面へラズリ 底部外面回転へラミ 切り(全面ケズリ) 口縁 から底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
4	二 三	土器	坏	13.2	6.1	5.05	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 赤色粒 ガラス 質粒	良	1/2	底部外面口縁水掻き下 位へラズリ 底部外面 へラ仕上げ 口縁から 底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
5		土器	坏			(1.8)	5YR 5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	白色粒 小礫	普	1/8	口縁から底部外面へラナ デ 口縁から底部内面へ ラナデ	内外面とも摩 耗が激しい	
6		土器	坏			9.0	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒	普	1/2	底部外面下位へラズリ (逆位にして) 底部外面 回転系切り後周面へラズ リ 体から底部内面へ ラミガキ	内面黒色処理 外面底部に黒 書	
7	二 三	土器	坏			6.4	10YR6/4 にぶい黄橙	N1.5 黒	黒色微粒	良	1/8 周	底部外面へラズリ仕上げ (不定方向) 体から 底部内面へラズリ	内面黒色処理 外面底部に黒 書	
8		土器	坏	11.6	6.0	4.0	7.5YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	1/2弱	底部外面回転系切り 口 縁から底部内面へラミ ガキ	内面黒色処理	
9		土器	坏	12.6	7.0	3.7	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	普	1/4	口縁から底部外面回転系 切り 口縁内面へラミ ガキ	内面黒色処理	
10		土器	坏	12.0	6.2	4.1	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	白色粒	普	1/2	口縁から方向不明	外面摩耗も著 しい。内外面 の体部上半に スズ附着	
11		土器	坏	13.1		(3.2)	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y3/1 黒褐	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	破片	体部内面へラミガキ 輪 積み後口縁水掻きによ る仕上げ(時計廻り)		
12		土器	坏	14.9		(4.1)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	赤色粒 黒色粒 白色粒	良	1/6	口縁から 底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
13		土器	坏	14.6		(4.0)	10YR5/2 灰黄	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	1/4	口縁から 底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
14		土器	坏	12.6	5.6	4.5	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	微砂粒	良		口縁から 底部内面へラミガキ		
15		土器	坏	13.2	8.0	4.1	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	微砂粒 微量 雲 母の微細破片 微量	良	2/3 底取ほぼ 全欠	口縁から 底部内面へラミガキ	底部外面回転系切り後 周 面へラズリ 口縁から 底部内面へラミガキ	内面黒色処理
16		土器	坏			(2.5)	10YR3/2 黒褐	10YR1.7/1 黒	白色粒	普		体から底 部 から底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
17	二 九	土器	坏			(2.3)	2.5Y5/2～ 2/1 明灰黄～黒	5Y2/1 黒	白色粒 ガラス 質粒	良	破片	口縁から 底部内面へラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書	
18	二 九	土器	坏			(3.4)	7.5YR4/3 黒	7.5YR1.7/1 黒	白色粒	良	破片	口縁から 底部内面へラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書	
19	二 九	土器	坏			(2.2)	2.5Y7/2 黄灰	N1.5 黒	黒色微粒	良	破片	底部外面下位へラズリ 体部内面へラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書	
20		土器	坏			(2.0)	5YR4/3 にぶい黄橙	5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒	普		底部下位 から底部 約1/2	底部外面回転系切り 口縁から底部内面へラミ ガキ	
21		土器	坏			(1.5)	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	白色粒 赤色粒	不良	底部	底部外面回転系切り 底 部内面へラミガキ		
22		土器	坏			(2.1)	5YR5/6 明赤褐	5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	底部	底部外面回転系切り 体 から底部内面へラミガキ	内面黒色処理	
23	二 九	土器	坏			(1.6)	5YR6/6 橙	5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	普	1/4 強	底部内面へラミガキ	内面黒色処理 底部外面に黒 書	

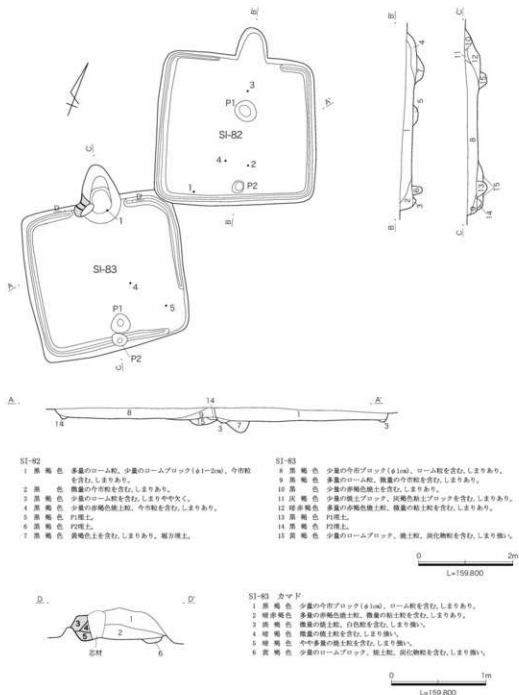
24	二九	土師器	坏		6.0	(2.0)	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 石英	普	体部下位 1/4 底部1/2	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 底部外面に墨書	
25		須恵器	坏	12.8	7.0	4.5	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 小石	良	体部1/4 底部1/2	底部外面回転ヘラ切り		
26		須恵器	坏	12.6	6.0	4.3	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒	良	底部完済 口縁から 体部1/6	底部外面回転ヘラ切り		
27		土師器	坏	12.7	6.4	3.5	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒 黒色粒	白色粒 小礫	普	1/2	底部外面回転赤切り	二次的な被熱 のためか内外 面とも荒れて いる
28		須恵器	坏			(2.5)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒	良	破片	口縁回転方向不明		
29		須恵器	坏	12.8		(3.0)	5YR4/1 灰	5YR4/1 灰	白色粒 黒色粒	良	口縁から 体部1/4	口縁から体部外面口 ノナデ 口縁から体部内 面口ノナデ		
30	三三	須恵器	坏		6.6	(2.5)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 黒色粒 小石	良	底部から 体部下位 1/2	底部外面回転ヘラ切り	底部外面に ヘラ記号「二」	
31		須恵器	坏	8.0		(1.5)	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	底部	底部外面回転赤切り	強化した須恵 器	
32		須恵器	坏	6.8		(1.1)	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 ~ 5/2 灰白 ~ 暗灰黄	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	底部1/2	底部外面回転赤切り	内面に附着物 あり	
33	二九	須恵器	坏	8.4		(1.8)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	黒色微粒 白色 微粒	良	破片	体部外面下端回転ヘラ ズリ 底部外面不定ヘラ ケズリ	体部外面に墨 書	
34		須恵器	坏	6.4		(1.3)	N5/1 灰	N5/1 灰	白色粒 小礫	良	底部のみ	底部外面回転ヘラ切り		
35	三三	須恵器	坏	6.8		(1.3)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒	良	底部1/2	底部外面回転ヘラ切り	底部外面にヘ ラ記号「二」	
36	三三	須恵器	坏	6.1		(0.6)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 黒色粒	良	底部1/2	底部外面回転ヘラ切り	底部外面にヘ ラ記号「一」	
37		須恵器	蓋			(2.3)	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	白色粒 黒色粒 小石	良	天井部 1/2	体部外面口ノナデ後天 井部を2段に回転ヘラケ ズリ	天井部内面に 線刻	
38		灰輪	壺			(3.5)	5Y6/2 灰オリーブ	5Y7/1 灰白	精良	良	破片	内外ともに口ノナデ 内外ともに自然融着	最大径6.7	
39		灰輪	壺	5.3		(3.7)	5Y3/1 オリーブ黒	5Y4/2 灰オリーブ	精良	良	底から体 部下位 1/4	底部外面高台取り付け		
40		土師器	甕			(4.0)	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒 赤色粒 石英	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁か ら胴部内面ヨコナデ	胴部内面に ヨコナデ	
41		土師器	甕			(5.2)	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/2 灰褐色	白色粒 ガラス 質粒	良	破片	口縁部外面ナデ 胴部外 面ヘラケズリ 口縁部内 面ナデ 胴部内面ヘラナ デ		
42		土師器	甕			(6.0)	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒 赤色粒	良	破片	口縁部外面横ナデ 胴部 外面ヘラナデ 口縁部内 面横ナデ 胴部内面ヘラ ナデ		
43		土師器	付台			(3.2)	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	微細粒 少量	白色粒	良	胴部破片	胴から胴部外面ヘラナデ 胴部内面ヘラナデ	径4.6
44		土師器	甕	19.5		(12.2)	7.5YR4/3 ~5/6 褐色~明褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	白色粒 赤色粒 雲母	良	口縁から 胴部1/3	口縁から胴部外面ヘラナ デ 口縁から胴部内面横 ナデ		
45		土師器	甕	20.0		(4.1)	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR7/6 橙	ガラス質微粒 砂粒 雲母微細 破片	良	口縁部 1/6程度 胴部一部 残存	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ		
46		須恵器	甕			(8.2)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	黒色粒 白色粒	良	底部	内面当て具痕 ナデ		
47		須恵器	甕			(8.2)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	微細粒	良	破片	胴部外面平行叩き		
48		須恵器	甕			(1.7)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	微砂粒	良	破片	胴部外面平行叩き 胴部 内面背面黄文		
49		須恵器	甕			(5.9)	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	ガラス質粒 白 色粒	良	破片	胴部外面平行叩き		
50		須恵器	甕			(12.2)	N3 暗灰	5Y6/1 灰	微細粒	良	破片	胴部外面平行叩き		
51		須恵器	甕	14.0		(5.6)	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	白色粒 雲母や 多	良	底部1/4 胴部下位 破片	胴から底部外面ヘラケズ リ 胴部内面ヘラナデ 底部内面ヘラナデ、指押 さえ		
52		須恵器	甕		13.6	(11.6)	2.5Y5/1 灰	2.5Y6/1 灰	黒色物質 白色 粒	良	底から胴 部1/4	胴部外面タタキ目 胴部 内面当て具痕		
53		鉄製品	刀子	長さ (7.1)	幅 1.4	厚さ 0.6							重さ5.15g	
54		鉄製品	鉄鏃	長さ (4.6)	幅 1.0	厚さ 0.5							重さ3.48g	



SI-82（第36・37図、第14表、図版二・三・二三）

I区、グリットG 6に位置する。重複するSI-83を切っておりSI-82が新しい。3.2×3.32mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し、袖は残存していなかった。カマド内の奥壁や底面に赤化や硬化は見られなかった。貼床は施さず、建物中央と出入りにピットを検出した。周溝は全周で確認した。確認面からの深さは0.22mである。

出土遺物は、1～4が土師器環である。1は器厚が厚くやや内湾する体部を持ち、内面黒色処理で、底部は切り離した後丁寧にヘラケズリし、「水」か、を墨書する。2は直線的に開く体部を持ち、内面黒色処理、底



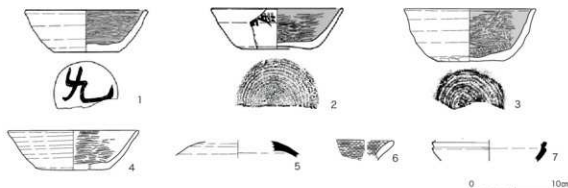
第36図 SI-82・83実測図

部は回転糸切りで、体部外面に墨書する、「□金」か。3は碗に近い器形で、体部下端を手持ちヘラケズりする。4は底部回転ヘラ切りである。5は須恵器蓋、6が土師器壺の口縁部、7が須恵器高環である。建物の時期は、土師器環の特徴から、9世紀中葉頃と考えられる。

SI-83 (第36・38図、第15表、図版三・二三)

I区、グリットG6に位置する。重複するSI-82に切られておりSI-82が新しい。3.24×3.28mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し、左袖のみが芯材として用いられた自然礫とともに残存していた。貼床は施さず、出入り口ピットのみ検出した。周溝は南東コーナー部を除き確認した。確認面からの深さは0.22mである。

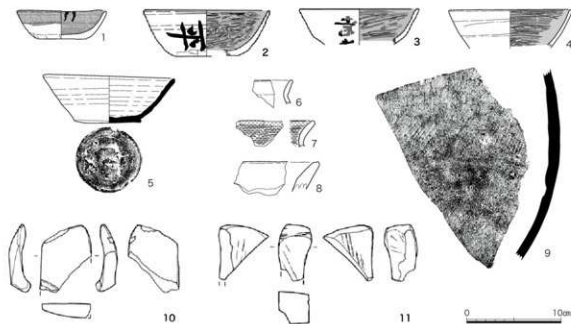
出土遺物は、1～4が土師器環である。1は口径9.2cmで、底部は回転ヘラ切りである、体部下端を手持ちヘラケズりする。内面全面と口縁部外面に煤が附着し、灯明具として使用されたものと思われる。2は内面黒色処理、体部下端を手持ちヘラケズリし、体部外面に大きく「平」と墨書する。3は屈曲する体部を持ち、体部外面に「下岡本」と墨書する。5は須恵器環で直線的に大きく開く体部を持ち、器高は5.0cm、底部は回転ヘラ切りし「中」と線刻する。6～8は土師器甕、9は須恵器蓋、10・11は砥石である。建物の年代は土師器環・須恵器環の特徴から9世紀中葉と考えられる。



第37図 SI-82出土遺物実測図

第14表 SI-82出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二三	土師 器	環	12.8	6.9	4.5	10YR6/4 に赤い黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒	良	1/2	底部外面ヘラ切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 底部外面に墨 書「水」か
2	二三	土師 器	環	14.0	7.4	4.4	10YR8/4 浅黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 赤色粒 ガラス質粒 白針	良	1/2	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「□金」か
3		土師 器	環	13.4	7.0	5.5	10YR5/4 に赤い黄褐色	10YR2/1 黒	砂粒 白色粒 ガラス質粒少量 雲母微片少量	良	1/3	口縁から 底部外面回転糸切り 体部下位逆位で回転ヘラケズリ 口縁から底部内 面ヘラミガキ	体部上面にス ス附着 内面 黒色処理
4		土師 器	環	13.4	7.2	4.2	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	白色粒 黒色粒 小石 ガラス質 粒	良	1/3	底部外面回転ヘラ切り 口縁から底部内面ヘラミ ガキ	
5		須恵 器	蓋			(1.6)	5Y6/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 赤色粒	良	天井部 1/8	ロケ口回転方向不明	
6		土師 器	甕			(2.0)	2.5YR4/6 赤褐色	2.5YR4/6 赤褐色	白色粒 小石	良	破片	口縁部外面ヘラミガキ 口縁部内面ヘラミガキ	内外面赤彩
7		須恵 器	高環			(2.3)	7.5Y5/1 灰	7.5Y4/1 灰	白色粒	良	破片	体部外面ロケ口ナデ後ヘ ラ状 1層で棧を作り出す 内面ロケ口ナデ	



第38図 SI-83出土遺物実測図

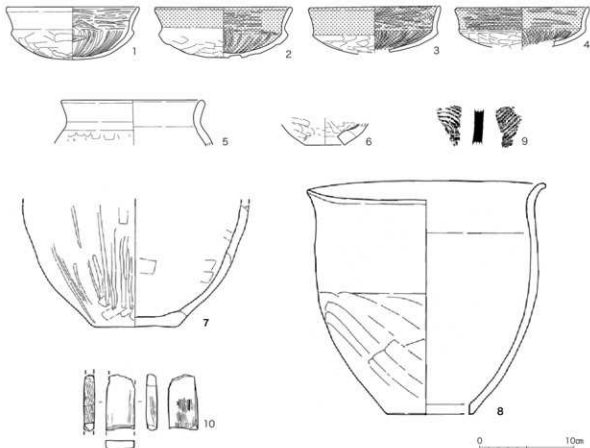
第15表 SI-83出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三三	土師器	杯	9.2	5.2	3.1	10YR8/2 ~2/1 灰白~黒	10YR1.7/1 黒	白色粒 石英 赤色粒 小石 黒色粒 ガラス 質粒 白色針状 物質	良	完形	体部外面下位へラミガキ 底部外面へラミガキ	内面全体にス 又附着 外面 一部にス又附 着 灯明皿
2	三三	土師器	杯	13.3	6.8	4.8	7.5YR6/4 に濃い黄橙	2.5Y2/1黒	白色粒 赤色粒 白針	良	1/4	内面へラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書 上層
3	三三	土師器	杯	12.6		(3.8)	10YR6/6 明黄橙	10YR2/1 黒	白針	良	口縁から 体部1/4 弱	口縁から体部内面へラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書 下層本上か
4	三三	土師器	杯	12.8		(4.0)	10YR4/1~ 6/4 濁灰~にぶ い黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 ガラス質粒 白色針状物質や 多し	良	体部1/4	口縁から体部内面へラミ ガキ 輪積み後ロクロ水 挽き(時計廻り)仕上げ	内面黒色処理
5		須恵器	杯	13.6	7.0	5.0	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 小石	良	体部上平 1/2欠損	底部外面へラミガキ	底部外面に輪 写中
6		土師器	甕			(2.5)	10YR7/4 に濃い黄橙	7.5YR6/4 に濃い橙	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	破片	口縁部外面ナデ 口縁部 内面ナデ	
7		土師器	甕			(2.7)	2.5YR4/6 赤濁	2.5YR4/6 赤濁	白色粒 黒色粒	良	破片	口縁部外面へラミガキ 口縁部内面へラミガキ	内外面赤彩
8		土師器	甕			(3.2)	2.5YR5/1 黄灰	2.5YR1/6 黄灰	白色粒 雲母	良	口縁部破 片	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ	
9		須恵器	甕			(20.2)	5YR4/2 灰濁	10YR5/2 灰黄濁	白色粒 小石	良	破片	胴部外面タタキ 胴部内 面当て貝の凸凹	
10	三三		砥石	長さ (7.3)	幅 5.3	厚さ 1.6	5Y7/1 灰白						砂岩製 56.21g 廃棄時の砥面 は正面と思わ れ良く使いた まれているが 背面及び横側 面も使われて いる
11	三三		砥石	長さ (5.9)	幅 5.3 0.9	厚さ 3.3	2.5Y6/2 灰黄						粒子の細かい 砂岩製 91.1g 廃棄時 の砥面は正面 だが上面以外 すべて砥面と して使用 上 面には成形時 のものと思わ れる擦痕が残 る

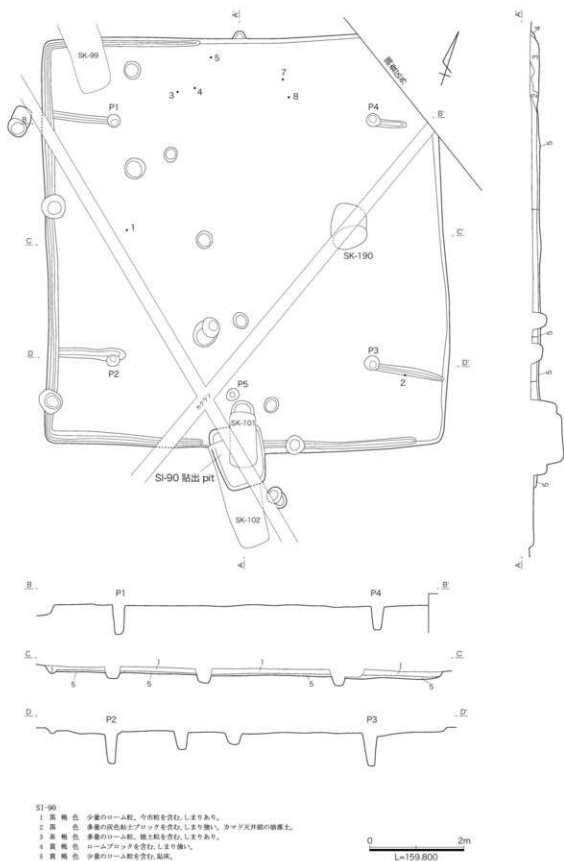
SI-90 (第39・40図、第16表、図版三・二三・二四・三二)

I区、グリットI4に位置する、古墳時代に属する竪穴建物跡で、当遺跡中最大規模の竪穴建物跡である。南壁を中世の土坑によって切られている。8.8×8.36mのやや縦長な方形を呈する。南壁中央に張り出しピットを有する。床はP1-P4を結ぶラインから南側に貼床を施す。周溝は南壁・西壁と北壁の半分で確認した。柱穴は主柱穴4本と張り出しピット内側に1本を検出した。主柱穴と壁の間にはそれぞれ間仕切り溝が見られる。確認面からの深さは0.12mである。

出土遺物は、北壁に近いところで多く出土している。1～4は土師器坏である。丸底で、体部外面に稜を持ち口縁部が外反する。内面をヘラミガキし、体部外面はヘラケズりする。2～4は内面と口縁部外面に赤彩を施す。5・7は土師器甕である。6は小型の土師器甕である。8は大型の土師器甕で外面下半ヘラケズリ、内面ヘラナデする。9は須恵器甕、10は砥石である。建物の時期は土師器坏の特徴から5世紀後葉と考えられる。



第39図 SI-90出土遺物実測図



第40図 SI-90実測図

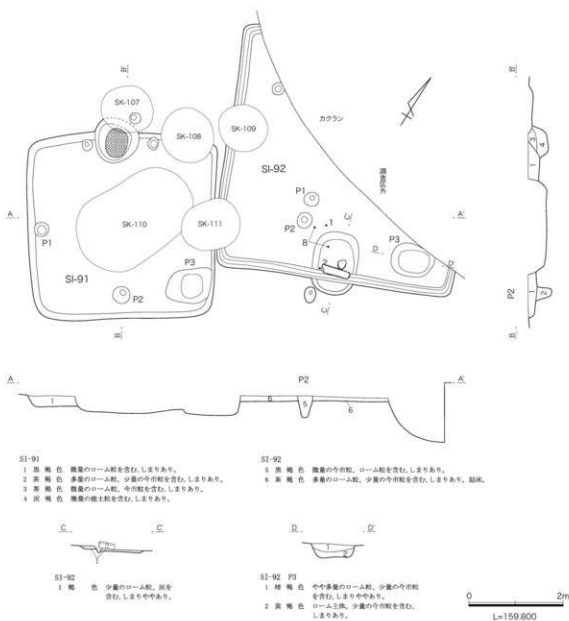
第16表 SI-90出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三三	土師器	坏	13.4		5.5	7.5YR5/6 明褐 5YR6/8 5YR2/1 黒褐	5YR6/8 橙 5YR2/1 黒褐	小礫少量 砂粒 多量 ガラス質 粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 体 から底部内面ヘラミガキ	
2	三三	土師器	坏	14.0		5.3	2.5YR4/6 赤褐 7.5YR7/4 に赤い	2.5YR4/8 赤褐	砂粒 白色粒 赤色粒少量	良	口縁部 1/4周 体部から 底部一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部ヘラケズリ 口 縁部内面種ナデ後ヘラミ ガキ 体から底部内面ヘ ラミガキ ケズリが深く 境に段を形成している	外面の種の少 し下から上、 口縁部内面赤 彩 内面全赤 彩 外面は塗り ムラあり(使用か)
3	二四	土師器	坏	13.6		(4.8)	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	砂粒 白色粒 ガラス質粒	良	口縁から 体部全周 底部一部 欠損	口縁から体部外面ヨコナ デ 底部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 体 から底部内面ヘラミガキ	外面の種より 上、内面全体 が赤彩 底部 は意図的に外 側から穿孔さ れた可能性が ある
4		土師器	坏	13.7		(4.2)	10R4/6~ 10YR5/4 赤~に赤い 黄褐	2.5YR4/6 赤褐	白色粒 赤色粒 小石	良	1/3	口縁から体部外面ヘラミ ガキ 底部外面ヘラケズ リ 口縁部内面ヘラミガ キ 内面丁寧な放射状の ミガキ	外面口縁部赤 彩 内面全赤 彩
5		土師器	甗	14.4		(4.7)	7.5YR 6/4 に赤い	7.5YR6/4 に赤い	白色粒 赤色粒 赤英	普	口縁から 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ	
6		土師器	甗	4.0	(2.2)		2.5YR/3 淡黄	7.5YR5/6 橙	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	胴部下位	胴部下位内面ヘラナデ 胴部下位内面ヘラナデ	
7		土師器	甗	8.6	(1.30)		10YR5/2 灰黄褐	2.5YR/3 淡黄	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	胴部下位 から 底部1/2	胴部外面ヘラナデ後ヘ ラミガキ 底部外面ヘラ ナデ 胴部内面ヘラナ デ	内面は全体的 に器面が剥落 している
8		土師器	甗	25.2	9.3	24.9	10YR6/4 に赤い黄褐	10YR6/4 に赤い黄褐	白色砂粒 青灰 色砂粒 赤色砂 粒	良	ほぼ完形	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面下位ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴 部内面縦方向ヘラナデ	
9		須恵器	甗			(3.9)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒	良	胴部破片	胴部外面橋子目印き 胴 部内面同心円当て具痕	
10	三三		砥石	長さ (5.9)	幅 3.1	厚さ 1.1	5Y7/1 灰白						砂岩製 30.73g 砥面 は正面のみで 良く使い込ま れている 背面 及び両面には 成形時の工 具痕が残る

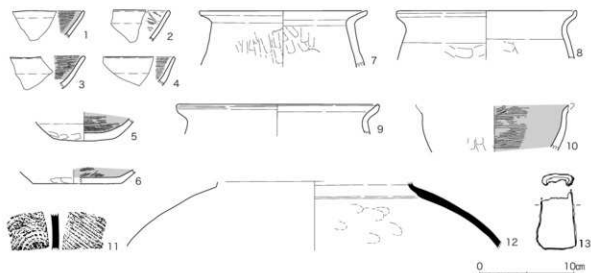
SI-91 (第41・42図、第17表、図版三)

I区、グリットJに位置する。4.4×3.94mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し、火床部のみ検出した。貼床は施さず、出入り口ピットを検出した。主柱穴と考えられる柱穴はP1とP3が検出されているが、北西コーナー部、南東コーナー部には検出されていないことから、P1の対面に壊されてしまった柱穴があったと考えられる。確認面からの深さは0.24mである。

出土遺物は、1～6が土師器環である。5・6は体部下端をヘラケズリしている。7～9が土師器甕、10が土師器鍋、11・12が須恵器甕である。13は鉄斧である。建物の時期は土師器環の特徴から9世紀中葉～後葉と考えられる。



第41図 SI-91・92実測図



第42図 SI-91出土遺物実測図

第17表 SI-91出土遺物観察表

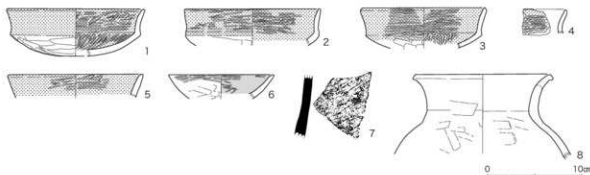
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)		色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外					
1		土器	坏		(2.1)	10YR1.7/1 黒	10YR5/1 褐色	白色粒 ガラス 質粒	良	破片	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
2		土器	坏		(3.2)	10YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	白色粒 赤色粒 石英 小石	良	破片	口縁から体部外面ロケロナデ 口縁から体部内面ヘラミガキ	
3		土器	坏		(3.2)	2.5YR8/4 淡黄	2.5Y1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 雲母片	良	破片	口縁から体部内面ヘラケズリ	内面黒色処理
4		土器	坏		(3.2)	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y1.7/1 黒	ガラス質粒	良	破片	口縁から体部内面ヘラケズリ	
5		土器	坏	6.2	(2.3)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 ~ 1.7/1 にぶい黄褐色 ~ 黒	白色粒 赤色粒 白色針状物質	良	体部下位 から底部 1/2	体部外面下位ヘラケズリ 底部外面ヘラケズリ 体 から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
6		土器	坏	9.4	(1.5)	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	微砂粒 白色粒 ガラス質粒	良	底部1/4	体部外面下位傾斜ヘラケズリ 底部外面ヘラケズリ切り 体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
7		土器	甕	17.2	(5.6)	7.5YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/8 褐色	7.5YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/8 褐色	雲母 白色粒	良	口縁から 胴部1/7	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ	
8		土器	甕	18.6	(5.2)	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR にぶい黄褐色	砂粒少量	良	口縁から 胴部1/8	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面上位ヘラケズリ 口 縁部内面ヨコナデ 胴 部内面ヘラナデ	二次被熱のため 赤色化している
9		土器	甕	21.0	(3.1)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	口縁部 1/10	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ	二次的な被熱 のためか器全 面が荒れている
10		土器	鉢		(5.0)	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	赤色粒 白色粒	良	口縁から 胴部1/10	胴部外面ヘラケズリ 口 縁から胴部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
11		須恵器	甕		(4.0)	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	微砂粒 白色粒	良	破片	胴部外面平行叩き 胴部 内面書海文	
12		須恵器	甕		(7.4)	5Y7/2 灰白	5Y5/1 灰	白色粒 小石	良	破片	胴部外面平行叩き 胴部 内面削面圧痕	
13		鉄製品	斧	長さ 16.0	幅 4.2 厚さ 1.3							重さ62.69g



## SI-92 (第41・43図、第18表、図版3)

I区、グリットJ4に位置する、古墳時代に属する竪穴建物跡である。北東側半分を攪乱によって壊されている。5.24×5.2mの方形を呈する。全面に貼床を施し、周溝は全周で確認した。確認面からの深さは0.22mである。南壁に張り出しピットを設け、南東コーナーに貯蔵施設を設ける。張り出しピットから自然礫と長方形に加工された砂岩が出土している。施設の一部として使用されたものか。

出土遺物は、1～6が土師器環である。1～4は丸底で体部外面に稜を持ち、口縁部が強く外反する。体部外面はヘラケズリし、1・2は内面と口縁部外面を赤彩する。5・6は体部がりの字状に開いたものである。7は須恵器甕、8は土師器壺である。建物の時期は土師器環の特徴から、5世紀後葉と考えられる。



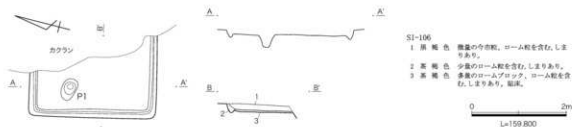
第43図 SI-92出土遺物実測図

第18表 SI-92出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	環	14.0		5.0	7.5YR7/6 橙 2.5Y7/4 浅黄	7.5YR5/8 橙	砂粒 白色粒少 量含む	良	口縁部 1/4 体 部から底 部1/2	口縁部外面ヨコナデ 体部外面ヘラケズリ 口縁から底部内面ヨコナ デ後ヘラミガキ	外面稜より上 と内面全面に 赤彩
2		土師 器	環	13.9		(4.0)	10R2/1 赤黒	10R3/1 暗赤灰	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	口縁部 1/4	口縁から体部外面ヨコナ デ後ヘラミガキ 口縁部 内面ヨコナデ後ヘラミガ キ 体部内面ヘラケズリ	外面稜より上、 内面全面赤彩
3		土師 器	環	12.6		(4.3)	2.5YR4/6 赤黒	2.5YR5/6 明赤褐	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	1/8	口縁から体部外面ヘラミ ガキ 底部外面ヘラケズ リ 口縁から底部内面ヘ ラミガキ	外面の稜より やや下位から 上、内面全面 赤彩
4		土師 器	環			(2.6)	5YR4/3 にふい赤褐	2.5YR4/3 にふい赤褐	白色粒 赤色粒	良	口縁部 残存	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ後ヘラ ミガキ	内外面赤彩
5		土師 器	環	14.0		(2.5)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	白色粒	普	口縁部 1/8	口縁部外面ヨコナデ後 ヘラミガキ 口縁部内面ヨ コナデ後ヘラミガキ	内外面赤彩
6		土師 器	環	11.0		(2.7)	10YR7/3 にふい黄橙 10YR1.7/1 黒	10YR1.7/1 黒	白色粒	普	口縁部 1/4 弱	口縁部外面ヘラミガキ 体部外面ヘラナデ 口縁 から体部内面ヘラミガキ	褐色の附着物 あり 内面黒 色処理
7		須恵 器	甕			(6.7)	5Y5/1 灰	2.5Y4/2 暗灰黄	白色粒	良	胴部破片	胴部外面平凸帯 胴部 内面貯蔵理士	
8		土師 器	壺	14.1		8.6	5YR5/6 明赤褐 7.5YR7/6 橙	7.5YR6/4 にふい橙 5YR5/6 明赤褐	雲母片微量 砂 粒少量	良	口縁部 1/4 胴部1/8	口縁から胴部外面ヨコナ デ後ヘラナデ 口縁部内 面横ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	同部にスズ附 着

SI-106 (第44図)

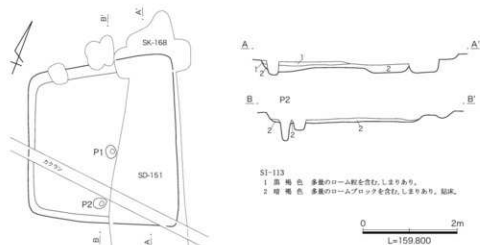
I区、グリットJ4に位置する。東半を攪乱によって大きく壊されている。2.68×1.76mの範囲を検出し、方形を呈するものと考えられる。カマドは確認できなかった。全面に貼床を施す。柱穴はP1を検出した。確認面からの深さは0.12mである。出土遺物は無い。



第44図 SI-106実測図

SI-113 (第45図)

I区、グリットI5に位置する。中近世の溝によって東半を壊されている。3.6×3.08mの方形を呈すると考えられる。カマドは確認できなかった。全面に貼床を施し、出入り口ピットP2を検出した。P1は主柱穴とも考えられるが、他の主柱穴が検出されておらず、断定できない。確認面からの深さは0.08mである。出土遺物は無い。

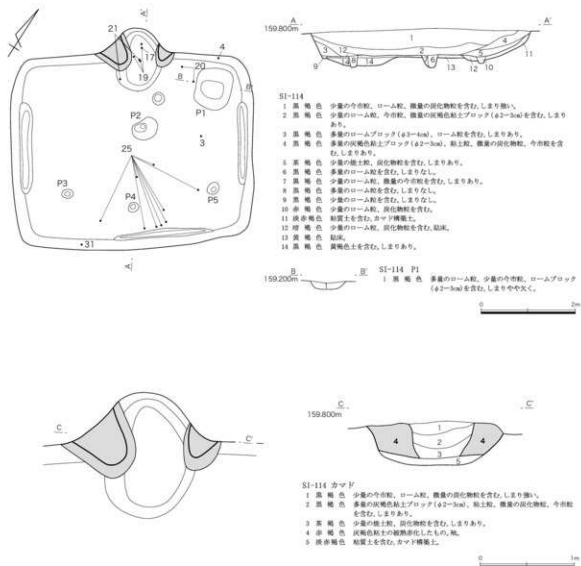


第45図 SI-113実測図

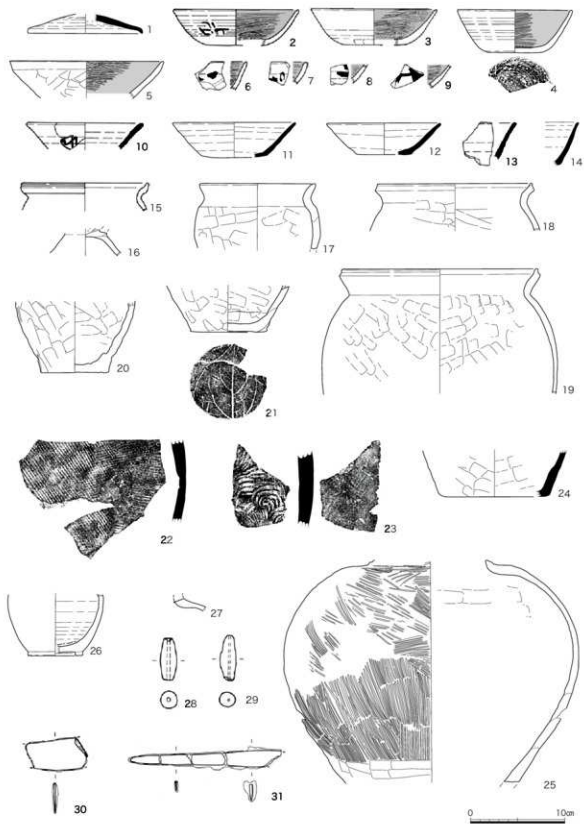
## SI-114 (第46・47図、第19表、図版三・四・二四・二九・三〇)

I区、グリット16に位置する。5.1×6.12mのやや偏平な方形を呈する。カマドは北壁中央に設置し、灰褐色粘土で構築し被熱赤化した両袖が残存する。床は全面に貼床を施し、柱穴は主柱穴と考えられるP3、P5を検出した。また貯蔵穴P1を検出した。周溝は東西南の一部に認められた。確認面からの深さは0.56mである。

出土遺物は、1が須恵器蓋、2～9が土師器環である。2～9は内面黒色処理で2・4は底部回転糸切り、3は切り離し後ヘラケズリ、体部下端ヘラケズリである。2は体部外面に墨書する。SI-925出土須恵器に「土田」か、があり字体が類似する。6～9も不明部分墨書である。10～14は須恵器環である。体部の開きが大きく、口縁部が外反するものが見られる。10は体部外面に墨書する、「水」か。15～21は土師器甕、22・23は須恵器甕、24は須恵器壺、25は土師器壺、26・27は灰軸陶器壺、28・29は土鍾である。30・31は刀子である。建物の時期は、土師器環と須恵器環の特徴から、9世紀中葉～後葉と考えられる。



第46図 SI-114実測図



第47図 SI-114出土遺物実測図

第19表 SI-114出土遺物観察表

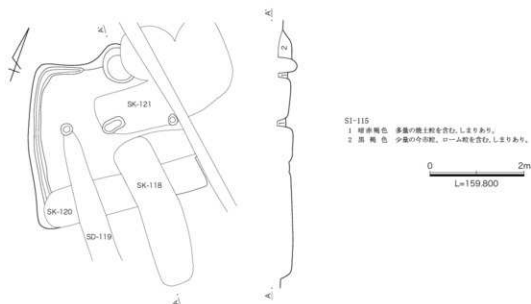
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1		須恵器	蓋	12.0		(2.0)	10Y4/1 灰	10Y4/1 灰	白色粒 礫混入	良	1/4	口縁から体部内外面とも クロコナデ		
2		須恵器	坏	13.2	6.6	3.85	2.5Y7/3 浅黄	N1.5 黒	白色細粒 黒色 微粒	良	良	口縁から 体部1/4 周	内面黒色処理 体部外面に墨 書 土山付	
3		土師器	坏	13.3	6.8	3.85	10YR6/4 にぶい黄橙	N1.5 黒	黒色細粒	良	1/4	体部外面下位回転ヘラケ ズリ 底部ヘラケズリ仕 上げ(一方) 口縁から 底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理	
4		土師器	坏	11.8	5.6	4.5	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒	良	1/3	底部外面回転糸切り 口縁から体部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理 体部下位から 底部にかけて 磨耗痕がある	
5		土師器	坏	16.0		(4.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	1/5	体部外面ヘラケズリ 口縁から体部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理	
6	二九	土師器	坏			(3.3)	10YR6/3 にぶい黄橙	N1.5 黒	黒色微粒	良	破片	内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書	
7	二九	土師器	坏			(2.6)	2.5YR7/3 浅黄	2.5Y2/1 黒	白色微粒	良	破片	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書	
8	二九	土師器	坏			(2.0)	10YR7/4 にぶい黄橙	10Y2/1 黒	白色砂粒	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書	
9	二九	土師器	坏			(2.7)	10YR5/4 にぶい黄橙	N1.5 黒	白色砂粒 赤色 粒	良	破片	体部外面クロコナデ 内 面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書	
10	二九	須恵器	坏	12.2		(2.8)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	白色細粒	良	良	口縁から 体部1/6 周	口縁から体部内外面とも クロコナデ 体部外面に墨 書「水」か	
11		須恵器	坏	12.8	7.0	3.9	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	白色粒 ガラス 質粒 黒色粒	良	1/6	底部外面ヘラ仕上げ		
12		須恵器	坏	11.6	5.9	3.3	7.5Y4/2 灰濁	7.5Y4/2 灰濁	白色粒 小石	良	1/4	底部外面ヘラ切り		
13		須恵器	坏			(4.0)	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	白色粒	良	破片	口縁から体部外面クロコ ナデ 口縁から体部内面 クロコナデ		
14		須恵器	坏			(4.8)	7.5Y4/1 灰	7.5Y4/1 灰	白色粒	良	破片	口縁から体部外面クロコ ナデ 口縁から体部内面 クロコナデ		
15		土師器	甕	13.2		(2.9)	7.5YR4/1 濁灰	7.5YR3/1 黒濁	白色粒 ガラス 質粒 雲母片	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ		
16		土師器	台付 甕			(2.8)	7.5YR4/4 濁	7.5YR4/4 濁	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	脚部1/2 周	脚部外面ヨコナデ 環部 内面ヘラナデ 脚部内面 ヨコナデ 底面(内側)ナ デ		
17		土師器	甕	11.8		(6.9)	10YR5/3 にぶい黄濁	10YR7/6 明黄濁	白色粒 黒色粒 雲母片	良	1/4	口縁部外面ヨコナデ 脚 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 脚部内 面ナデ		
18		土師器	甕	16.0		(5.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	赤色粒 白色粒 黒色粒	良	1/4 口縁 から脚部 のみ	口縁から脚部外面ヘラナ デ 口縁から脚部内面ヘ ラナデ		
19		土師器	甕	20.4		(13.3)	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/6 濁	雲母片 赤色粒 小石	良	良	口縁から 脚部上平 1/4	口縁部外面ヨコナデ 脚 部外面ナデ 口縁から脚 部内面ヨコナデ	
20		土師器	甕			7.0	5YR7/6 濁	10YR6/4 にぶい黄濁 7.5YR7/4 にぶい橙	白色粒 雲母片 少量 砂粒	良	底部全周 脚部一部	脚部外面ヘラケズリ 脚 部内面ヘラナデ		
21		土師器	甕			8.0	7.5YR5/6 明濁	7.5YR5/4 にぶい橙	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	底から脚 部一部	脚部外面ヘラナデ 底部 外面木炭痕 脚部内面 ヘラナデ	底部外面木炭 痕 内面に輪 積み痕残す	
22		須恵器	甕			(8.7)	5YR5/4 にぶい赤濁	10YR5/1 濁灰	白色粒	良	脚部一部 のみ	脚部外面斜行可き	外面酸化	
23		須恵器	甕			(8.3)	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	白色粒 赤色粒	良	脚部一部 のみ	脚部外面斜行可き 脚部 内面同心状当て具痕		
24		須恵器	壺			10.6	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄	雲母微片 白色 粒 砂粒	良	一部残存	脚部外面ヘラケズリ 脚 部内面ヘラナデ		
25	二四	土師器	壺			(23.5)	10YR8/6 黄橙	10YR8/2 灰白 10YR5/1 濁灰	白色粒 雲母微 少量 ガラス質 粒 砂粒	良	1/3 脚部 から底部 約1/2	口縁部外面ヘラミガキ 脚部外面ヘラケズリ後 位ヘラミガキ 脚部下位 ヘラケズリ		

26	灰輪 陶器	壺		5.6	(6.6)	5Y4/1 灰	2.5Y5/1 黄灰			良	底部1/4 胴部下位 1/8	底部外面糸切り難し後高 台貼付	外面剥離著し しい
27	灰輪 陶器	壺			(1.1)	10Y4/2 オリープ灰	5Y6/1 灰	白色粒		良	頸部破片	胴部外面口クロナデ 胴 部内面口クロナデ	
28	土銅	土銅	長さ 4.5	径 1.8	孔0.4	2.5Y6/3 にぶい黄		白色粗粒		良	ほぼ定形		重さ1293g
29	土銅	土銅	長さ 4.8	径 1.7	孔0.2	7.5YR5/4 にぶい褐		白色微粒 黒色 粗粒		良	ほぼ定形		重さ1166g
30	鉄製 品	刀子	長さ (6.6)	幅 3.7	厚さ 0.6								重さ27.36g
31	鉄製 品	刀子	長さ (16.2)	幅 2.4	厚さ 1.3								重さ24.27g

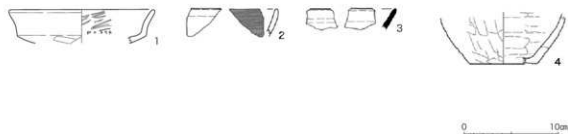
## SI-115 (第48・49図、第20表、図版四)

1区、グリット15に位置する。中近世の土坑との重複が激しく残存状況は悪い。カマドは北壁に設置し、柱穴は主柱穴2本を確認した。確認できた埋土はしまりのある暗赤褐色土および黒褐色土で、おそらく貼床を施したものと考えられる。確認面からの深さは0.18mである。

出土遺物は、1・2が土師器環、3が須恵器環、4が土師器裏である。1は体部外面に稜を持ち口縁部が外反する古墳時代の所産、2・3は古代の所産で、建物の時期決定には至らない。建物規模や周囲の状況から9世紀頃の建物と判断される。



第48図 SI-115実測図



第49図 SI-115出土遺物実測図

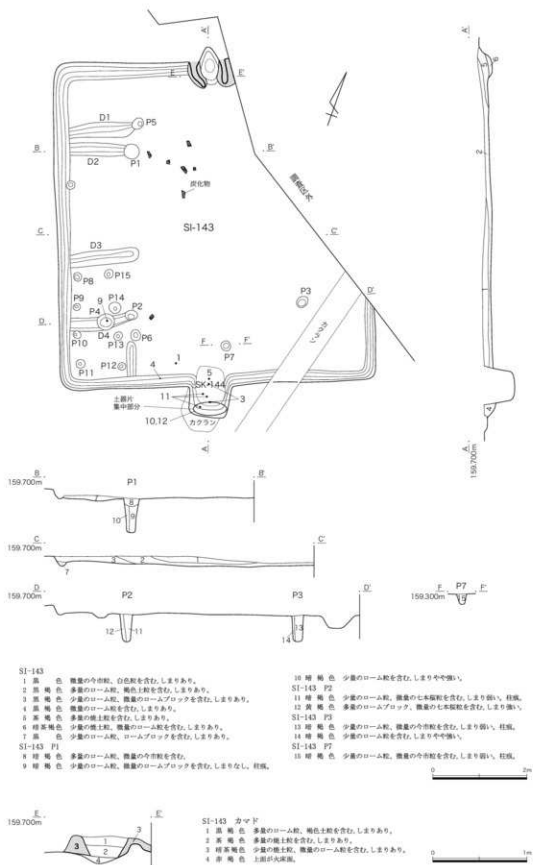
第20表 SI-115出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	坏	15.0		(3.5)	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR4/6 褐	白色粒 小礫	不良	1/8 底部一部	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 から体部内面ヨコナデ後 ヘラミガキ	
2		土師器	坏			(3.0)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR2/1 黒	白色粒 黒色粒	良	破片	口縁から体部内面ヘラミ ガキ ロクロ回転方向不 明	内面黒色処理
3		須恵器	坏			(2.1)	10YR5/2 灰黄褐	10YR2/1 黒	白色粒	良	口縁から 体部の小 片	口縁から体部外面ロク ロナデ 口縁部内面ロク ロナデ	
4		土師器	甕	7.0		(5.5)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	白色粒	良	1/4 底か ら胴部一 部	胴部外面ヘラケズリ 胴 部内面横位ヘラナデ	胴 部

SI-143 (第50・51図、第21表、図版四・二四)

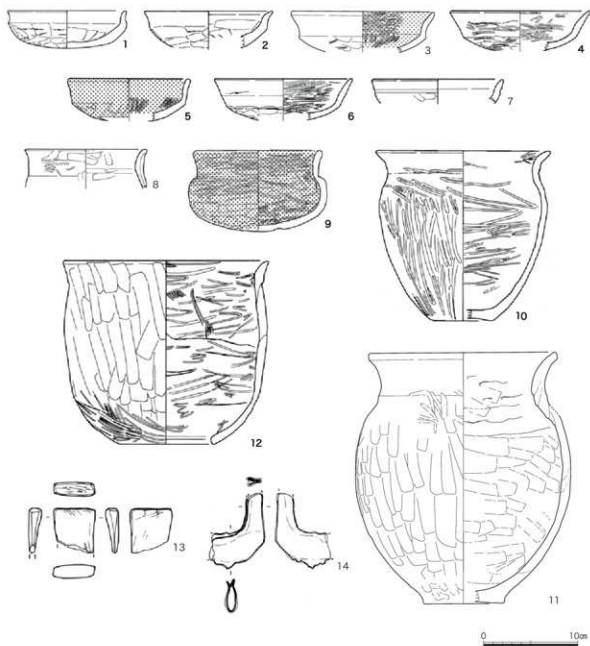
I区、グリットK5に位置する、古墳時代に属する竪穴建物跡である。北東部は調査区外で未検出、南東コーナー付近を攪乱によって、南壁の一部を中近世の土坑に壊されている。また中近世の土坑を調査の際に、張り出しピットを分離できず掘削してしまったことを断っておく。6.88×6.6mの方形を呈する。カマドは北壁中央に設置し、両袖とも遺存していた。袖はあまり焼けておらず、火床部も被熱赤化が見られなかった。貼床は施さず、柱穴はP1、P2、P3の主柱穴3本を検出した。主柱穴は深さ0.52～0.72mで柱痕跡が確認されている。各主柱穴と壁面の間には間仕切り溝が見られ、さらにそれに平行する間仕切り溝、直行する間仕切り溝が見られる。南壁近くにはP7が検出されている。また南壁中央に張り出しピットを設ける。張り出しピットは1.0×0.9m、深さ0.6mの規模で住居外側では段を設ける。この段の部分から、いずれも復元可能な遺物が集中して出土している。張り出しピットの内側にはP7が検出されている。出入り口に関係するものか、張り出しピットに関連するものと考えられる。確認面からの深さは0.2mで、レンズ状の堆積が見られることから自然堆積と考えられる。

出土遺物は、1～7が土師器坏である。丸底で体部外面に稜を有し、口縁が外反する。体部外面はヘラケズリする。1の口縁は直立気味で内面ヘラナデ、2は内面ヘラナデ、3～6は内面ヘラミガキである。3は内面を赤彩、5は内外面全面を赤彩する。6・7は口縁がやや直線的に開く。8・9は土師器の深めの鉢で、一旦直立した口縁部が外反する。9は内面と口縁部外面をヘラミガキ、体部外面はヘラケズリし、内外面全面を赤彩する。10・11は土師器甕で、口縁部が一旦直立した後外反する。12は土師器甕で、括れが弱い。13は砥石、14は鎌先である。建物の時期は、土師器坏等の特徴から6世紀前葉～中葉と考えられる。



第50図 SI-143実測図





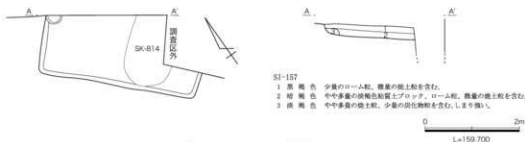
第51図 SI-143出土遺物実測図

第21表 SI-143出土土物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二 四	土器	杯	12.6		4.0	7.5YR3/1 黒黒	7.5YR7/4 にぶい橙	白色粒 小礫 雲母	普	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラケズリ 体 から底部内面ヘラケズリ	
2		土器	杯	13.6		(4.0)	10YR3/1 黒黒	10YR4/2 灰黄黒	白色粒	普	口縁から 体部1/2	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ヘラケズリ	口縁部外面に タール状附着 物あり
3		土器	杯	14.6		(4.3)	2.5YR6/4 にぶい橙 2.5YR2/1 赤黒	2.5YR5/6 明赤黒	砂粒 微量のガ ラス質粒	普	口縁から 体部3/8 周	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ後ヘラ ミガキ 口縁部内面ヨコ ナデ 体部内面ヨコナデ 後ヘラミガキ	内面赤彩 外 面タール附着
4		土器	杯	14.6		(4.2)	7.5YR5/8 明黒	7.5YR5/8 明黒	赤色粒 ガラス 質粒	良	1/4	口縁から体部外面ヘラミ ガキ 底部外面ヘラナデ 後ヘラミガキ 口縁から 底部内面ヘラミガキ	口縁部下約 1cmに輪積み 痕残る
5		土器	杯	12.6		(4.5)	2.5YR4/8 赤黒	2.5YR4/8 赤黒	白色粒	普	1/2割	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 体 から底部内面放射状ヘラ ミガキ	内外面赤彩 外面体部の面 料はほぼ剥落
6		土器	杯	14.6		(4.4)	5YR6/6 黒	5YR6/6 黒	白色粒 赤色粒	良	口縁から 体部1/4 周	口縁から体部外面ナデ 底部外面ケズリ 口縁か ら底部内面ヘラミガキ	口縁部下と体 部下部に輪積 み痕が残る
7		土器	杯	13.8		(2.7)	10YR5/3 にぶい黄黒	10YR6/4 にぶい黄橙	白色粒	普	口縁から 体部1/4 割	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラナデ 口縁か ら体部内面ヨコナデ	
8		土器	鉢	12.6		(4.3)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	口縁から 胴部一部	口縁部外面ヨコナデ、ヘ ラナデ 胴部外面ミガキ 口縁部内面ヨコナデ、ヘ ラナデ 胴部内面ヘラケ ズリ	
9	二 四	土器	鉢	13.0		8.7	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	赤色粒 白色粒 小石	良	口縁から 胴部1/2 底部ほぼ 全周	口縁部外面ヨコナデ後ヘ ラミガキ 胴部外面上位 ヘラケズリ後ヘラミガキ 下位ヘラケズリ 底部外 面ヘラケズリ 口縁部内 面ヨコナデ後ヘラミガキ 胴から底部内面ヘラナデ 後ヘラミガキ	内外面赤彩
10	二 四	土器	甕	17.8	6.2	18.0	10YR5/3 ~17/1 にぶい黄黒 ~黒	10YR2/1 黒	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	1/3欠損	口縁部外面ヨコナデ 胴 から底部外面ヘラミガキ 口縁から底部内面ヘラミ ガキ	
11	二 四	土器	甕	19.0	8.5	25.6	2.5YR3/3 ~5/2 淡黄~暗灰 黄	2.5Y7/2 灰黄	赤色粒 白色粒 黒色粒 ガラス 質粒	良	口縁1/2 胴部上平 1/2 底 部1/2欠 損	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ後上部 ヘラミガキ下部ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴 部内面ヘラナデ	
12	二 四	土器	甕	21.6	10.0	19.7	2.5YR7/3 浅黄 2.5YR3/2 黒黒	2.5Y3/3 暗 オリーブ黒 2.5YR3/2 黒黒	赤色粒 白色粒 ガラス質粒	良	口縁部 1/2 胴部 2/3 底部 3/4	口縁部外面ヨコナデ後ヘ ラケズリ 胴部から底部 外面ヘラケズリ後ヘラミ ガキ 口縁部内面ヨコナ デ後ヘラミガキ 胴から 底部内面ヘラミガキ	
13	二 四	砥石	長さ (4.8)	幅 4.4	厚さ 1.4		5Y6/2 灰オリーブ						重さ39.84g 砂岩(粒子非 常に細かい) 正・背面及び 左右側面を砥 面とする 上 側面・正面の 一部・背面の 一部に成形時 の磨痕が残る
14		鉄製品	鍔先	長さ (8.1)	幅 5.8	厚さ 1.4							重さ29.89g

SI-157 (第52図、図版四)

I区、グリットL5に位置する。3.44×1.52mの範囲を検出し、方形を呈すると考えられる。貼床は施さず、柱穴も確認できない。確認面からの深さは0.26mである。出土遺物は無し。



第52図 SI-157実測図

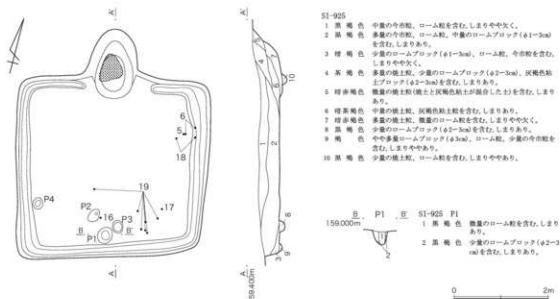
SI-925 (第53・54図、第22表、図版四・二四・二五)

I区、グリットI7に位置する。3.88×4.04mの方形を呈する。カマドは北壁中央に設置し、火床部のみ検出した。貼床は施さず、出入り口ピットP1、P3を検出した。周溝は全周で確認した。確認面からの深さは0.44mである。

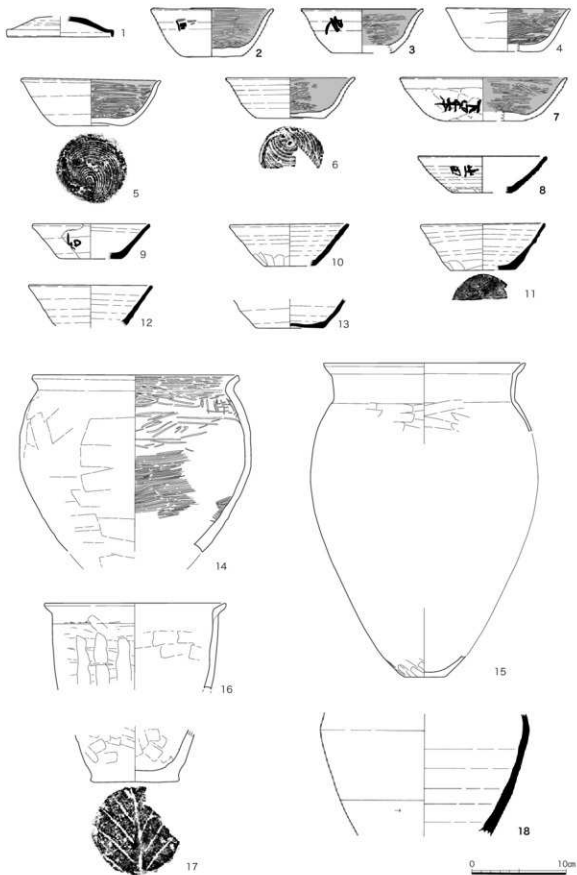
出土遺物は、1が須恵器蓋、2～7が土師器環である。2～4は口縁部が外反し、内面黒色処理を施し、口径12.8cmのほぼ同一規格品である。2は「冨」か、3は「足」を墨書する。5・6は口径14cm前後で、口縁部が外反し、内面黒色処理を施す。7は口径17.6cmで体部外面へラケズリ、内面黒色処理する。「下岡本」と墨書する。これらの土師器環は9世紀中葉の所産と考えられるが、7の環はやや古い様相を示す。

8～13は須恵器環である。口径12.0～13.5cm、器高3.7～4.7cm、体部は直線的である。8はロク口目がきつく、体部下端を細かくヘラケズリする。常陸堀之内窯産と考えられる。また体部に墨書する、「土田」か。9は直線的な体部に墨書する、「合」か。10・11は体部下端をヘラケズリする。9世紀中葉の所産と考えられる。

14～17は土師器甕、18は須恵器壺である。



第53図 SI-925実測図



第54図 SI-925出土遺物実測図

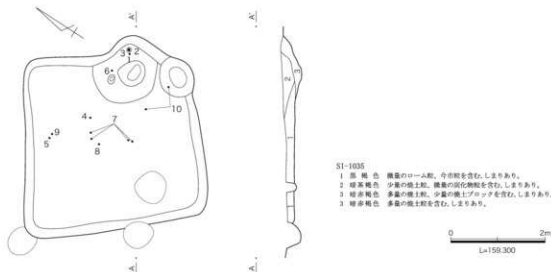
第22表 SI-925出土遺物観察表

表測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		須恵 器	蓋	107		(2.2)	10YR4/1 黒灰	10YR4/1 黒灰	白色粒	良	1/6 つまみ 部欠損	口縁から体部外面口クロナデ 後入下部1段階傾ヘラケズリ 口縁から体部内面口クロナデ	内面に自然釉附 着
2	二 四	土師 器	杯	128	6.5	5.2	10YR7/3 にぶい黄橙	N2 黒	白色細粒 黒色粗 粒 白粉	良	ほぼ定形	底部外面不定方向ヘラケズリ 仕上げ 口縁から底部外面ヘ ラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒書 「返、カ」
3	二 四	土師 器	杯	128	6.8	4.7	10YR5/4 にぶい黄	N2 黒	黒色微粒 白色細 粒	良	口縁から体 部1/4損	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒書 「返」
4		土師 器	杯	128	6.8	4.6	2.5Y7/2 灰黄緑	10YR1.7/1 黒	黒色粒 ガラス質 粒	良	1/3	底部外面傾転ヘラ切り 口縁 から底部ヘラミガキ 巻き上 げ後、ロクロ仕上げ	内面黒色処理
5	二 四	土師 器	杯	144	7.0	4.9	10YR4/2 灰黄緑	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	口縁部1/4 欠損	底部外面傾転系切り 口縁か ら底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 外面にタール削 ぎ
6		土師 器	杯	135	7.0	4.4	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒	善	1/4強	底部外面傾転系切り 口縁か ら底部内面ミガキ	内面黒色処理 外面上半が黒色
7	二 四	土師 器	杯	176	8.2	4.05	10YR5/3 にぶい黄緑	5Y2/1 黒	赤色砂粒 白色微 粒	良	1/5	体部外面ヘラケズリ 底部 外面ヘラ仕上げ 口縁から底部 ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒書 「下返本」
8		須恵 器	杯	135	6.2	3.9	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/2 灰黄	青灰色粗粒 白色 細粒	良	1/4弱	体部外面下縁手持ちヘラケズ リ 底部外面ヘラケズリ仕上げ	体部外面に黒書 「土山ホ」
9	二 四	須恵 器	杯	122	6.2	3.7	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	白色粒 ガラス質 粒	良	1/4	底部外面ヘラケズリ仕上げ?	底部直上に摩耗 面が露る 体部外面に黒書 「合、カ」
10		須恵 器	杯	120	5.4	4.5	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	白色粒 ガラス質 粒	良	体部1/4	底部外面ヘラ切り 外面底部 にヘラ記付 底部切り難し後 体部下位部位で傾転ヘラケズ リ	
11		須恵 器	杯	130	6.8	4.7	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	白色粒	良	1/3	底部外面ヘラケズリ仕上げ 底部にヘラ書き有り 切り難 し後部位で傾転ヘラケズリ	
12		須恵 器	杯	126		(4.4)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	白色粒	良	体部1/4	口縁から体部外面口クロナデ 下縁を手持ちヘラケズリ 口 縁から体部内面口クロナデ	
13		須恵 器	杯		7.0	(3.2)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 小石	良	体部1/4体 部上位1強	底部外面傾転ヘラ切り	
14	二 五	土師 器	甕	21.4		(20.5)	7.5YR7/8 黄緑 10YR8/6 黄橙	2.5Y3/1 黄灰	雲母鱗片 ガラス 質粒 砂粒	良	口縁部1/2 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴部外 面ヘラナデ 口縁部内面ヨコ ナデ 胴部内面ヘラケズリ	
15		土師 器	甕	21.0			5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	白色細粒	善	口縁1/2 胴 部一部の み 底部完 存	口縁部外面ヨコナデ 胴底部 外面ヘラケズリ 口縁部内面 ヨコナデ 胴部ヘラナデ	
16		土師 器	甕	19.0		(9.2)	7.5YR6/6 明黄緑	2.5Y7/6 明黄緑	微砂粒 雲母鱗片 含む	良	口縁1/8	口縁部外面ヨコナデ 胴部外 面傾転ヘラナデ後縦ケズリ 口 縁部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラナデ後ナデ 調整最終 段階で縦位のケズリを調整を あけていっている	口縁部外面、口 縁内面から胴部 上位内面ス削面 露出
17		土師 器	甕		8.8	(5.5)	5YR7/8 暗 7.5YR7/6 暗	5YR6/6 暗	白色粒 雲母 砂 粒 ガラス質粒	良	底部一部欠 損 胴部 一部欠損	胴部外面ヘラナデ 底部外面 傾転 胴部内面ヘラ ナデ	内面は胴面の削 面がみられる
18		須恵 器	蓋			(13.2)	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	白色粒 青灰粒 雲母片	良	胴部1/4強	胴部外面口クロナデ後下縁を ヘラケズリ 胴部内面口クロ ナデ	

## SI-1035 (第55・56図、第23表、図版四・五・二五)

Ⅱ区、グリットL15に位置する。3.72×3.76mの方形を呈する。カマドは北壁東寄りに設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さない。確認面からの深さは0.24mである。

出土遺物は、1が土師器環である。回転系切り、体部下端ヘラケズリし、内面はヘラミガキする。2～4は須恵器環である。小口径で器高があり、体部は内湾、下端をヘラケズリする。5は灰軸陶器皿である。軸は漬け掛けで、高台は幅広いの三日月高台が底部端に付く。6～8は土師器甕、9・10は須恵器甕である。10の須恵器甕は、体部外面下端に焼成時に癒着した甕の破片が貼り付いている。建物の時期は土師器環、須恵器環、灰軸陶器皿の特徴から、9世紀末～10世紀初めと考えられる。

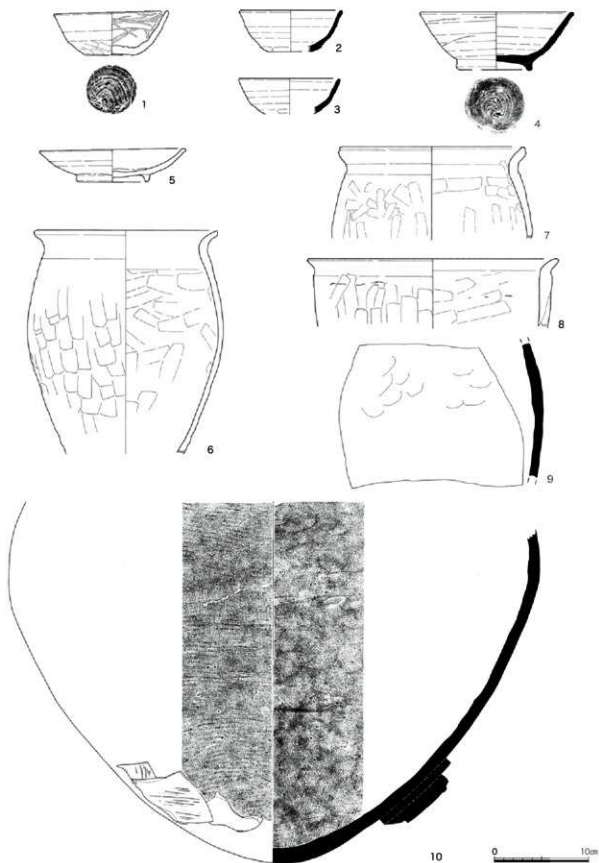


SI-1035  
 1 黒褐色 燻製のローム期。今市期を含む。しりりあり。  
 2 暗赤褐色 少量の焼土粒。燻製の炭化物粒を含む。しりりあり。  
 3 暗赤褐色 多量の焼土粒。少量の炭上チップを含む。しりりあり。  
 4 暗赤褐色 多量の焼土粒を含む。しりりあり。

第55図 SI-1035実測図

第23表 SI-1035出土遺物観察表

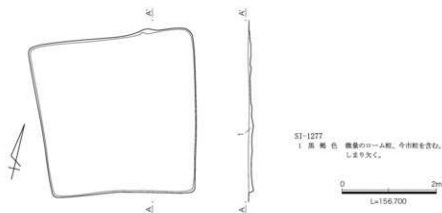
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二五	土師器	坏	11.7	5.0	4.6	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色粒 石英	良	ほぼ定形	外面体部下端部転へラケズリ 体部内面へラミガキ	
2		須恵器	坏	10.8	4.8	4.5	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色粒 黒色粒 小石 雲母	良	1/2	体部外面下位は粘土を貼った後同転へラケズリ 回転方向は逆位にした場合反時計廻り ロケ口回転方向不明	全体が酸化している
3		須恵器	坏	10.6		(3.8)	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	白色粒 雲母 白針	良	1/8周	体部外面下位部転へラケズリ 回転方向は逆位であれば反時計廻り	全体が酸化している
4		須恵器	高台付坏	16.2	7.4	6.2	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	白色粒 黒色粒 小石	良	底部完存 体部 1/6周	底部外面回転糸切り後高台貼り付け	全体が酸化 外面から割れ 口にタール状 の附着物あり 外面に輪積 み痕が残る 後ロケ口成 形
5	二五	灰輪 陶器	皿	15.3	7.0	3.4	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/1 灰	2.5Y7/2 ~7/1 灰黄~灰	砂粒	良	3/4	底部外面回転糸切り後高台貼り付け	輪漬け掛け
6	二五	土師器	甗	19.4		(23.8)	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	白色粒 黒色粒 赤色粒 ガラス 質粒	良	口縁から 胴部1/2 周	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面方向へラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面へラナデ	
7		土師器	甗	19.4		(9.8)	5YR5/8 明赤褐色 10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	白色粒 雲母 赤色粒 ガラス 質粒	良	口縁部 3/4 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面へラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面へラナデ	
8		土師器	甗	26.8		(7.3)	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母片	良	胴部半位 1/4周	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面へラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面へラナデ	胴部上位に輪積み痕残る
9		須恵器	甗			(14.2)	5YR5/4 にぶい黄褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒 黒色粒	良	破片	胴部外面口ケ口成り 胴部内面当て具	酸化により全面赤化
10	二五	須恵器	甗			(38.7)	10YR1.7/1 黒	10YR3/1 黒褐色	白色細~粗粒 黒色細~粗粒	良	胴部下半 1/2周		甗破片が軸着



第56図 SI-1035出土遺物実測図

SI-1277 (第57図、図版五)

V区、グリットA 129に位置する。掘り方のみを検出で、3.3×3.24mの方形を呈する。カマドは北壁東寄りに設置したものと考えられる。出土遺物は無し。

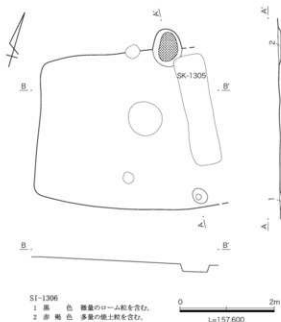


第57図 SI-1277実測図

SI-1306 (第58・59図、第24表、図版五・二八)

V区、グリットAK29に位置する。掘り方の一部のみ検出した。カマドは北壁東寄りに設置し、火床部を検出した。

出土遺物は、土師器環が出土している。1は口径15.2cm、開き気味な体部で、内面黒色処理する。2は口径13.8cm、開き気味な体部で、内面をヘلاميガキする。3は灰軸陶器の碗破片である。建物の時期は9世紀中葉頃か。



第58図 SI-1306実測図





第59図 SI-1306出土遺物実測図

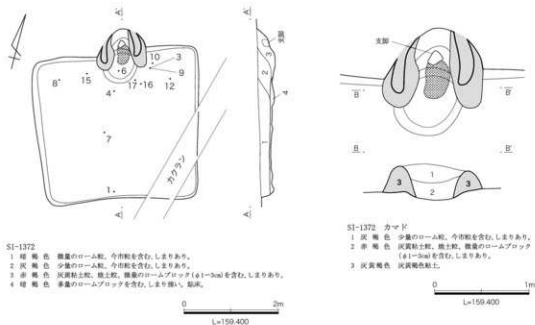
第24表 SI-1306出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	杯	15.2		(5.1)	10YR4/1 見境 10YR8/4 浅黄橙	10YR4/1 褐灰 10YR7/3 にぶい黄橙	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母微 片 ガラス質粒	良	口縁から 体部1/8	口縁から体部外面口 ナデ 口縁から体部ヨコ 方向へラミガキ	内面黒色処理
2		土師 器	杯	13.8		(4.4)	7.5YR6/8 橙 7.5YR5/1 褐灰	7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR2/1 黒	白色粒 赤色粒 雲母微片少量	良	口縁から 体部1/8	口縁から体部内面へラ ミガキ	
3	二 八	灰輪 陶器	碗			(3.8)	5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	精良	良	破片	内外面ともに口 ナデ 内面に施輪	

SI-1372 (第60・61図、第25表、図版五・二五・二九)

I区、グリットK6に位置する。3.02×3.44mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し、灰黄褐色粘土で構築された両袖も遺存していた。赤化した火床部が検出され、その奥に支脚が据えられた状態で出土した。床は全面に貼床を施す。周溝は確認されていない。確認面からの深さは0.24mである。

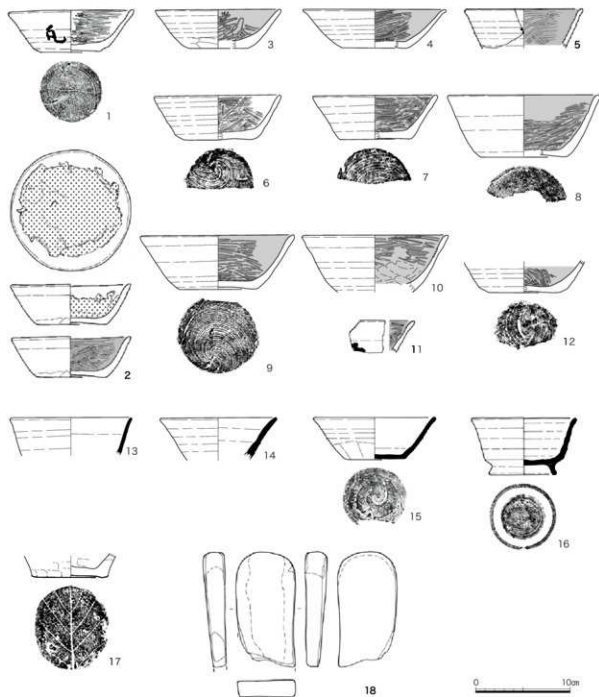
出土遺物は、1～12が土師器環である。1は体部下端に括れを持ち、体部外面に「丸」を墨書する。2は口径12.6cmで、体部下端にヘラケズリを施す。内部に漆が附着しており、厚いところでは8mm程度の厚さがある。漆容器として用いられたと考えられる。8～12は口径15cm以降、器高6cm前後で大型の環である。口縁端部が肥厚してやや外反する。13～15は須恵器環で体部が開き、口縁が外反する。15は体部下端をヘラケズリする。16は須恵器高台付き環である。17は土師器甕、18は砥石である。建物の時期は、土師器環・須恵器環の特徴から9世紀中葉～後葉と考えられる。



- SI-1372
- 1 壁 色 黄褐色のローム配。今市砂を含む。しまりあり。
  - 2 灰 色 少量のローム配。今市砂を含む。しまりあり。
  - 3 赤 色 灰黄粘土配。焼土配。黄褐色のロームブロック (φ1-3cm) を含む。しまりあり。
  - 4 壁 色 少量のロームブロックを含む。しまり無し。貼床。

- SI-1372 カマド
- 1 灰 色 少量のローム配。今市砂を含む。しまりあり。
  - 2 赤 色 灰黄粘土配。焼土配。黄褐色のロームブロック (φ1-3cm) を含む。しまりあり。
  - 3 灰黄褐色 灰黄褐色粘土。

第60図 SI-1372実測図



第61図 SI-1372出土遺物実測図

第25表 SI-1372出土遺物観察表

実測 図版 No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二五	土師器	坏	13.2	6.4	4.6	10YR5/4 に赤い黄褐色	7.5YR6/4 に赤い橙	白色粒 赤色粒	良	完形	底部外面回転糸切り磨し 口縁から底部内面ヘラミガキ	底部外面に墨書
2	二五	土師器	坏	12.6	7.5	4.3	10YR6/4 に赤い黄褐色	N1.5 黒	白色細粒 黒色細粒	良	完形	底部外面下端手持ちヘラケズリ 底部外面回転糸切り磨し 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理・漆残存
3		土師器	坏	12.9	6.0	4.1	10YR5/2 灰黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 ガラス質粒	普	1/4弱	底部外面下位ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 底部ヘラケズリの際所の器面が荒れている
4		土師器	坏	14.8	6.8	4.1	7.5YR5/4 に赤い橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粒	良	1/8	口縁から底部内面ヘラミガキ	底部下位タール附着 内面黒色処理
5	二九	土師器	坏	12.4		(4.2)	10YR6/4 に赤い黄褐色	N1.5 黒	黒色微粒 白色砂粒	良	1/8弱	口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 底部外面に墨書
6		土師器	坏	13.0	7.0	4.7	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙 2.5YR7/4 浅黄	雲母 ガラス質粒 砂粒 白色粒	良	口縁部1/5 底部1/2	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	
7		土師器	坏	12.8	7.4	4.6	10YR7/6 明黄褐色	10YR2/1 黒	雲母薄片少量 白色粒	良	口縁から 底部1/3 底部1/2	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
8		土師器	坏	15.6	9.0	6.6	10YR5/3 に赤い黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒	良	1/2弱	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	底部内面磨耗甚しい 内面黒色処理
9		土師器	坏	15.8	8.0	5.7	7.5YR6/4 に赤い橙 7.5YR6/6 橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒	良	口縁から 底部半完形	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
10		土師器	坏	15.2		(6.1)	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR3/1 黒褐色	赤色粒 黒色粒 白色粒 雲母片	良	底部1/4	口縁から底部内面上半ヘラミガキ 底部内面下半ヘラナデ	内面黒色処理
11	二九	土師器	坏			(3.4)	10YR5/4 に赤い黄褐色	N1.5 黒	黒色微粒	良	破片	口縁から底部外周口ロナデ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 底部外面に墨書
12		土師器	坏		7.4	(3.2)	10YR8/4 浅黄褐色	10YR2/1 黒	砂粒 雲母薄片少量	良	体一部残存 底部1/2	底部外面回転糸切り 体から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
13		須恵器	坏	12.6		(4.1)	5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰白	5Y7/1 灰	雲母薄片・ガラス質粒やや多量 砂粒	良	口縁部1/9 体一部残存	口縁から底部内外面ともに口ロナデ	
14		須恵器	坏	12.2		(4.5)	5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰白	5Y7/1 灰白	雲母 砂粒 白色粒	良	口縁部1/4 体一部残存	口縁から底部内面ヘラミガキ	
15		須恵器	坏	12.8	6.4	4.5	5YR7/1 灰白	5YR7/1 灰白	金雲母片 白色粒	良	口縁から 底部1/4 底部完形	底部外面下端手持ちヘラケズリ 底部外面回転ヘラ切り	
16	二五	須恵器	高台付坏	10.9	7.0	6.8	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	白色粒 黒色粒	良	完形	底部外面回転糸切り磨し 後高台貼り付け	
17		土師器	甕		7.8	(2.6)	10YR6/3 に赤い黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	ガラス質粒 赤色粒 白色粒 雲母多量	良	底部完形	底部外面横位ヘラナデ 底部外面木炭痕 底部内面ヘラナデ	底部木炭痕あり
18	二五		砥石	長さ(122)	幅6.0	厚さ1.7	5Y6/2 灰オリーブ						よく締まっていて強い砂割製 279.0g 正面及び左右側面を砥面として使用 正面は中央部分を特に利用している。背面及び上側面は砥面としないが丁寧に成形されている

SI-1373 (第62・63図、第26表、図版五・三〇)

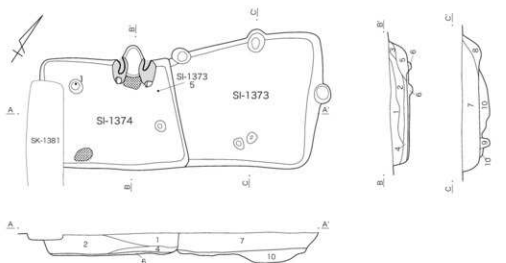
I区、グリットK 6に位置する。重複するSI-1374に切られておりSI-1374が新しい。2.68×3.0mの範囲を検出し、やや偏平な方形を呈する。カマドは北壁東寄りに設置し、袖は残存していなかった。全面に貼床を施し、出入り口ピットを検出した。確認面からの深さは0.4mである。

出土遺物は、1が須恵器蓋、2・3が須恵器坏、4・5が土師器裏である。3は底部外面に「∅」の記号を墨書する。9世紀中葉頃の所産か。

SI-1374 (第62・64図、第27表、図版五・二五)

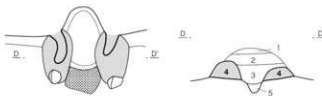
I区、グリットK 6に位置する。重複するSI-1373を切っておりSI-1374が新しい。2.3×2.62mのやや偏平な方形を呈する。カマドは北壁東寄りに設置し、両袖は袖芯材として自然礫を用いている。全面に貼床を施し、柱穴は主柱穴と思われる2本を検出した。確認面からの深さは0.4mである。

出土遺物は、土師器の小型の鉢形土器が出土している。建物の時期はSI-1373に続く9世紀中葉以降か。



- SI-1374
- 1 黒 褐色 多量のローム粉、少量の灰白色粘土。微量の白色粘土を  
含む。しまりあり。
  - 2 黒 褐色 少量のローム粉を含む。しまりあり。
  - 3 黒 褐色 微量のローム粉を含む。しまりあり。
  - 4 暗 褐色 多量の灰白色粘土。少量の粘土粉を含む。しまりあり。
  - 5 灰 褐色 多量の灰白色粘土。粘土粉を含む。しまりあり。
  - 6 暗 褐色 多量のロームブロック(φ5-10cm)を含む。しまり強い。証床。

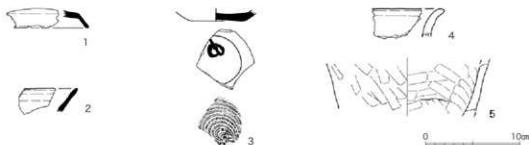
- SI-1373
- 7 黒 褐色 中量のローム粉を含む。しまりあり。
  - 8 黒 褐色 多量のローム粉を含む。しまりあり。
  - 9 黒 褐色 微量のローム粉を含む。しまりあり。
  - 10 暗 褐色 多量のロームブロック(φ10-20cm)を含む。しまり強い。証床。



- SI-1374 カマド
- 1 黒 褐色 微量のローム粉を含む。しまりあり。
  - 2 暗 褐色 多量の灰白色粘土。少量の粘土粉を含む。しまりあり。
  - 3 灰 褐色 多量の灰白色粘土。粘土粉を含む。しまりあり。
  - 4 暗 褐色 しまりあり。
  - 5 暗 褐色 多量のロームブロック(φ5-10cm)を含む。しまり強い。証床。



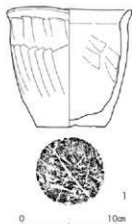
第62図 SI-1373・1374実測図



第63図 SI-1373出土遺物実測図

第26表 SI-1373出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		須恵器	蓋			(2.0)	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	白色粒 ガラス質粒	良	破片	内外面ともにロクロナデ	
2		須恵器	坏			(2.4)	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	白色粒	良	破片	体部外面ロクロナデ	
3	三〇	須恵器	坏	5.8		(1.2)	5Y6/2 灰オリーブ	5Y7/2 灰白	白色粒	良	底部1/4	底部外面回転糸切り	底部外面に墨書
4		土師器	甕			(3.1)	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色粒 石英	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ヨコナデ	
5		土師器	甕			(5.2)	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色粒 雲母 石英	普	胴部のみ 一部1/2	胴部外面ヘラナデ 胴部内面ヘラナデ	上下端が接合 痕で割れている



第64図 SI-1374出土遺物実測図

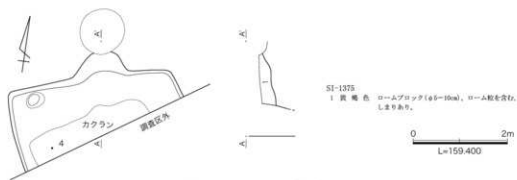
第27表 SI-1374出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
I	二五	土師器	甕	12.8	7.2	12.6	10YR5/2 灰黄褐色 7.5YR5/2 灰褐色	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y3/1 黒褐色	白色粒 小石 黒色粒 ガラス 質粒	良	ほぼ完形	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ ズリ 底部外面木葉痕 口縁部内面ヨ コナデ 胴部から底部内面ヘラナデ	

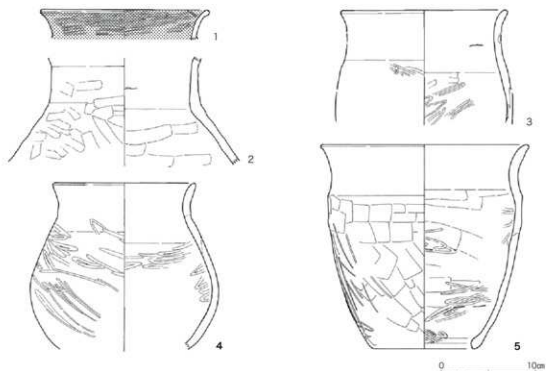
SI-1375 (第65・66図、第28表、図版六)

I区、グリットK7に位置する古墳時代に属する竪穴建物跡である。3.64×1.8mの範囲で検出した。南半は調査区外で、さらに建物中央を攪乱によって壊されている。カマドは北壁に設置し、袖は残存していなかった。確認面からの深さは0.28mである。

出土物は、土師器の甕と甔が出土している。1は口縁破片で内外面に赤彩を施す。2は一旦直立した口縁が外反する甕、3・4は括れの弱い甕、5は外面に稜をもち口縁の外反する甔で、内面にヘラミガキを施す。6世紀前葉～中葉の所産と考えられる。



第65図 SI-1375実測図



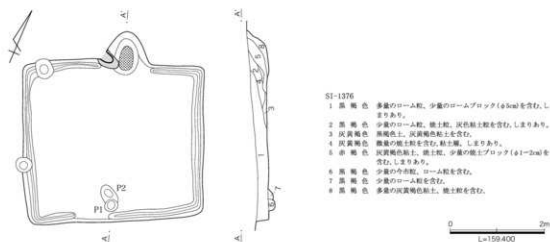
第66図 SI-1375出土遺物実測図

第28表 SI-1375出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼成	残存率	調 整	備 考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1		土師 器	甕	17.4		(3.1)	2.5YR3/6 暗赤褐	2.5YR3/6 暗赤褐	白色粒 黒色粒	赤色粒	普	1/4のみ	口縁部外面ミガキ 口縁 部内面ミガキ	内外面赤彩
2		土師 器	甕			(11.2)	5YR5/8 明赤褐 10YR6/3 にぶい黄褐	2.5Y4.1 黄灰	白色粒 ガラス質粒 小石	赤色粒	普	破片	口縁部外面ヨコナデ 制 部外面ヨコナデ・ヘラケ ズリ 口縁部内面ヨコナ デ	
3		土師 器	甕	17.2		(12.0)	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/2 暗灰黄	白色粒 赤色粒	黒色粒	良	口縁から 制部上段 1/4現	口縁部外面ヨコナデ 制 部外面ミガキ 口縁部内 面ヨコナデ 制部内面ヘ ラナデ後ミガキ	外面剥離著し 内面にス ズ附着
4		土師 器	甕	14.8		(17.7)	10YR3/4 暗褐	10YR3/3 暗褐	白色粒 金雲母片	赤色粒	良	口縁から 制部1/3 周	口縁部外面ヨコナデ 制 部外面ナデ後ミガキ 口 縁部内面ヨコナデ 制部 内面ナデ後ミガキ	
5		土師 器	甕	21.8	10.6	21.8	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/4 にぶい黄燈	白色粒 小石	赤色粒	良	1/2	口縁部外面ヨコナデ 制 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 制部内 面ヘラミガキ・ナデ	

SI-1376 (第67図、図版六)

I区、グリットJ7に位置する。3.48×3.8mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し、右袖と火床部が遺存していた。貼床は施さず、柱穴は出入り口ピットP1、P2を検出した。周溝はほぼ全周で確認した。確認面からの深さは0.24mである。出土遺物は無し。

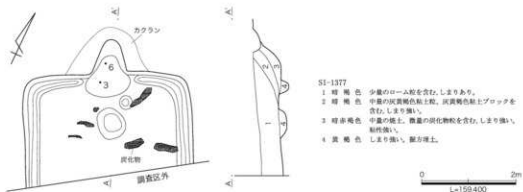


第67図 SI-1376実測図

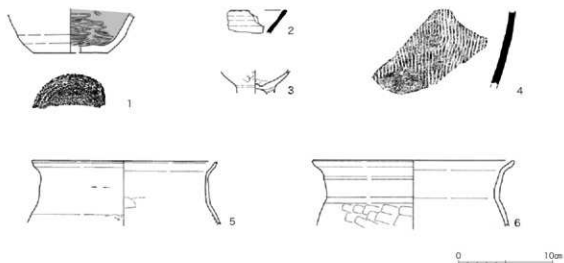
SI-1377 (第68・69図、第29表、図版六)

I区、グリットI8に位置する。3.52×2.2mの範囲を検出した。カマドは北壁に設置し、袖は残存していなかった。貼床は施さず、周溝は検出範囲内はすべて確認した。炭化材が出土している。確認面からの深さは0.44mである。

出土遺物は、1は土師器の坏である。内面黒色処理で、底部外面は回転ヘラ切りである。2は須恵器坏で、直線的な口縁部である。4は須恵器甕、3は土師器台付甕、5・6は土師器の甕である。建物の年代は、土師器坏、須恵器坏の特徴から9世紀中葉～後葉の所産か。



第68図 SI-1377実測図



第69図 SI-1377出土遺物実測図

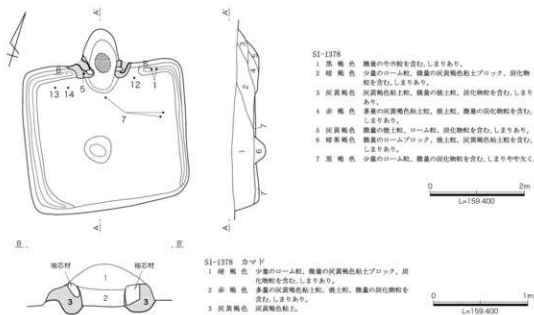
第29表 SI-1377出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	環	8.0	(4.3)	10YR6/8 明黄褐 10YR6/1 褐灰	10YR2/1 黒	白色粒 雲母微 片少量 ガラス 質粒	良	体から底 部1/2	体部外面ミガキ 底部内面ヘラミガキ	体部外 面回転ヘラ切り 体から 底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
2		須恵 器	環		(2.6)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	白色粒	良	破片	口縁部外面ロクロナデ 口縁部内面ロクロナデ		
3		土師 器	台付 甕		(2.5)	5YR4/4 にぶい、赤褐	5YR4/4 にぶい、赤褐	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	底部のみ	体部外面ヘラナデ		
4		土師 器	甕		(7.8)	10YR5/3 にぶい、黄褐	10YR5/3 にぶい、黄褐	赤色粒 白色粒 雲母	良	破片	胴部外面平行印き		
5		土師 器	甕	19.8	(6.8)	5Y5/6 明赤褐	5Y5/6 明赤褐	白色粒 雲母微片	良	口縁部 1/3弱	口縁から胴部外面ナデ 口縁から胴部内面ナデ	胴部中位にか すかに輪積み 痕が残る	
6		土師 器	甕	21.5	(7.0)	7.5YR3/3 暗褐	7.5YR5/6 明褐	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	1/4弱	口縁部外面ヨコナデ 口縁部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ	内面剥落痕が 多い、口縁部 外面にターム 附着	

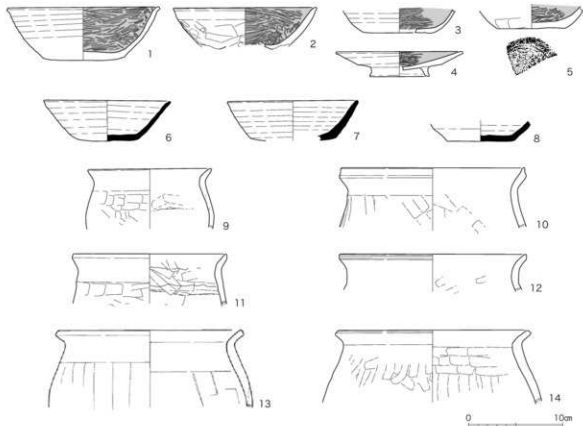


SI-1378 (第70・71図、図版六・二五)

I区、グリットI8区に位置する。3.12×3.5mのやや偏平な方形を呈する。カマドは北壁中央に設置し、袖は灰黄褐色粘土と自然礫を用いて構築している。貼床は施さず、周溝は南壁を除き確認した。確認面からの深さは0.46mである。



第70図 SI-1378実測図



第71図 SI-1378出土遺物実測図

出土遺物は、1～3・5が土師器環でいずれも内面黒色処理する。1は体部がやや内湾して立ち上がり、口縁が外反する。底部は回転糸切り後、周縁部をヘラケズリする。2は体部外面をヘラケズリする。5は底部回転糸切りで体部下端を手持ちヘラケズリする。4は土師器皿で、高台は外傾する。6～8は須恵器環である。6・7は直線的な体部と口縁を持つ。9～14は土師器甕である。9はくの字に外反するもの、10は口縁端部をつまむもの、11・12は口縁端をわずかにつまんで面を形成するもの、13・14は口縁端に面を形成するもの。建物の時期は土師器環、須恵器環の特徴から、9世紀後葉と考えられる。

第30表 SI-1378出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二五	土師器	環	15.6	8.8	5.6	10YR7/4 にぶい黄緑 10YR8/3 浅黄緑	10YR2/1 黒 10YR8/3 浅黄緑	白色粒 ガラス 質粒 砂粒	良	口縁から 体部1/2 底部一部 欠損	底部外面回転糸切り周囲 ヘラケズリ 口縁から底部 内面ヘラミガキ	内面黒色処理 多面摩擦が激しい
2		土師器	環	14.8		(4.0)	10YR1.7/1 黒 10YR5/4 にぶい黄緑	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒	良	1/2	体部外面ヘラケズリ 口 縁から底部内面ミガキ ロコナデ成形しながら コナデ後ヘラケズリ	内面黒色処理
3		土師器	環		7.0	(2.4)	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y2/1 黒	赤色粒 黒色粒	良	底から体 部下位 部1/2	底部外面回転糸切り 体から底部内面ヘラミガ キ ロコ回転方向不明	内面黒色処理
4		土師器	皿	13.0	6.0	2.6	10YR7/4 にぶい黄緑	10YR1.7/1 黒	白色粒 ガラス質粒	良	1/8	底部外面回転糸切り磨し 後高台付付 口縁から底 部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
5		土師器	環		6.8	(2.3)	10YR4/3 にぶい黄緑	5YR5/6～ 1.7/1 明赤褐～黒	白色粒 ガラス質粒	良	底部1/4	底部外面回転糸切り磨し 体から底部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理
6	二五	須恵器	環	13.0	6.6	4.4	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	白色粒 小石	良	口縁から 体部上半 1/2欠損	底部外面回転糸切り 武 部は平滑 成形時のもの か使用痕によるものかは 不明	内面口縁部付 近・外面口縁 から体部下位 スズ附着
7		須恵器	環	13.5	8.0	(4.3)	10YR5/3 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	1/8	口縁から体部内外面とも にロコナデ 底部外面 ヘラケズリ	
8		須恵器	環		6.6	(2.4)	10YR7/3 にぶい黄緑	10YR1.7/1 黒	白色粒	良	破片	体部内面ヘラミガキ	
9		土師器	甕	12.7		(6.3)	10YR6/3 にぶい黄緑	10YR7/3 にぶい黄緑	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母	良	口縁から 胴部上半 1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラケズリ	
10		土師器	甕	19.0		(6.4)	5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	白色粒 赤色粒 黒色粒 粗砂粒 ガラス質粒	良	口縁から 胴部上位 1/3	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラケズリ	
11		土師器	甕	16.0		(5.2)	7.5YR5/6 明褐 10YR6/4 にぶい黄緑	7.5YR8/6 浅黄緑	白色粒 砂粒 雲母少量	良	口縁部 1/5 胴部 一部残存	口縁部 外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部 内面ヘラケズリ	
12		土師器	甕	19.4		(4.0)	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	口縁部 1/2	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ 胴部 内面ヘラケズリ	
13		土師器	甕	19.4		(8.2)	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	白色粒 赤色粒 雲母片	良	口縁から 胴部上位 1/4周	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面縦方向ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴 部内面縦方向ヘラケズリ	
14		土師器	甕	19.6		(7.5)	7.5YR6/8 橙 10YR7/4 にぶい黄緑	5YR6/8 橙	雲母 ガラス質 粒 白色粒 砂 粒	良	口縁から 胴部1/2	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラケズリ	外面に黒斑あり

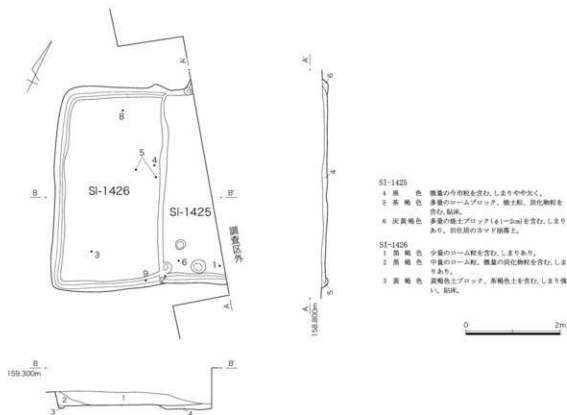
SI-1425 (第72・73図、第31表、図版六・二五)

Ⅱ区、グリットN16に位置する。重複するSI-1426に切られておりSI-1426が新しい。4.12×1.4mの範囲を検出しカマドは北壁西寄りに設置したと考えられる。袖は残存していなかった。貼床は施さず、周溝は南側で確認した。確認面からの深さは0.28mである。

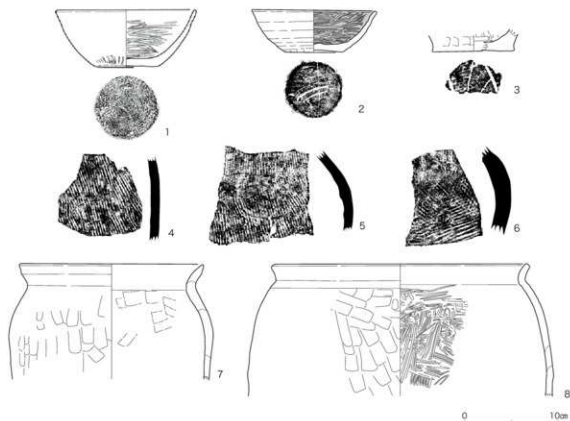
SI-1426 (第72・73図、第31表)

Ⅱ区、グリットN16に位置する。重複するSI-1425を切っておりSI-1426が新しい。4.24×2.2mの範囲を検出した。貼床は施さず、周溝は検出範囲内はすべて検出した。確認面からの深さは0.32mである。

SI-1425とSI-1426の遺物は、重複の関係上分離が難しく、一括で取り上げた。1・2・6は所属が決めがたいが、3・4・5・7・8はSI-1426の遺物と言えそうである。ここではSI-1425・1426一括として取り扱う。1・2は土師器環である。大型で、体部の内湾する碗形を呈する。体部下端をヘラケズリする。1は口縁が外反せず、より碗形を呈する。底部外面は切り離した後回転ヘラケズリする。2は口縁が外反し、内面黒色処理する。底部外面は回転糸切り後周囲をヘラケズリする。4～6は須恵器甕、3・7・8は土師器甕である。8は口縁部が短い。これらの遺物の特徴から、SI-1425・1426の時期は9世紀末～10世紀前葉と考えられる。



第72図 SI-1425・1426実測図



第73図 SI-1425・1426出土遺物実測図

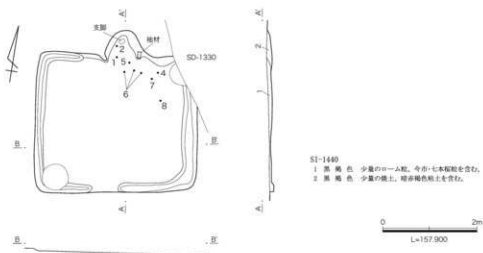
第31表 SI-1425・1426出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二五	土師器	坏	14.7	6.6	6.1	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y3/1 黒黒	白色針状物質 雲母 白色細粒	良	2/3	体部外面下端部からヘラケズリ 底部外面回転ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	
2	二五	土師器	坏	13.0	6.0	4.4	10YR8/6 黄橙 5YR7/6 橙	10YR8/6 黄橙 10YR2/1 黒	砂粒 赤色粒 やや多量の雲母片 ガラス質粒	良	口縁から体部2/3 底部全周	底部外面回転糸切り後内面ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 底部外面にヘラ記号「一」
3		土師器	甗		8.4	(1.7)	10YR7/6 明黄褐色 5YR7/6 橙	10YR7/2 にぶい黄褐色	砂粒少量	良	底部1/4 周	胴部外面ヘラナデ 底部外面木炭痕	
4		須恵器	甗			(9.0)	5Y2/1 黒	5Y オリーブ黒	砂粒 白色粒や や多量	良	破片	胴部外面平行タタキ目 胴部内面当て具痕	
5		須恵器	甗			(9.0)	7.5Y7/1 灰白 7.5Y2/1 黒	7.5Y3/1 オリーブ黒	白色粒	良	破片	胴部外面平行タタキ目 胴部内面当て具痕	
6		須恵器	甗			(9.4)	2.5Y7/2 灰黄	5Y6/3 オリーブ黄	砂粒 白色粒 黒色粒含む	良	破片	胴部外面タタキ目 胴部内面当て具痕	
7		土師器	甗	19.2		(12.4)	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	ガラス質粒少量 砂粒やや多量	良	口縁から 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	
8		土師器	甗	26.4		(14.0)	10YR4/1 褐灰 10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒	小礫 砂粒 ガラス質微粒	良	口縁部 1/12 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ後ヘラミガキ	内面黒色処理

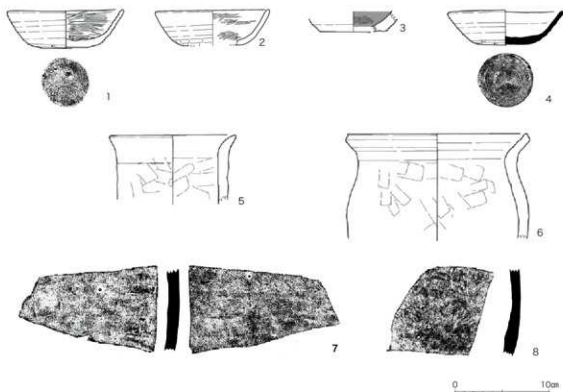
SI-1440 (第74・75図、図版六・二五)

V区、グリットAF29に位置する。北東コーナー部を重複する中世の溝に切られる。2.92×3.4mの方形を呈す。カマドは北壁に設置し、袖は遺存していなかったが、袖芯材の自然礫と支脚が検出された。貼床は施さず、周溝は出入り口部と思われる部分を除き、ほぼ全周する。確認面からの深さは0.08mである。

出土遺物は、1～3が土師器環である。1・2は体部下端をヘラケズリする。4は須恵器環で、体部下端を回転ヘラケズリする。5・6が土師器甕、7・8が須恵器甕である。土師器環、須恵器環の特徴から、建物の時期は9世紀後葉と考えられる。



第74図 SI-1440実測図



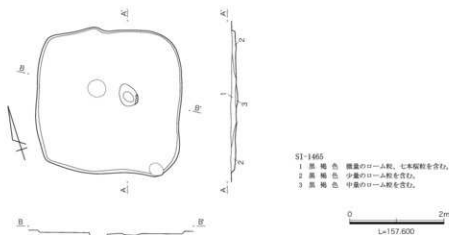
第75図 SI-1440出土遺物実測図

第32表 SI-1440出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考
				口徑	底徑	高さ	外	内					
1	二五	土師器	杯	12.2	5.2	4.1	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	白色粒 黒色粒 雲母片	良	ほぼ完形	体部外面下位・底部外面 回転ヘラケズリ	
2		土師器	杯	11.7	6.5	(3.7)	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	白色粒 赤色粒	良	1/4強	体部外面下位回転ヘラケ ズリ 底部切り離し後逆 位にして時計廻りで体部 下位回転ヘラ切り。口縁 から底部内面へラミ付キ	
3		土師器	杯		7.0	(2.3)	10YR8/3 浅黄橙	10YR2/1 黒濁	白色粒 砂粒	良	破片	底部外面回転赤切り。体 から底部内面へラミ付キ	内面黒色処理
4		須恵器	杯	12.2	5.8	3.65	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	白色粒 雲母片	良	完形	体部外面下位回転ヘラケ ズリ 底部外面回転ヘラ 切り	
5		土師器	甕	13.4		(7.4)	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	白色粒 砂粒 雲母微片	良	口縁 破片	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部 内面ヘラナデ	外面に輪積み 内面を残す
6		土師器	甕	19.0		(11.0)	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	白色粒 石英 霏石	普	口縁から 胴部1/4	胴部外面ヘラナデ 胴部 内面ヘラナデ	外面に赤化し た粘土状の附 着物あり
7		須恵器	甕			(8.7)	10Y4/1 灰	7.5YR5/1 灰	白色粒 黒色粒	良	破片	胴部外面平行タタキ目	
8		須恵器	甕			(9.0)	2.5YR5/1 黄灰	5Y6/1 灰	白色粒 黒色粒 砂粒	良	破片	内外面ともにナデ	内面に接合痕 を残す

SI-1465 (第76図、図版七)

V区、グリットAK30に位置する。3.0×3.04mの方形を呈す。削平のため遺存状態が悪く、カマドは確認できなかったが、北壁西よりの突出部がカマドの痕跡か。貼床は施さず、周溝も確認されなかった。確認面からの深さは0.14mである。出土遺物は無し。



第76図 SI-1465実測図

SI-1467 (第77図)

V区、グリットAL31に位置する。4.5×0.68mの範囲を検出した。貼床は施さず、周溝も確認されなかった。確認面からの深さは0.14mである。出土遺物は無し。

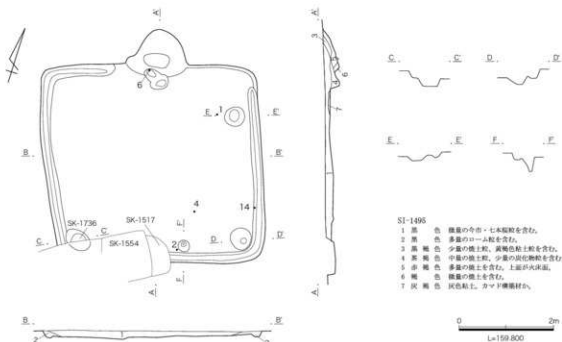


第77図 SI-1467実測図

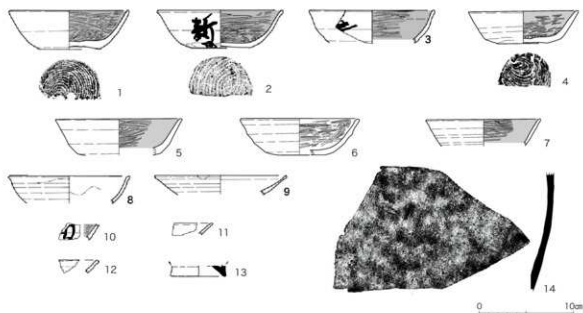
SI-1495 (第78・79図、第33表、図版七・二六・二八・二九)

V区、グリットAJ31に位置する。南壁を重複する中近世の土坑によって壊されている。4.2×4.6mの形状を呈す。カマドは北壁に設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝は北壁東側を除いて検出した。柱穴は主柱穴と考えられる3本と出入口ピットと考えられる1本を確認した。確認面からの深さは0.16mである。

出土遺物は、1～7・10が土師器環である。2は口縁部が外反し底部回転系切り、体部下端ヘラケズリで、体部外面に「新用」と墨書する。3と10も体部外面に墨書、4は直線的な体部に下端回転ヘラケズリである。これらの土師器環は9世紀後葉の所産であろう。8は灰軸陶器の碗、9は灰軸陶器の皿で、どちらも軸は刷毛塗りする。黒笹90形式に相当する。13は須恵器高台付き環、14は須恵器甕である。建物の時期は土師器環、灰軸陶器の特徴から、9世紀後葉と考えられる。



第78図 SI-1495実測図



第79図 SI-1495出土遺物実測図

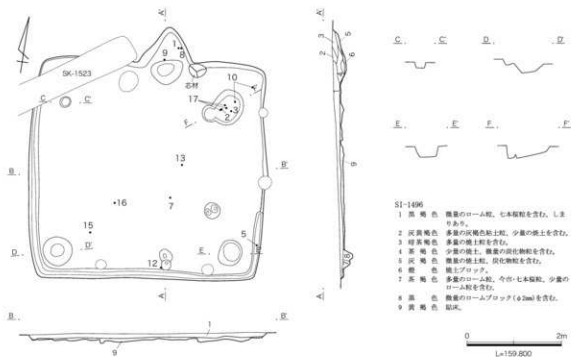
第33表 SI-1495出土遺物観察表

表測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	環	12.4	6.4	4.2	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 雲母	普	1/4強	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
2	二六	土師器	環	13.2	6.4	4.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母片	良	1/2	体部外面下位ヘラケズリ 底部外面回転糸切り 口縁から底部内面ヘラミガキ 半 底部切り離し後体部 下位時計廻りの別転ヘラ ケズリ	内面黒色処理 体部外面に墨書 「新用」
3	二九	土師器	環	13.0		(3.5)	2.5YR6/1 黄灰	2.5Y2/1 黒	白色微粒 黒色 微粒	良	口縁から 体部1/4 度	体部外面下位ヘラケズリ 口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
4		土師器	環	11.0	5.2	3.4	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	小礫微量 ガラ ス質粒 雲母破 片少量 微砂破	良	口縁から 体部1/4 底部1/2	底部外面回転糸切り後 (逆位にして) 体部下位 回転ヘラケズリ 口縁か ら底部内面ヘラミガキ	
5		土師器	環	13.0		(3.9)	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 雲母	良	1/6	口縁から底部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理
6		土師器	環	12.2	(4.8)	(3.9)	7.5YR6/8 橙 10YR8/3 浅黄橙	7.5YR6/8 黒	雲母 白色粒	良	口縁から 体部1/4 底部一部 残存	底部外面回転ヘラ切り 切り離し後回転ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘ ラミガキ	
7		土師器	環	11.7		(2.8)	10YR8/4 浅黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒	良	1/8	口縁から体部ミガキ	内面黒色処理
8	二八	灰輪 陶器	碗	12.6		(3.0)	7.5Y7/1 灰白 輪: 7.5Y6/2 灰オリーブ	7.5Y7/1 灰白 輪: 7.5Y6/2 灰オリーブ	白色粒	良	破片	口縁から体部外面ロクロ ナデ 口縁から体部内面ロ クロナデ	施輪は刷毛律り
9	二八	灰輪 陶器	皿	13.8		(2.0)	5Y7/1 灰白 輪: 5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/1 灰 輪: 5Y6/2 灰オリーブ	白色粒	良	1/8弱	ロクロの別転方向不明	施輪は刷毛律り
10	二八	土師器	環			(1.6)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10Y2/1 黒	白色砂粒 黒雲 母片	良	破片	体部外面下位ヘラケズリ 体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
11	二八	灰輪 陶器	皿			(1.2)	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	白色粒	良	破片	ロクロの別転方向不明	内外面全体が 施輪されている
12	二八	灰輪 陶器	碗			(1.4)	5Y7/1 灰白 輪: 5Y6/2 灰オリーブ	5Y7/1 灰白 輪: 5Y6/2 灰オリーブ	白色粒	良	破片	ロクロの別転方向不明	内外面全体が 施輪されている
13		須恵器 高台付環		5.6		(1.1)	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	白色粒 赤色粒	良	高台部 1/4	内外面ともにナデ	酸化のため赤 化
14		須恵器 鬘				(12.8)	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	白色粒	良	破片	外面格子タタキ後ナデ 内面直ぐ貫通	

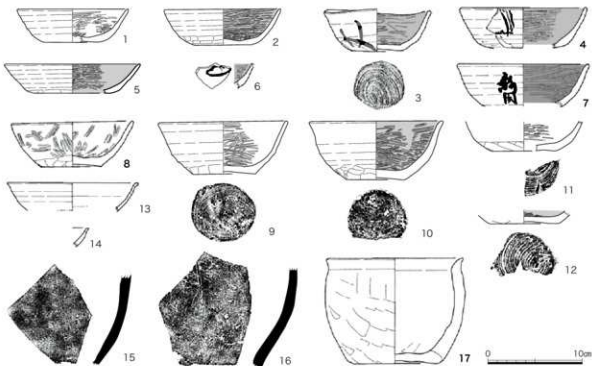


SI-1496 (第80・81図、第34表、図版七・二五・二六・二八・二九)

V区、グリットAK31に位置する。北西コーナー部を重複する中近世の土坑によって壊されている。4.6×5.0mの方形を呈す。カマドは北壁に設置し、袖は遺存していなかったが芯材の自然礫が遺存していた。全面に貼床を施し、周溝は北壁と東壁の一部を除いて検出した。柱穴は主柱穴4本と出入口ピットと考えられる1本を確認した。確認面からの深さは0.1 mである。



第80図 SI-1496実測図



第81図 SI-1496出土遺物実測図

出土遺物は、1～12が土師器環である。2は底部回転ヘラ切り、体部下端ヘラケズリである。3は回転糸切りで体部下端ヘラケズリで、体部外面に大きく「廿」の字を墨書する。4は体部下端回転ヘラケズリで、体部外面に「廿」を墨書する。7は体部外面に「新用」を墨書する。8～12は大型で碗形に近い環で、いずれも体部下端をヘラケズリする。13・14は灰釉陶器の碗で、小片のため施釉方法は不明確であるが、刷毛塗りと考えられ、黒笹90形式に相当する。15・16が須恵器甕、17が土師器鉢である。建物の時期は土師器環の特徴から、9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。

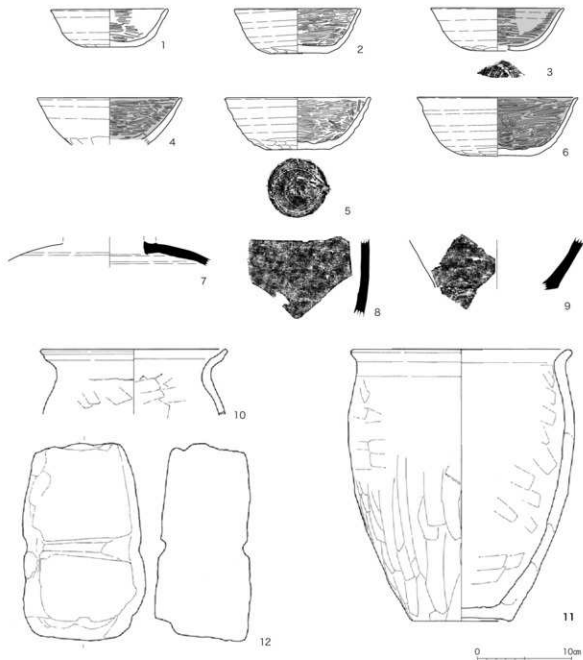
第34表 SI-1496出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	環	11.6	6.0	4.5	7.5YR7/6 黒 2.5YR6/8 黒	7.5YR3/1 黒 2.5YR7/6 黒	白色粒少量 雲母微片少量	良	口縁から 底部1/2	底部外面回転ヘラ切り 口縁から底部内面ヘラミガキ 逆位にして体部下半を時計 廻りの回転ヘラケズリ	口縁部のみ (11.6・10.6の 口径) 体部外面 に墨書「廿」
2		土師器	環	11.9	6.0	3.8	7.5YR6/4 に赤い黄粒	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒	良	1/2	底部外面回転ヘラ切り 口縁から底部内面ヘラミガキ 底部ヘラ切り後逆位にして 時計廻りのロクロ回転で体 部下端回転ヘラケズリ	内面黒色処理
3	二 六	土師器	環	11.2	5.4	4.5	10YR7/3 に赤い黄粒	5Y2/1 黒	白色粒 黒色粒 白針	良	ほぼ完形	体部外面下位ヘラケズリ 底部外面糸切り難し 口縁 から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 口縁部のみ (11.6・10.6の 口径) 体部外面 に墨書「廿」
4	二 九	土師器	環	13.2	8.2	(4.3)	10YR6/3 に赤い黄粒	10Y2/1 黒	白色砂粒 青灰色 微～砂粒	良	口縁から 体部1/8弱	体部外面下位回転ヘラケズリ 口縁から体部内面ヘラ ミガキ	内面黒色処理 内面黒色処理 体部外面に墨書 「廿」
5		土師器	環	14.3	8.0	3.1	10YR6/3 に赤い黄粒	10YR1.7/1 黒	白色粒 石英	良	1/8	体から底部内面ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
6	二 九	土師器	環			(2.2)	10YR5/3 に赤い黄粒	10YR1.7/1 黒	白色砂粒	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
7	二 六	土師器	環	13.7		(4.5)	10YR7/4 に赤い黄粒	10YR1.7/1 黒	白色粒	良	1/4	口縁から体部内面ヘラミガキ 体部下位正位のまま時 計廻りのロクロ水挽きか	内面黒色処理 体部外面に墨書 「新用」
8	二 五	土師器	環	12.8	6.4	4.9	10YR8/4 浅黄粒 5YR6/8 黒 2.5Y3/1 黒	5YR7/8 粒 2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y3/1 黒	白色粒 赤色粒 ガラス質粒 砂粒	良	口縁から 体部1/2 底部全周	口縁外面ヘラミガキ 底部外面回転糸切り 切り難 し後逆位にして体部外面下 位回転ヘラケズリ 口縁から 底部内面ヘラミガキ	
9		土師器	環	13.2	6.6	5.5	7.5YR6/4 に赤い黄粒	7.5YR4.6/～ 4/1 粒～細灰	白色粒 ガラス質 粒 小石	良	底部完存 体部1/8	底部外面回転ヘラ切り 口縁から底部内面ヘラミガキ 逆位にするヘラ切り	内面黒色処理
10	二 六	土師器	環	13.6	6.2	6.2	10YR8/3 浅黄粒	10YR2/1 黒	雲母 白色粒 砂粒	良	口縁から 体部1/2 底部一部 破損	体部外面下半ヘラケズリ 底部外面回転糸切り後回転 ヘラ切り 口縁から底部内 面ヘラミガキ	内面黒色処理
11		土師器	環	7.0	3.1	7.5YR6/6 黒	7.5YR6.6/6 黒	白色細粒 赤色粗粒	良	底から体 部1/4弱	体部外面下半部水挽き後ヘ ラケズリ 底部外面回転糸 切り 体から底部内面ミガ キ		
12		土師器	環	7.4		(1.4)	10YR3/1 黒	10YR1.7/1 黒	白色粒 ガラス質粒	良	底部1/2	底部外面回転糸切り 体か ら底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
13	二 八	灰釉陶器	碗	13.7		(3.1)	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	精良	良	口縁部1/8	ロクロ回転方向不明	施釉は刷毛塗りか?
14	二 八	灰釉陶器	碗			(2.1)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	精良	良	破片	口縁外面ロクロナデ 内面 ロクロナデ後施釉	外面上部に釉 が附着してない →新葉か 内外面の釉の厚 みに差があるた め刷毛塗りか
15		須恵器	甕			(9.8)	5Y3/1 オリーブ黒	5Y5/1 灰	白色粒 黒色粒 石英	良	破片	胴部外面ナデ後タテ方向ヘ ラケズリ 胴部内面ナデ 自然顔面着	
16		須恵器	甕			(10.0)	5Y5/1 灰 5Y6/2 灰オリーブ	7.5Y5/1 灰	白色粒	良	破片	外面多方向にヘラケズリ 内面ナデ 当て具用	
17	二 六	土師器	鉢	14.4	9.0	11.3	7.5YR8/4 浅黄粒 5YR6/8 黒	10YR6/2 灰黄粒 2.5YR7/3 浅黄	白色粒 砂粒 赤 色粒 ガラス質粒	良	口縁から 胴部2/3 底部一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 胴部 外面ヘラケズリ 口縁部内 面ヨコナデ 胴部内面ヘラ ナデ	被熱のため外 面は表面が荒 れ内面は摩耗 が激しい

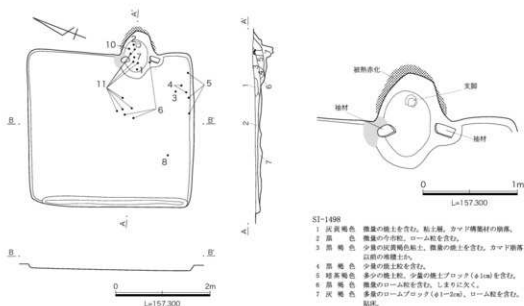
SI-1498 (第82・83図、第35表、図版七・二六)

V区、グリットAK32に位置する。3.24×3.48mの方形を呈す。カマドは東壁南よりに設置し、袖芯材の自然礫が左右と、支脚が遺存していた。カマド奥壁は良く焼けて赤化している。全面に貼床を施し、周囲は西壁のみ検出した。柱穴は検出されなかった。確認面からの深さは0.08 mである。

出土遺物は、1～6が土師器環である。1～3は底部外面ヘラケズリで、体部下端ヘラケズリする。4～6は大型で碗形に近く、やはり体部下端をヘラケズリする。7は須恵器短頸壺、8・9は須恵器甕、10・11は土師器甕である。11は口縁部が短い。12は砂岩製のカマド支脚である。建物の時期は、土師器環の特徴から、9世紀末～10世紀前葉と考えられる。



第82図 SI-1498出土遺物実測図



第83図 SI-1498実測図

第35表 SI-1498出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	杯	12.0	5.6	4.0	10YR7/3 に赤・黄褐色 5YR6/8 黒褐色	2.5YR4/8 赤褐色 5YR2/1 黒褐色	白色粒 砂粒 ガラス質粒	良	口縁一部 残存 体部2/3 底部全周	体部外面へラケズリ 底部外面へラケ切り 口縁から底部内面へラミガキ 底部内面へラケ切り後逆位にして体部下位時計廻りの回転へラケズリ	
2	二六	土師器	杯	12.8	6.2	4.8	5YR6/8 黄褐色 10YR7/4 に赤・黄褐色 10YR6/1 褐色	5YR6/8 褐色 10YR4/1 褐色	白色粒 砂粒	良	口縁から 体部2/3 底部全周	体部外面へラケズリ 底部外面へラケ切り 口縁から底部内面へラミガキ 底部内面へラケ切り後逆位にして体部下位時計廻りの回転へラケ切り	
3		土師器	杯	13.8	4.9	4.5	10YR6/4 に赤・黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	1/3	体部外面下位へラケズリ 底部回転へラケ切り 口縁から底部へラミガキ 底部回転系切り後逆位にして体部下位回転へラケズリ	内面黒色処理 外面の一部にナール附着
4		土師器	杯	15.0		(5.0)	10YR8/2 灰白 10YR5/2 灰黄褐色	10YR2/1 黒	白色粒 砂粒 雲母薄片 ガラス質粒	良	口縁から 体部1/4	体部外面へラケズリ 口縁から体部内面コノナダ後へラミガキ 底部切り離し後逆位にして体部下位時計廻りの回転へラケズリ	内面黒色処理
5	二六	土師器	杯	15.2	7.0	5.5	7.5YR7/8 黄褐色 10YR7/1 灰白	7.5YR6/8 褐色 10YR7/1 灰白	白色粒 砂粒 雲母薄片少量	良	口縁から 体部1/2 底部一部 欠損	体部外面へラケズリ 底部内面回転系切り後へラケズリ 口縁から底部内面へラミガキ 底部切り離し後逆位にして時計廻りの体部下位へラケズリ	
6		土師器	杯	16.8	7.0	6.2	5YR6/8 黒 10YR5/2 黒	10YR2/1 黒	雲母薄片 白色粒 ガラス質粒	良	口縁から 体部1/4 底部1/2	体部外面へラケズリ 底部外面へラケ切り後へラミガキ 口縁から底部内面へラミガキ 底部回転へラケ切り後逆位にして時計廻りの回転へラケズリ	内面黒色処理
7		須恵器	短筒 甕			(2.8)	5Y4/1 灰	7.5YR4/1 褐色	白色粒 赤色粒 小石	良	胴部1/5程度	内外面ともに口コノナダ	残存部最大径 (20.2)
8		須恵器	甕			(8.2)	2.5YR6/1 黄灰	2.5YR6/1 黄灰	白色粒 黒色粒 砂粒	良	破片	胴部内面当て具類	
9		須恵器	甕			13.0	2.5YR5/1 黄灰	2.5YR5/1 黄灰	白色粒 砂粒	良	破片	胴部外面口コノナダ後へラケズリ 胴部外面へラケズリ 胴部内面口コノナダ	
10		土師器	甕	19.6		(7.0)	10YR7/4 に赤・黄褐色	10YR7/3 に赤・黄褐色	白色粒 雲母片	良	破片	口縁部外面コノナダ 胴部外面へラケナダ 口縁部内面コノナダ 胴部内面へラケナダ	残存上位に輪轆 み組残す
11		土師器	甕	23.0	10.2	28.8	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 に赤・黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母片	良	口縁から 胴部上半 部1/2 底部下半1/2	口縁部外面ナダ 胴部外面上位ナダ 下位ラケズリ 口縁から胴部内面ナダ	
12		支脚		長さ 20.8	幅 12.3	厚さ 10.0							砂岩製

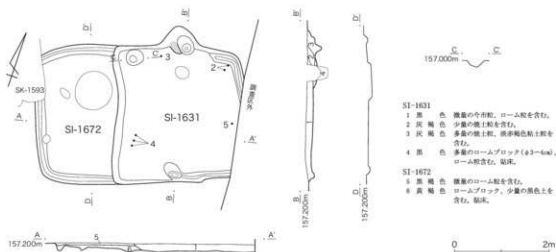
SI-1631 (第84・85図、第36表、図版七・二六・二八)

V区、グリットAL32に位置する。SI-1672と重複し、SI-1631が新しい。3.0×1.68mの範囲を検出した。カマドは北壁に設置し、右袖のみ遺存していた。貼床は施さず、周溝は東壁と南壁のみ検出した。柱穴は出入り口ピットと考えられる1本を確認した。確認面からの深さは0.16mである。

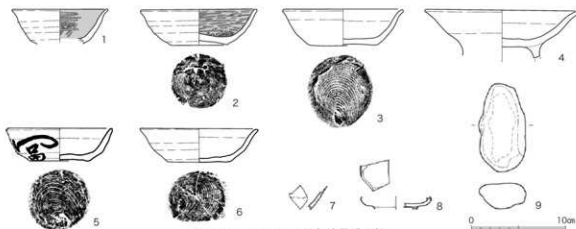
出土遺物は、1～3・5・6が、土師器環である。1は口径9.7cm、口縁の外反する小振りな環である。2・3も口縁の外反する環である。5は体部外面に大きく「富」と墨書する。6は口縁がやや外反する。4は高い高台の付く土師器環、7は灰軸陶器碗の体部、8が緑軸陶器の耳皿である。灰軸陶器碗は施軸状況から折戸53号形式に相当すると考えられる。耳皿は灰褐色・硬質の胎土で、貼付け高台、軸は透明度が低くざらついた質感を有す。9は使用痕のある軽石である。建物の時期は土師器環の特徴から、9世紀中葉と考えられる。

SI-1672 (第84図、図版七)

V区、グリットAL32に位置する。SI-1631と重複し、SI-1631が新しい。2.92×1.68mの範囲を検出した。カマドは検出できなかったが、削平によるものか、またはSI-1631によって壊されたものと考えられる。全面に貼床を施し、周溝は検出範囲内全周で検出した。柱穴は検出できなかった。確認面からの深さは0.04mである。出土遺物は無く時期は特定できないが、SI-1631に先行する近い時期と考えられる。



第84図 SI-1631・1672実測図



第85図 SI-1631出土遺物実測図

第36表 SI-1631出土遺物観察表

表測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	杯	9.7		(3.7)	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR2/1 黒	雲母微片少量 白色粒 砂粒	良	口縁一部 残存	口縁から体部内面へラミガキ	内面黒色処理
2	二八	土師器	杯	12.0	5.8	3.8	7.5YR8/2 灰白	10YR2/1 黒	雲母微片少量 ガラス質粒少量 砂粒 白色粒	良	口縁から 体部1/2 周 底部全周	底部外面回転系切り 縁から底部内面へラミガキ	内面黒色処理 外面にタール 附着
3	二八	土師器	杯	12.4	7.4	3.9	10YR7/2 にぶい黄褐色	2.5YR7/2 灰黄	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母片	良	1/4欠損	底部外面回転系切り	
4	二八	土師器	高台付杯	15.8		(5.1)	10YR7/3 ～3/1 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 ～黒褐色	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	赤色粒 雲母片 白色粒	良	坏部一部 欠損 脚部一部 欠損	底部外面回転系切り後高台貼付付け	
5	二八	土師器	杯	11.0	6.2	3.5	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	雲母 白色粒	良	口縁から 体部2/3 底部全周	底部外面回転系切り	体部外面に墨書「富」
6		土師器	杯	12.0	6.0	3.7	10YR8/3 浅黄褐色 7.5Y7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/3 にぶい黄褐色 2.5Y7/1 灰白	雲母微片 白色 粒 砂粒 赤色 粒	良	口縁から 体部1/4 底部一部 欠損	底部外面回転系切り 口縁部内面へラミガキ	口
7	二八	灰輪陶器	碗			(2.6)	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	精良 黒色粒を 多く含むやや粗	良	破片	内外面ともにロクロナデ 外面上半に施釉	折戸53? 軸は 濃い緑色
8	二六	緑釉陶器	耳皿			(1.4)	10YR6/2 オリーブ灰	10YR5/2 オリーブ灰	灰褐色 硬質	良	体下位か ら底部 1/8周	底部外面周縁をヘラケズリ 内外面全面に施釉	
9		軽石		長さ 9.4	5.0	2.6							重さ16.26g 平滑な面が見 られる。使用 痕か

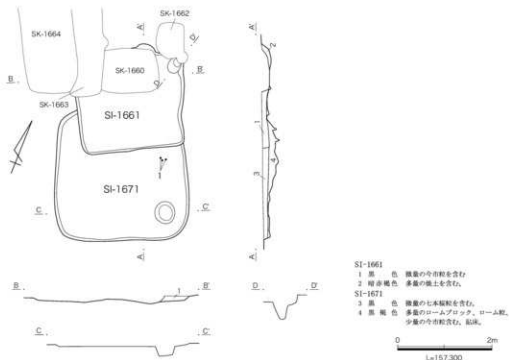
## SI-1661 (第86・87図、第37表)

V区、グリットAJ32に位置する。SI-1671と重複し、SI-1661が新しい。2.0×2.24mの方形を呈し。カメラは北壁東寄りに設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝も検出されなかった。確認面からの深さは0.14mである。出土遺物は無く、時期は特定できないが、SI-1671に後続する近い時期と考えられる。

## SI-1671 (第86図、図版七)

V区、グリットAJ32に位置する。SI-1661と重複し、SI-1661が新しい。2.8×2.8mの方形を呈する。カメラはSI-1671によって壊され、北壁に設置したものと考えられる。全面に貼床を施す。柱穴は主柱穴と考えられる1本を検出した。確認面からの深さは0.16mである。

出土遺物は、内面黒色処理した土師器の高台付きの環が出土している。体部下端をヘラケズりする。9世紀後葉の所産か。



第86図 SI-1661・1671実測図



第87図 SI-1661出土遺物実測図

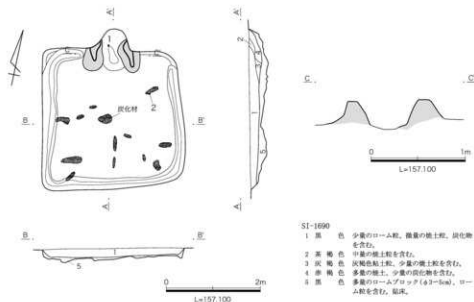
第37表 SI-1661出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1		土師器	環	13.4	7.0	5.1	10YR6/3 に赤い黄粒 10YR4/1 褐色	10YR2/1 黒	白色粒 質粒	ガラス 砂粒	良	口縁から 体部1/4 底部1/2	底部外面回転糸切り 逆位にして体部下位回転へ ラケズリ後高台貼り付け 口縁から底部内面へラミ ガキ	内面黒色処理

SI-1690 (第88・89図、第38表、図版七・二六)

V区、グリットAI33に位置する。3.0×2.96mの方形を呈す。カマドは北壁中央に設置し、灰褐色粘土で構築した両袖が良く遺存していた。全面に貼床を施し、周溝は北東コーナー部を除き検出した。確認面からの深さは0.2mである。また床面より浮いた状態で炭化材が複数確認された。

出土遺物は1が土師器の蓋で、天井部外面を一段回転ヘラケズリし、内面黒色処理する。カマド内からの出土。2は土師器環で、口径12.8cm、底径6.2cm、器高4.9cmと器高があり、体部がやや屈曲し口縁は外反する。内面黒色処理し、底部外面はヘラ切り離しである。3は須恵器環で、体部から口縁が直線的である。これらの遺物は9世紀中葉～後葉頃の所産か。



第88図 SI-1690実測図



第89図 SI-1690出土遺物実測図

第38表 SI-1690出土遺物観察表

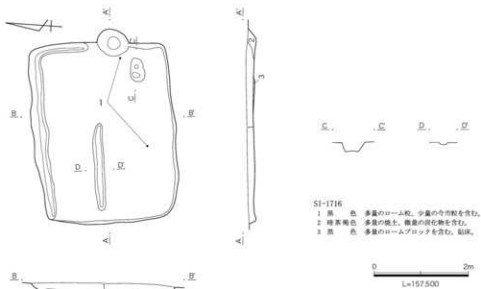
実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	蓋	11.4		(2.1)	7.5Y6/6 黒	7.5Y1.7/1 黒	白色微粒 黒色 微粒	良	1/4 つまみ部欠損	体部外面上端回転ヘラケズリ 口縁部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
2	二六	土師器	環	12.8	6.2	4.9	10YR8/4 浅黄褐色 10YR6/2 灰黄褐色	10YR2/1 黒褐色	白色粒 雲母微片 ガラス質粒	良	口縁から体部1/2 底部全周	底部外面ヘラ切り 口縁から底部ヘラミガキ	内面黒色処理
3		須恵器	環	11.8		(3.2)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 青灰色粒	良	破片	口縁から体部内外面ともに 口縁ナデ	



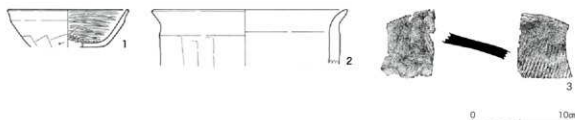
## SI-1716 (第90・91図、第39表、図版八)

V区、グリットAI31に位置する。3.0×3.38 mの縦長な方形を呈する。カマドは東壁に設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝は北壁と東壁の一部のみ検出した。柱穴は主柱穴と考えられる1本のみ検出し、また建物中央に間仕切溝のような溝を1本検出した。確認面からの深さは0.16 mである。

出土遺物は、1が土師器坏である。口縁部を強く横ナデし体部外面に弱い稜を形成する。体部下端をヘラケズリし、内面はヘラミガキを施す。2は土師器甕で、口縁部は外反し体部は直線的である。3は須恵器甕である。建物の時期は土師器坏、土師器甕の特徴から、8世紀前半頃か。



第90図 SI-1716実測図



第91図 SI-1716出土遺物実測図

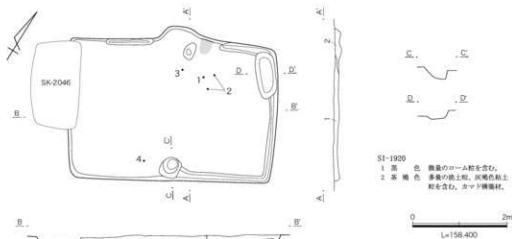
第39表 SI-1716出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	坏	12.6	8.0	4.0	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にふい黄橙	白色粒 青灰色粒 赤色粒 雲母片	良	口縁部 1/2周 体部3/4 周	体部外面下半手持ちヘラケズリ 底部外面激しく摩滅 口縁から底部内面ヘラミガキ	
2		土師器	甕	21.6		(5.9)	10YR7/3 にふい黄橙	10YR6/3 にふい黄橙	白色粒 青灰色粒	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面縦方向ナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面縦方向ヘラナデ	
3		須恵器	甕			(2.6)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒	良	破片	胴部外面平行叩き 胴部内面平行当て具痕	

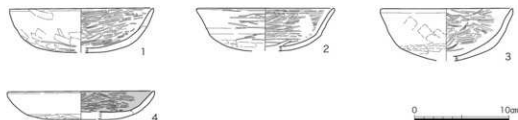
SI-1920 (第92・93図、第40表、図版八・二六)

V区、グリットAB24に位置する。西壁の一部を重複する中近世の土坑により壊されている。3.0×4.36mの偏平方形を呈す。カマドは北壁に設置し、左袖のみ遺存していた。貼床は施さず、周溝は北壁、東壁、南壁の一部のみ検出した。柱穴は出入り口ピットと考えられる1本を確認した。確認面からの深さは0.12mである。

出土遺物は、土師器環が出土している。1は平底化が進んだ環で、口縁は直線的に伸びる。2は丸底で外面に稜を有し、口縁が緩く外反する。3は丸底で体部から口縁まで直線的に伸びる。4は平底で内面黒色処理、底部内面ヘラミガキする。建物の時期は土師器環の特徴から、8世紀前半と考えられる。



第92図 SI-1920実測図



第93図 SI-1920出土遺物実測図

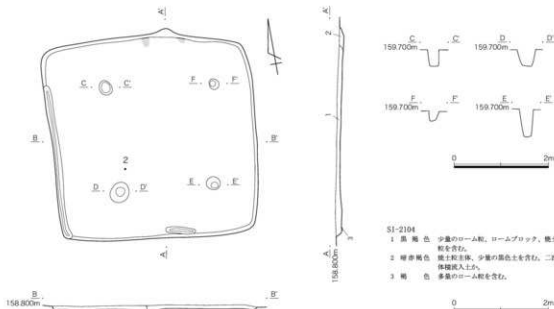
第40表 SI-1920出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	環	15.2		(4.7)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	赤色粒 白色粒 ガラス質粒 雲母微片 砂粒	良	1/4	口縁部外面ヘラナデ 体 部外面ヘラミガキ 底部 外面ヘラケズリ 口縁か ら底部内面ヘラミガキ	
2	二 六	土師 器	環	14.2		(4.5)	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 ~ 1.7/1 黄褐~黒	白色粒 赤色粒 ガラス質粒	良	3/4	口縁から体部外面ヨコナ デ後ヘラミガキ 底部外 面ヘラナデ 口縁から底 部内面ヨコナデ後ヘラミ ガキ	
3		土師 器	環	13.7		(5.5)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	白色粒 雲母微 片少量 砂粒	良	1/4	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラナデ 口縁から底部内面ヘラミ ガキ	
4		土師 器	環	15.2	7.0	3.5	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR8/6 明黄褐	10YR2/1 黒	白色粒 雲母微 片 砂粒	良	1/4	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理

SI-2104 (第94・95図、第41表、図版八・二六)

V区、グリットV22に位置する。4.32×4.4mの方形を呈す。カマドは遺存状態が悪いが、両袖の痕跡が僅かに見られ、北壁に設置したものと考えられる。貼床は施さず、周溝は西壁のみ検出した。柱穴は主柱穴と考えられる4本を確認した。確認面からの深さは0.12mである。

出土遺物は、1が土師器環である。内面ヘラミガキする。2は須恵器高台環である。口径15.4cm、復元口径8.6cm、坏部器高4.0cmで、口縁部が若干外反する。高台はやや内側に貼り付ける。体部外面にヘラ記号を刻む。9世紀中葉頃の所産か。



第94図 SI-2104実測図



第95図 SI-2104出土遺物実測図

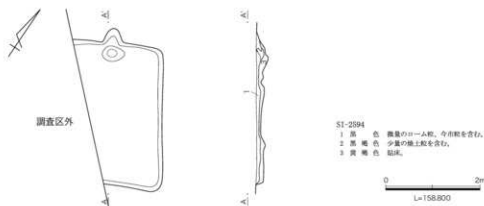
第41表 SI-2104出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	環			(2.8)	10YR8/3 浅黄粒 5YR7/6 橙	5YR8/4 淡橙 10YR8/4 浅黄粒	雲母微片少量	良	口縁から 体部1/6 底部2/3	口縁部外面摩耗のため不明 底部外面へラミガキ 口縁部から底部内面へラミ ガキ	
2	二 六	須恵 器	環	15.4		(4.5)	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	白色粒 黒色粒	良	1/2	底部外面回転糸切り難し 後高台貼り付け	体部外面下位 にへラ記号

SI-2594 (第96・97図、第42表・図版八)

V区、グリットS24に位置する。西半は調査区外のため東半の3.04×1.8mの範囲のみ検出した。カマドは北壁に設置したと考えられるが、袖は遺存していなかった。全面に貼床を施し、周溝は確認されなかった。確認面からの深さは0.08 mである。

出土遺物は、土師器環が出土している。口径11.0cm、器高4.8cmで、体部下端をヘラケズリする。器厚があり体部は直線的に伸びるが口縁が外反する。内面黒色処理する。9世紀後葉の所産か。



第96図 SI-2594実測図



第97図 SI-2594出土遺物実測図

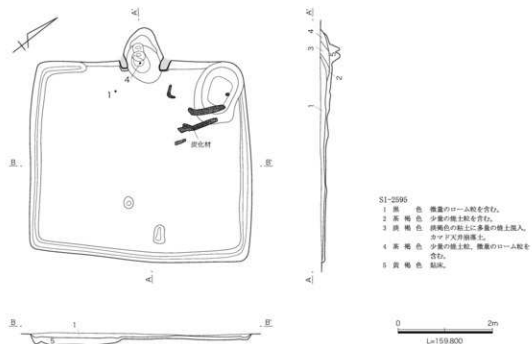
第42表 SI-2594出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1		土師器	環	11.0		(4.8)	5YR7/8 橙 7.5YR7/6 橙	7.5YR2/1 黒	雲母薄片 粒 砂粒	白色	良好	口縁から 体部一部 残存	逆位にして体部下端回転; ヘラケズリ 口縁から体 部内面ヘラミガキ	内面黒色処理

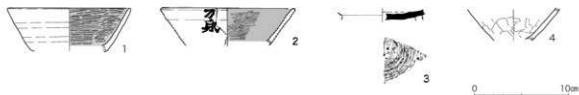
## SI-2595 (第98・99図、第43表、図版八・二六)

V区、グリットT23に位置する。4.28×4.6mの方形を呈す。カマドは北西壁に設置し、両袖と支脚が遺存していた。全面に貼床を施し、周溝はほぼ全周で検出した。北コーナー部に貯蔵穴が確認された。また炭化材が出土している。

出土遺物は、1・2が土師器環である。1は直線的な口縁で、内面をヘラミガキする。2は直線的でやや開き気味な体部を持ち、外面に2文字を墨書する。3は須恵器高台付環、4は土師器台付甕。建物の時期は土師器環の特徴から9世紀中葉頃か。



第98図 SI-2595実測図



第99図 SI-2595出土遺物実測図

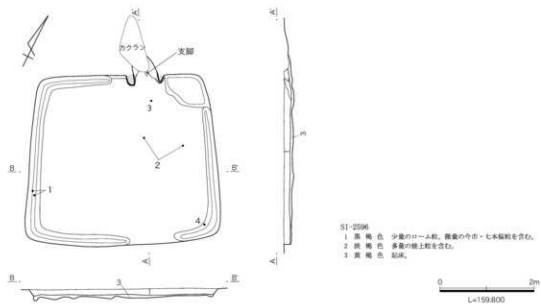
第43表 SI-2595出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	環	12.7		(4.6)	10YR にぶい黄褐色	10YR1.7/1 黒	白色粒 雲母 小礫	良	1/4	口縁から体部内面ミガキ	内面黒色処理
2	二六	土師器	環	14.2		(4.0)	10YR5/4 にぶい黄褐色	N1.5 黒	黒色微粒 白色 微粒	良	口縁から 体部1/8 周	口縁部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
3		須恵器	高台付環			(1.0)	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	黒色微粒 白色 微粒	良	底部1/4	底部回転ヘラ切り後高台 貼り付け	
4		土師器	台付甕			(3.3)	7.5YR7/6 橙 5YR6/8 橙	5YR7/8 橙 10YR7/4 にぶい黄褐色	白色粒 砂粒 雲母微片少量	良	破片	胴部外面ヘラケズリ 胴 部内面ヘラナデ	

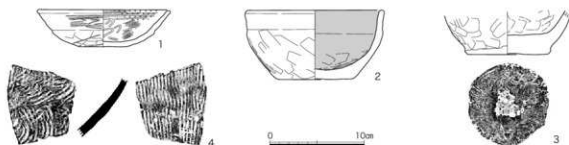
SI-2596 (第100・101図、第44表、図版八)

V区、グリットT23に位置する。3.6×3.92mの方形を呈す。カマドは北壁に設置するが、攪乱によって壊されている。僅かながら両袖とも遺存していた。全面に貼床を施し、周溝は北東コーナー部と南壁の一部を除き確認した。確認面からの深さは0.12 mである。

出土遺物は、1が土師器環である。丸底で外面に稜を持ち、口縁が外傾して開く。内面漆仕上げである。2は土師器鉢で、外面に弱い稜を持ち口縁は直立する。3は土師器甕、4は須恵器甕である。7世紀後葉～8世紀前葉の所産か。



第100図 SI-2596実測図



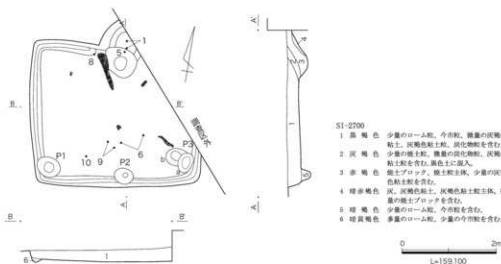
第101図 SI-2596出土遺物実測図

第44表 SI-2596出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	環	13.8	5.0	4.0	7.5YR7/8 黄緑 10YR7/6 明黄緑	10YR6/3 にぶい黄緑	ガラス質粒 白色粒 砂粒	良	口縁部 1/6 体部から 底部1/4	口縁部外面ヨコナデ後 ヘラミガキ 体から底部外 面ヘラケズリ後ヘラミガ キ 口縁部内面ヨコナデ 体部内面ヘラミガキ	口縁部内外面 に一部タール 附着力 内面漆 附着力
2		土師器	鉢	14.0	8.0	7.3	7.5YR7/6 橙	7.5YR2/1 黒	白色粒 赤色粒 ガラス質粒 雲母微片 砂粒	良	口縁部 1/2 胴部 2/3 底部 一部欠損	口縁部外面ヨコナデ 胴から底部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴から底部内面ヘラケズリ	胴 内面黒色処理
3		土師器	甕		8.4	(4.5)	5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	白色粒 赤色粒 雲母	普	底部のみ	底部外面ヘラケズリ 底部内面ヘラケズリ	底部 内面黒色処理
4		須恵器	甕			(6.2)	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	砂粒 雲母微片 少量	良	破片	胴部外面平行叩き目 胴部内面当て具痕	胴部 内面当て具痕

## SI-2700 (第102・103図、第45表、図版八・二六・二七)

IV区、グリットU27に位置する。3.0×3.64mのやや偏平な方形を呈す。カマドは北壁に設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝は全周するとみられる。柱穴は主柱穴と考えられる2本と、出入口口ピットと考えられる1本を確認した。確認面からの深さは0.28mである。また、炭化材が少量出土している。

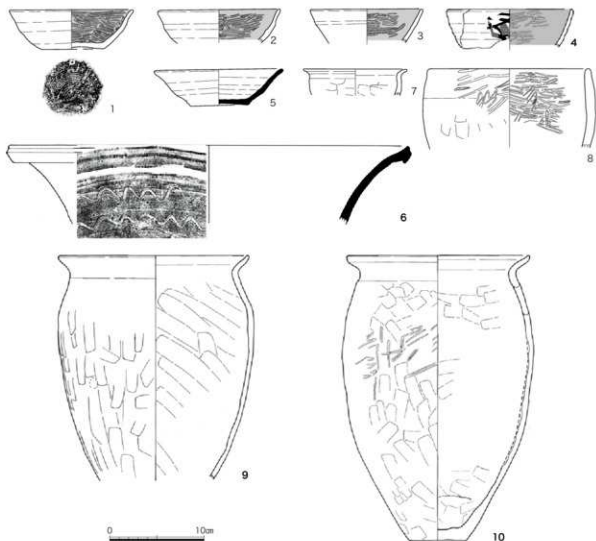


第102図 SI-2700実測図

第45表 SI-2700出土遺物観察表

表測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1	二七	土師器	坏	12.6	6.4	4.2	2.5YR8/4 浅黄 7.5YR7/8 黄橙	7.5YR6/8 橙 7.5YR2/1 黒	白色粒 砂粒 石粒 雲母微片	良	1/2	口縁から 底部1/2 底部全周	底部外面回転糸切り 口縁から底部内面へラミガキ	内面黒色処理
2		土師器	坏	12.8		(3.5)	7.5YR3/1 黒濁 7.5YR3/3 暗濁	7.5YR2/1 黒	雲母微片 砂粒 白色粒	良	破片	口縁から 体部	内面黒色処理 外面タール附着	
3		土師器	坏	11.5		(3.6)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR2/1 黒	白色粒 雲母微片 少量 赤色粒	良	1/2	口縁から 底部内面	内面黒色処理	
4	二六	土師器	坏	13.2		(4.3)	10YR7/4 にぶい黄橙	5Y3/1 オリーブ黒	白色粒 雲母	良	1/2	口縁から 体一部	内面黒色処理 体部外面に黒書「盛」	
5	二六	須恵器	坏	13.2	6.4	3.8	2.5YR5/3 黄濁 2.5YR4/2 暗灰黄	2.5YR6/3 にぶい黄 2.5YR5/2 暗灰黄	白色粒 白色小石	良	1/2	底部外面	へら切り	
6		須恵器	甕	42.4		(8.4)	7.5YR5/4 にぶい黄	2.5Y5/1 黄灰	白色粒 小石	良	1/3	口縁部 1/3周	口縁部外面クワロ成形成 へら書き文、へらナデ 口縁部内面クワロ成形成	外面が酸化により赤化し内面に自然釉附着
7		土師器	鉢	10.6		(2.8)	7.5YR7/6 橙	10YR7/2 にぶい黄橙	雲母微片 白色粒 砂粒	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 制外部内面ヨコナデ 制内部内面へラミガキ		
8		土師器	鉢	16.4		(8.4)	7.5YR6/8 橙 10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/8 橙 10YR7/3 にぶい黄橙	白色粒 雲母微片 ガラス質粒 砂粒	良	1/6	口縁部 1/6周	口縁部外面ヨコナデ後 へラミガキ 制外部内面 へラナデ後へラミガキ 口縁から制内部内面へラミガキ	
9	二七	土師器	甕	20.0		(23.9)	10YR3/3 暗濁	10YR4/2 灰黄濁	白色粒 赤色粒 小石 ガラス質粒	良	制下位から 底部欠損	口縁部 1/3周	口縁部外面ヨコナデ 制外部内面ヨコナデ	制外部外面ヨコナデ 制外部内面ヨコナデ 制内部内面ヨコナデ
10		土師器	甕	19.4	6.0	30.4	10YR7/4 ～2/1 にぶい黄橙 ～黒	10YR6/3 にぶい黄橙	白色粒 小石 ガラス質粒	良	底部1/2 から 制部1/4 周	口縁部 1/2周	口縁部外面ヨコナデ 制外部内面ヨコナデ 制内部内面ヨコナデ	制外部外面ヨコナデ 制外部内面ヨコナデ 制内部内面ヨコナデ

出土遺物は、1～4が土師器環である。いずれも内面黒色処理する。1・2は体部中程で屈曲し口縁部が外反する。3・4は僅かに内湾する体部をもつ。4は体部外面に「盛」を墨書する。5は須恵器環で、口径と底径の差があり、体部が大きく開き口縁は外反する。6は口縁外面に波状文を施す須恵器甕、7は口縁の外反する土師器鉢、8は口縁の直立する土師器鉢である。9・10は土師器甕である。胴部上部に最大径を持ち、口縁端部を摘み上げる。建物の時期は土師器環、須恵器環の特徴から9世紀後葉と考えられる。



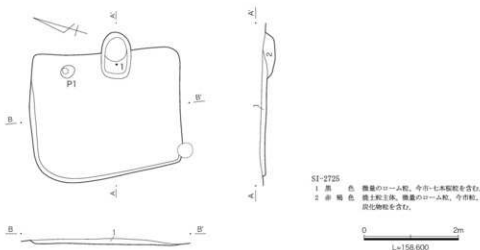
第103図 SI-2700出土遺物実測図



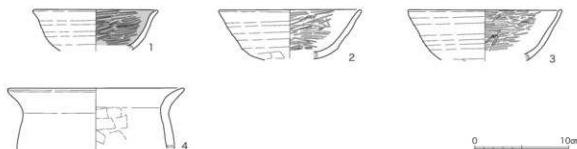
## SI-2725 (第104・105図、第46表、図版九)

IV区、グリットV28に位置する。削平され東半は深さを確認できない。2.68×3.16mの扁平な方形を呈す。カマドは東壁に設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝も検出されなかった。確認面からの深さは0.12 mである。

出土遺物は、1～3が土師器環、4が土師器甕である。1は丸みのある体部で口縁が外反する。2は直線的な体部で、下端をヘラケズリする。3は碗形に近い器形で体部下端をヘラケズリする。土師器環は9世紀後葉～10世紀前葉の所産と考えられる。



第104図 SI-2725実測図



第105図 SI-2725出土遺物実測図

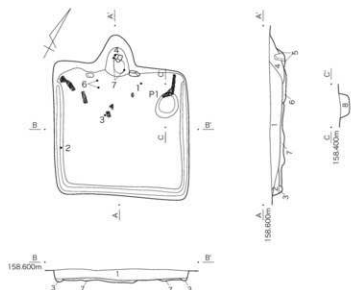
第46表 SI-2725出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)		色調		胎土	焼成	残存率	調整		備考
				口径	底径	高さ	外				内	口縁から	
1		土師 器	環	12.8		(4.3)	10YR5/3 に赤い黄褐色	10YR2/1 黒	白色粒 雲母微 片 砂粒	良	口縁から	口縁から体部内面へラミ ガキ	内面黒色処理
2		土師 器	環	14.7		(5.2)	5YR7/8 橙 10YR8/4 浅黄橙	5YR7/8 橙 7.5YR7/6 焼灰	白色粒 雲母微 片少量 砂粒	良	口縁から 体部1/8	体部外部へラケズリ 口 縁から体部内面へラミガ キ、切り離し後逆位して 体部下位回転へラケズリ	
3		土師 器	環	16.0		(5.5)	10YR7/4 に赤い黄褐色 7.5YR7/8 黄橙	7.5YR6/8 橙	雲母微片 ガラ ス質粒 白色粒 砂粒	良	口縁から 体部1/4	体部外面へラケズリ 口 縁から体部内面へラミガ キ 底部切り離し後逆位 にして時計廻りの体部下 位へラケズリ	
4		土師 器	甕	18.2		(6.3)	10YR3/3 暗褐 10YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰褐	雲尾微片 ガラ ス質粒 白色粒 赤色粒	良	口縁から 胴部一部 残存	口縁部外面ヨコナデ 口 縁部内面ヨコナデ 胴部 内面へラナデ	

SI-2727 (第106・107図、第47表、図版九・二七)

IV区、グリットU28に位置する。2.8×2.82mの方形を呈す。カマドは北壁に設置し、袖は遺存していなかったが、袖芯材に用いたと思われる自然礫、支脚に用いた土師器環が出土している。大部分に貼床を施し、周溝は北壁を除き検出した。確認面からの深さは0.3mである。また炭化材が少量出土している。

出土遺物は、カマド周辺で出土している。1～4は土師器環である。1・2は口径と底径に差があり、やや聞き味の体部を持つ。1は体部下端を回転ヘラケズリする。3・4は底径が大きく体部の開きが小さい。4はカマド支脚の上に被せ支脚の一部として利用されていた。5は須恵器甕、6は小型の土師器甕、7は口縁端部をつまむ土師器甕である。建物の時期は土師器環の特徴から、9世紀前葉～中葉と考えられる。

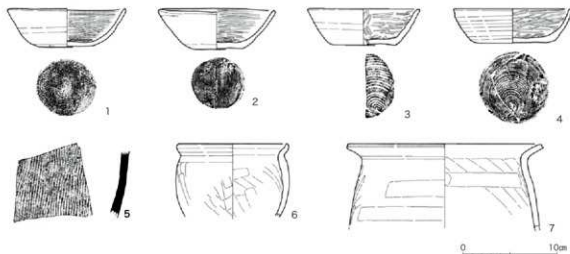


- SI-2727
- 1 漆 褐色 少量のローム粒、今治・七本坂粒、微量のロームブロック、炭化物粒を含む。
  - 2 漆 褐色 少量のローム粒、微量の今治粒を含む。
  - 3 漆 黄褐色 多量のローム粒、微量の今治粒を含む。
  - 4 漆 黄褐色 少量の今治粒、微量の炭化物粒、炭土粒を含む。灰・暗褐色土の面上。
  - 5 漆 黄褐色 焼土ブロック、黄褐色ブロックを多量に含む。
  - 6 漆 黄褐色 焼土粒多く含む。
  - 7 漆 褐色 少量のロームブロック、ローム粒、微量の今治・七本坂粒を含む。炭灰。
- SI-2727 P1
- 8 漆 黄褐色 約6割、少量のロームブロック、ローム粒、微量の今治・七本坂粒を含む。

第106図 SI-2727実測図

第47表 SI-2727出土遺物観察表

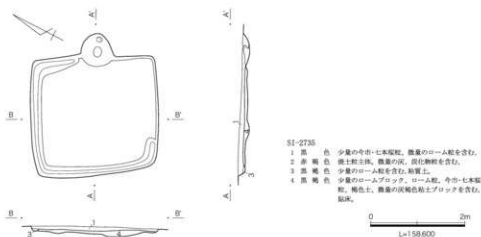
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二七	土師器	環	12.4	5.7	4.1	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	白色粒 黒色粒 黒雲母片	良	ほぼ完形	体部下端面下・底部外面 回転ヘラケズリ 口縁から 底部内面ヘラミガキ	
2	二七	土師器	環	12.3	4.5	4.4	2.5YR5/3 にぶい黄褐色	2.5YB/3 にぶい黄褐色	黒色粒	良	完形	底部外面ヘラ切り・一方 向ヘラケズリ 口縁から 底部内面丁寧なヘラミガキ	
3		土師器	環	11.8	7.0	3.9	2.5YR7/3 浅黄 2.5YR3/1 黒褐色	2.5YR6/4 にぶい黄褐色 2.5YR2/1 黒褐色	白色粒 黒色ガラス粒	良	1/2	底部外面回転糸切り 一部ヘラケズリ 口縁から 底部内面ヘラミガキ	底部内外面黒 褐色
4	二七	土師器	環	12.4	7.4	3.6	10YR7/6 明黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	10YR7/8 黄褐色 10YR4/1 褐色	白色粒 透明粒	良	口縁から 体部1/2 底部全周	底部外面回転糸切り 口 縁から底部内面ヘラミガ キ	
5		須恵器	甕			(7.1)	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	白色粒 黒色粒 石英	良	破片	胴部外面平行凹み	
6		土師器	甕	11.5		(7.8)	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	白色粒 石英 小礫	良	1/2弱	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラケズリ	内面および口 縁部外面が黒 色化している
7		土師器	甕	20.6		(8.8)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	白色粒 石英 雲母	良	口縁から 胴部1/3	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラケズリ	胴部中位外面 にタール附着



第107図 SI-2727出土遺物実測図

SI-2735 (第108・109図、第48表、図版九)

IV区、グリットV29に位置する。2.6×2.68mの方形を呈す。カマドは東壁に設置し、支脚と思われる自然礫が検出された。全面に貼床を施し、周溝は南東コーナー部と南壁の一部で検出した。出土遺物は、1が土師器坏、2が須恵器甕である。土師器坏は碗形を呈する。10世紀前葉の所産か。



- SI-2735
- 1 器 色 少量の赤中・七本灰泥、微量のローム泥を含む。
  - 2 器 形 色 焼土粒主体、微量の灰、炭化動物を含む。
  - 3 器 形 色 少量のローム泥を含む、粘質土。
  - 4 器 形 色 少量のロームブロック、ローム泥、赤中・七本灰泥、焼土、微量の灰褐色粘土ブロックを含む。貼床。

第108図 SI-2735実測図



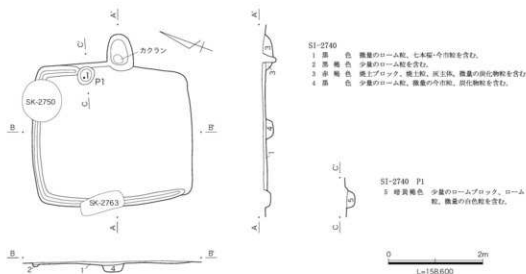
第109図 SI-2735出土遺物実測図

第48表 SI-2735出土遺物観察表

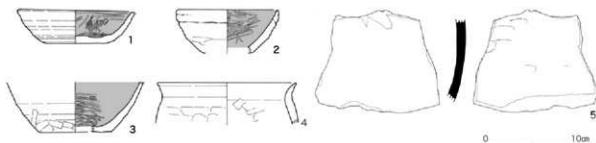
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	坏	14.0		(5.2)	10YR1/4~1/8 黄灰~灰白	10YR5/3 に赤い黄泥	白色粒 ガラス質粒	良	体部1/4 周	口縁から体部内面へラミ	内面にタール 状の附着物あり
2		須恵器	甕			(5.5)	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	白色粒	良	破片	胴部外面平行引き目 部内面当て貝痕	胴面に部分的 に自然附着

SI-2740 (第110・111図、第49表、図版九)

IV区、グリットU30に位置する。3.04×3.36mのやや偏平な方形を呈す。カマドは東壁に設置し、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝は東壁、北壁、西壁で検出した。確認面からの深さは0.08 mである。出土遺物は、1～3が土師器環、4は土師器甕、5が須恵器甕である。1は器厚が厚く、口縁が僅かに外反する。2は非ロクロ成形で、平底、ハの字に開く体部を持ち、口縁部を弱く横ナデする。体部外面はヘラケズリし、内面黒色処理する。3は碗形を呈し、体部下端をヘラケズリする。土師器環は10世紀前葉の所産か。



第110図 SI-2740実測図



第111図 SI-2740出土遺物実測図

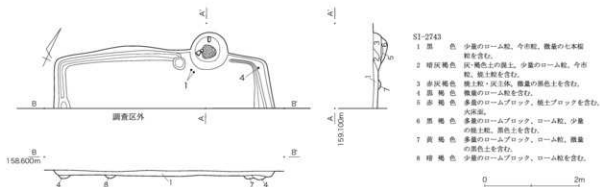
第49表 SI-2740出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	環	12.3	6.0	3.7	10YR3/2 黒褐色 10YR8/6 黄褐色	10YR2/1 黒	白色粒 ガラス 質粒 雲母微片 少量	良	1/8 体か ら底一部 欠損	口縁部 から底部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理
2		土師器	環	10.7		(4.6)	10YR8/3 浅黄褐色 10YR3/1 黒褐色	10YR2/1 黒	赤色粒 白色粒 雲母微片少量	良	1/6	口縁部外面ヨコナデ 体部外面下半ヘラケズリ 口縁部から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理
3		土師器	環		7.6	(5.5)	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 小石混入	良	1/4	外面下端手持ちヘラケズリ 内面ヘラミガキ	内面黒色処理
4		土師器	甕	14.8		(4.5)	10YR3/1 黒褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 赤褐色	白色粒 赤色粒 雲母微片少量	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 胴部 内面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	
5		須恵器	甕			(8.8)	5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/1 灰	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	破片	胴部内面無紋の当て具	

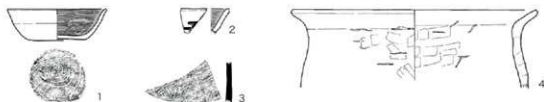
## SI-2743 (第112・113図、第50表、図版九・二七・二九)

IV区、グリットV30に位置する。1.24×4.64mの範囲で検出した。カマドは北壁東寄りに設置し、火床部と支脚に用いたと思われる自然礫を確認したが、袖は遺存していなかった。貼床は施さず、周溝は確認範囲内では全周している。確認面からの深さは0.12mである。

出土遺物は、1・2が土師器環、3が須恵器甕、4が土師器甕である。1は内面黒色処理、底部外面回転糸切りで、口縁が外反する。2は内面黒色処理、直線的な口縁部で、外面に墨書が認められる。土師器甕は外反する口縁部に張りの弱い胴部である。遺物が少なく建物の時期を決めたいが、土師器環の特徴から、9世紀中葉頃か。



第112図 SI-2743実測図



第113図 SI-2743出土遺物実測図

第50表 SI-2743出土遺物観察表

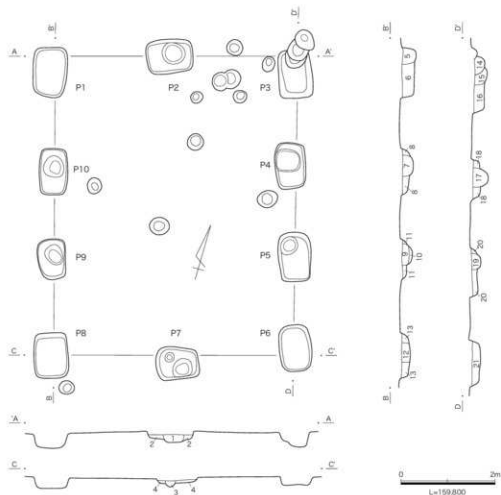
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二 七	土師 器	環	10.4	6.0	3.3	10YR6/3 ～2/1 にぶい黄褐色 ～黒	10R1.7/1 黒	赤色粒 雲母片	良	体部1/2 欠損	底部外面回転糸切り 口 縁から底部内面へラミガ キ	内面黒色処理
2	二 九	土師 器	環			(2.6)	7.5YR4/3 黒	N1.5 黒	赤色粗粒 白色微粒	良	破片	口縁から体部内面へラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書
3		須恵 器	甕			(4.5)	2.5YR4/3 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	微砂粒	良	破片	胴部外面平行明き目	
4		土師 器	甕	25.8		(8.4)	10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR4/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄褐色 10YR5/2 黄灰	白色粒 赤色粒 ガラス質粒破片 砂粒	良	口辺部 1/6	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	

第51表 古代の竪穴建物跡一覧表

遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備 考	調査区	グリッド
SI-44	5.06	3.84	0.20	N 16° -W			I	D1
SI-45	5.48	4.40	0.28	N 20° -W			I	D2
SI-50	3.20	3.20	0.20	N 66° -E			I	E3
SI-62	4.22	(3.38)	0.12	N 32° -W	<SE-61		I	B4
SI-64	3.40	2.60	掘方のみ検出	N 34° -W		掘方理土のみ検出	I	G3
SI-65	3.48	3.26	0.18	N 15° -W			I	B4
SI-80	5.48	4.40	掘方のみ検出	N 27° -W	<81		I	G6
SI-81	6.36	4.90	0.28	N 28° -W	<80		I	G6
SI-82	3.32	3.20	0.22	N 20° -W	<83		I	G6
SI-83	3.28	3.24	0.22	N 31° -W	<82		I	G6
SI-90	8.80	8.36	0.12	N 19° -W			I	I4
SI-91	4.40	3.94	0.24	N 33° -W			I	J5
SI-92	推定5.24	推定5.20	0.17	N 25° -W			I	J4
SI-106	2.68	(1.79)	0.12	N 13° -W			I	J4
SI-113	推定3.60	3.08	0.08	N 21° -W	<SK-168		I	I5
SI-114	6.12	5.10	0.56	N 33° -W			I	I6
SI-115	推定3.24	(3.26)	0.18	N 30° -W	SK-118・120・121、SD-119		I	I5
SI-143	6.88	6.60	0.20	N 21° -W			I	K5
SI-157	3.44	(1.52)	0.26	N 45° -W			I	L5
SI-925	4.04	3.88	0.44	N 14° -W			I	I7
SI-1035	3.76	3.72	0.24	N 53° -E			II	L15
SI-1277	3.30	3.24	0.10	N 14° -W			V	AI29
SI-1306	(4.00)	3.40	掘方のみ検出	N 17° -W		掘方理土、カマド残欠のみ検出	V	AK29
SI-1372	3.44	3.02	0.24	N 14° -W			I	K6
SI-1373	3.00	2.68	0.40	N 31° -W	<1374		I	K6
SI-1374	2.30	(2.62)	0.40	N 32° -W	>1373		I	K6
SI-1375	3.64	(1.80)	0.28	N 22° -W			I	K7
SI-1376	3.48	3.80	0.24	N 20° -W			I	J7
SI-1377	3.52	(2.20)	0.44	N 25° -W			I	I8
SI-1378	3.50	3.12	0.46	N 21° -W			I	I8
SI-1425	4.12	(1.40)	0.28	N 24° -W	<1426		II	N16
SI-1426	4.24	(2.20)	0.32	N 24° -W	>1425		II	N16
SI-1440	3.40	2.92	0.08	N 8° -W			V	AF29
SI-1465	3.04	3.00	0.14	N 18° -E			V	AK30
SI-1467	4.50	(0.68)	0.14	N 20° -W		掘方理土のみ検出	V	AL30
SI-1495	4.60	4.20	0.16	N 27° -W			V	AJ31
SI-1496	5.00	4.60	0.10	N 8° -W			V	AK31
SI-1498	3.48	3.24	0.08	N 69° -E			V	AK32
SI-1631	3.00	(1.68)	0.16	N 20° -W	>1672	S-1623～S-1642、SA伏、SB-1548(P1～P8)及びSB-1592(P1～P13)の建物に關わる区域場か？	V	AL32
SI-1661	2.24	2.00	0.14	N 24° -W	>1671		V	AJ32
SI-1671	2.80	2.80	0.12	N 22° -W	<1661		V	AJ33
SI-1672	2.92	(1.68)	0.04	N 19° -W	<1631		V	AL32
SI-1690	3.00	2.96	0.20	N 12° -W			V	AI33
SI-1716	3.84	3.00	0.16	N 7° -W			V	AI31
SI-1920	4.36	3.00	0.12	N 30° -W			V	AB24
SI-2104	4.40	4.32	0.12	N 7° -E			V	V21
SI-2594	3.04	(1.80)	0.08	N 34° -W			V	S24
SI-2595	4.60	4.28	0.12	N 51° -W			V	T23
SI-2596	3.92	3.60	0.12	N 28° -W			V	T23
SI-2700	推定3.64	3.00	0.28	N 10° -W		炭化材出土	IV	U27
SI-2725	3.16	2.68	0.12	N 73° -E			IV	V28
SI-2727	2.82	2.80	0.30	N 29° -W			IV	U28
SI-2735	2.68	2.60	0.10	N 61° -E	床下礎文陥穴SK2762		IV	V29
SI-2740	3.36	3.04	0.08	N 70° -E			IV	U30
SI-2743	4.64	(1.24)	0.12	N 24° -W			IV	V30

## 第二項 掘立柱建物跡

古代の掘立柱建物跡はⅠ区に4棟、Ⅴ区南部に2棟の計6棟が検出された。Ⅰ区は古墳時代～古代の竪穴建物跡も多数検出されている地区である。SB-100は唯一の方形の掘方をもつ掘立柱建物跡で、小規模ながら集落内において重要な機能を有する建物と考えられる。Ⅴ区南部で検出された2棟の掘立柱建物跡は、同じくⅤ区南部で検出された竪穴建物跡と同一のグループを形成する。SB-1460は遺物を多量に出土した土坑群(SK-1362等)と同じ場所に位置しており、土坑と共に機能した、もしくは土坑に代わって機能した可能性も考えられる。



SB-100

- 1 黒 褐色 少量のロームブロック、ローム粒を含む。しまりややあり。柱痕。  
 2 黒 褐色 やや多量のロームブロック。少量のローム粒を含む。しまりあり。  
 3 黒 褐色 微量のローム粒を含む。しまりなし。柱痕。  
 4 暗 褐色 多量のロームブロックを含む。しまりあり。  
 5 暗 褐色 やや多量のローム粒。少量のロームブロック(φ1-3cm)。今出粒を含む。しまりややあり。柱痕。  
 6 暗 褐色 やや多量のロームブロック(φ5-10cm)。多量のローム粒。少量の今出粒を含む。しまりあり。  
 7 黒 褐色 ロームブロック、ローム粒。今出粒を含む。しまりややあり。柱痕。  
 8 暗 褐色 やや多量のロームブロック。ローム粒。少量の今出粒を含む。しまりあり。  
 9 黒 褐色 少量のロームブロック。ローム粒を含む。しまりややあり。柱痕。  
 10 黒 褐色 少量のローム粒を含む。しまりあり。  
 11 暗 褐色 やや多量のロームブロック。少量のローム粒を含む。しまりあり。

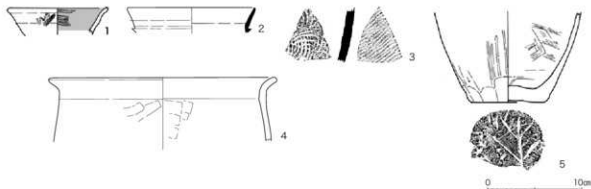
- 12 黒 褐色 少量のロームブロック。ローム粒。今出粒を含む。しまりややあり。柱痕。  
 13 黒 褐色 やや多量のローム粒。少量のロームブロックを含む。しまりあり。  
 14 黒 褐色 少量のローム粒を含む。柱痕。  
 15 暗 褐色 ロームブロックを含む。しまりあり。  
 16 暗 褐色 少量のローム粒を含む。しまり無い。  
 17 黒 褐色 やや多量のローム粒。少量のロームブロックを含む。しまりややあり。柱痕。  
 18 黒 褐色 やや多量のローム粒を含む。しまりあり。  
 19 黒 褐色 少量のローム粒を含む。しまりややあり。柱痕。  
 20 暗 褐色 多量のロームブロック。ローム粒を含む。しまり無い。  
 21 暗 褐色 やや多量のローム粒を含む。しまりあり。

第114図 SB-100実測図

SB-100 (第114・115図、第52表、図版九)

I区、グリットG4に位置する。2×3間の南北棟建物である。柱穴は平面長方形で他の掘立柱建物跡に比べて掘り方規模が大きい。短軸で0.34～0.72m、長軸で0.88～1.04m、深さは0.12～0.32mである。9本の柱穴で柱痕跡を確認した。柱痕跡の太さは0.2～0.44mである。山の神Ⅱ遺跡で唯一の方形の掘方を持つ掘立柱建物跡で、小規模ながら集落内において重要な機能を有する建物と考えられる。

出土遺物は、1がP9出土の土師器環である。口径10.6cmで、口縁が外反する。2はP3柱痕跡出土の須恵器無蓋高環の口縁部片である。3はP1出土の須恵器甕、4・5は土師器甕である。須恵器高環が6世紀末～7世紀初頭、土師器環が9世紀後葉の所産と思われる時期差があるが、土師器環の9世紀後葉を建物の時期としておく。



第115図 SB-100出土遺物実測図

第52表 SB-100出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)		色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外						内
1		土師器	環	10.6		(3.2)	5YR5/6 明赤褐	7.5YR2/1 黒	白色粒 雲母微 片少量	良	破片	口縁から体部外面ヘラミ ガキ 口縁から体部内面 ヘラミガキ	内面黒色処理
2		須恵器	高環	13.2		(2.6)	7.5Y4/1 灰	7.5Y4/1 灰	白色粒 黒色粒	良	口縁部破 片	口縁外面クロコナデ後ヘ ラ状工具で稜を作り出す 内面クロコナデ	
3		須恵器	甕			(5.8)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色細粒	良	破片	胴部内面同心円	
4		土師器	甕	23.0		(6.8)	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	白色粒 赤色粒 黒色粒 ガラス 質粒 白色針状 物質	良	口縁部破 片	口縁部外面ナデ 口縁部 内面ナデ 胴部内面ヘラ ナデ	
5		土師器	甕	8.0		(9.7)	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/6 褐	白色粗粒 黒色 粗粒	良	胴部1/8 周 底部3/4	胴部外面下端ヘラズリ・ミガキ 底部外面木 葉痕 胴部・底部内面ヘ ラナデ	

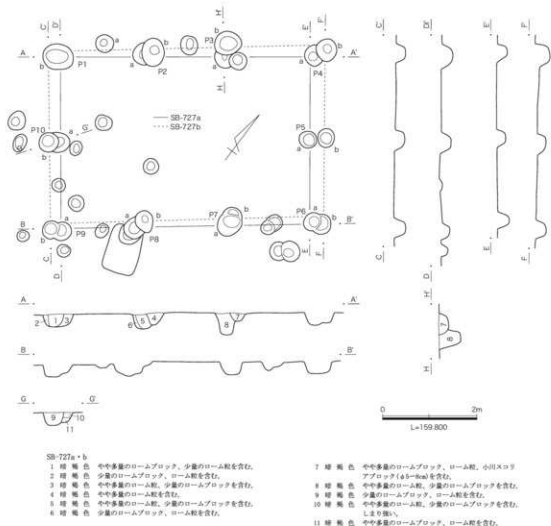


SB-727a (第116図)

I区、グリットG4に位置する。2×3間の東西棟建物である。重複するSB-727bが新しく、建て替え後の建物と考えられる。柱穴は平面円形で、直径0.22～0.64m、深さは0.18～0.44mである。柱間は約1.8mで規則正しく、整然とした柱配置をみせる。山の神Ⅱ遺跡で検出された、中世に属すると思われる掘立柱建物跡よりも柱間が狭く、規格性が強いため古代の掘立柱建物跡と判断した。同様に規格性の強い掘立柱建物跡はSB-100を中心に計4棟がI区に位置する。

SB-727b (第116図)

I区、グリットG4に位置する。2×3間の東西棟建物である。重複するSB-727aより新しく、建て替え後の建物と考えられる。柱穴は平面円形で、直径0.22～0.64m、深さは0.18～0.26mである。柱間は梁方向で約1.8m、桁行方向で約1.9mである。SB-727aと同様の理由で、古代の掘立柱建物跡と判断した。



第116図 SB-727a・b実測図

SB-1460 (第117図、図版一〇)

V区、グリットAG30に位置する。2×3間の東西棟建物である。柱穴は平面円形で、直径0.4～0.58m、深さ0.32～0.56mである。小規模だが掘り方はしっかりとしている。8本で柱痕跡が検出されている。柱痕跡の太さは0.16～0.2mである。柱間は梁行き方向でおおよそ2.0m、桁行方向でおおよそ1.8mである。SB-727a等と同様に柱間が狭く規格性が強いことから古代の掘立柱建物跡と判断した。

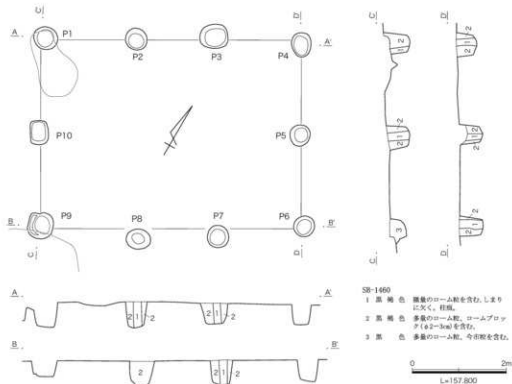
古代の土坑SK-1436と重複するが、SK-1436が新しい。SK-1436はやや不整な長方形を呈する土坑で、灰釉陶器長頸壺が出土している。付近にはSK-1256、SK-1349、SK-1356、SK-1359、SK-1363といった同様な特徴を示す土坑が集中して、その性格が問題になるが、SB-1460もまたこれら土坑と強い関係をもつとも考えられる。

SB-1707 (第118図)

V区、グリットAH32に位置する。2×3間の東西棟建物である。柱穴は平面円形で、直径0.28～0.48m、深さ0.08～0.24mである。柱間は梁行き方向で1.98m、桁行方向で2.26mである。SB-727a等と同様に柱間が狭く規格性が強いことから古代の掘立柱建物跡と判断した。

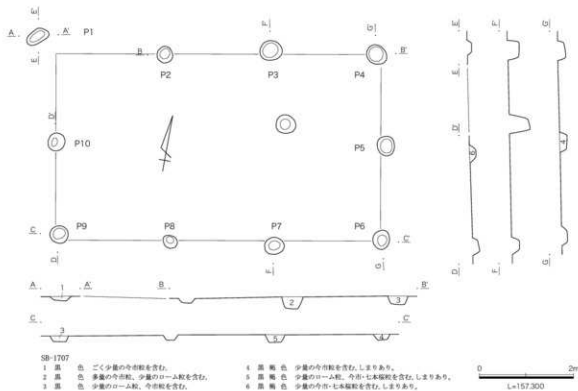
SB-2820 (第119図)

I区、グリットG 6に位置する。2×2間のやや南北が長い建物で、SI-82、SI-83と重複する。新旧関係は不明だが、SI-82の床下から僅かにSB-2820の柱穴の痕跡が検出されている。柱穴は平面円形で、直径0.4～0.5m、深さ0.28～0.4mである。検出できた5本すべての柱穴から柱痕跡が検出され、柱痕跡の幅は0.16～0.24mである。柱間は梁行き方向で1.6m、桁行方向で2.26mである。SB-727a・SB-727bと同様、柱間が狭く規格性が強いことから、古代の掘立柱建物跡と判断した。

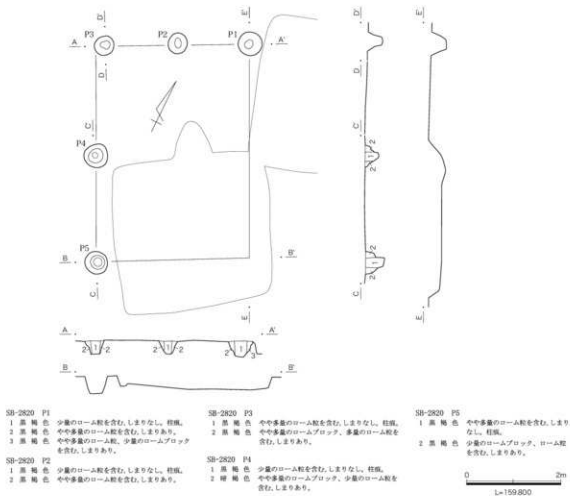


第117図 SB-1460実測図

第三章 山の神道路跡の調査



第118図 SB-1707実測図



第119図 SB-2820実測図

第53表 古代の掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	規模	梁行柱間	桁行柱間	梁行長(m)	桁行長(m)	主軸方位	切り合い	柱痕跡	備考	調査区	グリッド
SB-100	2×3 南北棟	2	3	5.08	6.32	N-16° W		9本(P1.2.3.4.5.7.8.9.10)	方形の掘方	I	G4
SB-727a	2×3 東西棟	2	3	3.60	5.20	N-36° W				I	G4
SB-727b	2×3 東西棟	2	3	3.60	5.72	N-36° W				I	G4
SB-1460	2×3 東西棟	2	3	4.00	5.44	N-30° W	<SK-1436	8本(P1.2.3.4.5.6.7.10)		V	AG30
SB-1707	2×3 東西棟	2	3	3.96	6.80	N-10° W				V	AH32
SB-2820	2×2 南北棟	2	2	3.20	4.52	N-20° W	<SI-83	5本(P1.2.3.4.5)		I	G6

第54表 古代の掘立柱建物跡柱穴規模一覧表

遺構番号	柱穴番号	長軸(m)	短軸(m)	深(m)	柱痕跡	備考
SB-100	P1	1.04	0.70	0.28	柱痕跡あり	
	P2	0.98	0.72	0.16	柱痕跡あり	
	P3	1.00	0.70	0.24	柱痕跡あり	
	P4	1.00	0.64	0.32	柱痕跡あり	
	P5	1.04	0.68	0.18	柱痕跡あり	
	P6	0.98	0.34	0.16		
	P7	0.88	0.68	0.12	柱痕跡あり	
	P8	0.96	0.72	0.18	柱痕跡あり	
	P9	0.86	0.58	0.20	柱痕跡あり	
	P10	0.98	0.60	0.22	柱痕跡あり	
SB-727a	P1	0.64	0.54	0.26		
	P2	(0.40)	0.48	0.30		
	P3	(0.22)	(0.22)	0.44		
	P4	0.48	0.42	0.26		
	P5	0.38	0.36	0.18		
	P6	0.40	0.34	0.24		
	P7	0.52	0.48	0.26		
	P8	0.42	(0.28)	0.28		
	P9	0.40	(0.24)	0.18		
	P10	0.44	(0.24)	0.20		
SB-727b	P1	0.64	0.54	0.26		
	P2	0.60	0.46	0.24		
	P3	0.56	0.50	0.20		
	P4	0.41	(0.38)	0.26		
	P5	0.40	0.34	0.18		
	P6	0.42	0.22	0.20		
	P7	0.42	(0.14)	不明		
	P8	0.48	0.36	(0.12)		
	P9	0.40	0.32	0.24		
	P10	0.40	0.40	0.20		
SB-1460	P1	0.52	0.48	0.54	柱痕跡あり	
	P2	0.48	0.44	0.56	柱痕跡あり	
	P3	0.58	0.50	0.44	柱痕跡あり	
	P4	0.50	0.40	0.44	柱痕跡あり	
	P5	0.46	0.42	0.48	柱痕跡あり	
	P6	0.44	0.42	0.50	柱痕跡あり	
	P7	0.46	0.44	0.52	柱痕跡あり	
	P8	0.50	0.42	0.52		
	P9	0.56	0.42	0.32		
	P10	0.44	0.38	0.43	柱痕跡あり	
SB-1707	P1	0.48	0.28	0.08		
	P2	0.34	0.32	0.10		
	P3	0.48	0.42	0.24		
	P4	0.44	0.38	0.18		
	P5	0.40	0.36	0.16		
	P6	0.40	0.36	0.12		
	P7	0.42	0.36	0.16		
	P8	0.32	0.28	0.12		
	P9	0.38	0.38	0.12		
	P10	0.38	0.34	0.14		
SB-2820	P1	0.50	0.50	0.34	柱痕跡あり	
	P2	0.44	0.44	0.28	柱痕跡あり	
	P3	0.40	0.40	0.28	柱痕跡あり	
	P4	0.50	0.48	0.28	柱痕跡あり	
	P5	0.48	0.48	0.40	柱痕跡あり	

## 第三項 土 坑 (第120～123図、第55・56表、図版九・一〇・二七・二八)

土坑はV区で10基が検出された。SK-1208、SK-1221とSK-1265、SK-1349、SK-1356、SK-1359、SK-1363、SK-1436の2箇所に集中し、また遺物を多く出土することから、共通の機能、性格を有すると考えることが出来る。SK-1772は中央に被熱赤化した粘土があることから、あるいは竪穴建物跡のカマド残欠とも考えられる。また小穴に関しては出土遺物があり、実測図を掲載した遺構のみ図示した。

**SK-1208** V区、グリットAI27に位置する。平面形は方形に近い楕円形を呈する。床面壁際は溝が巡っている。1～4の遺物が出土している。1は土師器環で体部下端を回転ヘラケズりする。9世紀後半。2・3は灰軸陶器壺の破片、4は須恵器甕である。

**SK-1221** V区、グリットAI27に位置する。平面形は歪んだ長方形である。

**SK-1265** V区、グリットAH30に位置する。平面形は丸みを帯びた長方形を呈する。

**SK-1349** V区、グリットAG30に位置する。平面形は丸みを帯びた長方形を呈する。5～11の遺物が出土している。5は土師器環で体部下端をヘラケズりする。6は灰軸陶器皿、7・8は灰軸陶器碗、9は灰軸陶器壺の頸部である。6の皿は軸を刷毛塗りしており、黒笹90号形式に相当する。10・11は須恵器甕の口縁部。土師器環、灰軸陶器皿の特徴から、9世紀後葉と考えられる。

**SK-1356** V区、グリットAH30に位置する。平面形は楕円形を呈する。12・13の遺物が出土している。12は土師器環、13は灰軸陶器皿である。灰軸陶器皿はやや幅広く内湾しない三日月高台を貼付け、軸刷毛塗り、黒笹90号形式に相当する。底部外面に焼成後についたヘラミガキのような痕跡がみられる。

**SK-1359** V区、グリットAG30に位置する。平面形は長方形を呈する。

**SK-1363** V区、グリットAG30に位置する。平面形はやや不整な長方形を呈する。14～18が出土している。14～16は土師器環でいずれも体部下端にヘラケズりする。17・18は土師器甕で、17は口縁端部を掴み上げる。土師器環は9世紀後葉の所産。

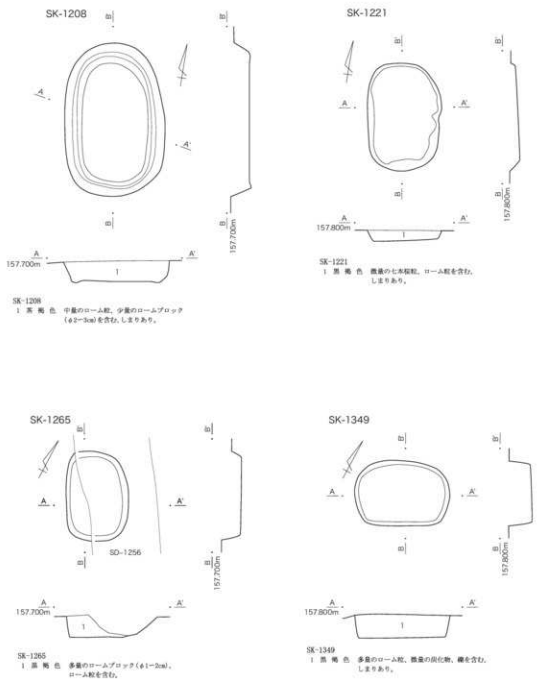
**SK-1436** V区、グリットAG30に位置する。平面形はやや不整な長方形を呈する。19の土師器環と、20の灰軸陶器長頸壺が出土している。9世紀後半の所産。

**SK-1660** V区、グリットAJ32に位置する。平面形はやや不整な長方形を呈する。21の碗形の土師器環と22の灰軸陶器皿が出土している。灰軸陶器皿は、軸刷毛塗り、黒笹90号形式に相当する。碗形の環と灰軸皿の特徴から、9世紀末～10世紀初頭の時期と考えられる。

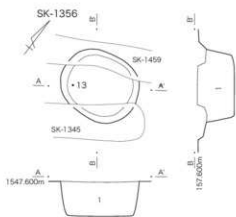
**SK-1772** V区、グリットAH33に位置する。平面形は不整な円形を呈する。中央部に比熱赤化した粘土と焼土粒があり、その周囲はブラン不明瞭な黒褐色土が広がる。竪穴建物跡のカマド残欠と掘方埋土とも考えられる。

## その他の土坑出土遺物

23はSK-1322から出土した土師器環である。底部回転糸切りで外反する口縁を持つ。9世紀後葉の所産。24・25はSK-1532出土の土師器環で、24はロクロ成形後体部過半をヘラケズリし、口縁部が外反する。25は土師器環で直線的な体部を持つ。9世紀後葉の所産。26はSK-2533出土の土師器環で、器厚があり底部内面が盛り上がる。体部下端をヘラケズリし、「新用」を墨書する。9世中葉～後葉の所産。27はSK-1736出土でロクロ目が強く、体部下端を2段にヘラケズりする。9世紀後葉の所産。28はSK-1540出土の土師器高台付環の底部で、外面に漆が附着している。漆パレットとして利用したものと考えられる。9世紀後半の所産。



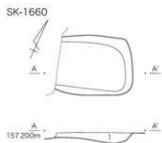
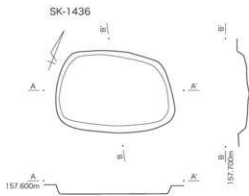
第120図 古代の土坑実測図(1)



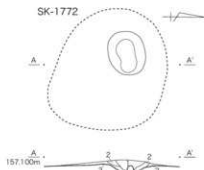
SK-1356  
1 黒 褐色、多数のローム状、少量のロームブロック（65-10cm）を含む。



SK-1363  
1 黒 褐色、多数のローム状、微量の炭化物、礫を含む、しまりあり。



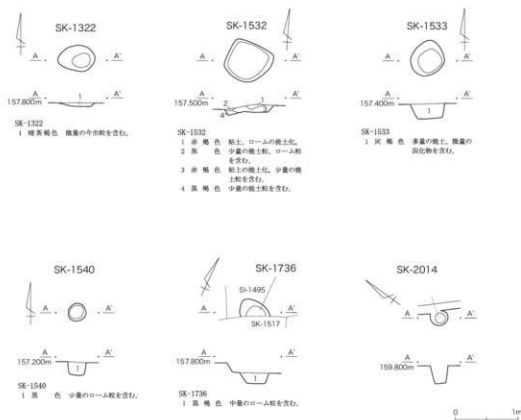
SK-1660  
1 黒 褐色、微量のロームブロック（42-3cm）を含む。



SK-1772  
1 赤 褐色 粘土が凝り付いて赤色化。  
2 赤 褐色 多数の焼土粒を含む。  
3 黒 褐色 多数の七土採取を含む。



第121図 古代の土坑実測図（2）

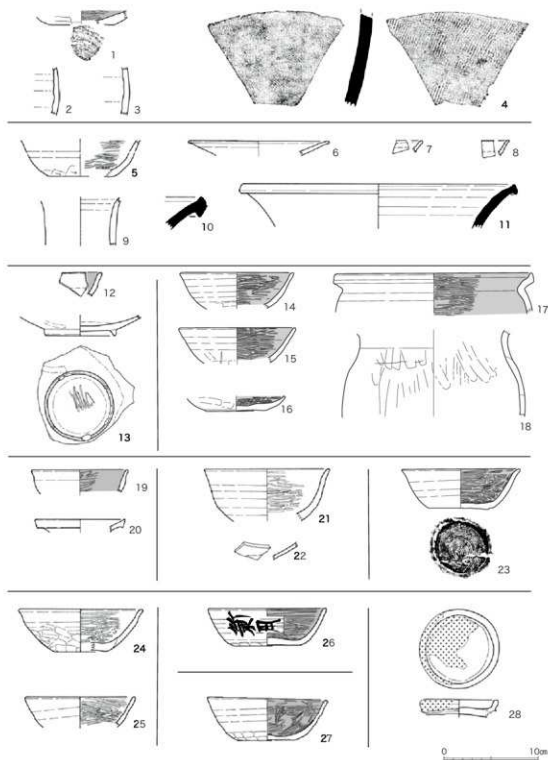


第122図 古代の土坑実測図（3）

第55表 古代の土坑一覧表

遺構番号	遺構種別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	切り合い	備 考	調査区	グリッド
SK-1208		2.43	1.57	0.35			V	AI27
SK-1221		1.71	1.17	0.17			V	AI27
SK-1265		1.43	0.98	0.35			V	AH30
SK-1349		1.50	1.04	0.38			V	AG30
SK-1356		1.25	1.05	0.58			V	AH30
SK-1359		1.35	0.97	0.12			V	AG30
SK-1363		1.53	1.06	0.35			V	AG30
SK-1436		1.83	1.30	0.20			V	AG30
SK-1660		(1.18)	0.94	0.17			V	AJ32
SK-1772		2.00	1.72	0.20		Siカマド残欠の可能性あり。周囲に掘方埋土らしき広がり有り。	V	AH33
SK-1322	小穴	0.58	0.42	0.05			V	AG28
SK-1532	小穴	0.75	0.65	0.13			V	AI31
SK-1533	小穴	0.58	0.51	0.24			V	AI31
SK-1540	小穴	0.28		0.20			V	AI31
SK-1736	小穴	0.45	(0.25)	0.16			V	AJ31
SK-2014	小穴	0.27		0.28			V	AA21





第123図 古代の土坑出土遺物実測図

第56表 古代の土坑出土遺物観察表

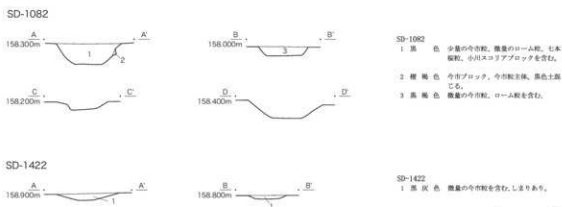
実測 図No	図版 No	出土 遺構	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考
					口径	底径	高さ	外	内					
1			土師 器	杯	7.0	(1.5)	10R4/1 黒灰	10R1.7/1 黒	白色粘 小礫混 入	良	体から底部 1/4	底部外面(杯へ)切り 体部下半は 切り離し後遺構にして口縁へラケズリ 体から底部内部へラミガキ	内面黒色処理	
2	二 八	SK- 1208	灰陶 胸部	壺		(5.6)	5Y7/1 ~ 5/2 灰白~灰オリーブ	2.5Y7/1 灰白	精良	良	胴部破片		上半に輪削着	
3	二 八		灰陶 胸部	壺		(5.3)	7.5Y6/1 ~ 5Y6/2 灰~灰 オリーブ	2.5Y7/1 灰白	精良	良	胴部破片		外面のみ輪削着	
4			須恵 器	甕			2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	白色粘	良	破片	胴部外面(平打) 部分が口ナデ成 形 胴部内部(口)内打付具		
5			土師 器	杯	6.8	(3.8)	10R6/2 灰黒	10R4/1 黒灰	白色細粒 黒色 粗粒	良	良	体部下端手持ちへラケズリ 底 部外面(杯)を切り離し 口縁部から 底部内部へラミガキ		
6	二 八		灰陶 胸部	皿	14.6	(1.6)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	精良	良	破片	輪削毛作り	黒900号形式	
7	二 八		灰陶 胸部	碗		(1.3)	N8 灰白	N8 灰白	精良	良	破片		全面輪削	
8	二 八	SK- 1349	灰陶 胸部	碗		(1.8)	5Y7/2 灰白	5Y7/1 灰白	精良	良	破片	内外面口クロノデ	全面輪削	
9	二 八		灰陶 胸部	長頸 壺		(5.1)	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	精良	良	胴部破片		全面輪削	
10			須恵 器	甕		(3.8)	10R3/1 黒灰	10R5/1 黒灰	白色細~中 黒 色粗粒 灰色細 粒	良	破片	内外面口クロノデ	内面に自然輪削 着	
11			須恵 器	甕	28.8	(4.7)	N4 灰	7.5Y5/1 灰	白色微~粗粒 黒色粗粒	良	破片	内外面口クロノデ	内面に自然輪削 着	
12			土師 器	杯		(2.7)	5Y4/1 黒	5Y2/1 黒	白色粘	良	破片		内面黒色処理	
13	二 七	SK- 1356	灰陶 胸部	皿	7.5	(2.2)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 ~ 6/2 灰白~灰オリーブ	精良	良	底部定形	底部外面(杯へ)切り後高台(口)付け 底部に部分的にへラミガキ 輪削毛 作り	内面黒色処理	
14			土師 器	杯	11.6	(3.8)	10R6/3 に赤~黄橙	2.5Y2/1 黒	白色粘 黒色粘 赤色粘	良	体部1/4	底部外面(下位)へラナデ 口縁から体 部内部へラミガキ	内面黒色処理	
15			土師 器	杯	12.2	(3.8)	10R5/6 黄橙	10R1.7/1 黒	白色粘 雲母片	良	体部1/8	口縁から体部へラミガキ	内面黒色処理	
16		SK- 1363	土師 器	杯	6.4	(1.6)	10R9/1 灰白	10R1.7/1 黒	白色粘 赤色粘	良	体下位から 底部1/4	底部外面へラナデ 底部外面へラ切 り仕上げ 体から底部内部へラミガ キ	内面黒色処理	
17			土師 器	甕	20.4	(4.3)	5Y8/6 橙	5Y8/1.7/1 黒	白色粘 黒色粘 雲母片	良	口縁部1/10	口縁部外面ヨコナデ 口縁から胴部 内部へラミガキ	内面黒色処理	
18			土師 器	甕		(8.7)	10Y87/4 に赤~黄橙	10Y87/3 に赤~黄橙	石英 黒色粘	良	破片	胴部外面へラケズリ 胴部内部ナデ	外面に輪削のみ 残す	
19		SK- 1436	土師 器	杯	10.0	(2.5)	10Y87/3 に赤~黄橙 10Y83/1 黒灰	10Y82/1 黒	雲母微片少量 砂粒 白色粘	良	破片	口縁から体部内部へラミガキ	内面黒色処理	
20	二 八		灰陶 胸部	長頸 壺	9.4	(1.4)	5Y7/2 灰白	5Y5/2 灰オリーブ	精良	良	破片	内外面口クロノデ	全面輪削	
21			土師 器	杯	13.2	(5.9)	10Y87/4 に赤~黄橙 7.5Y8/3 に赤~黄	7.5Y8/3/1 黒灰	白色粘 赤色粘 微塵 砂粒 方 ラズ質粗粒混	良	口縁から体 部1/8	口縁から体部内部へラミガキ		
22	二 八	SK- 1660	灰陶 胸部	皿		(1.8)	2.5Y7/1 灰白	2.5Y5/2 灰黄	精良	良	破片	丁寧な輪削毛作り ハケ目残る	黒900号形式 内面は平や縁 外面は灰白色の 輪削	
23	二 七	SK- 1322	土師 器	杯	12.0	6.8	4.1 2.5Y8/3 黄橙	2.5Y82/1 黒	白色粘 雲母 微片少量	良	一部欠損	底部外面(杯)を切り 口縁から底部 へラミガキ	内面黒色処理	
24		SK- 1532	土師 器	杯	13.0	5.6	4.6 7.5Y8/4 に赤~黄	5Y8/6 橙	白色粘	良	1/4強	体部内部(口)を切り後へラケズリ 下位切り離し後残存部分の口縁へ ラケズリ 底部外面(杯)を切り 口 縁から底部内部へラミガキ		
25			土師 器	杯	11.5	(3.3)	7.5Y8/6 橙	7.5Y87/6 橙	白色粘 黒色粘 ガラス質粒	良	1/4強底部 欠損	口縁から体部内部へラミガキ		
26	二 七	SK- 1533	土師 器	杯	12.4	7.1	4.0 10Y87/2 に赤~黄橙	N1.5/1 黒	青灰色砂粒 黒 雲母片	良	1/3	体部外面(下)手持ちへラケズリ 底 部外面へラ仕上げ 不定へラケズリ 口縁から底部内部へラミガキ	内面黒色処理 胴部内部に雲 母混入	
27	二 七	SK- 1736	土師 器	杯	12.5	5.8	4.7 2.5Y8/4 黄橙 5Y7/1 灰 10Y8/3 に赤~黄橙	10Y82/1 黒	白色粘 ガラス 質粒 砂粒	良	口縁一部欠 損	体部外面へラ切り 底部外面(杯)へ ラ切り 微塵混入して体部下位部へ ラケズリ 口縁から底部内部へラミ ガキ	内面黒色処理	
28	二 七	SK- 1540	土師 器	深鉢 器	8.0	(1.9)	2.5Y8/1 ~ 2/1 灰白~黒	10R1.7/1 黒	赤色粘 雲母片	良	底部定形	底部外面(杯)を切り後高台(口)付け 体部内部へラミガキ	土師器面(平打) の底部を転用、漆 削着	

## 第四項 溝 (第124・125図、第57表、図版二七)

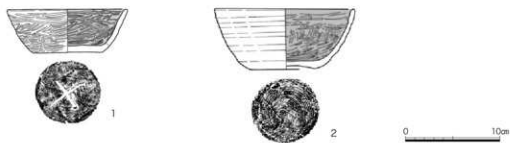
古代に属すると考えられる溝は、SD-1082とSD-1422を検出した。

SD-1082はV区を北西から南東に向かって蛇行している。幅0.65～1.15m、深さ0.15～0.3m、断面は逆台形を呈する。IV区～V区北部の竪穴建物集中地点と、V区南部の竪穴建物集中地点の間を分けるように走っている。遺物は2点を図示した。1は直線的な体部、内面黒色処理、外面ヘラミガキの土師器環で、底部外面は回転ヘラ切り、太めの工具で「×」を線刻する。9世紀前葉の所産か。2は碗形に近い器形を呈する土師器環で、底部外面回転系切り、内面黒色処理する。9世紀後葉の所産か。

SD-1422はII区を北西から南東に向かって直線的に走っており、III区では確認されていない。幅0.55～0.95m、深さ0.07～0.1m、断面は逆台形を呈するごく浅い溝である。溝の東側に竪穴建物跡2軒が検出されている。



第124図 古代の溝セクション図



第125図 SD-1082出土遺物実測図

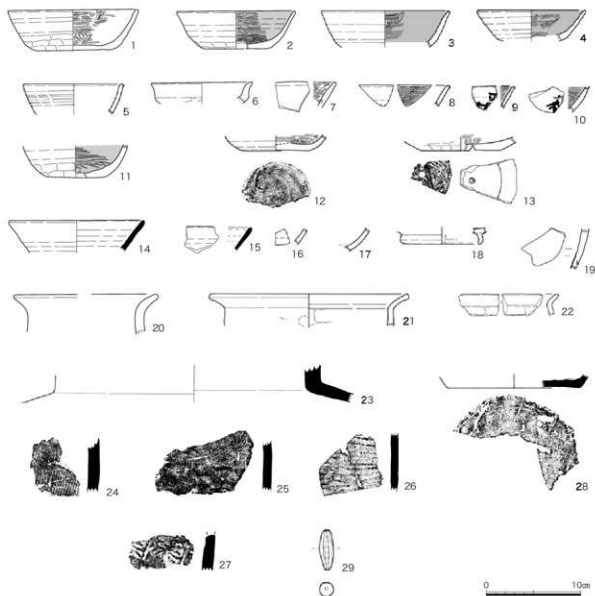
第57表 SD-1082出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	二七	土師 器	環	12.4	7.2	4.7	2.5YR3/1 黒褐 2.5YR7/4 浅黄	2.5YR2/1 黒	白色粒 雲母微 片少量	良	口縁部 1/4 欠損	口縁から体部外面ヘラミ ガキ、底部外面へラ切り 口縁から底部内面ヘラミ ガキ、ヘラミガキのためロ ク口回転方向不明	内面黒色処理 口縁外面にヘ ラ記号「×」
2	二七	土師 器	環	14.6	6.0	6.3	2.5YR7/6 明黄褐 10YR8/6 黄橙	10YR2/1 黒	白色粒 砂粒	良	ほぼ定形	底部外面回転系切り、口 縁から底部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理 口縁外面上端 が黒色化

第五項 遺構外出土の古代遺物 (第126図、第58表、図版二七～三〇)

古代に属さない遺構から出土した遺物及び包含層・表土等から出土した遺物を図示した。

1～4・6～13は土師器環である。1・2・11・13は体部下端にヘラケズリを施す。13は外面から穿孔を試みている。9世紀後葉。3・8・9は口縁部が外反するもの。9には墨書が見られる。4・7は直線的な口縁のもの。6は丸底で口縁が外反するもの。10は内湾する体部を持つもの。14・15は須恵器環で、直線的に開く体部と口縁のもの。16～18は灰釉陶器碗。18は内湾する三日月高台で、黒笹90号形式に相当する。19は灰釉陶器壺。20～22は土師器甕。23～28は須恵器甕。29は土鍾である。



第126図 遺構外出土の古代遺物実測図

第58表 古代の遺構外出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考	出土 位置
				口径	底径	高さ	外	内						
1		土師 器	杯	13.4	7.8	4.3	7.5YR7/8 黄緑 10YR8/3 灰黄緑	7.5YR6/8 黒 7.5YR6/4 に赤い帯	白色粒 砂粒	良	口縁から体 部1/8 底部1/2	底部外面回転ヘラ切り後 凹色にして口 底部下位回 転ヘラツケリ。口縁から 底部ヘラミガキ 時計廻り のロクロ仕上げ		SK- 1484
2		土師 器	杯	12.2	6.4	4.0	7.5YR6/4 に赤い帯	7.5YR7/1 黒	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	1/4	底部外面ヘラ切り後凹色に して底部下位回転ヘラツケ リ。口縁から底部内面ヘラ ミガキ	内面黒色処理	SK- 1454
3		土師 器	杯	(13.6)		(3.9)	10YR7/4 に赤い黄緑 10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	白色粒 砂粒	良	破片	口縁から体部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理	SK- 1497
4		土師 器	杯	11.6		3.3	5YR3/2 オリーブ黄 2.5YR4/4 オリーブ黒	2.5YR2/1 黒	白色粒 雲母微 片少量	良	破片	口縁から体部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理	SK- 1483
5	二 八	灰輪 陶器	杯	10.2		(3.2)	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	砂粒	良	破片	内外面ともロクロナデ	備胎	SK- 1497
6		土師 器	杯	10.5		(2.3)	10YR4/2 灰黄緑	10YR4/2 灰黄緑	白色粒	良	口縁1/8	口縁部外面ヨコナデ 体部 外面ヘラツケリ。口縁から 体部内面ヨコナデ	口縁部外面に 附着物あり	S1- 144
7		土師 器	杯			(3.0)	5YR5/6 明赤黒	5YR5/6 明赤黒	微細の微砂粒	良	破片	口縁から体部内面ヘラミガ キ		SK- 144
8		土師 器	杯			(2.3)	10YR6/3 に赤い黄緑	10YR17/1 黒	白色粒 雲母	良	破片	口縁部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 外面は酸化	SK- 952
9	二 九	土師 器	杯			(2.4)	10YR7/3 に赤い黄緑	10YR2/1 黒	黒色砂粒 白色 微粒	良	破片	口縁部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 着	SK- 1431
10	二 九	土師 器	杯			(2.8)	10YR7/2 に赤い黄緑	N2 黒	白色細粒 赤色 細粒 黒色細粒	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 着	V1X
11		土師 器	杯			6.0	2.5Y3/3 暗オリーブ黒 2.5Y7/1 灰白	2.5Y2/1 黒	ガラス質粒 砂 粒 白色粒	良	体部1/4 底部2/3	底部外面ヘラ切り 底部切 り難し後凹色にして時計廻 りの回転ヘラツケリ 体か ら底部ヘラミガキ	内面黒色処理	SK- 1484
12		土師 器	杯			7.0	5YR6/6 明黒	5YR6/6 黒	白色粒	良	体から 底部1/2	底部外面回転糸形後ヘラ ツケリ 内面ロクロナデ		1区
13	二 七	土師 器	杯	8.5		(1.4)	7.5YR5/6 明黒	10YR4/2 灰黄緑	白色粒 ガラス 質粒	良	底部1/6	底部外面回転糸形後ヘラ ツケリ	底部に焼成後 穿孔	1区 表土
14		須恵 器	杯	14.0		(3.3)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	白色粒 小石	良	口縁部1/8	ロクロ回転方向不明		SK- 119
15		須恵 器	杯			(2.6)	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 小石	良	破片	ロクロ回転方向不明		SK- 119
16	二 八	灰輪 陶器	碗			(1.7)	5YR/1 灰白	5YR/1 灰白	精良	良	体部破片		遺存部全面黒 粒	SK- 1338
17	二 八	灰輪 陶器	碗			(2.5)	5YR/1 灰白	5Y7/1 灰白	精良	良	体部破片		多面の輪は薄 い	SK- 1497
18	二 八	灰輪 陶器	碗	8.0		(1.7)	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	精良	良	胴部1/6程度		直径90円型式	SK- 1706
19	二 八	須恵 器	甌			(4.2)	5Y7/1 灰白	2.5YR6/2 灰黄	精良	良	破片	外面ロクロナデ後上部左 ラケツケリ 内面ロクロナデ	自然剥離着	V1X
20		土師 器	甌			(4.3)	10YR6/4 に赤い黄緑	7.5YR6/4 に赤い帯	赤色粒 ガラス 質粒 白色粒	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 口縁 部内面ヨコナデ		SK- 1483
21		土師 器	甌	21.0		(3.4)	10YR5/2 灰黄緑	10YR6/3 に赤い黄緑	白色粒 赤色粒 雲母片	良	口縁部1/8 程度	口縁部外面ヨコナデ 胴部 外面ヘラツケリ。口縁部内 面ヨコナデ 胴部内面ヘラ ツケリ		SK- 1677
22		土師 器	甌			(2.2)	7.5YR5/4 に赤い黄	7.5YR5/4 に赤い黄	白色粒 赤色粒 石英	良	口縁から胴 部一部	口縁部外面ヨコナデ 胴部 外面ヘラツケリ。口縁部内 面ヨコナデ 胴部内面ヘラ ツケリ		SK- 888
23		須恵 器	甌			(4.0)	7.5YR4/4 黒 2.5YR5/1 黄灰 2.5YR8/1 灰白	2.5YR4/1 黒 5Y5/2 オリーブ灰	白色粒 砂粒	良	一部残存	胴部内面当て具痕		SK- 1483
24		須恵 器	甌			(0.0)	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	微砂粒	良	破片	胴部外面タタキ 胴部内面 にタタキ	内面にタタキに 西海産文あり	SD- 1083
25		須恵 器	甌			(5.6)	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	白色粒 微砂粒	良	破片	内外面ともナデ		SD- 19
26		須恵 器	甌			(6.1)	10YR6/1 黄灰	2.5Y5/2 暗灰黒	微砂粒	良	破片	胴部外面明赤黒 胴部内面 あて具痕		SK- 1180
27	二 七	須恵 器	甌			(3.8)	2.5Y6/1 黄灰	5Y5/1 灰	微砂粒	良	破片		胴部外面印判 あり。破片上部 の割れ目以前 磨きだされて研 磨部に転用	SD- 1083
28		須恵 器	甌	14.0		(1.5)	2.5Y7/2 黄灰	2.5Y7/2 黄灰	白色粒	良	底部のみ 1/2弱	底部外面ヘラツケリ 底部 内面ヘラツケリ		1区 表土
29	三 〇	土師 器	長さ43 径1.5 孔0.3				10YR7/3 に赤い黄緑		黒色粗粒	良	完形		重さ7.8g	V1X

## 第四節 中近世の遺構

中近世の遺構は、掘立柱建物跡32棟、柵列11列、井戸跡4基、方形竪穴10基、近世墓18基、溝31条とその他多数の土坑を検出した。これらの遺構は全調査区で検出されているが、Ⅰ区～Ⅱ区の北部、Ⅴ区中央部、Ⅴ区南部に掘立柱建物跡が集中している。またそれぞれの集中地点を区画するように溝が検出されている。

このうちⅠ区の集中地点は北寄りに4棟が並び、東寄りと南寄りに小型の建物跡が位置し、その南側を断面V字型の区画溝SD-1000によって区画されている。同じエリアのSB-167は四面に簡若しくは縁のつく近世の建物で、このエリアで中世の古い段階から近世まで継続的に集落が営まれたことがわかる。

Ⅴ区中央部の集中地点は、大型の掘立柱建物跡が複数回建て替えられ、また方形竪穴遺構と多数の土坑が密集する地点で、出土遺物も多い。

一方、Ⅴ区南部の集中地点は小規模な掘立柱建物跡が複数回建て替えられている。

近世墓も多数検出されている。Ⅱ区、Ⅴ区北部に集中している。

### 第一項 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡はⅠ区で10棟、Ⅱ区で3棟、Ⅲ区で1棟、Ⅳ区で1棟、Ⅴ区で17棟、計32棟を検出した。Ⅰ区、Ⅴ区中央部、Ⅴ区南部に集中している。山の神Ⅱ遺跡で検出された中近世に属する掘立柱建物跡のほとんどは、梁行が一間で、その柱間が長大な、梁間一間型建物である。建物の規模等については、本項末の掘立柱建物跡一覧と柱穴規模一覧を参照されたい。

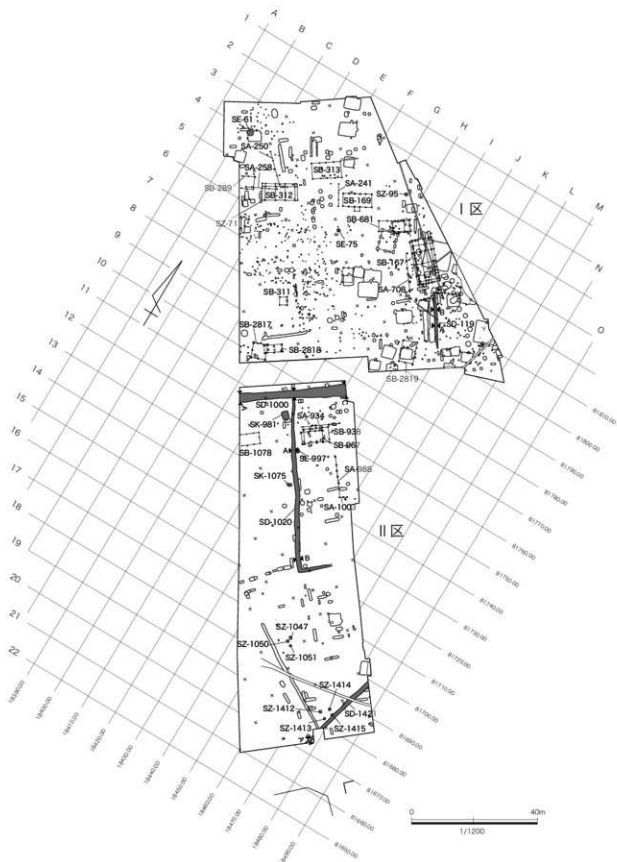
#### SB-167 (第129～132図、第59表、図版一〇・三〇・三二)

Ⅰ区、グリットH4に位置する。3×7間の身舎に東西と南側に下屋の取り付く南北棟建物である。当遺跡中最も大型の掘立柱建物跡であり近世的間取りを示す唯一の建物跡である。身舎の梁行長5.5m、桁行長13.2mで、身舎の桁行柱間は平均1.88mである。身舎は、南側一間分を土間、中央四間分と北側二間分をそれぞれ二室に分けた四間取りか。

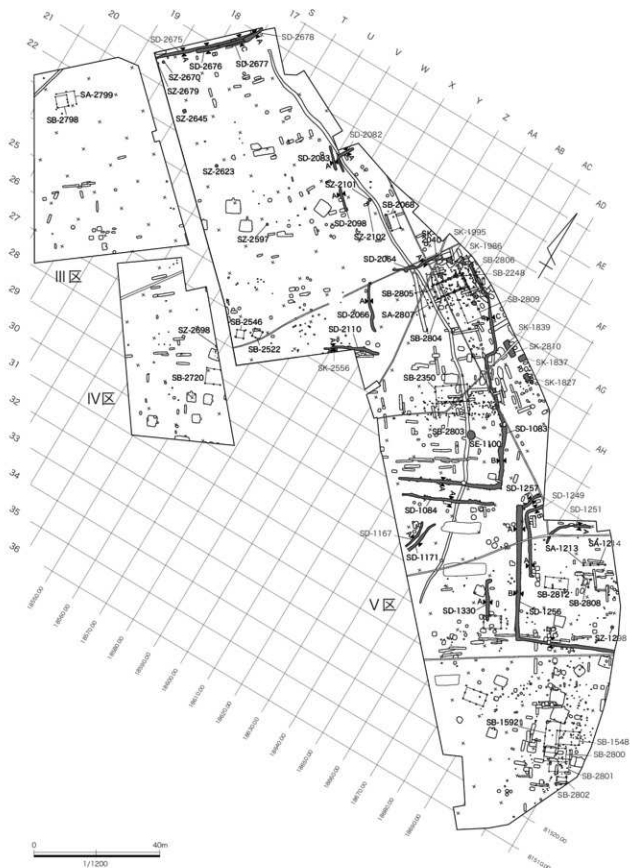
出土遺物は、1が瀬戸美濃系腰鉋煎茶碗で18世紀前半、2が伊万里染め付け碗で18世紀、4が瀬戸美濃系鉄釉碗、5が瀬戸播鉢、6～9が砥石である。砥石は粒子の細かい砂岩製で、砥面以外の面には形成時のケズリ痕が残る。建物の年代は伊万里、瀬戸美濃碗から18世紀代と考えられる。

#### SB-169 (第133・134図、第60表、図版一〇)

Ⅰ区、グリットF4に位置する。1×5間の東西棟で、梁行きが一間で長大な梁間一間型建物である。南側一間分に底をもつ。梁行長4.2m、桁行長9.12mで、桁行きの柱間は平均1.82mである。柱穴は決して大きくはないが、11本で柱痕跡を確認した。また西側にSA-241を伴うが、SA-241・P2～P4がSB-169西側庇とも考えられる。P10から板状鉄製品が出土している。桁行き柱間の小ささから、近世の建物跡と判断できる。

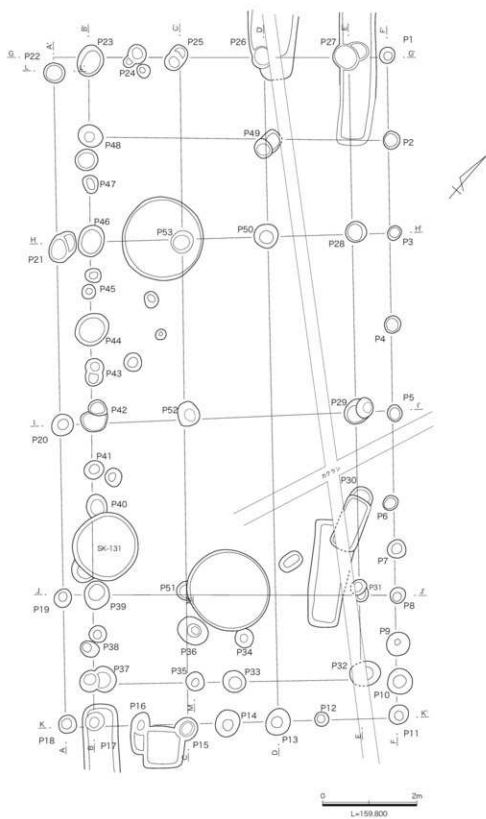


第127図 中近世の遺構位置図(1)

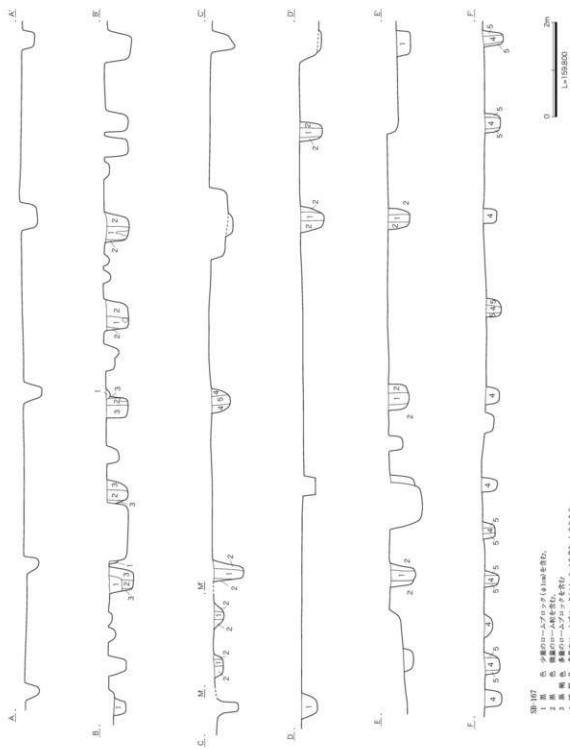


第128図 中近世の遺構位置図(2)

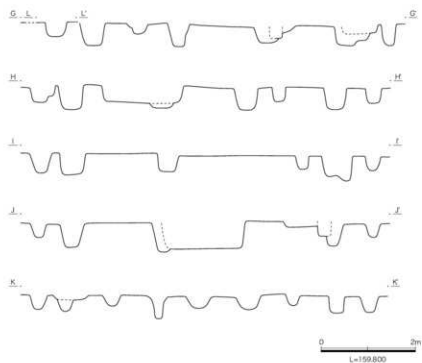




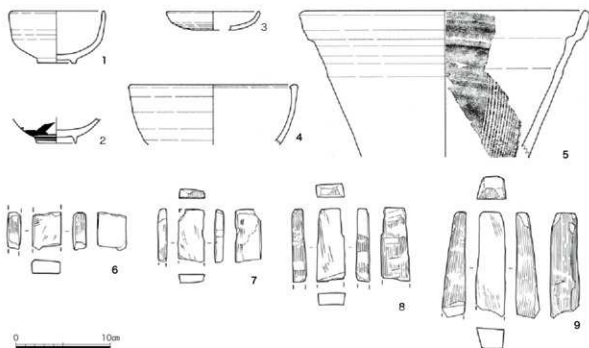
第129図 SB-167実測図(1)



第130図 SB-167実測図(2)



第131図 SB-167実測図(3)



第132図 SB-167出土遺物実測図

第59表 SB-167出土遺物観察表

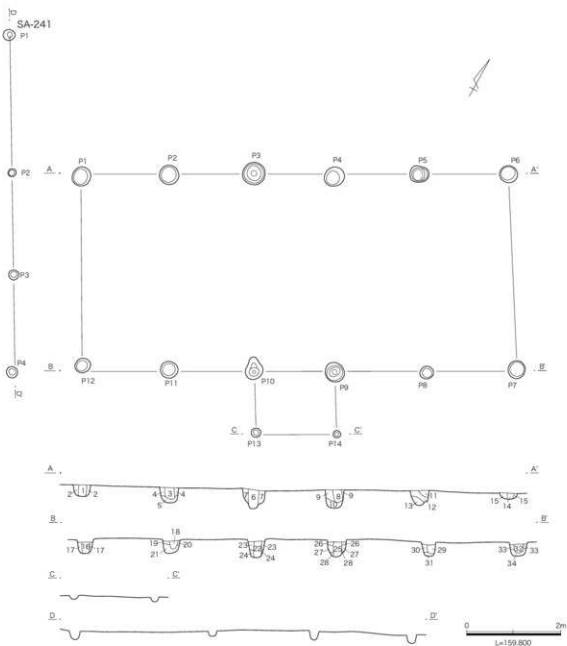
実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三〇三	瀬戸 美濃 系磁 器	肥前 茶碗	10.0	4.0	5.5	5Y7/2 ~ 7.5YR2/2 灰白~黒褐	5Y7/2 灰白	黒色微粒	良	口縁から 体部1/2 底部迄存		高台先端摩耗
2	三〇三	瀬戸 美濃 系	碗		4.2	(2.7)	5GY7/1 明オリープ 灰	2.5GY7/1 明オリープ 灰	白色細粒 黒色 細粒	良	体部下位 1/4 底部迄存	外面染付 見込みは蛇の 目輪刺ぎ	
3	三〇三	瀬戸 美濃 系	皿	9.6	4.6	1.95	5YR4/4 に赤い赤褐	5YR4/3 に赤い赤褐	白色微粒	良	1/6		鉄軸
4	三〇三	瀬戸 美濃 系	碗	17.2		(6.4)	10YR4/4 褐	10YR4/4 褐	白色細粒 黒色 細粒	良	口縁から 体部1/8		内外全面鉄軸
5	三〇三	瀬戸	摺鉢	29.8		(15.5)	5YR3/2 暗赤褐	5YR4/2 灰褐	白色粗粒	良	破片	体部外面下半部にヘラク ズリ 体部内面卸し目 (15条以下)	
6	三三三	砥石		長さ (4.0)	幅 3.0	厚さ 1.4	2.5Y7/2 灰黄						粒子の細かい 砂岩製 28.18g 砥面 は正面及び背 面で背面の使 用は僅かであ る 両側面 には成形時の 工具痕が残 る
7	三三三	砥石		長さ (5.6)	幅 2.8	厚さ 0.9	2.5Y7/2 灰黄						粒子の細かい 砂岩製 24.92g 砥面 は正面及び背 面で正面は良 く使込まれ ている 背面 の使用は部分 的である 側 面には成形時 の工具痕が残 る
8	三〇三	砥石		長さ (7.7)	幅 3.0	厚さ 1.5							
9	三〇三	砥石		長さ (11.2)	幅 3.1	厚さ 2.2	2.5Y6/2 灰黄						粒子の細かい 砂岩製 108.3g 砥面 は正面のみ 背面および側 面には成形時 の工具痕が残 る



第133図 SB-169出土鉄製品実測図

第60表 SB-169出土鉄製品観察表

実測 図No	図版 No	種類	寸法 (cm)			重量 (g)	備考
			長さ	幅	厚さ		
1		不明	(3.6)	1.8	0.5	4.24	P10柱痕跡出土



SB-169

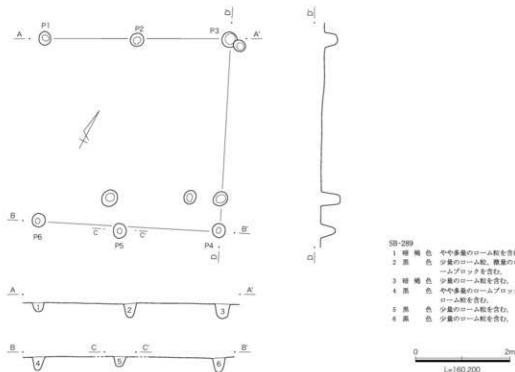
- 1 原 堀 色 やや多量のロームブロック、少量の今市砂を含む。しりとり。柱礎。
- 2 堀 堀 色 多量のロームブロックを含む。しりとり。
- 3 堀 堀 色 少量のロームブロック、今市砂、微量の日本砂を含む。しりとり。柱礎。
- 4 原 堀 色 少量のロームブロック、微量の今市砂を含む。しりとり。
- 5 原 堀 色 やや多量のロームブロック、微量の日本砂を含む。しりとり。
- 6 原 堀 色 少量のローム砂、微量のロームブロック、今市砂を含む。しりとり。柱礎。
- 7 原 堀 色 やや多量のローム砂、少量のロームブロックを含む。しりとり。
- 8 原 堀 色 少量のローム砂を含む。しりとり。柱礎。
- 9 原 堀 色 微量のローム砂を含む。しりとり。
- 10 堀 堀 色 やや多量のローム・今市砂ブロックを含む。しりとり。
- 11 堀 堀 色 少量のローム砂を含む。しりとり。
- 12 堀 堀 色 ロームブロック主体、微量の今市砂を含む。しりとり。
- 13 原 堀 色 少量のロームブロック、微量の今市砂を含む。しりとり。
- 14 原 堀 色 少量のローム砂を含む。しりとり。柱礎。
- 15 堀 堀 色 やや多量のロームブロックを含む。しりとり。
- 16 原 堀 色 少量のローム砂、微量の今市砂を含む。しりとり。柱礎。
- 17 原 堀 色 やや多量のローム砂、少量のロームブロック、微量の今市砂を含む。しりとり。

- 18 原 堀 色 やや多量のローム砂、少量のロームブロックを含む。柱礎。
- 19 原 堀 色 少量の今市砂、微量のロームブロックを含む。しりとり。
- 20 堀 堀 色 少量のロームブロック、今市砂を含む。しりとり。
- 21 原 堀 色 ロームブロック・今市砂ブロックを含む。しりとり。
- 22 原 堀 色 少量のロームブロック、微量のローム砂、今市砂を含む。しりとり。
- 23 堀 堀 色 少量のローム砂、今市砂を含む。しりとり。
- 24 原 堀 色 少量のローム砂を含む。しりとり。
- 25 原 堀 色 少量のロームブロック、ローム砂、微量の今市砂を含む。しりとり。柱礎。
- 26 原 堀 色 多量のロームブロック、少量の今市砂を含む。しりとり。
- 27 原 堀 色 微量のローム砂を含む。しりとり。
- 28 原 堀 色 やや多量のロームブロックを含む。しりとり。
- 29 原 堀 色 やや多量のローム砂、微量の今市砂を含む。しりとり。柱礎。
- 30 堀 堀 色 やや多量のロームブロックを含む。しりとり。
- 31 堀 堀 色 少量のローム砂を含む。しりとり。
- 32 原 堀 色 やや多量のローム砂、微量のロームブロック、今市砂を含む。しりとり。柱礎。
- 33 堀 堀 色 少量のローム砂、今市砂を含む。しりとり。
- 34 堀 堀 色 少量のローム砂を含む。しりとり。

第134図 SB-169・SA-241実測図

SB-289 (第135図)

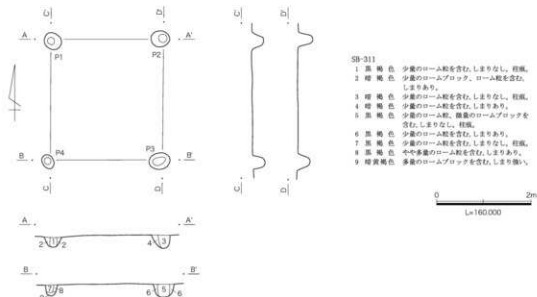
I区、グリットC 5に位置する。1×2間分を検出した東西棟、梁間一間型建物である。梁行長4.04m、桁行長3.80mで、桁行きの柱間は平均1.90mである。桁行き柱間の小ささから、近世の建物跡と判断できる。



第135図 SB-289実測図

SB-311 (第136図)

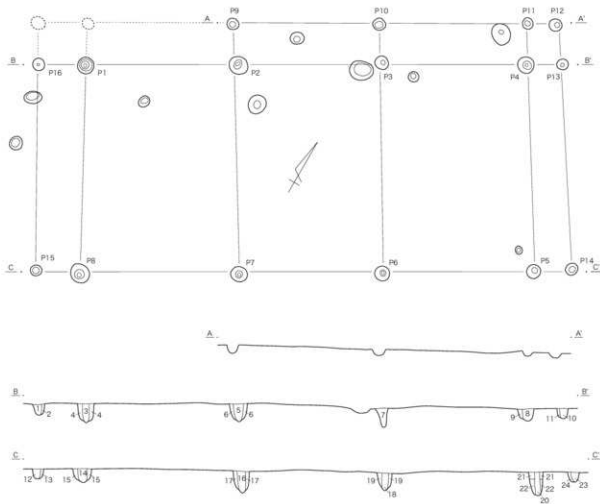
I区、グリットE 8に位置する。1×1間の建物で4本すべての柱穴で柱痕跡を確認した。グリットE 8付近は、遺構がほとんど検出されない空白地帯で、その周囲をビット状の土坑が取り囲んで特異な空間を生み出している。その中心に位置するSB-311は小規模な建物ながら、重要な意味をもつ可能性がある。出土遺物は無い。



第136図 SB-311実測図

SB-312 (第137図)

I区、グリットD5に位置する。1×3間の身舎に、東西と北側に下屋の取り付く東西棟、梁間一間型建物である。梁行長5.24m、桁行長11.24mである。身舎の桁行柱間の平均1.75mで、長大である。10本の柱穴で柱痕跡を確認し、深さ0.40m前後としっかりした掘方が多い。出土遺物は無い。



SB-312

- 1 黒 褐色 少量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 2 黒 褐色 やや多量のローム殻を含む。しまりあり。
- 3 黒 褐色 少量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 4 黒 褐色 やや多量のローム殻を含む。しまりあり。
- 5 黒 褐色 微量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 6 黒 褐色 少量のロームブロックを含む。しまりあり。
- 7 黒 褐色 少量のロームブロックを含む。しまりややなし。
- 8 黒 褐色 少量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 9 黒 褐色 少量のロームブロックを含む。しまりあり。
- 10 黒 褐色 やや多量のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。
- 11 黒 褐色 多量のロームブロックを含む。しまりあり。
- 12 黒 褐色 微量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 13 暗 褐色 やや多量のローム殻を含む。しまりあり。

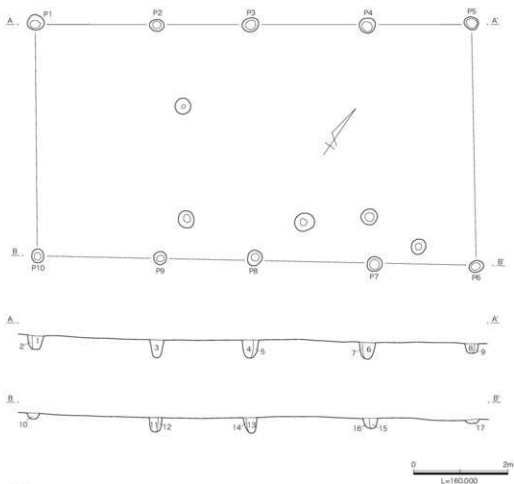
- 14 黒 褐色 微量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 15 黒 褐色 少量のロームブロック。ローム殻を含む。しまりあり。
- 16 黒 褐色 少量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 17 黒 褐色 少量のロームブロック。ローム殻を含む。しまりあり。
- 18 黒 褐色 少量のロームブロック。微量のローム殻を含む。しまりなし。柱痕。
- 19 黒 褐色 やや多量のロームブロックを含む。しまりあり。
- 20 黒 褐色 微量のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。
- 21 暗 褐色 多量のロームブロックを含む。しまりなし。
- 22 黒 褐色 少量のロームブロックを含む。しまりあり。
- 23 黒 褐色 微量のローム殻を含む。しまりなし。
- 24 黒 褐色 少量のロームブロック。微量のローム殻を含む。しまりあり。



第137図 SB-312実測図

SB-313 (第138図)

I区、グリッドD3に位置する。遺跡中最も北に位置する掘立柱建物跡である。1×4間の東西棟、梁間一間型建物である。梁行長5.10m、桁行長9.20mで、桁行きの柱間は平均2.30mである。2本の柱穴で柱痕跡を確認した。出土遺物は無い。



SB-313

- 1 柱 堀 色 やや多数のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。
- 2 柱 堀 色 少量のローム粒を含む。しまりあり。
- 3 柱 堀 色 微量のローム粒を含む。しまりややあり。
- 4 柱 堀 色 多数のロームブロックを含む。しまりややあり。
- 5 柱 堀 色 やや多数のロームブロックを含む。しまりあり。
- 6 柱 堀 色 やや多数のロームブロックを含む。しまりややあり。
- 7 柱 堀 色 少量のローム粒を含む。
- 8 柱 堀 色 多数のロームブロック。ローム粒を含む。しまりなし。
- 9 柱 堀 色 多数のロームブロック。ローム粒を含む。しまりあり。

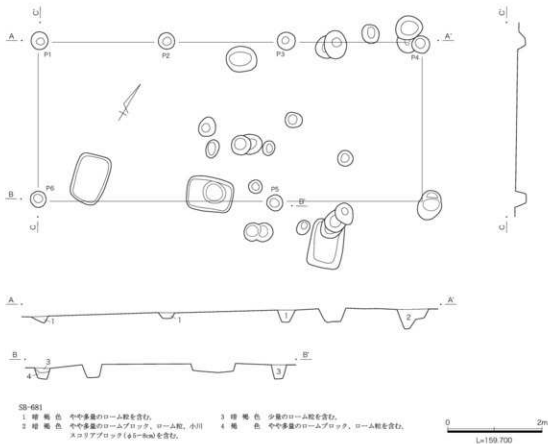
- 10 堀 堀 色 少量のローム粒を含む。しまりややあり。
- 11 堀 堀 色 微量のローム粒を含む。しまりなし。柱痕。
- 12 堀 堀 色 やや多数のロームブロックを含む。しまりあり。
- 13 堀 堀 色 微量のローム粒を含む。しまりややあり。
- 14 堀 堀 色 やや多数のロームブロックを含む。しまりあり。
- 15 堀 堀 色 やや多数のロームブロックを含む。しまりややあり。
- 16 堀 堀 色 多数のロームブロックを含む。しまりあり。
- 17 堀 堀 色 微量のローム粒を含む。

第138図 SB-313実測図



SB-681 (第139図)

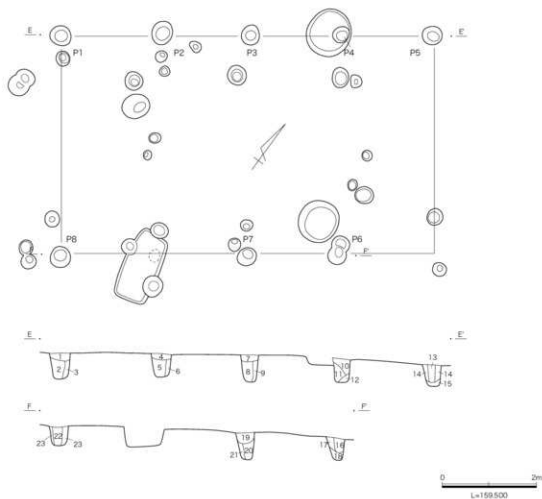
I区、グリットG4に位置する。1×3間の東西棟、梁間一間型建物である。梁行長3.40m、桁行長8.04mで、桁行きの柱間は平均2.68mである。出土遺物は無い。



第139図 SB-681実測図

SB-938 (第140図)

Ⅱ区、グリットI111に位置する。1×4間の東西棟、梁間一間型建物である。SB-967と重複するが新旧関係は不明である。梁行長4.60m、桁行長7.84mで、桁行きの柱間は平均1.96mである。7本の柱穴で柱痕跡が検出されている。北側にSA-934を伴う。出土遺物は無い。



SB-938

- |  |  |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼色のローム粒を含む。しまりや中やあり。                     | 13 黒褐色 中や多量のローム粒を含む。柱痕。                  |
| 2 黒褐色 多量のローム粒。少量のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。          | 14 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりあり。                 |
| 3 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりや中やあり。                     | 15 黒褐色 少量のロームブロックを含む。しまりあり。              |
| 4 黒褐色 焼色のローム粒を含む。しまりや中やあり。                     | 16 黒褐色 少量のローム粒。焼色のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。   |
| 5 黒褐色 多量のローム粒。少量のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。          | 17 黒褐色 少量のロームブロックを含む。しまりあり。              |
| 6 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりや中やあり。                     | 18 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりや中やあり。              |
| 7 黒褐色 焼色のローム粒を含む。しまりや中やあり。                     | 19 黒褐色 中や多量のロームブロック。少量のローム粒を含む。          |
| 8 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりなし。柱痕。                     | 20 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりなし。柱痕。              |
| 9 黒褐色 中や多量のロームブロックを含む。しまりあり。                   | 21 黒褐色 中や多量のローム粒を含む。しまりあり。               |
| 10 黒褐色 中や多量のローム粒。少量のローム粒。灰色粘土ブロックを含む。しまりや中やあり。 | 22 黒褐色 中や多量のローム粒。少量のロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。 |
| 11 黒褐色 少量のローム粒を含む。                             | 23 黒褐色 少量のローム粒を含む。しまりあり。                 |
| 12 黒褐色 中や多量のローム粒。少量のロームブロックを含む。しまりや中やあり。       |  |

第140図 SB-938実測図

SB-967 (第141図)

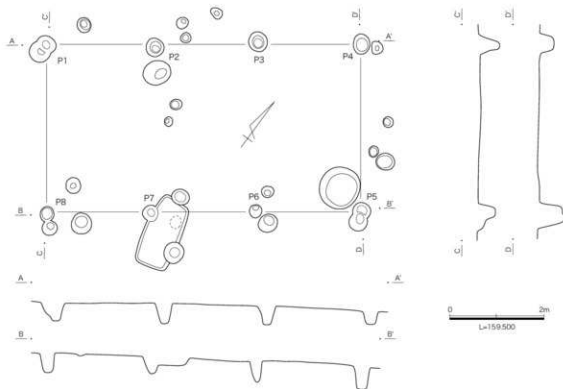
Ⅱ区、グリットI111に位置する。1×3間の東西棟、梁間一間型建物である。SB-938と重複するが新旧関係は不明である。梁行長3.56m、桁行長6.60mで、桁行きの柱間は平均2.20mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.60m、深さ0.26～0.48mである。出土遺物は無い。

SB-1078 (第142図)

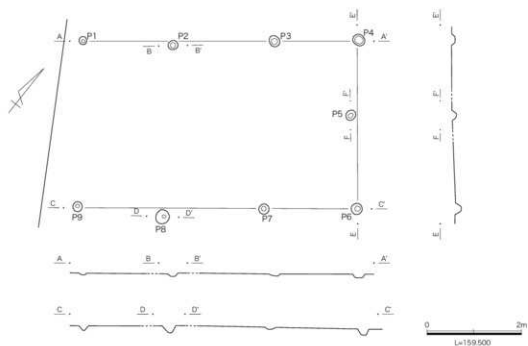
Ⅱ区、グリットG12に位置する。1×3間分を検出した東西棟、梁間一間型建物である。梁行長3.56m、桁行長5.88mで、桁行きの柱間は平均1.96mである。柱穴は平面円形で、直径0.16～0.28m、深さ0.04～0.16mである。出土遺物は無い。

SB-1548 (第143図)

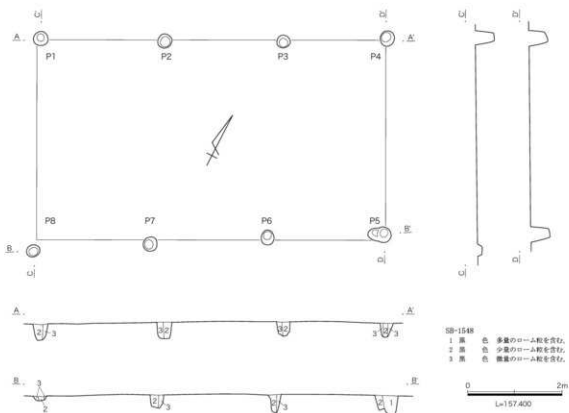
V区、グリットAK32に位置する。1×3間の東西棟、梁間一間型建物である。梁行長4.24m、桁行長7.32mで、桁行きの柱間は平均1.96mである。柱穴は平面円形で直径0.24～0.48m、深さ0.08～0.38mである。7本の柱穴で柱痕跡を検出した。柱痕跡の太さは0.12～0.20mである。V区南部には5棟の掘立柱建物跡が検出されており、SB-2801、SB-2802と共存した可能性がある。出土遺物はない。



第141図 SB-967実測図



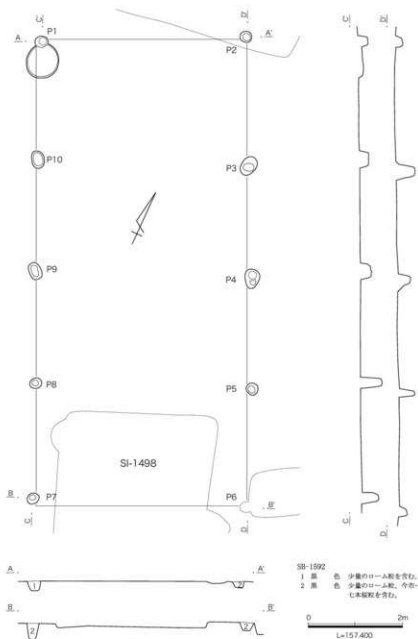
第142図 SB-1078実測図



第143図 SB-1548実測図

SB-1592 (第144図)

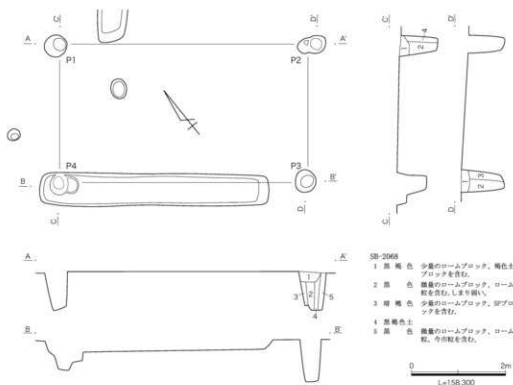
V区、グリットAK32に位置する。1×4間の南北棟、梁間一間型建物である。梁行長4.40m、桁行長9.88mで、桁行きの柱間は平均2.47mである。柱穴は平面円形で、直径0.20～0.40m、深さ0.16～0.48mである。V区南部には5棟の掘立柱建物跡が検出されており、SB-2802と共存した可能性がある。出土遺物は無い。



第144図 SB-1592実測図

SB-2068 (第145図、図版一〇)

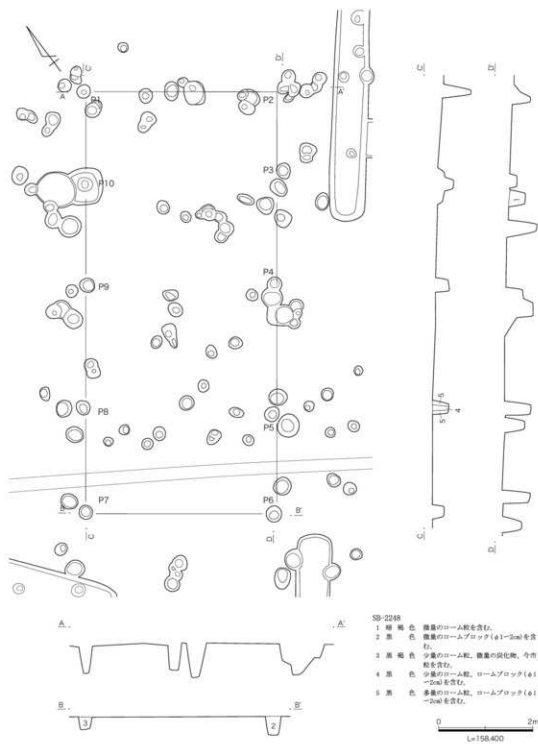
V区、グリットX20に位置する。1×1間分を検出したが、おそらく調査区外へ伸びる東西棟、梁間一間型建物である。梁行長2.92m、桁行長5.20mである。柱穴は平面円形で、直径0.36～0.60m、深さ0.60～0.90mである。2本の柱穴で柱痕跡を確認し、柱痕跡の太さは0.18～0.26mである。出土遺物は無い。



第145図 SB-2068実測図

SB-2248 (第146図)

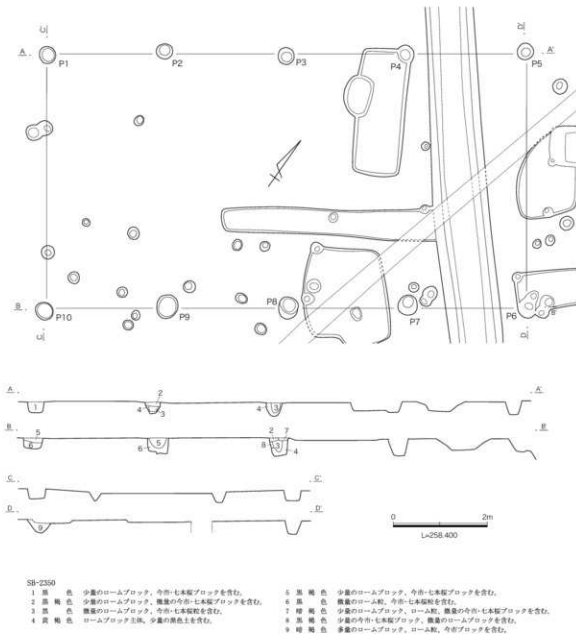
V区、グリットAA21に位置する。1×4間の南北棟、梁間一間型建物である。梁行長4.02m、桁行長8.92mで、桁行きの柱間は平均2.23mである。柱穴は平面円形で、直径0.28～0.48m、深さ0.28～0.58mである。1本の柱穴で柱痕跡を確認し、柱痕跡の太さは0.12mである。V区中央部に7棟の掘立柱建物跡が集中するが、うち3棟がほぼ同位置で建て替えを行っており、SB-2248はそのうちの1棟である。新旧関係は不明である。出土遺物は無い。



第146図 SB-2248実測図

SB-2350 (第147図)

V区、グリットAB24に位置する。1×4間の東西棟、梁間一間型建物である。SB-2803と重複するが、柱穴の切り合いが無く新旧は不明である。梁行長5.40m、桁行長10.06mで、桁行きの柱間は平均2.51mである。梁行が5.40mと最も長大である。柱穴は平面円形で、直径0.32～0.60m、深さ0.22～0.38mである。3本の柱穴で柱痕跡を確認し、柱痕跡の太さは0.20mである。出土遺物は無い。

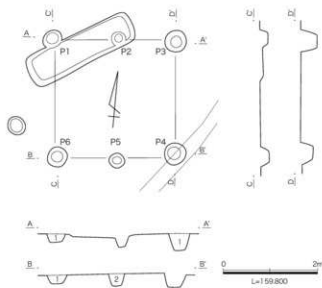


第147図 SB-2350実測図



SB-2522 (第148図)

V区、グリットV26に位置する。1×2間の東西棟建物で、極小規模な建物である。同じく小規模な建物SB-2546が隣接する。梁行長2.48m、桁行長2.52mで、桁行きの柱間は平均1.29mである。周辺は遺構密度が低く、特定の機能に特化した建物であることが想像される。

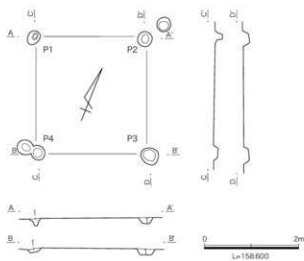


SB-2522  
 1 黒 色 遺構のローム殿、今市町を含む。  
 2 黒 色 少量のロームブロック、今市・七本瀬ブロックを含む。

第148図 SB-2522実測図

SB-2546 (第149図)

V区、グリットV26に位置する。1×1間の建物で、極小規模な建物である。同じく小規模な建物SB-2522が隣接する。周辺は遺構密度が低く、特定の機能に特化した建物であることが想像される。梁行長2.32m、桁行長2.48mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.38m、深さ0.08～0.14mである。



SB-2546  
 1 黒 色 少量のローム殿、今市ブロック、七本瀬町を含む、しまり餅。

第149図 SB-2546実測図

SB-2720 (第150図)

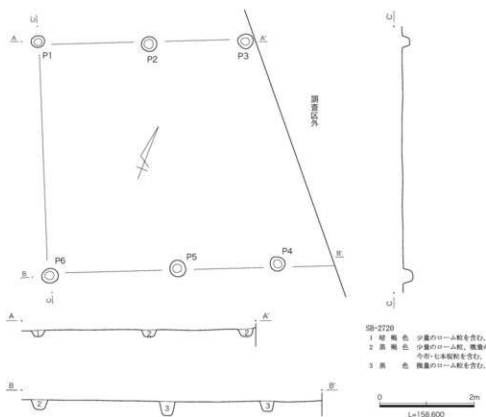
Ⅳ区、グリットV28に位置する。1×2間分を検出した東西棟、梁間一間型建物である。梁行長4.96m桁行長4.80m分を検出した。桁行きの柱間は平均2.30mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.36m、深さ0.12～0.28mである。出土遺物はない。

SB-2798 (第151図、図版一〇)

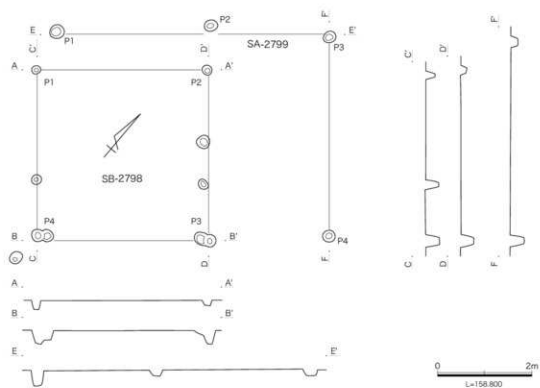
Ⅲ区、グリットM23に位置する。1×1間の極小規模な建物で、SA-2799によってL字に仕切られている。Ⅲ区北部は全調査区中最も遺構密度の低い地域であり、特定の機能に特化した建物であることが想像される。梁行長3.56m、桁行長3.62mで、桁行きの柱間は平均3.59mである。柱穴は平面円形で、直径0.16～0.46m、深さ0.12～0.30mである。出土遺物は無い。

SB-2800 (第152図)

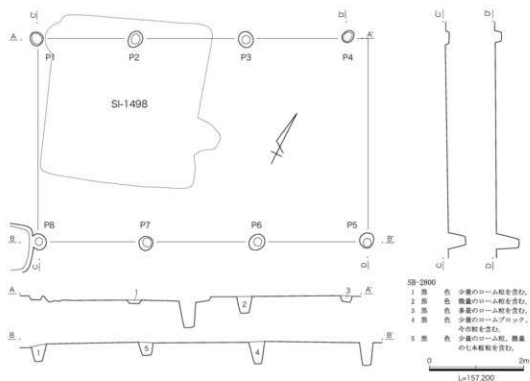
Ⅴ区、グリットAK32に位置する。1×3間の東西棟、梁間一間型建物である。Ⅴ区南部には5棟の掘立柱建物跡が検出されており、SB-2802と共存した可能性がある。梁行長4.32m、桁行長6.92mで、桁行きの柱間は平均2.30mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.36m、深さ0.12～0.46mである。出土遺物は無い。



第150図 SB-2720実測図



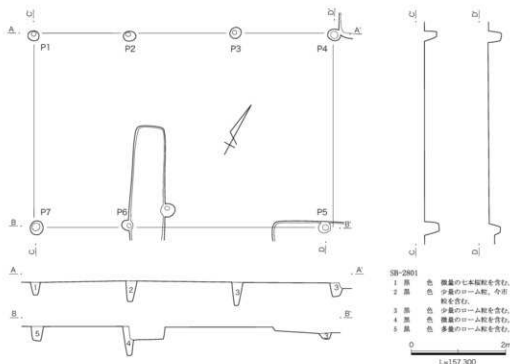
第151図 SB-2798・SA-2799実測図



第152図 SB-2800実測図

SB-2801 (第153図)

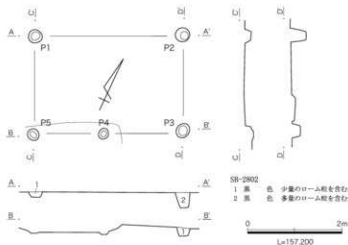
V区、グリットAK33に位置する。1×3間の東西棟、梁間一間型建物である。V区南部には5棟の掘立柱建物跡が検出されており、SB-1548、SB-1592、SB-2802と共存した可能性がある。梁行長4.12m、桁行長6.26mで、桁行きの柱間は平均2.09mである。柱穴は平面円形で、直径0.20～0.30m、深さ0.12～0.62mである。出土遺物は無い。



第153図 SB-2801実測図

SB-2802 (第154図)

V区、グリットAL33に位置する。1×2間の東西棟建物である。V区南部には5棟の掘立柱建物跡が検出されており、SB-1548、SB-1592、SB-2800、SB-2801と共存した可能性がある。梁行長3.12m、桁行長2.08mである。柱穴は平面円形で、直径0.20～0.32m、深さ0.04～0.32mである。出土遺物は無い。



第154図 SB-2802実測図

SB-2803 (第155図)

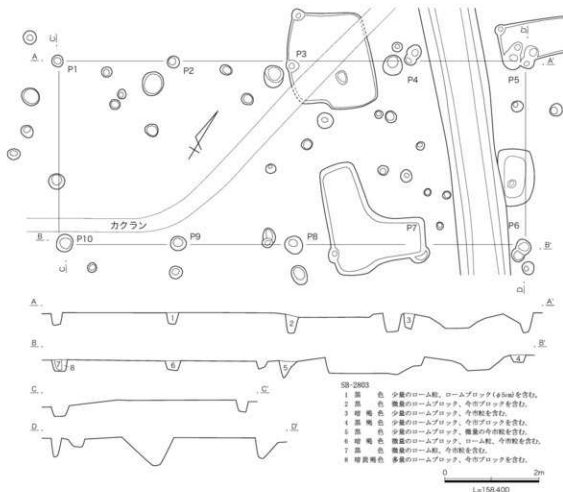
V区、グリットAB24に位置する。1×4間の東西棟、梁間一間型建物である。SB-2350と重複するが、柱穴が切り合っていないため新旧は不明である。1本の柱穴で柱痕跡を確認した。梁行長3.88m、桁行長9.76mで、桁行きの柱間は平均2.44mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.48m、深さ0.16～0.36mである。

SB-2804 (第156図)

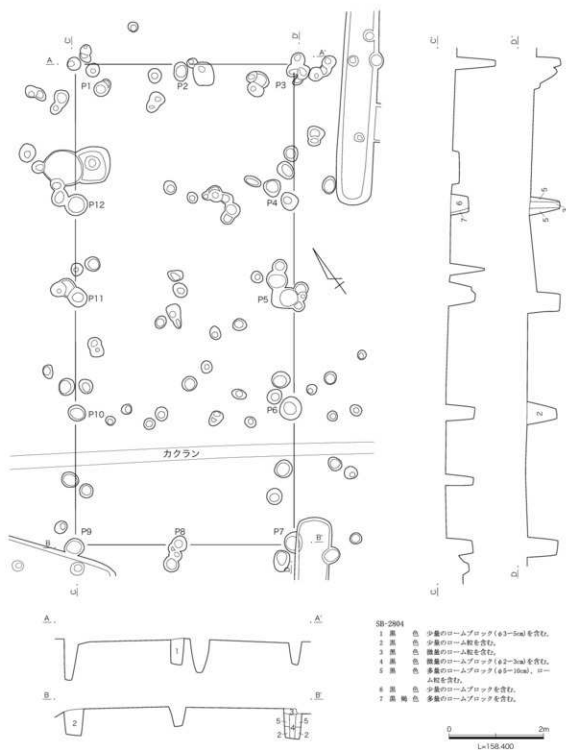
V区、グリットAA21に位置する。2×4間の南北棟建物である。V区中央部に7棟の掘立柱建物跡が集中するが、うち3棟がほぼ同位置で建て替えを行っており、SB-2804はそのうちの1棟である。新旧関係は不明である。梁行長4.60m、桁行長10.16mで、桁行きの柱間は平均2.54mである。柱穴は平面円形で、直径0.26～0.72m、深さ0.38～0.86mである。出土遺物は無い。

SB-2805 (第157図)

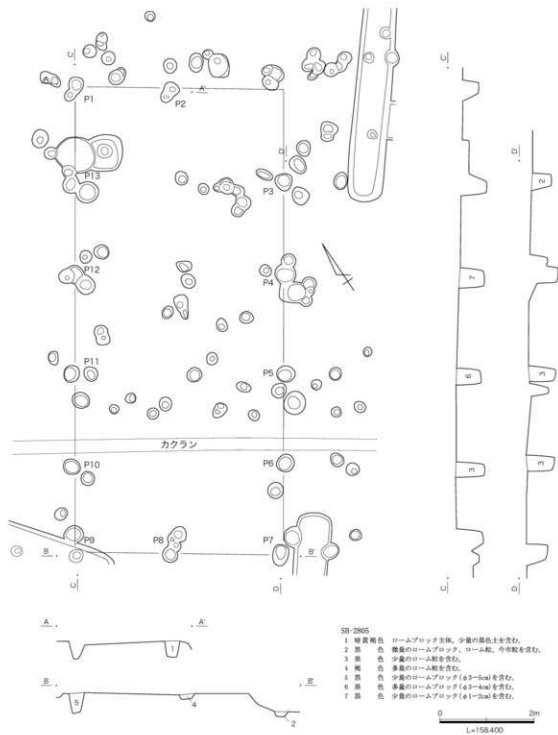
V区、グリットAA21に位置する。2×5間の東西棟建物である。V区中央部に7棟の掘立柱建物跡が集中するが、うち3棟がほぼ同位置で建て替えを行っており、SB-2805はそのうちの1棟である。新旧関係は不明である。梁行長4.40m、桁行長9.84mで、桁行きの柱間は平均1.97mである。柱穴は平面円形で、直径0.30～0.60m、深さ0.10～0.60mである。出土遺物は無い。



第155図 SB-2803実測図



第156図 SB-2804実測図



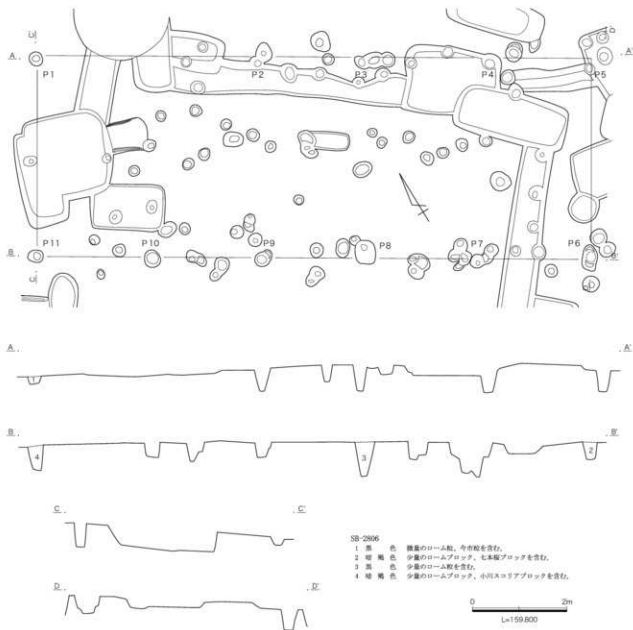
第157図 SB-2805実測図

SB-2806 (第158図)

V区、グリットAA21に位置する。1×5間の東西棟、梁間一間型建物である。V区中央部に7棟の掘立柱建物跡が集中するが、SB-2806はそのうちの1棟である。新旧関係は不明である。梁行長4.26m、桁行長11.6mで、桁行きの柱間は平均2.32mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.56m、深さ0.16～0.70mである。

SB-2808 (第159図)

V区、グリットAI27に位置する。1×1間の極小規模な建物である。背後にSA-1213、SA-1214がある。梁行長2.80m、桁行長3.26mである。柱穴は平面円形で、直径0.40～0.94m、深さ0.12～0.32mである。



第158図 SB-2806実測図



SB-2809 (第160図)

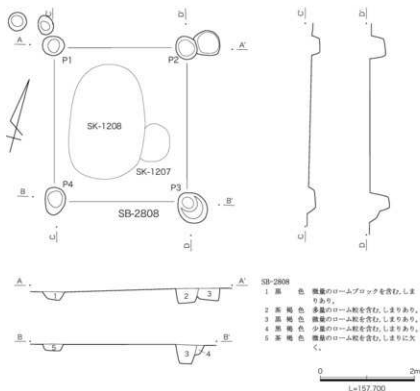
V区、グリットAB22に位置する。1×4間の東西棟、梁間一間型建物である。V区中央部に7棟の掘立柱建物跡が集中するが、SB-2809はそのうちの1棟である。新旧関係は不明である。梁行長4.84m、桁行長10.48mで、桁行きの柱間は平均2.62mである。柱穴は平面円形で、直径0.24～0.66m、深さ0.36～0.70mである。

SB-2812 (第161図)

V区、グリットAH28に位置する。1×3間の東西棟、梁間一間型建物である。1本の柱穴で柱痕跡が検出されている。梁行長3.56m、桁行長7.28mで、桁行きの柱間は平均2.43mである。柱穴は平面円形で、直径0.20～0.26m、深さ0.12～0.32mである。

SB-2817 (第162図)

I区、グリットF9に位置する。1×1間の小規模な建物である。SB-2818と重複するが、柱穴が切り合っていないため新旧は不明である。梁行長4.48m、桁行長4.80mである。柱穴は平面円形で、直径0.52～0.66m、深さ0.36mである。



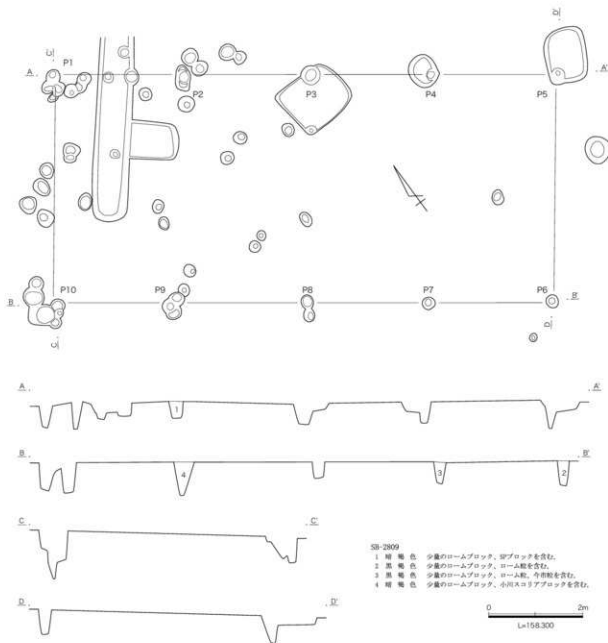
第159図 SB-2808実測図

SB-2818 (第163図)

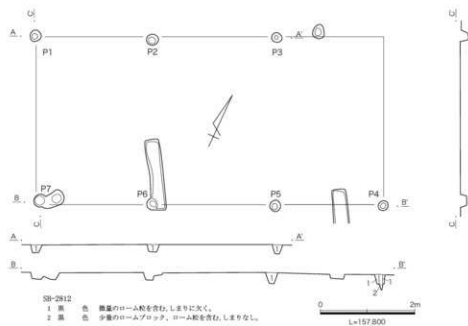
I区、グリットF 9に位置する。1×1間の小規模な建物である。SB-2817と重複するが、柱穴が切り合っていないため新旧は不明である。梁行長2.40m、桁行長5.56mである。柱穴は平面円形で、直径0.28～0.40m、深さ0.18～0.54mである。2本の柱穴で柱痕跡を確認し、柱痕跡の太さは0.06～0.10mである。

SB-2819 (第164図)

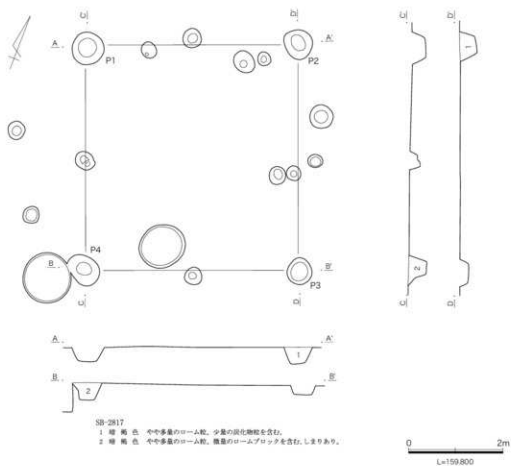
I区、グリットJ 7に位置する。1×3間の南北棟、梁間一間型建物である。梁行長4.48m、桁行長6.96mで、桁行きの柱間は平均2.32mである。柱穴は平面円形で、直径0.28～0.60m、深さ0.08～0.48mである。



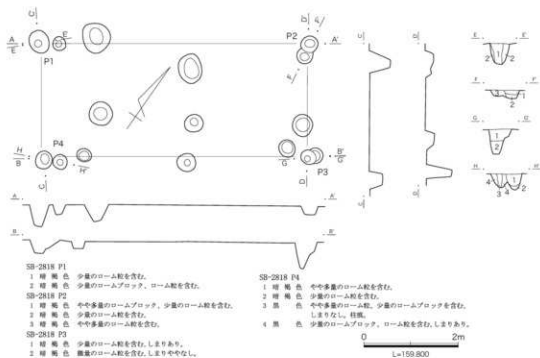
第160図 SB-2809実測図



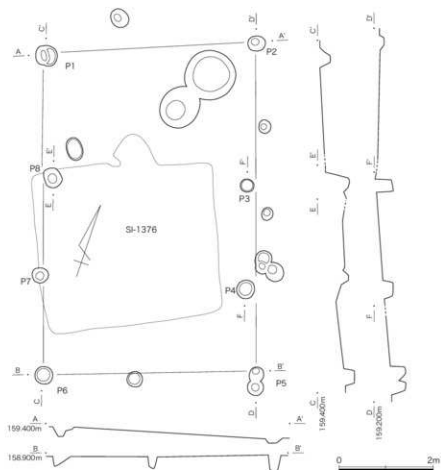
第161図 SB-2812実測図



第162図 SB-2817実測図



第163図 SB-2818実測図



第164図 SB-2819実測図

第61表 中近世の掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	規模	梁行柱間	桁行柱間	梁行長(m)	桁行長(m)	主軸方位	切り合い	柱痕跡	備考	調査区	グリッド
SB-167	5×9(身舎3×7)南北棟	5	9	6.92(身舎5.50)	14.00(身舎13.20)	N40°-W				I	H4
SB-169	1×5 梁間一間型出入り口付東西棟	1	5	4.20	9.12	N31°-E		11本(P1.2.3.4.6.7.8.9.10.11.12)	SA-241を伴う	I	F4
SB-289	1×2以上 梁間一間型東西棟	1	2	4.04	3.80	N25°-W	SA-258			I	C5
SB-311	1×1 南北棟	1	1	2.36	2.56	N-1°-E		4本(P1.2.3.4)	遺構空白地にある。	I	E8
SB-312	2×5(身舎1×3)梁間一間型東西棟	2	5	5.24(身舎4.40)	11.24(身舎9.60)	N32°-W	SA-250・258	10本(P1.2.4.5.6.7.8.13.15.16)		I	D5
SB-313	1×4 梁間一間型東西棟	1	4	5.10	9.20	N36°-W		2本(P1.9)		I	D3
SB-681	1×3 梁間一間型東西棟	1	3	3.40	8.04	N30°-W				I	G4
SB-938	1×4 梁間一間型東西棟	1	4	4.60	7.84	N36°-W		7本(P1.2.3.5.6.7.8)	SA-934を伴う	II	H11
SB-967	1×3 梁間一間型東西棟	1	3	3.56	6.60	N36°-W			SA-934を伴う	II	H11
SB-1078	2×3以上(1×3以上)梁間一間型東西棟	2	3	3.56	5.88	N38°-W				II	G12
SB-1548	1×3 梁間一間型建物東西棟	1	3	4.24	7.32	N27°-W				V	AK32
SB-1592	1×4 梁間一間型建物南北棟	1	4	4.40	9.88	N24°-W				V	AK32
SB-2068	1×1 南北棟	1	1	2.92	5.20	N38°-E		2本(P1.3)		V	X20
SB-2248	1×4 梁間一間型南北棟	1	4	4.02	8.92	N37°-E		1本(P8)		V	AA21
SB-2350	1×4 梁間一間型東西棟	1	4	5.40	10.06	N34°-W		3本(P2.3.8)		V	AB24
SB-2522	1×2 東西棟	1	2	2.48	2.52	N5°-W				V	V26
SB-2546	1×1 南北棟	1	1	2.32	2.48	N22°-W				V	V26
SB-2720	1×2以上 梁間一間型東西棟	1	(2)	4.96	(4.80)	N24°-W				IV	V28
SB-2798	1×1 東西棟	1	1	3.56	3.62	N39°-W			SA-2799を伴う	III	M23
SB-2800	1×3 梁間一間型東西棟	1	3	4.32	6.92	N26°-W				V	AK32
SB-2801	1×3 梁間一間型東西棟	1	3	4.12	6.26	N28°-W				V	AK33
SB-2802	1×1 東西棟	1	1	3.12	2.08	N25°-W				V	AL33
SB-2803	1×4 梁間一間型東西棟	1	4	3.88	9.76	N30°-W				V	AB24
SB-2804	2×4 南北棟	2	4	4.60	10.16	N36°-E				V	AA21
SB-2805	2×5 東西棟	2	5	4.40	9.84	N34°-E				V	AA21
SB-2806	2×5 東西棟	1	5	4.26	11.60	N31°-E				V	AA21
SB-2808	1×1	1	1	2.80	3.26	N15°-W				V	AI27
SB-2809	1×4 梁間一間型東西棟	1	4	4.84	10.48	N37°-E				V	AB22
SB-2812	1×3 梁間一間型東西棟	1	3	3.56	7.28	N24°-W				V	AH28
SB-2817	1×1	1	1	4.48	4.80	N21°-W			2×2?	I	F9
SB-2818	1×1 東西棟	1	1	2.40	5.56	N34°-W		1本(P4)		I	F9
SB-2819	1×3 梁間一間型南北棟	1	3	4.48	6.96	N19°-W				I	J7

第62表 中近世の掘立柱建物跡柱穴規模一覧表

遺構番号	柱穴番号	長軸(m)	短軸(m)	深(m)	柱遺跡	柱穴番号	長さ(m)	幅(m)	深(m)	柱遺跡
SB-167	P1	0.36	0.32	0.42		P28	0.44	0.44	0.44	
	P2	0.40	0.36	0.32		P29	0.64	0.40	0.44	
	P3	0.32	0.28	0.28		P30	0.48	0.20	0.48	
	P4	0.38	0.34	0.32		P31	0.48	0.20	0.50	
	P5	0.36	0.32	0.28		P32	0.46	0.52	0.50	
	P6	0.34	0.28	0.32		P33	0.48	0.44	0.44	
	P7	0.38	0.38	0.24		P34	0.40	0.38	0.40	
	P8	0.34	0.32	0.30		P35	0.40	0.40	0.20	
	P9	0.52	0.48	0.16		P36	0.46	0.52	0.20	
	P10	0.54	0.52	0.32		P37	0.78	0.44	0.36	
	P11	0.44	0.40	0.36		P38	0.36	0.36	0.20	
	P12	0.30	0.28	0.22		P39	0.60	0.52	0.50	
	P13	0.58	0.48	0.28		P40	0.40	0.44	0.44	
	P14	0.58	0.48	0.24		P41	0.40	0.38	0.26	
	P15	0.48	0.46	0.46		P42	0.68	0.56	0.44	
	P16	0.48	0.40	0.24		P43	0.58	0.40	0.32	
	P17	0.40	0.38	0.34		P44	0.76	0.64	0.46	
	P18	0.40	0.38	0.28		P45	0.32	0.28	0.16	
	P19	0.40	0.36	0.30		P46	0.68	0.52	0.46	
	P20	0.48	0.44	0.42		P47	0.38	0.30	0.14	
	P21	0.66	0.48	0.32		P48	0.52	0.44	0.48	
	P22	0.44	0.44	0.26		P49	0.64	0.40	0.46	
	P23	0.66	0.54	0.52		P50	0.52	0.48	0.48	
	P24	0.56	0.40	0.20		P51	0.20	0.40	0.64	
	P25	0.56	0.38	0.48		P52	0.50	0.46	0.38	
	P26	0.46	0.32	0.32		P53	0.48	0.44	0.48	
	P27	0.53	4.80	0.42						
SB-169	P1	0.40	0.36	0.24	柱遺跡あり	P8	0.28	0.26	0.24	柱遺跡あり
	P2	0.40	0.40	0.32	柱遺跡あり	P9	0.42	0.38	0.32	柱遺跡あり
	P3	0.48	0.46	0.40	柱遺跡あり	P10	0.46	0.36	0.34	柱遺跡あり
	P4	0.44	0.40	0.38	柱遺跡あり	P11	0.36	0.34	0.26	柱遺跡あり
	P5	0.40	0.34	0.30		P12	0.34	0.30	0.24	柱遺跡あり
	P6	0.38	0.36	0.12	柱遺跡あり	P13	0.20	0.20	0.08	
	P7	0.38	0.36	0.24	柱遺跡あり	P14	0.16	0.16	0.10	
SB-289	P1	0.28	0.24	0.18		P4	0.30	0.26	0.30	
	P2	0.28	0.28	0.28		P5	0.30	0.26	0.20	
SB-311	P3	0.32	0.32	0.34		P6	0.28	0.28	0.28	
	P1	0.36	0.32	0.24	柱遺跡あり	P3	0.44	0.34	0.26	柱遺跡あり
SB-312	P2	0.40	0.32	0.30	柱遺跡あり	P4	0.32	0.24	0.26	柱遺跡あり
	P1	0.36	0.32	0.40	柱遺跡あり	P9	0.24	0.22	0.18	
	P2	0.40	0.36	0.36	柱遺跡あり	P10	0.28	0.24	0.12	
	P3	0.28	0.28	0.40		P11	0.24	0.22	0.08	
	P4	0.36	0.34	0.24	柱遺跡あり	P12	0.28	0.26	0.08	
	P5	0.28	0.28	0.48	柱遺跡あり	P13	0.24	0.22	0.20	柱遺跡あり
	P6	0.32	0.30	0.36	柱遺跡あり	P14	0.26	0.24	0.20	
	P7	0.36	0.32	0.44	柱遺跡あり	P15	0.24	0.22	0.20	柱遺跡あり
SB-313	P8	0.44	0.38	0.28	柱遺跡あり	P16	0.26	0.24	0.22	柱遺跡あり
	P1	0.36	0.32	0.28	柱遺跡あり	P6	0.32	0.24	0.08	
	P2	0.30	0.24	0.38		P7	0.32	0.30	0.20	
	P3	0.36	0.28	0.38		P8	0.34	0.30	0.32	
	P4	0.34	0.32	0.34		P9	0.28	0.26	0.30	柱遺跡あり
SB-681	P5	0.30	0.26	0.20		P10	0.28	0.24	0.12	
	P1	0.36	0.36	0.22		P4	0.38	0.38	0.22	
	P2	0.36	0.34	0.12		P5	0.34	0.32	0.30	
	P3	0.36	0.36	0.26		P6	0.34	0.32	0.22	
SB-938	P1	0.44	0.42	0.54	柱遺跡あり	P5	0.40	0.38	0.48	柱遺跡あり
	P2	0.50	0.42	0.48	柱遺跡あり	P6	0.39	0.38	0.52	柱遺跡あり
	P3	0.42	0.38	0.56	柱遺跡あり	P7	0.40	0.36	0.56	柱遺跡あり
SB-967	P4	0.36	0.33	0.32		P8	0.44	0.44	0.42	柱遺跡あり
	P1	0.60	0.42	0.38		P5	0.60	0.38	0.48	柱遺跡あり
	P2	0.40	0.38	0.42		P6	0.28	0.24	0.44	
	P3	0.42	0.40	0.40		P7	0.34	0.32	0.36	
SB-1078	P4	0.42	0.34	0.26		P8	0.60	0.28	0.40	
	P1	0.16	0.16	0.04		P6	0.24	0.22	0.12	
	P2	0.20	0.18	0.08		P7	0.22	0.20	0.06	
	P3	0.24	0.20	0.04		P8	0.28	0.26	0.16	
	P4	0.26	0.22	0.08		P9	0.22	0.20	0.12	
SB-1548	P5	0.22	0.20	0.10						
	P1	0.30	0.28	0.32		P5	0.48	0.32	0.38	
	P2	0.30	0.28	0.34		P6	0.32	0.28	0.38	
	P3	0.28	0.26	0.28		P7	0.30	0.28	0.28	
SB-1592	P4	0.32	0.30	0.28		P8	0.28	0.24	0.08	
	P1	0.28	0.24	0.20		P6	0.28	0.20	0.16	
	P2	0.24	0.24	0.16		P7	0.26	0.22	0.34	
	P3	0.42	0.30	0.40		P8	0.24	0.22	0.48	
	P4	0.40	0.28	0.28		P9	0.36	0.24	0.24	
P5	0.28	0.24	0.32		P10	0.38	0.26	0.20		

第三章 山の神日道跡の調査

SB-2068	F1	0.48	0.44	0.80	F3	0.46	0.44	0.90
	F2	0.60	0.36	0.80	F4	0.60	0.46	0.60
SB-2248	F1	0.28	0.28	0.56	F6	0.34	0.32	0.40
	F2	0.48	0.28	0.40	F7	0.30	0.28	0.26
	F3	0.40	0.30	0.34	F8	0.32	0.28	0.34
	F4	0.44	0.40	0.58	F9	0.32	0.30	0.28
	F5	0.32	0.28	0.42	F10	0.32	0.32	0.34
SB-2350	F1	0.36	0.34	0.22	F6	0.60	0.36	0.30
	F2	0.34	0.32	0.34	F7	0.44	0.40	0.34
	F3	0.36	0.34	0.28	F8	0.46	0.40	0.38
	F4	0.40	0.34	0.22	F9	0.50	0.44	0.34
	F5	0.36	0.34	0.28	F10	0.40	0.36	0.22
SB-2522	F1	0.44	0.36	0.18	F4	0.46	0.44	0.28
	F2	0.28	0.24	0.20	F5	0.32	0.30	0.26
	F3	0.46	0.44	0.36	F6	0.42	0.40	0.18
SB-2546	F1	0.30	0.24	0.14	F3	0.38	0.34	0.12
	F2	0.32	0.30	0.12	F4	0.30	0.28	0.08
SB-2720	F1	0.28	0.24	0.12	F4	0.32	0.30	0.20
	F2	0.32	0.32	0.14	F5	0.36	0.32	0.28
SB-2798	F3	0.32	0.30	0.16	F6	0.34	0.30	0.20
	F1	0.20	0.18	0.20	F3	0.46	0.26	0.28
	F2	0.22	0.20	0.12	F4	0.44	0.26	0.30
SB-2800	F1	0.28	0.26	0.08	F5	0.32	0.28	0.48
	F2	0.36	0.28	0.08	F6	0.36	0.30	0.46
	F3	0.34	0.30	0.34	F7	0.30	0.28	0.28
	F4	0.28	0.24	0.12	F8	0.36	0.32	0.36
SB-2801	F1	0.24	0.20	0.28	F5	0.24	0.20	0.12
	F2	0.26	0.20	0.44	F6	0.24	0.22	0.62
	F3	0.24	0.22	0.48	F7	0.30	0.26	0.30
	F4	0.24	0.24	0.28				
SB-2802	F1	0.28	0.28	0.12	F4	0.24	0.20	0.04
	F2	0.30	0.28	0.32	F5	0.24	0.22	0.04
	F3	0.32	0.36	0.20				
SB-2803	F1	0.26	0.24	0.24	F6	0.48	0.32	0.16
	F2	0.24	0.24	0.24	F7	0.42	0.24	0.20
	F3	0.28	0.24	0.36	F8	0.38	0.36	0.36
	F4	0.46	0.24	0.32	F9	0.32	0.30	0.20
	F5	0.48	0.28	0.40	F10	0.36	0.32	0.24
SB-2804	F1	0.28	0.26	0.86	F7	0.44	0.38	0.64
	F2	0.40	0.28	0.54	F8	0.32	0.32	0.42
	F3	0.28	0.22	0.52	F9	0.42	0.36	0.56
	F4	0.38	0.34	0.62	F10	0.36	0.32	0.60
	F5	0.72	0.44	0.62	F11	0.40	0.38	0.56
SB-2805	F6	0.48	0.44	0.62	F12	0.48	0.44	0.38
	F1	0.56	0.32	0.36	F8	0.48	0.32	0.10
	F2	0.46	0.32	0.34	F9	0.30	0.28	0.42
	F3	0.36	0.34	0.40	F10	0.36	0.32	0.60
	F4	0.60	0.44	0.60	F11	0.34	0.32	0.52
	F5	0.40	0.34	0.56	F12	0.54	0.40	0.52
	F6	0.38	0.36	0.60	F13	0.60	0.36	0.54
F7	0.44	0.32	0.44					
SB-2806	F1	0.30	0.28	0.16	F7	0.30	0.26	0.70
	F2	0.22	0.34	0.46	F8	0.48	0.42	0.72
	F3	0.34	0.28	0.56	F9	0.40	0.30	0.32
	F4	0.42	0.34	0.50	F10	0.38	0.34	0.32
	F5	0.36	0.32	0.44	F11	0.32	0.24	0.52
	F6	0.54	0.32	0.36				
SB-2808	F1	0.46	0.40	0.16	F3	0.70	0.40	0.40
	F2	0.94	0.50	0.32	F4	0.60	0.44	0.14
SB-2809	F1	0.66	0.28	0.52	F6	0.26	0.24	0.52
	F2	0.54	0.30	0.36	F7	0.28	0.26	0.44
	F3	0.40	0.40	0.42	F8	0.56	0.24	0.36
	F4	0.24	0.24	0.44	F9	0.52	0.30	0.70
SB-2812	F5	0.34	0.32	0.56	F10	0.60	0.30	0.68
	F1	0.24	0.24	0.16	F5	0.24	0.22	0.22
	F2	0.26	0.24	0.16	F6	0.20	0.22	0.16
	F3	0.22	0.20	0.18	F7	0.26	0.26	0.12
SB-2817	F4	0.22	0.20	0.32				
	F1	0.68	0.66	0.36	F3	0.56	0.52	0.36
	F2	0.64	0.60	0.36	F4	0.72	0.56	0.36
	F3	0.48	0.40	0.44	F3	0.32	0.28	0.54
SB-2818	F2	0.36	0.34	0.18	F4	0.38	0.34	0.28
	F1	0.44	0.40	0.20	F5	0.60	0.28	0.32
SB-2819	P2	0.36	0.32	0.08	F6	0.40	0.38	0.20
	P3	0.28	0.28	0.34	F7	0.34	0.32	0.14
	P4	0.40	0.38	0.20	F8	0.42	0.36	0.48

社説誌より

## 第二項 柵列 (第165～168図、第63～65表、図版一〇・三二)

柵列は11列を検出した。いずれも掘立柱建物跡に伴うものと考えられる。

## SA-241

I区、グリットE4に位置する。3間分を検出した南北列である。SB-169に伴うもので、SB-169の西側底の可能性も考えられる。

## SA-250

I区、グリットC4に位置する。4間分を検出した東西列で、1本の柱穴で柱痕跡を確認した。SB-312と重複するが柱穴の切り合いは無く新旧は不明である。SB-289、SB-313の間に位置する。

## SA-258

I区、グリットC5に位置する。4間分を検出した東西列である。SB-289、SB-312と重複するが、柱穴の切り合いが無く新旧は不明である。

## SA-708

I区、グリットH4に位置する。5間分を検出した南北列である。近世の掘立柱建物跡SB-167に伴う柵列で、同時期のものと考えられる。

## SA-934

II区、グリットH10に位置する。6間分を検出した東西列で、SB-938またはSB-967に伴う。

## SA-988

II区、グリットJ11に位置する。5間分を検出した南北列で、本来はSA-1003とともにL字型の柵列を構成した可能性も考えられる。2本の柱穴で柱痕跡を確認した。

## SA-1003

II区、グリットJ12に位置する。2間分を検出した東西列である。本来はSA-988とともにL字型の柵列を構成した可能性も考えられる。

## SA-1213

V区、グリットA127に位置する。3間分を検出した東西列である。南側にSB-2808が位置する。SA-1214と重複しSA-1214が新しい。

## SA-1214

V区、グリットA127に位置する。3間分を検出した東西列である。南側にSB-2808が位置する。SA-1213と重複しSA-1214が新しい。



SA-2799

Ⅱ区、グリットN22に位置する。L字型に屈曲する3間分を検出した。SB-2798に伴うものである。

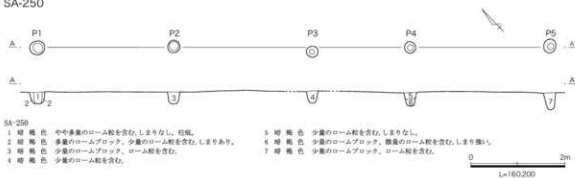
SA-2807

V区、グリットZ22に位置する。4間分を検出した東西列で、SB-2248をはじめとする掘立柱建物跡群に伴う。

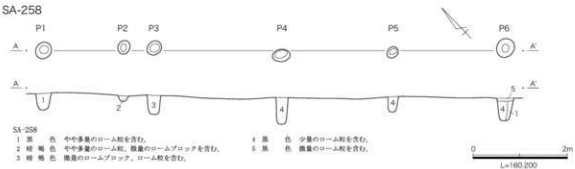
柵列出土の遺物

1はSA-258出土の土師質土器皿で、底部外面には糸切り痕が見られる。2はSA-938出土の内耳土鍋口縁部である。3は須恵器製の破片の周縁研磨土器である。破面全てが摩耗し、内面にも擦痕が残る。須恵器片を砥石として再利用したもののか。

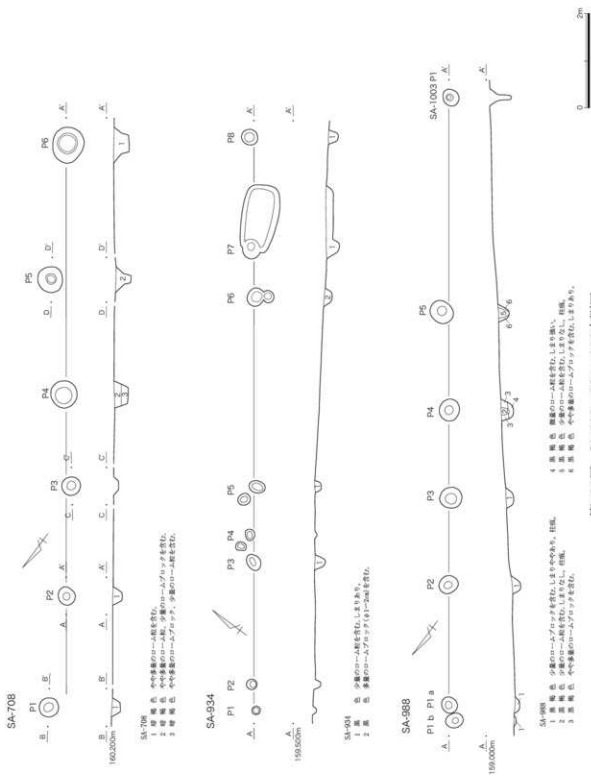
SA-250



SA-258

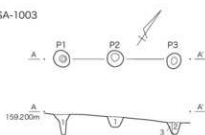


第165図 SA-250・258実測図



第166図 SA-708・934・988発掘図

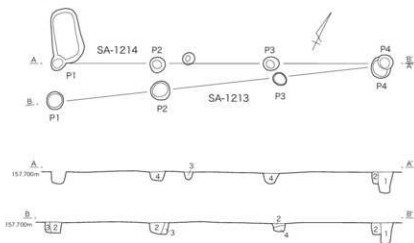
SA-1003



SA-1003

- 1 黒 褐色 少量のロームブロックを含む。
- 2 黒 褐色 少量のローム砂を含む。しまりなし。柱状。
- 3 黒 褐色 中々多量のロームブロック。少量のローム砂を含む。

SA-1213・1214



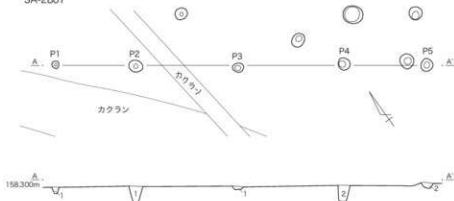
SA-1214

- 1 黒 褐色 微量のローム砂を含む。しまりに欠く。
- 2 黒 褐色 微量のローム砂。ロームブロックを含む。しまりあり。
- 3 黒 褐色 少量のロームブロックを含む。しまりなし。

SA-1213

- 1 黒 褐色 微量のローム砂を含む。しまりに欠く。
- 2 黒 褐色 微量のローム砂。ロームブロックを含む。しまりあり。
- 3 黒 褐色 少量のローム砂。ロームブロックを含む。しまりあり。
- 4 黒 褐色 多量のローム砂を含む。しまりあり。

SA-2807



SA-2807

- 1 黒 褐色 微量のロームブロック。今世紀を含む。
- 2 黒 褐色 微量のロームブロック。今世紀・七木版砂を含む。

0 2m

第167図 SA-1003・1213・1214・2807実測図

第63表 中近世の櫛列一覧表

遺構番号	規模	梁行柱間	梁行柱間 (m)	梁行長 (m)	主軸方位	切り合い	柱痕跡	備考	調査区	グリッド
SA-241	3間	3		7.08	N-30°-W		1本(P4)	SB-109に伴う	I	E4
SA-250	4間	4		10.76	N-41°-W	SB-312	1本(P1)		I	C4
SA-258	4間	5		96.80	N-46°-W	SB-289 SB-312		SK-258から須恵器1点、磨石	I	C5
SA-708	5間	5		11.80	N-37°-W			SB-167に伴うPTI列か? SA-741(P1~P8)と主軸の傾きが異なる。	I	H4
SA-934	4間	5		12.00	N-54°-E			SB-938又はSB-960に伴う	II	H10
SA-988	4間	4		13.08	N-37°-W		6本(P1a.1b.2.3.4.5)	SA-934(P1~P9)及びSA-1003(P1~P3)と、同じSA同じ区画境の可能性有り。	II	J11
SA-1003	2間	2		2.32	N-56°-E		1本(P3)	SA-934(P1~P9)及びSA-988(P1~P5)と、同じSA同じ区画境の可能性有り。	II	J12
SA-1213	3間	3		6.96	N-57°-E	<SA-1214			V	AI27
SA-1214	3間	3		6.88	N-64°-E	>SA-1213			V	AI27
SA-2799	3間	1	2	4.28	N-40°-W			SB-2798に伴う	III	M22
SA-2807	4間	4		78.00	N-55°-W				V	Z22

第64表 中近世の櫛列柱穴規模一覧表

遺構番号	柱穴番号	長軸(m)	短軸(m)	深(m)	柱痕跡	柱穴番号	長軸(m)	短軸(m)	深(m)	柱痕跡
SA-241	P1	0.24	0.22	0.18		P3	0.22	0.20	0.20	
	P2	0.18	0.16	0.12		P4	0.22	0.22	0.20	柱痕跡あり
SA-250	P1	0.32	0.30	0.24	柱痕跡あり	P4	0.24	0.24	0.28	
	P2	0.26	0.24	0.24		P5	0.28	0.24	0.36	
	P3	0.24	0.24	0.24						
SA-258	P1	0.36	0.32	0.34		P4	0.36	0.24	0.56	
	P2	0.28	0.24	0.12		P5	0.24	0.20	0.32	
	P3	0.32	0.28	0.40		P6	0.40	0.36	0.48	
SA-708	P1	0.42	0.40	0.18		P4	0.56	0.56	0.30	
	P2	0.40	0.34	0.20		P5	0.54	0.52	0.32	
	P3	0.38	0.38	0.10		P6	0.74	0.66	0.32	
SA-934	P1	0.16	0.16	0.08		P5	0.34	0.24	0.14	
	P2	0.22	0.22	0.14		P6	0.40	0.34	0.16	
	P3	0.36	0.28	0.22		P7	0.40	0.36	0.28	
	P4	0.24	0.20	0.04		P8	0.36	0.32	0.20	
SA-988	P1a	0.36	0.32	0.08	柱痕跡あり	P3	0.42	0.42	0.18	柱痕跡あり
	P1b	0.38	0.30	0.02	柱痕跡あり	P4	0.44	0.42	0.26	柱痕跡あり
	P2	0.40	0.36	0.18	柱痕跡あり	P5	0.50	0.44	0.22	柱痕跡あり
SA-1003	P1	0.36	0.32	0.44		P3	0.32	0.28	0.24	柱痕跡あり
	P2	0.34	0.34	0.22						
SA-1213	P1	0.36	0.34	0.24		P3	0.30	0.24	0.16	
	P2	0.40	0.40	0.24		P4	0.48	0.40	0.25	
SA-1214	P1	0.32	0.28	0.24		P3	0.32	0.28	0.2	
	P2	0.32	0.32	0.2		P4	0.30	0.32	0.44	
SA-2799	P1	0.32	0.28	0.34		P3	0.28	0.24	0.14	
	P2	0.28	0.24	0.14		P4	0.26	0.24	0.30	
SA-2807	P1	0.16	0.16	0.12		P4	0.28	0.24	0.34	
	P2	0.30	0.24	0.36		P5	0.24	0.24	0.12	
	P3	0.24	0.20	0.08						



第168図 中近世の櫛列出土土器実測図

第65表 中近世の櫛列出土土器観察表

実測図No	図版No	遺構	種類	器種	寸法 (cm)		色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
					口径	底径	高さ	外						内
1		SA-258	土師瓦土器	皿	4.2	(1.2)	7.5YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	白色細粒	良	体部下位から底部1/2間	底部外面回転糸切り難し		
2	三三三	SA-938	内耳土器			(2.9)	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/3 橙	砂粒 雲母片多量	良	破片	体部外面ヘラナデ 体部内面ヘラナデ	明るい色調で雲母を多量に含む	
3	三三三	SA-258	須恵器	四縁須恵器土器		(5.8)	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	白色粗粒 針状物質	白色	良	破片	胴部外面平行叩き	須恵器裏片を再加工した四縁須恵器土器

## 第三項 方形竪穴状遺構（第169～174図、第66～68表、図版一一・一二・三〇・三一）

方形竪穴状遺構は10基検出されている。Ⅱ区北部とⅤ区中央部で検出され、SK-981、SK-1075が一グループ、SK-1986、SK-1995、SK-2040が一グループ、SK-1827、SK-1837、SK-1839、SK-2810が一グループ、そしてSK-2556がやや離れて検出されている。形態的にはSK-981、SK-1075は平面方形で壁が緩やかに立ち上がるのが特徴である。SK-1827、SK-1986、SK-1995、SK-2040は平面方形で深さがあり、出入口としてスロープが付くのが特徴的である。調査区外で完掘に至っていないSK-2556は、柱穴も出入口もなく深さがあることが特徴である。SK-1837、SK-1839、SK-2810は平面の中央部分がやや膨れる長方形で、浅いのが特徴的である。しかし出土遺物は多く、土師質土器皿、漆塗り板、漆容器膜、銅銭などが出土している。Ⅴ区中央部は方形竪穴以外の土坑も密集しており、長大な掘立柱建物跡と併せて集落内においてある機能に特化したエリアであることも考えられる。

## SK-981

Ⅱ区、グリットG11に位置する。平面形はやや縦長の方形で、壁は緩やかに立ち上がる。長軸線上の壁際に柱穴を2本もち、平坦な床面中央に若干の凹みと堆積した焼土が検出されている。出土遺物無し。SB-967、SB-1078が近接しており、作業場としての機能をもつと考えられる。

## SK-1075

Ⅱ区、グリットI12に位置する。平面形はやや縦長の方形で、壁は緩やかに立ち上がる。四隅に柱穴をもつ。出土遺物無し。SB-967、SB-1078が近接しており、作業場としての機能をもつと考えられる。

## SK-1827

Ⅴ区、グリットAD23に位置する。平面形はやや縦長の方形で、長軸方向にスロープ状の出入口が付く。検出面からの深さは0.50mである。スロープは検出面から下り、床面より約0.20mの高さで取り付く。床は平坦で、施設は確認されていない。壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸線上の壁際に柱穴が2本、また出入口口部の片側にも柱穴が1本検出されている。埋土はロームブロックを多量を含む単層であることから人為堆積と考えられる。

## SK-1837

Ⅴ区、グリットAD22に位置する。平面形は中央部分がやや膨れる長方形で、検出面からの深さは0.20m程度である。床面は中央がやや深くなり、長軸線上やや壁よりに柱穴P3をもつ。壁は斜めに立ち上がる。遺物は黒色漆塗りの板が出土している。

## SK-1839

Ⅴ区、グリットAC22に位置する。2基の方形竪穴状土坑が重複していると考えられるが、重複部分を攪乱により壊されているため、新旧は不明である。西側は、平面形が中央部分のやや膨れる長方形で、検出面からの深さは0.25m、床面は中央がやや深くなる。主軸線上やや壁よりに柱穴P5をもつ。壁は斜めに立ち上がる。遺物はP5付近で土師質土器の皿が出土している。また捨て土と思われる焼土から漆膜が出土した。東側は、平面形が中央部分のやや膨れる長方形で、検出面からの深さは0.15m、床面は中央がやや深くなる。

主軸線上壁際に柱穴P 2、壁穴内部にP 1とP 3をもつ。壁は斜めに立ち上がる。遺物は銅銭が19枚出土し、うち17枚がP 1からの出土である。

## SK-1986

V区、グリットAA20に位置する。複数の長方形土坑と重複しているが、何れもSK-1986より新しい。平面形は方形で、スロープ状の出入り口が付く。検出面からの深さは0.40mである。スロープは検出面から下って床面より約0.20mの高さで取り付き、側溝状の溝を有する。床は平坦で、施設は確認されていない。壁はやや開いて立ち上がる。スロープと同軸線上の壁際に柱穴が2本、また出入り口部の片側にも柱穴が1本検出されている。遺物は内耳土鍋の口縁部が出土している。

## SK-1995

V区、グリットZ 21に位置する。複数の長方形土坑と重複しているが、何れもSK-1995より新しい。平面形は方形で、スロープ状の出入り口が付く。検出面からの深さは0.35mである。スロープは検出面から下って床面より約0.15mの高さで取り付き、側溝状の溝を有する。床は中央部がやや深くなっている。施設は確認されていない。壁はやや開いて立ち上がる。柱穴はスロープと同軸線上の壁際に2本、床面中央に1本検出されている。

## SK-2040

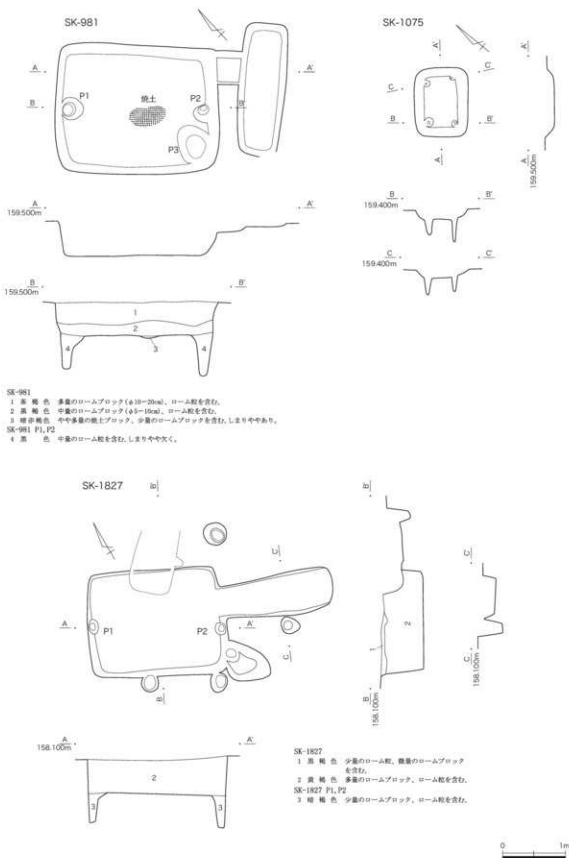
V区、グリットZ 21に位置する。複数の長方形土坑と重複しているが、何れもSK-2040より新しい。平面形は方形で、スロープ状の出入り口が付く。検出面からの深さは0.35mである。スロープは検出面から下って床面より約0.05mの高さで取り付き、片側に側溝状の溝を有する。床は平坦で、施設は確認されていない。壁はほぼ垂直に立ち上がる。柱穴は直交するように2対が壁際に、計4本あり、また出入り口部の片側にも柱穴が1本検出されている。遺物は内耳土鍋、板状鉄製品が出土している。

## SK-2556

V区、グリットY 25に位置する。重複するSD-2110が新しい。平面形は方形で、検出面からの深さは最大0.85mを測る。床面は西に向かって若干深くなり、壁は垂直に立ち上がる。施設、柱穴は確認されていない。埋土は水平に堆積していることから、人為堆積と考えられる。最下層黒色土層の上面に捨て土と思われる焼土が堆積していた。

## 方形壁穴出土の遺物

1はSK-1839出土の土師質土器の皿で、法量から16世紀後半頃と比定しうる。ロクロ整形で口縁部に油煙痕があり、灯明具と思われる。口縁部外面に墨書がある。2～5は同じくSK-1839出土の漆腹である。漆は赤漆で、容器内にたまった粘性の強い土に附着して引きはがされたようになっている。容器本体は半截した円筒形の容器またはそれを寝かせたものと考えられるが、詳細は不明である。実測図2の半円部分が容器の形状を反映している。また実測図下方向の端部aおよび端部bは、途中で折れたのではなく、巻き込んでおり、容器が円形ではなく半円形であることを示している。また端部bは約50°の角度でコーナーを形成しており、容器が単なる半円形ではなく、一部面取された半円形であると推定される。3は端部bと同様のコーナーを



第169図 方形竪穴状土坑実測図(1)

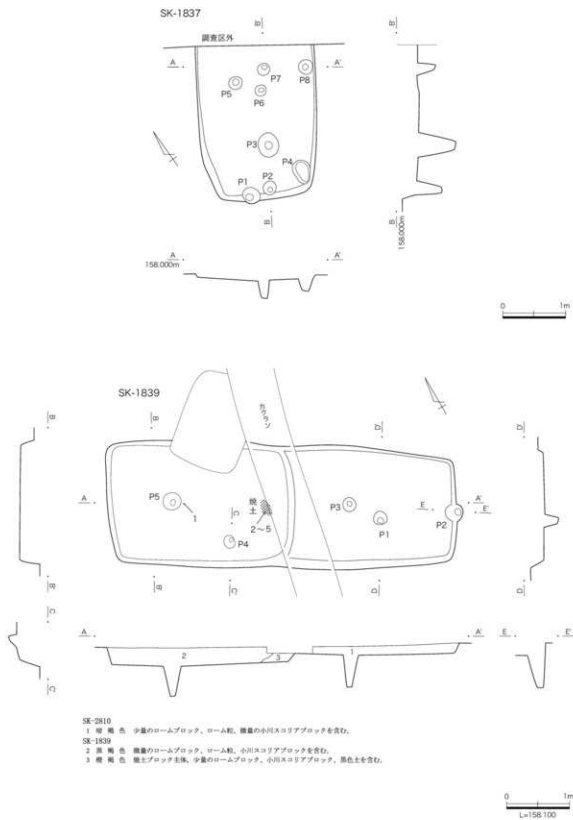
持つことから、端部aもしくは端部bに接続すると考えられるが、破断面の形状から端部aと接合すると考えた。接合した復元図が実測図5である。この復元から容器の材厚は7mmである。4は2同様の弧状に残存した漆膜の一部だが、容器の隅の部分を書したエッジの部分が2より鋭く、2・3とは接合しない。6はSK-1837出土の片面に黒色漆が塗られた板で、反対面は一部炭化していることから、漆塗りの容器が燃え残ったものと考えられる。板材は極薄く0.5mm程度である。漆は残存した破片全面に施されるが、厚さが均一でなく凹凸があり、粗い仕上げである。本来の形状不明、共存遺物もなく詳細時期不明である。

またSK-1839からは銅銭が19枚出土している。うち13・14以外の17枚がP1出土である。1～7は7枚が壺着した状態でP1から出土している。北宋銭が2枚（皇宋通寶、祥符通寶）、金銭が1枚（正隆元寶）、明銭が2枚（永樂通寶）、不明1枚が混在している。壺着した1～7には錆にした際のものと思われる繊維が少量遺存していた。8・9は北宋銭（皇宋通寶、熙寧元寶）で2枚壺着した状態でP1から出土した。10・11は北宋銭（天聖元寶）と不明銭で2枚壺着した状態でP1から出土している。12・13の北宋銭（皇宋通寶、天聖元寶）は2枚壺着した状態で出土、14も北宋銭（皇宋通寶）で単独の出土、15～18はいずれも北宋銭（政和通寶、熙寧元寶、元豊通寶、咸平元寶）で4枚壺着した状態でP1から出土、19は明銭（永樂通寶）でP1から単独で出土している。19枚のうち、最古銭は咸平元寶（初鑄998年）で、再新銭は永樂通寶（初鑄1408年）である。P1はSK-1839の中央部にある径0.18m、深さ0.23mほどのビットで、SK-1839東半からの出土遺物はこれらの銅銭のみである。北宋銭を中心に中世前半の鑄造年代をもつものばかりであるが、SK-1839はごく近い時期の2基の方形竪穴状遺構が重複しており、その西半からは16世紀後半と考えられる土師質土器の皿が出土し、銅銭の出土した東半も大きく時期を違えると考えることは難しい。よってこれらの銅銭は、16世紀後半かその前後に埋納されたものと考えられる。壺着した1～7に錆銭とした痕跡が見られることから、19枚はもともと錆銭であった可能性も考えられる。

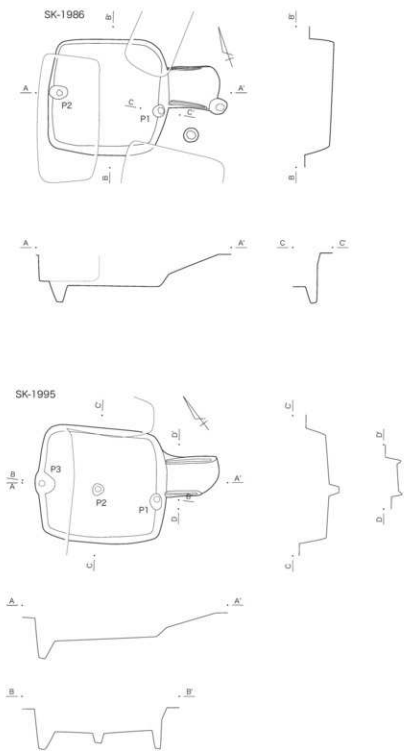
第66表 方形竪穴状土坑一覧表

遺構番号	規模等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-981	柱穴2 礎土	2.58	2.05	0.55	N-44°-W		出入り口部長さ2.1m 幅0.74m	II	G11
SK-1075		1.10	0.85	0.15	N-39°-E			II	I12
SK-1827	柱穴2	2.15	1.70	0.63	N-68°-W		出入り口部長さ1.75 幅0.65m	V	AD23
SK-1837		(2.47)	1.88	0.25	N-31°-E			V	AD22
SK-1839	柱穴5	5.74	1.96	0.30	N-59°-W		2基重複	V	AC22
SK-1986	柱穴2 礎床	1.90	1.85	0.38	N-70°-W	<1989・1992・1984	出入り口部長さ0.8m 幅0.65m	V	AA20
SK-1995	柱穴3	2.02	1.82	0.42	N-53°-W	<1993・1994・1991	出入り口部長さ0.8m 幅0.62m	V	Z21
SK-2040	柱穴4	1.75	1.73	0.31	N-51°-W	<2038・2039・2025・2041	出入り口部長さ1.21 幅0.63m	V	Z21
SK-2556		1.80	(1.40)	0.87	N-51°-E	<SD 2110		V	Y25

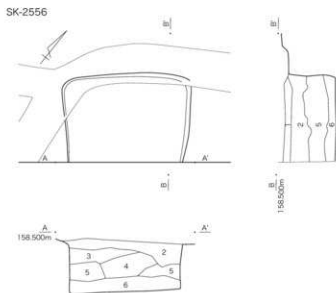
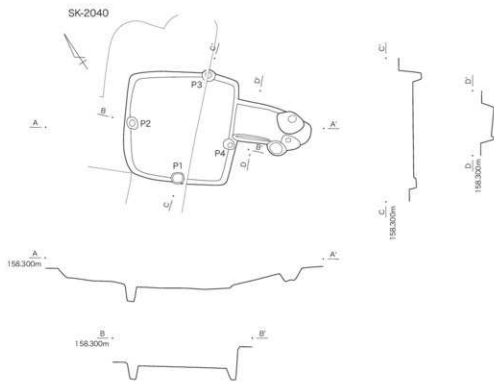




第170図 方形竪穴状土坑実測図（2）



第171図 方形竪穴状土坑実測図（3）

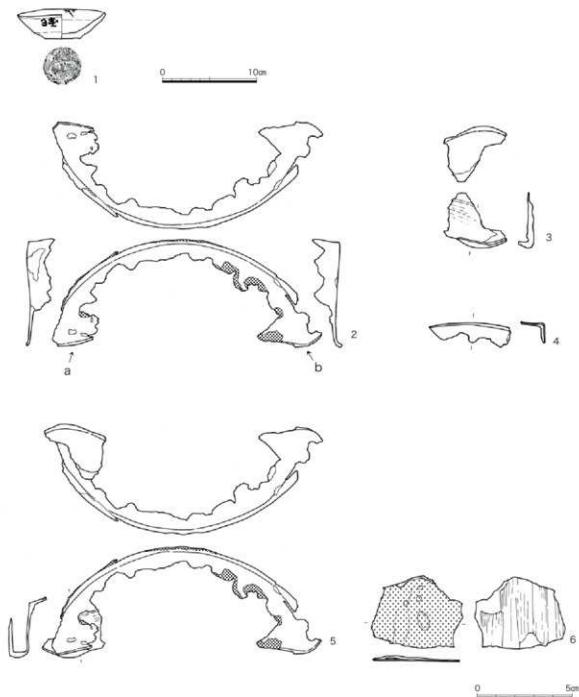


SK-2556

- 1 黒褐色 雑草の今布・七本堀形、ロームブロックを含む、しほりに欠く。
- 2 黒褐色 雑草のロームブロック、今布・七本堀形を含む。
- 3 黒褐色 少量のロームブロック、褐色土ブロック、雑草の今布・七本堀形を含む、黄土。
- 4 黒褐色 雑草のローム形、今布・七本堀形を含む、黄土。
- 5 暗褐色 多量の褐色土ブロック、雑草のロームブロック、今布・七本堀形ブロックを含む。
- 6 黒褐色 少量のローム形、今布・七本堀形を含む、砂質土。



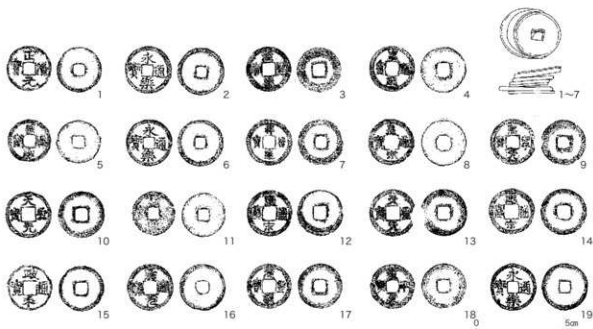
第172図 方形竪穴状土坑実測図(4)



第173図 方形竪穴状土坑出土遺物実測図

第67表 方形竪穴状土坑出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	遺構 種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎 土	焼 成	残 存 率	調 整	備 考	
				口徑	底徑	高さ	外	内						
1	三〇	SK-1839	土師質土器	皿	9.1	3.9	3.1	10YR5/4 にぶい・黄褐色	10YR2/1 黒	白色細粒	良	完形	底部外面に転糸切り難し。内面底部は軽くなる（さわる程度）	外面に墨書16C後半以降
2~5	三一	SK-1839	漆膜		14.2	5.6	1.5							漆塗り容部の膜のみ残存。漆は赤色漆
6	三〇	SK-1837	漆塗り板		4.9	3.9	0.2		5Y2/1 黒(漆面)					片面に漆塗り



第174図 SK-1839出土銅銭実測図

第68表 SK-1839出土銅銭観察表

実測 図No	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備 考	
		外径	内径	厚さ			
1	銅銭 (正隆元寶)	2.45	2.00	0.11	2.21	金	P1出土: 7枚揃着
2	銅銭 (永樂通寶)	2.60	2.10	0.18	4.14	明	
3	銅銭	2.40	1.85	0.15	3.73		
4	銅銭 (皇宋通寶)	2.60	1.90	0.12	2.91	北宋	
5	銅銭 (皇宋通寶)	2.40	1.90	0.11	2.27	北宋	
6	銅銭 (永樂通寶)	2.55	2.00	0.18	4.10	明	
7	銅銭 (祥符通寶)	2.50	1.90	0.13	3.18	北宋	
8	銅銭 (皇宋通寶)	2.50	1.80	0.11	2.70	北宋	P1出土: 2枚揃着
9	銅銭 (熙寧元寶)	2.50	1.80	0.15	3.61	北宋	
10	銅銭 (天聖元寶)	2.55	2.00	0.13	2.58	北宋	P1出土: 2枚揃着
11	銅銭	2.40	1.90	0.12	2.25		
12	銅銭 (皇宋通寶)	2.50	1.90	0.13	3.06	北宋	2枚揃着
13	銅銭 (天聖元寶)	2.60	2.00	0.13	2.98	北宋	
14	銅銭 (皇宋通寶)	2.40	1.90	0.13	1.80	北宋	P1出土
15	銅銭 (政和通寶)	2.50	2.10	0.14	3.44	北宋	
16	銅銭 (熙寧元寶)	2.60	2.10	0.125	3.61	北宋	P1出土: 4枚揃着
17	銅銭 (元豐通寶)	2.50	1.90	0.15	3.43	北宋	
18	銅銭 (咸平元寶)	2.50	1.85	0.12	2.51	北宋	
19	銅銭 (永樂通寶)	2.60	2.10	0.15	2.88	明	

第四項 井戸 (第175・176図、第69・70表、図版一〇・一一・三二)

井戸は4基を検出した。いずれも安全性を考慮して完掘には至らなかった。平面形はどれも円形で、ラッパ状に開く形態である。検出した位置は、遺構が集中している地点ごとに井戸もそれぞれ検出されている。

SE-61とSE-75はⅠ区の掘立柱建物跡群 (SB-169、SB-289、SB-312、SB-313) に伴って検出された。

SE-61からは常滑甕と周縁研磨を施された同じく常滑鉢が出土している。

SE-997はⅡ区の掘立柱建物跡群 (SB-967、1078) に伴って検出された。

SE-1100はⅤ区中央部の掘立柱建物跡群に伴って検出されている。

出土遺物は、SE-61から常滑片が2出土している。1は裏胴部下半、2は鉢胴部片を再利用した周縁研磨土器で、破面が摩耗し内外面には擦痕が見られる。

第69表 中近世の井戸一覧表

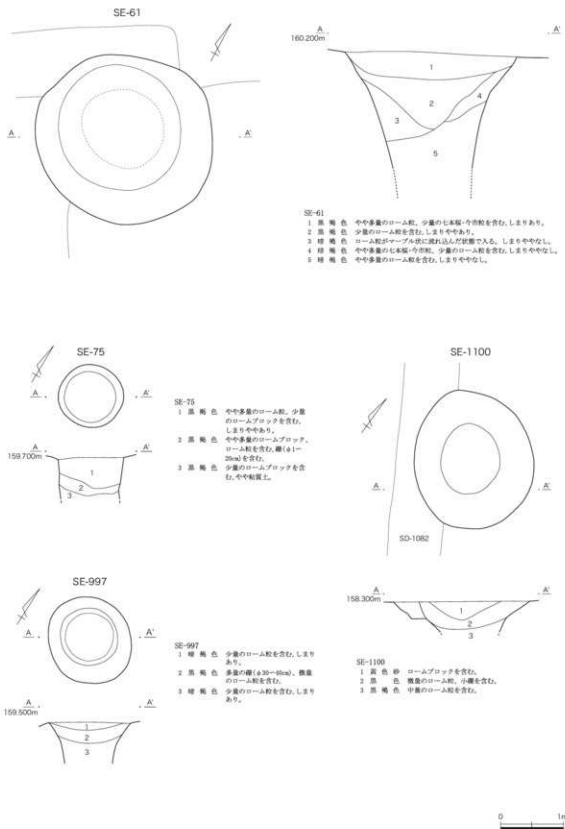
遺構番号	規模	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	切り合い	備考	調査区	グリット
SE-61	掘鉢状	3.00	2.65	未完掘			I	B4
SE-75		1.02	1.00	未完掘			I	F5
SE-997		1.44	1.30	未完掘			II	H11
SE-1100	掘鉢状	2.20	1.86	未完掘	>SD-1082		V	AD25



第175図 SE-61出土土器実測図

第70表 SE-61出土土器観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三二	常滑	甕			(7.2)	7.5YR3/3 暗褐	10YR3/1 黒褐	白色微～粗粒	良	破片	内面ナデ 外面タテ方向のケズリ	
2	三三	常滑	鉢			(6.8)	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	白色細粒	良	破片		側面成形 内外面に擦痕 周縁 研磨土器



第176図 SE-61・75・997・1100実測図

## 第五項 溝 (第177～180図、第71・72表、図版一・二・三・三二・三三)

中近世に属する溝は31条を検出した。そのうち主要なもの23条の断面図を図示した。平面位置は「第四節 中近世の遺構」冒頭の遺構位置図(第127・128図)を参照願いたい。多くは中世に属し、SD-1167、SD-1171、SD-2064は近世に属する。

SD-1000は掘立柱建物跡の多数検出されたⅠ区を区画する溝で、幅2.7～3.5m、0.8～1.0mを有する断面V字状の区画溝で、山の神Ⅱ遺跡中最も規模の大きい溝である。遺物は常滑、輸入磁器(青白磁)、不明鉄製品が出土して掘立柱建物跡よりも古い時期を示す。SD-1020はSD-1000に直交して取り付く浅い溝で、L字型に屈曲する。溝の東側にSB-967と柵列、SE-997があり、西側にはSB-1078と方形竪穴状遺構SK-981、SK-1075が存在する。SD-1083はL字型に屈曲する溝である。この溝が位置するⅤ区中央部は掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構、土坑といった中世遺構が密集するエリアである。SD-1256はⅤ区南部に位置するL字型の溝で、幅0.9～1.8m、深さ0.35～0.45mの断面逆台形を呈する。区画内部の遺構はまばらであるが、SD-1083やSD-1084と共に大きな区画を形成する。内耳土鍋が出土している。

SD-1000、SD-1020、SD-1083、SD-1084、SD-1256はN-38°-Wの傾きの直線もしくはそれに直交する直線で構成される。小規模な溝SD-119、SD-1330、SD-2066、SD-2082、SD-2083、SD-2098、SD-2110、SD-2675～2678もこの線上にあり、区画線の一部を構成するものと考えられる。

近世に属するSD-1167、SD-1171、SD-2064は、中世の溝が一定の規格に沿って区画を形成していたのとは違い、規格性を失っている。区画や道路側溝といった規格に由来するものではないのであろう。近世の掘立柱建物跡はⅠ区にのみ検出されており、Ⅱ区～Ⅴ区は活動域から外れてしまったようである。

## 中近世の溝出土遺物

1は瀬戸美濃灰釉皿、2は古瀬戸灰釉碗、3は青白磁瓶、4は内耳土鍋である。5は常滑広口壺で、頸部外面にへら記号がみられる。常滑7型式・14世紀前半の所産と考えられる。6は常滑甕、7・8は砥石である。8の砥石は成型時のものと思われる、工具痕が砥面以外の3面に見られる。SD-1000が、遺構規模も手伝わって出土遺物が多く、中世前半の所産と考えられるものも多い。山の神Ⅱ遺跡では、出土遺物から明確に中世前半に属するとできる掘立柱建物跡は検出されておらず、周囲にさらに当該期の遺構群が存在するものと考えられる。SD-1000はそれらの遺構群とともに機能する区画溝と考えられる。ただし、その他の小規模な溝とも規格性を一にすることから、中世後半においてもある程度埋没しながら機能していたであろう。

金属製品は、1が銅銭破片(銭種不明)、2が不明鉄製品、3が不明鉄製品(鐵か)である。



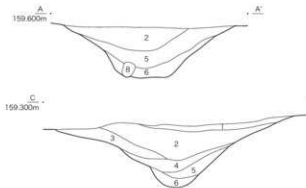
SD-119



SD-119

- 1 暗褐色 少量の今市粒、微量の七本稲粒を含む、しまりや中あり、
- 2 暗褐色 やや多量の今市粒、微量の七本稲粒を含む、黒褐色粘土が少し下部に入る、しまりあり、
- 3 黒褐色 少量の今市粒を含む、しまりあり、

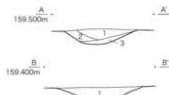
SD-1000



SD-1000

- 1 黒褐色 微量のローム粒を含む、しまりあり、
- 2 暗黒褐色 少量のローム粒、微量のロームブロック(φ2-3m)を含む、しまりあり、
- 3 黒褐色 多量のローム粒、少量のロームブロック(φ10m)を含む、しまりや中欠く、
- 4 黒褐色 少量のローム粒を含む、しまりや中欠く、
- 5 黒褐色 中量のローム粒、微量のロームブロック(φ1-2m)を含む、しまりあり、
- 6 暗褐色 多量のローム粒、ロームブロック(φ1-2m)を含む、しまりや中欠く、
- 7 暗黒褐色 少量のローム粒、ロームブロック(φ2-3m)を含む、やや砂層がみ、しまり欠く、
- 8 黒褐色 微量のローム粒がグライ化した粘土ブロック(φ10-12m)を含む、しまりや中欠く、

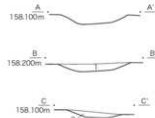
SD-1020



SD-1020

- 1 暗褐色 やや多量のローム粒、少量の黒褐色土を含む、両方ともフミナ状に発達、
- 2 黒褐色 少量のローム粒を含む、フミナ状に発達、
- 3 暗褐色 多量のローム粒、少量の黒褐色土粒を含む、しまり弱い、

SD-1083



SD-1083

- 1 黒褐色 微量のローム粒を含む、
- 2 暗褐色 少量のローム粒、今市粒を含む、細粒状少量成層、グライ化する、

SD-1084



SD-1084

- 1 黒褐色 少量のローム粒、今市粒を含む、

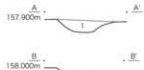
SD-1167 SD-1171



SD-1167

- 1 黒褐色 微量の今市粒を含む、
- 2 黒褐色 少量のローム粒を含む、軽微な中なり、

SD-1249



SD-1249

- 1 黒色 ごく微量のローム粒、今市粒を含む、しまりなし、

SD-1251



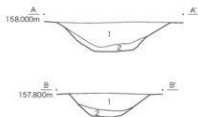
SD-1251

- 1 黒色 微量のローム粒を含む、しまりあり、



第177図 中近世の溝セクション図(1)

SD-1256



SD-1256  
 1 黒 褐色 少量のローム砂を含む。しまりあり。  
 2 暗 褐色 多量のローム砂を含む。しまりあり。  
 3 黒 褐色 少量のローム砂を含む。しまりあり。

SD-1257



SD-1257  
 1 黒 褐色 少量のローム砂を含む。しまりあり。  
 2 黒 褐色 多量のロームブロック、ローム砂を含む。しまりあり。

SD-1330



SD-1330  
 1 黒 色 少量のローム砂を含む。

SD-1421



SD-1421  
 1 黒 褐色 少量のローム砂を含む。しまりあり。

SD-2064



SD-2064  
 1 黒 褐色 少量のロームブロック、ローム砂、今市・七本桜を含む。

SD-2066



SD-2066  
 1 黒 色 少量のローム砂、今市・七本桜を含む。

SD-2082



SD-2082  
 1 黒 褐色 多量の砂粒、少量のローム砂を含む。

SD-2083



SD-2083  
 1 黒 褐色 少量のローム砂、今市砂を含む。

SD-2098



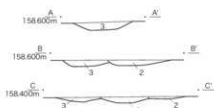
SD-2098  
 1 黒 褐色 少量のロームブロック、ローム砂、少量の今市ブロックを含む。

SD-2110



SD-2110  
 1 黒 色 少量のローム砂を含む。

SD-2675 SD-2677 SD-2676



SD-2677  
 1 黒 色 少量のロームブロック、ローム砂を含む。粘質土。  
 SD-2676  
 2 黒 褐色 少量のローム砂、今市砂、砂粒を含む。  
 SD-2675  
 3 黒 褐色 少量のローム砂、今市砂を含む。粘質土。

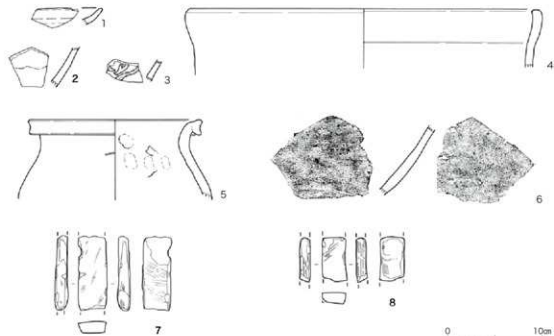
SD-2678



SD-2678  
 1 暗 褐色 少量のロームブロック、ローム砂、今市砂、少量の砂粒を含む。



第178図 中近世の溝セクション図(2)



第179図 中近世の溝出土土器・石器実測図

第71表 中近世の溝出土土器・石器観察表

実測 図No	図版 No	遺構	種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
					口径	底径	高さ	外	内					
1	三三	SD-1020	瀬戸 美濃	皿			(1.8)	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	微砂粒	良好	破片		内外面に施釉
2	三三	SD-2082	古瀬戸	碗			(4.2)	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y5/2 灰オリーブ	微砂粒	良好	破片	外面下部を口 クロケズリ	内面と外面上部施 釉
3	三三	SD-1000	青白 磁	瓶			(2.2)	10Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	白色微粒 黒色微粒	良好	破片		青白磁瓶か
4	三三	SD-1256	内耳 土鍋		37.2		(6.1)	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/6 褐	白色礫～礫 雲母	良好	破片		工縁外面スス附着
5	三三	SD-1000	常滑	江戸 造	18.2		(8.5)	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y4/2 暗黄灰	黒色粗粒 白色細粒	良好	工縁か ら割上 位1/4割	外面にヘラ記 号	常滑7型式 14C前 平
6	三三	SD-1000	常滑	甕			(10.1)	7.5YR3/3 暗褐	2.5Y5/1 黄灰	白色礫 黒色 粗粒	良好	破片	内外面ナデ	自然釉薄く附着
7	三三	SD-1020	砥石		長さ 7.8	幅 3.0	厚さ 1.3	2.5Y6/2 灰黄						砂岩製 45.52g 砥 面は正面のみ 背 面及び両側面は成 形時のものと思わ れる程度が残る
8	三三	SD-119・ 150	砥石		長さ 4.7	幅 2.6	厚さ 1.1	2.5Y6/2 灰黄						砂岩製 側背面に 砥石成形痕



第180図 中近世の溝出土鉄製品実測図

第72表 中近世の溝出土鉄製品観察表

実測 図No	遺構	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備考
			長さ	幅	厚さ		
1	SD-1020	銅銭			0.1	0.36	
2	SD-1000	不明	8.3	2.0	1.2	30.36	
3	SD-1020	鎌か	(3.6)	1.0	0.6	2.31	

## 第六項 土 坑 (第181～254図、第73～75表、図版一〇・三〇・三二・三三)

本章の始めに述べたとおり、山の神Ⅱ遺跡で検出した2820基の遺構のうち、大部分が土坑に分類される。このうち大部分のビット状小穴を除いた701基を図示した。形態により、長方形土坑355基、長方形土坑(大型)72基、方形土坑112基、円形土坑153基、小穴9基に分類した。

長方形土坑は、中世遺跡において普遍的に見られる遺構で用途不明なことが多いが、人骨を出土する、副葬品を出土する等のことから墓塚と捉えられる例もある。しかし山の神Ⅱ遺跡で確認された長方形土坑には人骨・副葬品を出土したものはなく、墓塚と捉えることは難しい。すべての調査区で検出されているが、V区中央部およびV区南部での検出数が多く、重複も激しい。長方形土坑は同時期もしくは前代の溝や道路といったものに影響され、その配置に規格性をもつことが知られている。本遺跡でも中世に属する溝やその延長線上もしくは直交する線上に長方形土坑がつくられている。重複関係からは、中世に属する溝の埋土を切っている長方形土坑が多くみられる。これは溝が機能を終えた時期、すなわちその集落または屋敷が機能しなくなった後に長方形土坑が掘られた可能性を示している。

長方形土坑(大型)は、長方形土坑のうち長軸の長さが長大なものを分類した。V区中央部および南部に多く検出され、北東-南西に長軸を向けるものが多いようである。

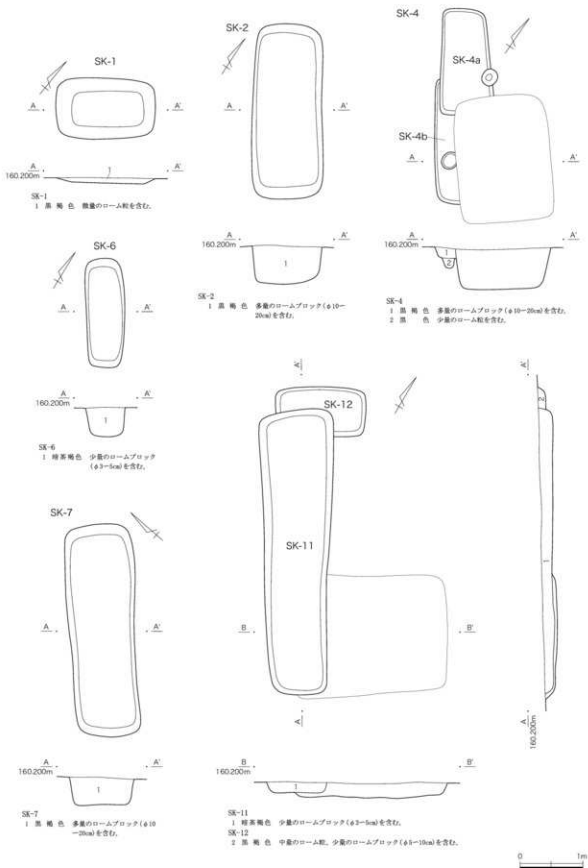
方形土坑は、方形もしくははやや縦長の方形で、規模は一辺1～1.5m程度、深さは各種みられる。内部に施設は見られず、用途は不詳である。ただし、方形土坑の中に、墓として掘られたものが含まれる可能性を指摘しておく。第六項で述べるように確実に墓と認定出来るもの以外は方形土坑に含めたためである。SK-1068は床面に桶枠の痕跡のような溝がみられる。

円形土坑は、円形もしくは不整形形で、規模は直径1～1.5m程度、深さは各種みられる。用途は不詳であるが、方形土坑と同様、墓として掘られたものが含まれる可能性を指摘しておく。SK-109、SK-1431は床面に桶枠の痕跡のような溝がある。小穴は出土遺物を掲載した遺構のみ図化した。

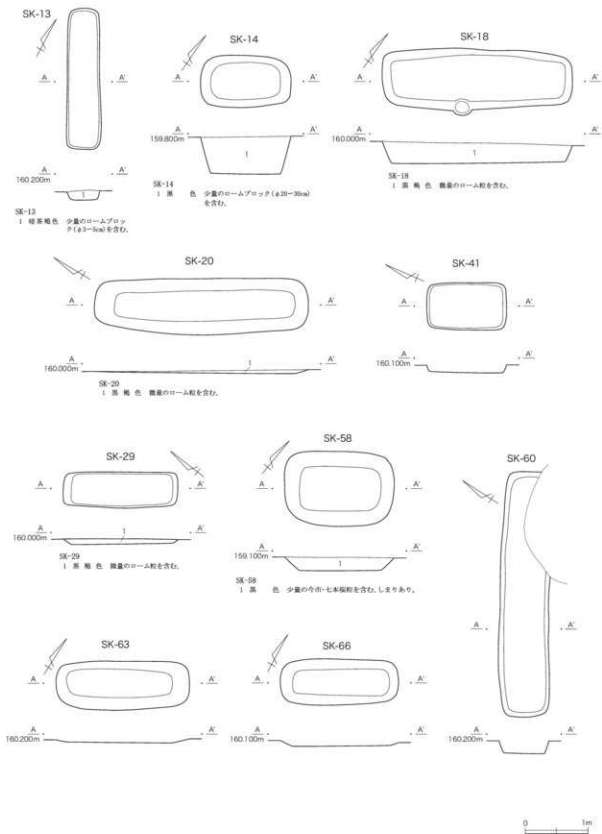
## 中近世の土坑出土遺物

1は肥前系染付碗で18世紀、2・7・8・9は瀬戸美濃の鉄軸碗、3は古瀬戸皿、4は古瀬戸の天目台もしくは燭台で、内外ともに灰釉を施軸する。5は瀬戸仏龕貝で御深井軸を施す。10は古瀬戸鉦皿で軸は刷毛塗りする。古瀬戸中期前半13世紀末～14世紀前半の所産と考えられる。11は古瀬戸播鉢で、古瀬戸後Ⅳ期15世紀中葉～後半の所産と考えられる。12は瀬戸美濃片口、13は瀬戸美濃の志野香炉、14は常滑片口鉢で13世紀前半の所産と考えられる。15・16は常滑片を再利用した周縁研磨土器である。17・18は常滑薬片、19～23は内耳土鍋である。24～26は堺播鉢で18世紀後半である。27は滑石製石鍋で、外面と口縁部内面に厚く炭化物が附着する。13世紀末～14世紀前半の所産と考えられる。28は茶臼で蓮弁の陽刻がわずかに残存する。29は硯、30・31は土鍾、32～35は砥石である。

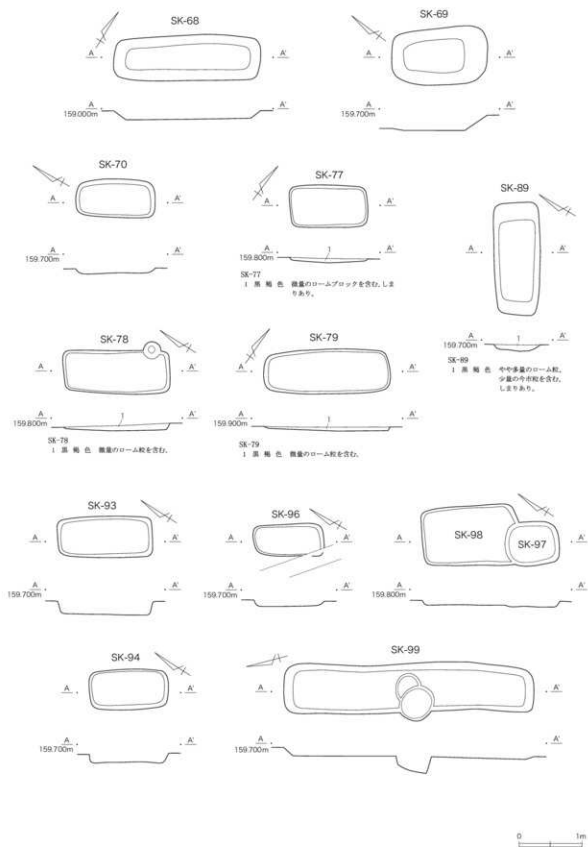
鉄製品は1～9が銅銭である。1～5は5枚が壺着した状態でSK-2052から出土している。全て北宋銭で、最古銭は太平通寶(976年)、最新銭は政和通寶(1111年)である。SK-2502はV区中央に位置し、付近にSB-2350など掘立柱建物跡が複数棟確認されている。これらの建物は、いずれも梁間一間型建物で中世後半に属し、5枚の北宋銭も同じ時期に埋納されたものと考えられる。6はSK-2182出土の北宋銭である。SK-2182はV区中央の遺構集集中地点に位置する。7はSK-132出土の寛永通寶で、I区の円形土坑から出土している。近世墓の可能性はある。8はSK-1954出土で、V区中央の建物集集中地点での出土である。10・11は煙管吸い口で、内部に炭化した紙または布が附着している。近世墓の可能性はある。12は不明鉄製品、13は鋸か。



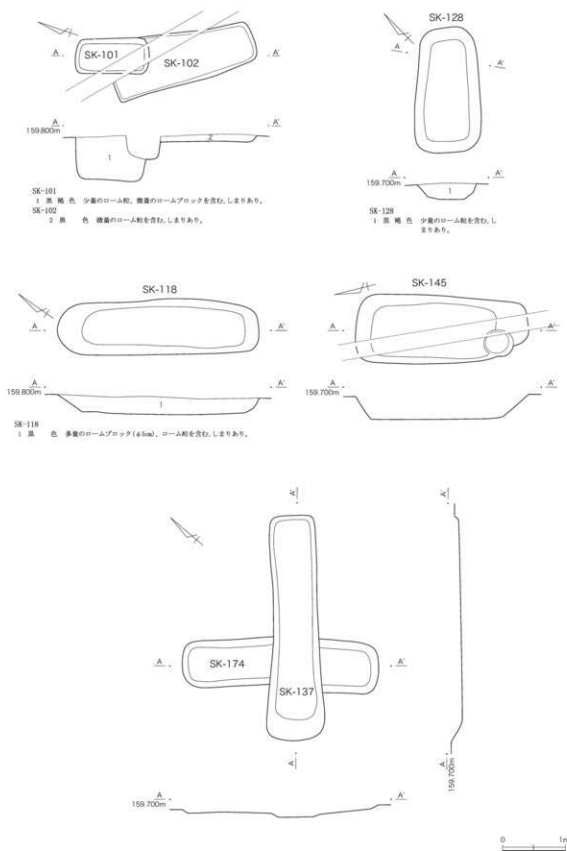
第181図 中近世の土坑実測図(1)



第182図 中近世の土坑実測図(2)

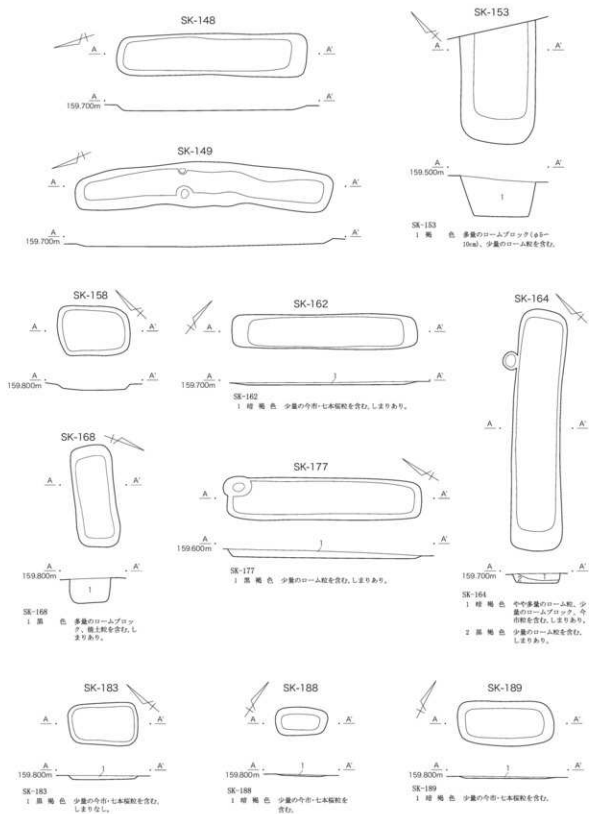


第183図 中近世の土坑実測図(3)

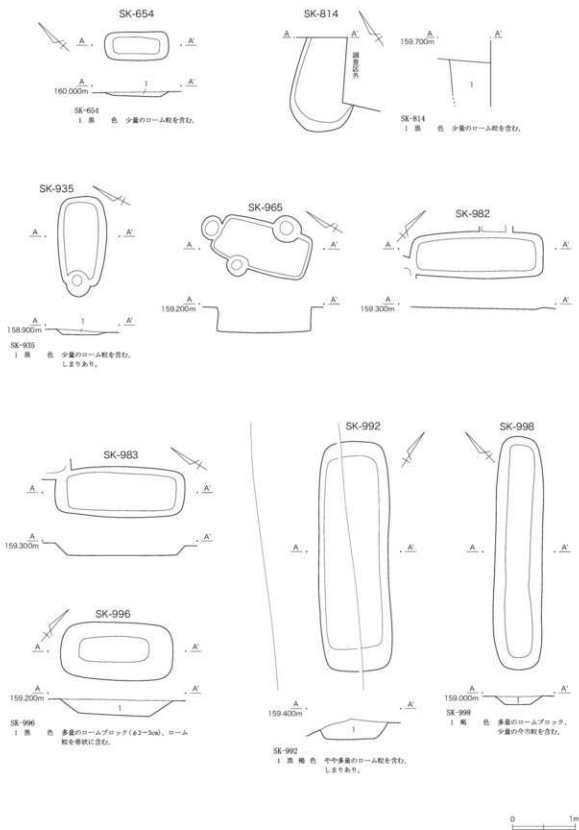


第184図 中近世の土坑実測図(4)

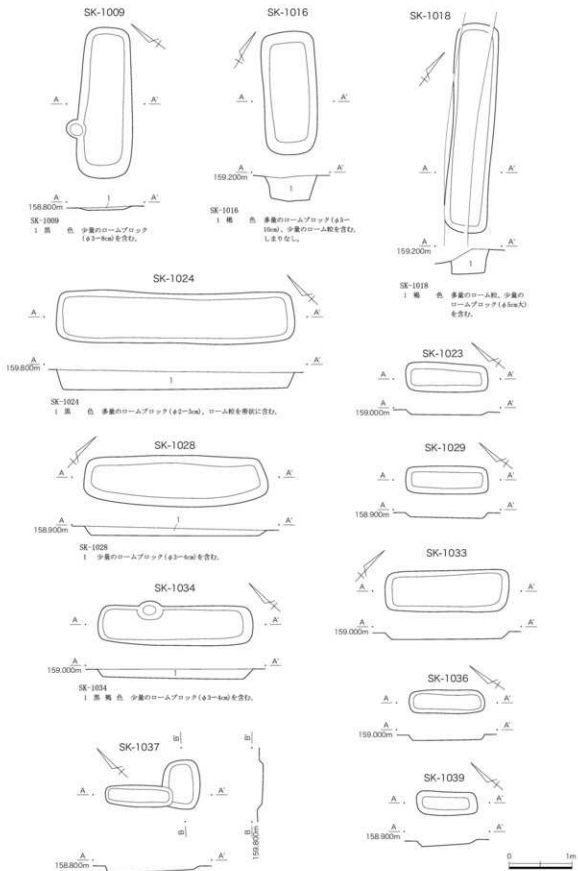




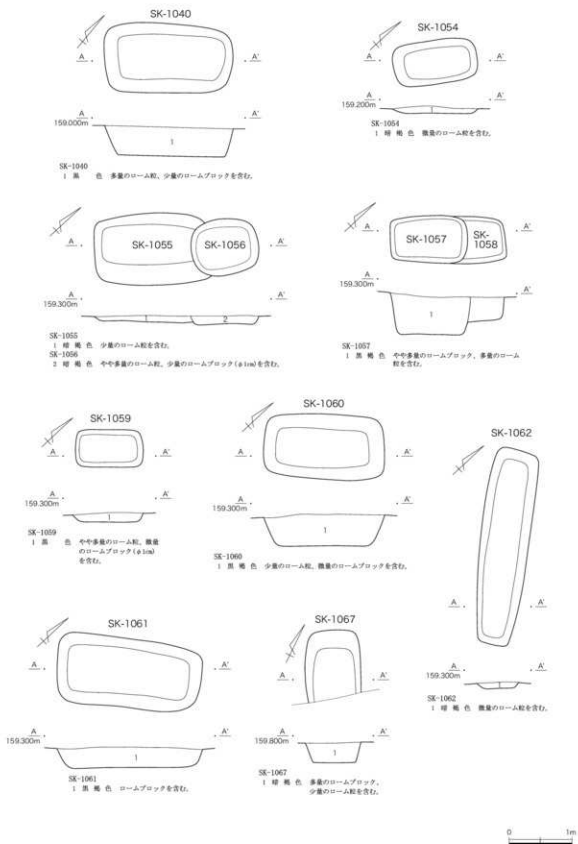
第185図 中近世の土坑実測図(5)



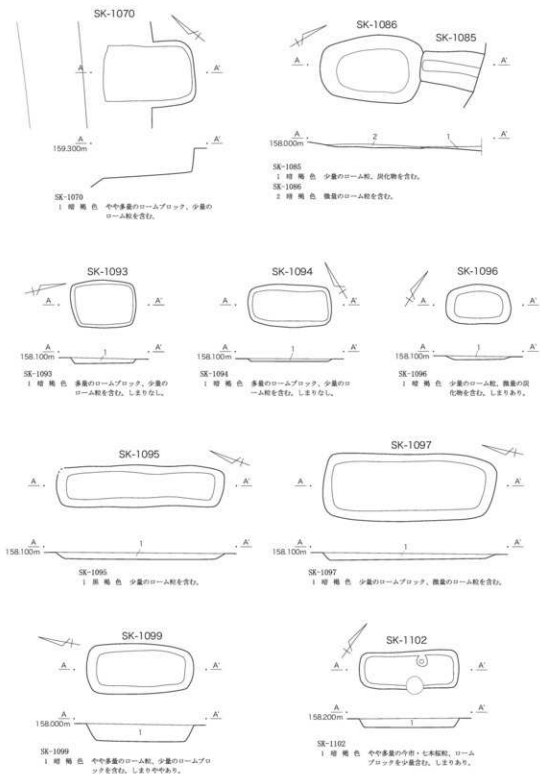
第186図 中近世の土坑実測図(6)



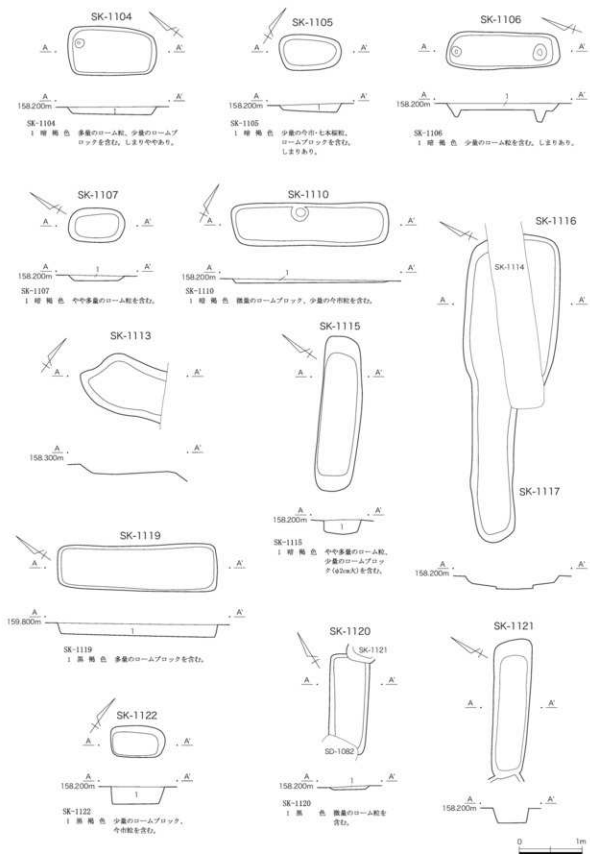
第187図 中近世の土坑実測図(7)



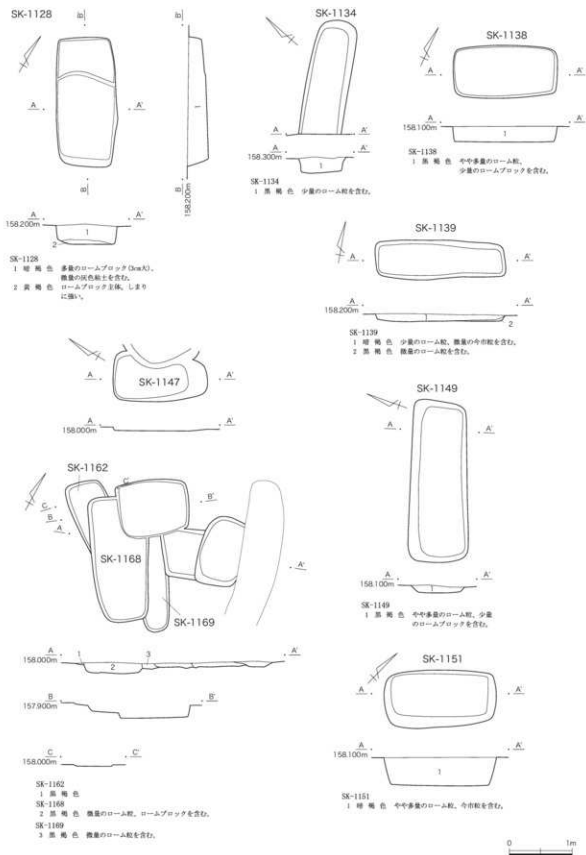
第188図 中近世の土坑実測図(8)



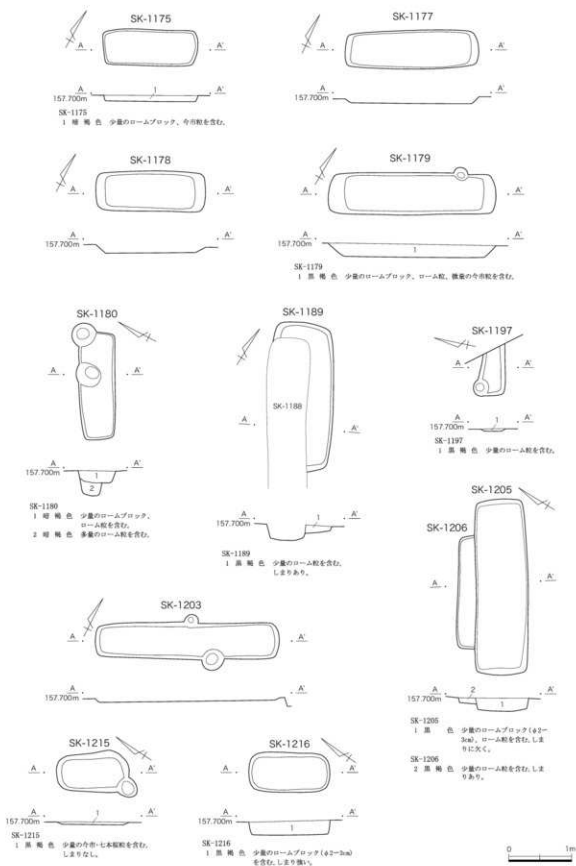
第189図 中近世の土坑実測図(9)



第190図 中近世の土坑実測図(10)

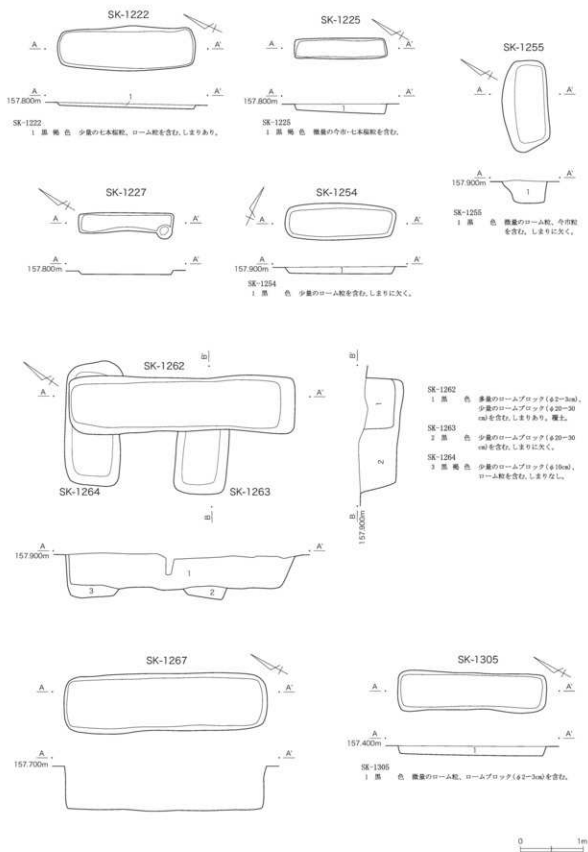


第191図 中近世の土坑実測図 (11)

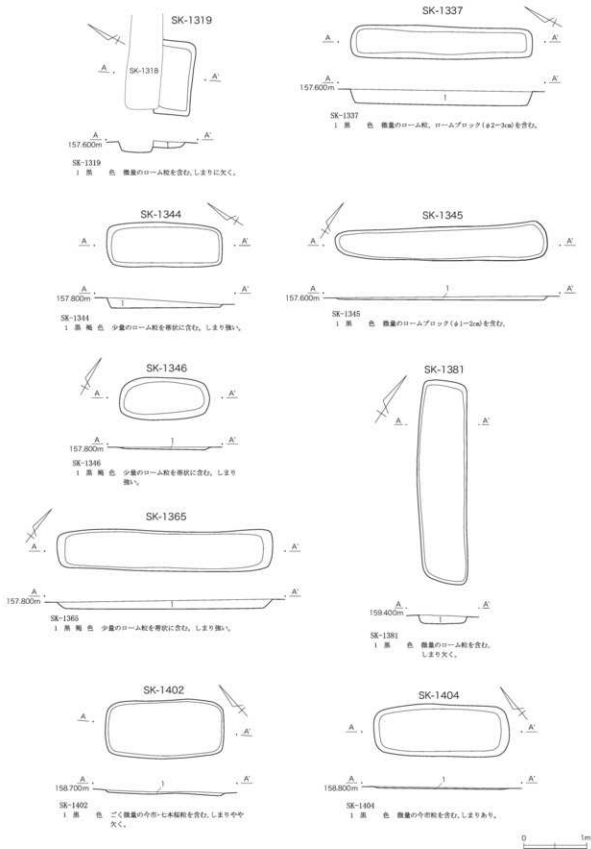


第192図 中近世の土坑実測図(12)

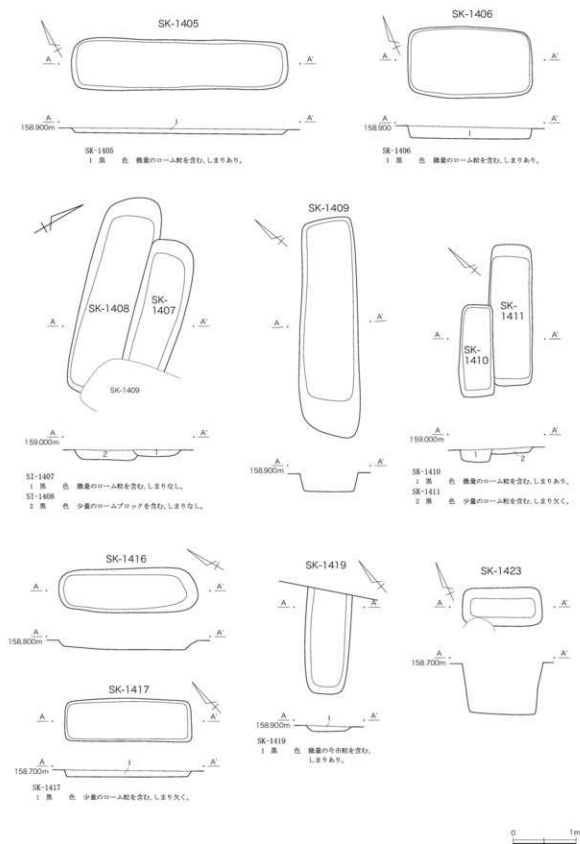




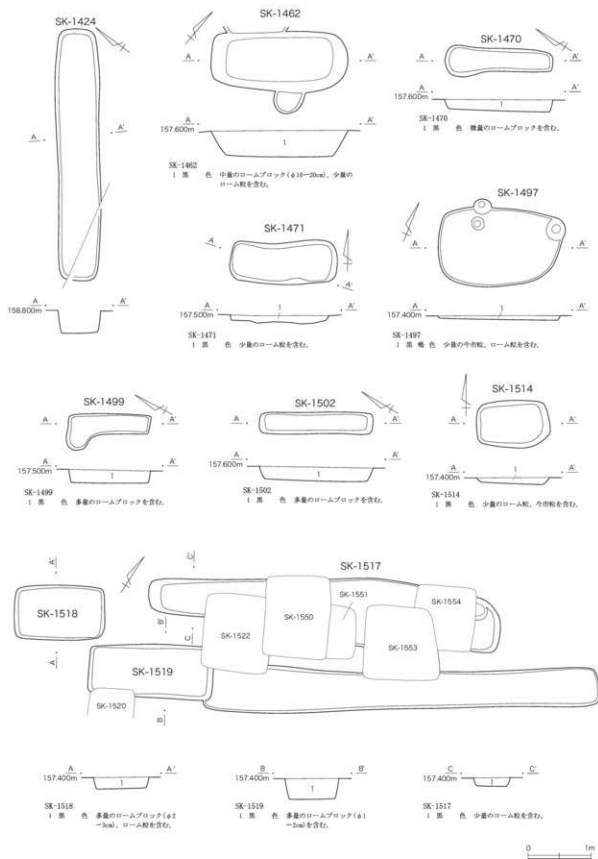
第193図 中近世の土坑実測図(13)



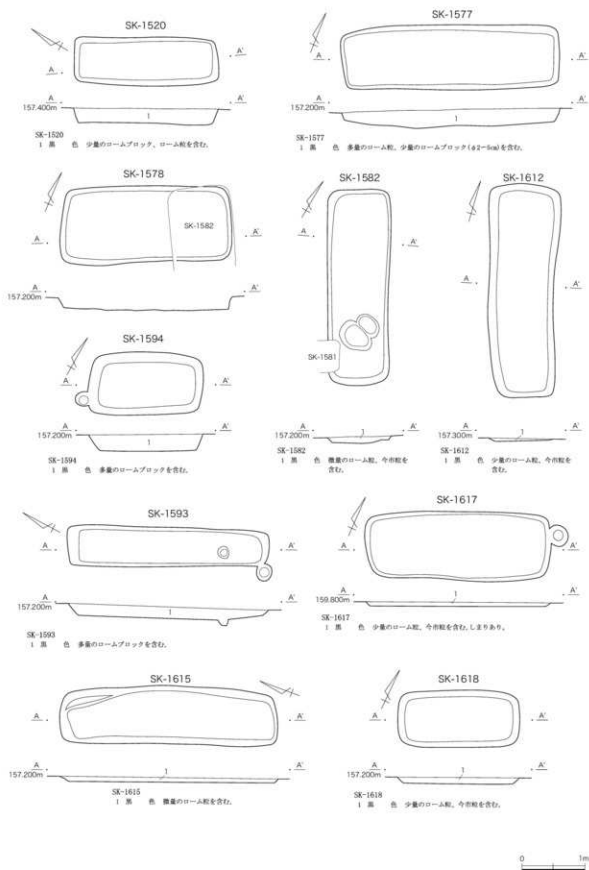
第194図 中近世の土坑実測図(14)



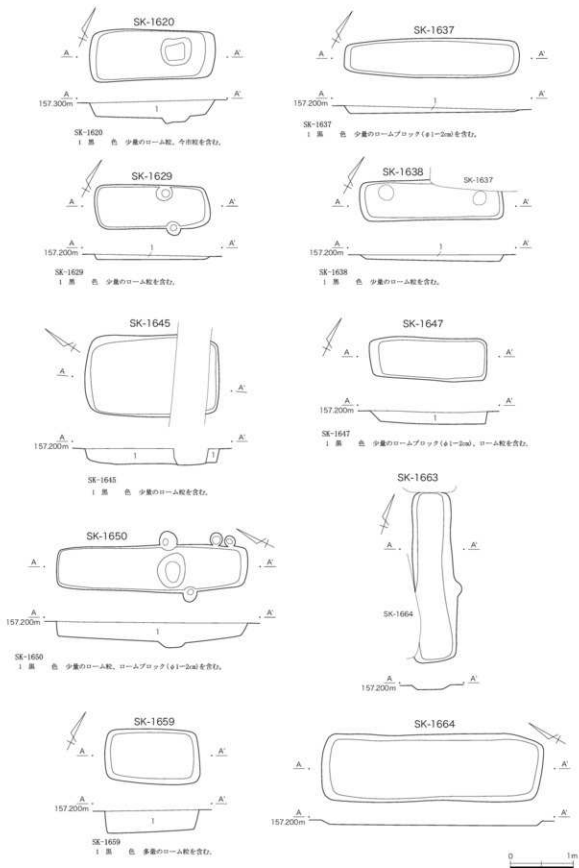
第195図 中近世の土坑実測図 (15)



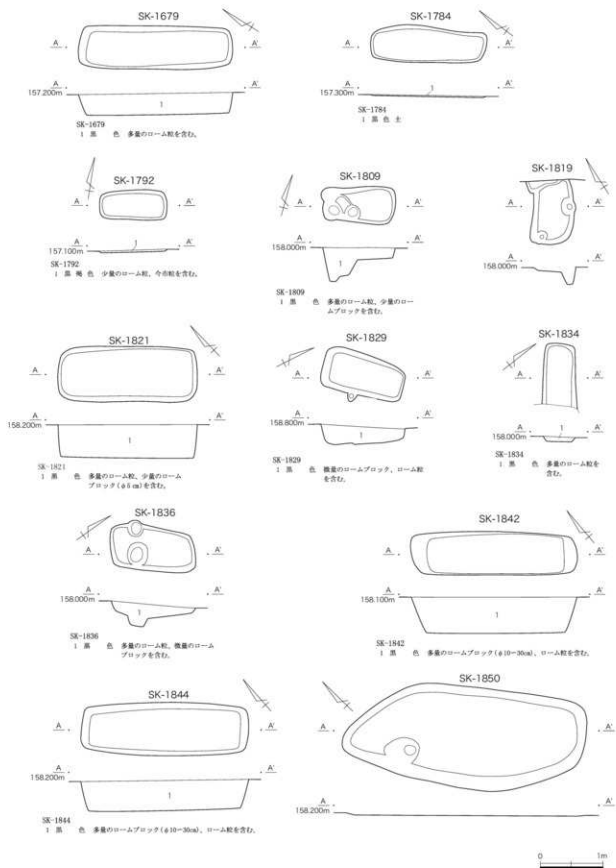
第196図 中近世の土坑実測図(16)



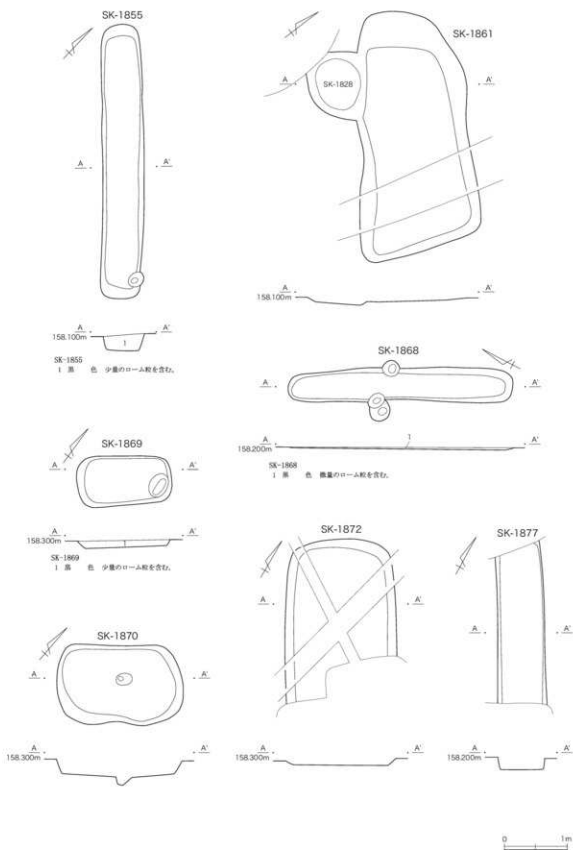
第197図 中近世の土坑実測図(17)



第198図 中近世の土坑実測図(18)

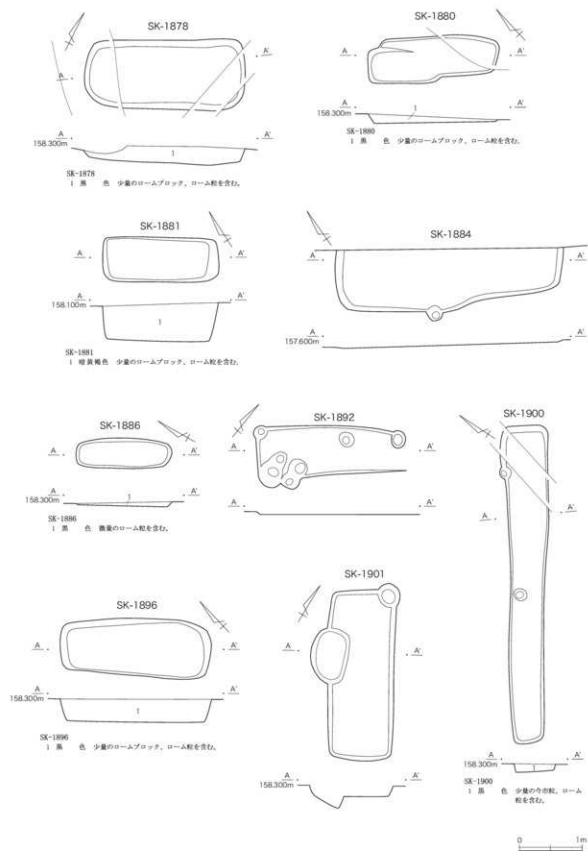


第199図 中近世の土坑実測図(19)

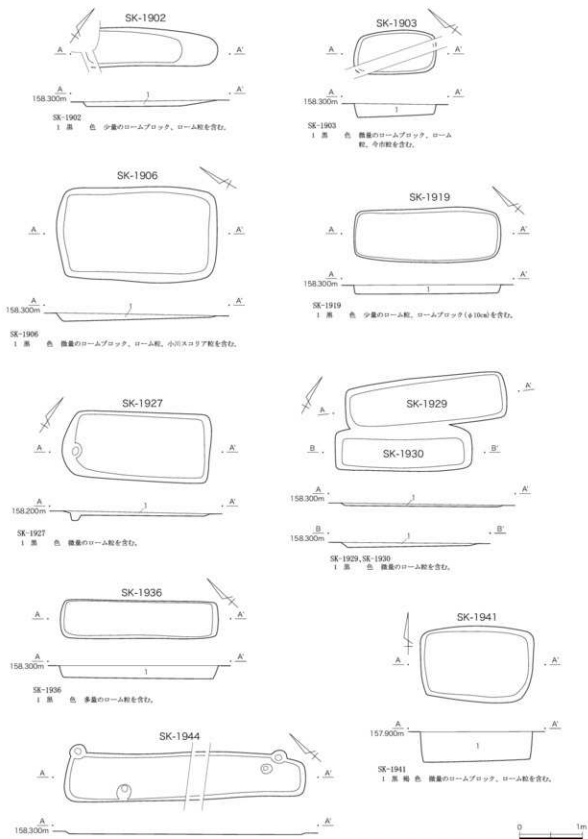


第200図 中近世の土坑実測図(20)

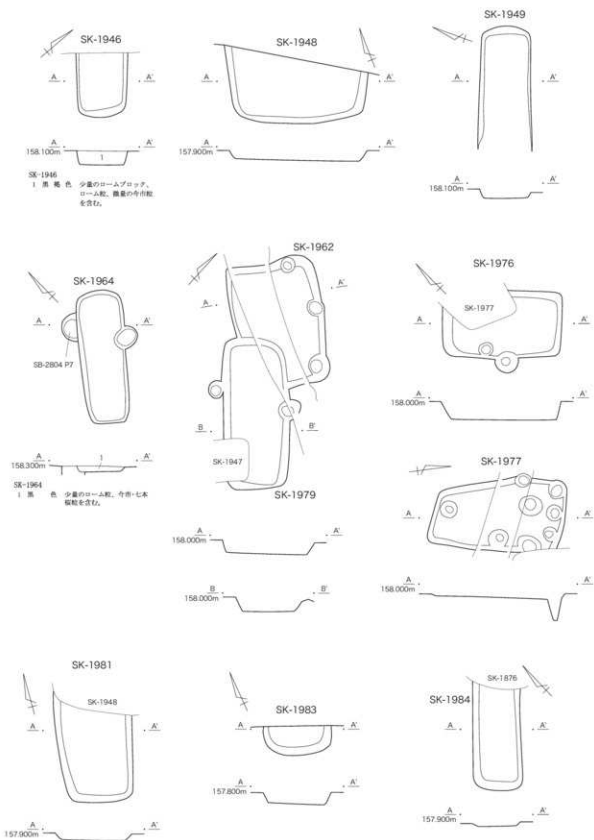




第201図 中近世の土坑実測図 (21)

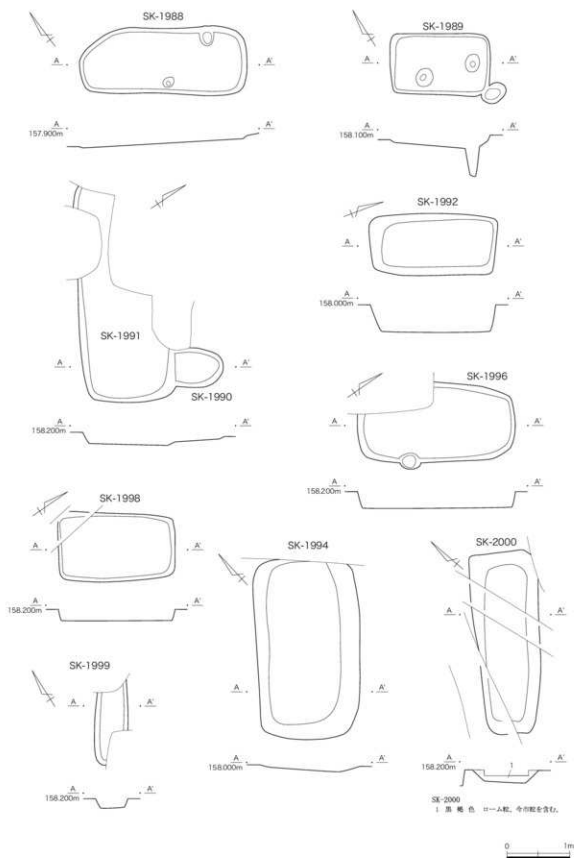


第202図 中近世の土坑実測図(22)

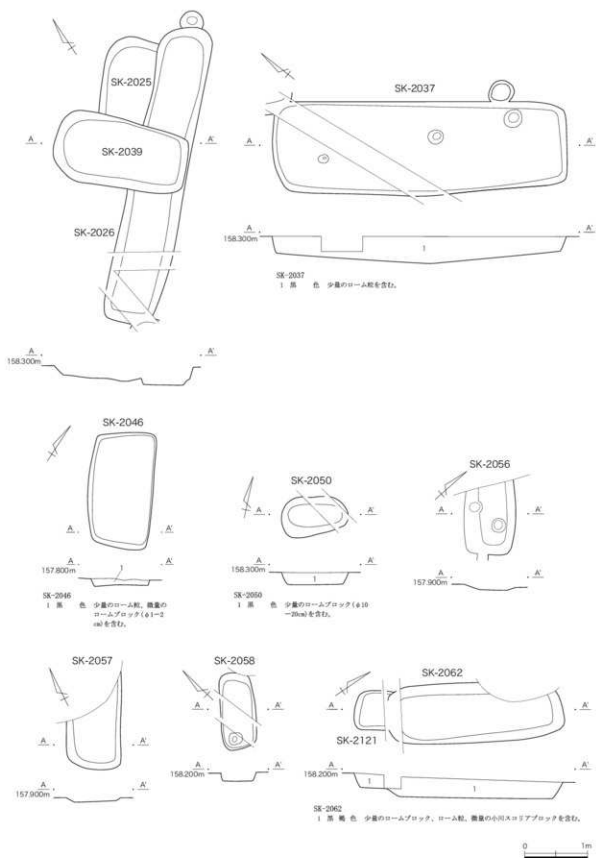


第203図 中近世の土坑実測図 (23)

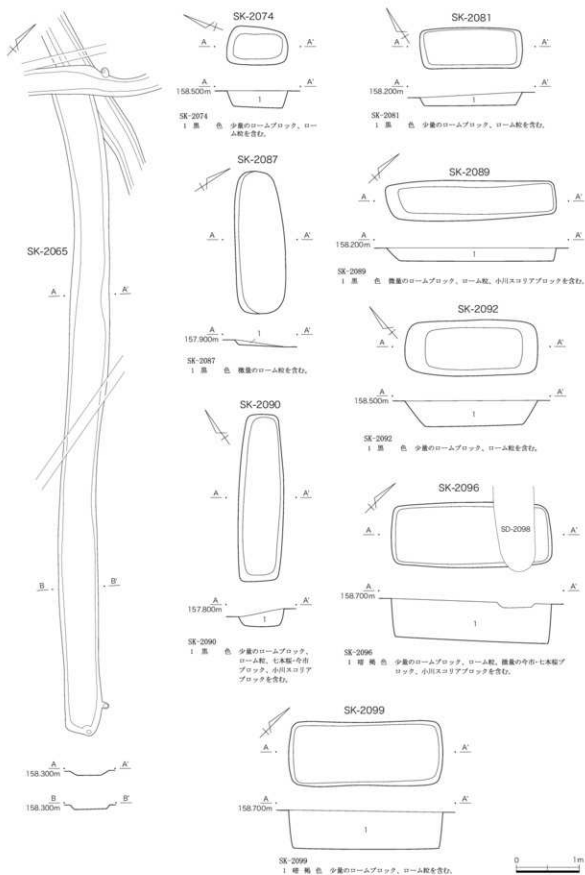
0 1m



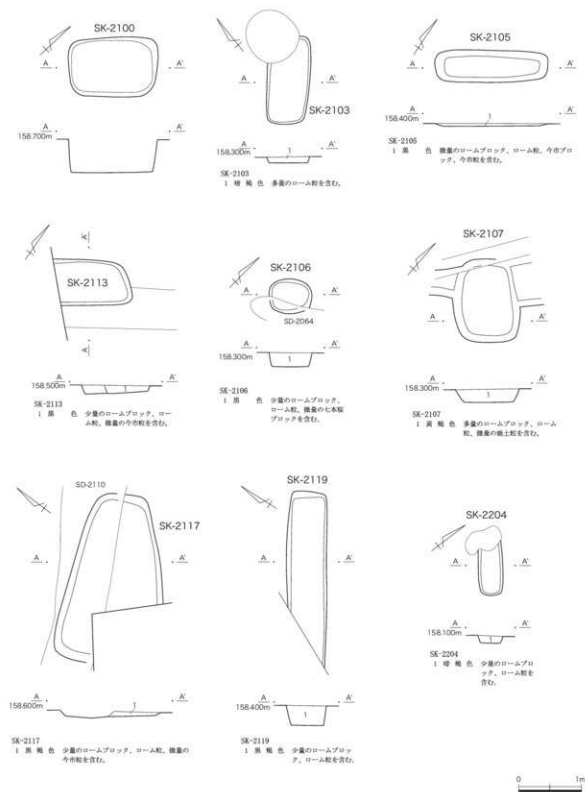
第204図 中近世の土坑実測図 (24)



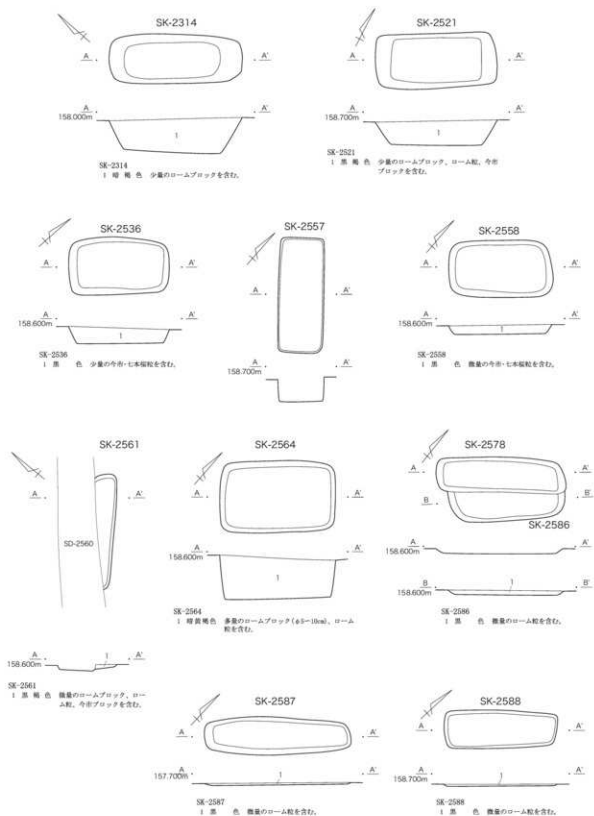
第205図 中近世の土坑実測図(25)



第206図 中近世の土坑実測図 (26)

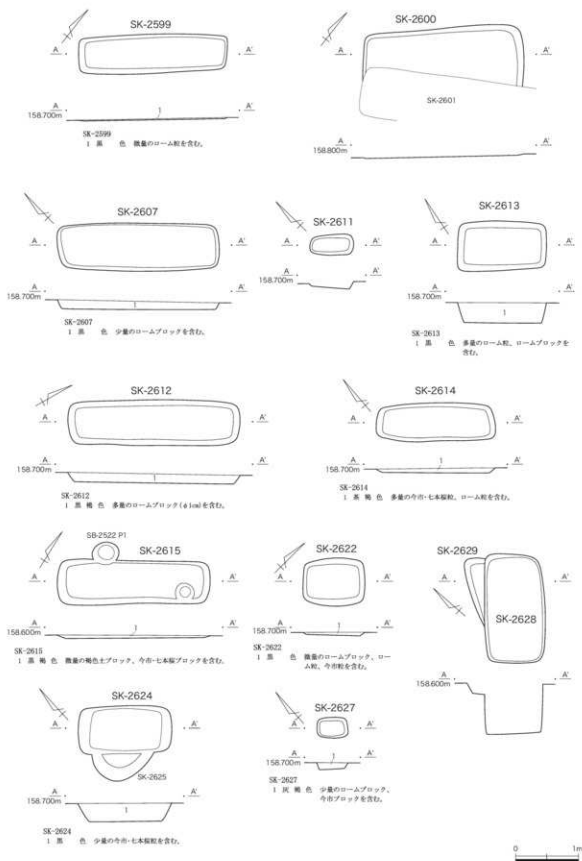


第207図 中近世の土坑実測図 (27)

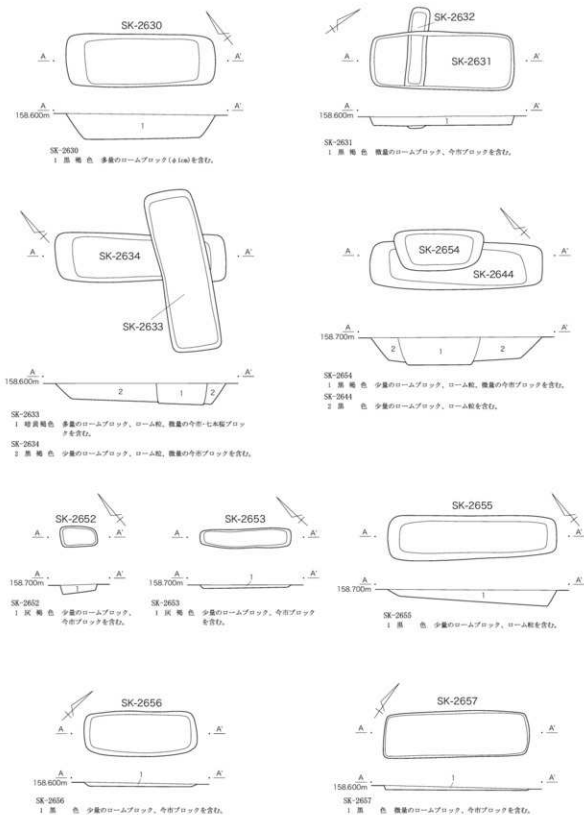


第208図 中近世の土坑実測図 (28)

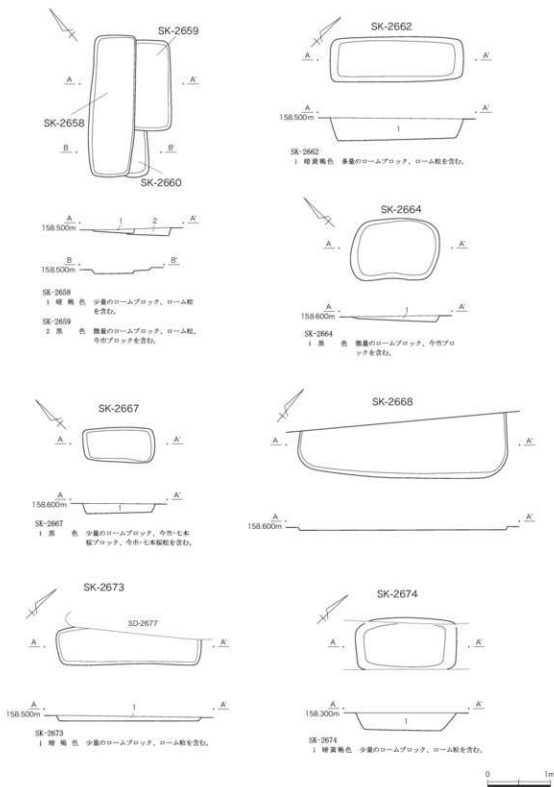




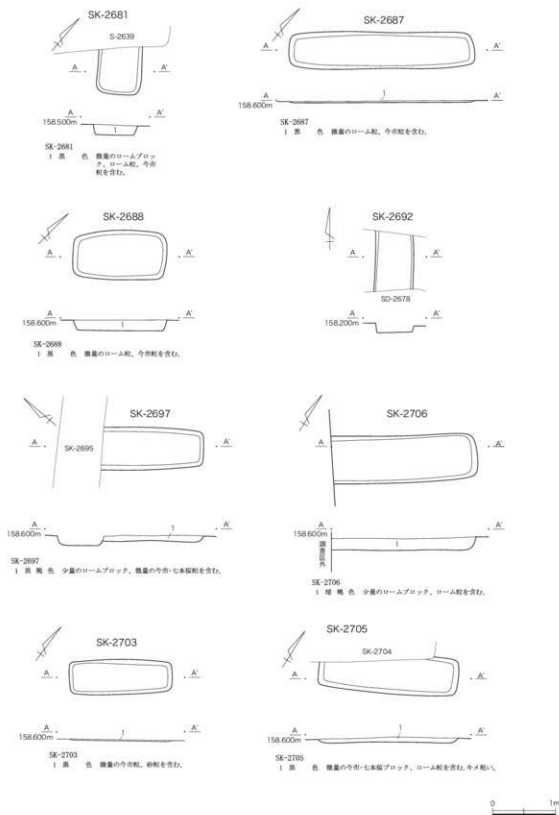
第209図 中近世の土坑実測図 (29)



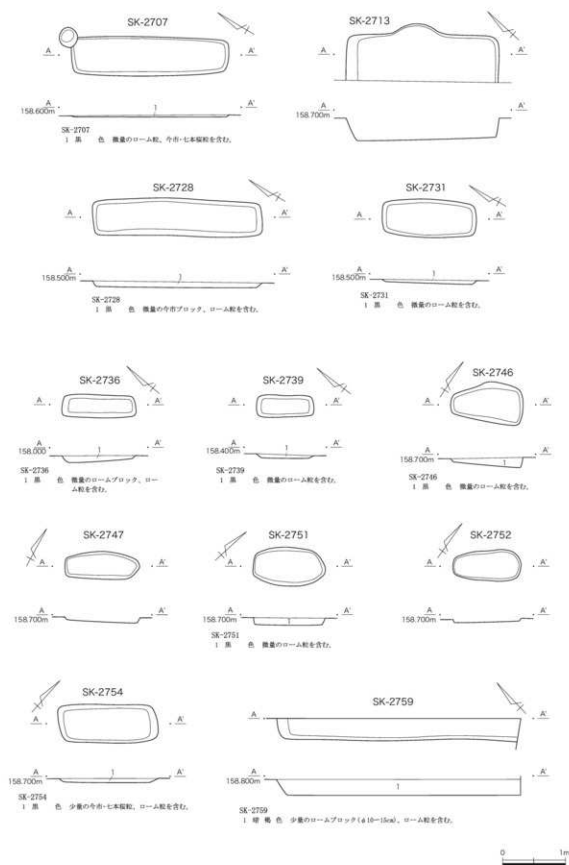
第210図 中近世の土坑実測図 (30)



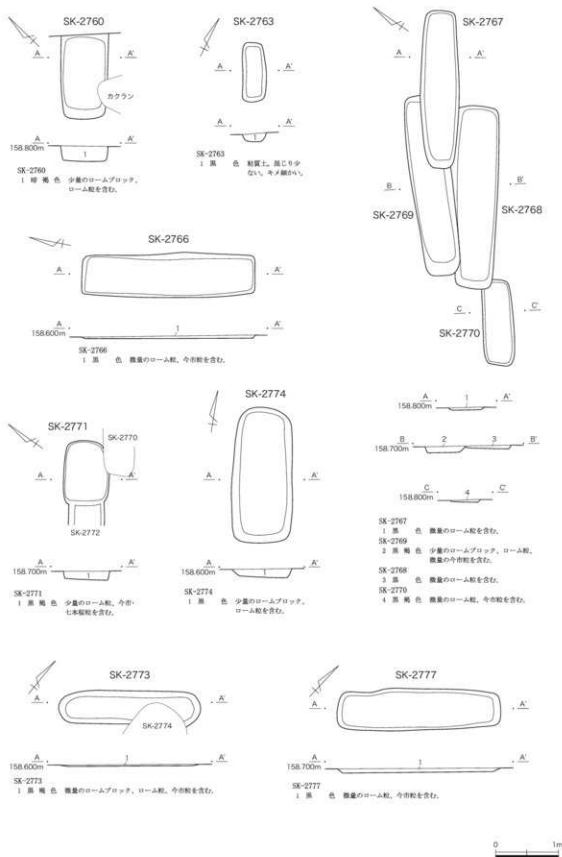
第211図 中近世の土坑実測図 (31)



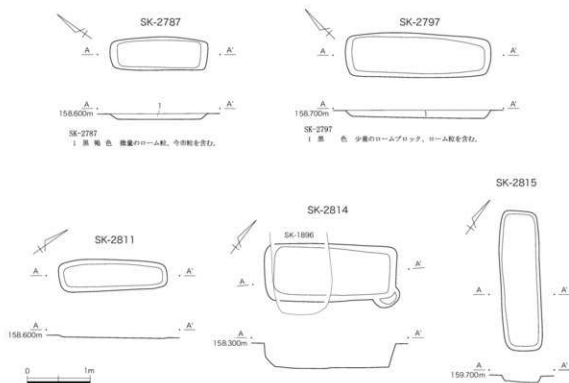
第212図 中近世の土坑実測図 (32)



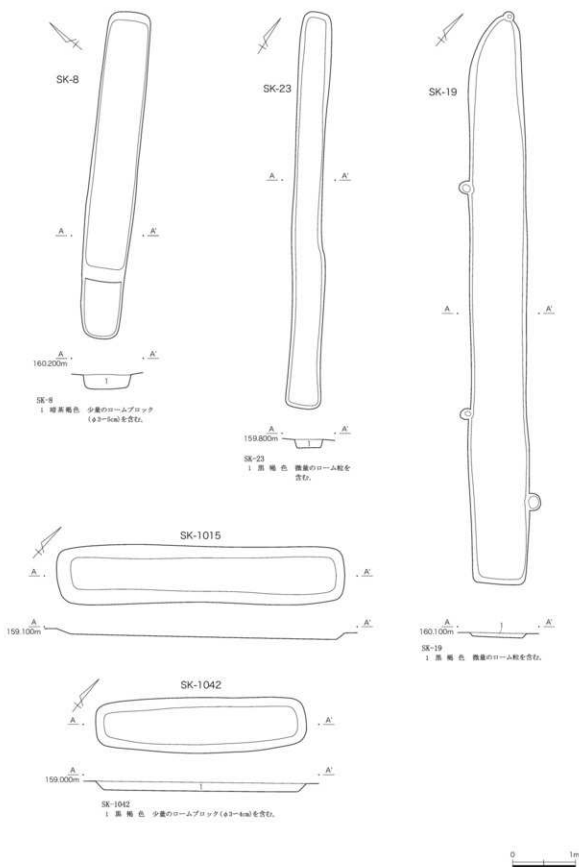
第213図 中近世の土坑実測図 (33)



第214図 中近世の土坑実測図 (34)

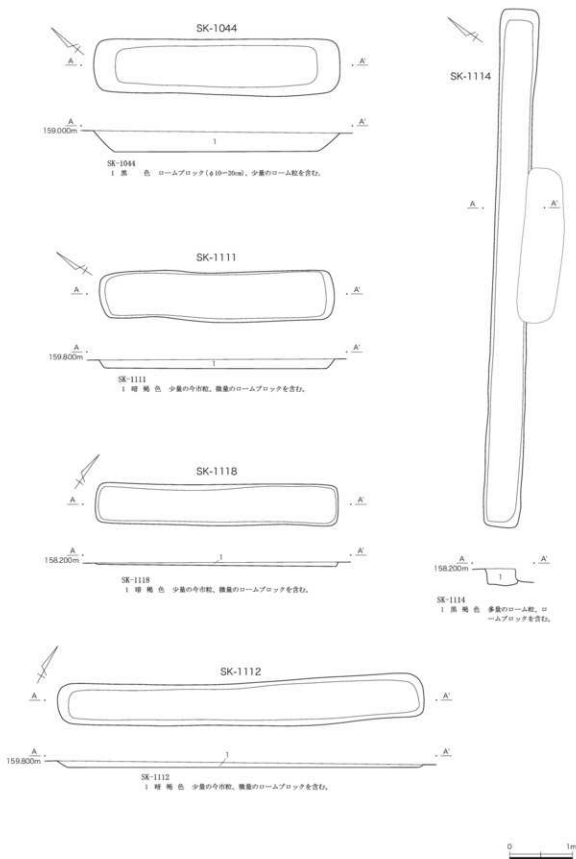


第215図 中近世の土坑実測図 (35)

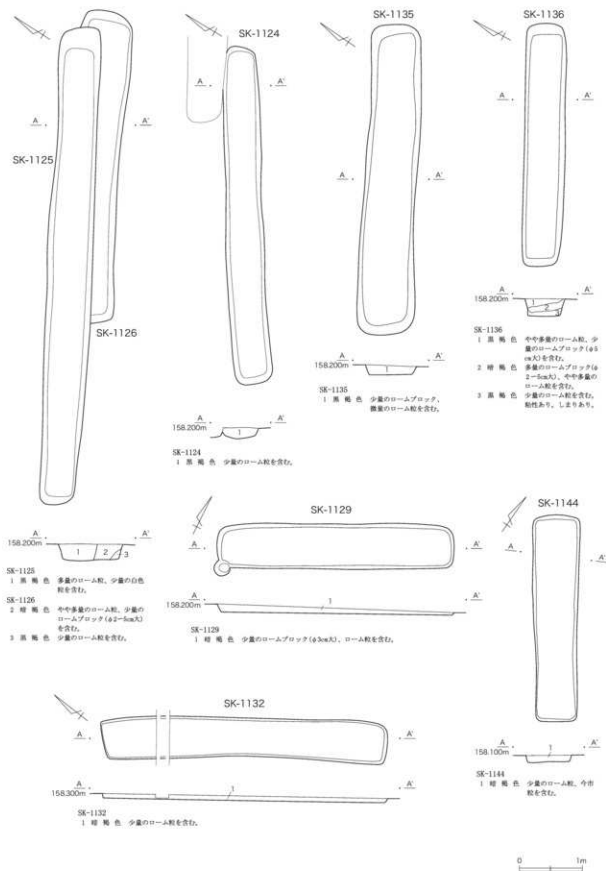


第216図 中近世の土坑実測図 (36)

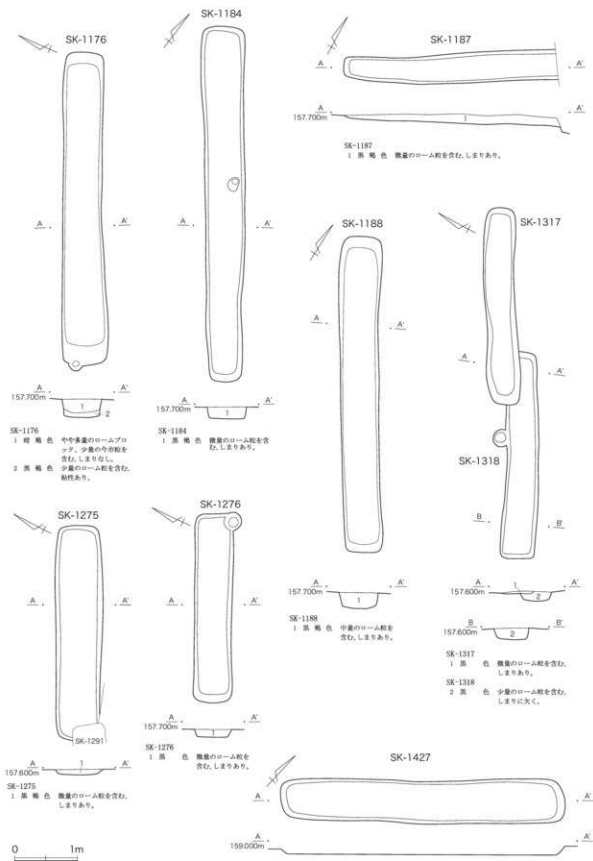




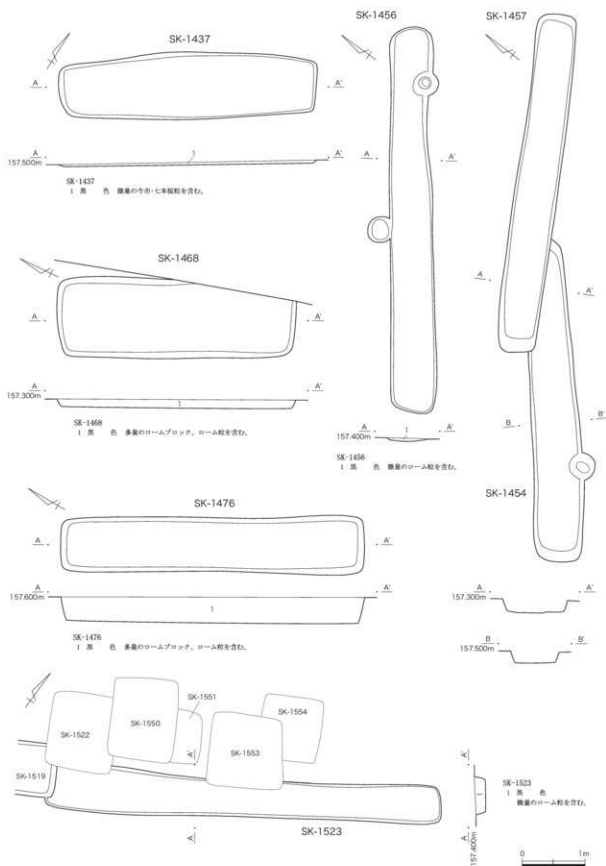
第217図 中近世の土坑実測図 (37)



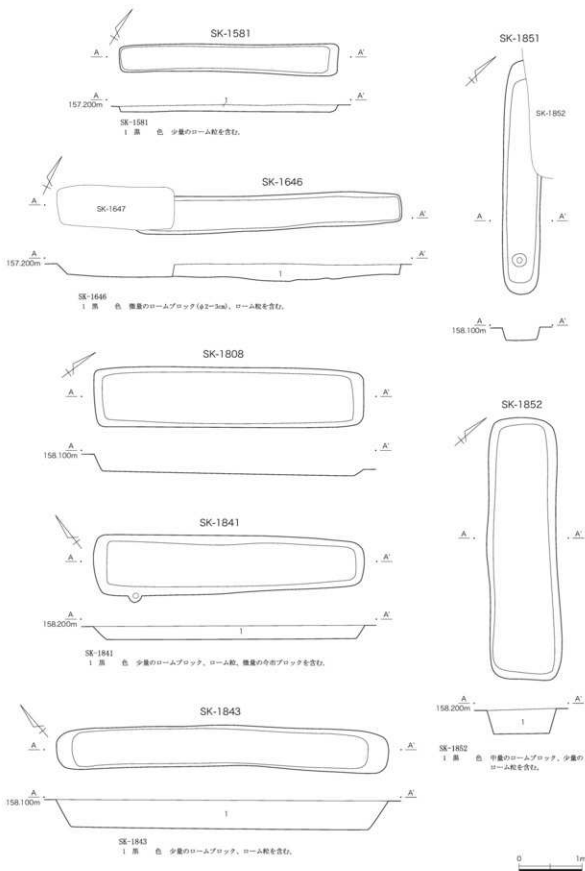
第218図 中近世の土坑実測図 (38)



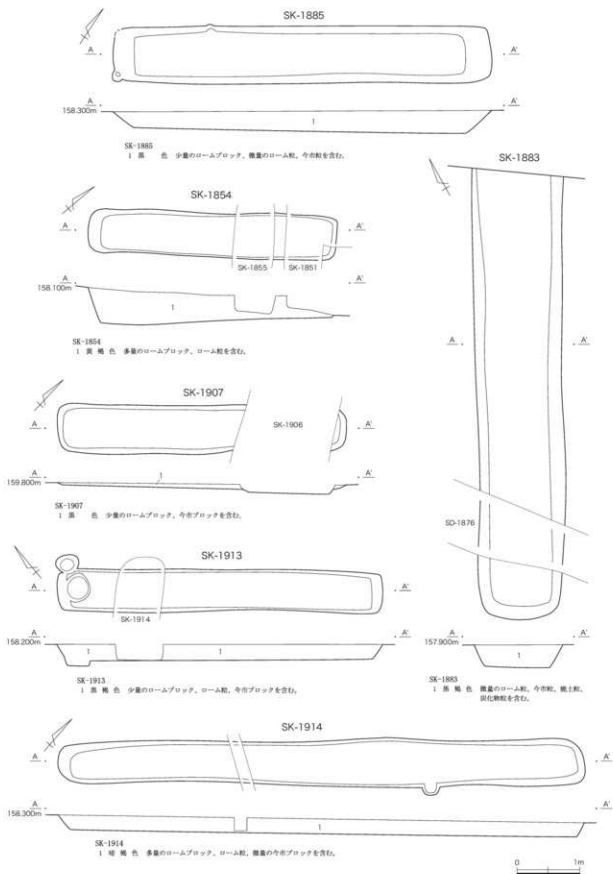
第219図 中近世の土坑実測図 (39)



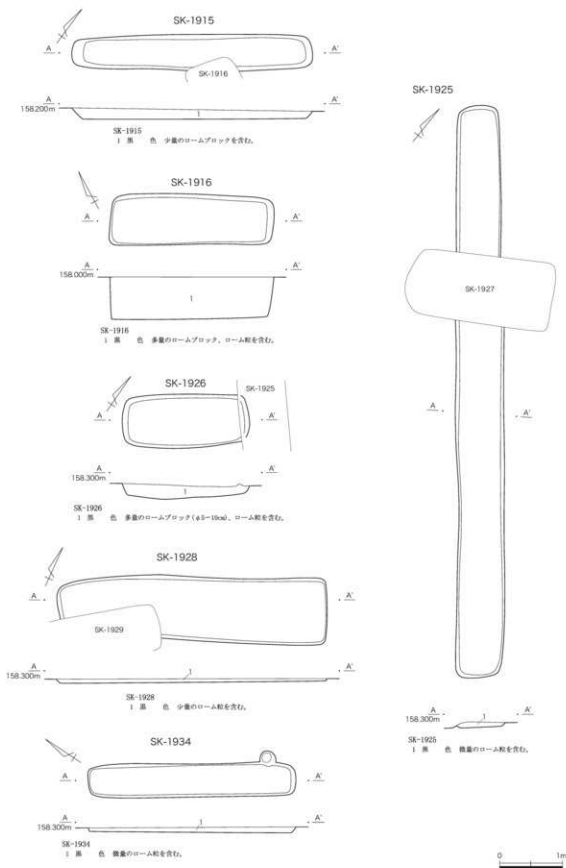
第220図 中近世の土坑実測図(40)



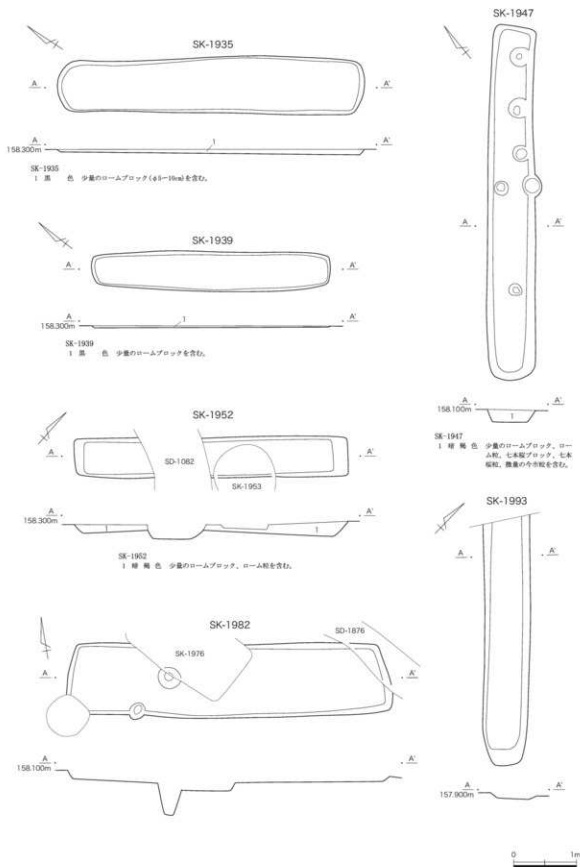
第221図 中近世の土坑実測図 (41)



第222図 中近世の土坑実測図(42)

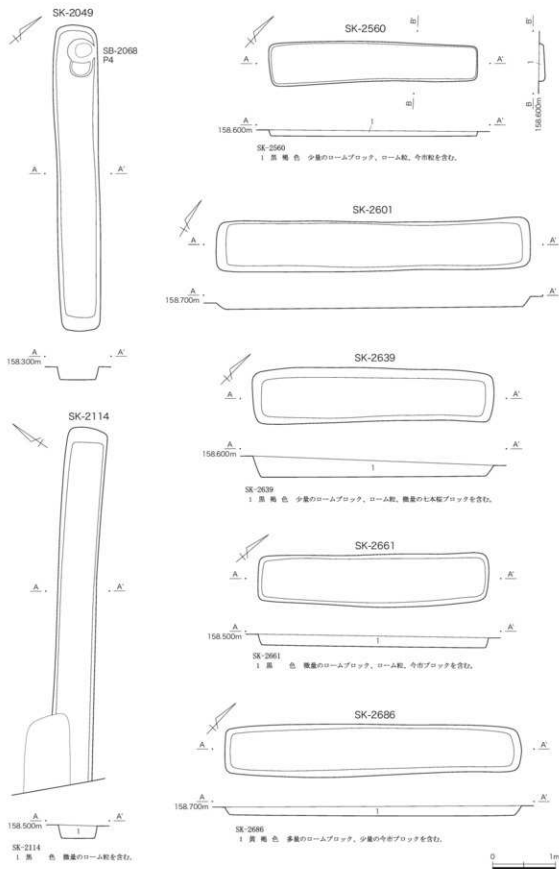


第223図 中近世の土坑実測図(43)

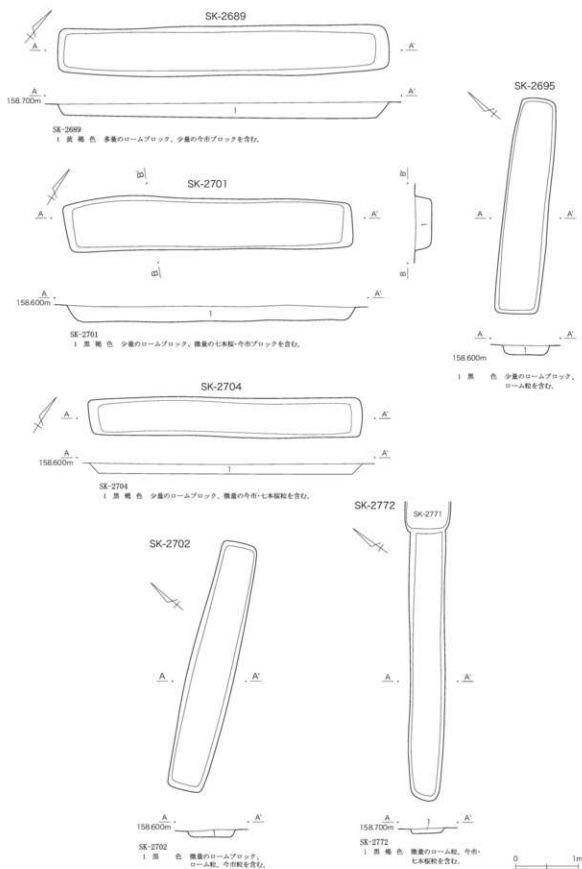


第224図 中近世の土坑実測図(44)

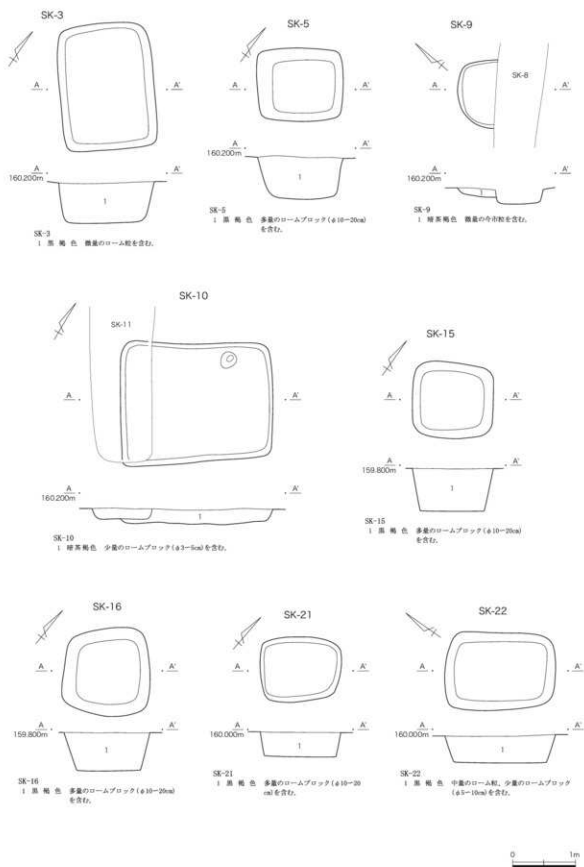




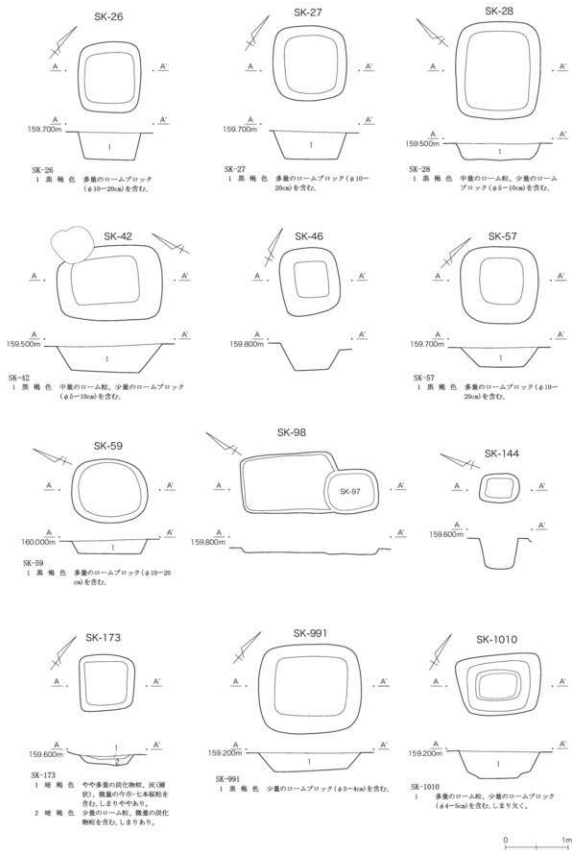
第225図 中近世の土坑実測図(45)



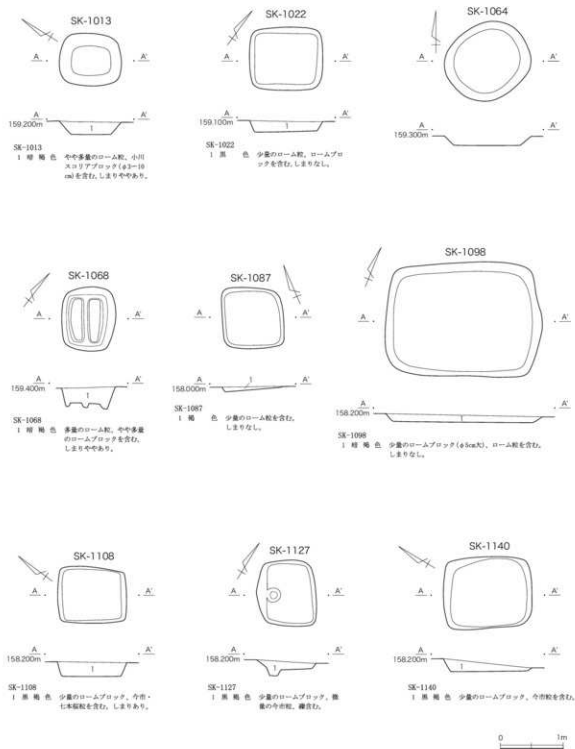
第226図 中近世の土坑実測図(46)



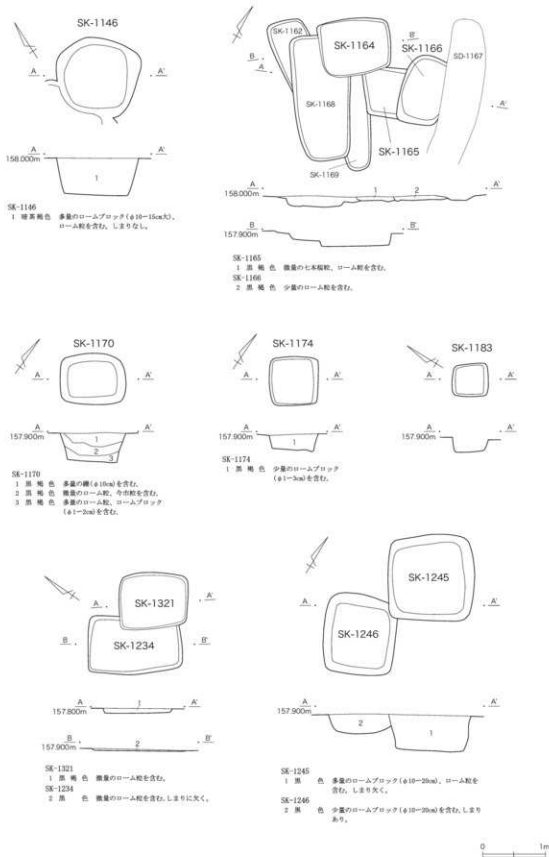
第227図 中近世の土坑実測図(47)



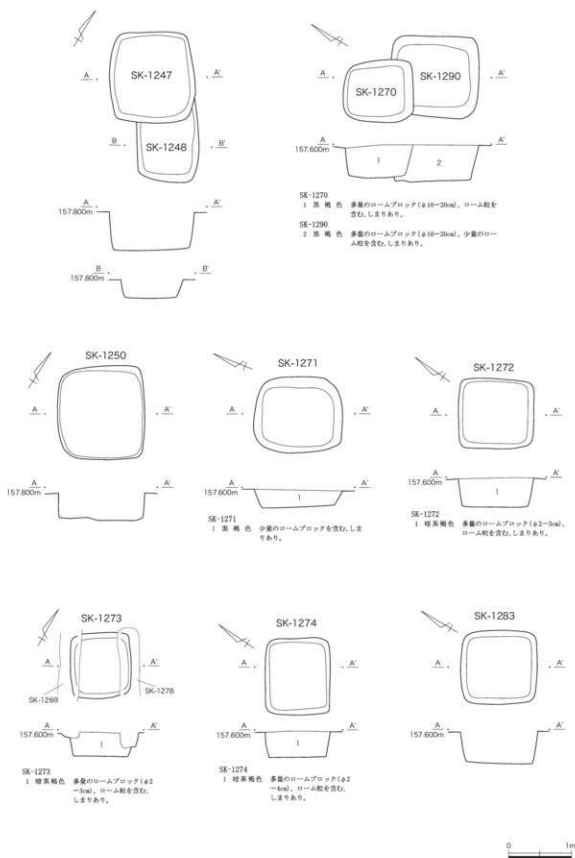
第228図 中近世の土坑実測図 (48)



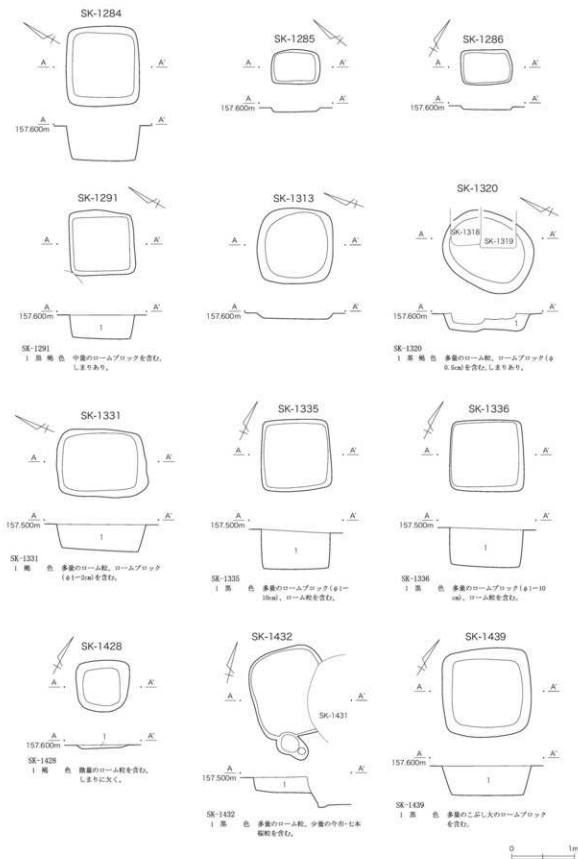
第229図 中近世の土坑実測図(49)



第230図 中近世の土坑実測図(50)

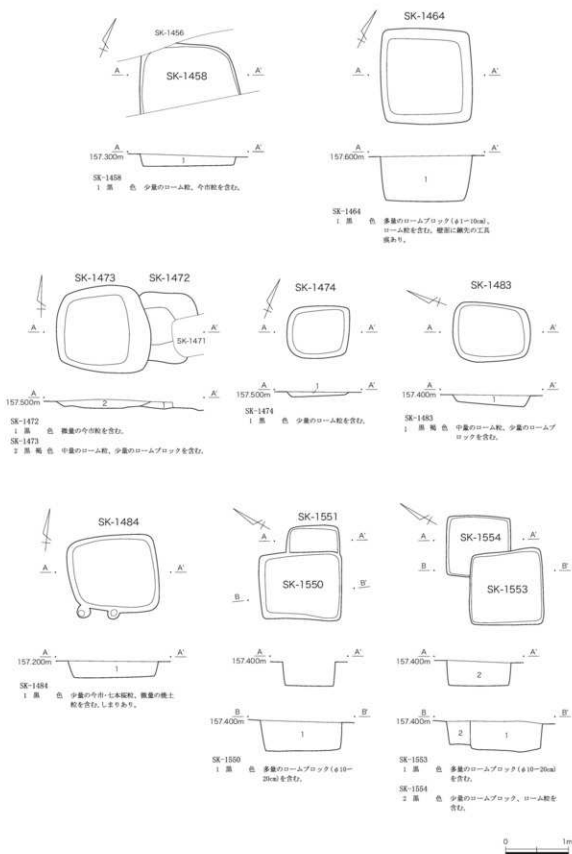


第231図 中近世の土坑実測図(51)

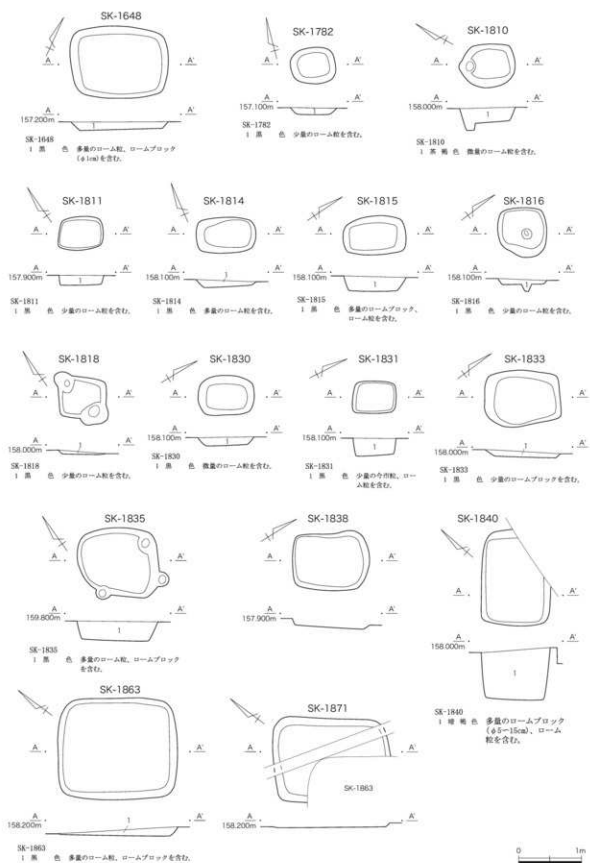


第232図 中近世の土坑実測図 (52)

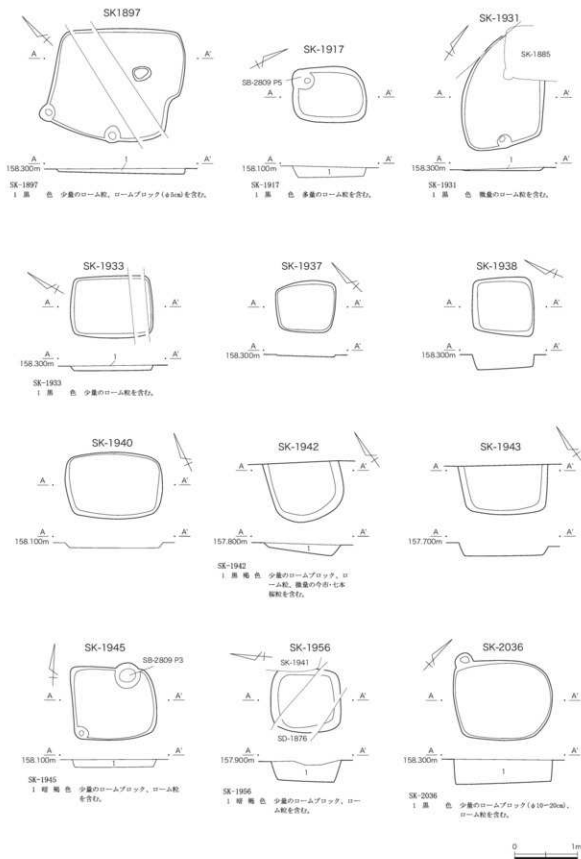




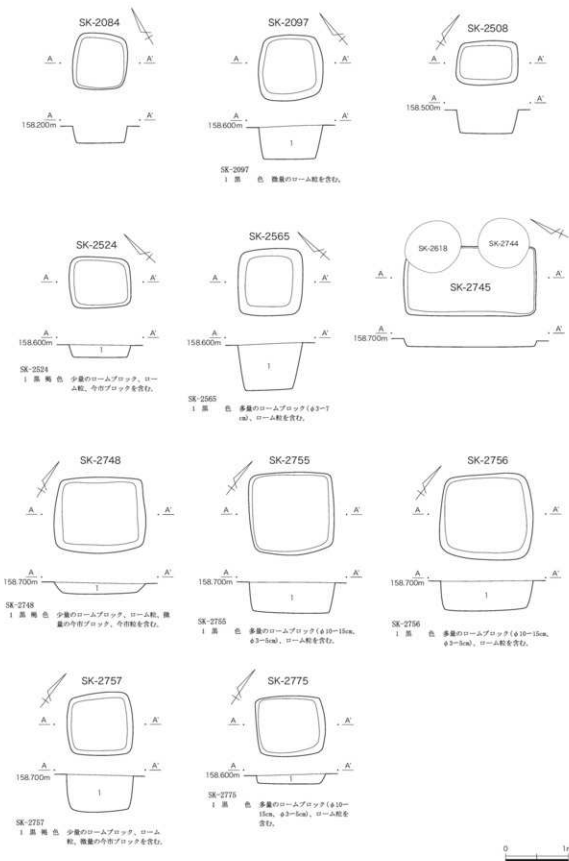
第233図 中近世の土坑実測図(53)



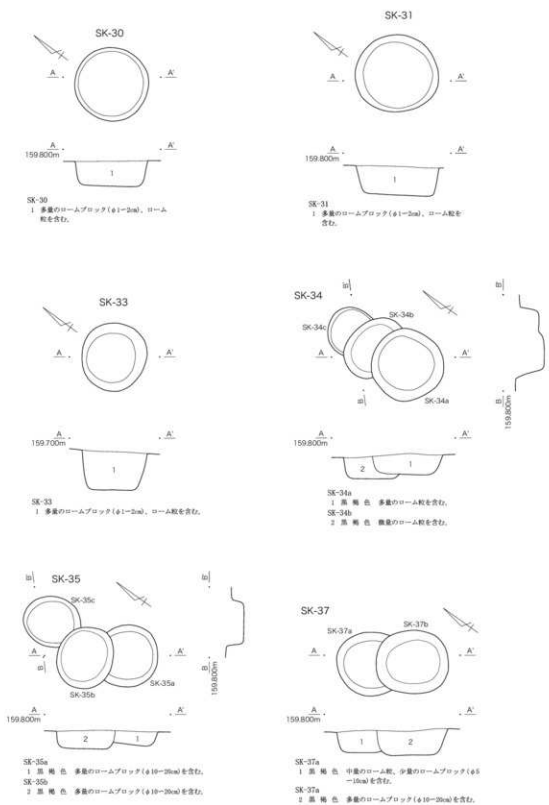
第234図 中近世の土坑実測図 (54)



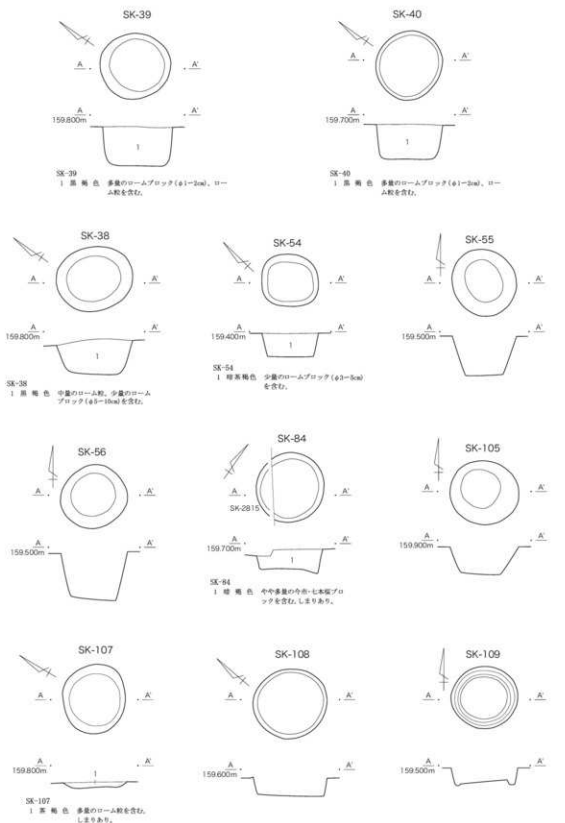
第235図 中近世の土坑実測図 (55)



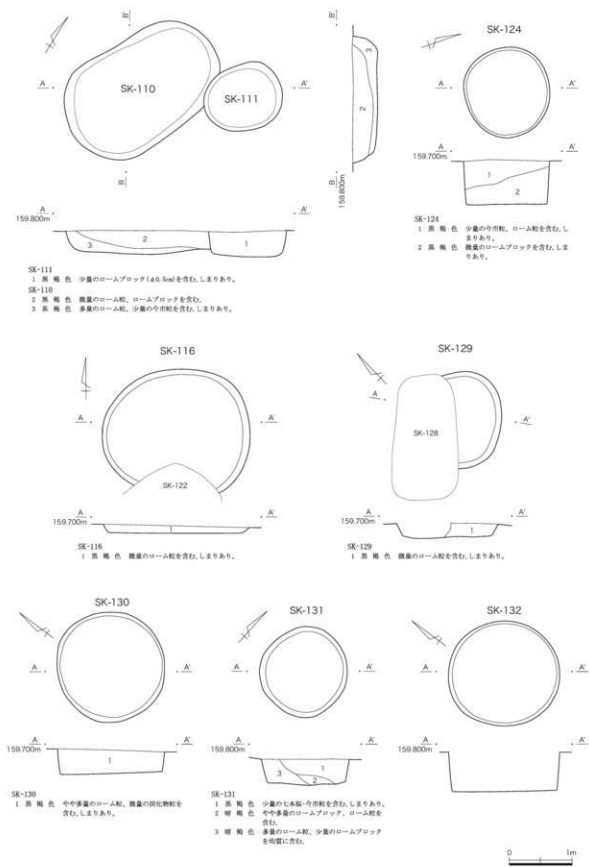
第236図 中近世の土坑実測図 (56)



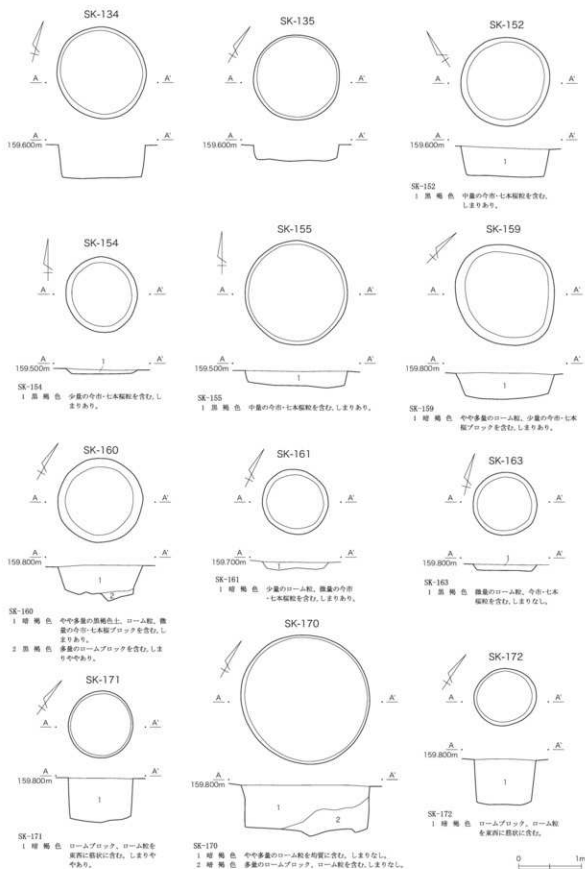
第237図 中近世の土坑実測図(57)



第238図 中近世の土坑実測図 (58)

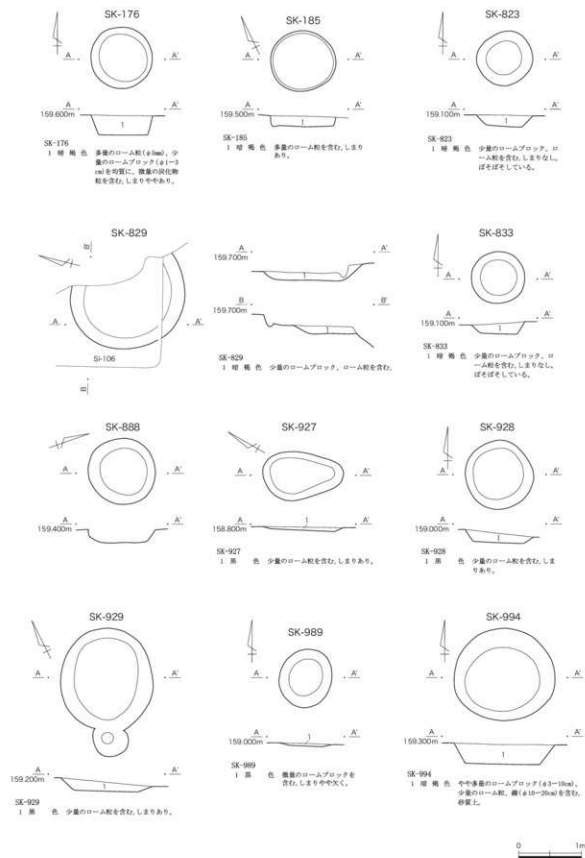


第239図 中近世の土坑実測図 (59)

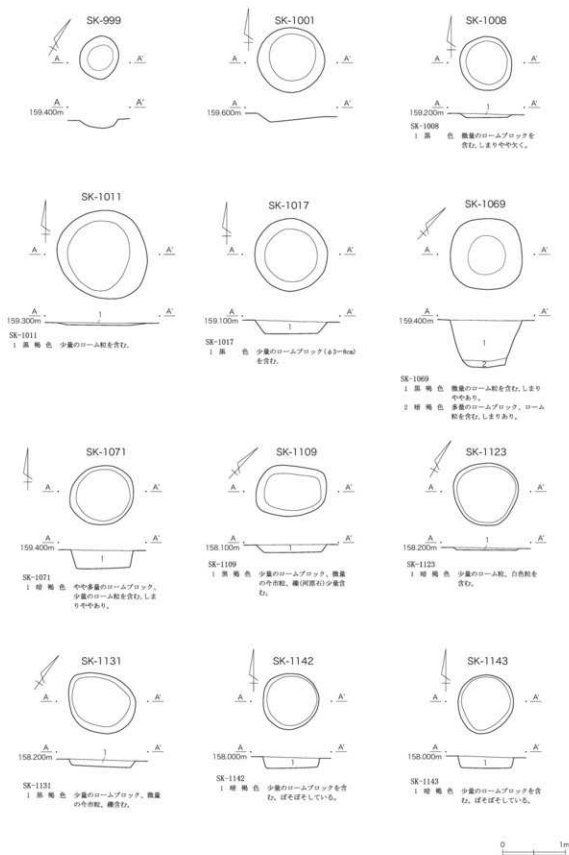


第240図 中近世の土坑実測図 (60)

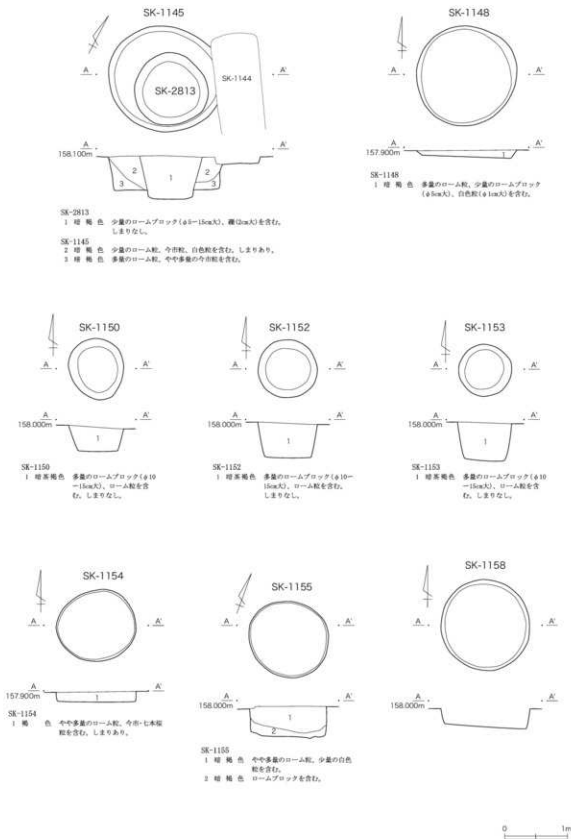




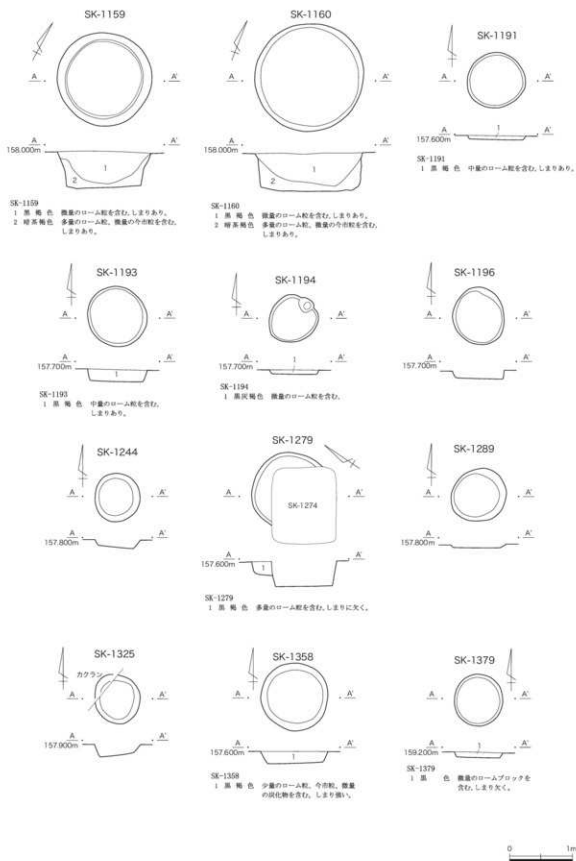
第241図 中近世の土坑実測図(61)



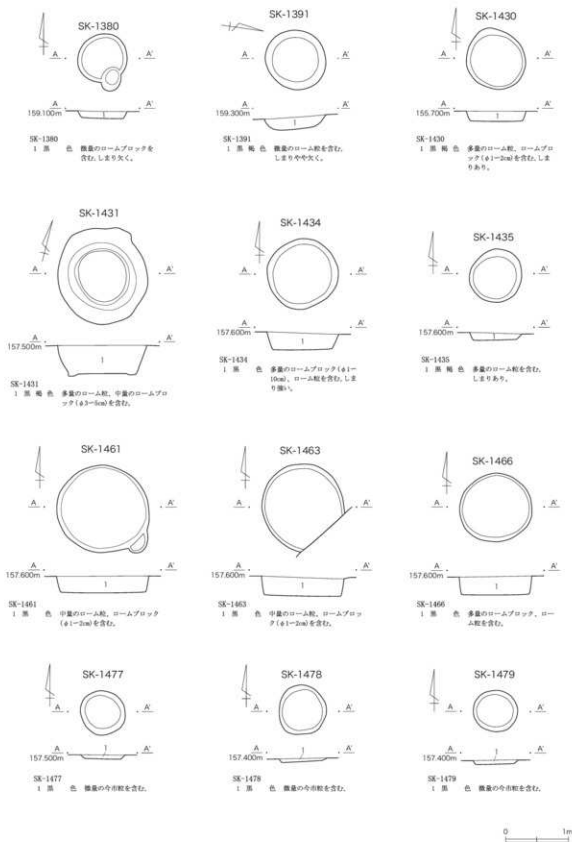
第242図 中近世の土坑実測図 (62)



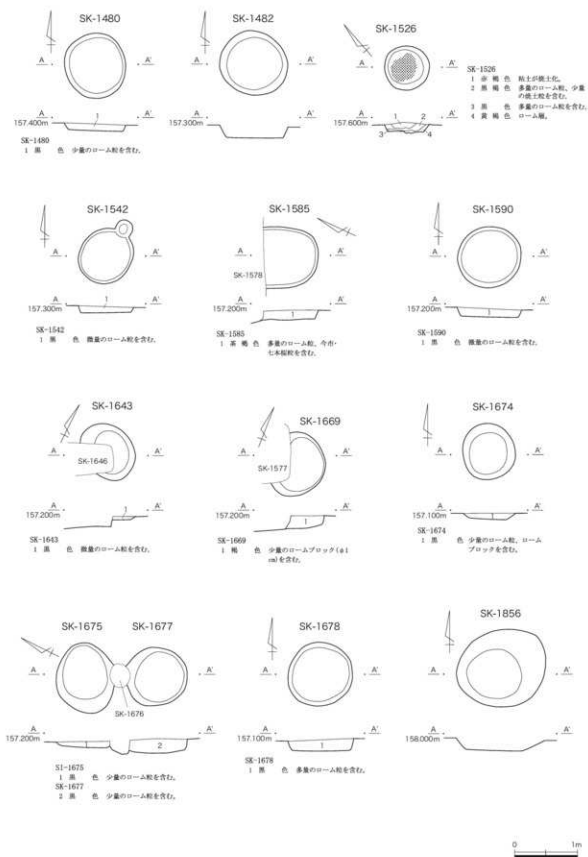
第243図 中近世の土坑実測図 (63)



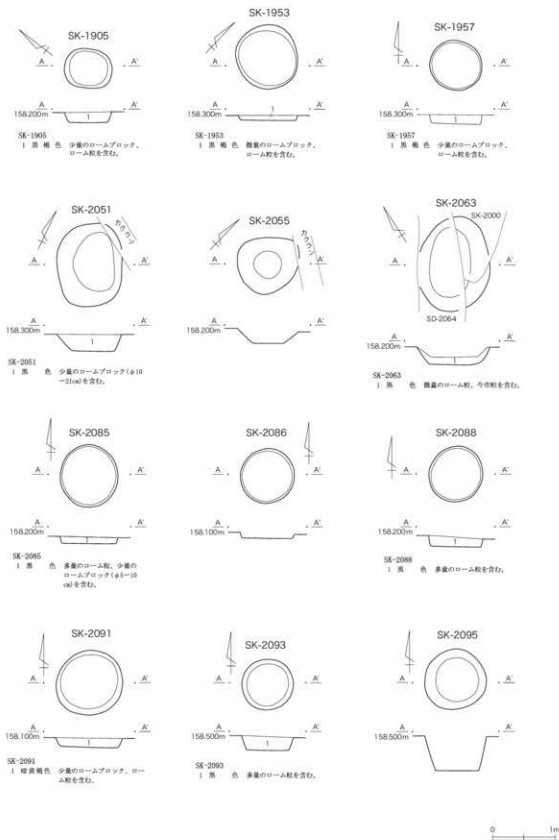
第244図 中近世の土坑実測図 (64)



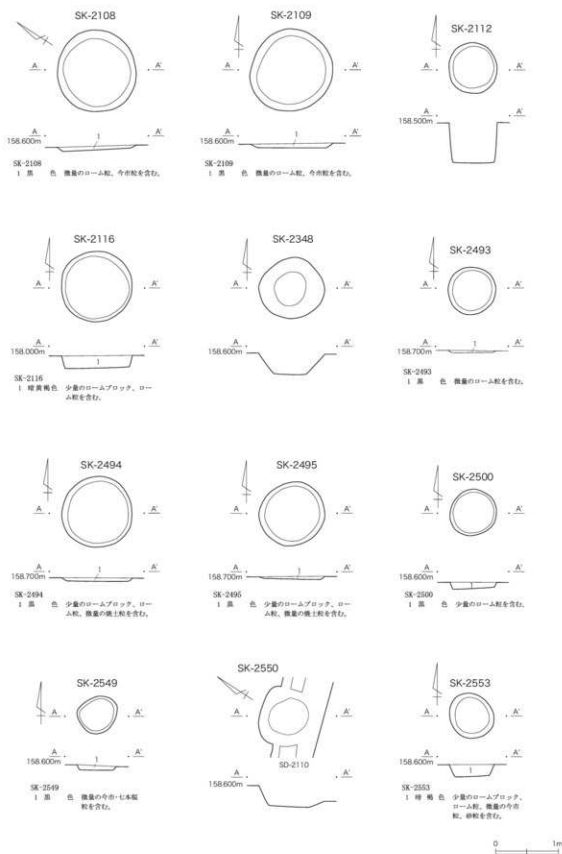
第245図 中近世の土坑実測図 (65)



第246図 中近世の土坑実測図 (66)

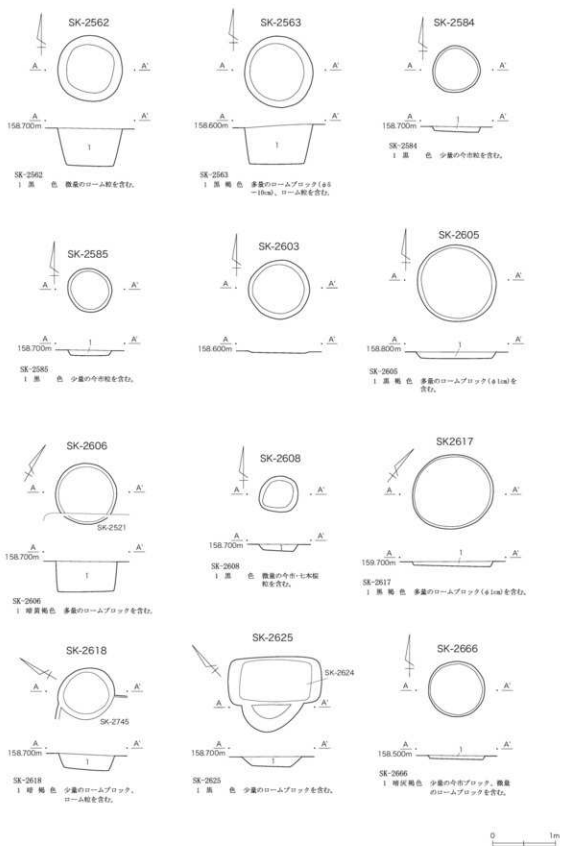


第247図 中近世の土坑実測図(67)

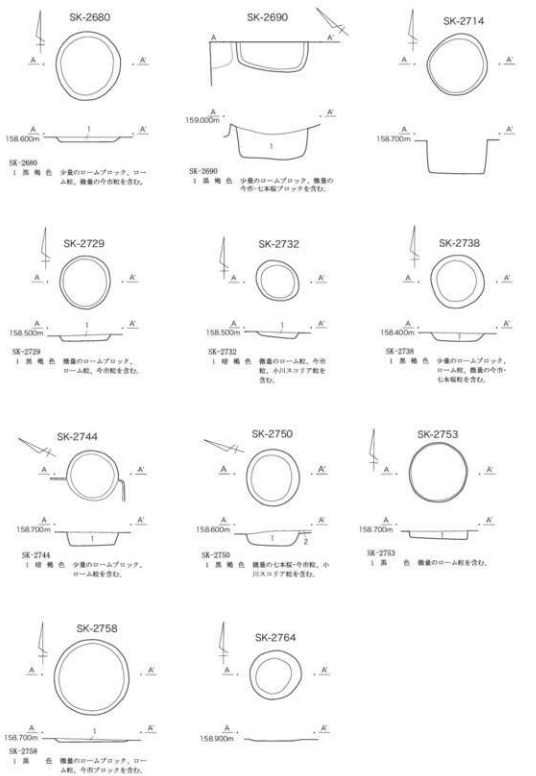


第248図 中近世の土坑実測図 (68)

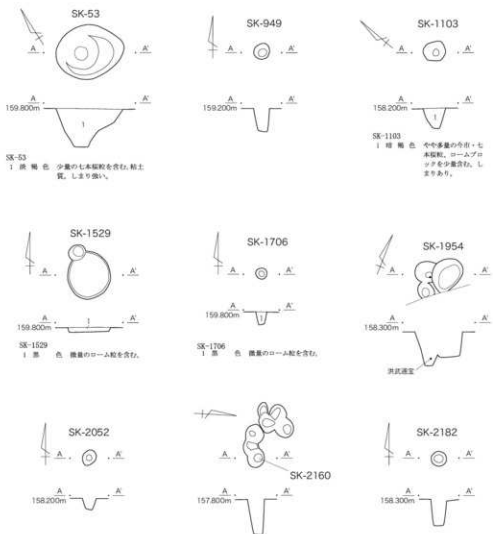




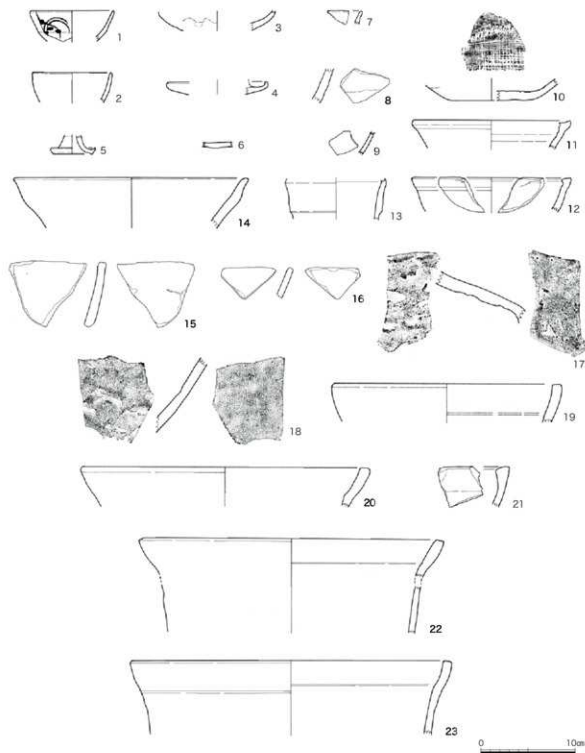
第249図 中近世の土坑実測図 (69)



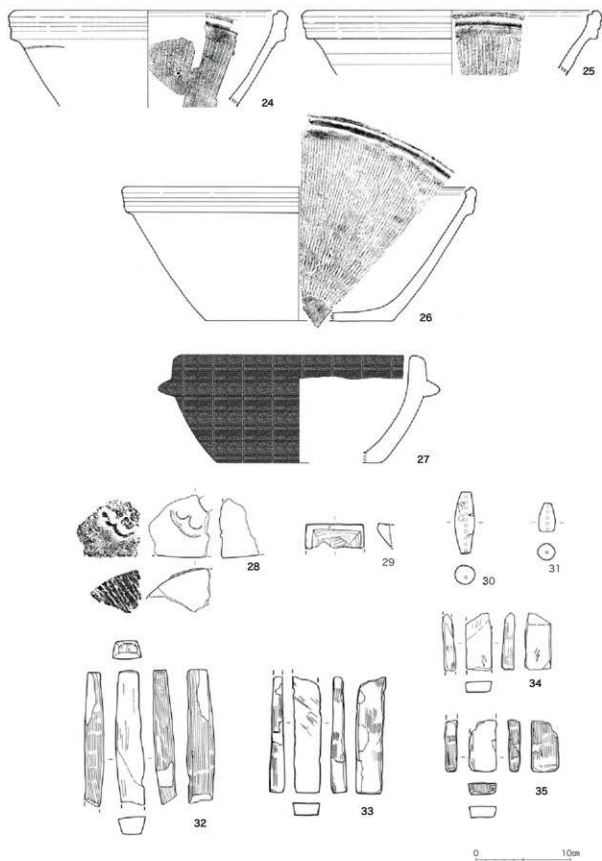
第250図 中近世の土坑実測図 (70)



第251図 中近世の土坑実測図 (71)



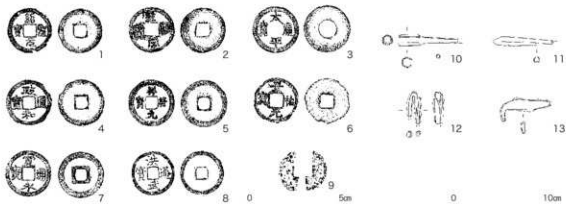
第252図 中近世の土坑出土遺物実測図（1）



第253図 中近世の土坑出土遺物実測図(2)

第73表 中近世の土坑出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	遺構 種類	器種	寸法 (cm)			色 調		胎土	焼成	残存率	調 整	備 考	
				口径	底径	高さ	外							内
							外	内						
1	SK-105	甕	甕	8.8		(3.2)	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	黒色微粒	良	破片	口縁から体部1/4程度	肥前系染付陶18C	
2	SK-1914	甕	甕	8.3		(3.2)	10YR4/4 黒	10YR4/3 に赤・黄緑	粗粒	良	破片		鉄粒	
3	SK-1913	甕	甕	10.2		(2.2)	10YR6/4 に赤・黄緑	10YR7/1 黒	7.5Y6/2 灰オリーブ	良	破片		内外面鉄粒 焼付カ	
4	SK-101	甕	甕	4.2		(2.0)	7.5Y7/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	青灰色微粒微量	良	破片	断面完存	銅線付輪 18世紀	
5	SK-105	甕	甕	8.8		(3.2)	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/4 淡黄	白色微粒	良	破片	底部外面の縁へタ切り	内面鉄粒	
6	SK-974	甕	甕			(1.2)	7.5YR4/4 に赤・黒	7.5YR4/4 に赤・黒		良	破片		鉄粒	
7	SK-1272	甕	甕			(3.7)	7.5Y3/2 黒	5YR4/1 黒	白色微粒	良	破片		鉄粒	
8	SK-1914	甕	甕			(2.7)	10YR4/3 に赤・黄緑	10YR4/3 に赤・黄緑	白色微粒	良	破片		鉄粒	
9	SK-1000	甕	甕	9.2		(2.2)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	青灰色微粒	良	破片	底部外面の縁をタ切り 輪ハタケ	甕の口(前期後半～中期前半)13C末～14C前半	
10	SK-1982	甕	甕	16.6		(3.0)	2.5Y6/1 オリーブ・灰	2.5Y6/2 灰黒	白色微粒	良	破片		甕の口縁(前期古)口縁内側の突起部 灰より焼付の古	
11	SK-101	甕	甕	16.8		(3.6)	7.5Y7/2 灰白色	7.5Y7/2 灰白色	比較的微質	良	破片	口縁破片	内外面鉄粒	
12	SK-1337	甕	甕	16.8		(3.6)	7.5Y7/2 灰白色	7.5Y7/2 灰白色	比較的微質	良	破片	口縁破片	内外面鉄粒	
13	SK-1337	甕	甕	16.8		(3.6)	7.5Y7/2 灰白色	7.5Y7/2 灰白色	比較的微質	良	破片	口縁破片	内外面鉄粒	
14	SK-56	甕	甕	24.6		(5.3)	7.5Y4/2 灰黒	7.5Y4/2 灰黒	白色微粒～粗粒 黒色微粒	良	破片	口縁部1/2程度	13C前半	
15	SK-1883	甕	甕	24.6		(6.0)	10YR3/3 暗褐色	2.5Y6/2 灰黄色	白色微粒多量 黒色微粒少量	良	破片		13C 厚縁研摩部の上出部厚	
16	SK-1272	甕	甕	24.6		(3.3)	7.5Y6/2 灰黒	2.5Y5/2 暗灰黄	白色微粒少量	良	破片		厚縁研摩部 3辺とも研摩	
17	SK-55	甕	甕	24.6		(5.5)	5Y7/2 灰白	10YR4/1 黒	白色微粒	良	破片	内面ナデ		
18	SK-1800	甕	甕	24.6		(8.0)	10YR3/2 黒	10YR5/2 灰黒	白色微粒～微	良	破片	外面ヘラナデ 内面ナデ		
19	SK-1578	甕	甕	24.0		(3.1)	7.5YR1/1 黒	7.5YR4/2 灰黒	白色微粒 雲母	良	破片		外面スス附	
20	SK-2100	甕	甕	29.5		(4.2)	2.5YR2/1 赤黒	2.5YR4/6 赤黒	白色微粒 赤色微粒 黒色微粒 雲母微少量	良	破片		外面スス附	
21	SK-1578	甕	甕	24.0		(4.4)	7.5YR4/4 黒	7.5YR1/1 黒	白色微粒 雲母	良	破片	口縁外面ヨコナデ後ヘラケズリ 口縁内面ヨコナデ	外面スス附	
22	SK-1914	甕	甕	31.1		(10.8)	7.5YR1/1 黒	7.5YR4/6 黒	白色微粒	良	破片		外面スス附	
23	SK-1643	甕	甕	32.8		(8.8)	7.5YR1/1 黒	7.5YR4/3 黒	白色微粒	良	破片	口縁外面ヨコナデ体部外面の縁部 口縁から体部内面ヨコナデ	18世紀後半	
24	SK-173	甕	甕	28.2		(10.2)	5YR2/3 暗赤黒	5YR3/2 暗赤黒	白色微粒～粗粒 黒色微粒	良	破片	口縁から体部1/8程度	18世紀後半	
25	SK-173	甕	甕	30.8		(6.0)	5YR3/3 暗赤黒	5YR3/3 暗赤黒	白色微粒～微 黒色微粒	良	破片		18世紀後半	
26	SK-123	甕	甕	37.0	20.0	14.25	2.5YR5/6 明赤黒	2.5YR5/6 明赤黒	白色微粒 黒色微粒	良	1/5		18世紀後半	
27	SK-55	甕	甕	24.2	17.4	11.4	7.5Y2/1 黒	N5 灰		良	1/3程度(底面欠損)	体部外面方向ケズリ 体部内面方向ケズリ	滑石は青みがかった灰色 13世紀後半～14世紀初期	
28	SK-1099	甕	甕	16.4		(6.6)	2.5YR6/1 淡黄	2.5Y5/1 淡黄	粗砂粒	良	破片		焼き木片(打ち込み)は裏面にて21.5mm 平寸を穿つて埋付を保障とする	
29	SK-1973	甕	甕	16.2		(2.5)	2.5Y5/1 淡黄	2.5Y5/1 淡黄	粗砂粒	良	破片		厚さ 23.36g	
30	SK-302	甕	甕	6.7		(2.2)	7.5Y6/4 に赤・黄	7.5Y6/4 に赤・黄	白色微粒 黒色微粒	良	法(完成形)		厚さ 8.3g	
31	SK-307	甕	甕	3.1		(1.8)	5YR5/6 明赤黒	5YR5/6 明赤黒	黒色微粒	良	1/2		厚さ 110.9g	
32	SK-70c	甕	甕	4.5		(2.9)	厚さ 2.9	厚さ 1.8	2.5Y6/4 に赤・黄	良	破片		断面は正面のみで良く使われている 背面及び側面には成形時の工具痕が見える	
33	SK-108	甕	甕	4.2		(1.3)	厚さ 1.3	厚さ 1.3	2.5Y7/2 灰黄	良	破片		断面は正面一面のみ 他の側面には全て成形時の工具痕が見える	
34	SK-1103	甕	甕	4.2		(1.1)	厚さ 1.1	厚さ 1.1	5Y7/1 灰白	良	破片		断面は正面及び背面 側面には成形時の工具痕が見える	
35	SK-155	甕	甕	4.2		(1.2)	厚さ 1.2	厚さ 1.2	2.5YR3/1 黒	良	破片		断面は正面のみ 背面及び側面には成形時の工具痕が見える	



第254図 中近世の土坑出土鉄製品実測図

第74表 中近世の土坑出土鉄製品観察表

実測 図No	遺構	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備 考	
			外径	内径	厚さ			
1	SK-2052	銅銭 (紹聖元寶)	2.5	1.9	0.12	2.64	北宋	5枚揃前
2		銅銭 (京宋通寶)	2.5	2.0	0.12	3.07	北宋	
3		銅銭 (太平通寶)	2.5	1.9	0.12	2.81	北宋	
4		銅銭 (政和通寶)	2.5	1.9	0.15	2.73	北宋	
5		銅銭 (祥符元寶)	2.6	1.9	0.15	3.81	北宋	
6	SK-2182	銅銭 (景祐元寶)	2.5	2.0	0.11	1.94	北宋	
7	SK-132	銅銭 (寛永通寶)	2.5	1.9	0.12	2.41		
8	SK-1954	銅銭 (洪武通寶)	2.5	1.9	0.13	2.7	明	
9	SK-125	銅銭			0.23	0.66		
10	SK-1146	煙管吸い口	長さ (6.3)	太さ 1.15	吸い 口太 さ 0.5	厚さ 0.1	重さ 5.39g	内部に炭化した紙または布が附着 している
11	SK-2704	煙管吸い口	長さ (6.4)	太さ 1.0	吸い 口太 さ 0.5	厚さ 0.6	重さ 1.81g	吸い口内部に炭化物附着
12	SK-133	不明	長さ (3.4)	幅 1.0	厚さ 0.5	4.84		
13	SK-949	籠	長さ (5.3)	幅 2.6	厚さ 0.6	4.8		

第75表 中近世の土坑一覧表

遺構番号	遺構種別	規模等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1	長方形土坑		1.55	0.96	0.09	N50°-E			北東-南西	I B5
SK-2	長方形土坑		2.78	1.10	0.60	N32°-W			北西-南東	I C5
SK-4a	長方形土坑		1.68	0.77		N34°-W	4b=4a+3		北西-南東	I C5
SK-4b	長方形土坑		1.95	(0.35)	0.16	N35°-W	4a<3		北西-南東	I C6
SK-6	長方形土坑		1.73	0.60	0.45	N31°-W			北西-南東	I C5
SK-7	長方形土坑		3.35	1.02	0.45	N48°-E			北東-南西	I C6
SK-11	長方形土坑		4.50	1.00	0.20	N31°-W	>10+12		北西-南東	I C6
SK-12	長方形土坑		1.42	0.78	0.12	N60°-E	<11		北東-南西	I C6
SK-13	長方形土坑		2.23	0.51	0.15	N28°-W			北西-南東	I D6
SK-14	長方形土坑		1.42	0.82	0.60	N55°-E			北東-南西	I E7
SK-18	長方形土坑		3.00	0.95	0.25	N55°-E			北東-南西	I C3
SK-20	長方形土坑		3.37	0.90	0.06	N32°-W			北西-南東	I C3
SK-29	長方形土坑		1.80	0.57	0.09	N38°-W			北東-南西	I D4
SK-41	長方形土坑		1.25	0.74	0.12	N23°-W			北西-南東	I D5
SK-58	長方形土坑		1.72	1.18	0.21	N50°-E			北東-南西	I C2
SK-60	長方形土坑		3.90	0.76	0.20	N58°-E	-SE-61		北東-南西	I B4
SK-63	長方形土坑		2.10	0.77	0.06	N58°-E			北東-南西	I B4
SK-66	長方形土坑		1.86	0.72	0.10	N61°-E			北東-南西	I A3
SK-68	長方形土坑		2.30	0.72	0.14	N58°-E			北東-南西	I C2
SK-69	長方形土坑		1.50	0.89	0.20	N37°-W			北西-南東	I G3
SK-70	長方形土坑		1.25	0.61	0.08	N30°-W			北西-南東	I G2
SK-77	長方形土坑		1.22	0.68	0.06	N53°-E			北東-南西	I F6
SK-78	長方形土坑		1.67	0.68	0.10	N32°-W			北西-南東	I F6
SK-79	長方形土坑		2.00	0.70	0.05	N55°-E			北東-南西	I F6
SK-89	長方形土坑		1.78	0.72	0.10	N59°-E			北東-南西	I G7
SK-93	長方形土坑		1.50	0.65	0.20	N33°-W			北西-南東	I G2
SK-94	長方形土坑		1.25	0.65	0.15	N35°-W			北西-南東	I G2
SK-96	長方形土坑		1.10	0.50	0.10	N30°-W			北西-南東	I G3
SK-97	長方形土坑	想定1.60	0.94	0.09	N35°-W		97-98		北西-南東	I G3
SK-98	長方形土坑		0.85	0.70	0.10	N35°-W	97-98		北西-南東	I G3
SK-99	長方形土坑		3.93	0.76	0.12	N15°-E			北東-南西	I H3
SK-101	長方形土坑	想定1.15	0.57	0.72	N19°-W		>102		北西-南東	I 14
SK-102	長方形土坑		2.32	0.85	0.12	N34°-W	<101		北西-南西	I 14
SK-118	長方形土坑		3.17	0.87	0.28	N34°-W			北西-南西	I J5
SK-128	長方形土坑		1.98	1.00	0.25	N43°-E			北東-南西	I 14
SK-137	長方形土坑		3.58	0.70	0.17	N48°-E	>174		北東-南西	I 15
SK-145	長方形土坑		2.73	1.08	0.38	N17°-E			北東-南西	I H3
SK-148	長方形土坑		3.00	0.65	0.10	N19°-E			北東-南西	I H3
SK-149	長方形土坑		4.05	0.70	0.10	N23°-E			北東-南西	I H3
SK-153	長方形土坑		(1.90)	1.20	0.61	N47°-E			北東-南西	I L5
SK-158	長方形土坑		1.14	0.78	0.10	N42°-W			北西-南東	I F7
SK-162	長方形土坑		2.92	0.53	0.05	N52°-E			北東-南西	I H6
SK-164	長方形土坑		3.85	0.75	0.15	N50°-E			北東-南西	I H6
SK-168	長方形土坑		1.61	0.65	0.38	N62°-E	-SI-113-SI-165		北東-南西	I 15
SK-174	長方形土坑		3.10	0.75	0.13	N40°-W	<137		北西-南東	I 15
SK-177	長方形土坑		3.05	0.66	0.11	N30°-W			北西-南東	I 17
SK-183	長方形土坑		1.08	0.66	0.06	N40°-W			北西-南東	I H5
SK-188	長方形土坑		0.80	0.45	0.02	N56°-E			北東-南西	I D7
SK-189	長方形土坑		1.50	0.70	0.03	N63°-E			北東-南東	I D7
SK-654	長方形土坑		1.00	0.45	0.07	N42°-W			北西-南東	I C4
SK-814	長方形土坑	(1.55)	1.00	未定	N51°-E				北東-南西	I L6
SK-935	長方形土坑		1.40	0.75	0.07	N66°-E			北東-南西	II B10
SK-965	長方形土坑		1.55	0.80	0.40	N42°-W			北西-南東	II H11
SK-982	長方形土坑		2.10	0.75	0.03	N48°-E			北東-南西	II G11
SK-983	長方形土坑		2.05	0.80	0.20	N32°-W			北西-南東	II G11
SK-992	長方形土坑		3.63	1.10	0.32	N35°-W			ビット	II I12
SK-996	長方形土坑		1.76	0.92	0.25	N51°-E			北東-南西	II J12
SK-998	長方形土坑		3.68	0.75	0.12	N45°-E			北東-南西	II J12
SK-1009	長方形土坑		2.40	0.82	0.04	N56°-E			北東-南西	II J12
SK-1016	長方形土坑		1.96	0.84	0.39	N32°-W			北西-南東	II J14
SK-1018	長方形土坑		3.30	0.65	0.38	N32°-W			北西-南東	II J14
SK-1023	長方形土坑		1.28	0.45	0.08	N36°-W			北西-南東	II K15
SK-1024	長方形土坑		3.75	0.77	0.31	N43°-W			北西-南東	II K15
SK-1028	長方形土坑		2.90	0.82	0.13	N48°-E			北東-南西	II K15
SK-1029	長方形土坑		1.30	0.45	0.10	N38°-W			北西-南東	II K15
SK-1033	長方形土坑		1.94	0.65	0.10	N48°-E			北東-南西	II J16
SK-1034	長方形土坑		2.43	0.62	0.15	N43°-W			北西-南東	II K15
SK-1036	長方形土坑		1.10	0.37	0.09	N35°-W			北西-南東	II K16
SK-1037	長方形土坑		1.05	0.78	0.10	N41°-W			北西-南東	II M15
SK-1039	長方形土坑		0.95	0.37	0.09	N40°-W			北西-南東	II M16
SK-1040	長方形土坑		2.00	1.10	0.45	N50°-E			北東-南西	II L16
SK-1054	長方形土坑		1.32	0.70	0.11	N35°-E			北東-南西	II I16
SK-1055	長方形土坑		(1.50)	1.15	0.10	N43°-E	<1056		北東-南西	II I16



第三章 山の神道遺跡の調査

遺構番号	遺構種別	積層等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1056	段方形土坑		1.05	0.90	0.14	N-37° E	>1055		北東-南西	Ⅱ B16
SK-1057	段方形土坑		1.20	0.74	0.63	N-44° E	>1058		北東-南西	Ⅱ B15
SK-1058	段方形土坑		0(5.7)	0.75	0.40	N-44° E	>1057		北東-南西	Ⅱ B15
SK-1059	段方形土坑		1.06	0.60	0.15	N-43° E			北東-南西	Ⅱ B15
SK-1060	段方形土坑		1.90	1.03	0.50	N-46° E			北東-南西	Ⅱ B15
SK-1061	段方形土坑		2.27	1.08	0.32	N-48° E			北東-南西	Ⅱ B15
SK-1062	段方形土坑		3.11	0.76	0.10	N-40° W			北西-南東	Ⅱ B15
SK-1067	段方形土坑		1(1.0)	0.87	0.31	N-27° W			北西-南東	Ⅱ G10
SK-1070	段方形土坑		1(4.3)	1.03	0(4.7)	N-41° W	-SD1000		北西-南東	Ⅱ B9
SK-1085	段方形土坑		0(9.5)	0.61	0.07	N-40° E	>1086		北東-南西	V AE23
SK-1086	段方形土坑		1(5.0)	1.06	0.05	N-32° E	<1085		北東-南西	V AE23
SK-1093	段方形土坑		1.02	0.75	0.10	N-12° E			北東-南西	V AE24
SK-1094	段方形土坑		1.30	0.67	0.04	N-59° W			北西-南東	V AE24
SK-1095	段方形土坑		2.62	0.67	0.10	N-20° W			北西-南東	V AE25
SK-1096	段方形土坑		1.02	0.62	0.05	N-57° E			北東-南西	V AE25
SK-1097	段方形土坑		2.70	1.06	0.12	N-12° W			北西-南東	V AF25
SK-1099	段方形土坑		1.68	0.80	0.27	N-11° W			北西-南東	V AF26
SK-1102	段方形土坑		1.56	0.59	0.15	N-54° E			北東-南西	V AD24
SK-1104	段方形土坑		1.40	0.76	0.12	N-35° W			北西-南東	V AD24
SK-1105	段方形土坑		0.95	0.55	0.13	N-59° E			北東-南西	V AD25
SK-1106	段方形土坑		1.77	0.58	0.10	N-20° W			北西-南東 ヒツ	V AD25
SK-1107	段方形土坑		0.88	0.54	0.08	N-31° W			北西-南東	V AD25
SK-1110	段方形土坑		2.44	0.66	0.06	N-63° E			北東-南西	V AC26
SK-1113	段方形土坑		1(1.8)	0.81	0.13	N-80° E			北東-南西	V AD25
SK-1115	段方形土坑		2.45	0.65	0.23	N-60° E			北東-南西	V AD26
SK-1116	段方形土坑	層2	2.62	1.47	0.16	N-68° E	1116・1117・1114		北東-南西	V AC26
SK-1117	段方形土坑		2(3.0)	0.70		N-63° E	1116・1117・1114		北東-南西	V AC26
SK-1119	段方形土坑		2.51	0.70	0.20	N-35° W			北西-南東	V AD26
SK-1120	段方形土坑	層1	1.60	0.60	0.05	N-32° E	<1121-SD1082		北東-南西	V AD26
SK-1121	段方形土坑		2.16	0.55	0.23	N-63° E	>1120		北東-南西	V AD26
SK-1122	段方形土坑		0.85	0.50	0.27	N-56° E			北東-南西	V AB26
SK-1128	段方形土坑		2.04	0.94	0.32	N-30° W			北西-南東	V AB26
SK-1134	段方形土坑		0(8.9)	0.67	0.25	N-58° E			北東-南西	V AB27
SK-1138	段方形土坑		1.63	0.83	0.25	N-65° E			北東-南西	V AB27
SK-1139	段方形土坑		2.03	0.60	0.12	N-80° E	-SD1083		東西	V AE26
SK-1147	段方形土坑		1.47	0(7.8)	0.05	N-30° W			北西-南東	V AE27
SK-1149	段方形土坑		2.56	0.90	0.11	N-71° E	-SD1084		東西	V AD27
SK-1151	段方形土坑		1.76	0.90	0.45	N-47° E			北東-南西	V AG26
SK-1162	段方形土坑		1(1.0)	0.63	0.03	N-52° W	<1168		北西-南東	V AD28
SK-1168	段方形土坑		2.00	0.89	0.17	N-33° W	1162・1169・1168・1164		北西-南東	V AD28
SK-1169	段方形土坑		1(5.0)	0(4.0)	0.08	N-33° W	<1168・1165・1164		北西-南東	V AD28
SK-1175	段方形土坑		1.47	0.57	0.10	N-61° E			北東-南西	V AI26
SK-1177	段方形土坑		2.10	0.61	0.11	N-65° E			北東-南西	V AI27
SK-1178	段方形土坑		1.22	0.63	0.13	N-64° E			北東-南西	V AI26
SK-1179	段方形土坑		2.63	0.67	0.20	N-60° E			北東-南西	V AI27
SK-1180	段方形土坑		1.70	0.58	0.18	N-62° E			北東-南西	V AI27
SK-1189	段方形土坑		2(2.3)	0(9.1)	0.13	N-31° W	1189・1188		北西-南東	V AI27
SK-1197	段方形土坑		0(7.7)	0.35	0.03	N-80° E			東西	V AI27
SK-1203	段方形土坑		2.90	0.60	0.06	N-63° E			北東-南西	V AI27
SK-1205	段方形土坑		2.80	0.82	0.20	N-58° E	1206・1205		北東-南西	V AI27
SK-1206	段方形土坑		1.80	0(3.0)	0.10	N-58° E	1206・1205		北東-南西	V AI27
SK-1215	段方形土坑		1.13	0.62	0.05	N-34° W			北西-南東	V AI27
SK-1216	段方形土坑		1.27	0.63	0.22	N-35° W			北西-南東	V AI27
SK-1222	段方形土坑		2.16	0.71	0.05	N-25° W			北西-南東	V AI28
SK-1225	段方形土坑		1.45	0.32	0.15	N-30° W			北西-南東	V AI28
SK-1227	段方形土坑		1.48	0.28	0.05	N-30° W			北西-南東	V AH28
SK-1254	段方形土坑		1.72	0.57	0.10	N-65° E			北東-南西	V AH26
SK-1255	段方形土坑		1.40	0.71	0.35	N-58° E			北東-南西	V AH26
SK-1262	段方形土坑		3.55	0.85	0.55	N-35° W	>1263・1264		北西-南東	V AG26
SK-1263	段方形土坑		1(1.0)	0.81	0.70	N-60° E	<1262		北東-南西	V AG26
SK-1264	段方形土坑		1.95	0.85	0.70	N-57° E	<1262		北東-南西	V AG26
SK-1267	段方形土坑		3.20	0.90	0.72	N-30° W	-SD1256		北西-南東	V AK29
SK-1305	段方形土坑		2.35	0.58	0.15	N-29° W			北西-南東	V AK29
SK-1319	段方形土坑		1.20	0.57	0.11	N-66° E	<1318		北東-南西	V AI29
SK-1337	段方形土坑		2.85	0.50	0.23	N-28° W			北西-南東	V AK29
SK-1344	段方形土坑		1.82	0.70	0.15	N-31° W			北西-南西	V AG29
SK-1345	段方形土坑		3.33	0.54	0.05	N-56° E			北東-南西	V AH30
SK-1346	段方形土坑		1.42	0.66	0.04	N-60° E			北東-南西	V AG29
SK-1365	段方形土坑		3.38	0.62	0.13	N-52° E			北東-南西	V AF30
SK-1381	段方形土坑		3.20	0.78	0.13	N-34° W			北西-南東	I K6
SK-1402	段方形土坑		1.87	0.92	0.04	N-48° W	-SD1421		北西-南東	Ⅱ M19
SK-1404	段方形土坑		2.12	0.82	0.01	N-50° W			北西-南東	Ⅱ M19
SK-1405	段方形土坑		3.40	0.78	0.07	N-60° W			北西-南東	Ⅱ L18
SK-1406	段方形土坑		1.95	1.12	0.18	N-67° W			北西-南東	Ⅱ L18

遺構番号	遺構種別	積層等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1407	長方形土坑		(2.02)	0.78	0.10	N-45°-W	1408-1407-1409		北西-南東	Ⅱ L18
SK-1408	長方形土坑		(3.15)	0.84	0.15	N-45°-W	1408-1407-1409		北西-南東	Ⅱ L18
SK-1409	長方形土坑		3.42	0.90	0.30	N-50°-E	1408-1407-1409		北東-南西	Ⅱ M18
SK-1410	長方形土坑		1.46	0.52	0.20	N-50°-E	>1411		北東-南西	Ⅱ M18
SK-1411	長方形土坑		2.25	0.68	0.08	N-50°-E	<1410		北東-南西	Ⅱ M18
SK-1416	長方形土坑		2.18	0.70	0.15	N-30°-W			北西-南東	Ⅱ N18
SK-1417	長方形土坑		2.00	0.68	0.10	N-47°-W			北西-南東	Ⅱ N18
SK-1419	長方形土坑		(1.65)	0.72	0.10	N-42°-E			北東-南西	Ⅱ N17
SK-1423	長方形土坑		1.25	0.60	0.82	N-64°-W			北西-南東	Ⅱ O18
SK-1424	長方形土坑	想定4.00	0.65	0.36	N-54°-E				北東-南西	Ⅱ N17
SK-1462	長方形土坑		2.15	0.95	0.41	N-50°-E	>1463		北東-南西	V AJ30
SK-1470	長方形土坑		1.70	0.36	0.19	N-31°-W			北西-南東	V AJ30
SK-1471	長方形土坑		1.68	0.65	0.13	N-90°-W	>1472		北西-南東	V AJ31
SK-1497	長方形土坑		1.91	1.23	0.07	N-68°-E			北西-南東	V AK31
SK-1499	長方形土坑		1.28	0.32	0.20	N-28°-W			北西-南東	V AJ30
SK-1502	長方形土坑		1.79	0.34	0.21	N-30°-W			北西-南東	V AK30
SK-1514	長方形土坑		1.15	0.74	0.10	N-90°-E			東西	V AK31
SK-1517	長方形土坑		5.56	1.10	0.13	N-63°-E	>1522-1550+1551+1553-1554		北東-南西	V AJ31
SK-1518	長方形土坑		1.42	0.87	0.18	N-58°-E			北東-南西	V AJ31
SK-1519	長方形土坑		1.96	0.85	0.32	N-59°-E	1523-1519+1520+1522		北東-南西	V AJ31
SK-1520	長方形土坑		2.27	0.76	0.26	N-31°-W	>1519		北西-南東	V AJ31
SK-1577	長方形土坑		3.42	1.03	0.29	N-68°-E	>1669		北東-南西	V AJ33
SK-1578	長方形土坑		2.68	1.21	0.20	N-66°-E	1585-1578+1582		北東-南西	V AK33
SK-1582	長方形土坑		3.12	0.96	0.10	N-30°-W	1578-1582+1581		北西-南東	V AK33
SK-1593	長方形土坑		3.16	0.62	0.18	N-22°-W			北西-南西	V AL32
SK-1594	長方形土坑		1.80	1.00	0.25	N-61°-E			北東-南西	V AK32
SK-1612	長方形土坑		3.40	1.02	0.05	N-16°-W			北西-南西	V AJ32
SK-1615	長方形土坑		3.42	0.92	0.08	N-19°-W			北西-南東	V AJ33
SK-1617	長方形土坑		2.92	1.07	0.07	N-67°-E			北東-南西	V AK33
SK-1618	長方形土坑		1.92	0.90	0.10	N-65°-E			北東-南西	V AK33
SK-1620	長方形土坑		1.97	0.79	0.27	N-68°-E			北東-南西	V AJ32
SK-1629	長方形土坑		1.80	0.70	0.07	N-62°-E			北東-南西	V AL33
SK-1637	長方形土坑		2.75	0.62	0.12	N-62°-E	>1638		北東-南西	V AL33
SK-1638	長方形土坑		2.25	0.64	0.10	N-60°-E	<1637		北東-南西	V AL33
SK-1645	長方形土坑		2.10	1.30	0.25	N-32°-W			北西-南東	V AK33
SK-1647	長方形土坑		1.85	0.65	0.18	N-66°-E	<1647		北東-南西	V AK33
SK-1650	長方形土坑		3.00	0.73	0.30	N-26°-W			北西-南東	V AK33
SK-1659	長方形土坑		1.48	0.87	0.35	N-64°-E			北東-南西	V AJ32
SK-1663	長方形土坑		(2.67)	0.65	0.08	N-21°-W	>1664		北西-南西	V AJ32
SK-1664	長方形土坑		3.47	1.05	0.12	N-30°-W	>1663		北西-南東	V AJ32
SK-1679	長方形土坑		2.42	0.68	0.33	N-32°-W			北西-南東	V AK34
SK-1784	長方形土坑		1.83	0.57	0.02	N-36°-W			北西-南東	V AJ32
SK-1792	長方形土坑		1.06	0.47	0.03	N-80°-E			北東-南西	V AJ33
SK-1809	長方形土坑		1.12	0.57	0.20	N-75°-E			北東-南西	V AE23
SK-1819	長方形土坑		(0.95)	0.63	0.07	N-35°-E			北東-南西	V AE23
SK-1821	長方形土坑		2.20	0.87	0.53	N-47°-W			北西-南東	V AD23
SK-1829	長方形土坑		1.30	0.65	0.30	N-42°-E			北東-南西	V AD22
SK-1834	長方形土坑		(0.95)	0.52	0.07	N-50°-W			北西-南西	V AD22
SK-1836	長方形土坑		1.33	0.70	0.22	N-40°-E			北東-南西	V AD22
SK-1842	長方形土坑		2.60	0.68	0.57	N-49°-W			北西-南東	V AD23
SK-1844	長方形土坑		2.63	0.85	0.48	N-49°-W			北西-南東	V AD23
SK-1850	長方形土坑		3.50	1.62	0.03	N-34°-W			北西-南東	V AD23
SK-1855	長方形土坑		4.37	0.65	0.26	N-43°-W	>1854		北西-南東	V AD23
SK-1861	長方形土坑		3.80	1.67	0.07	N-59°-W	1828		北西-南東	V AC22
SK-1868	長方形土坑		3.55	0.50	0.04	N-28°-W			北西-南東	V AC23
SK-1869	長方形土坑		1.50	0.77	0.12	N-52°-E			北東-南西	V AC24
SK-1870	長方形土坑		2.00	1.20	0.27	N-50°-E			北東-南西 ピット	V AB23
SK-1872	長方形土坑		(2.45)	1.75	0.10	N-31°-W	<1871		北西-南東	V AC23
SK-1877	長方形土坑		(2.60)	0.73	0.20	N-29°-W	<1878		北西-南東	V AC23
SK-1878	長方形土坑	想定2.53	1.18	0.30	N-64°-E	<1877			北東-南西	V AC23
SK-1880	長方形土坑		2.10	0.72	0.15	N-51°-W			北西-南東	V AC23
SK-1881	長方形土坑		1.82	0.71	0.61	N-57°-W			北西-南東	V AC22
SK-1884	長方形土坑		3.58	(1.00)	0.05	N-55°-W			北西-南東	V AC21
SK-1886	長方形土坑		1.50	0.48	0.07	N-30°-W			北西-南東	V AC23
SK-1892	長方形土坑		(2.35)	0.80	0.05	N-51°-E			北東-南西	V AC24
SK-1896	長方形土坑		2.37	0.91	0.36	N-45°-W			北西-南西	V AC25
SK-1900	長方形土坑		5.03	0.55	0.13	N-55°-E	>SD1082		北東-南西	V AC24
SK-1901	長方形土坑		2.70	1.05	0.18	N-30°-W			北西-南東	V AC24
SK-1902	長方形土坑		1.30	0.60	0.09	N-33°-E			北東-南西	V AC23
SK-1903	長方形土坑	想定2.13	1.30	0.70	0.22	N-40°-E			北東-南西	V AB23
SK-1906	長方形土坑		2.52	1.50	0.13	N-30°-W	>1907		北西-南東	V AB23
SK-1919	長方形土坑		2.32	0.85	0.13	N-41°-W			北西-南東	V AB24
SK-1927	長方形土坑		2.32	1.08	0.06	N-60°-E	>1925		北東-南西	V AA23

第三章 山の神道遺跡の調査

遺蹟番号	遺蹟種別	積層等	長軸(m)	短軸(m)	高さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1929	長方形土坑		2.55	0.77	0.04	N55°E	>1928 1930断面不明	北東-南西	V	AA24
SK-1930	長方形土坑		2.16	推定0.70	0.08	N61°E	>1929断面不明	北東-南西	V	AA24
SK-1936	長方形土坑		2.50	1.10	0.20	N44°W		北東-南東	V	AA26
SK-1941	長方形土坑		1.78	1.20	0.48	N90°E	>1956	東西	V	AB21
SK-1944	長方形土坑		3.80	0.75	0.05	N42°W		北西-南東	V	AB25
SK-1946	長方形土坑	(1.02)	0.81	0.21	N49°W			北西-南東	V	AA21
SK-1948	長方形土坑		2.18	(1.10)	0.17	N70°W	>1981	北西-南東	V	AB21
SK-1949	長方形土坑	(0.95)	0.82	0.15	N70°E	>SD-1082		北東-南西	V	AC25
SK-1962	長方形土坑		2.00	1.45	0.20	N55°W	>1979<1947	北西-南東	V	AA21
SK-1964	長方形土坑		2.11	0.72	0.10	N38°E		北東-南西	V	AA22
SK-1976	長方形土坑		1.90	1.05	0.30	N45°W	1982<1976<1977	北西-南東	V	AB21
SK-1977	長方形土坑		2.10	1.12	0.10	N8°E	>1976	南北	V	AB21
SK-1979	長方形土坑		2.42	1.05	0.22	N43°W	1962<1979<1974	北西-南東	V	AA21
SK-1981	長方形土坑	(1.50)	1.12	0.11	N9°E	>1948		北東-南西	V	AB21
SK-1983	長方形土坑	(0.47)	1.07	0.20	N24°E			北東-南西	V	AA20
SK-1984	長方形土坑	(1.62)	0.75	0.05	N42°E			北東-南西	V	AA20
SK-1988	長方形土坑		2.63	1.02	0.05	N53°W		北西-南東	V	Z20
SK-1989	長方形土坑		1.57	0.97	0.20	N58°W	>1986	北西-南東	V	AA21
SK-1990	長方形土坑	(0.75)	0.62	0.12	N33°E			北東-南西	V	Z21
SK-1991	長方形土坑	(3.30)	1.47	0.19	N59°W	>1995<1996		北西-南東	V	Z21
SK-1992	長方形土坑		1.98	1.00	0.45	N20°E	>1986	北西-南西	V	AA24
SK-1994	長方形土坑	(0.81)	1.63	0.10	N41°E	1995<1994<1993		北東-南西	V	Z20
SK-1996	長方形土坑		2.50	1.28	0.27	N35°E	1991<1996<1998	北東-南西	V	Z21
SK-1998	長方形土坑		1.84	1.18	0.20	N34°E	>1996<1999	北西-南西	V	Z21
SK-1999	長方形土坑	(1.16)	0.50	0.15	N33°E	>1994<1996<1998<2000		北東-南西	V	Z21
SK-2000	長方形土坑		2.86	1.00	0.20	N46°E	1999<2062<2063<2120<2000<2064	北東-南西	V	Z21
SK-2025	長方形土坑	(1.32)	(0.77)			N40°E		北東-南西	V	Z21
SK-2026	長方形土坑		4.80	0.90	0.28	N45°E		北東-南西	V	Z21
SK-2037	長方形土坑		4.63	1.50	0.42	N39°W		北西-南東	V	Z21
SK-2039	長方形土坑		2.00	1.07	0.20	N45°W		北西-南東	V	Z21
SK-2046	長方形土坑		1.80	1.00	0.12	N30°W	>SI-1920	北西-南東	V	Z21
SK-2050	長方形土坑		1.05	推定0.60	0.20	N75°E		東西	V	AD24
SK-2056	長方形土坑	(1.20)	0.80	0.06	N49°W			北西-南東	V	AA20
SK-2057	長方形土坑	(1.45)	0.85	0.06	N26°E			北東-南西	V	AA20
SK-2058	長方形土坑		1.22	0.55	0.15	N42°E		北東-南西	V	Z21
SK-2062	長方形土坑	推定2.75	0.95	0.30	N31°E	>2000<2063		北東-南西	V	Z21
SK-2065	長方形土坑	(10.15)	0.62	0.07	N42°W			北西-南東	V	Z22
SK-2074	長方形土坑		0.95	0.60	0.27	N20°W		北西-南東	V	Y23
SK-2081	長方形土坑		1.61	0.65	0.20	N58°W		北西-南東	V	V19
SK-2087	長方形土坑		2.26	0.78	0.06	N59°W		北西-南東	V	X20
SK-2089	長方形土坑		2.67	0.63	0.20	N43°E		北東-南西	V	X20
SK-2090	長方形土坑		2.63	0.71	0.25	N36°E		北東-南西	V	Y20
SK-2092	長方形土坑		2.08	0.88	0.40	N48°W		北西-南東	V	T19
SK-2096	長方形土坑		2.52	1.02	0.62	N44°E	>SD-2098	北東-南西	V	W21
SK-2099	長方形土坑		2.42	1.00	0.60	N46°E		北東-南西	V	V21
SK-2100	長方形土坑		1.40	0.94	0.53	N42°E		北東-南西	V	W21
SK-2103	長方形土坑		1.37	0.67	0.10	N42°E	>SZ-2102	北東-南西	V	W20
SK-2105	長方形土坑		1.77	0.50	0.05	N57°E		北東-南西	V	X21
SK-2106	長方形土坑		0.67	推定0.55	0.22	N46°E	SD-2064断面不明	北東-南西	V	Y22
SK-2107	長方形土坑	推定1.30	1.02	0.20	N43°W			北西-南東	V	Y22
SK-2113	長方形土坑	(1.13)	0.72	0.13	N54°W	>2114		北東-南西	V	Y25
SK-2117	長方形土坑		2.70	1.46	0.11	N62°E		北東-南西	V	Y25
SK-2119	長方形土坑	(2.70)	0.63	0.31	N59°E			北東-南西	V	Z25
SK-2121	長方形土坑		0.50	0.63	0.22	N37°E		北西-南東	V	Z21
SK-2204	長方形土坑	(0.85)	0.38	0.11	N53°W			北西-南東	V	AA21
SK-2314	長方形土坑		2.10	0.78	0.57	N42°W		北西-南東	V	AB21
SK-2521	長方形土坑		1.90	0.87	0.40	N62°E	>2606	北東-南西	V	U25
SK-2536	長方形土坑		1.58	0.91	0.27	N42°E		北東-南西	V	T19
SK-2557	長方形土坑		1.83	0.72	0.38	N40°W		北西-南東	V	U26
SK-2558	長方形土坑		1.62	0.90	0.14	N50°E		北東-南西	V	W24
SK-2561	長方形土坑	(1.80)	(0.35)	0.06	N55°E	>2560		北東-南西	V	W24
SK-2564	長方形土坑		1.82	1.14	0.70	N49°E		北東-南西	V	W25
SK-2578	長方形土坑		2.03	0.55	0.10	N53°E	>2586	北東-南西	V	W23
SK-2586	長方形土坑		1.82	(0.45)	0.06	N47°E		北東-南西	V	W23
SK-2587	長方形土坑		2.30	0.60	0.04	N47°E		北東-南西	V	W23
SK-2588	長方形土坑		1.77	0.61	0.03	N44°E		北東-南西	V	U24
SK-2599	長方形土坑		2.33	0.62	0.02	N51°E		北東-南西	V	U23
SK-2600	長方形土坑		2.53	(0.95)	0.03	N51°E	>2601	北東-南西	V	Z22
SK-2607	長方形土坑		2.55	0.76	0.14	N46°W		北西-南東	V	U23
SK-2641	長方形土坑		0.68	0.32	0.11	N44°W		北西-南東	V	U21
SK-2642	長方形土坑		2.70	0.72	0.15	N29°E		南北	V	U21
SK-2643	長方形土坑		1.40	0.78	0.32	N57°W		北西-南東	V	U21
SK-2644	長方形土坑		1.86	0.60	0.08	N50°W		北西-南東	V	U22
SK-2645	長方形土坑		2.40	0.68	0.05	N59°E		北東-南西	V	V26

遺構番号	遺構種別	規模等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-2622	段方形土坑		0.97	0.76	0.05	N45° E			北東-南西	V 523
SK-2624	段方形土坑		1.46	0.72	0.29	N48° W	2625新田不明		北西-南東	V 521
SK-2627	段方形土坑		0.48	0.33	0.11	N49° W			北西-南東	V U21
SK-2628	段方形土坑		1.73	0.95	0.82	N46° E	-2629		南北	V T21
SK-2629	段方形土坑	(0.60)	0.20	0.19	N36° E	-2628			南北	V T21
SK-2630	段方形土坑		2.35	0.83	0.40	N51° W			北西-南東	V T20
SK-2631	段方形土坑		2.26	0.92	0.14	N37° E	2632新田不明		南北	V T20
SK-2632	段方形土坑		1.23	0.29	0.20	N49° W	2631新田不明		北西-南東	V T20
SK-2633	段方形土坑		2.60	0.76	0.34	N31° E	-2634		北東-南西	V T20
SK-2634	段方形土坑		2.67	0.74	0.32	N48° W	-2633		北西-南東	V T20
SK-2644	段方形土坑		2.70	0.73	0.37	N45° W	-2654		北西-南東	V Q20
SK-2652	段方形土坑		0.58	0.32	0.14	N30° W			北西-南東	V T21
SK-2653	段方形土坑		1.43	0.30	0.05	N43° W			北西-南東	V U21
SK-2654	段方形土坑		1.35	0.65	0.44	N44° W	-2644		北西-南東	V Q20
SK-2655	段方形土坑		2.65	0.68	0.25	N50° W			北西-南東	V Q20
SK-2656	段方形土坑		1.78	0.72	0.06	N45° E			北東-南西	V R19
SK-2657	段方形土坑		2.29	0.72	0.06	N54° E			北東-南西	V R19
SK-2658	段方形土坑		2.26	0.72	0.08	N43° E	-2659-2660		北東-南西	V R20
SK-2659	段方形土坑		1.43	(0.56)	0.12	N40° E	2658-2659-2660		北東-南西	V R20
SK-2660	段方形土坑	(0.75)	(0.30)	0.04	N39° E	2658-2659-2660			北東-南西	V R20
SK-2662	段方形土坑		2.10	0.72	0.36	N45° E			北東-南西	V R19
SK-2664	段方形土坑		1.38	0.94	0.10	N44° W			北西-南東	V Q19
SK-2667	段方形土坑		1.13	0.54	0.15	N43° W			北西-南東	V P19
SK-2668	段方形土坑		3.29	(0.90)	0.05	N52° E			北東-南西	V O20
SK-2673	段方形土坑		2.27	(0.60)	0.10	N44° E	-5D-2677		北西-南東	V Q18
SK-2674	段方形土坑		1.58	(0.82)	0.28	N42° E	-5D-2675		北東-南西	V Q18
SK-2681	段方形土坑		0.76	0.69	0.16	N35° W	-2639		北西-南東	V S19
SK-2687	段方形土坑		2.92	0.57	0.02	N51° E			北東-南西	IV S26
SK-2688	段方形土坑		1.48	0.78	0.17	N48° E			北東-南西	IV S26
SK-2692	段方形土坑	(0.95)	0.60	0.16	N3° E	-5D-2678			北東-南西	V Q18
SK-2697	段方形土坑	(1.60)	0.70	0.10	N39° W	-2695			北西-南東	IV T27
SK-2703	段方形土坑		1.63	0.55	0.01	N53° E			北東-南西	IV T28
SK-2705	段方形土坑		2.20	(0.62)	0.08	N64° E			北東-南西	IV T28
SK-2706	段方形土坑	(2.28)	0.75	0.20	N56° E				北東-南西	IV S28
SK-2707	段方形土坑		2.47	0.62	0.03	N31° W			北西-南東	IV T29
SK-2713	段方形土坑		2.40	0.90	0.36	N41° W			北西-南東	V U26
SK-2728	段方形土坑		2.66	0.58	0.09	N30° W			北西-南東	IV V29
SK-2731	段方形土坑		1.48	0.61	0.06	N28° W			北西-南東	IV U29
SK-2736	段方形土坑		1.16	0.36	0.10	N39° W			北西-南東	IV T29
SK-2739	段方形土坑		0.90	0.34	0.06	N37° W			北西-南東	IV V30
SK-2746	段方形土坑		1.14	0.62	0.16	N57° E			北東-南西	III Q25
SK-2747	段方形土坑		1.17	0.44	0.08	N63° E			北東-南西	III Q25
SK-2751	段方形土坑		1.13	0.62	0.11	N42° E			北東-南西	III Q25
SK-2752	段方形土坑		1.07	0.47	0.06	N54° E			北東-南西	III P25
SK-2754	段方形土坑		1.55	0.60	0.06	N49° E			北東-南西	III Q25
SK-2759	段方形土坑	(3.80)	(0.35)	0.25	N46° W				北西-南東	III S24
SK-2760	段方形土坑	(1.34)	0.73	0.24	N46° E				北東-南西	III R24
SK-2763	段方形土坑		0.93	0.37	0.12	N26° W	-2740		北西-南東	IV U30
SK-2766	段方形土坑		2.72	0.70	0.05	N22° W			北西-南東	III Q26
SK-2767	段方形土坑		2.50	0.60	0.05	N55° E	-2769-2768		北東-南西	III Q24
SK-2768	段方形土坑		2.88	0.63	0.06	N58° E	2776-2768-2769-2767		北東-南西	III Q24
SK-2769	段方形土坑		2.86	0.65	0.10	N47° E	2768-2769-2767		北東-南西	III Q24
SK-2770	段方形土坑		1.35	0.48	0.04	N52° E	-2768		北東-南西	III Q25
SK-2771	段方形土坑		1.05	0.71	0.15	N55° E	2772新田不明		北東-南西	III Q25
SK-2773	段方形土坑	(4.25)	0.55	0.07	N52° E	-2774			北東-南西	III N25
SK-2774	段方形土坑		2.13	0.97	0.10	N8° W	-2773		北西-南東	III Q25
SK-2777	段方形土坑		2.57	0.65	0.07	N47° E			北東-南西	III P23
SK-2787	段方形土坑		1.53	0.52	0.07	N35° W			北西-南東	III Q27
SK-2797	段方形土坑		2.28	0.70	0.13	N44° W			北西-南東	III Q25
SK-2811	段方形土坑		1.70	0.50	0.04	N34° E			北東-南西	V V20
SK-2814	段方形土坑		2.06	0.91	0.40	N54° E	-1896		北東-南西	V AC25
SK-2815	段方形土坑		2.20	0.62	0.11	N37° W	-84		北西-南東	I G7
SK-8	段方形土坑	大	5.22	0.74	0.23	N55° E	-9		北東-南西	I D6
SK-19	段方形土坑	大	9.08	0.89	0.07	N40° W			北西-南東	I C4
SK-23	段方形土坑	大	6.3	0.46	0.13	N30° W			北西-南東	I D3
SK-1015	段方形土坑	大	4.55	0.88	0.10	N48° E			北東-南西	II J13
SK-1042	段方形土坑	大	3.32	0.89	0.14	N50° E			北東-南西	II L16
SK-1044	段方形土坑	大	3.88	0.88	0.33	N39° W			北西-南東	II L16
SK-1111	段方形土坑	大	3.70	0.79	0.15	N33° W			北西-南東	V AD26
SK-1112	段方形土坑	大	5.77	0.68	0.10	N60° E			北東-南西	V AC26
SK-1114	段方形土坑	大	8.21	0.56	0.27	N57° E	-1116-1117		北東-南西	V AD26
SK-1118	段方形土坑	大	3.83	0.65	0.06	N55° E			北東-南西	V AD26
SK-1124	段方形土坑	大	5.35	0.59	0.17	N56° E			北東-南西	V AB27
SK-1125	段方形土坑	大	7.57	0.70	0.25	N61° E	-1126		北東-南西	V AC26
SK-1126	段方形土坑	大	4.95	0.35	0.24	N62° E	-1125		北東-南西	V AC26

第三章 山の神日道跡の調査

道標番号	道標種別	種類等	長軸(m)	短軸(m)	高さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1129	長方形土坑	大	3.72	0.71	0.12	N-63° E			北東-南西	V AB26
SK-1132	長方形土坑	大	4.46	0.61	0.07	N-37° W			北西-南東	V AA26
SK-1135	長方形土坑	大	4.94	0.80	0.15	N-58° E			北東-南西	V AC27
SK-1136	長方形土坑	大	3.86	0.65	0.27	N-63° E			北東-南西	V AC27
SK-1144	長方形土坑	大	3.27	0.70	0.10	N-33° W	+1145		北西-南東	V AE27
SK-1176	長方形土坑	大	5.00	0.60	0.30	N-66° E			北東-南西	V AI26
SK-1184	長方形土坑	大	5.65	0.62	0.18	N-37° W			北西-南東	V AI27
SK-1187	長方形土坑	大	3.35	0.47	0.15	N-62° E			北東-南西	V AI27
SK-1188	長方形土坑	大	5.00	0.60	0.25	N-33° W	+1189		北西-南東	V AI27
SK-1275	長方形土坑	大	(3.4)	0.74	0.09	N-63° E	-1291		北東-南西	V AI29
SK-1276	長方形土坑	大	3.00	0.60	0.12	N-66° E			北東-南西	V AI29
SK-1317	長方形土坑	大	3.13	0.47	0.03	N-60° E	1319+1318+1317		北東-南西	V AI29
SK-1318	長方形土坑	大	3.26	0.50	0.18	N-63° E	1319+1318+1317		北東-南西	V AI29
SK-1427	長方形土坑	大	4.50	0.66	0.14	N-48° E			北東-南西	B M16
SK-1437	長方形土坑	大	4.05	1.07	0.05	N-57° E			北東-南西	V AG31
SK-1454	長方形土坑	大	(5.10)	0.73	0.18	N-51° E	-1457		北東-南西	V AG31
SK-1456	長方形土坑	大	6.12	0.67	0.05	N-54° E	-1458		北東-南西	V AG31
SK-1457	長方形土坑	大	3.41	0.70	0.22	N-61° E	-1454		北東-南西	V AG31
SK-1468	長方形土坑	大	3.77	1.26	0.13	N-26° W			北西-南東	V AL30
SK-1476	長方形土坑	大	4.80	0.85	0.40	N-30° W			北西-南東	V AS30
SK-1523	長方形土坑	大	6.25	0.56	0.16	N-57° E	1523+1519+1522+1553		北東-南西	V AJ31
SK-1581	長方形土坑	大	3.45	0.43	0.11	N-58° E	+1582		北東-南西	V AK33
SK-1646	長方形土坑	大	(3.00)	0.55	0.28	N-62° E	1643+1644+1646+1647		北東-南西	V AK33
SK-1808	長方形土坑	大	4.25	0.95	0.27	N-37° E			北東-南西	V AE23
SK-1841	長方形土坑	大	4.27	0.91	0.20	N-52° W			北西-南東	V AD23
SK-1843	長方形土坑	大	5.24	0.65	0.45	N-49° W			北西-南東	V AD23
SK-1851	長方形土坑	大	(3.72)	0.60	0.22	N-45° W	-1852		北西-南東	V AD23
SK-1852	長方形土坑	大	4.13	1.10	0.40	N-49° W	+1851		北西-南東	V AD23
SK-1854	長方形土坑	大	3.93	0.69	0.53	N-42° E	SD-1083-1854-1851-1855		北東-南西	V AD23
SK-1883	長方形土坑	大	7.10	1.35	0.36	N-29° E	-SD-1876		北東-南西	V AC22
SK-1885	長方形土坑	大	6.0	0.90	0.36	N-55° E	-1931		北東-南西	V AC24
SK-1907	長方形土坑	大	4.57	0.77	0.07	N-47° E	-1906		北東-南西	V AB23
SK-1913	長方形土坑	大	5.15	0.65	0.25	N-49° W	-1914		北西-南東	V AB22
SK-1914	長方形土坑	大	8.35	0.72	0.23	N-49° E	+1913		北東-南西	V AB22
SK-1915	長方形土坑	大	3.80	0.58	0.18	N-53° E	+1916		北東-南西	V AB22
SK-1916	長方形土坑	大	2.57	0.80	0.67	N-62° W	+1915		北西-南東	V AB22
SK-1925	長方形土坑	大	9.07	0.77	0.10	N-38° W	1926+1925+1927		北西-南東	V AB24
SK-1926	長方形土坑	大	標高2.00	0.85	0.22	N-54° E	-1925		北東-南西	V AA24
SK-1928	長方形土坑	大	4.25	1.00	0.06	N-67° E	-1929		北東-南西	V AA24
SK-1934	長方形土坑	大	3.27	0.53	0.10	N-34° W			北西-南東	V AA25
SK-1935	長方形土坑	大	4.85	0.90	0.10	N-33° W			北西-南東	V AA25
SK-1939	長方形土坑	大	3.77	0.63	0.03	N-38° W			北西-南東	V AA25
SK-1947	長方形土坑	大	5.63	0.75	0.20	N-40° E	+1979+1962		北東-南西	V AA21
SK-1952	長方形土坑	大	4.32	0.62	0.22	N-48° E	-SD-1082-SK-1953		北東-南西	V AA22
SK-1982	長方形土坑	大	5.10	1.16	0.18	N-81° W	-1976-SD-1876		北西-南東	V AB21
SK-1993	長方形土坑	大	(3.92)	0.72	0.10	N-43° W	+1994+1995		北西-南東	V Z20
SK-2049	長方形土坑	大	4.86	0.65	0.20	N-50° W			北西-南東	V X21
SK-2114	長方形土坑	大	(5.65)	0.62	0.20	N-58° E	-2113		北東-南西	V Y25
SK-2560	長方形土坑	大	3.30	0.63	0.10	N-47° E	-2561		北東-南西	V W25
SK-2601	長方形土坑	大	4.95	0.80	0.15	N-59° E	-2600		北東-南西	V U24
SK-2639	長方形土坑	大	3.90	0.85	0.32	N-46° E	-2681		北東-南西	V S19
SK-2661	長方形土坑	大	3.63	0.82	0.17	N-40° E			北東-南西	V R19
SK-2686	長方形土坑	大	4.67	0.82	0.15	N-46° E			北東-南西	NV S26
SK-2689	長方形土坑	大	5.21	0.77	0.25	N-50° E			北東-南西	NV S26
SK-2695	長方形土坑	大	3.45	0.70	0.15	N-55° E	+2697		北東-南西	NV T27
SK-2701	長方形土坑	大	4.50	0.80	0.25	N-57° E			北東-南西	NV U27
SK-2702	長方形土坑	大	4.02	0.72	0.10	N-63° E			北東-南西	NV U28
SK-2704	長方形土坑	大	4.30	0.61	0.16	N-57° E	-2705		北東-南西	NV T28
SK-2772	長方形土坑	大	(4.25)	0.55	0.07	N-55° E	2771(断り不明)		北東-南西	III O25
SK-3	方形土坑		2.01	1.49	0.64		+1a-4b			I C6
SK-5	方形土坑		1.36	1.16	0.67					I C5
SK-9	方形土坑		10.60	1.08	0.13		-8			I D5
SK-10	方形土坑		2.40	1.86	0.24		-11			I C6
SK-15	方形土坑		1.27	1.20	0.67					I E7
SK-16	方形土坑		1.40	1.35	0.60					I E7
SK-21	方形土坑		1.27	1.03	0.40					I C4
SK-22	方形土坑		1.74	1.23	0.43					I D3
SK-26	方形土坑		1.21	0.98	0.42					I D3
SK-27	方形土坑		1.19	1.15	0.45					I D3
SK-28	方形土坑		1.55	1.32	0.26					I E2
SK-42	方形土坑		1.65	1.18	0.44					I D1
SK-46	方形土坑		1.06	0.92	0.40					I E2
SK-57	方形土坑		1.21	1.22	0.30					I D3
SK-59	方形土坑		1.18	1.00	0.22					I B3
SK-98	方形土坑		0.85	0.70	0.10		-97		北西-南東	I G3

遺構番号	遺構種別	積層等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-144	方形土坑		0.61	0.45	0.50		-S1-143		I	I5
SK-173	方形土坑		0.88	0.86	0.15		-SB-167		I	I5
SK-991	方形土坑		1.61	1.42	0.30				II	II2
SK-1010	方形土坑		1.26	0.96	0.43				II	II3
SK-1013	方形土坑		0.96	0.83	0.20				II	II3
SK-1022	方形土坑		1.15	2.00	0.18				II	II4
SK-1064	方形土坑		1.33	1.16	1.50				II	II3
SK-1068	方形土坑		1.01	0.85	0.27			床面に凹み	II	G10
SK-1087	方形土坑		0.97	0.95	0.07				V	AE23
SK-1098	方形土坑		2.45	1.80	0.11			北東-南西	V	AE26
SK-1108	方形土坑		1.08	0.90	0.22				V	AC25
SK-1127	方形土坑		1.04	0.93	0.13				V	AB26
SK-1140	方形土坑		1.39	1.12	0.19				V	AB27
SK-1146	方形土坑		1.30	1.20	0.59				V	AE27
SK-1164	方形土坑		1.11	0.90	0.20		-1165-1168-1169		V	AD28
SK-1165	方形土坑	0555	0.80	0.80	0.08		1169-1165-1166-1164		V	AD28
SK-1166	方形土坑		1.10	0.65	0.07		1165-1166-5D-1167		V	AD29
SK-1170	方形土坑		1.03	0.81	0.47				V	AD29
SK-1174	方形土坑		0.78	0.76	0.28				V	AE29
SK-1183	方形土坑		0.56	0.51	0.25				V	AJ27
SK-1234	方形土坑		1.47	0.92	0.02		-1321		V	AG28
SK-1245	方形土坑		1.36	1.36	0.56		-1246		V	AH28
SK-1246	方形土坑		1.27	1.13	0.31		-1245		V	AH28
SK-1247	方形土坑		1.45	1.32	0.61		-1248		V	AH28
SK-1248	方形土坑		0.09	0.95	0.28		-1247		V	AH28
SK-1250	方形土坑		1.50	1.37	0.45				V	AH28
SK-1270	方形土坑		1.10	1.00	0.51		-1290		V	AJ29
SK-1271	方形土坑		1.38	1.21	0.30		-1291		V	AJ29
SK-1272	方形土坑		1.19	1.10	0.47				V	AJ29
SK-1273	方形土坑		1.04	1.95	0.38		-1269-1278		V	AJ29
SK-1274	方形土坑		1.21	1.02	0.40		-1279		V	AJ29
SK-1283	方形土坑		1.20	1.17	0.50				V	AJ28
SK-1284	方形土坑		1.27	1.15	0.55				V	AJ28
SK-1285	方形土坑		0.77	0.55	0.07				V	AJ28
SK-1286	方形土坑		0.80	0.55	0.05				V	AJ28
SK-1290	方形土坑		1.36	1.30	0.60		-1270		V	AJ29
SK-1291	方形土坑		1.02	1.02	0.37		1275-1291-1271		V	AJ29
SK-1313	方形土坑		1.19	1.19	0.10				V	AJ30
SK-1320	方形土坑		1.45	1.18	0.28		-1318-1819		V	AJ29
SK-1321	方形土坑		1.07	0.90	0.07		-1234		V	AG28
SK-1331	方形土坑		1.41	1.05	0.42				V	AF31
SK-1335	方形土坑		1.14	1.09	0.62				V	AK30
SK-1336	方形土坑		1.16	1.14	0.60				V	AK30
SK-1428	方形土坑		0.81	0.81	0.06				V	AG30
SK-1432	方形土坑		1.40	0.25	0.25		-1431		V	AF31
SK-1439	方形土坑		1.40	1.40	0.46				V	AF31
SK-1458	方形土坑	0959	1.57	1.57	0.19		-1456		V	AG31
SK-1464	方形土坑		1.52	1.43	0.70				V	AJ30
SK-1472	方形土坑		1.08	0.80	0.10		-1471-1473		V	AJ31
SK-1473	方形土坑		1.47	1.35	0.13		-1472		V	AJ31
SK-1474	方形土坑		0.98	0.83	0.07				V	AJ31
SK-1483	方形土坑		1.21	0.92	0.17				V	AJ31
SK-1484	方形土坑		1.40	1.25	0.26				V	AJ32
SK-1550	方形土坑		1.30	1.05	0.48		-1522-1551		V	AJ31
SK-1551	方形土坑	0411	0.85	0.38			-1550		V	AJ31
SK-1553	方形土坑		1.15	1.15	0.50		-1554		V	AJ31
SK-1554	方形土坑		1.02	0.97	0.40		-1553		V	AJ31
SK-1648	方形土坑		1.53	1.14	0.13			北東-南西	V	AK34
SK-1782	方形土坑		0.70	0.58	0.10				V	AL34
SK-1810	方形土坑		0.89	0.70	0.24				V	AE23
SK-1811	方形土坑		0.69	0.54	0.15				V	AE23
SK-1814	方形土坑		0.94	0.56	0.11				V	AE23
SK-1815	方形土坑		0.98	0.62	0.23				V	AD23
SK-1816	方形土坑		0.78	0.77	0.10				V	AE23
SK-1818	方形土坑		0.75	0.65	0.05				V	AE23
SK-1830	方形土坑		0.88	0.62	0.13				V	AD23
SK-1831	方形土坑		0.68	0.50	0.27				V	AD23
SK-1833	方形土坑		1.18	0.87	0.10				V	AD22
SK-1835	方形土坑		1.27	1.07	0.32				V	AD22
SK-1838	方形土坑		1.20	0.90	0.10				V	AD22
SK-1840	方形土坑		1.52	1.09	0.81			北東-南西	V	AC22
SK-1863	方形土坑		1.88	1.61	0.13		-1871		V	AC23
SK-1871	方形土坑		1.84	1.35	0.05		1872-1871-1863		V	AC23
SK-1897	方形土坑		2.05	1.80	0.08				V	AC24
SK-1917	方形土坑		1.16	0.89	0.18			北西-南東	V	AB22

第三章 山の神日道跡の調査

道標番号	道標種別	経緯等	長軸(m)	短軸(m)	高さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1931	方形土坑		1.73	1.28	0.05		<1885	不整形	V	AC24
SK-1933	方形土坑		1.29	0.98	0.08				V	AB25
SK-1937	方形土坑		0.92	0.80	0.04				V	AA26
SK-1938	方形土坑		0.97	0.90	0.25				V	AA26
SK-1940	方形土坑		1.52	1.05	0.10				V	AB21
SK-1942	方形土坑		0(9.5)	1.15	0.17				V	AB21
SK-1943	方形土坑		0(7.8)	1.40	0.20				V	AC21
SK-1945	方形土坑		1.31	1.15	0.12				V	AB21
SK-1956	方形土坑		1.10	1.00	0.30		<1941-5D-1876		V	AB21
SK-2036	方形土坑		1.53	1.27	0.40				V	AA22
SK-2084	方形土坑		0.88	0.85	0.28				V	V20
SK-2097	方形土坑		1.04	1.02	0.53				V	V21
SK-2508	方形土坑		0.96	0.70	0.37				V	W26
SK-2524	方形土坑		0.95	0.80	0.20				V	V25
SK-2565	方形土坑		1.06	1.01	0.72				V	W24
SK-2745	方形土坑		2.08	1.10	0.13		<2618<2744	北西-南東	Ⅲ	Q26
SK-2748	方形土坑		1.43	1.20	0.18				Ⅲ	P26
SK-2755	方形土坑		1.32	1.30	0.46				Ⅲ	P26
SK-2756	方形土坑		1.45	1.33	0.46				Ⅲ	P25
SK-2757	方形土坑		1.03	1.00	0.60				Ⅲ	P26
SK-2775	方形土坑		1.08	0.96	0.15				Ⅲ	N26
SK-30	円形土坑		1.15		0.40				I	E4
SK-31	円形土坑		1.31		0.45				I	E4
SK-33	円形土坑		1.02		0.60				I	E4
SK-34a	円形土坑		1.15		0.30		<34b		I	E4
SK-34b	円形土坑		1.05		0.35		94a<34b<34c		I	E4
SK-34c	円形土坑		0.76		0.30		<34b		I	E4
SK-35a	円形土坑		1.00		0.22		<35b		I	E5
SK-35b	円形土坑		1.00	0.88	0.30		<35a<35c		I	E5
SK-35c	円形土坑		0.80		0.25		<35b		I	E5
SK-37a	円形土坑		1.00		0.35		<37b		I	E5
SK-37b	円形土坑		1.14	1.00	0.40		<37a		I	E5
SK-38	円形土坑		1.20	1.00	0.56				I	E5
SK-39	円形土坑		1.20		0.60				I	E4
SK-40	円形土坑		1.05		0.55				I	E4
SK-54	円形土坑		0.90	0.82	0.37				I	E1
SK-55	円形土坑		1.07	1.00	0.62				I	E2
SK-56	円形土坑		1.04		0.75				I	E2
SK-84	円形土坑		1.05		0.38		<2815		I	G7
SK-105	円形土坑		1.08		0.45				I	D3
SK-107	円形土坑		1.00	0.96	0.10				I	J5
SK-108	円形土坑		1.16	1.10	0.29				I	J5
SK-109	円形土坑		1.05		0.28			底面に砂跡	I	J4
SK-110	円形土坑	大	2.60	1.63	0.37		<111		I	J5
SK-111	円形土坑		1.24	1.04	0.40		>110		I	J5
SK-116	円形土坑	大	2.31		0.13		142<116<122		I	J4
SK-124	円形土坑		1.45	1.34	0.70				I	J4
SK-129	円形土坑		1.50		0.20		<128		I	J4
SK-130	円形土坑		1.68		0.40				I	H4
SK-131	円形土坑		1.37		0.41				I	I5
SK-132	円形土坑		1.75		0.63				I	I5
SK-134	円形土坑		1.40		0.53				I	J5
SK-135	円形土坑		1.35		0.25				I	K5
SK-152	円形土坑		1.40		0.45				I	K5
SK-154	円形土坑		1.20	1.11	0.07				I	K6
SK-155	円形土坑		1.61		0.25				I	K6
SK-159	円形土坑		1.72	1.58	0.41				I	G7
SK-160	円形土坑		1.33		0.56				I	G7
SK-161	円形土坑		1.03		0.12				I	G7
SK-163	円形土坑		1.00		0.10				I	H6
SK-170	円形土坑	大	2.02		0.80				I	E9
SK-171	円形土坑		1.01		0.70				I	E10
SK-172	円形土坑		0.98		0.72				I	F10
SK-176	円形土坑		0.96		0.30				I	I7
SK-185	円形土坑		1.02	0.95	0.17				I	I7
SK-823	円形土坑		0.86	0.82	0.18				I	L6
SK-829	円形土坑		1.80		0.17				I	J4
SK-833	円形土坑		0.83		0.18				I	L6
SK-888	円形土坑		1.05		0.22				I	J7
SK-927	円形土坑		1.26	0.75	0.05				Ⅱ	H10
SK-928	円形土坑		1.08		0.17				Ⅱ	H10
SK-929	円形土坑		1.60	1.47	0.17				Ⅱ	H10
SK-989	円形土坑		0.94	0.80	0.04				Ⅱ	H11
SK-994	円形土坑		1.6	1.46	0.32				Ⅱ	I13
SK-999	円形土坑		0.67	0.59	0.13				Ⅱ	I12

遺構番号	遺構種別	積層等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1001	円形土坑		1.05		0.13				Ⅱ	J11
SK-1008	円形土坑		0.81		0.06				Ⅱ	J13
SK-1011	円形土坑		1.47	1.36	0.03				Ⅱ	I13
SK-1017	円形土坑		1.13		0.20				Ⅱ	J13
SK-1009	円形土坑		1.12		0.75				Ⅱ	H9
SK-1071	円形土坑		1.03	0.93	0.30				Ⅱ	G11
SK-1109	円形土坑		1.10	0.80	0.12				V	AC26
SK-1123	円形土坑		1.00		0.04				V	AC26
SK-1131	円形土坑		1.14	0.95	0.10				V	AC26
SK-1142	円形土坑		0.87		0.18				V	AF27
SK-1143	円形土坑		0.95	0.87	0.18				V	AE27
SK-1145	円形土坑	大	1.82	1.65	0.54		-1144-2813		V	AE27
SK-1148	円形土坑		1.57		0.13				V	AE27
SK-1150	円形土坑		0.97	0.85	0.50				V	AD27
SK-1152	円形土坑		0.93		0.55				V	AC28
SK-1153	円形土坑		0.84		0.60				V	AC28
SK-1154	円形土坑		1.25	1.11	0.16				V	AF27
SK-1155	円形土坑		1.25		0.50				V	AF27
SK-1158	円形土坑		1.40		0.31				V	AF27
SK-1159	円形土坑		1.48		0.60				V	AF28
SK-1160	円形土坑	大	1.71		0.60				V	AF28
SK-1101	円形土坑		0.91		0.06				V	A127
SK-1103	円形土坑		0.94		0.18				V	A127
SK-1104	円形土坑		0.82	0.72	0.06				V	A127
SK-1196	円形土坑		0.91	0.80	0.13				V	A127
SK-1244	円形土坑		0.76	0.70	0.12				V	AH27
SK-1279	円形土坑		1.23		0.22		-1274		V	A29
SK-1280	円形土坑		0.90	0.82	0.05				V	AH29
SK-1325	円形土坑		0.81	0.72	0.20				V	AG27
SK-1358	円形土坑		1.05		0.20				V	AH30
SK-1379	円形土坑		0.75		0.09				I	J7
SK-1380	円形土坑		0.77		0.10				I	J7
SK-1391	円形土坑		0.95		0.19				I	K6
SK-1430	円形土坑		1.00	0.92	0.15				V	AG31
SK-1431	円形土坑		1.57	1.40	0.48		-1432	底面に柱状の痕跡	V	AG31
SK-1434	円形土坑		1.11		0.28				V	AF30
SK-1435	円形土坑		0.85	0.80	0.11				V	AG30
SK-1461	円形土坑		1.45		0.25				V	AJ30
SK-1463	円形土坑		1.37	1.30	0.30		-1462		V	AJ30
SK-1466	円形土坑		1.13		0.29				V	AJ30
SK-1477	円形土坑		0.73	0.69	0.07				V	AE31
SK-1478	円形土坑		0.80	0.76	0.05				V	AH31
SK-1479	円形土坑		0.70		0.06				V	AH31
SK-1480	円形土坑		0.95		0.10				V	AG31
SK-1482	円形土坑		1.07	2.00	0.20				V	AH32
SK-1526	円形土坑		0.70		0.16				V	AE31
SK-1542	円形土坑		0.92	0.82	0.11				V	AK31
SK-1585	円形土坑	0.85	0.98	0.15			-1578		V	AK33
SK-1590	円形土坑		0.20		0.13				V	AL32
SK-1643	円形土坑		0.95	0.75	0.05		-1646		V	AK33
SK-1669	円形土坑		1.03	0.55	0.20		-1577		V	AK33
SK-1674	円形土坑		0.88	0.82	0.10				V	AK34
SK-1675	円形土坑		1.13	0.94	0.10		-1676		V	AJ34
SK-1677	円形土坑		0.96	0.92	0.23		-1676		V	AK34
SK-1678	円形土坑		1.00		0.18				V	AJ34
SK-1856	円形土坑		1.45	1.23	0.20				V	AE23
SK-1905	円形土坑		0.75	0.62	0.17				V	AC22
SK-1953	円形土坑		1.02	0.95	0.09				V	AE22
SK-1957	円形土坑		0.82		0.15				V	AA22
SK-2051	円形土坑		1.30	1.02	0.26		-SD-1083	不整円形土坑	V	AD24
SK-2055	円形土坑	断面1.00	0.88	0.22			-SD-1083	不整円形土坑	V	AD24
SK-2063	円形土坑		1.52	1.15	0.28		2062・2063・2000・SD-2064		V	Z21
SK-2085	円形土坑		0.98	0.90	0.10				V	V19
SK-2086	円形土坑		0.85		0.10				V	W19
SK-2088	円形土坑		0.89	0.83	1.50				V	X20
SK-2091	円形土坑		1.08	1.00	0.15				V	Y21
SK-2093	円形土坑		0.80		0.22				V	U19
SK-2095	円形土坑		0.96		0.55				V	U20
SK-2108	円形土坑		1.30	1.23	0.07				V	Z24
SK-2109	円形土坑		1.32	1.25	0.07				V	Y24
SK-2112	円形土坑		0.80	0.75	0.64				V	Y25
SK-2116	円形土坑		1.10		0.20				V	Y21
SK-2348	円形土坑		1.03	0.95	0.34				V	X23
SK-2493	円形土坑		0.75		0.04				V	V22



第三章 山の神日遺跡の調査

遺構番号	遺構種別	積層等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-2494	円形土坑		1.10		0.05				V	W22
SK-2495	円形土坑		1.03	0.96	0.05				V	W22
SK-2500	円形土坑		0.76	0.70	0.10				V	Y25
SK-2549	円形土坑		0.64	0.55	0.07				V	W24
SK-2550	円形土坑		1.00	0.90	0.30		SD-2110新旧不明		V	Y25
SK-2553	円形土坑		0.75	0.67	0.20				V	W24
SK-2562	円形土坑		1.00		0.60				V	W24
SK-2563	円形土坑		1.13	1.07	0.62				V	W24
SK-2584	円形土坑		0.75		0.08				V	W23
SK-2585	円形土坑		0.70		0.09				V	W23
SK-2603	円形土坑		0.96		0.02				V	U22
SK-2605	円形土坑		1.24		0.10				V	V22
SK-2606	円形土坑		0.96		0.49		-2521		V	U25
SK-2608	円形土坑		0.65	0.59	0.11				V	V22
SK-2617	円形土坑		1.30	1.18	0.08				V	T22
SK-2618	円形土坑		0.91	0.80	0.25		-2745		III	Q26
SK-2625	円形土坑		0.95	0.45	0.15		2624新旧不明		V	S21
SK-2666	円形土坑		0.88		0.06				V	R19
SK-2680	円形土坑		1.08	1.00	0.07				V	S20
SK-2690	円形土坑		1.12	0.47	0.45				IV	T25
SK-2714	円形土坑		1.00		0.54				V	U25
SK-2729	円形土坑		0.83	0.80	0.10				IV	U29
SK-2732	円形土坑		0.71	0.60	0.10				IV	U29
SK-2738	円形土坑		0.83		0.12				IV	V30
SK-2744	円形土坑		0.80		0.22		-2745		III	Q26
SK-2750	円形土坑		0.90	0.83	0.25				IV	U30
SK-2753	円形土坑		0.90		0.13				III	Q26
SK-2758	円形土坑		1.17		0.05				III	P26
SK-2764	円形土坑		0.80	0.75	0.03				III	P24
SK-2813	円形土坑		1.15		0.70		×1145		V	AE27
SK-53	小穴		1.08	0.86	0.61				I	E1
SK-949	小穴		0.26	0.24	0.37				II	I11
SK-1103	小穴		0.35	0.30	0.32				V	AD24
SK-1529	小穴		0.76	0.68	0.08			焼土	V	AJ32
SK-1706	小穴		0.17		0.21				V	AE32
SK-1954	小穴		0.55	0.44	0.40				V	AB22
SK-2052	小穴		0.26	0.20	0.18				V	AD24
SK-2160	小穴		0.31	0.25	0.56				V	AA21
SK-2182	小穴		0.24		0.41				V	AA21

## 第七項 近世墓 (第255～257図、第76・77表、図版一三)

近世墓は18基を検出した。ここでは、人骨が出土している、焼土・炭化物が出土している、遺構内に棺の痕跡が認められる、これらの特徴が認められる遺構と形態が類似している、といった特徴を備えた遺構を近世墓として取りあげる。第五項で述べた方形土坑、円形土坑の中にも近世墓と思わしきものが多数含まれるが、確認を得られないため除外したことを断っておく。

I区に2基、II区南部に7基、IV区とV区北部に8基、V区南部に1基が検出された。SZ-95、SZ-1415、SZ-2597で人骨が出土し、SZ-2645で焼土・炭化物・灰が検出されている。SZ-1413では床面に棺を据えたような段差が見られ、SZ-1047、SZ-2102でも、棺が入るようにぎりぎりの寸法で垂直に壁を掘り広げている。

## SZ-71

I区、グリットC 5に位置する。直径0.76mの平面円形で、深さ0.84mを測る。床と壁の境は不明瞭で丸みがある。出土遺物無し。

## SZ-95

I区、グリットG 3に位置する。直径0.96mの平面円形で、深さ0.98mを測り、人骨が出土している。人骨は足を折り曲げ座った状態で、足から腰のあたりまでは原位置をとどめた状態で出土した。棺は円形の座棺であったと考えられる。

## SZ-1047

II区、グリットK 17に位置する。0.95×0.82mの平面方形、やや縦長な方形で、深さ1.2mを測る。壁面上部は斜めにすぼまるが、下部は棺にあわせて垂直になる。床面の銅銭が6枚出土し、うち5枚は寛永通寶である。

## SZ-1050

II区、グリットK 17に位置する。一辺0.78mの平面方形で、深さ0.79mを測り、人骨が出土した。銅銭6枚が壙着した状態で出土した。

## SZ-1051

II区、グリットK 17に位置する。0.65×0.59mの平面やや縦長な方形で、深さ0.73mを測る。出土遺物無し。

## SZ-1298

V区、グリットAK28に位置する。直径0.92mの平面円形で深さ0.87mを測る。出土遺物無し。

## SZ-1412

II区、グリットM 18に位置する。一辺0.85mの平面方形で、深さ1.21mを測る。遺物は銅銭が6枚壙着したものと、別に複数枚壙着した銅銭が出土している。また棒状鉄製品が1点出土している。

## SZ-1413

II区、グリットM 18に位置する。直径0.74mの平面円形で、深さ1.01mを測る。床面を一回り小さい直径

で一段深く掘り下げて、棺を据えたものと考えられる。

SZ-1414

Ⅱ区、グリットM18に位置する。一辺0.75mの平面方形で、深さ1.58mを測る。遺物は銅銭（寛永通寶）が6枚癒着したものが出土した。

SZ-1415

Ⅱ区、グリットM18に位置する。直径0.95mの平面円形で、深さ1.48mを測り、人骨が出土している。人骨は破片で床面からは焼土と炭化物が検出されている。遺物は銅銭が6枚癒着したものが出土した。

SZ-2101

V区、グリットW20に位置する。直径0.92mの平面円形で、深さ1.05mを測る。床面径が小さく、断面逆台形を呈する。出土遺物無し。

SZ-2102

V区、グリットW20に位置する。0.85×0.78mの平面不整形円で、深さ0.85mを測る。壁面上部は斜めにすぼまるが、下部は棺にあわせて垂直になる。出土遺物無し。

SZ-2597

V区、グリットU23に位置する。0.7×0.65mの平面不整形円で、深さ0.75mを測り、人骨が出土している。出土遺物無し。

SZ-2623

V区、グリットR23に位置する。0.86mの平面円形で、深さ1.1mを測る。出土遺物無し。

SZ-2645

V区、グリットQ21に位置する。一辺1.1mの平面方形で、深さ0.53mを測る。埋土中に焼土層が見られる。出土遺物無し。

SZ-2670

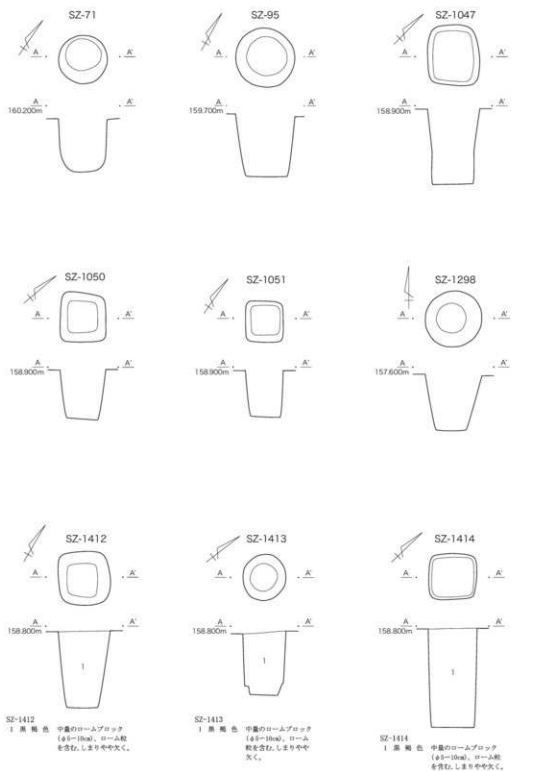
V区、グリットO20に位置する。直径0.8mの平面円形で、深さは0.9mを測る。

SZ-2679

V区、グリットO20に位置する。一辺0.62mの平面方形で、深さは0.5mを測る。人骨が出土している。

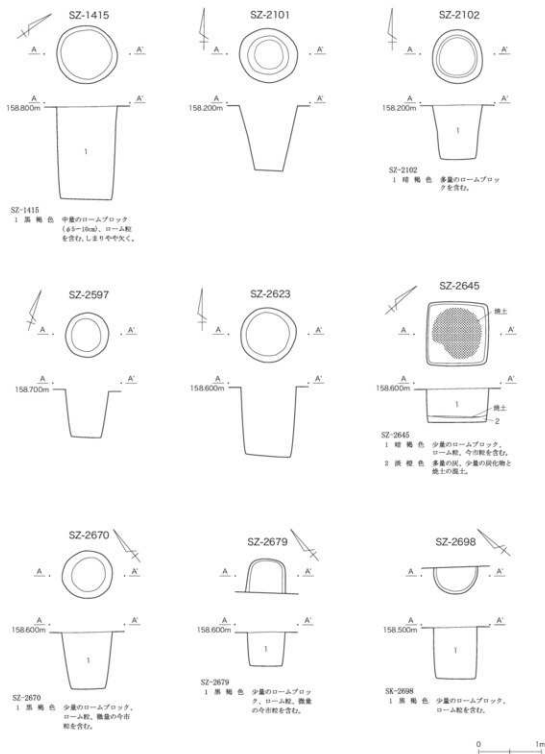
SZ-2698

Ⅳ区、グリットU27に位置する。直径0.68mの平面円形で、深さ0.82mを測る。銅銭が6枚、癒着したものが出土した。



0 1m

第255図 近世墓実測図(1)

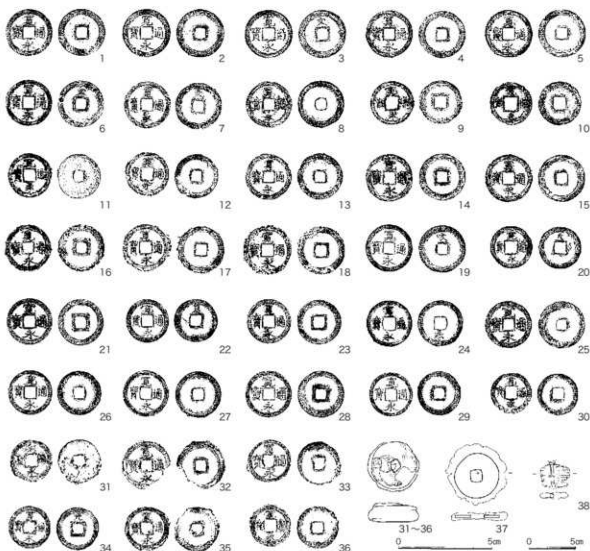


第256図 近世墓実測図(2)

## 近世墓出土遺物

6基の近世墓から銅銭が出土している。いずれも副葬品の六道銭と考えられ、すべて寛永通寶である。

2～5はSZ-1047から5枚癒着した状態で出土した。1と合わせて納められたものであろう。SZ-1050、1412、1414、1415、2698からはそれぞれ6枚癒着した状態で出土している。36枚の寛永通寶は、古寛永と思われるものが5枚、背面に「文」「足」「元」などが見られる文銭が7枚、新寛永が24枚である。6組の六道銭はすべて新寛永を含んでおり、6基の近世墓は、新寛永が鑄造された元禄10年（1697）以降に掘削された墓である。さらに鉄銭を含まないことから、鉄銭が鑄造され流通ようになる18世紀半ば以前の可能性が高い。37はSZ-1412出土の鉄銭である。寛永鉄銭は元文4年（1739）初鑄で、多量に流通し、六道銭にも用いられることから、SZ-1412は他の近世墓より新しく18世紀半ば以降の掘削である。38はSZ-1412出土の釘で、棺材と思われる木質が残存している。



第257図 近世墓出土鉄製品実測図

第76表 近世墓一覧表

実測 図No	遺構	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備考
			外径	内径	厚さ		
1	SZ-1047	銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.12	3.48	
2		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.95	0.15	3.56	
3		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.15	3.95	背面「文」
4		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.15	3.70	
5		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.13	3.56	
6		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.15	3.62	背面「文」
7	SZ-1050	銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.14	3.32	
8		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.145	3.09	
9		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.15	2.78	
10		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.16	3.20	
11		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.85	0.16	2.87	
12		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.13	2.39	
13	SZ-1412	銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.14	3.01	
14		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.14	3.25	
15		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.15	4.12	
16		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.90	0.18	3.77	古寛永
17		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.18	2.75	
18		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.12	3.03	
19	SZ-1414	銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.14	3.87	背面「文」
20		銅銭 (寛永通寶)	2.35	1.80	0.12	2.50	背面「九」か
21		銅銭 (寛永通寶)	2.50	2.05	0.14	4.03	古寛永
22		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.10	2.66	背面「足」か
23		銅銭 (寛永通寶)	2.45	1.90	0.11	2.54	
24		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.95	0.10	2.15	背面「？」
25	SZ-1415	銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.14	3.43	古寛永
26		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.90	0.12	2.75	
27		銅銭 (寛永通寶)	2.55	1.90	0.14	3.52	
28		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.12	3.51	古寛永
29		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.90	0.14	3.06	
30		銅銭 (寛永通寶)	2.30	1.70	0.13	2.52	
31	SZ-2698	銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.15	1.87	古寛永
32		銅銭 (寛永通寶)	2.60	2.00	0.17	2.72	
33		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.90	0.15	3.43	
34		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.15	2.22	背面「元」
35		銅銭 (寛永通寶)	2.45	1.80	0.15	2.69	
36		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.90	0.14	2.52	
37	SZ-1412	鉄銭	3.20	3.30	0.40	6.18	
38	SZ-1412	釘	(2.90)	0.60	0.35	4.88	木質残存

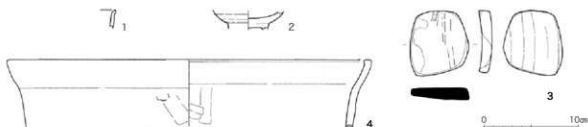
第77表 近世墓出土鉄製品観察表

遺構番号	規模等	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	切り合い	備考	調査区	グリット
SZ-71	円形	0.76		0.84			I	C5
SZ-95	円形	0.96	0.92	0.98		人骨出土	I	G3
SZ-1047	方形	0.95	0.82	1.20			II	K17
SZ-1050	方形	0.78	0.71	0.79			II	K17
SZ-1051	方形	0.65	0.59	0.73			II	K17
SZ-1298	円形	0.92	0.87	0.87			V	AK28
SZ-1412	方形	0.85	0.82	1.21			II	M18
SZ-1413	円形	0.74	0.69	1.01		底部に棺痕跡	II	M18
SZ-1414	方形	0.75	0.72	1.58			II	M18
SZ-1415	円形	0.95		1.48	>SD-1412	人骨出土 底部に炭化物	II	M18
SZ-2101	円形	0.92	0.86	1.05			V	W20
SZ-2102	円形	0.85	0.78	0.85	>2103		V	W20
SZ-2597	円形	0.70	0.67	0.75			V	U23
SZ-2623	円形	0.86		1.10			V	R23
SZ-2645	方形	1.10	0.97	0.53		焼土・灰・炭化物出土	V	Q21
SZ-2670	円形	0.80	0.75	0.90			V	O20
SZ-2679	方形	(0.54)	0.62	0.54		人骨出土	V	O20
SZ-2698	円形	(0.42)	0.68	0.82			IV	U27

第八項 遺構外出土の中近世遺物 (第258・259図、第78・79表、図版二八～三〇・三二)

1は瀬戸美濃天目茶碗、2は瀬戸美濃の志野丸碗で16世紀末～17世紀初の所産。3は須恵器壺の胴部片であるが、周縁研磨土器として再利用している。4は内耳土鍋である。

鉄製品は銅銭が15枚、鉄銭が6枚している。1～5は5枚癒着した状態で出土した寛永通寶である。格子状に編まれた織維が残存しており、袋状のものに入れて埋納したものである。近世墓に副葬された六道銭であろう。6～9も6枚癒着した状態で出土した寛永通寶である。10は中世の掘立柱建物跡集中地点から出土した北宋銭（紹聖元寶）、11も中世の掘立柱建物跡集中地点から出土した北宋銭（皇宋通寶）である。12は古代の竪穴建物跡に混入していた古寛永通寶、13は古代の竪穴建物跡に混入していた不明銅銭である。14は6枚癒着した鉄銭である。近世墓に六道銭として副葬されたものであろう。鉄銭は18世紀半ば以降に流通しており、前項で述べた17世紀末～18世紀半ばの近世墓に続いて18世紀半ば以降も墓地として利用されていたことがわかる。

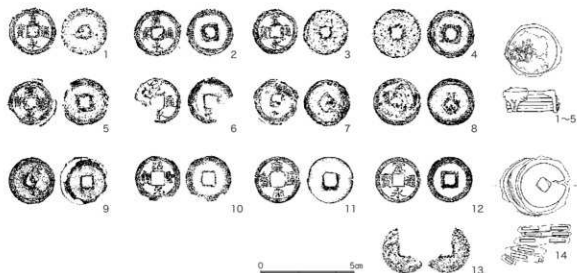


第258図 遺構外出土の中近世土器実測図

第78表 遺構外出土の中近世土器観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	寸法 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	遺構
				口径	底径	高さ	外	内						
1	三三	瀬戸 美濃	天目 茶碗		(2.2)	5YR3/2 明赤褐	5YR3/2 暗赤褐	白色細粒	良好	破片	内外面口ロナデ		V区	
2	三三	瀬戸 美濃	志野 丸碗		(2.0)	2.5YR7/2 灰黄	2.5YR8/1 灰白	黒色粗粒 赤色細粒	良好	体部下位 から腰部 1/4周		高台削出し 大泉4期後以 降16C末～ 17C初	II区 表土	
3	三三	須恵 器	壺		(6.7)	7.5YR2/1 黒	2.5YR8/2 灰白	白色粒	良	破片		64.83g 須恵 器壺胴部を転 用した周縁研 磨土器	II区	
4		内耳 土鍋		390	(7.3)	7.5YR1.7/1 黒	7.5YR3/3 暗褐	白色粒 黒 色粒 赤 色粒	良	破片	口縁部外面ヨコナデ 体部外面ヘナナデ 口 縁から体部内面ヨコナ デ		SI 1498	





第259図 遺構外出土の中近世鉄製品実測図

第79表 遺構外出土の中近世鉄製品観察表

実測 図No	遺構	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備 考	
			外径	内径	厚さ			
1		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.90	0.20	3.28	5枚揃着	
2		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.90	0.17	2.72		
3		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.80	0.21	3.17		
4		銅銭	2.60	1.90	0.20	3.12		
5		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.90	0.35	4.48	6枚揃着	
6		銅銭 (寛永通寶)	2.50	2.00	0.14	1.60		
7		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.80	0.45	5.49		2枚揃着
8		銅銭	2.60	1.90	0.28	4.18		
9		銅銭	2.50	1.90	0.35	4.99		2枚揃着
10	V区AD23	銅銭 (紹聖元寶)	2.50	1.90	0.15	2.32	北宋	
11	V区AH29	銅銭 (皇宋通寶)	2.55	1.90	0.12	2.49	北宋	
12	SI90	銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.90	0.14	3.11	古寛永	
13	SI91	銅銭	2.60	1.75	0.19	1.39		
14		鉄銭	2.40		2.10	17.34	6枚揃着 錆含むのうち1枚径2.9 厚さ0.4 実測計外径2.4 厚さ0.25	

## 第五節 まとめ

### 第一項 集落の動向 (第80表)

山の神Ⅱ遺跡で検出された竪穴建物跡・掘立柱建物跡について、時期ごとの表を作成し、集落の動向について触れる。竪穴建物跡は、検出した55軒のうち44軒について出土遺物より時期を決定した。掘立柱建物跡は6棟のうち1棟で時期を決定した。

#### 古墳時代・古代

山の神Ⅱ遺跡で最初に集落が形成されるのは、古墳時代中期～後期にかけて、5世紀後葉～6世紀中葉である。いずれもⅠ区で、4軒が確認された。SI-90・91は、これまで周辺の遺跡では確認されていない古墳時代中期に属する建物跡で、5世紀後葉にあたる。その後6世紀代に建物規模の大聖化したSI-143が登場する。古墳時代の竪穴建物跡は、本報告書で報告する欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では前期末が2軒、欠ノ上遺跡の南に接する小銅内遺跡では中期前葉～後葉の竪穴建物跡が確認されている。江川上流の上金枝遺跡でも前期の竪穴建物跡が確認されており、古墳時代前期末から小規模な集落が江川流域に展開していることがわかる。古墳時代終末期になると、喜連川丘陵では丘陵断崖を利用した横穴墓が多く作られるが、当遺跡周辺では集落遺跡が希薄になることが知られており、当遺跡でも建物跡が確認できず同様の結果が得られた。

次に、7世紀後葉～8世紀前半に3軒の建物跡が確認できる。3軒ともⅤ区で確認されたが、それぞれに単独で存在する。引き続き集落を形成するには至らない寒村期である。欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では2軒が確認されるのみで、同様の様相を呈する。

9世紀にはいとと格段に建物数が増え、集落が拡大する。特に9世紀中葉～後葉は最も密集し最盛期である。またⅠ区、Ⅳ区～Ⅴ区北部、Ⅴ区南部に建物群が分かれて、単位集団が見られるようになる。このうち最も建物数の多いのはⅠ区で、古墳時代以来居住に最も適した場所であるであろう。また、掘立柱建物跡で時期が確定できたSB-100は9世紀後葉のⅠ区に位置し、小規模ながら隅丸方形の柱穴掘方を持つ。集落の最盛期がこの時期、この地区にあったことを表している。集落の最終段階は10世紀前葉で、Ⅳ区～Ⅴ区北部の単位集団が造った東カマドの竪穴建物跡を最後に、山の神Ⅱ遺跡の古代集落はやや唐突な終焉を迎える。

#### 中世・近世

検出された掘立柱建物のうち多くが中世に属すると考えられるが、個々の建物の時期決定は困難である。出土遺物からは、13世紀末～14世紀前半、16世紀後半～17世紀前半、18世紀代の3つの段階を想定出来る。

中世前半の遺構は、Ⅱ区北端に位置するSD-1000がある。SD-1000は断面逆台形を呈する区画溝で、14世紀前半の常滑や青白磁を出土している。13世紀前半の常滑片口、13世紀末～14世紀前半の古瀬戸御皿、同じく石鍋がⅠ区の土坑から出土している。

中世後半に属する遺物は瀬戸美濃・内耳土鍋・土師質土器皿等が出土しており、明確な時期を捉えうるものは方形竪穴状土坑SK-1839出土の土師質土器皿の16世紀後半である。ただしSK-1839は、漆膜・漆塗り板・多量の銅銭など、墓を思わせる遺物も出土しており、中世の最終段階に当遺跡が集落の緑地化した時の遺構と考えられ、多くの掘立柱建物跡はこれ以前に属するものと考えられる。この時期は江川対岸の台地上に金枝城が機能していたと考えられ、台地下の河岸段丘上に金枝集落が形成されている。金枝集落は左岸すな

わち山の神遺跡対岸が本村と伝えられ、旧氏家町今宮神社「今宮祭祀録」に、神事頭役24郷として、宝徳2年(1450)、明応5年(1496)、大永2年(1522)、天文15年(1546)に金枝郷がみられる。このことから山の神Ⅱ遺跡の中世後半は金枝集落の枝村として経営されていたものと考えられる。

次いで近世は、I区にSB-167が確認されている。3×5間の身舎に東西と南側に下屋が付く四間取りの建物で、18世紀代の埴摺鉢・肥前磁器碗等が出土している。また近世墓と不確定ながらそれに近い遺構が散在しており、六道銭として副葬された寛永通寶が多数出土している。寛永通寶は新寛永を含み17世紀末以降墓地化したことがわかる。近世初期、金枝に南接する鹿子畑には鹿子畑氏が居館を構えていたが、初め江川右岸の字古屋敷に館を構えていたものを後に前坪に館を移したという。古屋敷には現在も屋敷跡や畑跡の遺構があり、自然災害等何らかの理由により、屋敷および集落が江川左岸に移転したとされる。山の神Ⅱ遺跡においても、近世遺構が少数しか見られないのは同様の理由によるものか。いずれにせよ近世は集落縁辺として機能していることが明らかになった。

第80表 古墳時代・古代建物跡時期一覧表

時期	遺構番号		
4世紀末			
5世紀前葉			
5世紀中葉			
5世紀後葉	90・92		
6世紀前葉		143・1375	
6世紀中葉			
6世紀後葉			
7世紀前葉			
7世紀中葉			
7世紀後葉		2596	
8世紀前半	1716・1920		
8世紀後半			
9世紀前葉	2727・1672		
9世紀中葉	44・45・82・83・925・1306・ 1373・1374・1631・2104・ 2595・2743		50・65・91・114・ 1372・1377・1690
9世紀後葉	80・1378・1440・1495・ 1671・2594・2700・1661	81・1035・1496・ 1498・1426	SB-100
10世紀前葉	2725・2735・2740		
10世紀中葉			
10世紀後葉			
不明SI	62・64・106・113・115・ 157・1277・1376・1425・ 1465・1467	不明SB	727A・727B・1460・1707・2820

## 第二項 墨書土器 (第260図、第81表)

古代の墨書土器は、竪穴建物跡を中心に45点出土している。大部分が竪穴建物跡からの出土で、9世紀中葉～10世紀前葉に属する。I区からの出土が多いのは、9世紀前葉～10世紀前葉の集落最盛期にI区に竪穴建物跡数が最も多いためである。墨書された土器の種類は、45点中40点が土師器環、5点が須恵器環である。部位については、38点が体部外面(うち4点が須恵器)、7点が底部外面(うち1点が須恵器)である。これらの墨書の主なものについて述べる。

「**∅**」 1～4・31は〈双葉〉のような記号で、うち4点がSI-45で出土している。他に類例が無く、山の神II遺跡に特徴的な墨書と言える。

「**塩屋**」 5は「塩屋」か。第二章で述べたとおり古代の塩屋部と那須部は、荒川及び内川付近を境としたと考えられ、森後遺跡南方を塩屋部河輪郷に比定する考えもある。「塩屋」墨書出土で山の神II遺跡周辺の江川流域が塩屋部に属する可能性が出てきたが、土器が移動している可能性もあり確証がない。いずれにしても山の神II遺跡を含む江川流域は塩屋部と那須部の境界領域にあたることは間違いない。

「**下岡本**」 17・26は「下岡本」である。鬼怒川右岸に「岡本郷」が中世から見られ、近世から上・中・下に分郷される。「下岡本」が他の古代における地名等を表しているものか不明である。

「**富**」 吉祥句。39は体部外面に堂々とした文字で記す。

「**𠄎**」 則天文字に類型があり、また同様の冠をもつ墨書「𠄎」が各地で確認されている。則天文字や道歌の呪符の影響から派生した一種の吉祥句・呪術的の文字と考えられている。

「**足**」 25は「足」である。「足」墨書は欠ノ上I・II遺跡で多数出土している。

## 第三項 中近世掘立柱建物跡の柱間寸法 (第82表)

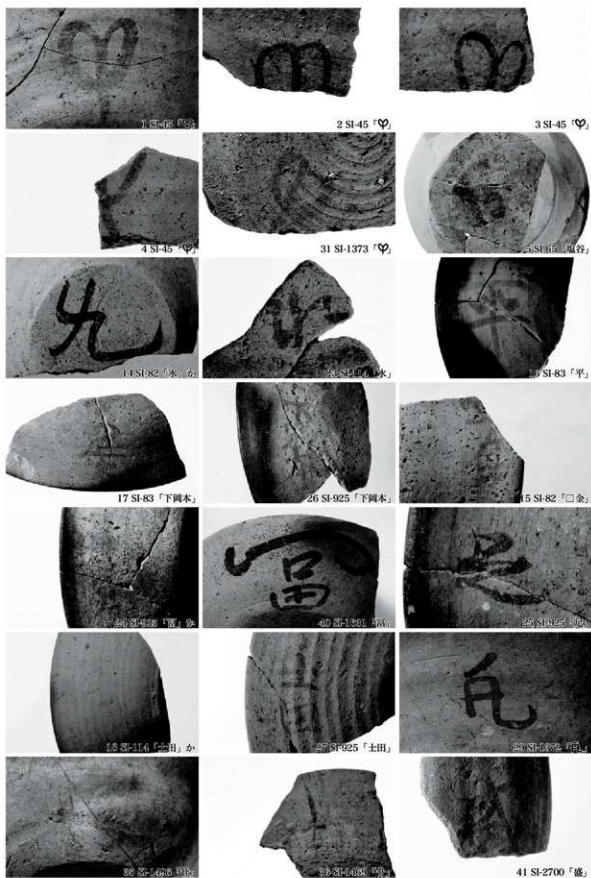
### 梁間一間型建物

中世の掘立柱建物の代表的な建築形式である総柱建物は、中世前半に大型化し、時期が降るに従って建物内の空間を広く利用するために柱を省略していく。建物内の機能分化によって柱配置も複雑化し近世的建物へと至る。また畿内・北陸地方を中心に分布が見られ、建築様式にも地域差が生じていることが知られる。一方、鎌倉を中心とする関東地方では、総柱建物は見られず、替わって梁行き方向の柱間が、桁行方向の柱間の1.5～2倍近い規模を持つ「梁間一間型建物」が多く分布する。山の神II遺跡で確認された中近世掘立柱建物跡はほとんどがこの「梁間一間型建物」と認められる。

総柱建物は、柱間寸法とともに柱配置が建物の時期を考える手がかりとなるが、梁間一間型建物は構造が単純であるため時期決定が困難である。ここでは東北地方の例を参照しながら山の神II遺跡で確認された中近世掘立柱建物跡の柱間寸法について検討する。

### 柱間寸法の変遷

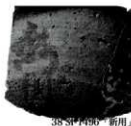
建築史の中では、一般的に15世紀代は七尺かそれ以上、16世紀代になると六尺代に狭くなるとされる。岩手県内で発掘調査された掘立柱建物跡について柱間寸法を検討した研究(石井他1992、高橋1989)によれば、15世紀代は七尺かそれ以上、15世紀末から16世紀前半に六尺八寸が出現し、16世紀末には六尺五寸に、さらに17世紀末には六尺三寸にまで狭まる。また宮城県でも同様な変遷をたどる。一方日本海側では14世紀末から六尺代が使われ、福井県一乗谷朝倉氏遺跡(15世紀後半～16世紀後半)では六尺二寸～三寸が用いられている。このように中世掘立柱建物の柱間寸法は、七尺代から六尺代へと減じる大きな原則を共有しながらも、



第260図 主な墨書土器



6 SI-1495「新用」



35 SI-1496「新用」



23 SI-1736「新用」

第81表 主な墨書土器一覧表

No	調査区	遺構	掲載 番号	釈 文	種類・器種	部位	備 考
1	I区	SI-45	1	「罇」	土師器環	体部外面	9世紀中葉
2			2	「罇」	土師器環	体部外面	
3			7	「罇」	土師器環	体部外面	
4			8	「罇」	土師器環	体部外面	
5		SI-65	1	「龍口」「龍尾」か	土師器環	底部外面	9世紀中葉～後葉
6		SI-81	1		土師器環	底部外面	9世紀後葉～10世紀前葉
7			7		土師器環	底部外面	
8			17		土師器環	体部外面	
9			18		土師器環	体部外面	
10			19		土師器環	体部外面	
11			23		土師器環	底部外面	
12			24		土師器環	底部外面	
13		33		須恵器環	体部外面		
14		SI-82	1	「水」か	土師器環	底部外面	9世紀中葉
15		2	「金」か	土師器環	体部外面	9世紀中葉	
16		SI-83	2	「平」	土師器環		体部外面
17		3	「下圓木」	土師器環	体部外面		
18		SI-114	2	「土田」か	土師器環	体部外面	9世紀中葉～後葉
19			6		土師器環	体部外面	
20			7		土師器環	体部外面	
21			8		土師器環	体部外面	
22			9		土師器環	体部外面	
23			10	「水」か	須恵器環	体部外面	
24		SI-925	2	「窟」か	土師器環	体部外面	9世紀中葉
25			3	「足」	土師器環	体部外面	
26			7	「下圓木」	土師器環	体部外面	
27			8	「土田」か	須恵器環	体部外面	
28		SI-1372	9	「合」か	須恵器環	体部外面	9世紀中葉～後葉
29			11		土師器環	体部外面	
30		SI-1373	3	「罇」	須恵器環	底部外面	9世紀中葉
31	VK	SI-1495	2	「新用」	土師器環	体部外面	9世紀後葉
32			3		土師器環	体部外面	
33			10		土師器環	体部外面	
34		SI-1496	3	「竹」	土師器環	体部外面	9世紀後葉～10世紀前葉
35			4	「竹」	土師器環	体部外面	
36			6		土師器環	体部外面	
37			7	「新用」	土師器環	体部外面	
38	SI-1631	5	「窟」	土師器環	体部外面	9世紀中葉	
39	SI-2595	2		土師器環	体部外面	9世紀中葉	
40	IV区	SI-2700	4	「盛」	土師器環	体部外面	9世紀後葉
41		SI-2743	2		土師器環	体部外面	9世紀中葉
42	V区	SK-1533	26	「新用」	土師器環	体部外面	9世紀後葉
43		遺構外	9		土師器環	体部外面	9世紀中葉～後葉
44		遺構外	10		土師器環	体部外面	9世紀中葉～後葉

地域差を有する。そしてこの地域差は流通圏や文化圏によるものと考えられる。以上のように、この柱間寸法の減じ方には七尺以上の段階、六尺八寸程度の段階、六尺五寸程度の段階、六尺二寸～三寸といった段階がみられることがわかる。

### 柱間寸法の検討

山の神Ⅱ遺跡で確認された中近世掘立柱建物跡の柱間寸法の一覧が第82表である。柱間の大きい順に上から並べている。柱間が四尺代のものや、十尺を超えるものもみられるが、掘立柱建物跡の検出状況や調査状況そのものに不備がある可能性を取り除くことが出来ないため検証から除外する。あるいは実際にそういった通常と異なる柱間寸法の建物が存在した可能性もあるがここでは扱わない。また現段階では柱間寸法が年代を表すのではなく、大まかな新旧関係やセット関係を示すものとする。

まず、出土遺物から時期を決定出来るSB-167を中心に検討すると、SB-289・167・169が六尺～六尺三寸で近似値を示す。SB-167は18世紀代の年代が与えられ、また六尺三寸は17世紀末から近世を通じて広く用いられており、3棟の建物は近世に属すると判断できる。また明治以降六尺に統一されるため、SB-169は近代にまで下る可能性がある。

次に一回り大きい一群としては、SB-2805・938・1078・1548が、六尺五寸でまとまっている。このうちSB-938・1078はⅡ区に位置し、SD-1020を挟んで同時期に存在したものでだろう。

SB-2801・2802は六尺八寸の近似値を示す。この2棟はⅤ区南端で並列しているが、同じ柱間寸法であることから同時存在と見ることが可能である。

SB-2817・2248・967は七尺三寸前後を示す。このうちSB-967はⅡ区でSB-938との切り合い関係が不明であるが、柱間寸法の上ではSB-967が先行する可能性を指摘できる。

SB-2546・2806・2819・313・2720・2800は七尺六寸の近似値を示す。このうちSB-2800はSB-1592・SB-2801と重複しているが、柱間寸法からは1592<2800<2801という新旧関係を指摘できる。

SB-2818・311は七尺八寸～九寸で、Ⅰ区に位置する。

SB-1592・2803・2812は八尺～八尺一寸を示す。このうちSB-1592はSB-2800・1548と重複しており、柱間寸法からは1592<2800、1592<1548という新旧関係を指摘できる。

SB-2804・2350は八尺三寸前後の値を示す。

以上のように、柱間寸法にはある程度のまとまりが見られる。またⅡ区SB-938・1078やⅤ区SB-2801・2802のように、並列し同時期に存在した可能性のある建物で近い値を示すということもわかった。

六尺三寸、六尺五寸、六尺八寸といった寸法は、岩手県の柱間寸法変遷でも契機とされる値で、当遺跡においても、変遷上契機になる寸法と考えられる。出土遺物から建物の時期決定が出来ない当遺跡においては、柱間寸法と建物の時期関係を結びつけられるのは、18世紀代のSB-167が六尺二寸の柱間寸法をとるということだけである。しかしあえて出土遺物から想定できる3つの段階に対応させるなら、七尺以上を13世紀末～14世紀前半、六尺八寸～六尺五寸を16世紀後半～17世紀前半、六尺～六尺三寸を18世紀代という考え方も出来る。これ以上柱間寸法の変遷を時系列で述べることは避けるが、柱間寸法が掘立柱建物跡の検討に有用であることを指摘しておく。

第82表 中近世掘立柱建物跡柱間寸法計測値一覧表

遺構番号	規模	梁行 柱間	桁行 柱間	梁行長 (m)	桁行長 (m)	柱間平均(m)	柱間平均(尺)	備考	調査区
SB-2798	1×1 東西棟	1	1	3.56	3.62	3.56	11.74	SA-2799を伴う	Ⅲ M23
SB-312	2×5 (身舎1×3) 梁間一 間型 東西棟	2	5	5.24	11.24	3.20	10.56		I D5
SB-2068	1×1 南北棟	1	1	2.92	5.20	2.92	9.63		V X20
SB-2808	1×1	1	1	2.80	3.26	2.80	9.24		V A127
SB-681	1×3 梁間一間型 東西棟	1	3	3.40	8.04	2.68	8.84		I G4
SB-2809	1×4 梁間一間型 東西棟	1	4	4.84	10.48	2.62	8.64		V AB22
SB-2804	2×4 南北棟	2	4	4.60	10.16	2.54	8.38		V AA21
SB-2350	1×4 梁間一間型 東西棟	1	4	5.40	10.06	2.51	8.28		V AB24
SB-1592	1×4 梁間一間型建物 南北 棟	1	4	4.40	9.88	2.47	8.15		V AK32
SB-2803	1×4 梁間一間型 東西棟	1	4	3.88	9.76	2.44	8.05		V AC24
SB-2812	1×3 梁間一間型 東西棟	1	3	3.56	7.28	2.43	8.01		V AH28
SB-2818	1×1 東西棟	1	1	2.40	5.56	2.40	7.90		I F9
SB-311	1×1 南北棟	1	1	2.36	2.56	2.36	7.78	遺構空白地にあ る。	I E8
SB-2546	1×1 南北棟	1	1	2.32	2.48	2.32	7.65		V V26
SB-2806	1×5 東西棟	1	5	4.26	11.60	2.32	7.65		V AA21
SB-2819	1×3 梁間一間型 南北棟	1	3	4.48	6.96	2.32	7.65		I J7
SB-313	1×4 梁間一間型 東西棟	1	4	5.10	9.20	2.30	7.59		I D3
SB-2720	1×2以上 梁間一間型 東西 棟	1	(2)	4.96	(4.80)	2.30	7.59		IV V28
SB-2800	1×3 梁間一間型 東西棟	1	3	4.32	6.92	2.30	7.59		V AK32
SB-2817	1×1	1	1	4.48	4.80	2.24	7.39	2×2 ?	I F9
SB-2248	1×4 梁間一間型 南北棟	1	4	4.02	8.92	2.23	7.35		V AA21
SB-967	1×3 梁間一間型 東西棟	1	3	3.56	6.60	2.20	7.26	SA-934を伴う	Ⅱ H11
SB-2801	1×3 梁間一間型 東西棟	1	3	4.12	6.26	2.09	6.89		V AK33
SB-2802	1×1 東西棟	1	1	3.12	2.08	2.08	6.86		V AL33
SB-2805	2×5 南北棟	2	5	4.40	9.84	1.97	6.50		V AA21
SB-938	1×4 梁間一間型 東西棟	1	4	4.60	7.84	1.96	6.46	SA-934を伴う	Ⅱ I11
SB-1078	2×3以上 (1×3以上 梁間一 間型) 東西棟	2	3	3.56	5.88	1.96	6.46		Ⅱ G12
SB-1548	1×3 梁間一間型建物 東西 棟	1	3	4.24	7.32	1.96	6.46		V AK32
SB-289	1×2以上 梁間一間型 東西 棟	1	2	3.80	4.04	1.90	6.27		I C5
SB-167	5×6 (身舎3×5) 南北棟	5	6	6.92	14.0	1.88	6.20		I H4
SB-169	1×5 梁間一間型 出入り口 付 東西棟	1	5	4.20	9.12	1.82	6.00	SA-241を伴う	I F4
SB-2522	1×2 東西棟	1	2	2.48	2.52	1.29	4.25		V V26

\*桁行方向の柱間を柱穴の心々で計測・平均。1×1軒の建物跡については短い方を桁行とした。一尺は30.303cmで計算。

## 参考文献

- 浅川遼男・裕崎和久 編集『埋もれた中近世の住まい』同成社  
 石井 進 監修 1992『北の中世』日本エディタースクール出版部  
 角川書店 1984『角川日本地名大辞典 9 栃木県』  
 高橋與右衛門 1989『掘立柱建物跡の間尺とその時代性』『紀要』IX 岩手県文化振興事業団  
 西 和夫 1986『一間の長さの変遷とその地域分布』『列島の文化史』3 日本エディタースクール出版部  
 平川 南 1992『墨書土器とその字形』『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集 1991  
 平川 南 2000『墨書土器の研究』吉川弘文館  
 平凡社 1988『日本歴史地名大系 9 栃木県の地名』



## 第四章 欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡の調査

### 第一節 調査区の概要

欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡の発掘調査は第一章で述べた通り、圃場整備事業に伴うものであり、調査前の状況は水田である。江川により形成された谷底平野には2～3の低い段丘面が存在し欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は最も低い段丘面上に位置する。調査区は調査対象外である道路と現況の水田区画によって区切られ、北東部の一段低い部分をⅠ区、最も大きな部分をⅡ区、県道を挟んだ小さい部分をⅢ区とし、調査面積は合計7,200㎡である。また、県道工事に伴って調査された部分は県道区とする。田面から遺構検出面までの深さは0.4m～0.75mで、検出面の標高は調査区北部で160.60m、南部で159.40mである。付近の江川の河床標高は154.6mであり、比高差は4.8m～6mである。

遺跡に於ける基本層所は、①黒褐色土層（表土・耕作土）、②にぶい黄褐色土層（整地土）、③黒褐色土層、④今市バミス層、⑤ローム層となっている。これらの層の厚さは①約0.15～0.25m、②約0.15～0.3m、③約0.15～0.3mで、④層は⑤層上面に極薄く部分的に形成される。③層を除去した④および⑤層上面が遺構検出面で、多くの遺構で③層類似の黒色土が遺構埋土となっている。また場所によっては②層整地土層は見られない。

調査の結果、竪穴建物跡37軒、掘立柱建物跡8棟、墓2基、主な土坑98基とその他多数の小規模な土坑を検出した。遺構総数は1697基である。また、グリットE4に形成された埋没谷を調査した。

調査区別では、Ⅰ区で、縄文時代の竪穴建物跡1軒、古墳・古代の竪穴建物跡4軒、掘立柱建物跡1棟、中世の土坑27基、近世の土坑6基を検出した。

Ⅱ区で、縄文時代の竪穴建物跡6軒、古墳・古代の竪穴建物跡20軒、掘立柱建物跡7棟、縄文時代の土坑3基、古代の土坑8基、中世の土坑30基、近世墓2基、近世の土坑5基を検出した。

Ⅲ区で、縄文時代の竪穴建物跡5軒、縄文時代の土坑1基、中世の土坑13基、近世の土坑2基、

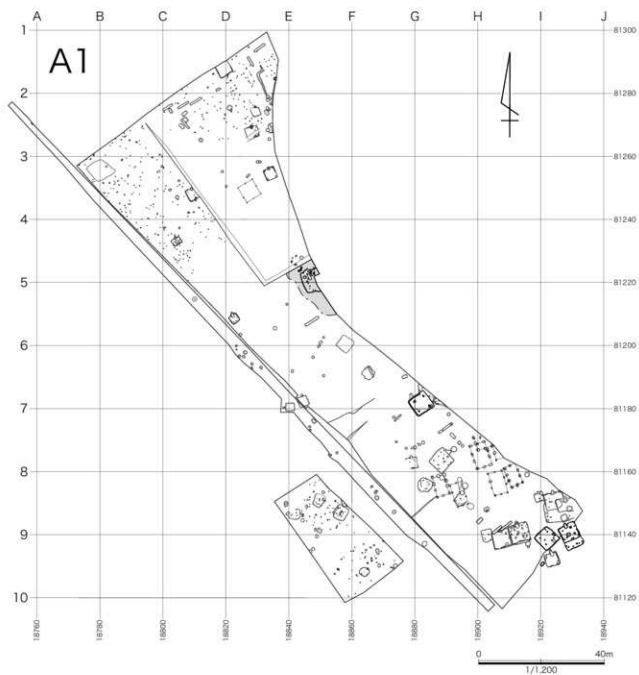
県道区で、古墳・古代の竪穴建物跡1軒、縄文時代の土坑3基を検出した。

時代別では、縄文時代が竪穴建物跡12軒、土坑7基、古墳・古代時代が竪穴建物跡25軒、掘立柱建物跡8棟、土坑8基、中世が主な土坑70基、近世が墓2基、主な土坑13基となる。

### 確認調査出土遺物（第264図、第83表）

第一章で述べた当遺跡の確認調査時に、縄文時代の遺物が出土している。

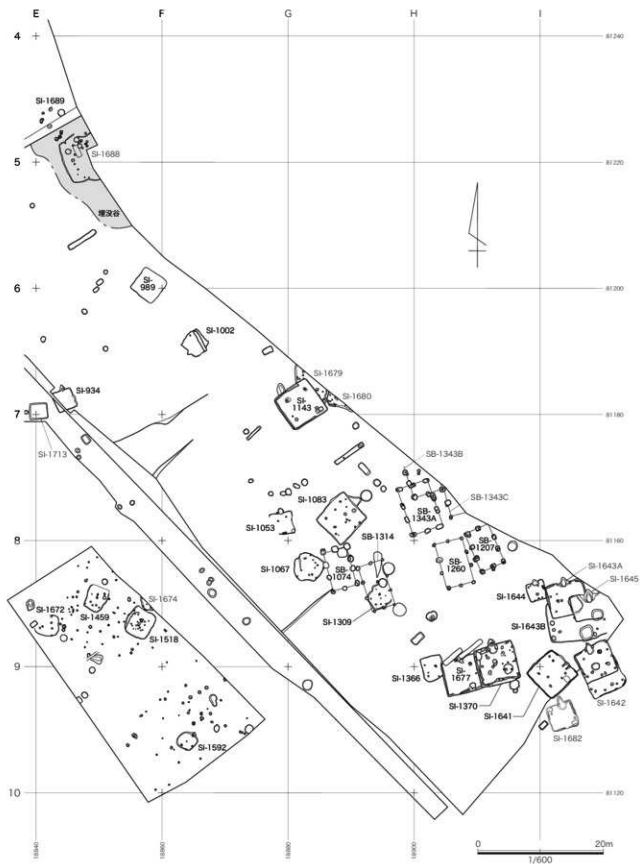
土器はいずれも鉢形の縄文式土器で、前期に属する黒浜式土器、諸磯式土器が出土している。1は口縁下に粘土紐貼り付けによる隆起線文上に指頭状工具による押捺が見られる。胴部は縦位および横位に条線文を施す。2は地文の上から平行して引いた半截竹管による爪形文の間を磨り消し、数カ所に指頭状工具による押捺を施す。同様の磨り消し文帯を胴部に2段と、その間に斜めに施す。3は半截竹管による木葉状入組文を施す諸磯式土器。口縁下に半截竹管による爪形文を2段施し、口縁と同じく半截竹管による木葉状入組文を施す。4・7・8は縦位および斜位に条線文を施す。



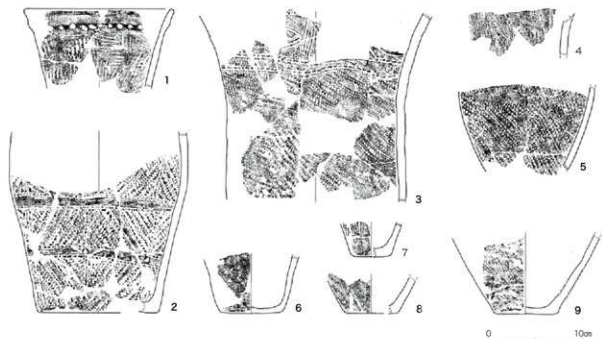
第261図 調査区とグリッド配置図



第262図 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡全体図(1)



第263図 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡全体図(2)



第264図 県圃確認調査出土遺物実測図

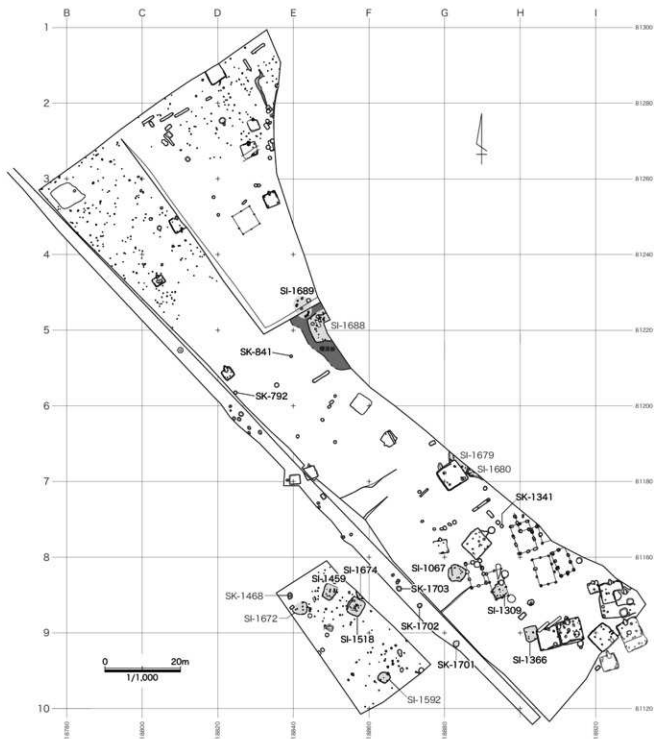
第83表 県圃確認調査出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1		縄文 土器	鉢	15.5		(8.6)	10YR2/1 黒	10YR5/2 灰黄褐色	白色細～粗粒 青灰色細粒 母片	雲	良	口～胴部 1/2割		県圃確認
2		縄文 土器	鉢		(12.8)	(19.4)	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	白色細粒 ガラス質粒	カラ	良	胴部下平 1/3		県圃確認
3		縄文 土器	鉢			(22.3)	7.5YR3/1 黒褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	白色細粒 赤褐色粗粒	赤褐色	良	胴部1/2 割		県圃確認
4		縄文 土器	鉢			(4.4)	7.5YR2/1 黒	7.5Y4/2 灰褐色	白色細粒		良好	破片		県圃確認
5		縄文 土器	鉢			(8.9)	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	白色細～粗粒 青灰色細粒		良	胴部一部 全割		県圃確認
6		縄文 土器	鉢	6.4		(6.35)	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	白色微～粗粒 青灰色粗粒		良好	底部ほぼ 完存 胴 部下位 1/2割		県圃確認
7		縄文 土器	鉢	4.2		(3.6)	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	5Y2/1 黒	白色細粒 黒灰色 細粒	黒灰色 雲母片	良	底～胴部 1/4割		県圃確認
8		縄文 土器	鉢			(5.4)	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	白色細～粗粒 青灰色粗粒		良好	胴部下位 1/2割		県圃確認
9		縄文 土器	鉢	6.0		(8.5)	10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	白色細粒		良好	底部完存 胴部下位 1/3割		県圃確認

## 第二節 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は竪穴建物跡12軒、土坑7基を検出した。遺構は調査区南部に集中するが、竪穴建物跡2軒がⅠ区とⅡ区の境界付近に形成された埋没谷内から検出されている。竪穴建物は方形もしくは不整形のプランを呈し、削平のため残された深さはわずかであった。

埋没谷は江川から段丘内に浸食した谷の谷頭で、堆積した黒色土から多数の土器片と石器が出土した。



第265図 縄文時代の遺構位置図

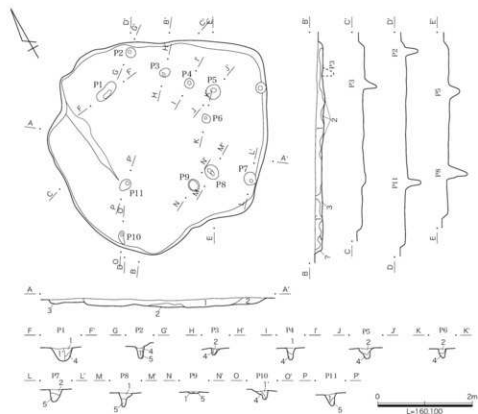
第一項 竪穴建物跡

SI-1067 (第266～270図、第84表、図版一五・三四・三五)

II区、グリットG 8区に位置する。4.62m×4.5mの不整形を呈するが、埋土の堆積状態から、不整形の時期不明土坑を切って方形のプランで掘り込まれたものと考えられる。このため、重複した土坑部分が不整形を呈している。セクション図中1、2層がSI-1067の埋土に当たり、本来の建物部分は3.0×2.6mほどの方形を呈す。床面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。柱穴はP 9とP 10を除く10本が考えられるが、建物内に数本のほか壁際に4本を配置する構造となっている。今は確認されなかった。確認面からの深さは0.16mで、自然堆積と考えられる。重複した土坑については少量の縄文土器が出土しているが、性格は不明としておく。

出土遺物は、黒浜式土器が出土している。1～8は地文のみ、9～20は有文の破片である。施文は半截竹管による爪形文、同コンパス文、同平行沈線文、刺突文が見られる。21～24は燃糸文のみ、27・28は底部片、25・26は繊維を含まない土器片である。29は口縁部に4単位の山形小突起を配す深鉢である。図正面のみ小突起を3個配し、その他は小突起1個のみ配す。緩く括れる頸部より上に、4本歯の櫛状工具による横位の押引文を下から上の順で施文する。

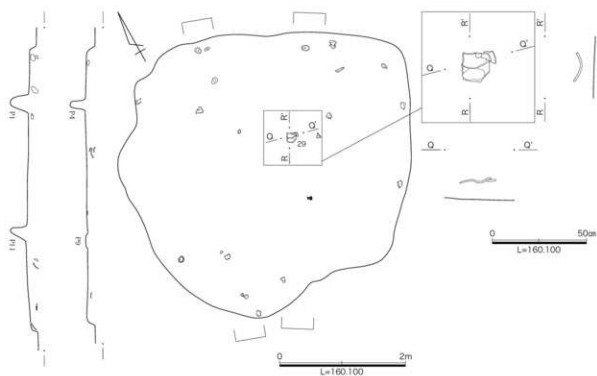
石器は、1が削器、2が側縁にまで使用痕の認められる搔器である。3～6は磨石、7～13は凹石、14・15は石皿、16は磙器である。



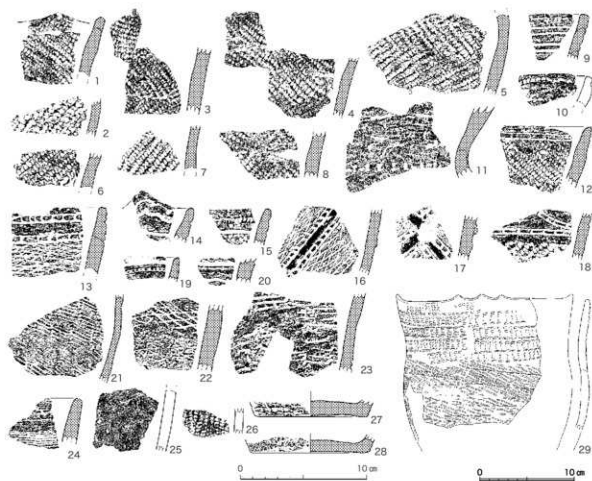
SI-1067

- 1 黒褐色 少量のローム陶器。今市・七本塚型、灰化陶器。複数のローム型を含む。やや軟性に欠き、しまりに覆む。
- 1' 灰黄色 ローム陶器。少量の今市・七本塚型。複数のローム型。灰化陶器を含む。やや軟性に欠き、しまりに覆む。
- 2 に近い黄褐色 ローム陶器。複数のローム型。今市・七本塚型を含む。やや軟性に富み、しまりに覆む。
- 3 に近い黄褐色 やや多量のローム陶器。複数のローム型。今市・七本塚型を含む。やや軟性に富み、ややしまりに覆む。
- 4 に近い黄褐色 多量のローム陶器。複数の今市・七本塚型を含む。やや軟性に欠き、しまりに覆む。柱の根跡の上と覆われる。
- 5 に近い黄褐色 多量のローム陶器を含む。やや軟性に欠き、しまりに覆む。柱の根跡の上と覆われる。

第266図 SI-1067実測図(1)

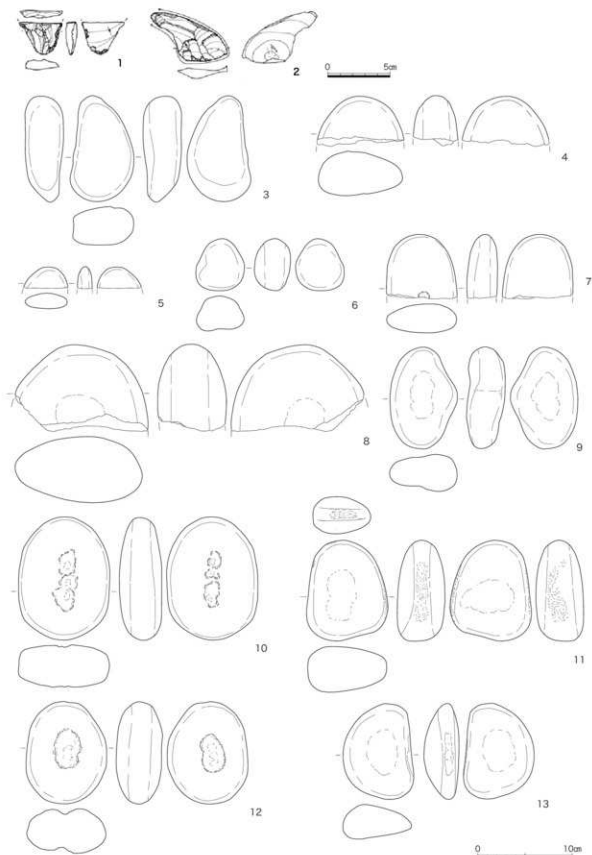


第267図 SI-1067実測図(2)

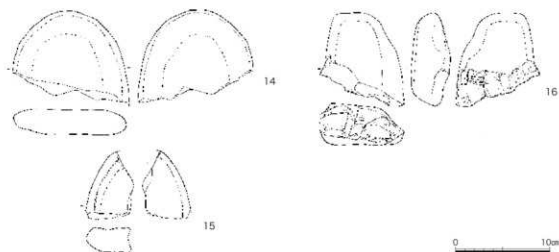


第268図 SI-1067出土土器実測図





第269図 SI-1067出土石器実測図(1)



第270図 SI-1067出土石器実測図(2)

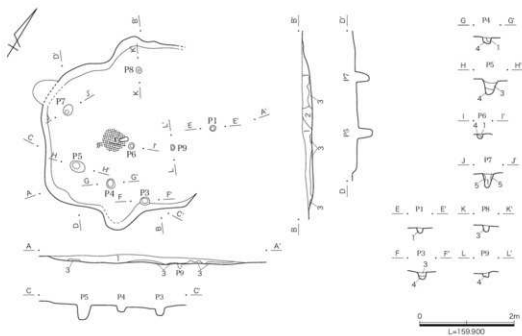
第84表 SI-1067出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)			重量	石質	備考
			長さ	幅	厚さ			
1	三五	削器	2.5	3.4	0.7	6.37	チャート	
2	三五	掻器	4.1	6.3	0.8	14.59	チャート	
3		磨石	11.1	6.3	4.0	393.02	安山岩	
4		磨石 (5.0)	9.0	4.6	4.6	229.74	安山岩	
5		磨石	2.3	3.6	1.6	20.03	安山岩	
6		磨石	5.5	5.1	3.6	122.14	安山岩(多孔質)	
7		凹石	6.7	7.4	3.2	226.56	砂岩	
8		凹石	8.8	13.5	7.1	1106.21	安山岩	
9		凹石	10.8	7.0	4.0	352.42	デイサイト	
10	三四	凹石	13.0	9.5	4.4	725.46	安山岩	
11		凹石	10.7	8.5	4.9	652.96	デイサイト	内側面、上端部に敲打痕あり
12	三四	凹石	10.8	8.4	4.7	467.55	安山岩	
13	三四	凹石	10.2	7.1	3.7	311.83	デイサイト	
14		石皿	12.8	16.5	3.5	966.82	安山岩	表面側面を磨面とし表面は平滑となる
15		石皿	9.5	6.7	3.6	246.51	安山岩	表面を凹ませ磨面とする
16		礫器	9.9	8.5	4.0	427.67	頁岩	

SI-1309 (第271～273図、第85表、図版一五)

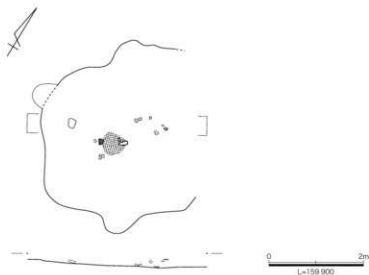
Ⅱ区、グリットG 8区に位置する。削平のため東壁が残存しない。3.62×3.12mの範囲を検出し、方形を呈したものと考えられる。床面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは不明瞭で緩やかに立ち上がる。柱穴は中央に1本と壁際に円を描くように7本の計8本が検出されたが、掘り込みは浅い。好は中央に設けられる。確認面からの深さは0.2mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は黒浜式土器(1～21)と少量の諸磯式土器(22・23)が出土している。1は半裁竹管による平行沈線文を施すもの、2・3は半裁竹管による爪形文を施すもの、4・5は半裁竹管によるコンパス文、波状文、有節沈線文を施すもの、6～9は柳歯状工具による条線文、波状文、有節沈線文を施すものである。10・11は2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文が見られるもの、12・13は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文が見られるもの、20は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文が見られるもの、14はS字状結節縄文が見られるもの、15は単軸絡条体第5類による網目状懸糸文がみられるもの、16～19・21は単軸絡条体第5類による網目状懸糸文がみられるものである。22・23は諸磯式土器で、2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるものである。石器は1・2が凹石、3が石皿である。

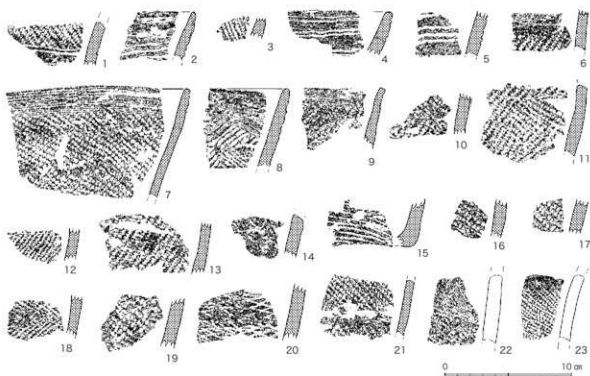


SI-1309

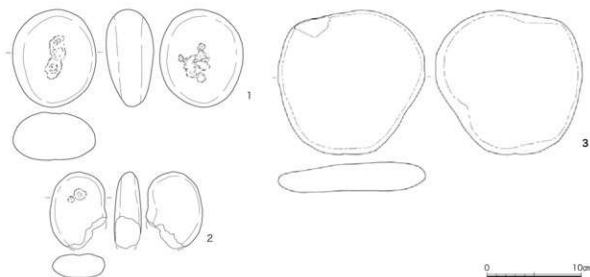
- 1 黒褐色 雑瓦のローム焼酎、ローム製、今市・七本塚製、炭化焼酎を含む、やや粘性に欠き、しまりに重む。
- 2 黒色 今市・七本塚製、少量のローム焼酎、今市焼酎、炭化焼酎、雑瓦のローム製、今市・七本塚ブロック、七本塚焼酎を含む、やや粘性・しまりに重む。
- 3 褐色 ローム焼酎、少量の今市焼酎、今市製、雑瓦の今市・七本塚ブロック、七本塚製を含む、やや粘性に欠き、しまりに重む。
- 4 に近い黄褐色 やや多量のローム焼酎、雑瓦の今市・七本塚製を含む、やや粘性・しまりに重む。
- 5 に近い黄褐色 ローム焼酎、雑瓦の今市・七本塚製を含む、やや粘性・しまりに重む。



第271図 SI-1309実測図



第272図 SI-1309出土石器実測図



第273図 SI-1309出土石器実測図

第85表 SI-1309出土石器観察表

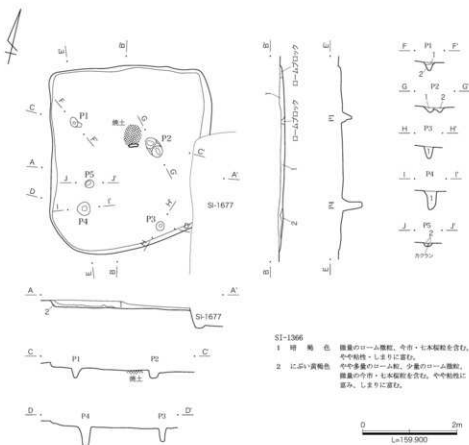
実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1		凹石	10.3	8.7	5.1	581.6	安山岩	
2		凹石	(8.1)	(5.9)	(2.6)	(177.4)	安山岩	
3		石皿	20.3	20.6	3.9	2618.6	安山岩	

SI-1366 (第274～276図、第86表、図版一五)

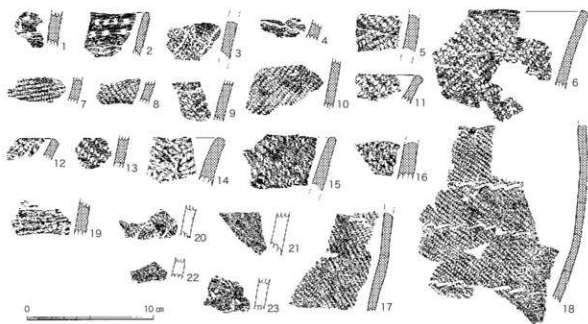
Ⅱ区、グリットH9区に位置する。3.92m×3.32mの方形を呈する。古代の堅穴建物跡と重複し、南東コーナー部分を壊される。床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに斜めに立ち上がる。柱穴は5本を検出したが、P5を除く4本は掘り込みが深く、しっかりした柱穴である。今は中央やや北寄りに設ける。確認面からの深さは0.16mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、黒浜式土器(1～19)と少量の諸磯式土器(20～23)が出土している。1は半載竹管による平行沈線文を施すもの、2・3は半載竹管による爪形文を施すもの、4は半載竹管によるコンパス文、波状文、有節沈線文を施すもの、5・6は2段L RとR Lの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、7～10は2段L Rの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、11～13は2段R Lの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、14・15は1段LとRの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、16は1段Rの縄の横位施文による無節斜縄文がみられるもの、17・18は結節縄文がみられるもの、19は単軸絡条体第4類による葎瓦状燃糸文がみられるもの、20は竹管による有文のもの、21・22は無文のもの、23は地文のみのものである。

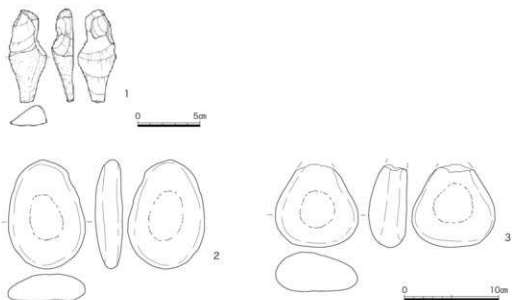
石器は、1が剥片、2・3が磨石である。



第274図 SI-1366実測図



第275図 SI-1366出土土器実測図



第276図 SI-1366出土石器実測図

第86表 SI-1366出土石器観察表

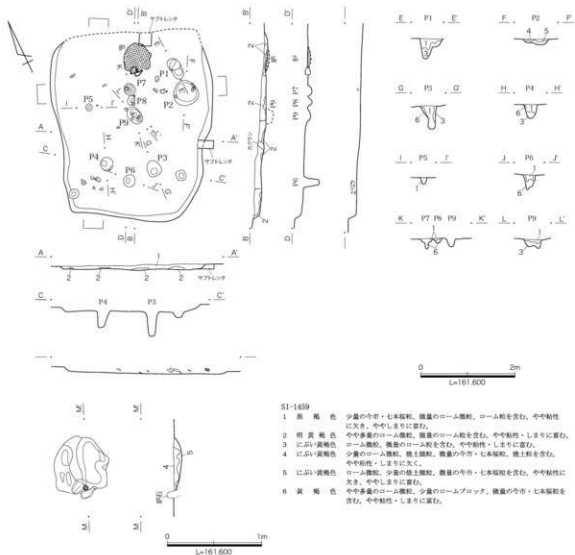
実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1		剥片	7.4	3.0	1.6	28.3	安山岩	
2		凹石	11.5	8.0	2.9	346.5	砂岩	
3		凹石	(8.7)	7.5	4.2	(414.2)	安山岩	

SI-1459 (第277～279図、第87表、図版一五・三五)

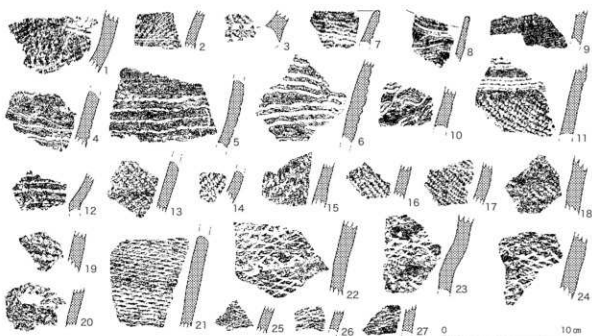
田区、グリットE 8区に位置する。3.96×3.40mの南北方向に縦長な方形を呈する。床面は平坦だが南側が浅くなっている。壁は斜めに立ち上がる。柱穴は9本を検出したが、P1、P3、P4で掘り込みが深く、主柱穴となるものを台形状に柱穴を配したうえにP6、P7、P9を長軸上に設置したのか。壁は北壁寄りに設ける。確認面からの深さは0.16mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、黒浜式土器が出土している。1・2は半截竹管による平行沈線文を施すもの、3は半截竹管による爪形文を施すもの、4～6は半截竹管によるコンパス文、波状文、有節沈線文を施すもの、7～12は櫛歯状工具による条線文、有節沈線文、波状文を施すもの、13は2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、14・15は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、16～19は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、20は1段Lの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、21～27は単軸絡糸体第5類による網目状懸糸文がみられるものである。

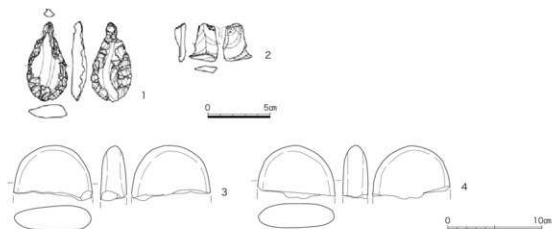
石器は、1が石匙、2が刮片、3・4が磨石である。



第277図 SI-1459実測図



第278図 SI-1459出土石器実測図



第279図 SI-1459出土石器実測図

第87表 SI-1459出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				重量	石質	備考
			長さ	幅	厚さ				
1	三五	石匙	6.3	3.2	1.0	20.69	チャート		
2		剥片	3.0	2.2	0.5	3.22	頁岩		
3		磨石	(5.8)	(8.3)	(2.7)	(178.2)	安山岩		
4		磨石	(5.4)	(8.1)	(2.6)	(159.5)	安山岩		



SI-1518 (第280～285図、第88表、図版一五・三五・三六)

田区、グリットE 8区に位置する。4.44m×4.14mの方形を呈する。床面は中央に2基並列して設けたが周辺が一段低く、その北側では南側に比べ床が低くなっている。また西壁付近は若干高くテラス状になっている。壁は斜めだが直立気味に立ち上がる。中穴は東垣・西がにそれぞれ接するように2本、それを囲むように検出されている。確認面からの深さは0.32mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は埋土上部からの出土が多く、土器片、礫、磨石、凹石が混在している。埋設時に継続的に廃棄されたものと考えられる。

出土遺物は、黒浜式土器(1～139)と諸磯式土器(140～147)が出土し、文様により次のように分類できる。

1～9は横位の平行沈線を施すもの

10～25は爪形文を施すもの

26～42は爪形文間を磨消すもの

43～48は櫛歯状工具による条線を施すもの

49～51はその他有文のもの

52～70は半截竹管によるコンパス文、波状文、有節沈線文を施すもの

71～85は2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの

86～101は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの

102～114は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの

115～119は1段Lの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの

120・121は1段Lの縄の斜位施文による条の横走る無節縄文がみられるもの

122は3段の縄の横位施文による複節斜縄文がみられるもの

123は附加条付き縄による縄文がみられるもの

124～127は結節回転文がみられるもの

128・129は単軸絡条体第1類による摺糸文がみられるもの

130～135は単軸絡条体第5類による網目状摺糸文がみられるもの

136は単軸絡条体第6類による係蹄のある網目状摺糸文がみられるもの

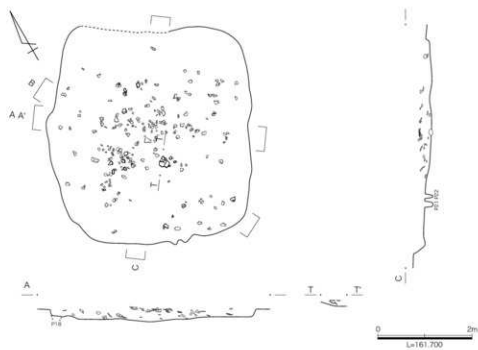
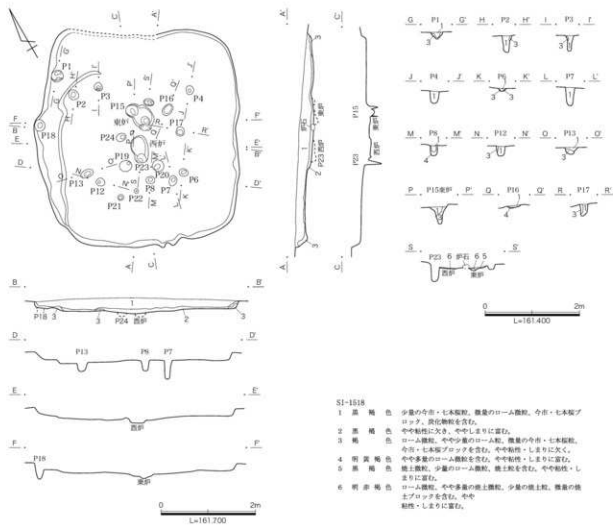
137～139は単軸絡条体第4類による葺瓦状摺糸文がみられるもの

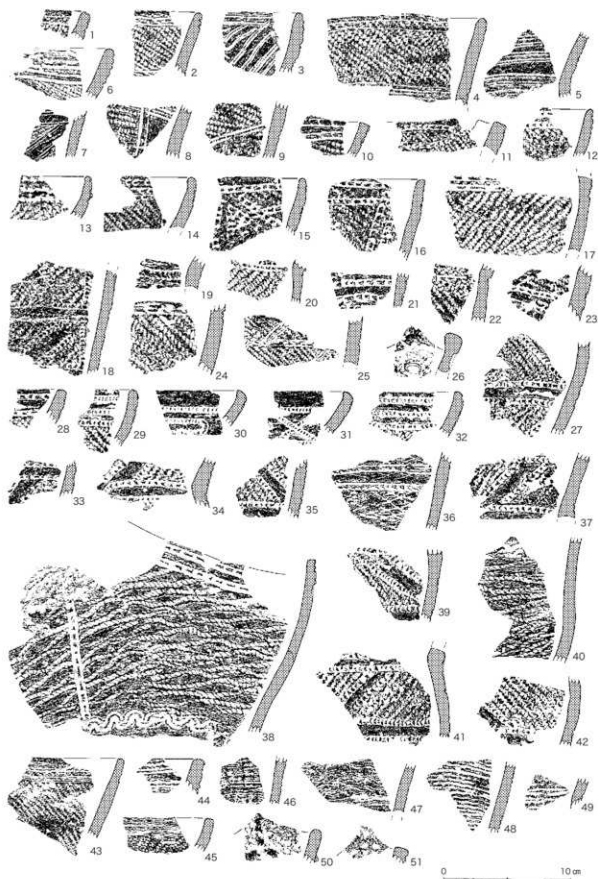
140は有文のもの

141～143は2段RLの縄(直前段多条)の横位施文による単節斜縄文がみられるもの

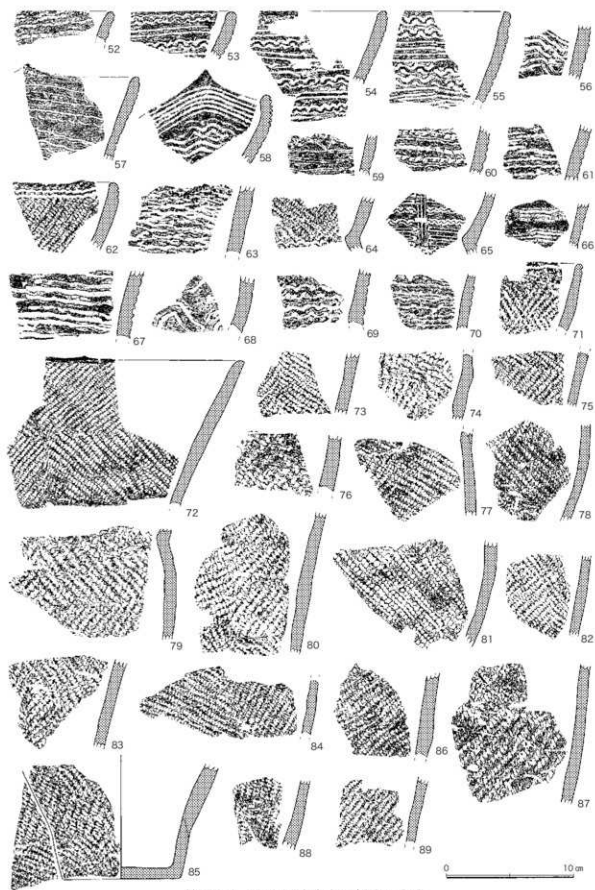
144～147は2段RLの縄(直前段条数不明)の横位施文による単節斜縄文がみられるもの

石器は、1が削器、2～6が刮片で、4は端縁および両側縁に使用痕がみられる。7～17は磨石、18～24は凹石、25～28は石皿である。

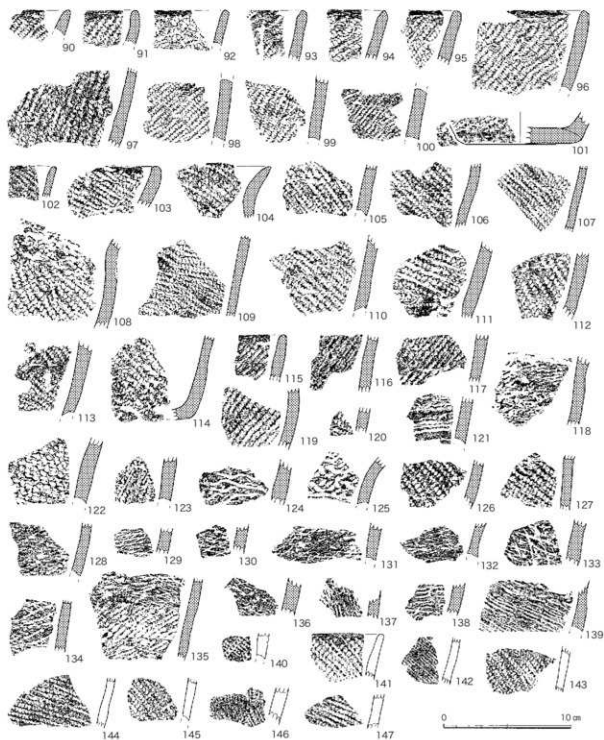




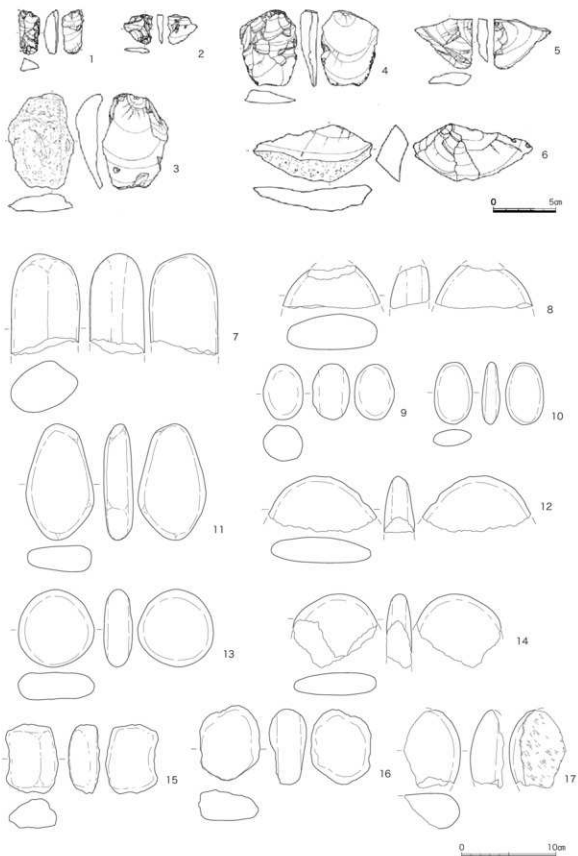
第281図 SI-1518出土土器実測図(1)



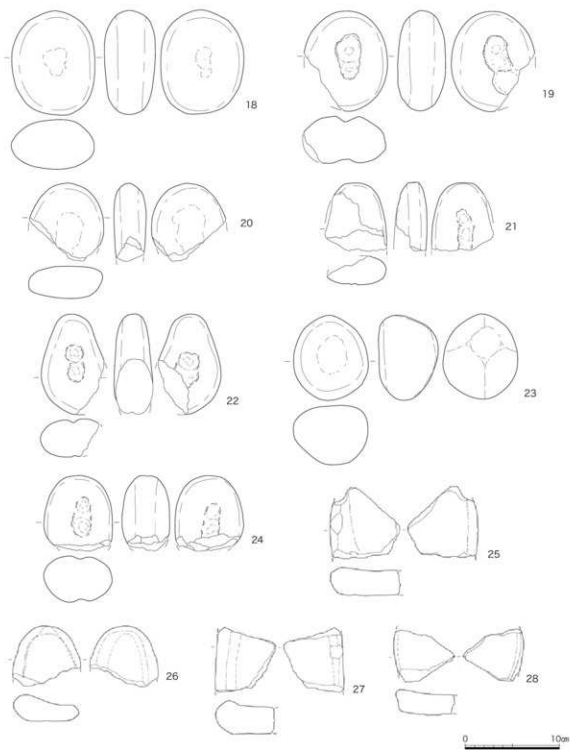
第282図 SI-1518出土土器実測図(2)



第283図 SI-1518出土土器実測図(3)



第284図 SI-1518出土石器実測図(1)



第285図 SI-1518出土石器実測図(2)

第88表 SI-1518出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	三五	削器	3.5	1.4	1.0	5.50	チャート	
2		剥片	2.4	2.3	0.4	2.17	チャート	
3		剥片	7.7	5.25	1.4	69.64	チャート	
4	三六	剥片	6.0	5.0	1.0	29.77	頁岩	使用痕のある剥片
5		剥片	4.6	3.9	0.95	15.87	頁岩	
6		剥片	3.6	3.4	1.4	25.14	安山岩	
7		磨石	10.8	10.1	5.6	618.20	デイサイト	
8		磨石	4.5	10.1	4.0	222.54	安山岩	
9		磨石	5.8	4.1	3.9	76.11	安山岩 (多孔質)	
10		磨石	6.5	3.9	1.8	57.03	安山岩	
11		磨石	12.2	7.0	3.0	370.18	デイサイト	
12		磨石	5.9	11.2	2.2	181.26	安山岩 (多孔質)	
13		磨石	8.2	7.9	2.9	250.07	デイサイト	
14		磨石	7.7	8.6	2.6	181.07	安山岩	
15		磨石	7.2	5.5	3.2	158.56	砂岩	
16		磨石	7.9	6.3	3.9	212.99	安山岩 (多孔質)	
17		磨石	8.2	5.8	3.7	150.85	安山岩	
18		凹石	11.0	8.7	5.3	724.69	安山岩	
19		凹石	10.6	8.4	5.0	508.96	安山岩	
20		凹石	8.0	7.6	3.4	294.11	閃緑岩	
21		凹石	7.1	6.4	3.2	143.47	安山岩	
22		凹石	10.5	6.5	4.1	325.42	安山岩	
23		凹石	9.0	7.8	6.4	568.63	安山岩	
24		凹石	7.8	7.2	5.0	385.99	安山岩	
25		石皿	(10.1)	(9.8)	3.4	418.80	安山岩 (多孔質)	表面を凹ませ磨面とする 裏面及び側面は研磨により成形している
26		石皿	(12.5)	(9.6)	2.3	233.80	安山岩 (多孔質)	表面を磨り面とするが特に表面の使用が著しい
27		石皿	(9.1)	(8.5)	3.9	369.60	安山岩 (多孔質)	表面を凹ませ磨面とする 縁は断面三角形を呈する 裏面及び側面は研磨により成形している
28		石皿	(7.3)	(12.5)	(3.0)	196.00	安山岩 (多孔質)	表面を磨り面とし中央に向かって凹む 縁は成形されない 裏面及び側面を研磨によって形成している

SI-1592 (第286・287図、第89表、図版一五)

Ⅲ区、グリットF9区に位置する。3.0m×2.8mの不整形を呈する。床面は平坦で、壁は斜めに立ち上る。柱穴は5本を検出し、中央と軸線上に配置したものか。中央のP2は特に掘り込みが深い。炉は確認できなかった。確認面からの深さは0.26mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、黒浜式土器が1点、磨石が1点出土している。

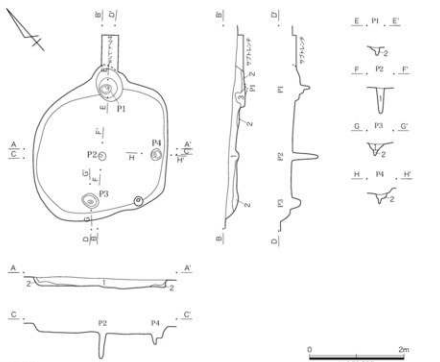


第286図 SI-1592出土遺物実測図

第89表 SI-1592出土石器観察表

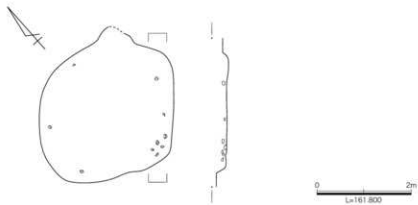
実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
2		磨石	(6.2)	(7.1)	(5.2)	(372.3)	安山岩	





SI-1592

- 1 黒 菊 色 少量の今布・七本麻粒、微量のローム糠粒、ローム粉、炭化物粒を含む、やや粘性・しまりに富む。  
 2 濃い黄褐色 ローム糠粒、微量のローム粉、今布・七本麻粒を含む、やや粘性・しまりに富む。  
 3 黄 菊 色 中々多量のローム糠粒、少量のロームブロック、今布・七本麻粒、微量のローム粉を含む、やや粘性に富み、しまりに富む。

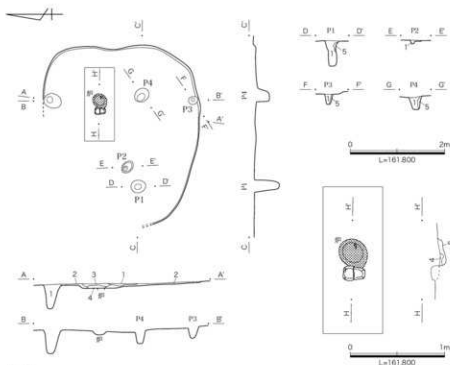


第287図 SI-1592実測図

## SI-1672 (第288・289図、図版一五)

Ⅲ区、グリットE 8区に位置する。削平のため北西部分を壊され、確認面からの深さもわずか0.1mである。北壁にピット状の掘り込みを受ける。3.8m×3.2mの方形を呈すると考えられる。床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。柱穴は4本を検出した。北東寄りに炉を設ける。

出土遺物は、諸磯式土器(1)と黒浜式土器(2)が出土している。



SI-1672

- 1 灰 黄 色 ローム層状、微量のローム粒、今市・七本塚粒を含む、やや粘性に欠き、中～しりに富む。
- 2 に近い黄褐色 中～多量のローム層状、少量のローム粒、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性・しりに富む。
- 3 灰 黄 色 ローム層状、粘土層状、少量の粘土粒、微量のローム粒、今市・七本塚粒を含む、やや粘性に欠き、中～しりに富む。
- 4 に近い黄褐色 中～多量のローム層状、少量のローム粒、粘土粒、微量の今市・七本塚粒、粘土層状、粘土ブロックを含む、やや粘性・しりに富む。
- 5 黄 色 多量のローム層状、微量の七本塚粒を含む、やや粘性・しりに富む。
- 6 に近い黄褐色 中～多量のローム層状、少量の粘土粒、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性・しりに富む。

第288図 SI-1672実測図



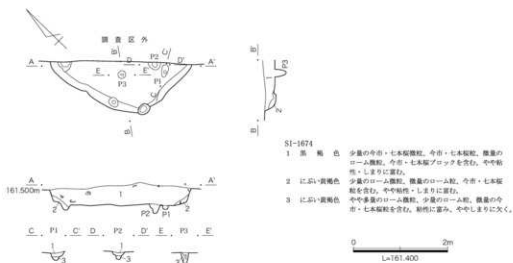
第289図 SI-1672出土土器実測図

SI-1674 (第290～293図、第90表、図版一五・三四・三五)

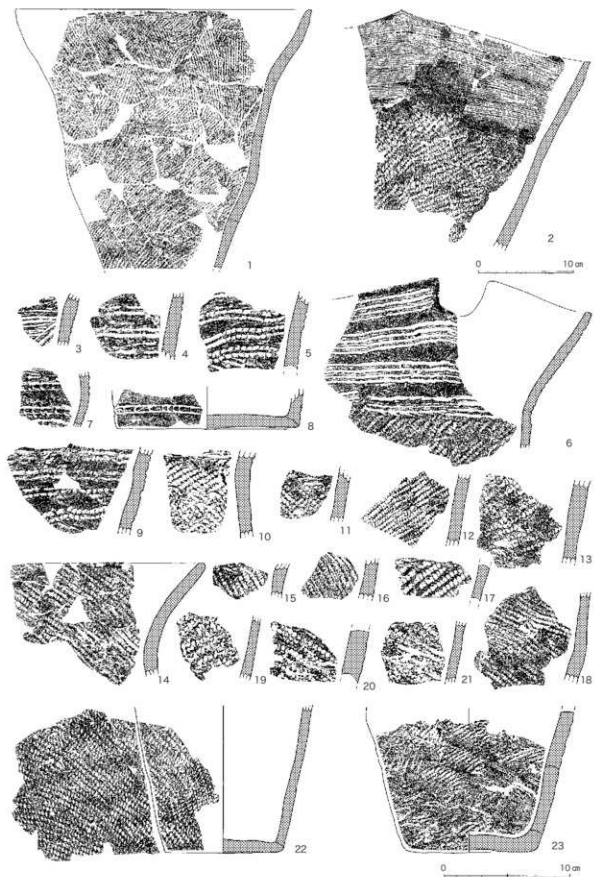
Ⅲ区、グリットE 8に位置する。東半は調査区外で未検出である。1.82×1.84mの範囲で検出し、プランは方形を呈するものと考えられる。床面はやや凹凸があるがほぼ平坦である。壁はややきつく斜めに立ち上がる。検出面からの深さは0.46mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、黒浜式土器が出土している。1～9は有文で、半截竹管による爪形文、櫛歯状工具による条線文を施すものがある。1は口縁部に条線文、胴部に1段Lの縄の横位施文による無節斜縄文を施す。10・11は羽状縄文がみられるもの、12～22は単節斜縄文がみられるもの、23は無節斜縄文がみられるもの、24～29は燃糸文がみられるものである。30～36は無繊維の土器である。

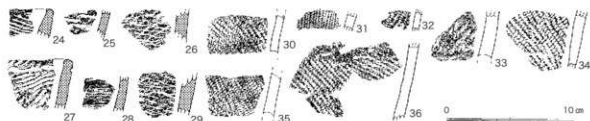
石器は、1が両極打法による刮片、2が磨石、3が石皿である。



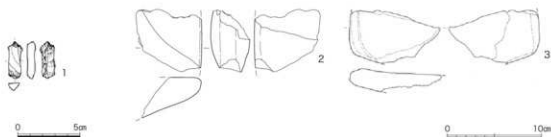
第290図 SI-1674実測図



第291図 SI-1674出土土器実測図(1)



第292図 SI-1674出土土器実測図(2)



第293図 SI-1674出土土器実測図

第90表 SI-1674出土土器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)			石質	備考	
			長さ	幅	厚さ			
1	三五	割片	3.0	1.1	0.6	2.5	黒曜石	内輪打法(パイローラー)
2		磨石	(6.5)	(6.9)	(4.1)	(130.0)	デイサイト	
3		石皿	(7.4)	(12.9)	2.8	291.4	安山岩	表面のみ使用されるが裏面及び側面は平明に成形されている。また表面縁辺に帯状の段差がつく。

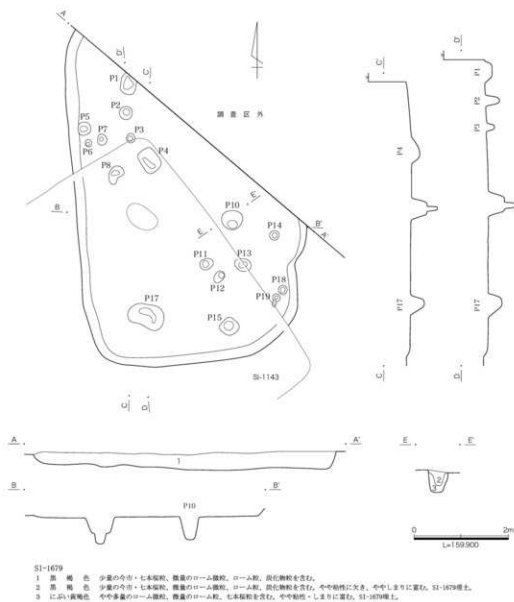
SI-1679 (第294～300図、第91表、図版三四)

II区、グリットG6区に位置する。北東部分が調査区外で未検出である。また古代の竪穴建物と重複し南側の大部分を失うが、わずかに掘り込みが残りプランを検出することができた。7.08×4.78mの範囲を検出し、本来は南北に長い方形を呈すると考えられる。床面はほぼ平坦であるが、東壁に向かって若干低くなっている。確認面からの深さは0.36mで、埋土は炭化物粒を含む単層であるため人為堆積の可能性がある。

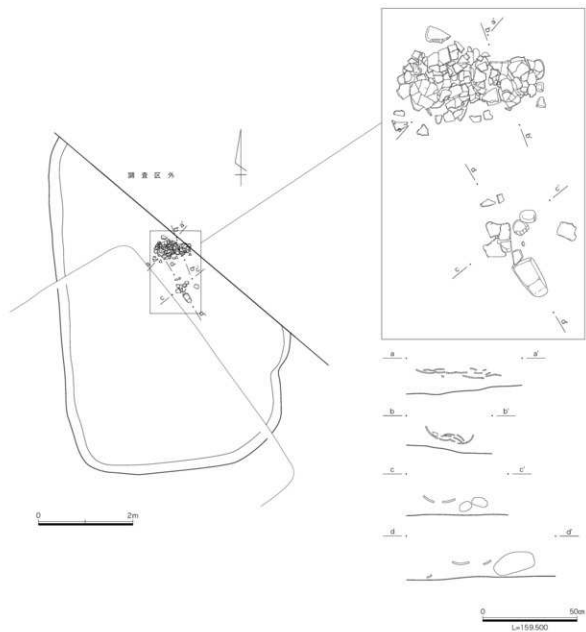
出土遺物は、黒浜式土器(1～104)と諸磯式土器(105～111)が出土している。1～4は復元可能な個体である。1は深鉢の上半で、口縁部直下から括れ部の3ヶ所に横位の崩れたコンパス文を施す。地文は2段RLとLRの縄の横位施文による羽状縄文を施す。2は深鉢で口縁部直下から括れ部の3ヶ所に半截竹管による押し文を施す。押し文は部分的に支点をずらしてコンパス文風、波状文風にする。地文は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文を施す。3は口縁部に欠く深鉢で口縁から頸部に掛けて櫛歯状工具による条線文を施す。4は深鉢で口縁部と括れ部に半截竹管による押し文を施す。5～9は半截竹管による平行沈線文を施すもの、10～13は半截竹管による爪形文を施すもの、14は円形竹管文を施すもの、15～17は単沈線を雑に描くもの、18～21は無文で擦痕のあるもの、22～28は半截竹管によるコンパス文、波状文、有節沈線文を施すもの、29～42は櫛歯状工具による条線文、波状文、有節沈線文を施すもの、43～48は2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、49～60は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、61～73は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、74は1段LとRの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、75～78は1段Rの縄の横位施文による無節斜縄文

がみられるもの、79～84は1段Lの縄の横位施文による無節斜縄文がみられるもの、85・86は結節回転文がみられるもの、87は単軸絡条体第1類による燃糸文がみられるもの、88～95は単軸絡条体第5類による網目状燃糸文がみられるもの、96は単軸絡条体第6類による係蹄のある網目状燃糸文がみられるもの、97～102は単軸絡条体第4類による葺瓦状燃糸文がみられるもの、103・104は底部破片である。105～111は諸磯式以降の土器である。

石器は、1～4が磨石、5～10・12が凹石、11・13が石皿、14が磨製石斧、15が礫器である。



第294図 SI-1679実測図(1)

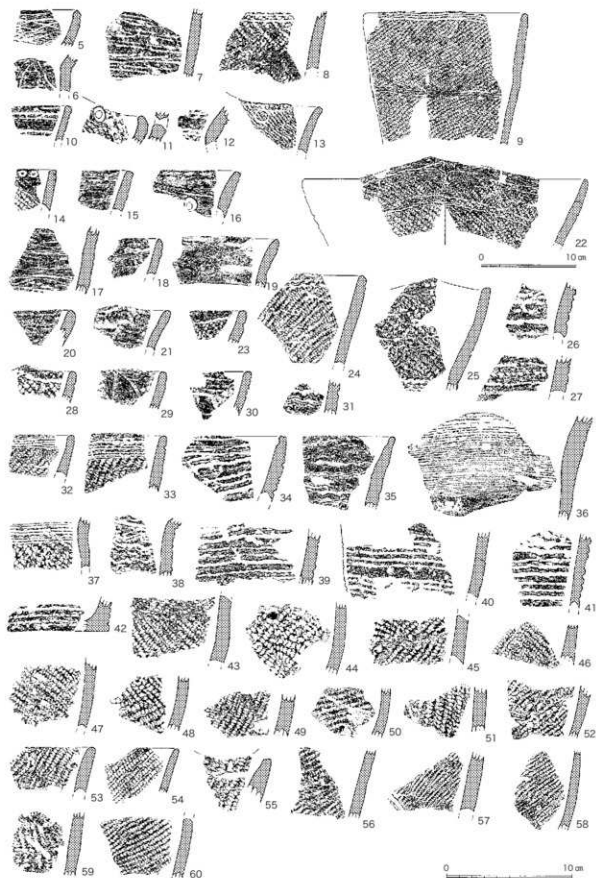


第295図 SI-1679実測図(2)

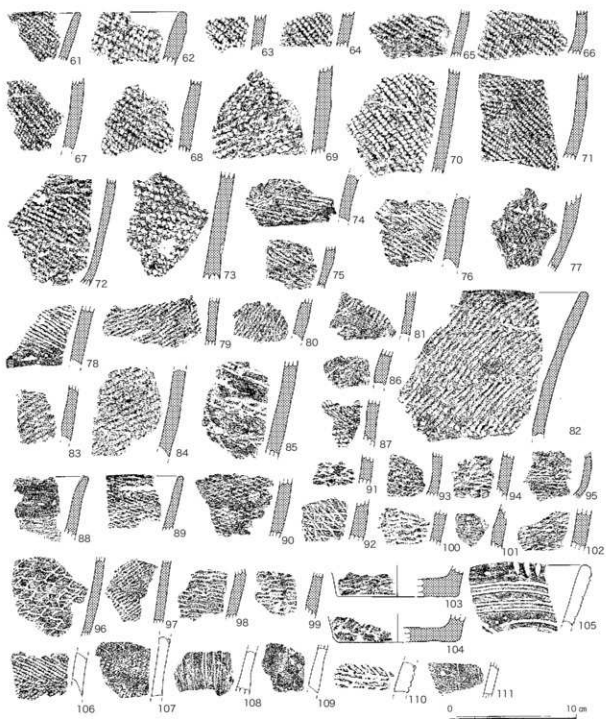


第296図 SI-1679出土土器実測図(1)

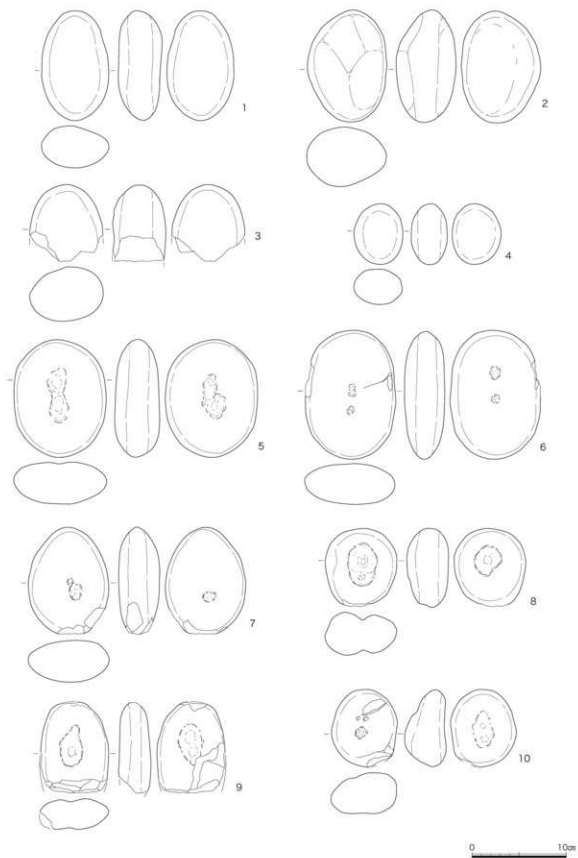




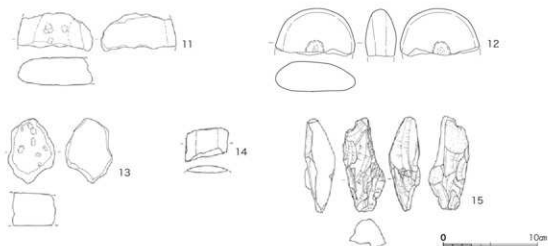
第297図 SI-1679出土土器実測図(2)



第298図 SI-1679出土土器実測図(3)



第299図 SI-1679出土石器実測図(1)



第300図 SI-1679出土石器実測図(2)

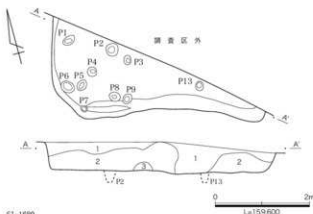
第91表 SI-1679出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1		磨石	11.5	4.3	4.5	473.47	デイサイト	
2		磨石	11.9	8.3	6.2	778.04	デイサイト	
3		磨石	(8.0)	7.6	5.5	(450.7)	四稜岩	
4		磨石	6.4	5.0	3.2	161.94	安山岩	
5		凹石	12.4	9.6	4.7	779.40	四稜岩	
6		凹石	13.6	(9.3)	4.2	(772.05)	デイサイト	
7		凹石	(11.3)	8.4	4.3	(552.04)	安山岩	
8		凹石	(8.3)	7.4	4.3	(356.01)	デイサイト	
9		凹石	(9.4)	(7.2)	3.3	(281.4)	デイサイト	
10		凹石	8.2	6.7	4.3	(278.34)	四稜岩	
11		石皿	(5.4)	(10.5)	3.9	276.60	安山岩	表面のみ磨面として使用 裏面は研磨による成形
12		凹石	(5.0)	8.3	3.2	(148.55)	四稜岩	
13		石皿	(9.2)	(6.5)	4.6	357.40	凝灰岩	表裏両面を磨面として使用 表面には敲打による凹み多数
14		磨製石斧	4.8	5.8	1.0	42.93	安山岩	
15		礮器	9.9	3.9	3.0	100.05	デイサイト	

## SI-1680 (第301～303図、第92表、図版一六)

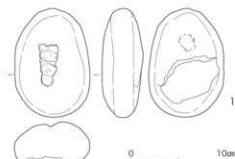
Ⅱ区、グリットG 6区に位置する。北東部分が調査区外で未検出である。4.42×2.2mの範囲を検出し、本来は方形を呈すると考えられる。床面はほぼ平坦で、壁はやや急な傾斜で立ち上がる。確認面からの深さは0.66mである。埋土1、2層は今市および七木椀ハミス粒を多量に含み、厚く堆積することから人為的堆積と考えられる。

出土遺物は、黒浜式土器(1～34)と諸磯式土器(35～43)が出土している。1～3は半截竹管による平行沈線文を施すもの、4～6は半截竹管による爪形文を施すもの、7・8は無文のもの、9・10は半截竹管によるコンパス文、波状文、有節沈線文を施すもの、11～18は2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、19～22は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、23～30は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、31は3段RLRと2段LRの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、32・33は単軸絡条体第5類による網目状摺糸文がみられるもの、34は単軸絡条体第4類による葎瓦状摺糸文がみられるものである。35～41は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、42は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、43は結節回転文がみられるものである。石器は凹石が1点出土している。



- SI-1680
- 1 黒褐色 少量の中央・七本堀筋、微量のローム散粒、ローム粒を含む、やや粘性に付き、ややしまりに変わる。
- 2 黒褐色 今布・七本堀筋、少量のローム散粒、微量のローム粒、今布・七本堀ブロッタ、黒化粉粒を含む、やや粘性に付き、ややしまりに変わる。
- 3 明黒褐色 今布多量のローム散粒を含む、やや粘性、しまりに変わる。

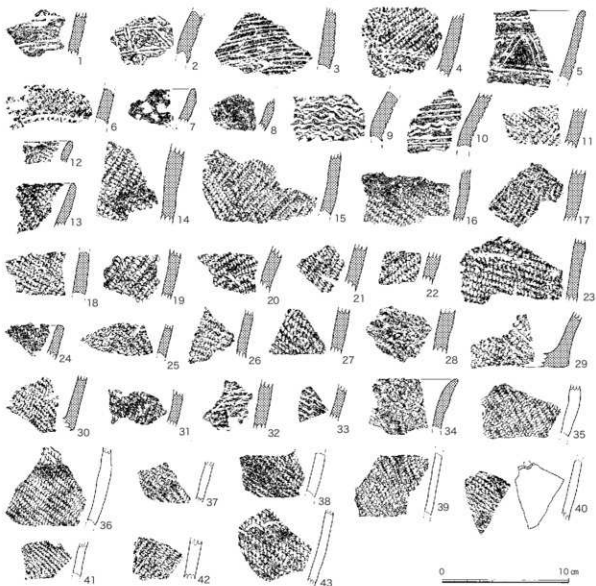
第301図 SI-1680実測図



第302図 SI-1680出土石器実測図

第92表 SI-1680出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)			
			長さ	幅	厚さ	重量
1		閃石	11.5	7.9	4.5	566.4
石質			備考			
デイスайト						



第303図 SI-1680出土土器実測図

SI-1688 (第304～308図、第93表、図版一六・三四)

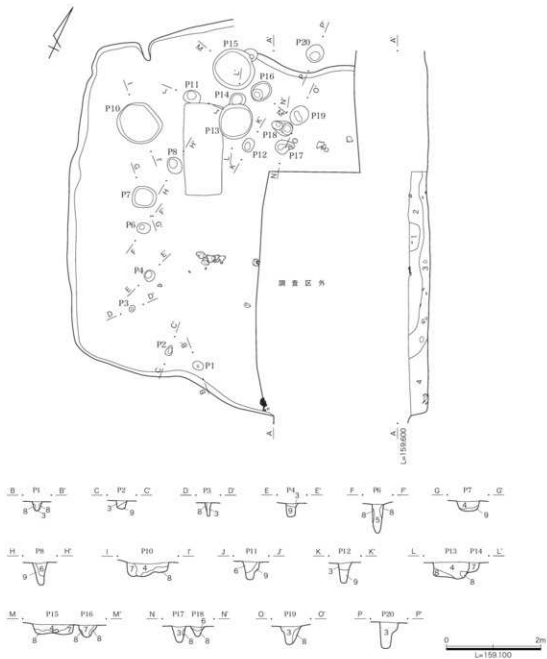
Ⅱ区、グリットE4区に位置する。埋没谷堆積土を除去後に検出した。東半分は調査区外で未検出である。8.04×5.86mの範囲を検出し、本来はやや不整な方形を呈すると考えられる。床面は平坦で、壁は強い角度で立ち上がる。炉は中央やや南寄りに設け、焼けた礫が複数伴う。確認面からの深さは0.44mで、自然堆積と考えられる。本建物跡は埋没谷調査時に炉と焼礫を検出したもので、埋土の一部を埋没谷と一緒に掘削しており、遺物の一部は埋没谷出土遺物として取り上げている。

出土遺物は、黒浜式土器(2～58)と大木2式土器(59～62)、諸磯式土器(1、63～108)が出土している。1は口縁部に木の葉状入組文を配する諸磯式の深鉢である。口縁部上段に木の葉状入組文を7単位配し、括れ部付近にもう1段の木の葉状入組文を配す。入組文は半截竹管による平行沈線の内側に、同じく半截竹管を斜め上方から連続刺突したものである。地文は2段RLの縄を横位もしくは条線が横走するように斜めに施し、入組文を描いた後その外側を磨り消している。2はほぼ完形の黒浜式の鉢で、口縁から底部直上まで2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文を施す。原体は開端の条の一つで原体を縛り、これがS字状の圧痕として部分的にみられるが、部分的にしかみられないことから意図的ではないと思われる。またこの縛った開端を上にした場合と下にした場合があったものと推定される。内面全面に煤が薄く附着している。3は降帯を貼り付けするもの、4～6は半截竹管による平行沈線文を施すもの、7～9は半截竹管による平行沈線文と円形竹管文を施すもの、10～14は半截竹管による爪形文を施すもの、15～18は半截竹管による爪形文間を磨り消すもの、19～26は2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、27～34は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、35～45は2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、46は2段LRの縄の縦位施文による単節斜縄文がみられるもの、47は1段LとRの縄の横位施文による羽状縄文がみられるもの、48は1段Rの縄の横位施文による無節斜縄文がみられるもの、49～51は1段Lの縄の横位施文による無節斜縄文がみられるもの、52は2段LRと前々段反燃りLLの横位施文による縄文がみられるもの、53～58は附加条付き縄による縄文がみられるものである。

59～61は網目状燃糸文を施すもの、62はS字状結節文を施すものである。

63～65は半截竹管による平行沈線文を施すもの、66は半截竹管による平行沈線文と円形竹管文を施すもの、67～73は半截竹管による爪形文を施すもの、74～76は半截竹管による爪形文と円形竹管文を施すもの、77・78は半截竹管による爪形文と平行沈線文で格子目状の文様を施すもの、79・80は櫛歯状工具による条線文、波状文を施すもの、81は櫛歯状工具による条線文、波状文と円形竹管文を施すもの、82は円形竹管文を施すもの、83は刺突文が施すもの、84～87は2段RLの縄(直前段多条)の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、88～100は2段RLの縄(直前段条数不明)の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、101～103は2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられるもの、104は2段LRの縄の縦位施文による単節斜縄文がみられるもの、105・106は附加条付き縄による縄文がみられるもの、107・108は結節回転文がみられるものである。

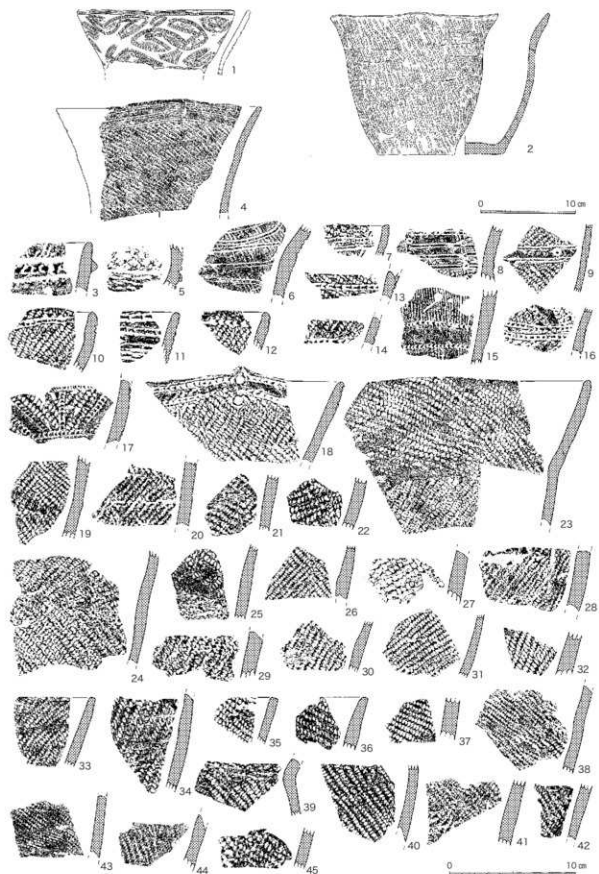
石器は、1が剥片、2～6が磨石、7～13が凹石、14・16が石皿、15は石皿転用の砥石か。



SI-1688

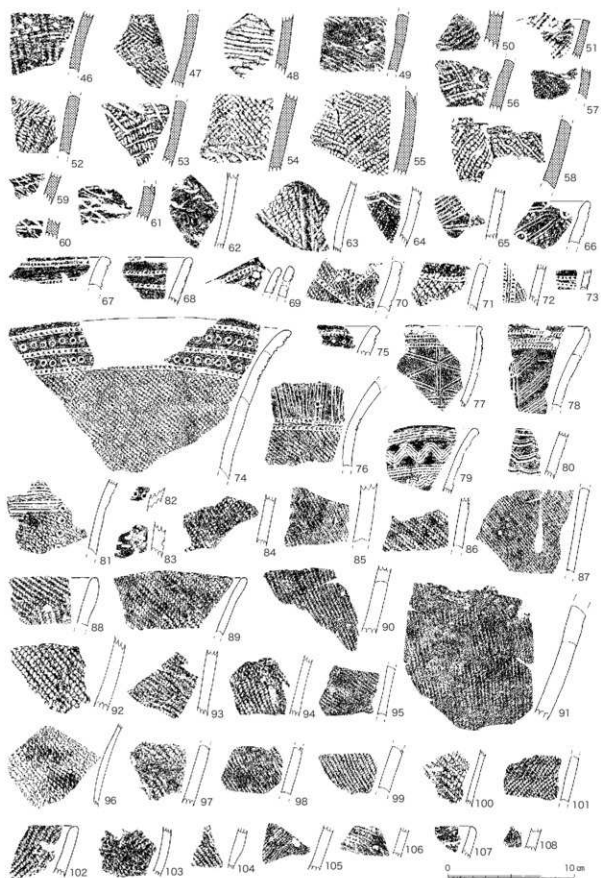
- 1 黒 褐色 数量のローム層状。今市・七本塚層を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 2 黒 褐色 少量の今市・七本塚層。炭化物質。数量のローム層状。ローム状。今市・七本塚ブロックを含む。やや粘性・しなりに富む。
- 3 黒 褐色 今市・七本塚層。少量のローム状。今市・七本塚層状。今市・七本塚ブロック。炭化物質を含む。やや粘性・しなりに富む。
- 4 黒 褐色 今市・七本塚層状。今市・七本塚ブロック。やや多量の今市・七本塚層。少量のローム層状。炭化物質を含む。やや粘性・しなりに富む。
- 5 灰 黄 褐色 ローム層状。少量の今市・七本塚層。数量のローム状。今市・七本塚層状。炭化物質を含む。やや粘性に欠き。ややしなりに富む。
- 6 濃い黄褐色 ローム層状。数量のローム状。今市・七本塚層状。今市・七本塚層を含む。やや粘性に欠き。ややしなりに富む。
- 7 灰 黄 褐色 やや多量のローム層状。今市・七本塚層。数量のローム状。今市・七本塚層を含む。やや粘性に欠き。ややしなりに富む。
- 8 黄 褐色 やや多量のローム層状。数量の今市層を含む。やや粘性に富み。しなりに富む。
- 9 濃い黄褐色 やや多量のローム層状。少量のローム状。数量の今市・七本塚層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。

第304図 SI-1688実測図

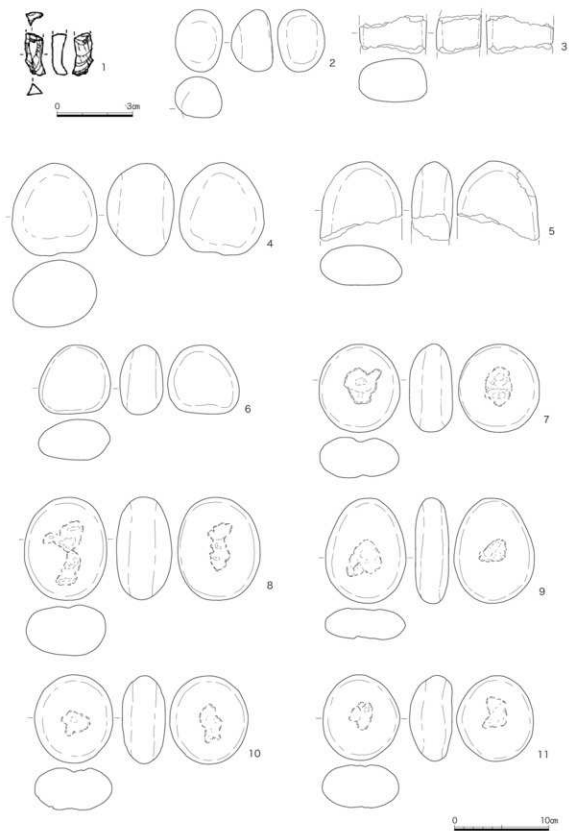


第305図 SI-1688出土土器実測図(1)

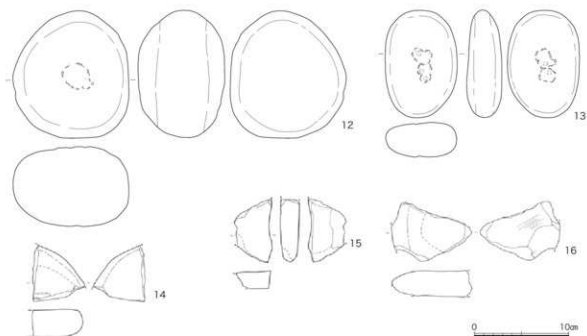




第306図 SI-1688出土土器実測図(2)



第307図 SI-1688出土石器実測図(1)



第308図 SI-1688出土石器実測図(2)

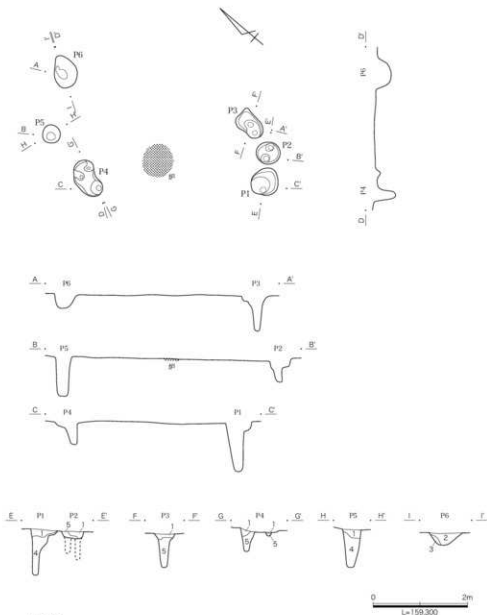
第93表 SI-1688出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1		剥片	1.7	0.7	0.45	1.28	黒曜石	
2		磨石	6.5	4.9	4.4	184.24	安山岩	
3		磨石	7.0	3.9	4.6	155.78	安山岩	
4		磨石	9.7	8.8	7.1	825.62	安山岩	
5		磨石	7.0	8.3	4.3	328.36	安山岩	
6		磨石	7.2	7.3	4.4	336.33	デイサイト	
7		凹石	9.3	8.5	4.5	448.16	安山岩	
8		凹石	10.8	8.6	5.8	646.86	安山岩(多孔質)	
9		凹石	11.1	8.3	3.5	439.33	閃緑岩	
10		凹石	9.3	8.1	4.5	369.19	安山岩(多孔質)	
11		凹石	9.0	8.0	4.5	384.50	安山岩	
12		凹石	13.4	12.0	9.0	1602.68	安山岩(多孔質)	
13		凹石	11.1	7.6	3.7	477.93	安山岩	
14		石皿	(8.0)	(7.2)	3.8	289.50	安山岩	表面のみ磨面として使用している。中央部に敲打による凹みあり。裏面に僅かに研磨痕が残る。
15		砥石	(8.8)	(5.3)	2.5	140.00	安山岩	表面及び右側を使用している。特に表・右側面、良く使用され滑らかである。石皿転用の砥石か。
16		石皿	(8.3)	(11.3)	3.7	406.10	安山岩	表面を磨面として使用し中央に向かって凹む。裏面は成形時の研磨痕が残る。

## SI-1689 (第309～311図、第94表)

I区、グリットE4区に位置する。埋没谷堆積土を除去後に検出した。柱とピットのみを検出で、建物の掘り込みは確認できなかった。柱穴は6本を検出し、いずれも深い掘り込みを持つ。

出土遺物は、黒浜式土器(1～6)、諸磯式土器(7～13)と浮島式土器(14)が出土している。1～3は黒浜式で有文のもの、4～6は黒浜式で縄文のみがみられるもの、7～9は諸磯式で有文のもの、10～13は諸磯式で縄文のみがみられるもの、14は浮島式土器である。石器は、1が凹石、2が石皿である。



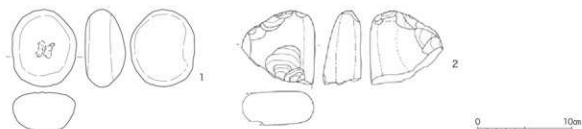
SI-1689

- 1 黒 褐色 少量のローム腐植、今市・七本飯粒、微量のローム粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに進む。
- 2 黒 色 少量の七本飯粒、微量のローム腐植、今市粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに進む。
- 3 黒 色 微量のローム腐植、今市・七本飯粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに進む。
- 4 に近い黄褐色 ローム腐植、少量のローム粒、今市・七本飯粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに欠く。
- 5 に近い黄褐色 中量量のローム腐植、微量のローム粒、今市・七本飯粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに欠く。

第309図 SI-1689実測図



第310図 SI-1689出土土器実測図



第311図 SI-1689出土土器実測図

第94表 SI-1689出土土器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1		円石	8.2	6.7	4.2	321.6	デイサイト	
2		石皿	(10.3)	(10.2)	4.7	710.3	安山岩	

第95表 縄文時代の竪穴建物跡一覧表

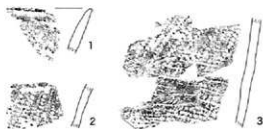
遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備	考	調査区	グリッド
SI-1067	4.62	4.50	0.16					II	G8
SI-1309	3.62	(3.12)	0.20					II	G8
SI-1366	3.92	3.32	0.16		<SI-1677			II	H9
SI-1459 (3.96)		3.40	0.16					III	E8
SI-1518	4.44	4.14	0.32					III	E8
SI-1592	3.00	2.80	0.26					III	F9
SI-1672	3.80	3.20	0.10					III	E8
SI-1674 (1.82)		(1.24)	0.46					III	E8
SI-1679 (7.08)		4.78	0.36		<SI-1143			II	G6
SI-1680 (4.42)		(2.20)	0.66					II	C6
SI-1688	8.04	(5.86)	0.44					II	E4
SI-1689						伊と柱穴のみの検出		I	E4

## 第二項 土 坑 (第312・313図、第96・97表、図版一六)

土坑は7基を検出した。多くは調査区南部の堅穴建物周辺で検出されているが、集落内に見られるような貯蔵穴群の形成はしていない。形態は円筒形もしくは不整形な円形プランである。SK-1468は不整形な大型土坑、SK-1701は下部が膨らむタイプの大型土坑である。

出土遺物は、少量の黒浜式土器と石器が出土している。1～3はSK-1708出土の黒浜式土器、4はSK-1707出土の黒浜式土器深鉢で、網目状燃糸文が施される。5はSK-792出土の凹石、6はSK-1341出土の打製石斧である。

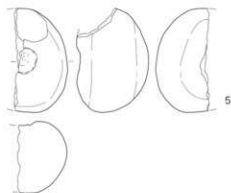
SK-1708



SK-1707



SK-792



SK-1341

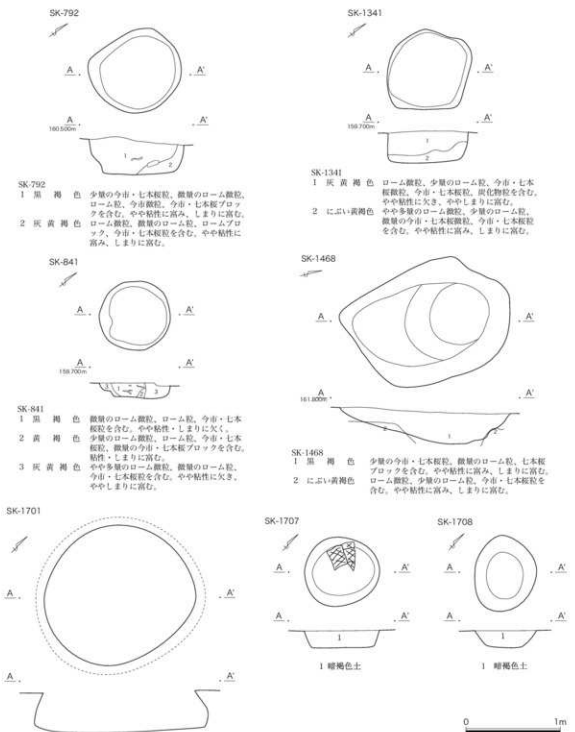


0 10cm

第312図 縄文時代の土坑出土遺物実測図

第96表 縄文時代の土坑出土石器観察表

実測 図No.	図版 番号	遺構	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
				長さ	幅	厚さ	重量		
5		SK 792	凹石	(11.1)	(5.3)	(7.5)	459.1	デイサイト	
6		SK 1341	打製石斧	8.5	7.7	2.1	89.60	ホルンフェルス	



第313図 縄文時代の土坑実測図

第97表 縄文時代の土坑一覧表

遺構番号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-792	円形	0.96	0.39		N-35°-E			II	D5
SK-841	円形	0.74	0.16		N-37°-E			II	D5
SK-1341	不整円形	0.86	0.85	0.33	N-38°-E			II	G7
SK-1468	不整円形	1.62	1.24	0.32	N-15°-W			III	D8
SK-1701	円形	1.60		0.43	N-44°-E		文化財課立ち会い	III	D9
SK-1707	円形	0.79		0.18	N-45°-E		文化財課立ち会い	III	E7
SK-1708	楕円形	0.80	0.65	0.17	N-44°-W		文化財課立ち会い	III	E7

## 第三項 埋没谷 (第314～330図、第98表、図版三四～三六)

埋没谷は、調査区中央東側に形成された窪地で、江川から浸食した谷の谷頭が埋没したものと推定される。南北約20m、東西約10mの範囲に黒色土が堆積、遺構確認面からの深さは約0.15mと浅いが、縄文時代に属する遺物が多数出土しており、捨て場として機能していたと考えられる。またSI-1688は埋没谷埋土を除去後に検出しており、集落の経営に伴って埋没していったものと考えられる。SI-1688は埋没谷埋土掘削中に確認しており、埋土の識別が困難で、埋没谷出土遺物中にSI-1688の遺物が含まれる可能性があることを付記しておく。さらに、当遺跡の全ての時期で、調査区中央部における遺構密度が低いことの原因は、埋没谷の存在に象徴される地盤の悪さと言えるだろう。

埋没谷からは、土器、石器共に多量に出土している。土器は黒浜式と諸磯式を中心に天矢場式、植房式系、大木式、浮島式の他、中期及び後期の土器も若干出土している。これらを以下のように分類して図示した。

## 第1群 多縄文系土器 (第314図1)

## 第2群 燃糸文系土器 (第314図2)

第1類 稲荷原式的な太い燃糸文がみられる破片

第2類 天矢場式土器

## 第3群 条痕文系土器

## 第4群 羽状縄文系土器

第1類 肋付文を配す土器 (第314図3～7)

第2類 「米」字状のモチーフおよびそれに類するモチーフを配す土器 (第314図8～14)

第3類 文様構成が不明な破片

- (1) 磨消縄文手法がみられる破片 (第314図15～21)
- (2) 半裁竹管による平行沈線がみられる破片 (第314図22～32)
- (3) 半裁竹管による爪形文がみられる破片 (第314図33～39)
- (4) 半裁竹管による変形爪形文がみられる破片 (第314図40、41)
- (5) 単沈線がみられる破片 (第314図42)
- (6) 整ったコンパス文がみられる破片 (第314図43～45)
- (7) 隆帯と円形竹管文がみられる破片 (第314図46)
- (8) 爪形文と円形竹管文がみられる破片 (第314図47)
- (9) 平行沈線文と円形竹管文がみられる破片 (第314図48、49)
- (10) 円形竹管文がみられる破片 (第314図50)
- (11) 太い工具による刺突文がみられる破片 (第315図51～54)
- (12) 繊維状工具によるナデ付けがみられる破片 (第315図55)

## 第4類 植房式系土器

- (1) 半裁竹管による有節平行沈線がみられる破片 (第315図56～59)
- (2) 半裁竹管による横位の波状沈線がみられる破片 (第315図60～62)
- (3) 櫛歯状工具による条線文、波状文がみられる破片 (第315図63～67)

## 第5類 縄文のみがみられる破片 (第6類に含まれる特殊な燃糸文を除く)

- (1) 2段RLとLRの原体を横位施文した羽状縄文がみられる破片 (第315図68～77)



- (2) 2段RLの原体を横位施文した単節斜縄文がみられる破片 (第315図78~94)
- (3) 2段RLの原体を横位施文した単節斜縄文がみられる破片 (第315図95~104)
- (4) 2段RLの原体を縦位施文した単節斜縄文がみられる破片 (第316図105、106)
- (5) 2段RLの原体を縦位施文した単節斜縄文がみられる破片 (第316図107)
- (6) 2段RLの斜め施文した条の縦走する縄文がみられる破片 (第316図108)
- (7) 2段RLの斜め施文した条の縦走する縄文がみられる破片 (第316図110)
- (8) 直前段反摺りもしくは直前段4条の原体による縄文がみられる破片 (第316図109)
- (9) 1段R+Lの原体を横位施文した羽状縄文がみられる破片 (第316図111~114)
- (10) 1段Rの原体を横位施文した無節斜縄文がみられる破片 (第316図115~117)
- (11) 1段Lの原体を横位施文した無節斜縄文がみられる破片 (第316図118~122)
- (12) 1段Rの原体を縦位施文した無節斜縄文がみられる破片 (第316図123)
- (13) 直前段反摺りLLの原体による縄文がみられる破片 (第316図124、125)
- (14) 直前段合摺りの原体による縄文がみられる破片 (第316図126)
- (15) 前々段反摺りの原体による縄文がみられる破片 (第316図127)
- (16) 附加条付き縄による縄文がみられる破片 (第316図128~136)
- (17) 一方の条で他方の条を纏った縄による縄文がみられる破片 (第316図137~140)
- (18) 単輪絡条体第1類による摺糸文がみられる破片 (第316図141~145)

第6類 大木2式土器

- (1) 口縁に細かい刺突を配す土器 (第316図146~150)
- (2) 網目状摺糸文がみられる破片 (第316図151~155)
- (3) S字状結節縄文がみられる破片 (第316図156~166)
- (4) 葎瓦状摺糸文がみられる破片 (第316図167~171)

第5群 諸磯式土器

第1類 肋骨文を配す土器 (第317図172~187)

第2類 「米」字文もしくは疎らな肋骨文を配す土器 (第317図188~201)

- ・磨消縄文手法がみられるもの
- ・全体の文様構成は不明であるが、縦、横、斜位の爪形文、平行沈線文がみられる破片

第3類 綾杉状、菱形状の文様を配す土器 (第317図202、203)

第4類 崩れた木の葉文を描く土器 (第317図204~207)

第5類 入り組んだモチーフを配す土器 (第317図208~211 第318図212~221)

- ・磨消縄文で文様を描く土器
- ・平行沈線で文様を描く土器 (縄文地)
- ・平行沈線で文様を描く土器 (無文地)

第6類 横位に爪形文を巡らし、縦位に円形竹管文を配す土器 (第318図222~228)

第7類 横位に平行沈線を巡らし、縦位に刺突列を配す土器 (第318図229、230)

第8類 半截竹管による横位の波状文、鋸歯文を配す土器 (第318図231~239)

第9類 柳歯状工具による横位の波状文を巡らし、縦位に円形竹管文を配す土器 (第318図240~248)

第10類 柳歯状工具による横位の条線文を巡らす土器 (第318図249)

第11類 櫛歯状工具による横位の押し引き文を巡らす土器（第318図250～255）

第12類 櫛歯状工具による横位の波状文、鋸歯文を巡らす土器（第319図256～269）

第13類 全体の文様構成が不明な土器

- (1) 細い爪形文でモチーフを描く土器（第319図270～275）
- (2) 幅広い爪形文でモチーフを描く土器（第319図276～280）
- (3) 平行沈線でモチーフを描く土器（縄文地）（第319図281～286）
- (4) 平行沈線でモチーフを描く土器（無文地）（第319図287、288）
- (5) 口縁部下に降帯を巡らし、爪形文を併走させる土器（第319図289～292）
- (6) 口縁部下に降帯を巡らし、平行沈線文を併走させる土器（第319図293～296）
- (7) 縦横に爪形文や平行沈線が交差する部分の破片（第319図297、298）
- (8) 横位の爪形文と斜位の平行沈線がみられる破片（第319図299～303）
- (9) 爪形文と円形竹管文を横位に巡らす土器（第319図304～306）
- (10) 爪形文と円形竹管文がみられる破片（第319図307、308）
- (11) 2条の爪形文間を無文とした部分がみられる破片（第319図309、310、617）
- (12) 口縁に沿って爪形文を巡らし、その部分の地文を無文とする土器  
（下部に縄文が確認できるもの）（第319図311～318）
- (13) 口縁に沿って爪形文を巡らし、その部分の地文を無文とする土器  
（口縁の無文地部分のみの破片）
- (14) 横位の爪形文がみられる破片（無文地、体部破片）（第320図319～321）
- (15) 横位の爪形文がみられる破片（縄文地：体部破片）（第320図322、323）
- (16) 横位の爪形文がみられる破片（縄文地：口縁部破片）（第320図324～329）
- (17) 爪形文（方向不明）がみられる破片（縄文地）
- (18) 爪形文（方向不明）がみられる破片（無文地）（第320図330～332）
- (19) 爪形文と平行沈線の両方がみられる破片（第320図333～337）
- (20) 半截竹管の端部による刺突がみられる土器（第320図338、339）
- (21) 横位の平行沈線がみられる破片（縄文地）（第320図340～343）
- (22) 横位と弧状の平行沈線がみられる破片（縄文地）（第320図344～346）
- (23) 横位の平行沈線がみられる破片（無文地）（第320図347、348）
- (24) 横位と弧状の平行沈線がみられる破片（無文地）（第320図349～351）
- (25) 斜位の平行沈線がみられる破片（無文地）（第320図352、353）
- (26) 円形竹管文が単独でみられる破片（縄文地）（第320図355～358）
- (27) 円形竹管文と条線文がみられる破片（第320図354）
- (28) 円形竹管文と平行沈線文がみられる破片（第320図359～361）

第14類 地文の縄文のみがみられる破片

- (1) 2段RLとLRの原体を横位施文した羽状縄文がみられる破片（第320図362～365）
- (2) 2段RLの原体を横位施文した単節斜縄文がみられる破片
  - ・直前段4条の原体によるもの（第320図366～372）
  - ・直前段3条の原体によるもの（第320図373～383）

- ・直前段2条の原体によるもの（口縁部破片）（第321図384～386）
  - ・直前段2条の原体によるもの（胴部破片）（第321図387～392）
  - ・直前段の条数が不明のもの（口縁部破片）（第321図393～396）
  - ・直前段の条数が不明のもの（胴部破片）（第321図397～410）
- (3) 2段RLの原体を縦位施した単節斜縄文がみられる破片（第321図411、412）
  - (4) 2段RLの原体を斜位に施した条の縦走る縄文がみられる破片（第321図413～417）
  - (5) 2段RLの原体を斜位に施した条の横走る縄文がみられる破片（第321図418、419）
  - (6) 2段RLの原体を縦位、横位に施した単節縄文がみられる破片（第321図420）
  - (7) 2段RLの原体を縦位、斜位に施した単節縄文がみられる破片（第321図421、422）
  - (8) 2段LRの原体を横位施した単節斜縄文がみられる破片
    - ・直前段4条の原体によるもの（第321図423、424）
    - ・直前段3条の原体によるもの（第321図425）
    - ・直前段の条数が不明のもの（口縁部破片）（第321図426～428）
    - ・直前段の条数が不明のもの（胴部破片）（第321図429～434）
  - (9) 2段LRの原体を縦位施した単節斜縄文がみられる破片（第321図440）
  - (10) 附加条付き原体による異条斜縄文がみられる破片（第321図435、436）
  - (11) 直前段反摺りの原体による縄文がみられる破片（第321図437～439）
    - ・直前段反摺りLLRの原体によるもの
    - ・直前段反摺りLLの原体によるもの
    - ・直前段反摺りRRの原体によるもの
  - (12) 前々段反摺りの原体による縄文がみられる破片
  - (13) 縄の結節部分の回転施文による結節回転文がみられる破片（第321図441）
  - (14) 一方の条が他方の条を繰った原体による縄文がみられる破片（第321図442、443 第322図444～469）
    - ・2段RLの原体を用いたもの
    - ・2段LRの原体を用いたもの
    - ・1段Lの原体を用いたもの
    - ・原体の種類は不明なもの

第15類 浅鉢形土器（第322図470～472）

第6群 浮島式土器

第1類 爪形文と平行沈線がみられる土器

- (1) 文様帯の上下を爪形文で画し、その間に対弧状の平行沈線文を施す土器（第322図473～475）
- (2) 横位爪形文と横方向の平行沈線がみられる破片（第322図476～480）

第2類 変形爪形文がみられる土器（第322図481～486）

第3類 有節平行沈線がみられる土器（第322図487～492）

第4類 横位の爪形文がみられる破片（第322図493～495 第323図496～504）

- ・燃糸文を地文とするもの
- ・無文地のもの

第5類 燃糸文を地文とし、平行沈線がみられる破片

(1) 横位、弧状、鋸歯状の平行沈線がみられる破片 (第323図505～523)

(2) 横位と斜位の平行沈線がみられる破片 (第323図524～528)

(3) 斜位の密な平行沈線がみられる破片 (第323図529～533)

(4) 縦位と斜位の平行沈線がみられる破片 (第323図534～536)

第6類 半藁竹管による密な刺突がみられる破片 (第323図537、538)

第7類 貝殻文を地文とし、平行沈線がみられる破片 (第323図539～542)

第8類 地文のみがみられる破片

(1) 貝殻文を地文とするもの (第323図543～555)

・アルカ属の貝殻腹縁を用いたもの

・肋脈のない貝殻を用いたもの

(2) 燃糸文を地文とするもの (第324図556～577)

・1段Rの縄を用いた単軸絡糸体を原体とするもの

・1段Lの縄を用いた単軸絡糸体を原体とするもの

・0段Rの縄を用いた単軸絡糸体を原体とするもの

・0段Lの縄を用いた単軸絡糸体を原体とするもの

(3) 直前段反摺りの原体を用い、燃糸文的な効果を上げたもの (第324図578～580)

第7群 指頭状工具による押捺と櫛歯状工具による刺突がみられる土器 (第324図581、582)

第8群 特殊な縄文を施す無織維の土器群

(1) キザミを加えた隆帯を配す土器 (第324図583、584)

(2) 単軸絡糸体第5類による網目状燃糸文がみられる体部破片 (第324図585～588)

(3) 前々段反摺りの原体による縄文と結節回転文がみられる破片 (第324図589～591)

第9群 前期末葉から中期初頭の土器

第1類 キザミを加えた口縁部破片 (第324図592、593)

第2類 複合口縁の土器 (第324図594～596)

第3類 縄文がみられる胴部破片

(1) 結節回転文がみられる破片 (第324図597～600)

(2) 結束羽状縄文がみられる破片 (第324図601～603)

(3) 2段RLの原体の横位施文による単節斜縄文がみられる破片 (第324図604～607)

(4) 2段LRの原体の横位施文による単節斜縄文がみられる破片 (第324図608、609)

第10群 後期初頭から前葉の土器

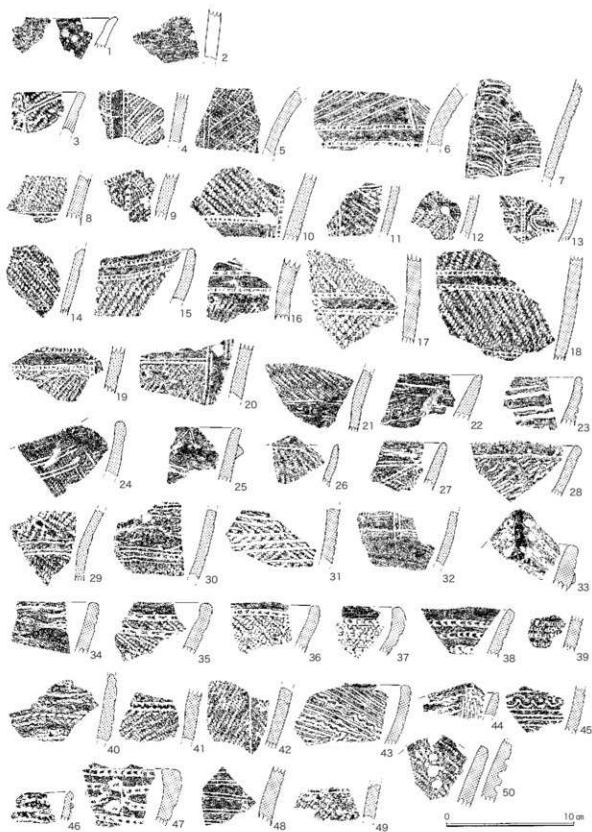
第1類 称名寺式土器 (第324図610～612)

第2類 列点を施す土器 (第324図613)

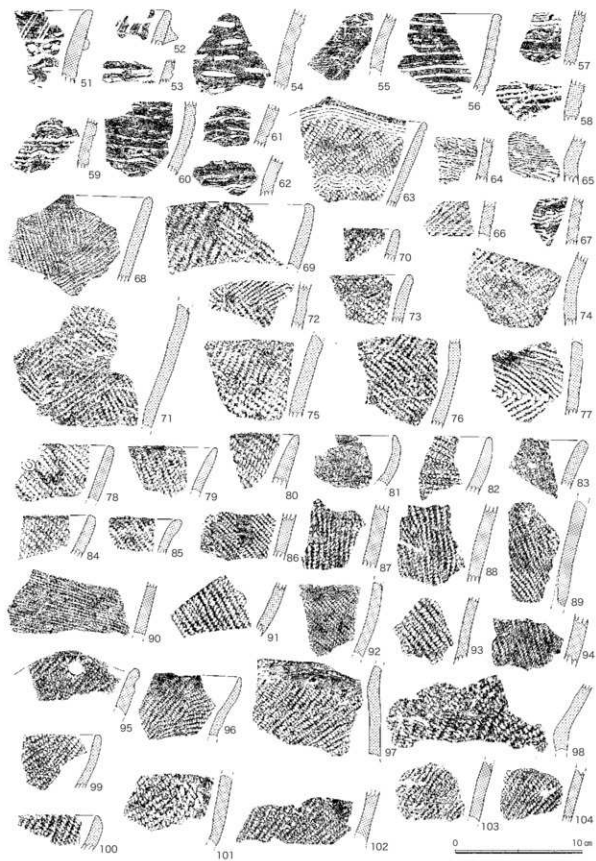
第3類 堀之内1式土器 (第324図614～616)

石器は石鏃、削器、剥片、磨石、凹石、石皿、多孔石と小型の石棒が出土している。

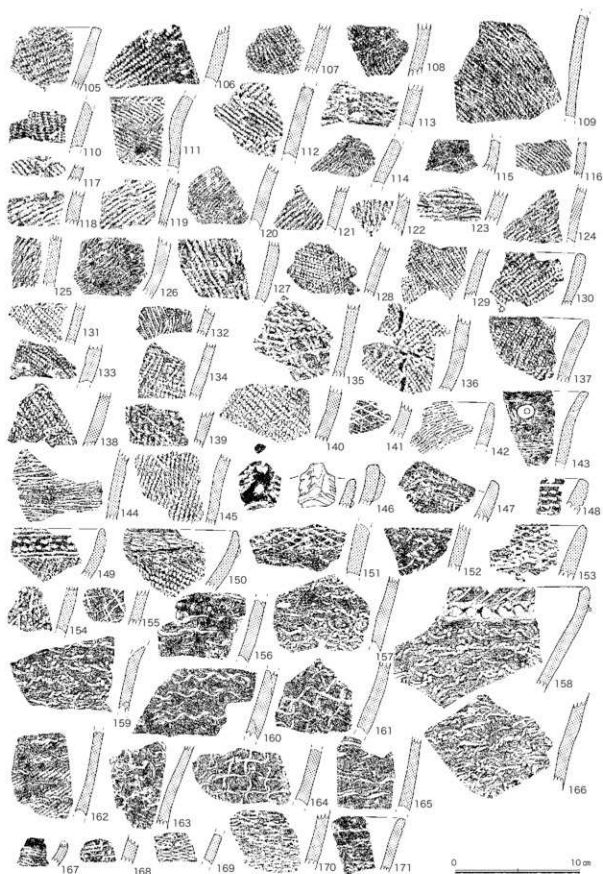
10は小型の石棒で、断面楕円形、両端はやや薄く丸く取める。1/3程のところにくびれ部分があり、垂飾として用いたものか。71は台付の石皿である。破面以外は成形時によく削られているとみえ、突出部端面まで滑らかである。図正面にのみ磨面がみられ、僅かに凹んでいる。



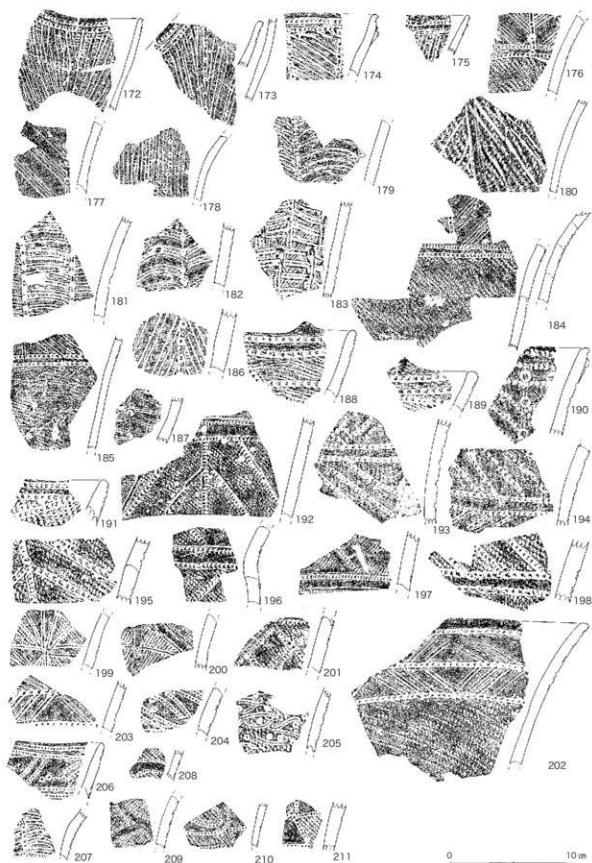
第314図 埋没谷出土土器実測図(1)



第315図 埋没谷出土土器実測図(2)

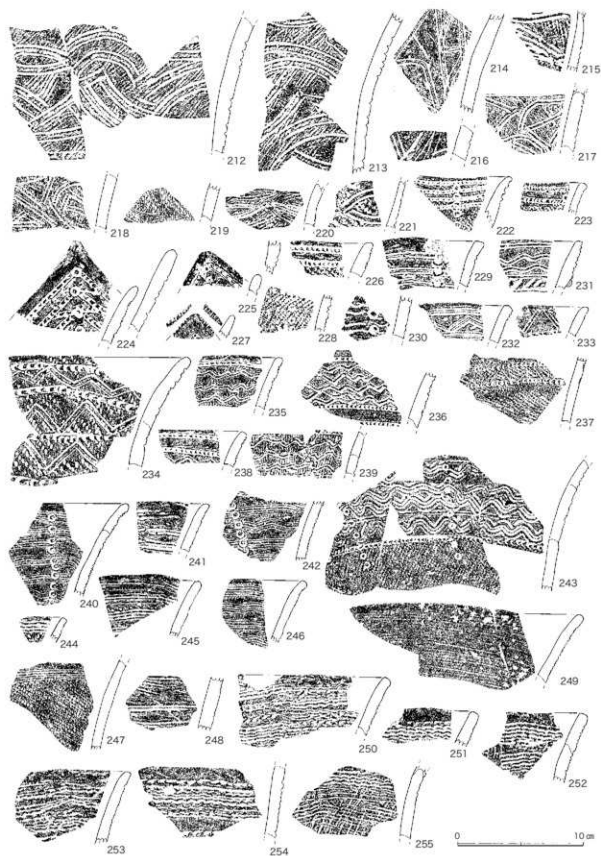


第316図 埋没谷出土土器実測図(3)

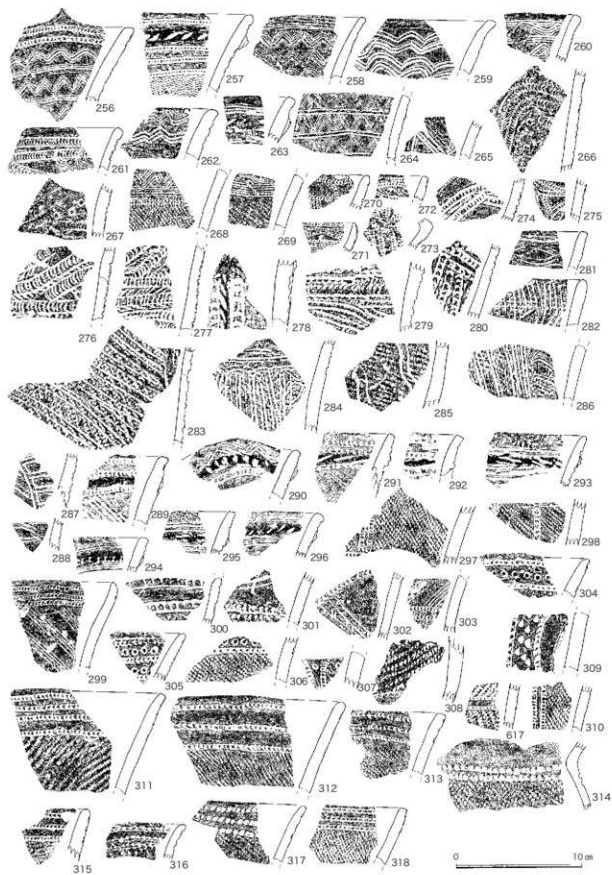


第317図 埋没谷出土土器実測図(4)

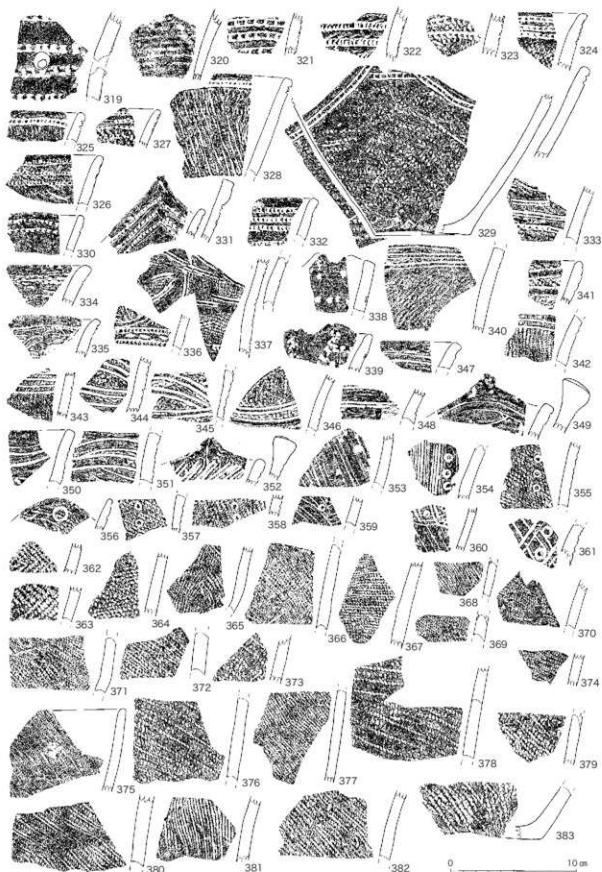




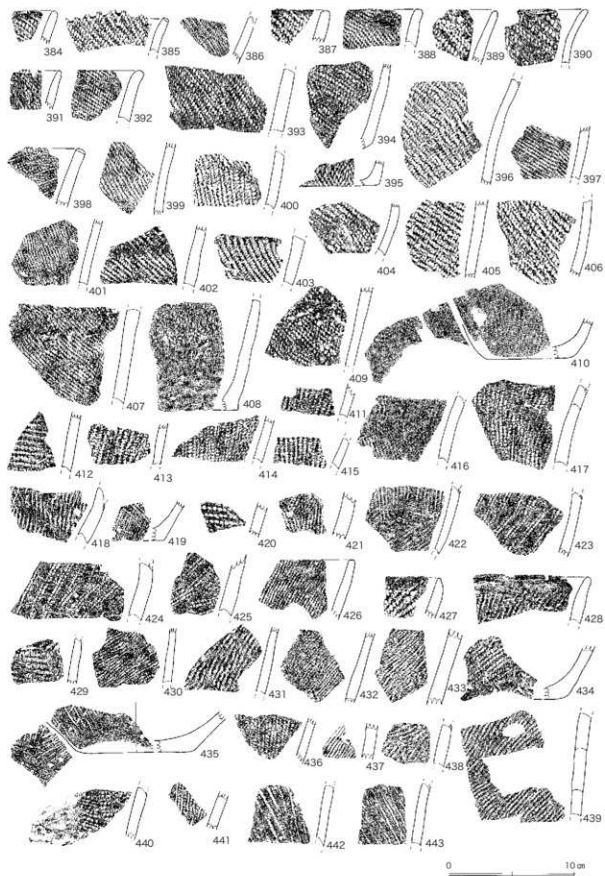
第318図 埋没谷出土土器実測図(5)



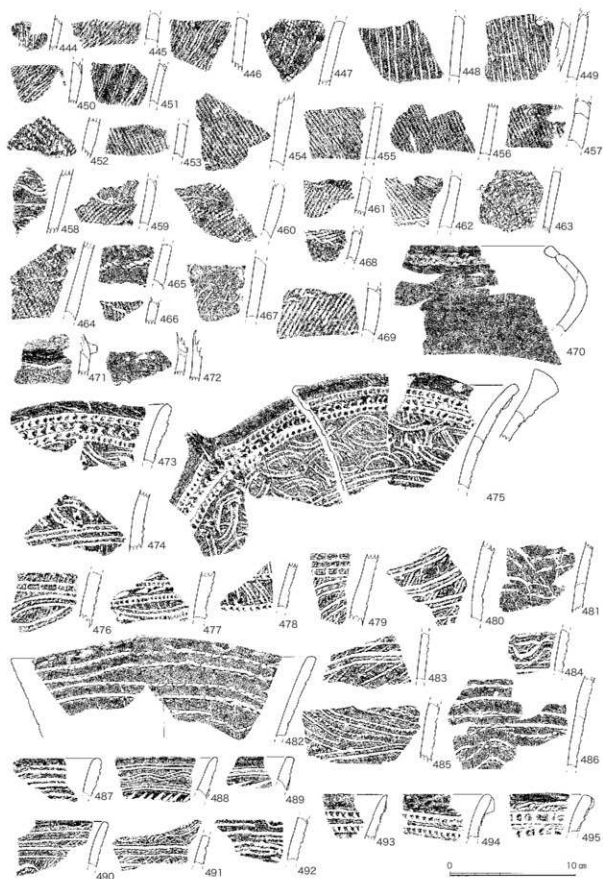
第319図 埋没谷出土土器実測図(6)



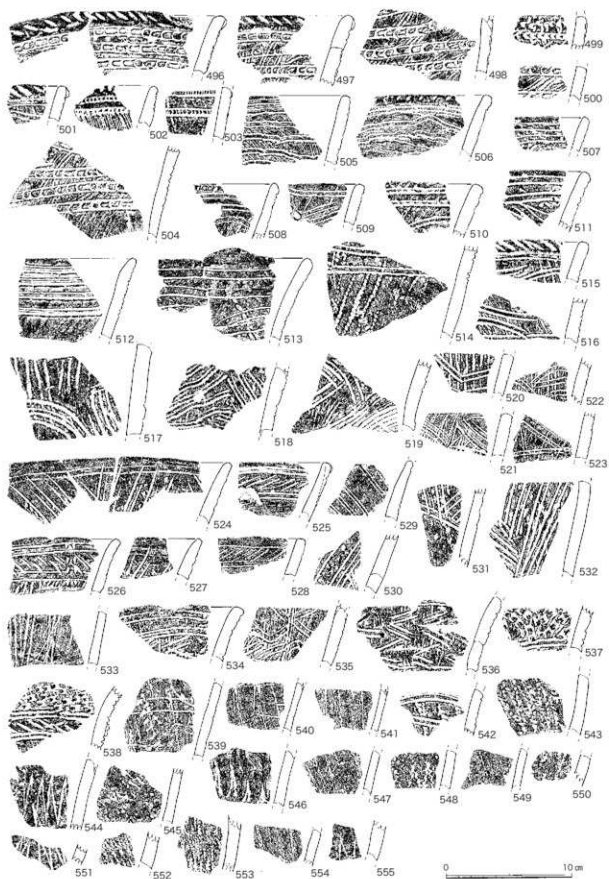
第320図 埋没谷出土土器実測図(7)



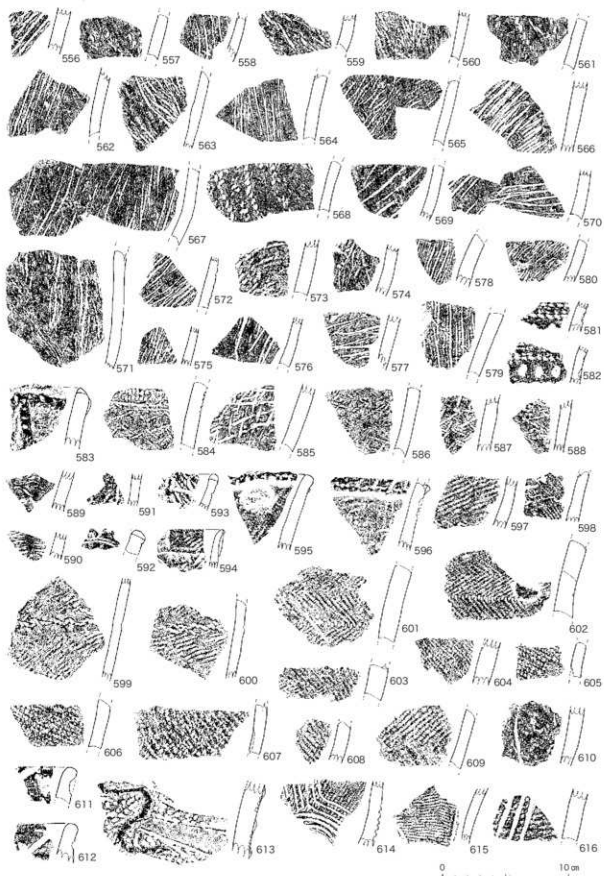
第321図 埋没谷出土土器実測図(8)



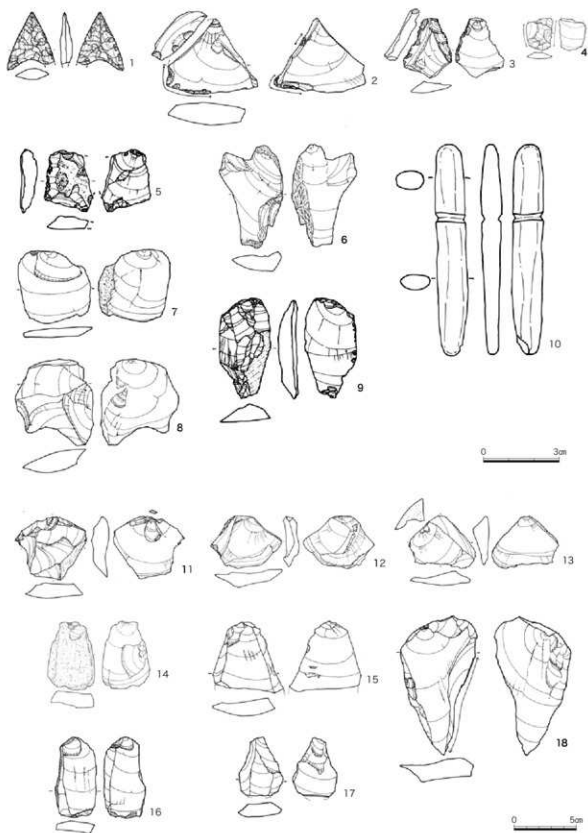
第322図 埋没谷出土土器実測図(9)



第323図 埋谷谷出土土器実測図(10)

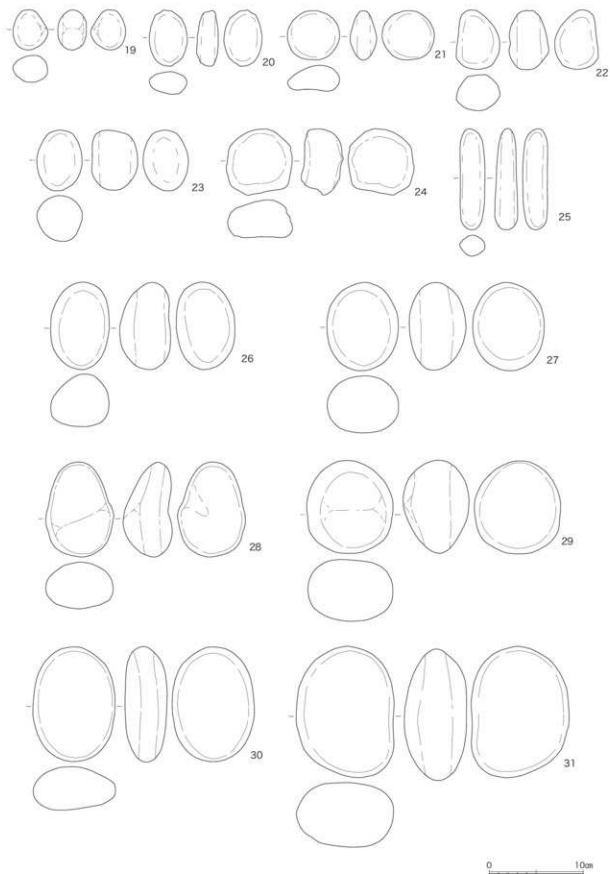


第324図 埋没谷出土土器実測図 (11)

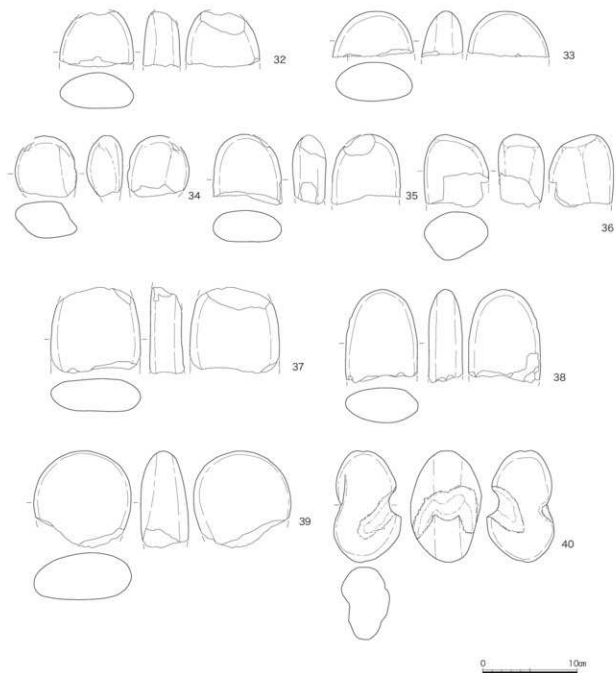


第325図 埋没谷出土石器実測図(1)

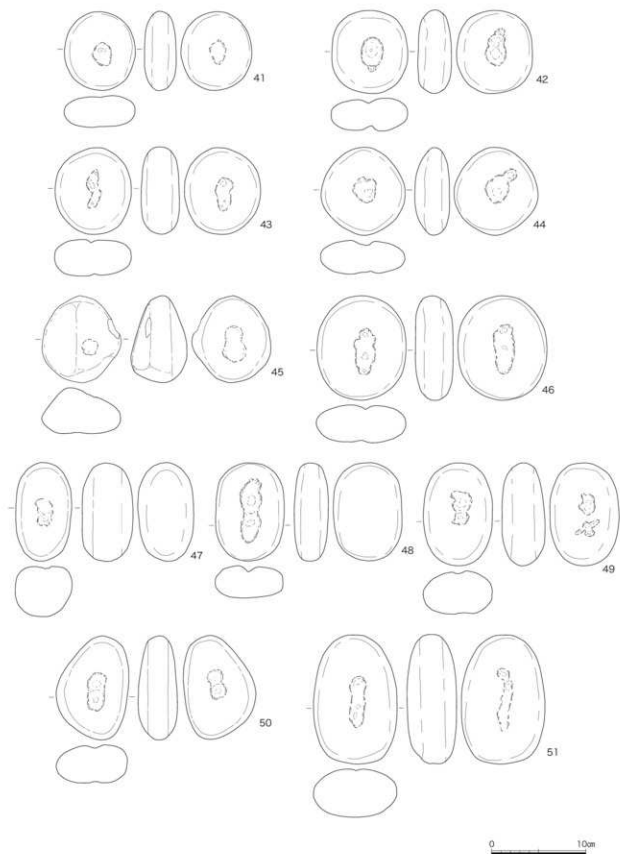




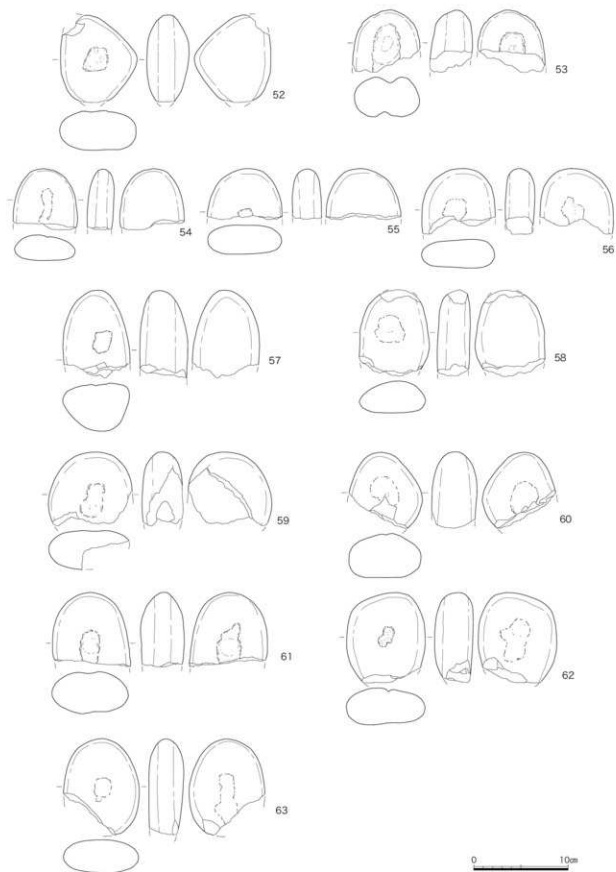
第326図 埋没谷出土石器実測図(2)



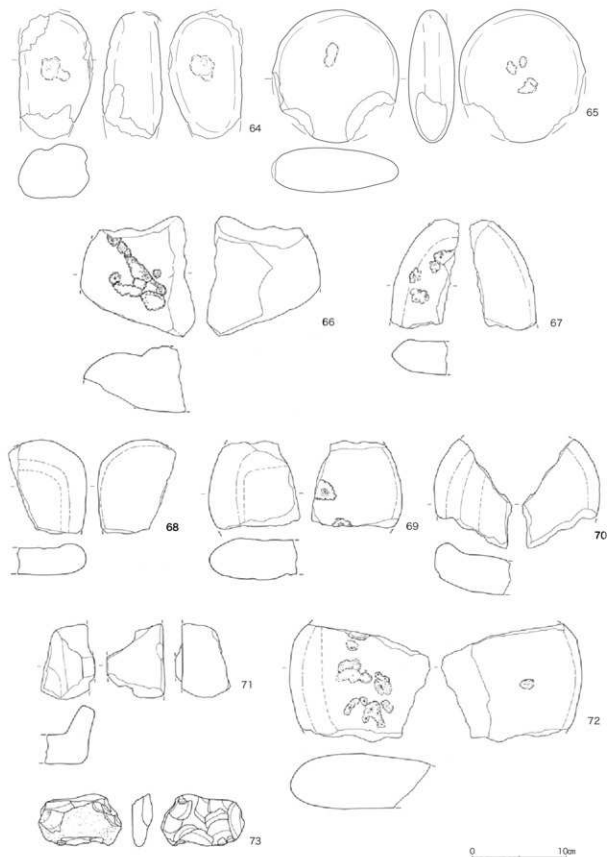
第327図 埋没谷出土石器実測図(3)



第328図 埋没谷出土石器実測図(4)



第329図 埋没谷出土石器実測図（5）



第330図 埋没谷出土石器実測図(6)

第98表 埋没谷出土石器観察表

実測 図版 番号	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	三六	石鏃	2.3	1.8	0.42	1.07	チャート	
2	三六	削片	3.0	3.6	0.9	8.33	頁岩	
3	三六	削片	4.8	3.9	0.9	13.68	チャート	
4	三六	削片	2.5	2.1	0.45	3.45	チャート	
5	三六	削片	2.45	2.1	0.5	2.28	黒曜石	使用面のある削片
6		削片	4.1	2.6	0.7	6.96	チャート	
7		削片	2.9	2.8	0.35	4.09	チャート	
8		削片	3.4	3.1	0.75	7.52	チャート	
9		削片	4.0	2.0	0.7	5.5	チャート	
10	三四	小型石鏃	8.4	1.2	0.7	12.19	頁岩	
11		削片	5.0	5.6	1.2	29.90	チャート	
12		削片	4.15	5.7	1.1	15.99	頁岩	
13		削片	4.2	5.3	1.1	19.30	頁岩	
14		削片	5.4	3.75	1.2	32.36	チャート	
15		削片	2.9	2.6	0.6	47.34	安山岩	
16		削片	3.2	1.6	0.45	4.11	チャート	
17		削片	2.3	1.75	0.5	1.99	チャート	
18		削片	5.5	3.1	0.7	10.99	頁岩	
19		磨石	4.1	3.7	3.0	52.9	安山岩	
20		磨石	5.7	4.0	2.3	74.08	チャート	
21		磨石	5.1	5.5	2.8	94.08	デイスサイト	
22		磨石	6.1	4.6	4.2	110.12	デイスサイト	
23		磨石	6.4	4.8	4.9	181.35	砂岩	
24		磨石	6.9	6.9	4.4	231.0	安山岩	
25		磨石	10.4	2.6	2.4	94.98	砂岩	
26		磨石	9.1	6.1	5.5	446.38	安山岩	平面楕円形・扁平ではない(収斂)
27		磨石	9.1	7.5	6.0	582.81	安山岩	平面楕円形・扁平ではない
28		磨石	9.9	7.2	5.2	389.3	安山岩(多孔質)	
29		磨石	9.6	9.1	7.0	797.51	安山岩	平面楕円形・扁平ではない
30		磨石	12.0	8.7	4.4	674.75	デイスサイト	
31		磨石	13.6	10.4	6.7	1331.4	デイスサイト	
32		磨石(5.5)	7.8	3.8		1225.56	安山岩	
33		磨石(8.0)	4.6	4.0		216.46	安山岩	
34		磨石	6.3	6.5	3.8	201.9	チャート	
35		磨石(6.3)	7.1	3.5		1238.83	安山岩	
36		磨石	7.5	6.8	5.0	317.3	安山岩	
37		磨石	8.4	8.9	3.5	436.19	安山岩	
38		磨石(8.9)	7.5	3.5		1362.74	安山岩(多孔質)	
39		磨石	10.1	10.3	5.0	749.0	デイスサイト	
40		磨石	11.6	7.1	7.5	609.9	安山岩(多孔質)	
41		凹石	8.3	7.4	3.3	317.17	閃緑岩	
42		凹石	8.8	8.0	3.5	323.77	安山岩	
43		凹石	9.2	8.0	4.0	430.94	安山岩	
44		凹石	9.3	8.8	3.6	309.93	安山岩	
45		凹石	9.1	8.2	5.8	468.54	閃緑岩	
46		凹石	11.0	9.3	3.9	576.06	閃緑岩	
47		凹石	10.4	5.9	5.2	473.17	安山岩	
48		凹石	10.4	7.2	3.6	351.80	安山岩(多孔質)	
49		凹石	10.9	7.2	4.5	457.22	閃緑岩	
50		凹石	10.8	10.6	3.1	447.13	閃緑岩	
51		凹石	13.7	8.7	5.1	924.92	安山岩	
52		凹石	9.1	8.0	4.3	378.46	閃緑岩	
53		凹石	6.6	7.0	4.4	182.2	閃緑岩	
54		凹石	6.4	6.7	2.8	160.0	安山岩	
55		凹石	5.2	7.8	3.1	180.18	安山岩	
56		凹石	6.9	7.6	3.1	227.6	閃緑岩	
57		凹石	9.2	6.9	5.1	465.72	閃緑岩	
58		凹石	9.1	7.3	3.4	336.69	閃緑岩	
59		凹石	7.6	8.6	4.3	289.9	閃緑岩	
60		凹石	8.0	7.5	4.6	322.08	閃緑岩	
61		凹石	7.4	8.0	4.6	382.23	閃緑岩	
62		凹石	9.4	8.7	4.0	459.16	安山岩	
63		凹石	10.2	7.9	3.6	392.1	閃緑岩	
64		凹石	13.4	7.8	6.3	753.45	閃緑岩	
65		凹石	14.0	13.2	4.8	1033.36	安山岩	
66		多孔石(12.0)	8.7	6.9		1327.2	安山岩	
67		石鏃(11.7)	8.0	3.5		359.0	安山岩	表面を凹ませ磨面とする。側面を研磨成形している
68		石鏃(10.1)	8(2)	2.9		360.6	安山岩	表面中央を凹ませ磨面とする。幅は丸みのある三角形を呈する。側面を直線的に面取りする
69		石鏃(9.3)	9(9)	4.5		572.2	安山岩	中央を凹ませ磨面とする。幅はつぶれた三角形を呈する。裏面に凹みあり
70		石鏃(11.6)	8(2)	4.0		387.4	安山岩	表面中央を凹ませ磨面とする。幅は断面三角形を呈する。中央付近は良く使用され磨りかである。裏面及び側面は研磨成形されている
71	三四	石鏃	18(0)	5(7)	3.1	189.6	安山岩	脚付石鏃か。表面は中央部の凹が僅かにみとれる。縁および裏面は丁寧に成形して作り出している
72		石鏃(13.0)	14(9)	5.9		1616.2	安山岩	表面に複数の凹の凹痕が認められる
73	三六	打製石鏃(5.4)	8(2)	2.1		93.1	安山岩	

#### 第四項 遺構外出土の縄文時代遺物（第331～354図、第99～102表、図版三四～三六）

遺構外出土の遺物は、前述の埋没谷の他、包含層、表土及び攪乱、表採、縄文時代以外の遺構からそれぞれ出土している。土器は、早期常世2式、田戸下層式、三戸式、前期黒浜式、大木2式、諸磯式、浮島式と少量の中期、後期の土器が出土しており、以下の様に分類して図示した。

##### 包含層出土の土器

###### 常世2式土器（第331図1、2）

###### 黒浜式土器

###### 有文土器

- ・平行沈線文がみられる破片（第331図3、4）
- ・爪形文がみられる破片（第331図5～11）
- ・半葎竹管による波状文、有節沈線文、コンパス文を施す土器（第331図12～17）
- ・櫛歯状工具による条線文を施す土器（第331図18）

###### 地文のみがみられる破片

- ・2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第331図19～21）
- ・2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第331図22～31）
- ・2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第331図32～40）
- ・3段の縄の横位施文による複節斜縄文がみられる土器（第331図41）
- ・1段の縄の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第331図42）
- ・附加条付き縄による縄文がみられる土器（第331図43～45）
- ・撚糸文がみられる土器（第331図46、47）
- ・原体の種類が不明の土器

###### 大木2式土器

- ・網目状撚糸文を施す土器（第331図48～52）
- ・S字状の結節回転文がみられる土器（第331図53、54）

###### 諸磯式土器

###### 有文土器

- ・平行沈線文を施す土器（第331図55～64）
- ・爪形文を施す土器（第331図65～74）
- ・櫛歯状工具による条線文、波状文を施す土器（第331図75、76）
- ・円形竹管文を施す土器（第331図77、78）

###### 地文のみがみられる破片

- ・2段RLの縄（直前段多条）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第331図79、80）
- ・2段RLの縄（直前段条数不明）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第332図81～95）
- ・2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第332図96～98）
- ・結節回転文がみられる土器（第332図99、100）

###### 浮島式土器

###### 有文土器

- ・変形爪形文、爪形文がみられる破片（第332図101～104）
- ・変形爪形文で画された施文域に平行沈線文を施す破片（第332図105～108）
- ・平行沈線文がみられる破片（第332図109～111）

地文（燃糸文）のみの破片（第332図112～116）

折り返し口縁の土器（第332図117）

無織維網目状燃糸文（第332図118～122）

前期末葉から中期初頭の縄文施文の土器（第332図123～127）

後期初頭～前葉の土器

- ・網取式土器の口縁部破片（第332図128、129）
- ・堀之内1式土器の口縁部破片（第332図130、131）
- ・縄文他に沈線を施す土器（第332図132～136）
- ・無文地に沈線を施す土器（第332図137）
- ・地文の条線文のみがみられる破片（第332図138）
- ・地文の縄文のみがみられる破片（第332図139～143）

### 包含層出土の石器

1・2は石鏃、3はノッチドスクレイパー、4は石錐、5・7は石核、6・8・9は剥片である。10～15は磨石、16～26は凹石、28は多孔石、27・29～31は石皿である。32・34・35は打製石斧、36は磨製石斧、33・37・38は礮器である。

### 表土および攪乱出土の土器

黒浜式土器

有文土器（第337図1～9）

地文のみがみられる破片

- ・2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第337図10～15）
- ・2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第337図16～22）
- ・2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第337図23～30）
- ・1段LとRの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第337図31～33）
- ・1段Lの縄の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第337図34）
- ・附加条付き縄による縄文がみられる土器（第337図35、36）
- ・燃糸文がみられる土器（第337図37～40）

諸磯式土器

有文土器

- ・平行沈線文を施す土器（第337図41～45）
- ・爪形文を施す土器（第337図46～51）
- ・櫛歯状工具による条線文、波状文を施す土器（第337図52～55）
- ・浮線文を施す土器（第337図56）

地文のみがみられる破片



- ・2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第337図57、58）
- ・2段RLの縄（直前段多条）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第337図59、60）
- ・2段RLの縄（直前段条数不明）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第337図61～63）
- ・1段Lの縄（直前段多条）の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第337図64～73）
- ・結節回転文がみられる土器（第338図74、75）
- ・撚糸文がみられる土器（第338図76～78）

浮島式土器（第338図79）

無織維網目状撚糸文（第338図80～85）

前期末葉から中期初頭の縄文施文の土器（第338図86）

中・後期の土器（第338図87～92）

### 表土・攪乱出土の石器

1は石鏃、2は石核、3～6は剥片で、3・4には使用痕が見られる。7～9は磨石、10～18は凹石、19は打製石斧である。

### 表採の土器

田戸下層式土器（第341図1）

黒浜式土器

有文土器

- ・爪形文や有節平行沈線文がみられる土器（第341図2～4）
- ・爪形文間を磨消す土器（第341図5、6）
- ・半截竹筥によるコンパス文がみられる土器（第341図7、8）
- ・櫛歯状工具による波状文、押引文がみられる土器（第341図9、10）

縄文のみがみられる破片

- ・2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第341図11、12）
- ・2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第341図13～17）
- ・2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第341図18～22）
- ・1段Lの縄の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第341図23）
- ・1段Rの縄の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第341図24、25）
- ・直前段多条もしくは直前段反撚りの縄による縄文がみられる土器（第341図26～28）
- ・単軸絡条体第1類による撚糸文がみられる土器（第341図29、30）

大木2式土器（第341図31～33）

諸磯式土器

有文土器

- ・平行沈線文を施す土器（第341図34～45）
- ・爪形文を施す土器（第341図46～53）
- ・爪形文間を磨消す土器（第341図54、55）
- ・刺突文を施す土器（第341図56、57）

- ・柳歯状工具による条線文、波状文を施す土器（第341図58～62）
- ・浮線文を施す土器（第341図63）

#### 縄文のみがみられる破片

- ・2段RLの縄（直前段多条）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第341図64～66）
- ・2段RLの縄（直前段条数不明）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第341図67～71）
- ・2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第341図72～74）
- ・1段Lの縄（直前段多条）の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第341図75）
- ・結節回転文がみられる土器（第341図76、77）

#### 浮島式土器

- ・変形爪形文を施す土器（第342図78）
- ・燃糸文を地文とし、平行沈線を施す土器（第342図79～82）
- ・燃糸文のみがみられる破片（第342図83）
- ・波状具段文がみられる土器（第342図84、85）

#### 前期末葉から中期初頭の縄文施文の土器

- ・単節斜縄文のみがみられる破片（第342図86、87）
- ・結節回転文がみられる破片（第342図88）

#### 中期の土器（第342図89、90）

#### 後期の土器（第342図91～94）

#### 表採の石器

1～3は石鏃、4は尖頭器、5は剃片である。6～11は磨石、12～19は凹石、20～22は石皿、23は礫器である。

#### 縄文時代以外の遺構出土の土器

##### 三戸式土器（第345図1）

##### 黒浜式土器

##### 有文土器

- ・平行沈線文がみられる破片（第345図2～10）
- ・爪形文がみられる破片（第345図11～14）
- ・円形竹管文がみられる破片（第345図15）
- ・単沈線がみられる破片（第345図16～18）
- ・隆帯がみられる破片（第345図19）
- ・半葎竹管による波状文、有節沈線文、コンパス文を施す土器（第345図20～29）
- ・柳歯状工具による波状文、有節沈線文、条線文（第345図30～41）

##### 地文のみがみられる破片

- ・2段LRとRLの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第345図42～51）
- ・2段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第346図52～64）
- ・2段RLの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第346図65～78）

- ・1段LとRの縄の横位施文による羽状縄文がみられる土器（第346図79）
- ・1段Rの縄の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第346図80～83）
- ・1段Lの縄の横位施文による無節斜縄文がみられる土器（第346図84～86）
- ・1段Lの縄の異方向施文による条が稜杉状の無節縄文がみられる土器（第346図87）
- ・附加条付き縄による縄文がみられる土器（第346図88～92）
- ・燃糸文がみられる土器（第346図93～99）
- ・原体の種類が不明の土器

#### 大木2式土器

- ・網目状燃糸文を施す土器（第346図100～106）
- ・S字状の結節回転文がみられる土器（第346図107、108）
- ・葎瓦状燃糸文が施される土器（第346図109、110）

#### 諸磯式土器

##### 有文土器

- ・平行沈線文を施す土器（第346図111～120）
- ・爪形文を施す土器（第347図121～130）
- ・爪形文と平行沈線や条線文等を施す土器（第347図131～135）
- ・櫛歯状工具による条線文、波状文を施す土器（第347図136～138）
- ・刺突文を施す土器（第347図139）
- ・浮線文を施す土器（第347図140、141）

##### 地文のみがみられる破片

- ・2段LとRLの横位施文による羽状縄文がみられる土器（第347図142）
- ・2段RLの縄（直前段多条）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第347図143～146）
- ・2段RLの縄（直前段条数不明）の横位施文による単節斜縄文がみられる土器（第347図147～154）
- ・結節回転文がみられる土器（第347図155、156）

#### 浮島式土器

##### 有文土器

- ・変形爪形文がみられる破片（第347図157～159）
- ・変形爪形文と平行沈線文がみられる破片（第347図160～162）
- ・平行沈線文がみられる破片（第347図163～168）
- ・爪形文がみられる破片（第347図169～171）

##### 地文のみの破片

- ・貝殻文がみられる破片（第347図172～174）
- ・燃糸文がみられる破片（第347図175～180）

#### 輪積み痕を残す土器（第347図181）

#### 前期末葉から中期中頭の縄文施文の土器（第347図182～186）

#### 阿玉台式土器（第347図187～189）

#### 中期後半の土器（第347図190、191）

#### 無織維網目状燃糸文（第347図192、193）

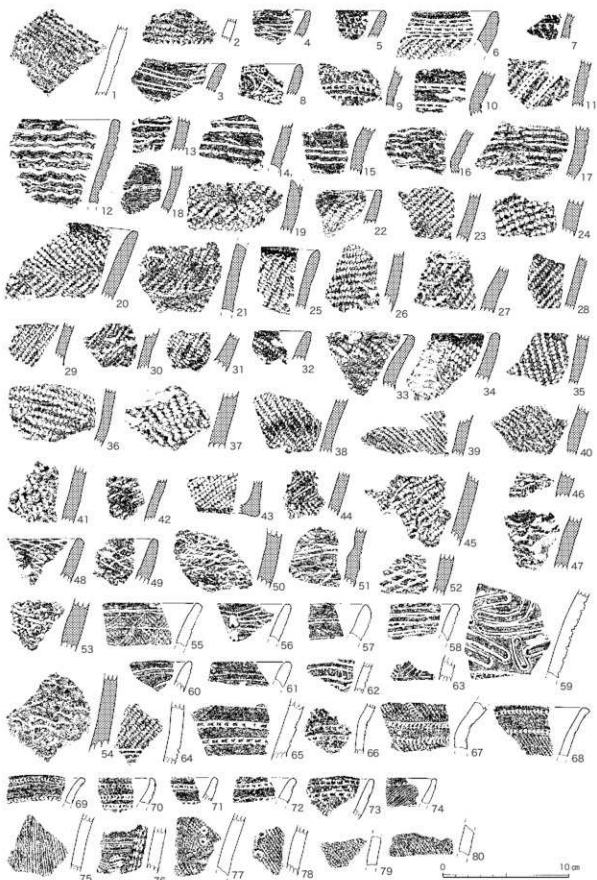
## 後期初頭～前葉の土器

- ・網取式土器（第347図194～196）
- ・縄文地に沈線を施す土器（第347図197～199）
- ・口縁から縄文のみを施す土器（第347図200～201）

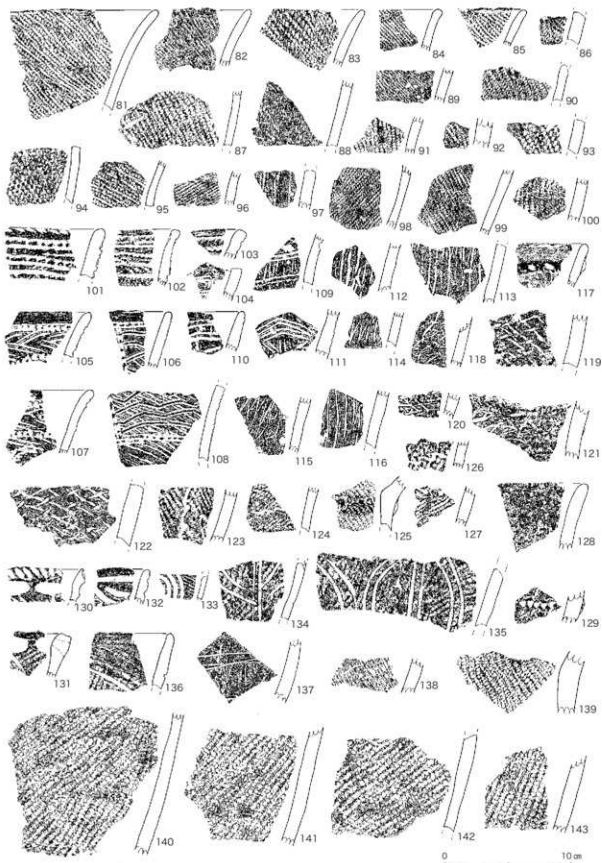
202は黒浜式土器の深鉢で、口縁部から胴部下位の約2/3が遺存する。全面に2段RLの縄の横位施紋による単節斜縄文を施す。原体の開端の条のほつれによるS字状の圧痕が部分的にみられる。これにより原体の閉端を上にして施文したことがわかる。

## 縄文時代以外の遺構出土の石器

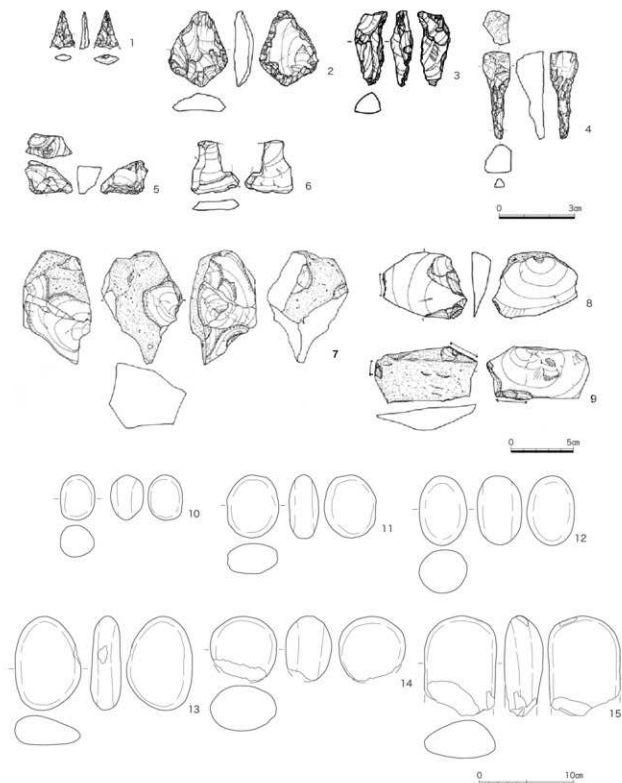
1～2は石畿、3は挿器、4はノッチドスクレイパー、5・6は石匙、7は石核、8～14・16・18～23は剥片で、12・13は使用痕が認められる。15は両極打法による剥片である。17は削器である。24～35は磨石、36～51は凹石、52・53は台石、54～59は石皿である。60は軽石で中央が摩耗して凹んでいる。小型石皿としておく。61は砥石で、4面が摩耗して平滑になっている。62は磨製石斧、63～67は礫器である。



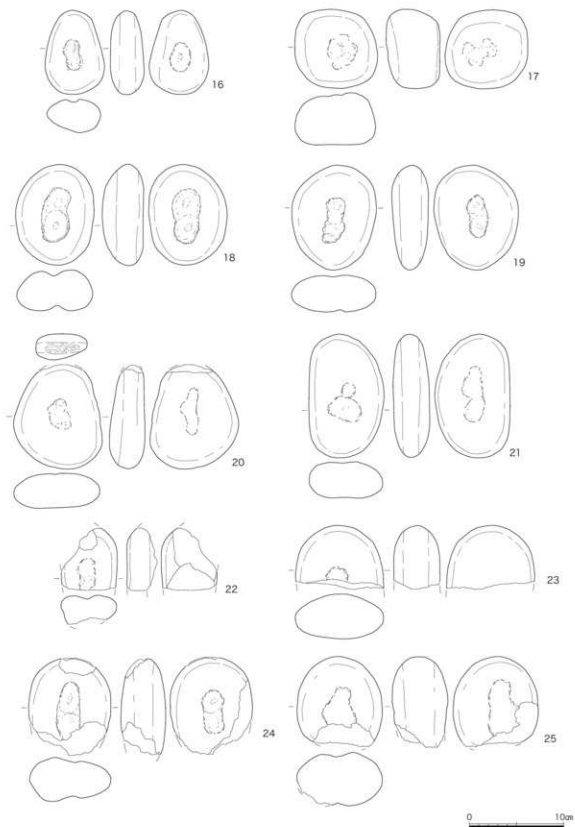
第331図 包含層出土土器実測図(1)



第332図 包含層出土土器実測図(2)

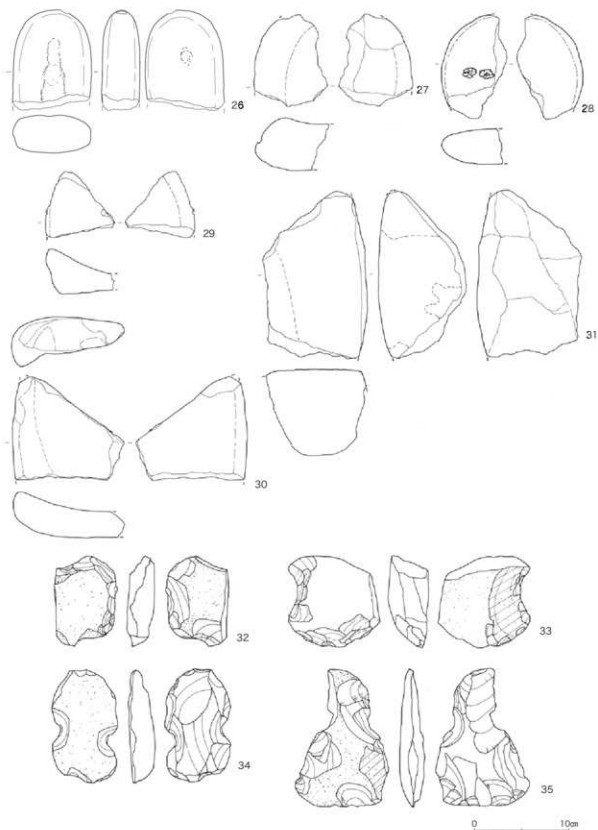


第333図 包含層出土石器実測図(1)

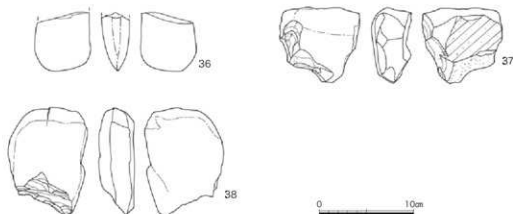


第334図 包含層出土石器実測図(2)





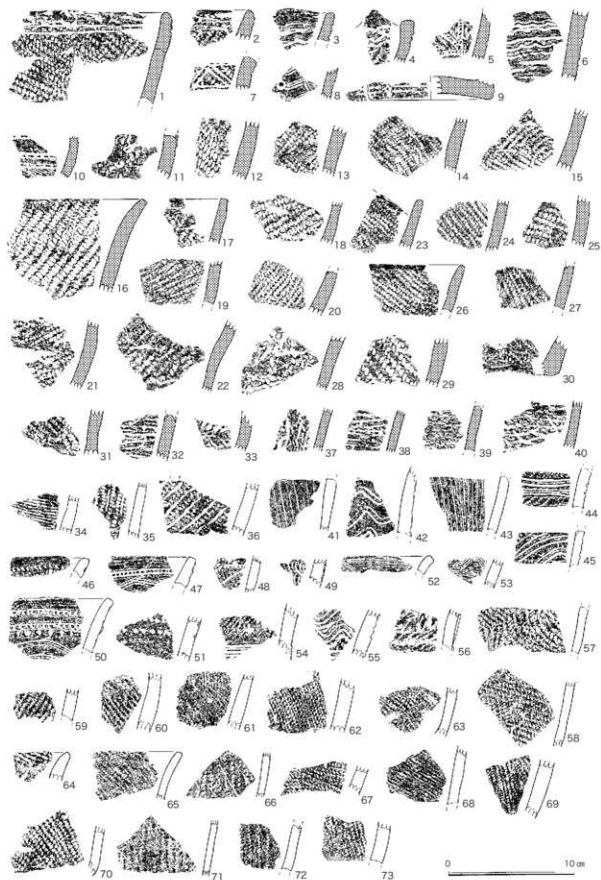
第335図 包含層出土石器実測図(3)



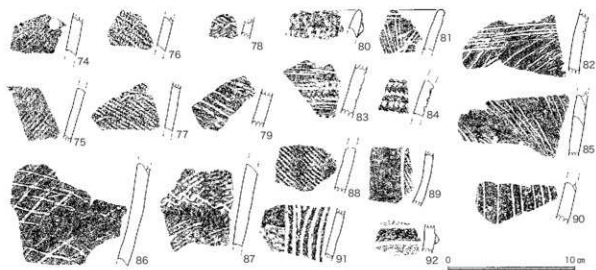
第336図 包含層出土石器実測図(4)

第99表 包含層出土石器観察表

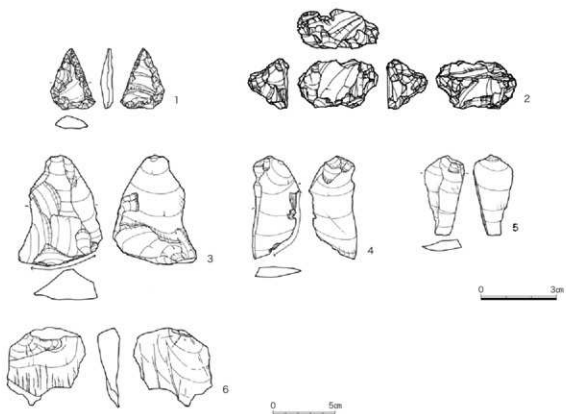
実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	三五	石鏃	1.5	0.9	0.25	0.34	チャート	
2	三五	石鏃	2.95	2.38	0.6	4.66	チャート	
3	三五	ノッチドス クレイパー	2.95	1.1	0.75	2.19	黒曜石	
4	三五	石鏃	3.55	1.1	1.15	3.37	チャート	
5	三六	石核	1.3	1.85	0.9	1.9	チャート	
6		剥片	2.1	1.9	0.4	1.30	黒曜石	
7	三四	石核	9.0	6.4	5.1	253.16	チャート	
8		剥片	3.4	2.55	0.75	5.98	チャート	
9	三六	剥片	4.3	8.2	1.7	72.79	チャート	
10		磨石	4.8	3.4	3.4	73.1	安山岩	
11		磨石	5.6	5.4	3.2	143.6	安山岩(多孔質)	
12		磨石	5.3	5.0	4.6	239.5	安山岩	
13		磨石	9.8	6.9	3.2	(303.6)	安山岩	
14		磨石	6.8	6.9	4.8	265.1	デイサイト	
15		磨石	10.6	7.5	4.0	433.1	安山岩	
16		凹石	8.9	6.2	3.5	224.9	デイサイト	
17		凹石	10.4	8.6	5.6	628.7	安山岩	
18		凹石	10.7	8.2	4.3	496.4	閃緑岩	
19		凹石	11.1	8.8	3.9	532.4	デイサイト	
20		凹石	11.0	9.3	3.7	533.9	安山岩	
21		凹石	13.1	4.3	7.9	597.6	閃緑岩	
22		凹石	6.6	5.8	3.1	121.47	砂岩	
23		凹石	6.7	9.1	4.8	410.18	安山岩	
24		凹石	10.1	8.6	4.7	478.75	閃緑岩	
25		凹石	9.2	8.9	5.8	594.99	安山岩	
26		凹石	10.5	8.3	4.0	574.3	安山岩	
27		石皿	(9.9)	(7.9)	5.0	396.0	安山岩(多孔質)	表面を磨面とする。無面は成形のために研磨している。
28		多孔石	(11.0)	(6.9)	3.7	308.0	安山岩	表面に敲打痕。裏面は僅かに摩耗している。
29		石皿	(7.0)	(7.5)	4.8	157.4	安山岩(多孔質)	表面を磨面とし良く使い込まれ楕円状に凹む中央に凹み。裏面に平らに成形している。
30		石皿	(11.0)	(11.9)	2.8	444.0	安山岩(多孔質)	表面を磨面とし縁は三角形にとがらせる。図上側面は敲打後に砥石として転用したためか砥面を形成する。裏面および側面も研磨している。
31		石皿	(17.8)	(11.0)	9.2	1923.0	安山岩(多孔質)	表面を磨面とする他側面も摩滅している。
32	三六	打製石斧	(9.6)	(6.5)	2.8	214.1	安山岩	
33		礫部	(9.7)	(9.7)	4.2	474.0	デイサイト	
34	三六	打製石斧	12.1	6.8-5.3	2.75	238.7	安山岩	
35	三六	打製石斧	14.8	(9.3)	2.6	324.4	安山岩	
36	三六	磨製石斧	(6.3)	6.0	3.0	165.8	安山岩	
37		礫部	(8.0)	(8.2)	4.0	339.4	デイサイト	
38		礫部	(11.4)	(12.4)	3.8	452.1	砂岩	



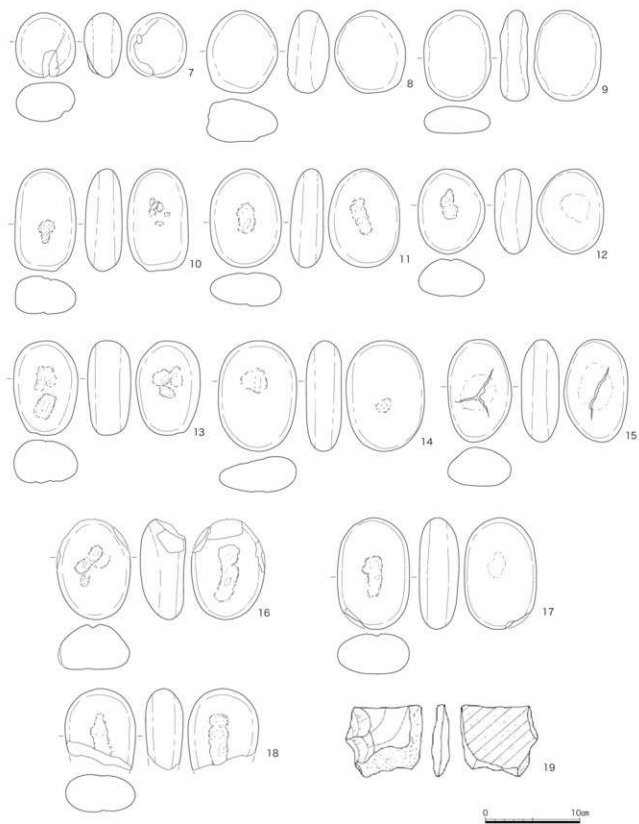
第337图 表土・攪乱出土土器実測图(1)



第338図 表土・攪乱出土土器実測図（2）



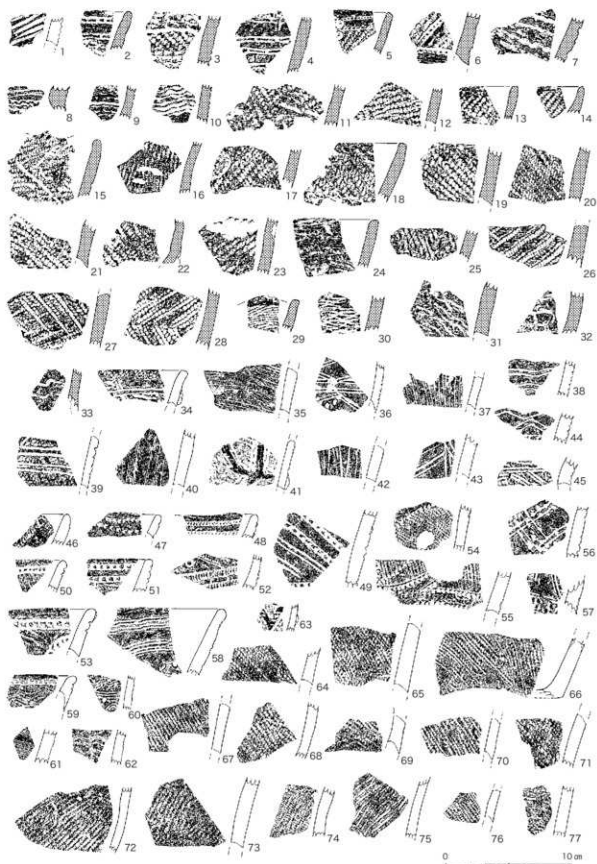
第339図 表土・攪乱出土石器実測図（1）



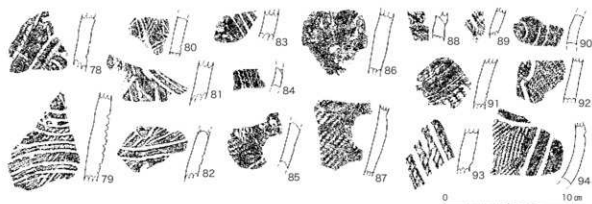
第340図 表土・攪乱出土石器実測図(2)

第100表 表土・攪乱出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	三五	石鏃	2.43	1.6	0.48	1.67	チャート	
2	三六	石核	1.9	3.2	1.6	7.67	黒曜石	
3		剥片	4.4	3.1	1.2	15.45	チャート	使用痕有り
4		剥片	4.1	1.8	0.4	3.21	チャート	側縁に使用痕有り
5		剥片	3.2	1.6	0.4	2.42	チャート	
6		剥片 (6.3)	(6.3)		(1.7)	48.1	安山岩	
7		磨石	6.7	6.3	4.0	226.8	安山岩	
8		磨石	8.6	7.5	4.5	280.5	安山岩 (多孔質)	
9		磨石	9.4	7.1	3.0	288.2	安山岩	
10		凹石	10.6	6.5	3.9	476.9	安山岩	
11		凹石	10.3	7.6	3.5	414.4	閃緑岩	
12		凹石	8.9	7.1	3.9	346.6	閃緑岩	
13		凹石	9.8	6.8	4.5	423.1	安山岩 (多孔質)	
14		凹石	11.5	8.3	3.7	529.6	安山岩	
15		凹石	10.7	6.7	4.0	401.2	安山岩	
16		凹石	10.4	7.8	4.8	510.0	チャート	
17		凹石	11.6	7.6	4.2	589.0	安山岩	
18		凹石	8.4	7.4	4.0	355.3	デイサイト	
19	三六	打製石斧 (6.6)	(8.0)	1.9		141.2	安山岩	



第341図 表採土器実測図(1)

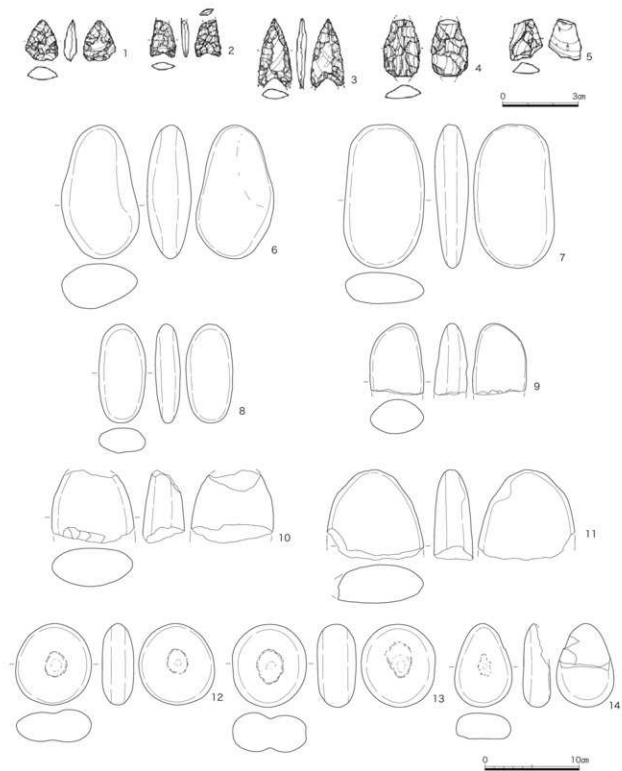


第342図 表採上器実測図(2)

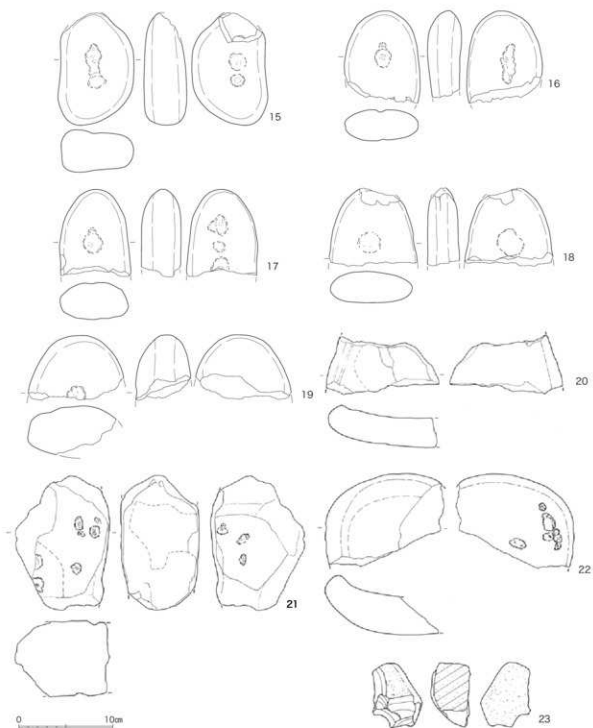
第101表 表採石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	三五	石鏃	1.65	1.3	0.5	0.98	チャート	
2	三五	石鏃	1.48	1.05	0.3	0.53	チャート	
3	三五	石鏃	2.75	1.3	0.35	1.34	頁岩	
4	三五	尖頭器	2.25	1.45	0.45	1.94	埴質頁岩	
5		刮片	1.55	1.3	0.4	0.80	黒曜石	
6		磨石	14.2	9.1	4.7	680.1	安山岩 (多孔質)	
7		磨石	15.1	9.5	3.3	691.2	安山岩 (多孔質)	
8		磨石	10.5	4.9	2.6	171.7	安山岩 (多孔質)	
9		磨石 (7.4)	5.5	(3.3)	(207.08)		安山岩	
10		磨石 (7.7)	8.5	4.1	(347.9)		安山岩	
11		磨石 (9.6)	(10.0)	4.1	(528.4)		安山岩 (多孔質)	
12		凹石	8.6	7.9	3.2	336.08	安山岩	
13		凹石	8.8	7.7	4.0	373.36	安山岩 (多孔質)	
14		凹石	8.8	6.0	2.9	(191.08)	安山岩	
15		凹石 (11.6)	7.6	4.3	(624.03)		安山岩	
16		凹石 (9.3)	7.8	3.5	(371.74)		安山岩	
17		凹石 (8.5)	7.2	4.1	(339.64)		四稜岩	
18		凹石 (8.1)	9.1	3.3	(344.33)		安山岩	
19		凹石 (6.8)	(9.4)	(5.7)	(453.80)		四稜岩	
20		石皿	(6.1)	(12.0)	3.2	262.7	安山岩	表面中央を凹ませて磨面とする。縁の断面はつぶれた低い三角形を呈する。裏面は中央部を研磨、成形している。
21		石皿	(14.4)	(10.0)	8.2	1249.2	安山岩 (多孔質)	表及び右側面の一部に僅かな磨面
22		石皿	(10.0)	(12.2)	4.1	579.2	安山岩	表面を凹ませ磨面とする。縁は断面三角形になるよう成形。裏面側縁部には整形のために敲打痕がみられる。
23		礫器	(6.9)	(5.2)	4.0	163.7	デイサイト	

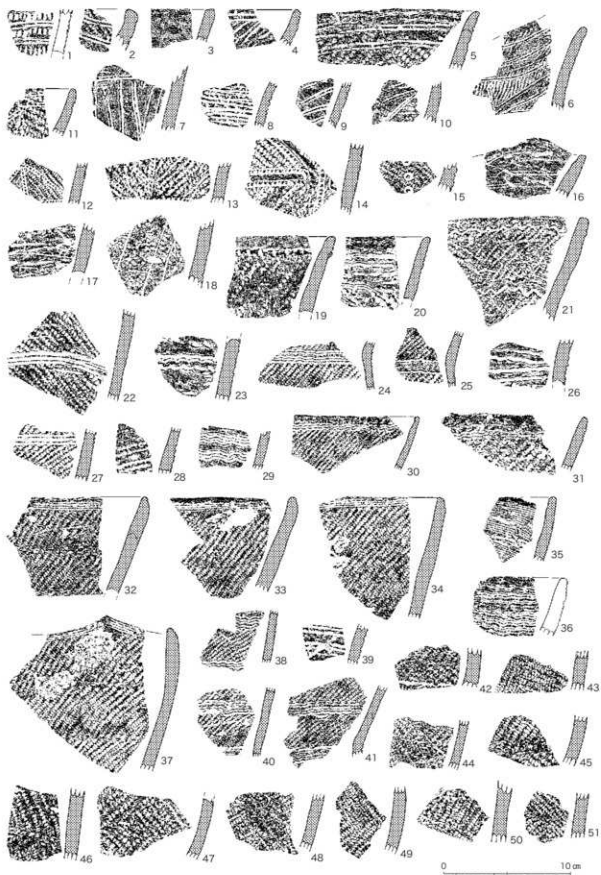




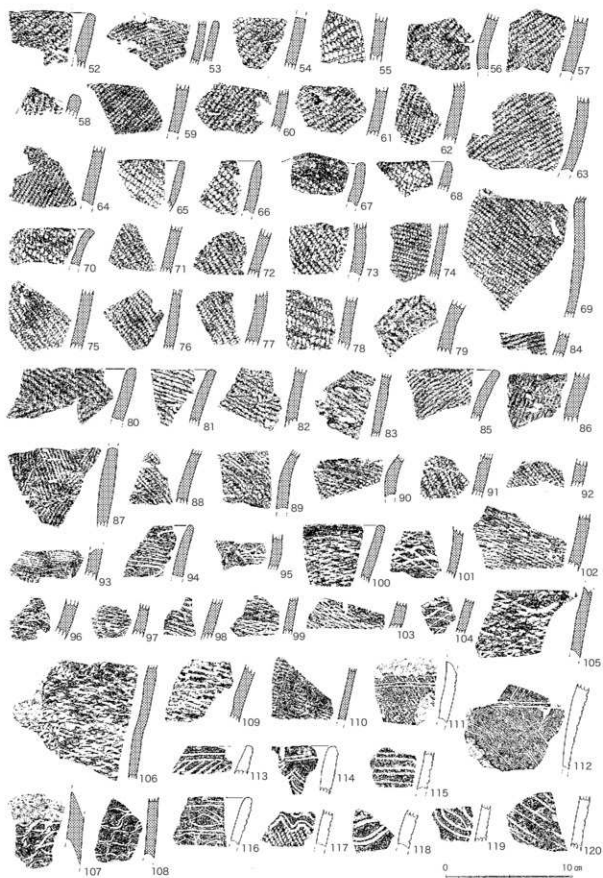
第343図 表採石器実測図(1)



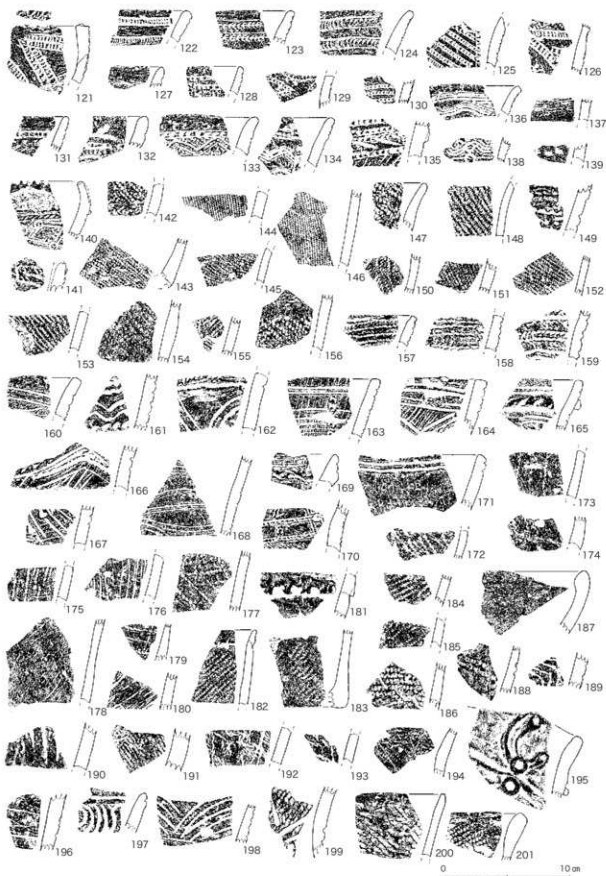
第344図 表採石器実測図(2)



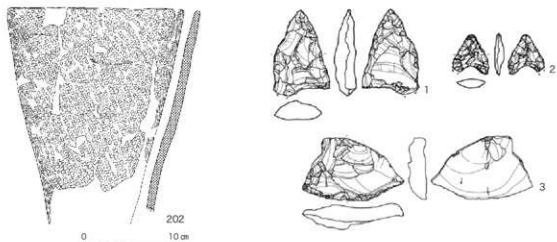
第345図 縄文時代以外の遺構出土土器実測図(1)



第346図 縄文時代以外の遺構出土土器実測図(2)



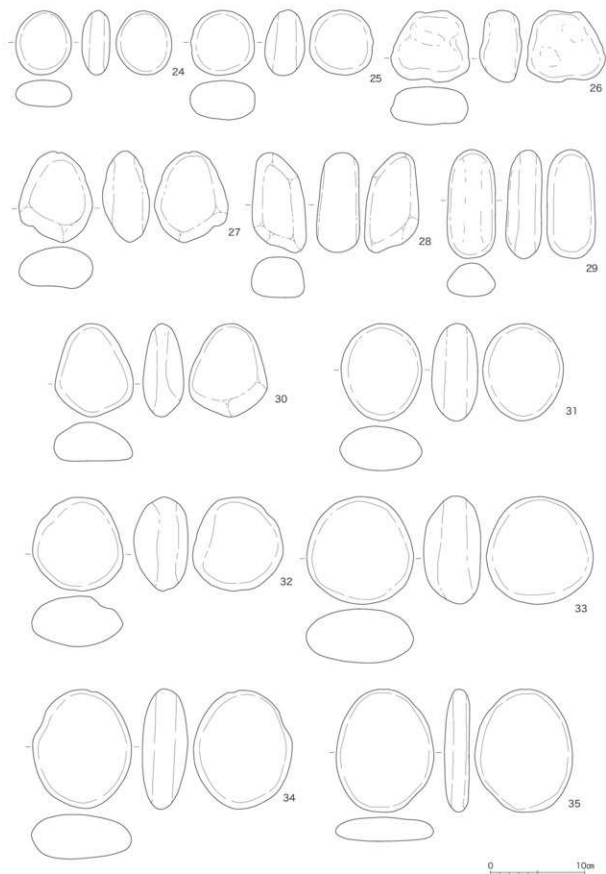
第347図 縄文時代以外の遺構出土土器実測図(3)



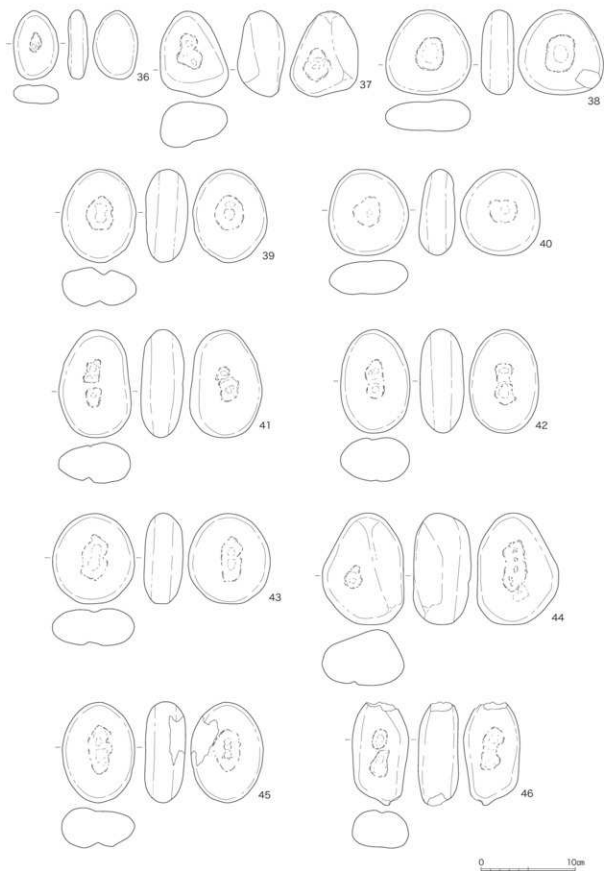
第348図 縄文時代以外の遺構出土土器実測図（4）



第349図 縄文時代以外の遺構出土土器実測図（1）

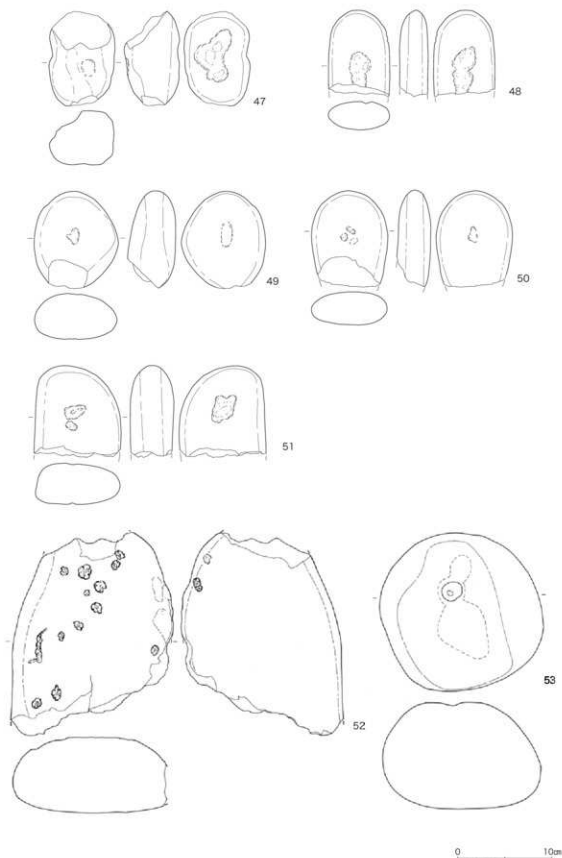


第350図 縄文時代以外の遺構出土石器実測図(2)

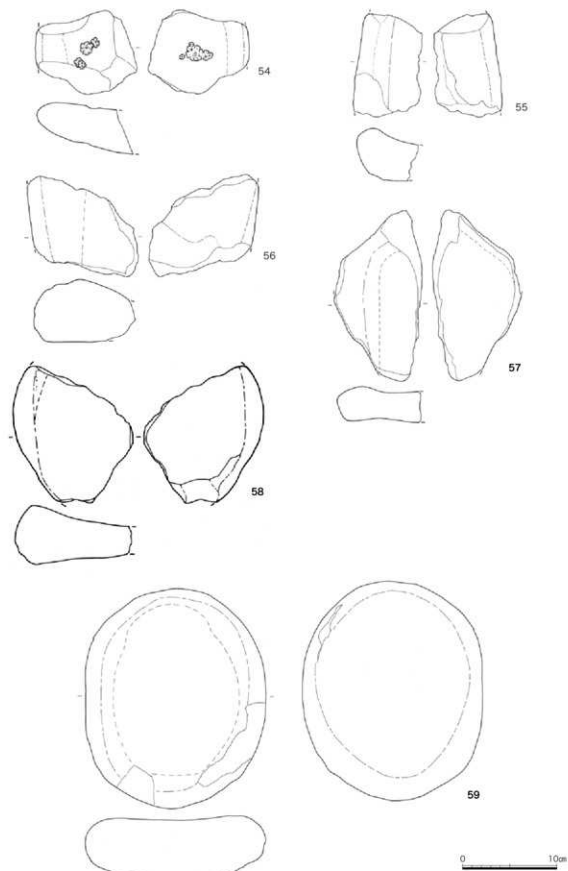


第351図 縄文時代以外の遺構出土石器実測図(3)

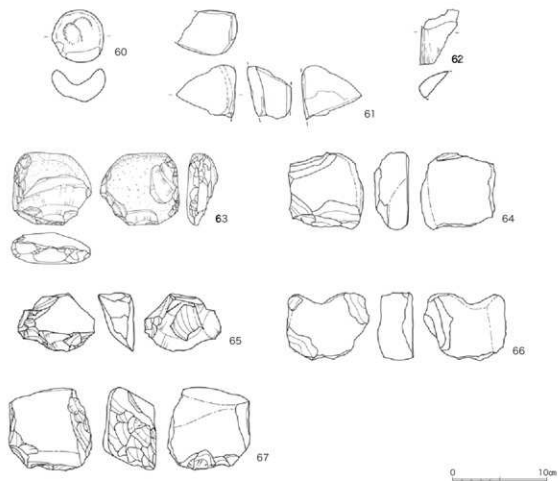




第352図 縄文時代以外の遺構出土石器実測図(4)



第353図 縄文時代以外の遺構出土石器実測図(5)



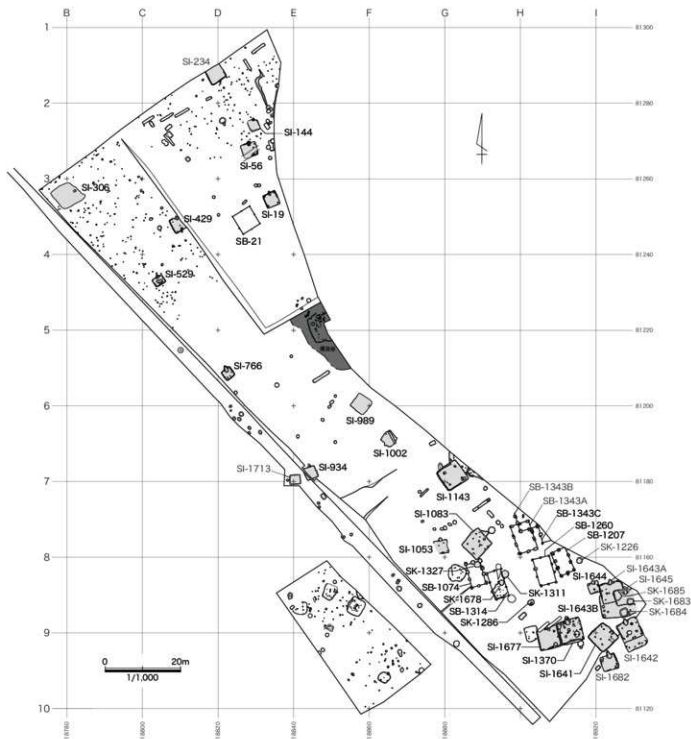
第354図 縄文時代以外の遺構出土石器実測図(6)

第102表 縄文時代以外の遺構出土石器観察表

実測 図No	図版 番号	種類	寸法 (cm, g)				重量	石質	備考	出土位置
			長さ	幅	厚さ					
1	三五	石鏃	3.4	2.75	0.75	5.71		チャート	SI-1083	
2	三五	石鏃	1.6	1.45	0.35	0.58		チャート	SI-766	
3	三五	鏃頭	5.1	8.0	1.4	53.4		チャート	SI-1143	
4	三五	ノックドスク レイター	6.3	3.1	0.9	17.83		チャート	SK-1685	
5	三五	石鏃	6.0	1.9	0.95	11.52		珉質頁岩	SB-1343 P5	
6	三五	石鏃	4.5	6.4	1.0	23.40		火山岩	SI-1143	
7	三六	石核	1.7	1.7	1.7	3.50		チャート	SI-766	
8		削片	1.3	0.9	0.3	0.37		チャート	SK-1295	
9		削片	1.8	1.6	0.3	0.86		チャート	SK-1	
10		削片	2.2	3.0	0.7	4.05		チャート	SI-766	
11		削片	3.1	2.3	0.3	1.63		チャート	SI-234	
12	三六	削片	5.9	3.7	0.8	25.94		チャート	SI-306	
13	三六	削片	3.5	2.8	0.5	4.45		チャート	SK-1308	
14		削片	3.85	2.8	1.15	11.12		チャート	SI-1682	
15	三五	両端打込削片	3.65	3.2	0.95	14.14		チャート	SI-1643	
16		削片	3.6	3.7	0.65	7.42		チャート	SI-1143	
17	三五	側溝	3.2	2.45	1.0	6.37		珉質頁岩	SI-766	
18		削片	4.2	2.8	0.85	8.02		デイサイト	SI-1083	
19		削片	3.15	3.3	1.4	15.58		チャート	SK-1	
20		削片	3.6	4.0	1.4	21.04		火山岩	SK-532	
21		削片	4.8	4.3	1.7	25.25		デイサイト	SI-1143	
22		削片	3.5	7.5	0.8	26.75		デイサイト	SI-1642	
23		削片	6.0	6.6	2.7	91.95		チャート	SK-1327	
24		磨石	6.8	5.9	2.9	144.3		火山岩	土師遺構直在	
25		磨石	6.9	6.7	4.2	289.4		火山岩	土師遺構直在	
26		磨石	7.6	8.2	4.4	337.7		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
27		磨石	9.6	7.7	4.8	397.2		火山岩	土師遺構直在	
28		磨石	10.5	5.5	4.5	431.4		火山岩	土師遺構直在	
29		磨石	11.5	5.1	3.7	334.1		火山岩	土師遺構直在	
30		磨石	9.9	8.2	4.2	444.7		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
31		磨石	10.3	8.5	4.7	598.1		火山岩	土師遺構直在	
32		磨石	10.0	9.5	5.7	639.2		火山岩	土師遺構直在	
33		磨石	11.4	11.1	6.0	1093.4		火山岩	土師遺構直在	
34		磨石	12.6	10.4	4.8	894.2		火山岩	土師遺構直在	
35		磨石	13.0	10.2	2.7	519.7		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
36		凹石	7.3	4.7	2.1	75.6		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
37		凹石	9.0	7.1	5.0	356.3		火山岩	土師遺構直在	
38		凹石	9.0	8.9	3.4	409.6		凹線岩	土師遺構直在	
39		凹石	9.8	7.8	4.4	379.9		火山岩	土師遺構直在	
40		凹石	9.1	8.3	3.8	398.2		火山岩	土師遺構直在	
41		凹石	11.4	7.6	4.6	509.8		火山岩	土師遺構直在	
42		凹石	11.0	7.3	4.6	530.5		火山岩	土師遺構直在	
43		凹石	9.6	8.6	4.1	424.6		凹線岩	土師遺構直在	
44		凹石	11.8	8.5	6.1	724.8		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
45		凹石	10.6	7.6	4.3	451.6		火山岩	土師遺構直在	
46		凹石	(10.9)	5.9	4.2	(376.6)		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
47		凹石	(10.0)	6.9	5.8	(406.7)		火山岩	土師遺構直在	
48		凹石	(9.2)	6.4	3.0	(240.4)		火山岩(多孔質)	土師遺構直在	
49		凹石	(10.3)	8.7	5.0	(633.1)		ホルンフェルス	土師遺構直在	
50		凹石	(10.2)	8.0	3.6	(420.5)		火山岩	土師遺構直在	
51		凹石	(9.7)	9.1	4.6	(589.0)		火山岩	土師遺構直在	
52		台石	(21.8)	(16.9)	8.1	4050.0		火山岩	表面は全体に凹凸多数 裏面は磨耗して平滑である	
53		台石	16.9	17.2	11.4	4800.0		火山岩	表面が一方所凹み、その凹みに磨痕がみられる 裏面(底面)の接合部分にも若干の磨痕がみられる	
54		石皿	(9.9)	(10.8)	4.5	403.3		火山岩(多孔質)	表面のみ研削 裏面に縦打痕あり 三側面が削られ平滑になっている	
55		石皿	(10.9)	(7.1)	(4.0)	446.1		火山岩(多孔質)	表面の中央を凹ませ磨面とする 縁は断面三角形を呈する 裏面及び側面は研削により成形している	
56		石皿	(10.8)	(11.8)	(6.6)	721.5		火山岩(多孔質)	表面を磨面とし中央に向けて凹む 裏面及び側面は研削により成形する	
57		石皿	(8.3)	(9.5)	3.1	629.8		火山岩(多孔質)	表面を磨面とする 表面は中央を凹ませ縁は鋭いV形を呈す 側面は研削により成形している	
58		石皿	14.5	12.4	3.1	908.2		火山岩(多孔質)	表面両面を磨面とし特に底に凹まれ磨痕状を呈す 側面は研削によって成形されている	
59	三四	石皿	23.5	19.2	6.2	3863.8		火山岩	表面を磨面とする 裏面は接合部分が磨耗して平滑となっている	
60		小型石皿	5.6	5.5	2.0	21.5		輝石	底に磨孔を持つ	
61		砥石	5.6	6.3	4.0	63.7		輝石	4面が磨耗して平滑になっている	
62		磨製石押	(6.5)	(4.3)	(1.9)	47.61		火山岩		
63		磨部	7.5	8.3	3.1	239.6		デイサイト	SI-1067	
64		磨部	(8.0)	(7.8)	3.5	352.0		デイサイト	SI-1067	
65		磨部	(8.2)	(8.2)	3.3	164.1		砂岩	SI-1067	
66		磨部	(7.2)	(8.9)	3.7	308.0		デイサイト	SK-532	
67		磨部	(8.7)	8.5	5.6	608.1		デイサイト	SI-1143	

### 第三節 古墳時代・古代の遺構

古墳時代・古代の遺構は、竪穴建物跡25軒、掘立柱建物跡8棟、土坑8基を検出した。検出地点は調査区北側と南側に分かれ、北側では竪穴建物跡と小規模な掘立柱建物跡が散在し、南側には竪穴建物跡と規模の大きな柱穴掘方の掘立柱建物跡が密集する。集落の中心は南側で、かつⅢ区ではまったく遺構が見られないことから、より江川に近い方に中心があったと考えられる。



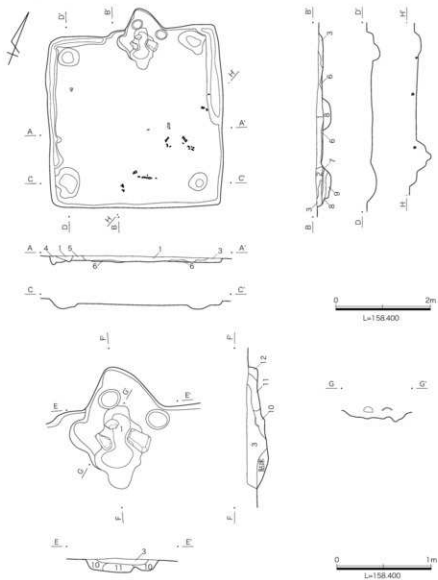
第355図 古代の遺構位置図

第一項 竪穴建物跡

SI-19 (第356・357図、第103表、図版一六)

I区、グリッドD3区に位置する。3.80×3.68mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し袖芯材に用いたと思われる自然礫が遺存していた。貼床は全面に施さず、部分的に掘方を埋めるようにロームを含む土を充填しており平坦である。周溝は北壁、西壁、東壁の一部に見られる。柱穴は主柱穴を4本検出したが、いずれも掘り込みは浅い。確認面からの深さは0.14mで、自然堆積と考えられる。

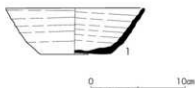
遺物は、須恵器環が1点出土している。器高があり体部は聞き味だが、体部下端をやや絞るといった特徴から、9世紀前葉の所産と考えられる。



SI-19

- 1 黒 色 少量のローム礫。少量のローム泥。今世・七本版取を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 2 黒 色 少量のローム礫。ローム泥。少量の今世・七本版取。同此礫を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 3 灰 黄 褐色 ローム礫。少量のローム泥。今世・七本版取を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 4 灰 黄 褐色 ローム泥。今中多量のローム礫。少量の今世泥。少量の七本版取を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 5 黒 色 今世泥。少量のローム礫。七本版取。少量のローム泥を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 6 におい灰褐色 ローム礫。少量のローム泥。今世泥。少量の七本版取を含む。今中粘性に富み、しまりに富む。
- 7 ローム泥。今中多量のローム礫。少量の今世泥。少量の七本版取を含む。今中粘性に富み、しまりに富む。貼床。
- 8 黒 色 ローム礫。少量のローム泥。今世泥。少量の七本版取を含む。今中粘性・しまりに富む。掘方底。
- 9 黒 褐色 少量のローム礫。少量のローム泥。今世・七本版取を含む。今中粘性・しまりに富む。掘方壁土。
- 10 におい灰褐色 灰土状。少量のローム礫。同此礫を含む。少量のローム泥を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 11 灰 褐色 今中多量の焼土礫。少量の焼土ブロック。少量のローム礫。ローム泥。同此礫を含む。今中粘性に欠き、今中しまりに富む。
- 12 におい灰褐色 今中多量のローム礫。少量のローム泥。少量の焼土礫を含む。今中粘性・しまりに富む。

第356図 SI-19実測図



第357図 SI-19出土遺物実測図

第103表 SI-19出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		須恵 器	坏	14.4	7.6	4.9	2.5Y5/1 黄灰 7.5YR6/6 橙	2.5Y5/1 黄灰 5YR5/4 にぶい赤褐色	白色微～粗粒	良	1/2	底部外面へラ切り	内外面とも底 面付近が酸化 内外面ともス ス附着

SI-56 (第358・359図、第104表、図版一六・四〇)

I区、グリットD2区に位置する。重複する近代の溝SD-57に切られる。3.58×4.06mの方形を呈する。カマドは北壁に設置し袖芯材に用いたと思われる自然礫が遺存していた。貼り床は四隅を中心にほぼ全面に施し、一部で地山直床となっている。周溝は東壁、南壁、北壁の一部に見られる。支柱穴と判断できるものは確認できなかった。確認面からの深さは0.20mで、自然堆積と考えられる。

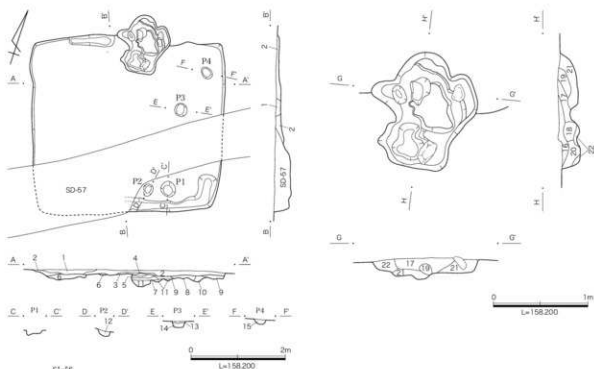
出土遺物は、1が土師器環、2が土師器甕である。環は外面へラナデ、内面黒色処理され、体部外面に墨書する。8世紀中葉の所産と考えられる。



第358図 SI-56出土遺物実測図

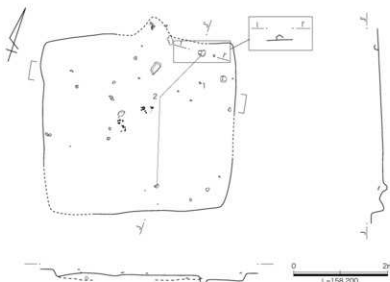
第104表 SI-56出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	四 〇	土師 器	坏	13.4		(2.8)	7.5YR6/4 ～1.7I/1 にぶい橙～ 黒	7.5YR1.7/1 黒	雲母 白色粒	良	体部1/8	口縁から体部外面へラナ デ 口縁から体部内面ミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書
2		土師 器	甕		7.6	(9.6)	7.5YR7/6 橙 10YR6/2 灰黄褐色	7.5YR7/4 にぶい橙	砂粒 赤色スコ リア含む	良	胴部下位 3/5 底部 から直上 全周	胴部外面へラケズリ(下→ 上) 底部外面へラケズ リ 胴部内面へラナデ(下 →上) 底部内面へラナ デ	外面の一部に 褐色の附着物 あり(カマド起 部か)



SI-56

- 1 黒褐色 雑草のローム砂、今市・七本塚期。炭化物微粒を含む。やや粘性に欠き、ややしりに含む。
- 2 黒褐色 少量の今市・七本塚期。雑草のローム砂を含む。やや粘性に欠き、ややしりに含む。
- 3 におい・黄褐色 粘土微粒。雑草のローム微粒。ローム砂。焼土粒を含む。やや粘性に欠き、しりに含む。カマドから掻き出された焼土を含む。
- 4 明赤褐色 灰。やや多量の焼土微粒。少量の焼土粒を含む。やや粘性に富み、しりに含む。カマドから掻き出された焼土を含む。
- 5 におい・黄褐色 焼土微粒。雑草の焼土粒を含む。やや粘性・しりに含む。カマドから掻き出された焼土を含む。
- 6 暗褐色 ローム微粒。少量のローム砂。ロームブロック。焼土微粒。雑草の今市・七本塚期を含む。やや粘性・しりに含む。難方層土。
- 7 におい・黄褐色 ロームブロック。やや多量のローム微粒。少量の焼土微粒。雑草のローム砂を含む。やや粘性に富み、しりに含む。難方層土。
- 8 黄褐色 少量のローム微粒。ローム砂。焼土粒。雑草の今市・七本塚期を含む。やや粘性・しりに含む。難方層土。
- 9 黒褐色 少量のローム砂。焼土微粒。雑草の今市・七本塚期を含む。やや粘性・しりに含む。難方層土。
- 10 黄褐色 ローム微粒。少量のローム砂。焼土微粒。雑草の今市・七本塚期を含む。やや粘性・しりに含む。難方層土。
- 11 黒褐色 ローム微粒。雑草のロームブロック。焼土微粒を含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。難方層土。
- 12 におい・黄褐色 少量のローム微粒。少量のローム砂。雑草の七本塚期。焼土を含む。やや粘性・しりに含む。
- 13 黒褐色 雑草のローム微粒。ローム砂。今市期を含む。やや粘性・しりに欠く。
- 14 灰黄褐色 少量のローム微粒。ローム砂。今市・七本塚期を含む。やや粘性・しりに欠く。
- 15 におい・黄褐色 ローム微粒。少量の今市・七本塚期。雑草のローム砂を含む。やや粘性・しりに欠く。
- 16 黄褐色 少量のローム微粒。焼土微粒。雑草の七本塚期。炭化物微粒。焼土を含む。やや粘性・しりに欠く。
- 17 におい・黄褐色 焼土微粒。少量の焼土粒。雑草の炭化物微粒を含む。やや粘性・しりに欠く。
- 18 明赤褐色 焼土微粒・焼土粒。少量の炭化物微粒を含む。やや粘性に富み、ややしりに含む。
- 19 明赤褐色 やや多量の焼土微粒。雑草の焼土粒。焼土ブロックを含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。
- 20 明赤褐色 少量のローム微粒。ローム砂。炭化物微粒。焼土微粒。焼土粒。雑草のロームブロックを含む。やや粘性に富み、ややしりに含む。
- 21 におい・黄褐色 雑草。少量の炭化物微粒。焼土粒を含む。やや粘性に欠き、ややしりに含む。
- 22 におい・橙褐色 少量のローム微粒。ローム砂。雑草の焼土微粒。焼土粒を含む。やや粘性・しりに含む。



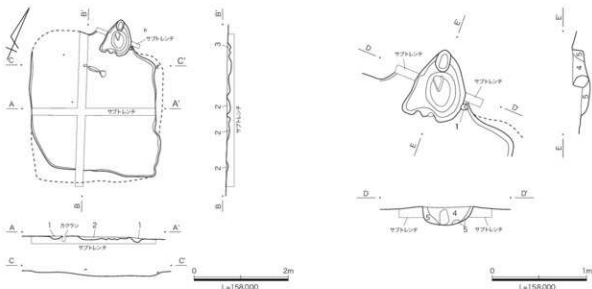
第359図 SI-56実測図



SI-144 (第360・361図、第105表、図版一六)

I区、グリッドD2区に位置する。削平のため堀方埋土のみ検出した。2.88×2.66mの範囲を検出し、方形を呈すると思われる。カマドは北壁東寄りに設置する。掘方の深さは確認面から0.08mである。

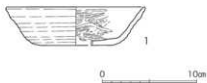
出土遺物は、土師器環が出土している。口径14.3cm、底径7.4cm、器高4.0cmでロクロ目が強く、内面をヘラミガキする。底部は回転糸切りである。9世紀中葉の所産であろう。



SI-144

- 1 赤い黄褐色 中や多量のローム混入、少量の中玉・七本麻粒を含む、やや粘性に欠き、ややしりに重む、  
 2 赤い黄褐色 ローム混入、中玉・七本麻粒を含む、やや粘性・しりに欠く。  
 3 黒 褐色 少量のローム混入、中玉粒、少量のローム粒、七本麻粒を含む、やや粘性に欠き、ややしりに重む。  
 4 灰 褐色 炭土混入、少量のローム混入、炭土粒、少量の炭土ブロックを含む、やや粘性・しりに欠く。  
 5 赤 褐色 中や多量の炭土混入、少量の炭土ブロックを含む、やや粘性に欠き、ややしりに重む。

第360図 SI-144実測図



第361図 SI-144出土遺物実測図

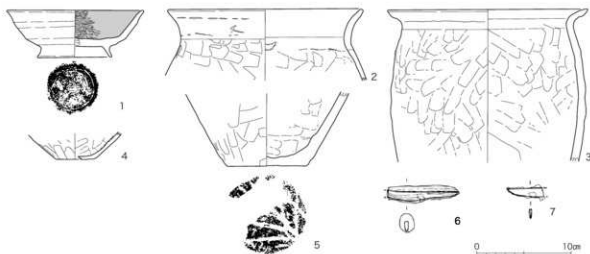
第105表 SI-144出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	環	14.3	7.4	4.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/4 赤い黄褐色	砂粒含む	良	口縁から 底部1/4	底部外面回転糸切り 口 縁部底部内面ヘラミガキ	

SI-234 (第362・363図, 第106表, 図版一六)

I区、グリットC1区に位置する。調査区外のため北壁を検出できていない。4.12×4.56mの範囲を検出し、方形を呈すると考えられる。ほとんど全面に貼床を施す。周溝は西壁、南壁、東壁の一部に見られる。柱穴は確認できなかった。確認面からの深さは0.28mで、自然堆積と考えられる。

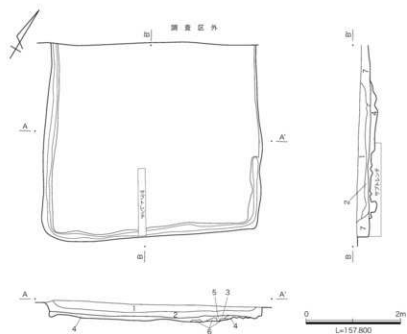
出土遺物は、1が土師器高台付杯、2～5が土師器甕である。高台付杯は器厚があり口縁部を強くヨコナデする。内面黒色処理し、高台はやや高い。10世紀前葉～中葉の所産か。2は武蔵型甕、3は口縁が短く外反する。また、刀子が2点出土している。6は木製の柄が残存している。武蔵型甕は9世紀代で姿を消しており、高台付杯の年代とずれがあるが、新しい方の時期をとって、建物の時期は10世紀前葉～中葉としておく。



第362図 SI-234出土遺物実測図

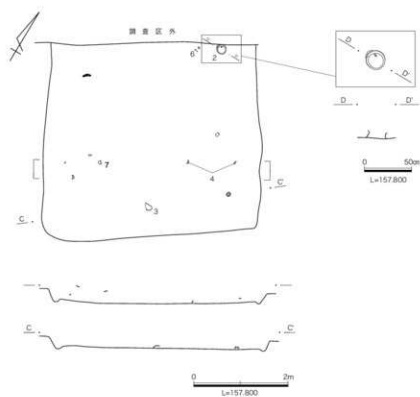
第106表 SI-234出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	杯	14.0	7.8	4.8	5YR7/8 橙 10YR7/3 に濃い黄橙	10YR2/1 黒	微砂粒含む	良	口縁から 体部1/9 周 底部 全周	底部外面回転糸切り後高 台貼付 口縁から底部内 面ヘラミガキ	内面黒色処理
2		土師 器	甕	19.8	4.0	(7.7)	5YR7/8 橙 7.5YR7/8 黄橙	5YR6/8 橙 5YR5/8 明赤褐	微砂粒 赤色粒 含む	良	口縁部全 周 胴部 下部から 底部一部	口縁部外面ヨコナデ後ヘ ラケズリ 胴部外面ヘラ ケズリ 口縁部内面ヨ コナデ後ヘラナデ 胴部 内面ヘラナデ	
3		土師 器	甕 (206)			(16.0)	10YR3/1 黒褐 5YR5/8 明赤褐	5YR5/8 明赤褐 7.5YR6/1 黄灰	白色細粒 黒雲 母片 白色針状 物質 赤褐色細 粒	良	口縁から 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴 部内面ヘラナデ 胴部内 面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	
4		土師 器	甕		(4.0)	(2.8)	5YR7/8 橙 7.5YR7/8 黄橙	5YR6/8 橙 5YR5/8 明赤褐	微砂粒 赤色粒 含む	良	底部	胴部外面ヘラケズリ 内 面ヘラナデ	
5		土師 器	甕		8.0	(7.7)	7.5YR5/6 明褐 7.5Y4/3 褐	7.5Y4/3 褐	砂粒 白色粒や や含む	良	口縁部な し 胴部 1/3 底 部2/3	胴部外面ヘラケズリ 底 部外面本葉直 胴部 底部内面ヘラナデ	
6		鉄製 品	刀子	長さ (7.4)	幅 1.9	厚さ 1.6							重さ11.93g 木製の柄が残 存
7		鉄製 品	刀子	長さ (3.9)	幅 1.7	厚さ 0.35							重さ2.6g



SI-234

- 1 黒褐色 少量のローム散粒、微量のローム粒、今赤・七本塚粒、炭化物粒を含む、やや粘性に欠き、しまりに重む。
- 2 黒褐色 ローム散粒、少量のローム粒、今赤粒、七本塚ブロックを含む、やや粘性に欠き、しまりに重む。
- 3 灰色黄褐色 ローム散粒、ロームブロック、微量のローム粒、今赤・七本塚粒を含む、やや粘性・しまりに重む、黒方礫土。
- 4 灰黄褐色 ローム粒、少量のローム散粒、今赤・七本塚粒、微量のロームブロックを含む、やや粘性に欠き、しまりに重む、黒方礫土。
- 5 黒褐色 微量のローム散粒、ローム粒、今赤・七本塚粒を含む、やや粘性・しまりに重む、黒方礫土。
- 6 黒褐色 ロームブロック、少量のローム散粒、微量のローム粒を含む、やや粘性・しまりに重む、黒方礫土。
- 7 褐色 ローム散粒、少量の今赤・七本塚粒、微量のローム粒を含む、やや粘性に欠き、しまりに重む、黒方礫土。

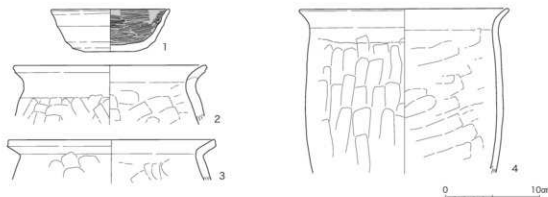


第363図 SI-234実測図

SI-306 (第364・365図, 第107表, 図版一七)

Ⅱ区、グリットB3区に位置する。削平のため掘り込みのプランは検出できず、埋土の一部と床面を凸状に掘り残して検出した。検出した範囲は6.24×6.12mで埋土を除去すると床面を検出できた。全面に貼床を施す。確認面からの深さは0.34mである。北東壁近くに焼土を含む赤褐色土が堆積した部分があり、カマドの残欠と考えられる。

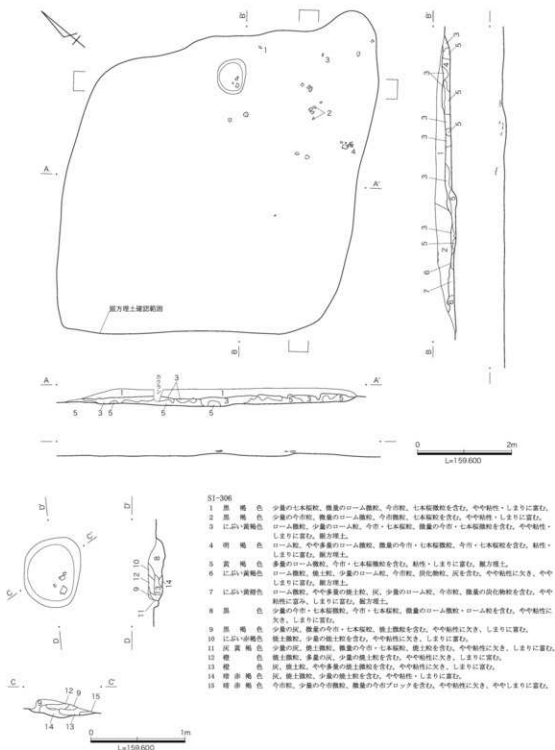
出土遺物は、1が土師器杯、2～4が土師器甕である。杯は口径12.0cm、底径5.3cm、器高4.4cmで内面黒色処理する。底部外面は切り離し後回転ヘラケズリする。9世紀中葉～後葉の所産か。甕は口縁がくの字状に外反するもので、2・3は端部をつまんで平坦面を形成する。



第364図 SI-306出土遺物実測図

第107表 SI-306出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1		土師 器	杯	12.0	5.3	4.4	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色 赤色 灰色細粒	青	良	1/4	ロクロ赤焼き後乾焼きさせ 逆位に置き時計廻りに回 転させながら体部外面下 半回転ヘラケズリ 底部 外面回転ヘラケズリ後ヘ ラナデ 口縁から体部内 面ヘラミガキ	内面黒色処理
2		土師 器	甕	20.0		(6.5)	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	秀明磁粒 青灰 色磁粒 白色磁 粒		良	口縁から 胴上部 1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	
3		土師 器	甕	21.4		(4.3)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	青灰色細粒～粗 粒 黒雲母片		良	口縁から 胴上部 1/5	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面ヘラナデ	
4		土師 器	甕	21.5		(17.5)	10YR1.7/1 黒	7.5YR6/4 にぶい橙	白色磁～黄粒 ガラス質片		良	口縁1/4 胴部上平 1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヘラナデ後ヨコナ デ 胴部内面ヘラナデ	

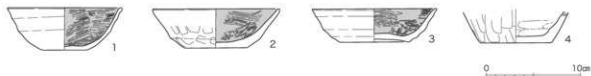


第365図 SI-306実測図

SI-429 (第366・367図、第108表、図版一七)

Ⅱ区、グリットC3区に位置する。削平により東側が1/3ほど失われている。4.00×3.00mの範囲を検出し、方形を呈するものと考えられる。カマドは北壁中央に設置し、僅かに左袖構築材の褐色灰色土が残存していた。貼床は施さないが床面は平坦である。周溝は西壁と北壁、南壁の一部に確認した。柱穴は主柱穴と考えられるP2・P3の2本と、出入り口ピットP5～7を確認した。いずれも浅い。確認面からの深さは0.18mで、自然堆積と考えられる。遺物はカマド前面と出入り口付近から多く出土している。

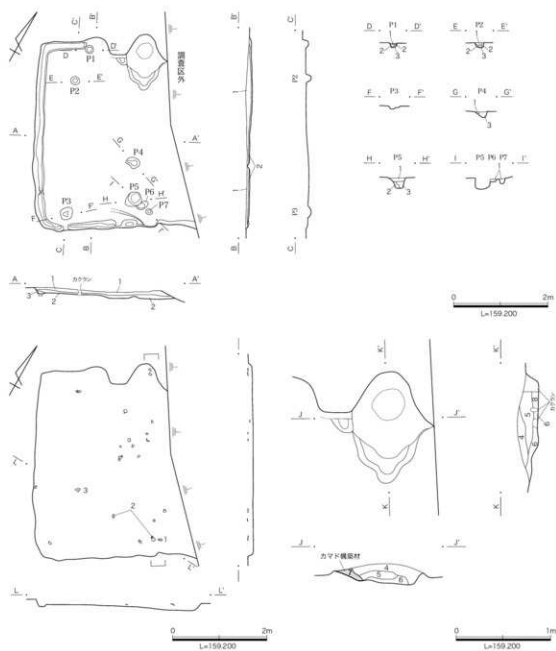
出土遺物は、1～3が土師器環、4が土師器甕である。1は口径11.8cm、底径4.5cm、器高4.5cmで、内面黒色処理する。体部は内湾して立ち上がり口縁は僅かに外反する。器高が高く碗形を呈す。2は出入り口付近から出土した。口径13.0cm、底径6.5cm、器高4.1cmで、内面黒色処理する。体部は内湾して立ち上がり外面に弱い稜を有す、口縁は直線的である。器厚があり、外面をヘラケズりする。3は口径12.8cm、底径7.2cm、器高3.5cmで、内面黒色処理する。体部は外面に弱い稜を有し、口縁がごく僅かに外反する。これらの土師器環の特徴から、建物跡の時期は10世紀前葉と考えられる。



第366図 SI-429出土遺物実測図

第108表 SI-429出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	環	11.8	4.5	4.5	10YR8/3 浅黄橙	10YR1.7/1 黒	赤褐色粗粒 灰色粗粒	青 良	1/6	底部外面回転系切り 口 縁から底部内面ミガキ	内面黒色処理
2		土師 器	環	13.0	6.5	4.1	10YR7/6 明黄褐	10YR1.7/1 黒	赤褐色粗粒 色細粒	白 良	口縁部 1/10 体 部1/5 底 部3/4	体部外面ヘラケズリ 口 縁から底部内面ミガキ	内面黒色処理
3		土師 器	環	12.8	7.2	3.5	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	黒色細～確 色細粒	白 良	1/4	底部外面ミガキ 口縁か ら体部内面ミガキ ロク ロ水挽き回転方向不明	内面黒色処理
4		土師 器	甕	7.4		(3.2)	5YR4/6 赤褐	5YR5/6 明赤褐	白色細粒 母片	黒雲 良	胴下部埋 か残存 底部1/4	胴部から底部外面ヘラケ ズリ 胴部から底部指ナ デ	



SI-429

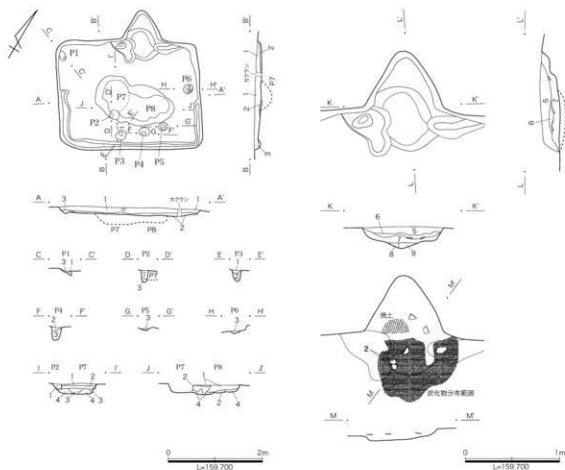
- 1 基 色 少量のローム陶粒、今布・七本板陶粒、炭化物陶粒を含む、やや斜性・しまりに並び、
- 2 堀 色 少量のローム陶粒、今布・七本板陶粒、炭化物陶粒を含む、やや斜性・しまりに並び、
- 3 堀 色 少量のローム陶粒、少量の今布・七本板陶粒を含む、斜性に並び、ややしまりに並び、
- 4 堀 色 少量の焼土粒、少量のローム陶粒、今布陶粒、七本板粒、炭化物陶粒を含む、
- 5 歩 色 焼土粒、やや多量の焼土陶粒、少量のローム陶粒、今布陶粒、炭化物陶粒を含む、
- 6 堀 色 少量のローム陶粒、今布陶粒、七本板粒、焼土粒を含む、
- 7 堀 色 少量のローム陶粒、今布・七本板陶粒、炭化物陶粒を含む、
- 8 堀 色 ローム粒、少量のローム陶粒、少量の今布陶粒、七本板粒、炭化物陶粒を含む、

第367図 SI-429実測図

SI-529 (第368～370図, 第109表, 図版一七・三六)

Ⅱ区、グリットC 4区に位置する。2.34×3.00mのやや扁平な方形を呈する。カマドは北壁東よりに設置し、両袖とも遺存していた。貼床は施さないが床は平坦である。周溝は南壁全面、東壁と西壁の一部に検出した。確認面からの深さは0.18mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、土師器環が出土している。1は口径13.0cm、底径6.5cm、器高4.0cmで、底部外面回転系切り、内面黒色処理され、口縁は僅かに肥厚して外反する。また体部外面に「鷗」を墨書する。2は口径12.8cm、底径6.0cm、器高4.5cmで、底部外面回転系切り、口縁が僅かに外反する。これら土師器環の年代は9世紀中葉の所産と考えられる。

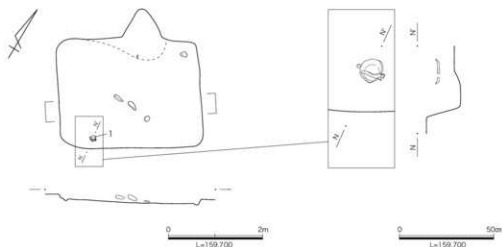


SI-529

- 1 黒 色 微量のローム層状。今市・七本塚層状。炭化物層状を含む。やや粘性に欠き、ややしなりに置む。
- 2 黒 褐色 少量のローム層状。微量の今市・七本塚層状。七本塚状。炭化物層状を含む。やや粘性・しなりに置む。
- 3 緑 褐色 ロームブロック。少量の今市・七本塚層状。微量のローム層状。ローム状。今市・七本塚状。炭化物層状を含む。やや粘性に置み、しなりに置む。
- 4 明 黄 褐色 ローム粒子の再堆積。粘性に欠き、ややしなりに欠く。
- 5 ぶいす褐色 やや多量の塊土状。微量のローム層状。今市粒。炭化物層状。炭化物を含む。やや粘性に欠き、ややしなりに置む。
- 6 赤 褐色 塊土ブロック。少量の塊土粒。微量のローム層状。今市層状。炭化物層状。炭化物を含む。塊土粒を含む。やや粘性に欠き、ややしなりに置む。
- 7 黄 褐色 少量の塊土粒。微量のローム層状。今市粒。炭化物層状を含む。やや粘性に置み、ややしなりに欠く。
- 8 黒 褐色 やや多量の炭化物層状。微量のローム層状。今市層状。塊土粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 9 赤 褐色 やや多量の塊土ブロック。微量のローム層状。今市層状。炭化物層状を含む。やや粘性に欠き、しなりに置む。

第368図 SI-529実測図(1)





第369図 SI-529実測図(2)



第370図 SI-529出土遺物実測図

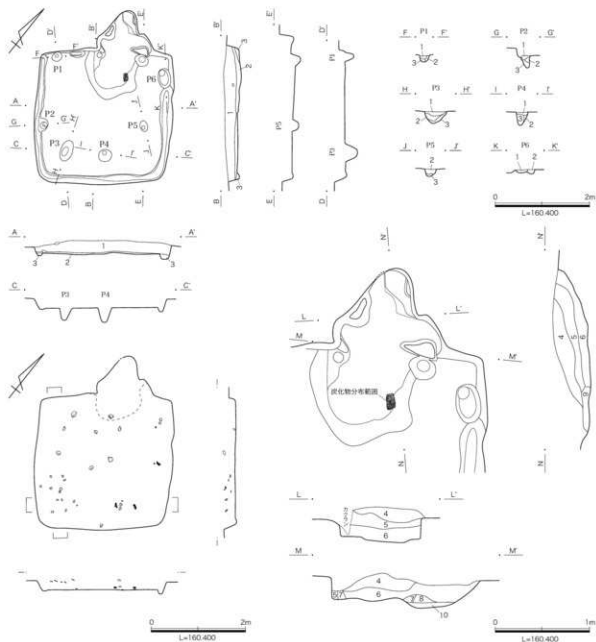
第109表 SI-529出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三六	土師 器	坏	13.0	6.5	4.0	7.5YR6/4 に灰い橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 石英	良	口縁一部 欠損	底部外面回転糸切り 口 縁から底部内面ミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「龜」
2	三六	土師 器	坏	12.8	6.0	4.5	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙 7.5YR1.7/1 黒	白色細粒 黒色 粗粒 黒書母片	良	口縁から 体部2/3 底部完存	底部外面回転糸切り	

SI-766 (第371・372図、第110表、図版一七)

II区、グリットD5区に位置する。2.90×2.90mの方形を呈する。カマドは北壁東よりに設置し少量の炭化物が検出されている。カマド袖は遺存していなかった。貼床は施さないが床は平坦である。周溝は北壁一部と、東壁の一部を除き東壁・西壁・南壁は全周する。確認面からの深さは0.36mである。柱穴は出入り口ピットと思われるP4を検出した。

出土遺物は、建物跡全体から出土しているが、須恵器坏を1点図示した。口径9.7cm、底径7.0cm、器高4.9cmで、直線的に立ち上がる体部と口縁を持ち箱形を呈す。体部下端は回転ヘラケズりする。8世紀中葉～後葉の所産か。



- SI-766
- 1 黒色 陶製のローム織紋、ロームブロック、今市・七本塚層群、炭化物焼痕を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 2 黒褐色 少量のローム織、微量のロームブロック、今市・七本塚層群、炭化物焼痕を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 3 暗褐色 陶製のローム織紋、ローム粒、ロームブロック、今市・七本塚層群、炭化物焼痕を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 4 黒灰色 陶製のローム織紋、今市層群、七本塚層群を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 5 濃い黄褐色 やや多量の焼土粒、微量の今市・七本塚層群、炭化物焼痕を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 6 暗赤褐色 炭化物焼痕、少量の焼土粒、微量のローム織紋、今市層群、炭化物焼痕を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 7 黒褐色 少量のローム織紋、今市層群、七本塚層群を含む、やや粘性に富み、ややしまりに窯む。
  - 8 黄褐色 やや多量のローム織紋、微量の今市層群、炭化物焼痕、焼土粒を含む、粘性に富み、しまりに窯む。
  - 9 灰褐色 少量のローム織紋、微量の七本塚層群、焼土粒を含む、やや粘性に富み、しまりに窯む。
  - 10 黒色 ロームブロック、微量の今市層群、七本塚層群、炭化物焼痕、焼土粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに窯む。

第371図 SI-766実測図

第110表 SI-766出土遺物観察表

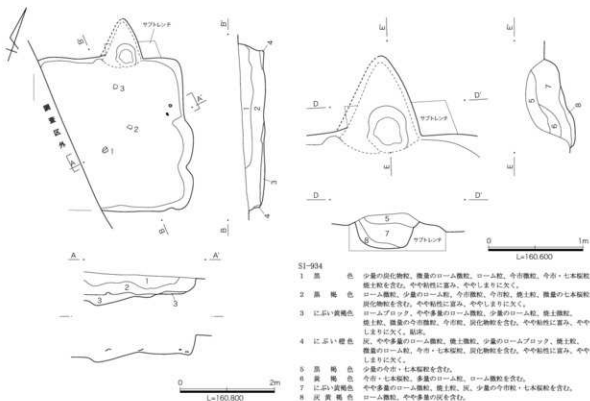
実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土
				口径	底径	高さ	外	内	
1		須恵器	杯	9.7	7.0	4.9	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	白色微～粗粒
焼成		残存率		調整					備考
良		口縁部1/8 体部1/5 底部2/3		反時計廻りのロクロ水掻き後逆位にして反時計廻りの体部外面下位回転ヘラケズリ 体部外面回ヘラ切り					



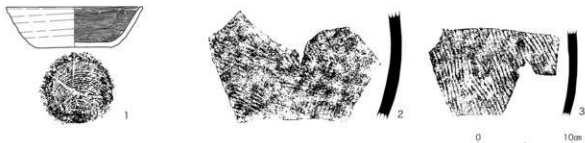
第372図 SI-766出土遺物実測図

SI-934 (第373・374図, 第111表)

Ⅱ区、グリットE6区に位置する。3.26×2.90mの方形を呈する。カマドは北壁東寄りに設置する。南半を中心に貼床を施す。周溝、柱穴は確認されなかった。確認面からの深さは0.52mで、自然堆積と考えられる。出土遺物は、1が土師器環、2・3が須恵器甕である。建物の時期は、土師器環の特徴から9世紀中葉か。



第373図 SI-934実測図



第374図 SI-934出土遺物実測図

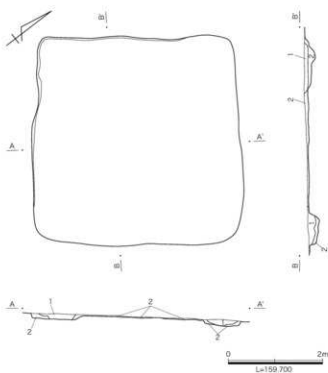
第111表 SI-934出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口徑	底径	高さ	外	内					
1		土師器	環	14.2	7.8	4.3	7.5YR6/6 粗	10YR1.7/1 黒	白色細粒 黒色 粗粒	良	体部3/8 底部完存	底部外面回転糸切り 部内面へラミガキ	内面黒色処理
2		須恵器	甕			(11.0)	10YR7/1 灰白 10YR5/1 相灰	2.5Y8/1 灰白	少量の礫含む	良	破片	胴部外面平行叩き目 部内面当て具痕	下半に自然軸 あり 外面一 部酸化により 赤化
3		須恵器	甕			(9.0)	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	砂粒含む	良	破片	胴部外面平行叩き目	

SI-989 (第375・376図、第112表、図版一七)

Ⅱ区、グリッドE5区に位置する。削平のため掘方埋土のみ検出した。4.46×4.44mの方形を呈し、全面が貼床である。柱穴は確認され得なかった。

出土遺物は、掘方埋土から土師器小型甕が出土している。



SI-989

- 1 灰 褐色 少量のローム微粒、微量のローム粒、中赤・七土微粒を含む、中赤粘性に欠き、中赤しなりに著む。  
2 におい黄褐色 中赤多量のローム微粒、少量のローム粒、微量のロームブロック、黒土灰を含む、中赤粘性・しなりに欠く。貼床。

第375図 SI-989実測図



0 10cm

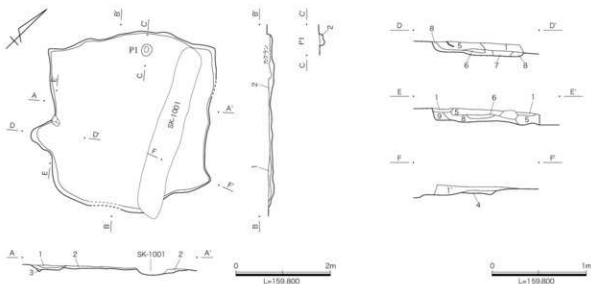
第376図 SI-989出土遺物実測図

第112表 SI-989出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	甕	9.6		(7.0)	10YR5/3 にふい黄褐色	10YR6/3 にふい黄褐色	白色粗粒	良	口縁から 胴部中央 1/2間	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ 胴部内面 指押さえ・ヘラナデ	

SI-1002 (第377図、図版一七)

II区、グリットF6区に位置する。重複する中世の土坑によって一部壊される。削平のため掘方埋土のみ検出した。検出した範囲は3.24×3.54mの不整形を呈し、全面に貼床を施す。カマドは遺存していないが東壁、西壁それぞれに突出部があり、炭化物を含む土が堆積していた。西壁突出部には自然礫も見られ袖芯材と見ることも可能である。また6層は赤褐色土層で、上面が火床部と考えられる。



SI-1002

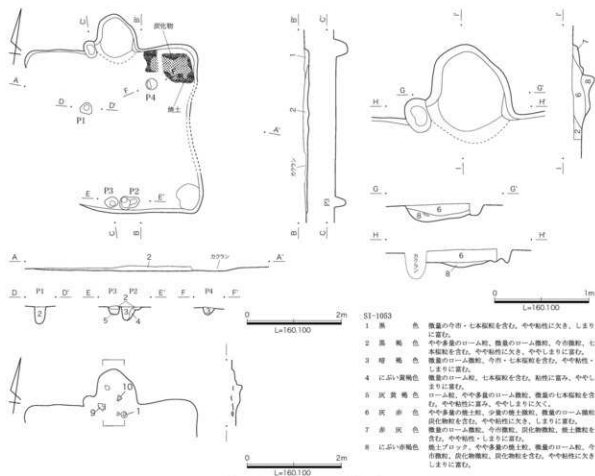
- |          |  |
|----------|--|
| 1 黒褐色    | 少量のローム層状。ローム状。今昔・七本板層状。炭化物層を含む。やや粘性・しまりに重む。        |
| 1' 黒褐色   | 少量のローム層状。ローム状。今昔・七本板層状。焼土状。炭化物層を含む。やや粘性・しまりに重む。    |
| 2 におい気褐色 | やや多量のローム状。少量のローム層状。少量の今昔・七本板状。炭化物層を含む。やや粘性・しまりに重む。 |
| 3 灰黄褐色   | 少量のローム層状。少量の今昔板状。炭化物層を含む。粘性に富む。ややしまりに重む。           |
| 4 におい気褐色 | やや多量のローム層状。ローム状。少量の今昔板状。炭化物層を含む。やや粘性・しまりに重む。       |
| 5 暗赤褐色   | 少量のローム層状。焼土層状。少量の今昔層状。炭化物層を含む。やや粘性に欠き。しまりに重む。      |
| 6 暗褐色    | やや多量のローム層状。ローム状。少量の炭化物層を含む。粘性に欠き。しまりに重む。           |
| 7 暗褐色    | 少量のローム層状。少量のローム状。七本板状。炭化物層を含む。やや粘性に欠き。ややしまりに重む。    |
| 8 灰黄褐色   | 少量の焼土状。少量のローム状。炭化物層を含む。やや粘性に富み。しまりに重む。             |
| 9 におい気褐色 | 少量のローム状。少量の今昔・七本板層状を含む。やや粘性に富み。しまりに重む。             |

第377図 SI-1002実測図

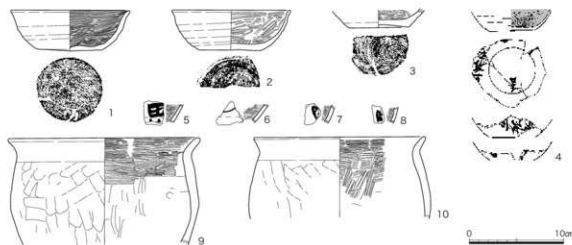
SI-1053 (第378・379図、第113表、図版一七・三六・四〇)

II区、グリットF7区に位置する。削平のため西壁は検出できなかった。3.56m×3.64mの範囲を検出し、本来は方形を呈するものと考えられる。カマドは北壁に設置するが軸は遺存していなかった。貼床は施さないが床面は平坦である。北東コーナー部に焼土と炭化物が堆積していた。確認面からの深さは0.12mである。

出土物は、カマド内から少量出土している。1～8は土師器環である。1は口径12.4cm、底径6.8cm、器高4.4cm、底部外面回転糸切りで、内面黒色処理する。体部は内湾して立ち上がり口縁は外反する。2は口径12.4cm、底径6.4cm、器高4.2cm、底部外面回転ヘラケズリ、内面ヘラミガキで、体部は内湾して立ち上がり口縁は外反する。4は底径6.4cm、底部外面回転ヘラ切り、体部は内湾して立ち上がり下端を回転ヘラケズリする。体部外面と底部外面に複数文字墨書する。5～8も外面に墨書し、5・7・8は「田中」か。9は土師器の中型の甕で、くの字状の口縁を持つ。10は土師器甕でくの字状の口縁を持つ。建物の時期は土師器環の特徴から9世紀後葉と考えられる。



第378図 SI-1053実測図



第379図 SI-1053出土遺物実測図

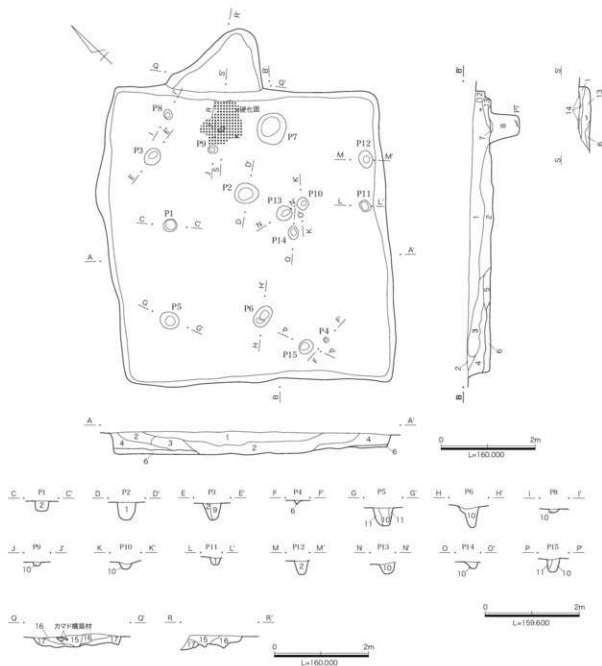
第113表 SI-1053出土遺物観察表

表測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼色	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1	三六	土師器	環	12.4	6.8	4.4	7.5YR8/2 灰白	7.5YR2/1 黒	白色細～礫 褐色粗粒	赤	良	口縁から 体部一部 欠損	底部外面回転系切り 口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
2		土師器	環	12.4	6.4	4.2	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR6/8 母 7.5YR5/8 明黒	白色細粒 金雲母		良	底部1/2 体部2/5 周	底部外面時計回りヘラ ズリ 口縁から体部内面 ヘラミガキ	
3		土師器	環		6.4	(1.7)	7.5YR6/8 橙	7.5YR6/6 橙	微砂粒 ガラス 質粒		良	体から底 部1/4周	底部外面回転系切り 体部・底部内面ヘラミガキ 体部外縁下位逆回りして	
4	三六	土師器	環		6.4	(3.0)	10YR6/4 ～17/1 にぶい黄橙 ～黒	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 雲母		良	底部成形 体部下位 全周	回転ヘラズリ 底部外 面ヘラ切り 体部・底部 内面ヘラミガキ ロクロ 水挽きの回転方向不明	内面黒色処理 外面体部と底 部に黒書
5	四〇	土師器	環			(2.0)	7.5YR6/6 橙	7.5YR2/1 黒	微砂粒 金雲母		良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書「田中」
6	四〇	土師器	環			(1.8)	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR2/1 黒	砕粒 少量の小 礫 少量の雲母 微砂片		良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書
7	四〇	土師器	環			(2.0)	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR2/1 黒	微量の微砂粒 微量の雲母細 砂片		良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書
8	四〇	土師器	環			(1.2)	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR2/1 黒	微量の微砂粒含 石		良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒 書「田中」
9		土師器	甕	19.6		(11.4)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/1 褐灰	赤褐色粗粒 白色細粒 雲母片	白	良	口縁から 胴部1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面上位ヘラナデ下位 ヘラズリ 口縁部内面 ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ後ヘラ ミガキ	胴部外面に黒 書「田中」
10		土師器	甕	17.6		(8.8)	7.5YR7/3 黄橙 5YR6/8 浅黄橙	7.5YR7/8 黄橙 10YR8/3 浅黄橙	白色粗粒 赤褐色粗粒	赤褐色	良	口縁から 胴部1/5 周	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナ デ後ミガキ 胴部内面ハ ケ目・ヨコナデ後ミガキ	

SI-1083 (第380～384図、第114表、図版一七・一八・三六・四〇)

Ⅱ区、グリットG 7区に位置する。6.16m×5.88mの方形を呈する。カマドは北壁西よりに設置するが、袖は遺存していなかった。カマド前面に硬化したにぶい黄褐色土が見られ、カマド構築材もしくはカマドから受ける熱により硬化した土壁とも考えられる。床は貼床を施さず平坦であるが、一部の床面直上にロームブロックを含む黄褐色土層(セクション図6層)が見られ、貼床の可能性がある。これが貼床だとすると同一のプランで床の貼直しを行ったものか。確認面からの深さは0.5mで、自然堆積と考えられるが、多量の黄褐色土が見られ(セクション図3層)、一部人為堆積の可能性もある。

遺物は、土師器鉢、鉢、壺、甕が多く出土している。これらは建物東コーナー部でまとまって出土しており、特に3・4・7・9・10の環は正位で並ぶなど建物使用時の状況を思わせる。1～13は環で、3・13が赤彩である。1は口径14.7cm、器高5.8cm、丸底で体部外面に稜を持ち口縁が直立する。2～10は口径12.1cm～13.5cm、器高5.1cm～7.0cm、丸底で体部外面に稜を持ち口縁が外反する。11は口径14.0cm、器高5.3cm、丸底で体部外面に稜を持ち口縁が外反して長く伸びる。カマド前のP 7から出土した。2は南東壁付近で床着状態での出土である。13は南東壁際で出土し、同様に丸底で口縁が外反するが、体部外面の稜がほとんどみられない。12は口径15.3cm、器高5.0cm、扁平気味の丸底で体部外面に稜を持ち、口縁は逆S字状に上半で内湾する。14は土師器鉢で口径11.5cm、器高9.4cm、丸底で口縁が内湾する。東コーナー部から出土した。15は土師器の小型の甕もしくは鉢で、口径10.2cm、残存高5.4cmである。16は土師器甕で下彫れの胴部に口縁が直立気味に立ち上がる。南東壁際から出土した。17は土師器甕で、くの字状の口縁を持つ。東コーナー部から出土した。18は土師器甕で、頸部がやや長く伸びる。東コーナー部から出土。19・21・22は土師器甕の胴から底部である。20は大型の土師器甕で、東コーナー部から出土した。また、建物南半を中心に炭化材が出土している。建物の時期は、土師器環の特徴から7世紀前葉～中葉と考えられる。

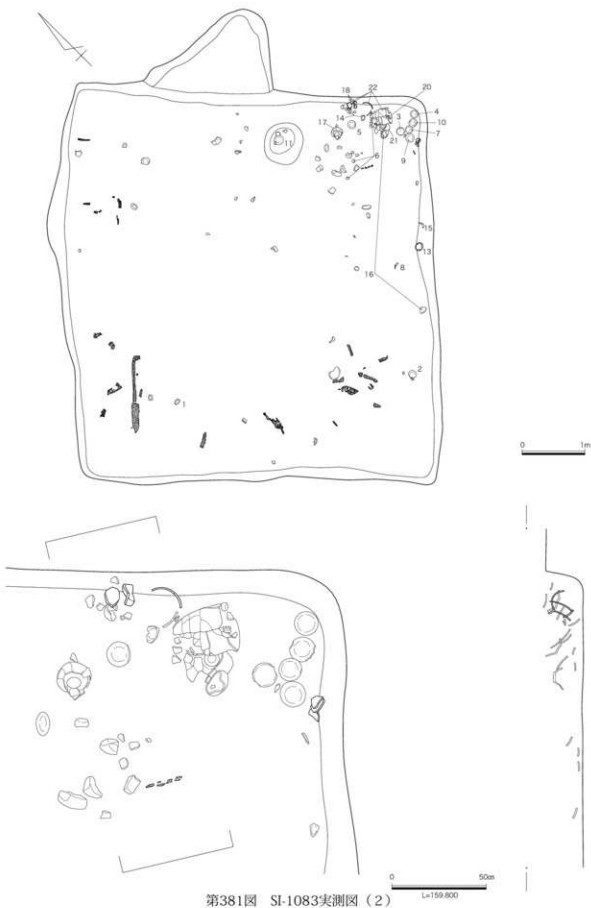


SI-1083

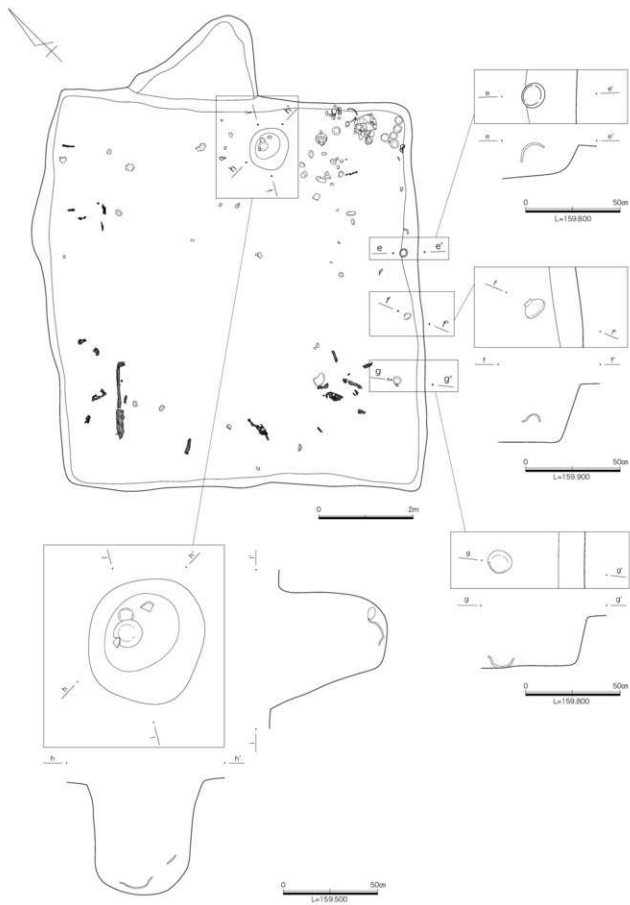
- 1 黒 褐色 少量のローム陶片、少量のローム陶器、今市・七本塚段、焼土粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 2 土色黄褐色 ローム陶器、ローム陶片、少量の今市段、炭化植物、焼土ブロック、焼土粒、織成の今市ブロック、七本塚段、焼土ブロックを含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 3 明黄褐色 ロームブロック、焼土陶器、焼土粒、やや多量のローム陶器、ローム陶片、少量の焼土ブロック、少量の今市・七本塚段、炭化植物・炭化植物ブロックを含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 4 黒 褐色 少量のローム陶器、ローム陶片、今市・七本塚段、焼土粒、少量の炭化植物を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 5 褐色 ローム陶器、焼土粒、少量の炭化植物、焼土ブロック、少量の今市・七本塚段、炭化植物ブロックを含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 6 土色黄褐色 ロームブロック、少量のローム陶器、ローム陶片、織成の今市・七本塚段、焼土粒を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く、炭屑。
- 7 黒 褐色 少量のローム陶器、焼土粒、少量のロームブロック、焼土ブロックを含む、やや粘性に欠き、しなりに富む。
- 8 黒 褐色 少量のローム陶器、焼土粒を含む、粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 9 暗黄褐色 ローム陶器、少量のローム陶片、ロームブロック、焼土粒、少量の今市・七本塚段、焼土ブロックを含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 10 土色黄褐色 多量のローム陶器、ローム陶片、少量の炭化植物、少量のロームブロック、七本塚段を含む、粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 11 土色黄褐色 多量のローム陶器を含む、粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 12 黄 褐色 やや多量のローム陶器、少量のローム陶片、少量のロームブロック、今市段、今市ブロック、炭化植物を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに欠く。
- 13 土色黄褐色 ローム陶器、やや多量の焼土陶器、少量の炭土粒、少量のローム陶片、炭化植物を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 14 土色黄褐色 やや多量の焼土、織成の焼土粒を含む、粘性に欠き、しなりに富む。
- 15 暗 褐色 焼土陶器、少量のローム陶器、焼土粒、少量のローム陶片、焼土ブロックを含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 16 黒 褐色 ローム陶器、少量のローム陶片、少量の今市段、焼土陶器、焼土粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。
- 17 土色黄褐色 ローム陶片、やや多量のローム陶器、少量の今市段、焼土粒を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む。

第380図 SI-1083実測図(1)

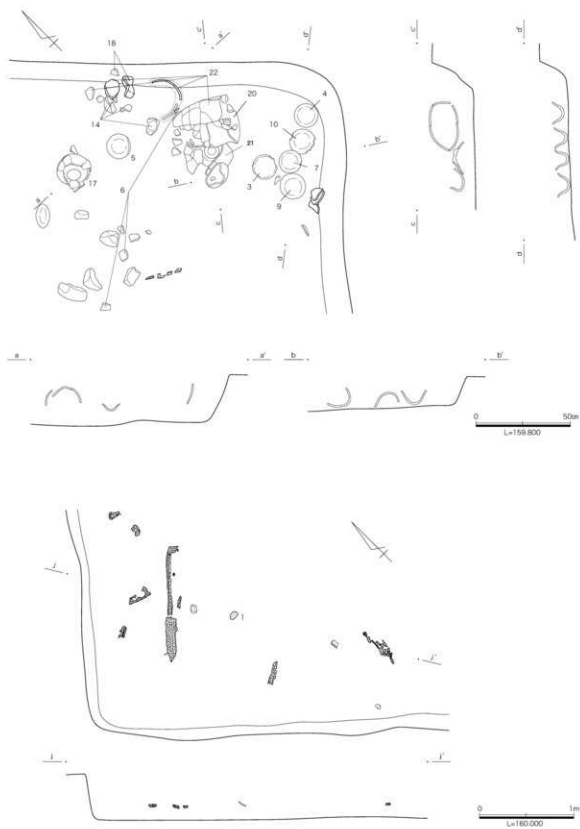




第381図 SI-1083実測図(2)



第382図 SI-1083実測図(3)



第383図 SI-1083実測図(4)



第384図 SI-1083出土遺物実測図

第114表 SI-1083出土遺物観察表

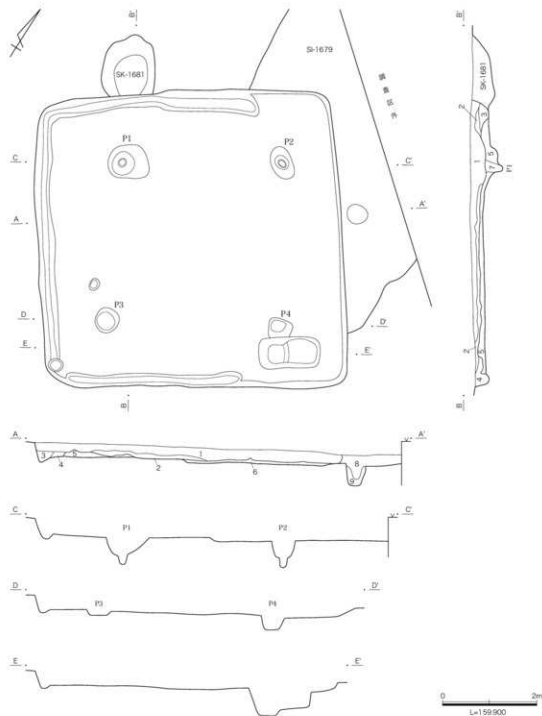
実測 図No	図版 No	種類 器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼色	残存率	調整	備考
			口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器 杯	14.7		(5.8)	7.5YR6/4 に赤い橙	7.5YR5/4 に赤い橙	白色微粒 スズ片 ガラ	良	口縁から 体部1/4	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 から体部内面ヘラナデ	
2		土師器 杯	12.6		5.9	7.5YR5/6 明赤	7.5YR5/6 明赤	白色・黒色細粒 ガラス質片	良	口縁から 体部1/5 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ヨコナデ後ヘラナデ	
3	三六	土師器 杯	12.5		5.7	2.5YR5/6 明赤濁 5YR7/2 明赤灰	2.5YR5/6 明赤濁	白色微粒少量	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ(一部ケ ズリ) 口縁部内面ヨコナ デ後ミガキ 体部内面ミ ガキ	赤彩
4		土師器 杯	12.1		5.9	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	白色細粒少量	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ後ヘラナ デ 体部内面ヨコナデ後 ヘラミガキ	
5		土師器 杯	12.7		5.1	2.5YR5/8 明赤濁	2.5YR5/8 明赤濁	白色細～粗粒 ガラス質片	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ・ヘラ ミガキ 底部ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ後ヘ ラナデ 体部ヘラナデ	
6		土師器 杯	13.3		5.4	5YR2/1 黒濁	5YR2/2 黒濁	白色微粒	良	口縁から 底部1/2 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ後ミガキ 口縁部内面ヨコナデ後ミ ガキ 体部内面ヘラナデ 後ミガキ	
7		土師器 杯	12.3		7.0	5YR6/8 橙	5YR5/8 明赤濁	白色細粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ヨコナデ後ミガキ	
8		土師器 杯	13.5		(6.7)	2.5YR4/6 赤濁 2.5YR2/1 赤濁	2.5YR4/6 赤濁 2.5YR2/1 赤濁	白色・黒色粗粒	良	口縁一部 欠損 体部1/3 底部欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ・ミガ キ 口縁部内面ヨコナデ 体部内面ヘラナデ後ミガ キ	
9		土師器 杯	12.5		5.8	2.5YR5/8 明赤濁	2.5YR5/8 明赤濁	白色細粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ヨコナデ後ミガキ	
10		土師器 杯	13.0		6.1	5YR6/8 橙	5YR5/8 明赤濁	白色細粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ・ヘラ ナデ・ミガキ 口縁から 体部内面ヨコナデ後ミガ キ	
11		土師器 杯	14.0		5.3	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	白色細粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ後ミ ガキ 体部外面ヘラケズ リ後ミガキ 口縁部内面 ヨコナデ後ミガキ 体部 内面ミガキ	
12		土師器 杯	15.3		5.0	7.5YR7/8 黄橙	5YR6/8 橙	白色粗粒 ガラ スズ片	良	口縁部 1/10 体部1/4	口縁部外面ヨコナデ後ミ ガキ 体部外面ミガキ 口縁部内面ヨコナデ後ミ ガキ 体部内面ミガキ	
13	三六	土師器 杯	12.8		5.2	10R5/6 赤	10R4/6 赤	白色細粒少量	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ・ヘラ ナデ 口縁から体部内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	赤彩
14		土師器 鉢	11.5		9.4	2.5YR3/4 暗赤濁 5YR5/6 明赤濁	5YR2/3 極暗赤濁 5YR5/6 明赤濁	白色粗粒 ガラ スズ片	良	口縁部 1/2 胴部2/5 底部4/5	口縁部外面ヨコナデ・ミ ガキ 胴部外面ヘラナ デ・ミガキ 底部外面ヘ ラナデ 口縁部内面ヨコ ナデ 胴部・底部内面ミ ガキ	
15		土師器 甕	10.2		(5.4)	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	白色細粒少量	良	口縁部 1/4周 胴上部 1/4周	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ・ヘラケ ズリ 口縁から胴部内面 ヨコナデ	
16	三六	土師器 甕	5.0		(9.3)	5YR5/8 明赤濁	7.5YR6/6 橙	白色細粒 赤黒 粗粒	良	胴部完存	胴部外面ヘラケズリ後ヨ コ方向ヘラミガキ 底部 外面ヘラケズリ 胴から 底部内面ヘラナデ	外面全面と胴 部内面上半に 赤彩

17	三六	土師器	甕	11.9	7.0	17.2	5YR3/4 明赤褐色	5YR3/4 明赤褐色	白色微～粗粒 雲母	良	胴部下半 1/4欠損 口縁一部 欠損	口縁外面ヨコナデ後タテ 方向ヘラケズリ 胴部外 面ヘラケズリ 底部外面 ヘラケズリ 口縁内面ヨ コナデ 胴から底部内面 ヘラナデ	内面を部分的 に薄く削って 穿孔している
18		土師器	甕	14.5		(I13)	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	白色粗粒 黒雲 母片	良	口縁1/5 胴上部 1/5	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	
19		土師器	甕	6.6		(I12)	5YR5/8 明赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	黒色礫 白色粗 粒	良	胴部中央 一部欠 損 胴下位 1/2 底部完存	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ・ヘラ ナデ 底部外面ヘラケズ リ 胴から底部内面ヘラ ナデ後ミガキ	
20	三六	土師器	甕	24.4	8.8	28.8	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	小石 白色細粒 青灰色粗粒	良	口縁部 1/2欠損	口縁外面ヨコナデ 胴部 外面タテ方向ヘラケズリ 後ヘラミガキ 口縁内面 ヨコナデ 胴部内面ヘラ ナデ後ヘラミガキ	
21		土師器	甕	8.0		(I28)	7.5YR8/6 浅黄褐色 7.5YR1.7/1 黒	7.5YR8/6 浅黄褐色	白色粗粒 赤褐 色粗粒	良	胴下部 1/3 底部完存	胴部外面ヘラケズリ後ミ ガキ 胴から底部内面ヘ ラナデ	
22		土師器	甕	5.6		(I28)	7.5YR3/2 黒褐色	7.5YR3/2 黒褐色	白色粗～礫	良	胴下部 1/2 底部完存	胴部外面ヘラナデ 底部 外面木炭痕 胴から底部 内面ヘラナデ	

## SI-1143 (第385～387図、第115表、図版一八・三六・三七)

Ⅱ区、グリットG6区に位置する。欠ノ上Ⅰ・欠ノ上Ⅱ遺跡中唯一の古墳時代前期に属する竪穴建物跡である。縄文時代の竪穴建物（セクション図6・8・9層）と重複する。6.30×6.44mの方形を呈する。竪穴などの火処は確認されていない。西側一部に貼床を施す。重複する竪穴建物跡の埋土を床面とするため東側では床面がやや低くなる。柱穴は4本を検出し、いずれもしっかりとした堀方を持つ。P1は柱痕跡が見られるが、裏込めには貼り床と同一の土を充填している。周溝は西壁全面、北壁と南壁の一部に見られる。また南東コーナー部には貯蔵穴と思われる施設を検出した。この施設は1.3×0.64m、床面からの深さ0.56mの長方形で、底面は2段階の深さを持つ。確認面からの深さは0.32mで自然堆積と考えられる。また炭化材が北壁付近と南西コーナー付近で少量出土している。

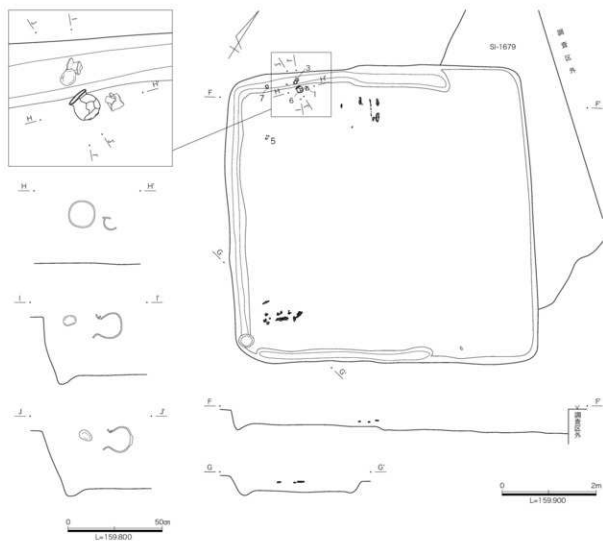
遺物は北西コーナー付近で出土している。1・6はほぼ検出面で出土しており、床面からは約0.20m浮いている。1は内斜口縁の土師器坏で、口縁は直線的に開き頸部内面の稜は明瞭である。底部は凹みのある平底である。2は土師器の小型甕である。扁平な体部と大きく開く口縁を持ち、頸部内面の稜は明瞭である。調整は丁車で内外面ともにヘラミガキし、全面に赤彩を施す。3は土師器の器台である。精製で外面と坏部内面に赤彩を施す。4・5は柱状の脚部を持つ土師器高坏である。5は脚部のえぐりが深く中空となっている。4・5ともに赤彩を施す。6は口径11.8cm、底径5.3cm、器高13.9cmの中型の土師器甕で、外面と口縁内面に赤彩を施す。口縁はくの字状に開き、胴部中央に最大径を有す。調整は内面ヘラナデ、外面ヘラケズリ後ヘラナデする。7は土師器甕の胴部下半である。調整は内面ヘラナデ、外面ヘラケズリ後ヘラナデする。これらの土器は古墳時代前期に属するが、高坏脚部が柱状である、甕の調整にヘラケズリ・ヘラナデを用いるといった特徴から、古墳時代前期最終段階、4世紀末に位置付けられる。



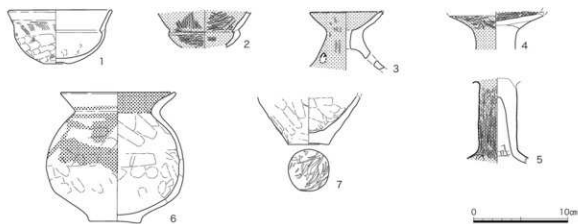
SI-1143

- 1 黒褐色 微量のローム微粒、今赤・七本塚微粒、炭化物を含む、やや粘性・しなりに欠く。
- 2 灰褐色 ローム微粒、微量のローム粒、今赤・七本塚粒、炭化物を含む、やや粘性・しなりに欠く。
- 3 濃い黄褐色 ローム粒、やや多量のローム微粒、少量の今赤粒、微量の七本塚粒を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 4 濃い黄褐色 ローム粒、やや多量のローム微粒、少量のロームブロック、今赤粒、微量の七本塚粒を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く、難分土。
- 5 暗褐色 やや多量のローム微粒、微量のローム粒、今赤微粒、今赤・七本塚粒、炭化物を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く、難分土。
- 6 濃い黄褐色 やや多量のローム微粒、微量の今赤粒、炭化物を含む、やや粘性・しなりに富む。
- 7 灰褐色 少量のローム粒、微量の炭化物を含む、やや粘性・しなりに欠く。
- 8 黒褐色 少量の今赤・七本塚粒、微量のローム微粒、ローム粒、炭化物を含む、やや粘性に欠き、ややしなりに富む、SI-1679様土。
- 9 濃い黄褐色 やや多量のローム微粒、微量のローム粒、七本塚粒を含む、やや粘性・しなりに富む、SI-1679様土。

第385図 SI-1143実測図(1)



第386図 SI-1143実測図(2)



第387図 SI-1143出土遺物実測図



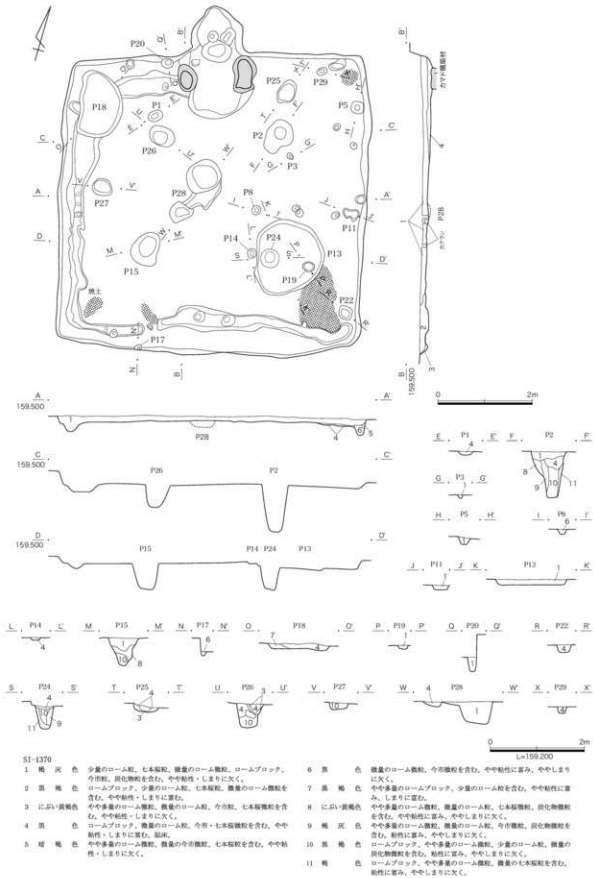
第115表 SI-1143出土遺物観察表

発掘 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考	
				口径	底径	高さ	外	内						
1	三六	土師器	環	10.5	2.5	5.7	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	白色粒 雲母片	小石	良	2/3	口縁外面ヨコナデ 体部 外面ハケ目 底部外面ナ デ 口縁内面ヨコナデ 体部から底部内面ヘラナ デ	
2		土師器	埴			(4.0)	7.5YR7/4 にぶい橙	2.5YR6/4 にぶい橙	白色粒	ガラス 質粒	良	1/8周	口縁外面ヘラミガキ(下 端括弧部ハケ目) 口縁 から胴部内面ヘラミガキ	内外面赤色
3	三七	土師器	器台 (7)			(6.1)	5YR3/6 暗赤褐	5YR5/6 明赤褐	雲母片 含む 砂粒	ガラス質粒	良	坏部から 胴部中位 迄存 下部欠 損	受けから胴部外面ヘラケ ズリ後ヘラミガキ 受け 胴部内面ヘラミガキ 胴 部内面ヘラナデ	胴部内面以外 全面赤彩 外 面は全面に摩 耗している
4		土師器	高環			(1.7)	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	赤色粒	白色粒 ガラス質粒	良	坏部1/4	体部内面ヘラミガキ	内外面赤彩
5		土師器	高環			(9.5)	2.5YR4/6 赤褐	10YR7/3 にぶい黄橙	赤色粒	白色粒 ガラス質粒	良	胴部完存	胴から底部内面ヘラ ケズリ	内外面赤彩 胴 部下位に2孔
6	三七	土師器	甕	11.8	5.3	13.9	7.5YR3/3 暗褐	10YR5/3 にぶい黄橙	白色細粒 雲母片	赤色 細粒	良	ほぼ完形	口縁外面ヨコナデ 胴部 外面ヘラケズリ後上半を ヘラナデ 底部外面ヘラ ケズリ 口縁内面ヨコナ デ 胴から底部内面ヘラ ナデ	外面胴部上半・ 内外面口縁部 赤彩
7		土師器	甕			(5.0)	10YR7/3 にぶい黄橙 5YR3/4 暗赤褐	7.5YR7/4 にぶい橙 5YR5/4 にぶい赤褐	砂粒	白色粒 含む	良	底から胴 部下位一 周	胴部外面ヘラケズリ後ヘ ラナデ 底部外面成形時 の炭い痕痕 胴から底部 内面ヘラナデ	底部直上から 3cm 幅で1/2 周が黄色化し ている

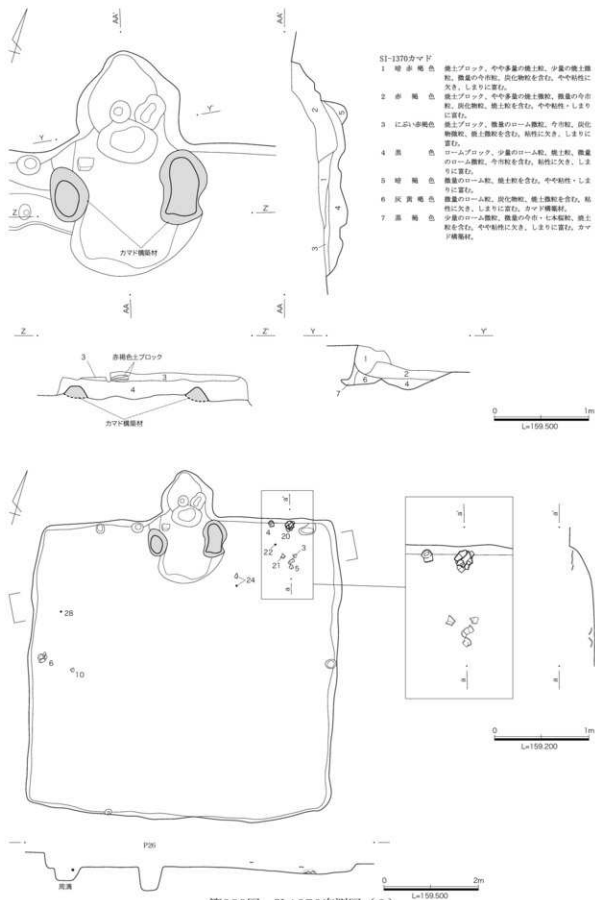
## SI-1370 (第388～390図、第116表、図版一八・三七・四〇)

Ⅱ区、グリットH 8区に位置する。重複する古代の竪穴建物跡SI-1677を切っている。6.48m×6.52mの方形を呈する。カマドは北壁中央に設置し両袖のカマド構築材が遺存していた。貼床はカマド付近とP13とした凹み、南壁付近に施す。南壁、西壁、北壁の一部に周溝を検出したが、壁よりも一回り内側で検出している。建物を拡張した可能性もあるが、セクションからは確認できない。柱穴は主柱穴となる4本(P2、P15、P24、P26)を検出した。いずれもしっかりとした掘方を持つ。また南壁周溝内にビット2本があり、出入り口施設に関係するものか。南東コーナー部に焼土ブロックを検出した。確認面からの深さは0.18mで、自然堆積と考えられる。また壁際の数カ所で焼土が確認されている。

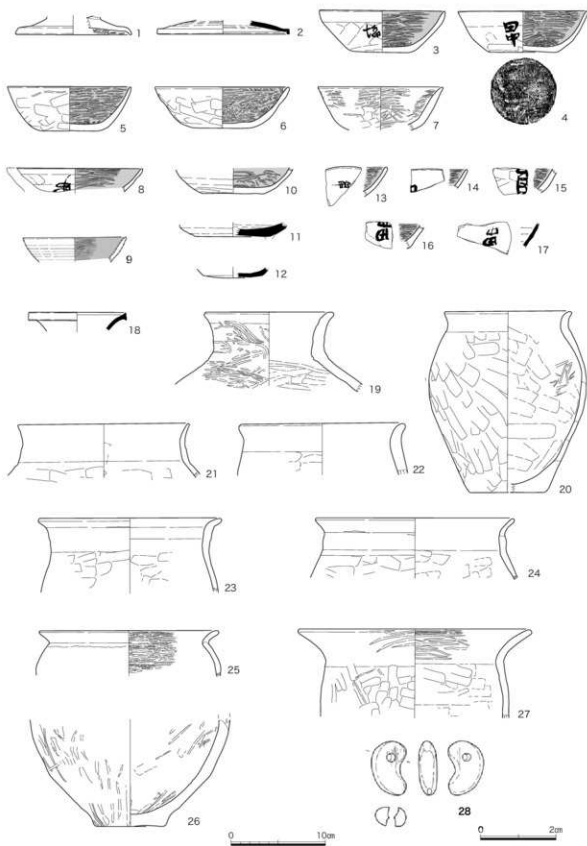
遺物は、1がリング状のツマミの付く土師器蓋、2が須恵器蓋である。3～10は平底で体部をヘラケズリする土師器環である。底部外面もヘラケズリし、内面黒色処理する。3は体部外面に「塙」を墨書する。胎土に八満山系の土由来で地元産であることを示す白針を含まず、搬入品の可能性がある。4は体部下端をヘラケズリし、底部外面は回転系切り後ヘラケズリする。体部外面に「田中」を墨書する。8は逆に「田中」を墨書する。10は体部下端をヘラケズリする。13～16は土師器環の体部片であるいずれにも体部外面に墨書があり、すべて「田中」と読める。11・12・17は須恵器環で、17は外面にやはり「田中」を墨書する。18は須恵器長頸壺の口縁、19は土師器壺である。20～27は土師器甕である。20・21・23・24はクロコナデした頸部が垂直に伸び口縁が外反する。25は球胴状の胴を持ち、口縁はくの字状に外反する。27は直立気味の胴部から外反した口縁が長く伸びる。28は石製勾玉である。長さ1.45cm、幅0.9cm、厚さ0.5cm、重さ0.86gで、両面から穿孔している。古墳時代前期のものと考えられ、伝世品であろう。また石材は天河石の可能性がある。建物の時期は土師器環の特徴から10世紀前葉と考えられる。



第388図 SI-1370実測図(1)



第389図 SI-1370実測図(2)



第390図 SI-1370出土遺物実測図

第116表 SI-1370出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	蓋	12.2		(2.0)	10YR8/2 灰白	10YR6/6 明黄褐	赤色粒 白色粒 小石	良	つまみ 1/4欠損	皿部外面ヨコナデ 皿部 内面ヘラミガキ	
2		須恵器	蓋	14.0		(1.5)	5Y7/1 灰白~灰	5Y7/1 灰白	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	1/8	逆位の成形	
3	三七	土師器	坏	13.0	6.7	4.4	7.5YR6/4 にぶい、黄	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 石英 小礫混入 白針	良	2/3	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
4	三七	土師器	坏	13.3	7.0	4.5	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y2/1 黒	赤色粒 雲母 白色粒 白針	良	体部3/4 欠損	口縁から底部内面 ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
5		土師器	坏	12.7	6.0	4.7	10YR6/3 にぶい、黄褐 10YR2/1 黒	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 小石混入	良	1/3	体部外面ヘラケズリ 底 部外面ヘラミガキ 口縁 から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
6	三七	土師器	坏	14.0	6.0	4.5	7.5YR8/6 浅黄橙 10YR7/4 にぶい、黄橙	10YR2/1 黒	砂粒 微砂粒少 量含む	良	一部欠損	口縁から底部外面ヘラケ ズリ 口縁から底部内面 ヘラミガキ	内面黒色処理
7		土師器	坏	12.8		(4.6)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	1/2割	口縁部外面ヘラミガキ 体 から底部外面ヘラナデ 後ヘラミガキ 口縁から 底部内面ヘラミガキ	
8	四〇	土師器	坏	14.0		(2.5)	10YR7/2 ~5/2 にぶい、黄橙 ~灰黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	体部1/8	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
9		土師器	坏	14.4		(3.5)	7.5YR8/1 ~7/4 灰白	7.5YR1.7/1 黒	雲母微量 白色粒 ガラス質粒	良	体部1/8	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理
10		土師器	坏		6.4	(2.7)	10YR6/3 にぶい、黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 雲母	良	体部下位 から底部	体部外面下位回転ヘラケ ズリ 底部外面ヘラ切り 体から底部内面ヘラミガ キ	内面黒色処理
11		須恵器	坏			(1.3)	5Y6/1 灰 5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	微量の砂粒含む	良	底部1/4 高台剥落	底部外面高台取り付け	高台の外側が やや黒色味を 帯びる(焼成 後のスス附着 か)
12		須恵器	坏		6.2	(1.1)	7.5YR5/1 灰	7.5YR4/1 灰	白色粒 小石	良	底部1/4	底部外面回転ヘラ切り	
13	四〇	土師器	坏				7.5YR6/6 橙	7.5YR2/1 黒	赤色粒 ガラス 質粒	良	体部破片	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
14	四〇	土師器	坏				10YR4/2 灰黄褐	10YR1.7/1 黒	白色粒 雲母微 片	良	口縁部破 片	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
15	四〇	土師器	坏				2.5Y7/3 浅黄	10YR1.7/1 黒	赤色粒 白色粒 ガラス質粒	良	体部下位 破片	体部内面ヘラナデ 口縁 から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
16	四〇	土師器	坏				10YR3/2 黒褐	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 雲母	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 塗りあり
17	四〇	須恵器	坏				5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	白色粒	良	破片	内外面ともにロクロナデ	体部外面に墨 塗りあり
18		須恵器	長頸 壺	10.2		(2.0)	5Y4/2 灰オリーブ	5Y4/2 灰オリーブ	白色微粒少量	良	口縁部 1/8	口縁外面ロクロナデ 口 縁内面ロクロナデ 内外 面とも施釉	自然釉
19		土師器	甕	13.2		(12.4)	5YR7/8 橙 7.5YR5/4 黄橙にぶ い	7.5YR6/6 橙	微砂粒含む	良	口縁から 胴部上位 1/5割	口縁部外面ヨコナデ後ヘ ラミガキ 胴部外面ヘラ ケズリ後ヘラミガキ 口 縁部内面ヨコナデ 胴部 内面ヘラナデ	
20		土師器	甕	12.8	8.0	19.2	7.5YR7/4 にぶい、橙 7.5YR4/1 相灰	10YR7/1 黒 10YR3/3 暗褐	砂粒含む	良	口縁部 1/6割 から 底部 1/2	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴 部内面ヘラナデ 底部 内面ヘラナデ	胴の内口縁か ら胴部下位に かけてススの 附着あり
21		土師器	甕	17.6		(5.8)	5YR5/6 明赤褐	7.5YR3/3 暗褐	白色微粒 黒雲 母片	良	口縁部 1/5	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部 内面ヘラナデ	胴手 口縁部 中に段あり 外面にスス の附着あり

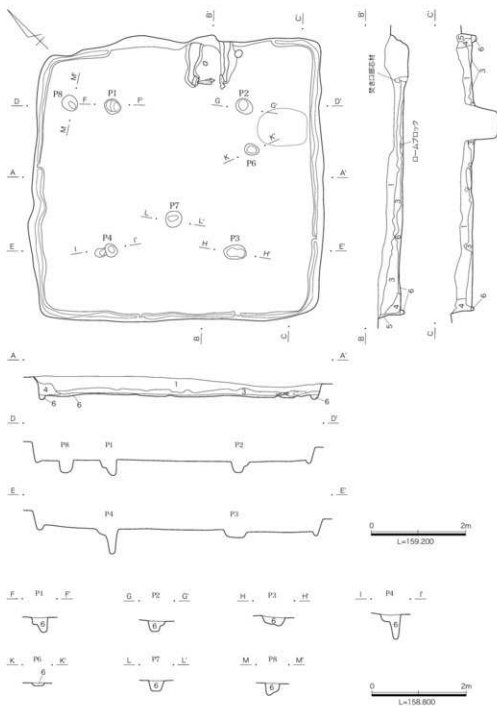
22	土師器	甕	17.0		(5.5)	10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/8 橙	黒色微粒	良	口縁部 1/6	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁から胴部内面ヨコナデ	
23	土師器	甕	18.8		(7.8)	10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR3/3 暗褐色	10YR3/2 黒褐色	微砂粒含む	良	口縁部 1/4	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面横方向のヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	口縁部上位に粘土帯接合痕一部残存
24	土師器	甕	20.4		(6.5)	7.5YR7/6 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒 ガラス質粒含む	良	口縁部 1/6	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	コの字形口縁の屈曲部に粘土帯接合痕がある 薄手
25	土師器	甕	18.4		(4.8)	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y2/1 黒	ガラス質粒 砂粒 雲母微片微量	良	口縁部 1/8	口縁から胴部外面ヨコナデ 口縁から胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ	外面胴部上位にスズ附着
26	土師器	甕	7.0		(11.3)	10YR3/2 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	白色粒 黒色粒 赤色粒 小石混入	良	胴から底部 1/4	胴から底部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴から底部内面ヘラナデ後ヘラミガキ	
27	土師器	甕	23.6		(9.4)	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	砂粒 少量のガラス質粒	良		口縁部外面ヘラミガキ 胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部内面ヘラミガキ 胴部内面ヘラケズリ後ヘラナデ	外面胴部上位にスズ附着
28	三七	勾玉	1.45	幅 0.9 厚さ 0.5		10CY6/1 緑灰				完形		0.86g 両面から穿孔している 天河石か

SI-1641 (第391～394図、第117表、図版一八・一九・三七・四〇)

Ⅱ区、グリット19区に位置する。5.96×6.12mの方形を呈する。カマドは北東壁やや東よりに設置し、良く遺存していた。両袖を黄褐色土で構築し、加工した板状の砂岩を用いて焚き口を構築している。同じく砂岩を利用した支脚は元位置を保ち、下半はカマド内で火を受けて煤が附着している。天井部は崩落していたが、土師器壺が支脚に支えられた状態で出土した。また同材質の板状砂岩が南東壁付近で出土している。貼床は施さず、床面は平坦である。周溝はほぼ全周する。柱穴は主柱穴と思われるものを4本検出している。確認面からの深さは0.48mで、自然堆積と考えられる。

遺物はカマドとカマド周辺、東コーナー部で多数出土した。遺存状態がよく、完形品も多い。多くが床・原位置を保ち、25の甕はカマド内支脚に乗った状態で、19と24は甕と小型甕が重なった状態で出土している。環が東コーナー部に並んで出土している。

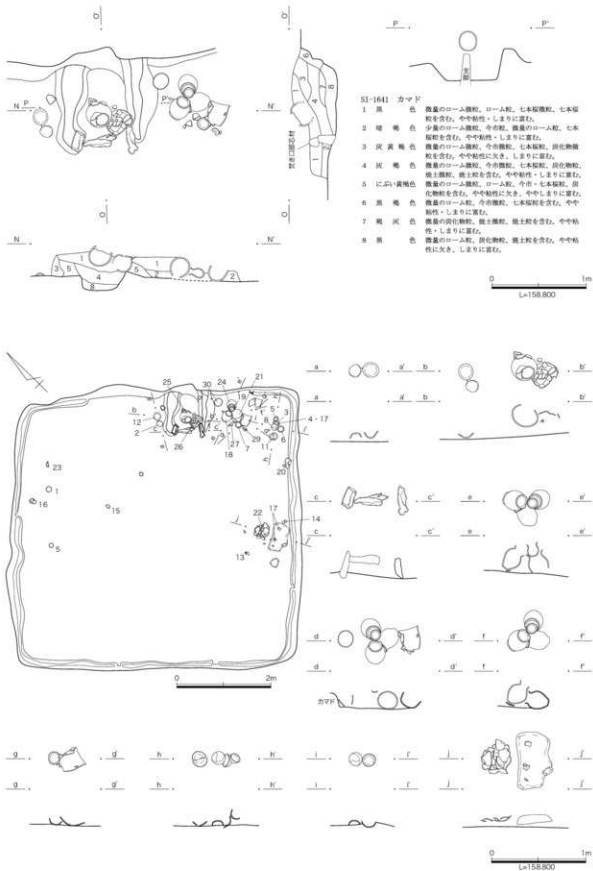
1～7・9・10は土師器環で、口径11.9～13.4cm、器高4.2～6.6cm、丸底で体部外面に弱い稜を持ち、口縁が外反する。2～4・6は口縁内外面に赤彩を施す。8は口径13.8cm、器高5.5cm、同じく丸底で体部外面に弱い稜を持つが、口縁が逆S字状を呈す。11・12は土師器環で、体部外面の稜が不明瞭で口径・器高ともに大きい。13・14は土師器高環である。内面全面と口縁外面に赤彩を施す。15は口縁の外反する鉢形土器。16・17は鉢もしくは小型の甕。18～28は土師器甕である。18～22は頸部がやや縦に伸び、口縁が外反するもの。24は口縁端部に面を有するもの。25～27は胴が張り、球胴に近いもの。28は長胴のもの。29・30は土師器甕である。建物の時期は土師器環の特徴から7世紀前葉～中葉と考えられる。



SI-1641

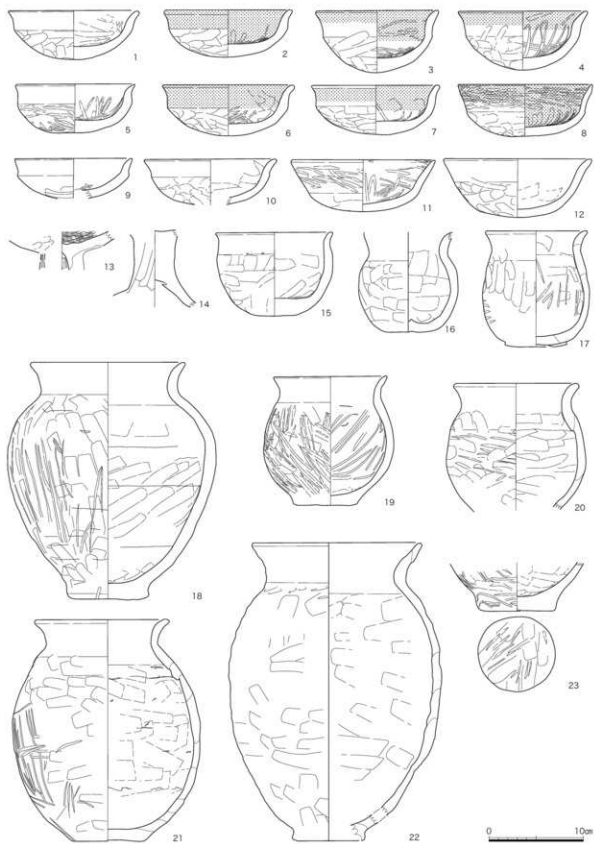
- 1 黒 色 ローム層状、ローム粒、七本板層状、七本板粒を含む、やや粘性・しまりに含む。
- 2 黒 褐色 少量の今市鉄粒、今市・七本板粒、少量のローム層状、ローム粒、七本板層状を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに含む。
- 3 暗 褐色 少量のローム層状、今市粒、少量のローム粒、七本板粒を含む、やや粘性・しまりに含む。
- 4 灰 褐色 七本板ブロック、今市・少量のローム層状、少量の今市鉄粒、七本板粒を含む、やや粘性・しまりに含む。
- 5 黒 褐色 少量のローム層状、今市・七本板粒を含む、粘性に富み、ややしまりに欠き。
- 6 焼 灰 色 ロームブロック、少量のローム粒、少量のローム層状、今市・七本板粒を含む、粘性に富み、ややしまりに含む。

第391図 SI-1641実測図(1)

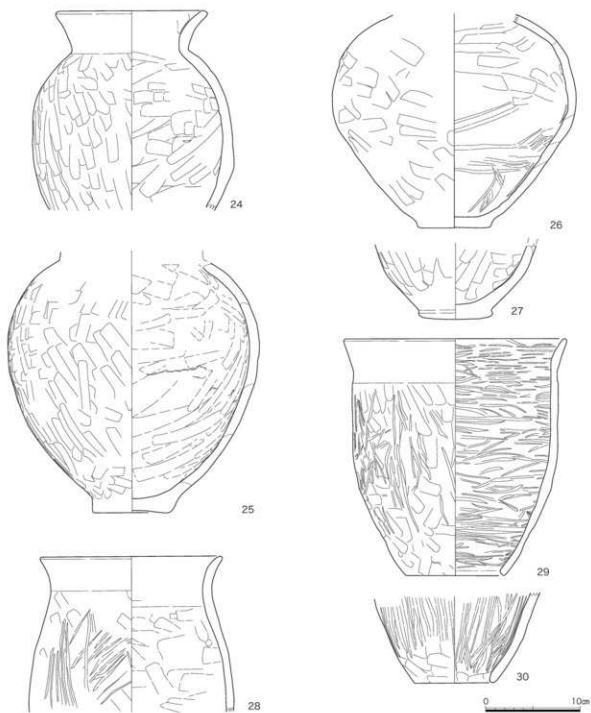


第392図 SI-1641実測図(2)





第393図 SI-1641出土遺物実測図(1)



第394図 SI-1641出土遺物実測図(2)

第117表 SI-1641出土遺物観察表

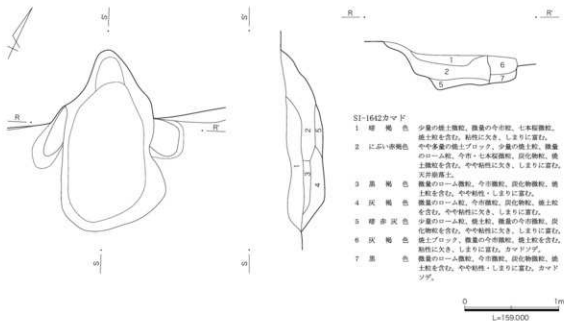
実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	坏	13.4		5.2	5YR6/6 椀	7.5YR5/6 椀	白色細粒～雑	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 から底部外面ヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ後 ヘラナデ 体から底部内面 ヘラナデ	
2		土師器	坏	13.0		5.0	5YR7/8 椀	5YR5/8 明赤褐色	白色細粒	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ミガキ	赤彩
3	三七	土師器	坏	12.5		6.6	N1.5 黒	2.5YR5/6 ～N1.5 明赤褐色～黒	白色細粒	良	完形	口縁部外面ヨコナデ後 ヘラナデ 体部外面ヘラナ デヘラケズリ 口縁から 体部内面ヨコナデ後ヘラ ミガキ	赤彩
4	三七	土師器	坏	13.0		6.2	10YR5/6 赤 7.5YR6/6 椀	10YR5/6 赤 7.5YR6/6 椀	白色細粒	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラナデ 底部外 面ヘラケズリ 口縁部内 面ヨコナデ後ヘラナデ 体部内面ヨコナデ後ヘラ ミガキ	赤彩
5		土師器	坏	12.2		5.2	7.5YR5/6 明褐色 7.5YR1.7/1 黒	7.5YR7/6 椀	白色粗粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラナデ後ミガキ 口縁部内面ヨコナデ 体 部内面ミガキ	
6	三七	土師器	坏	13.2		5.4	5YR6/6 椀 7.5YR7/6 椀	5YR6/6 椀	白色細粒	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ヘラナデミガキ	赤彩
7		土師器	坏	13.0		5.2	5YR7/8 椀	5YR6/8 椀	白色細粒 黒色 粗粒	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラナデヘラケズリ 口縁部内面ヨコナデ 体 部内面ヘラナデ後ミガキ	赤彩
8		土師器	坏	13.8		5.5	2.5YR6/8 椀	2.5YR6/8 椀	白色細粒	良	完形	口縁部外面ヨコナデ後 ヘラミガキ 体部外面ヘラ ナデ 口縁部内面ヨコナ デ後ヘラミガキ 体部内 面ヘラミガキ	赤彩
9		土師器	坏	11.9		(4.2)	10R4/6 赤	2.5YR5/6 明赤褐色	白色粗粒 赤褐色 粗粒	良	口縁部 1/3割 体部1/2 割	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 体部 内面ヘラミガキ	
10		土師器	坏	13.4		(4.8)	2.5YR6/8 椀	2.5YR6/8 椀	白色細粒	良	口縁部 1/2割 体部一部	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ一部ヘラナ デ 体部内面ヨコナデ後 ヘラナデ	
11		土師器	坏	15.0		5.6	2.5YR5/8 明赤褐色	5YR6/6 椀 2.5YR5/8 明赤褐色	赤褐色粗粒微量	良	口縁一部 欠損	口縁部外面ヨコナデ後ミ ガキ 体部外面ミガキ・ ヘラナデ 口縁部内面ヨ コナデ後ミガキ 体部内 面ミガキ	
12		土師器	坏	15.0		6.2	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色粗粒 ガラス 破片 小石	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ(一部ナ デ) 口縁部内面ヨコナ デ 体部内面ヘラナデ	
13		土師器	高坏			(4.0)	2.5YR4/8 赤褐色	2.5YR4/8 赤褐色	赤褐色粗粒	良	坏から脚 部一部残	坏部外面ヘラケズリ 脚 部外面ミガキ 坏部内面 ミガキ 脚部内面ヘラナ デ	
14		土師器	高坏			(8.2)	7.5YR6/6 椀	5YR7/8 椀	白色 青灰色 赤褐色粗粒	良	坏一部残 脚部底存 差一部残	脚部外面ヘラケズリ 坏 部内面不明 脚部内面ヨ コナデ	
15		土師器	鉢	12.0		8.8	7.5YR4/3 褐色 7.5YR7/6 椀	7.5YR4/3 褐色 7.5YR7/6 椀	白色細粒	良	口縁一部 欠損 胴部2/3	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデ 口縁部 内面ヨコナデ 胴部内面 ヘラナデ	
16		土師器	甕	5.0		(10.5)	7.5YR3/3 暗褐色 7.5YR7/4 にぶい椀	7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR7/4 にぶい椀	白色粗粒 ガラス 破片 小石	良	口縁1/4 胴部1/3 底部底存	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラナデヘラケ ズリ 底部外面ヘラケズ リ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ 底部 内面ヘラケズリ	

17	土師器	費	10.5	6.4	12.2	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	白色細粒 色澤	赤褐色	良	口縁から 胴部1/3 底部1/2	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ一部横方向に沈線 底部外面粘土貼り付けのまま 口縁部内面ヨコナデ後ヘラナデ 胴部内面ヘラナデ後ミガキ 底部内面ヘラナデ
18	土師器	費	15.7	8.0	25.1	10YR1.7/1 黒 10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/6 黄褐色	白色細～礫 色粗粒	黒 小石	良	ほぼ完形	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後ミガキヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ
19	三七 土師器	費	11.5	6.7	13.6	10YR4/6 赤 7.5YR6/6 ～N1.5 橙～黒	10R4/6 赤 2.5YR2/1 赤黒	白色微粒		良	完形	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後ヘラナデ後ヘラミガキ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラミガキ 底部内面ヘラナデ
20	土師器	費	12.5		(13.5)	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	白色細粒		良	口縁3/5 胴部3/5	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後ミガキ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ
21	土師器	費	13.6	7.4	23.4	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	白色細～粗粒 ガラス質粒	赤 色粗粒	良	完形	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後粗いヘラミガキ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ
22	土師器	費	17.5	6.4	31.6	2.5YB/3 にぶい黄	2.5YB/3 にぶい黄	ガラス質粒 色砂粒	白	良	底部欠損	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後ヨココ方向に粗いヘラミガキ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ
23	土師器	費	8.1		(5.1)	2.5YR4/8 赤褐色	2.5Y3/2 黒褐色	白色細粒 ガラス質片	ガラ ス質片	良	胴一部 底部全周	胴部外面ヘラナデ後ヘラミガキ 底部外面ヘラナデ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ
24	土師器	費	14.7		(21.0)	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	白色細～粗粒 赤褐色粗粒		良	底部より 上は完形	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後 口縁部内面ヨコナデヘラナデ 胴部内面上部ヘラナデ下部ヘラナデ後
25	土師器	費	8.0		(27.6)	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	白色細粒 青灰色粗粒	青灰色粗粒 赤色粗粒	良	口縁部欠損	胴部外面タテ方向ヘラナデ後上部をヨココ方向にヘラナデ 胴部内面ヘラナデ 底部外面ヘラナデ
26	土師器	費	7.6		(22.4)	10YR4/3 にぶい黄褐色	7.5YR4/3 褐色	白色粗粒	小石	良	口縁部欠損 胴部1/2 底部完形	胴部外面ヘラナデ後 胴部内面上部ヘラナデ下部ミガキ
27	土師器	費	7.2		(7.8)	10YR4/1 褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色微粒 色澤	赤褐色	良	胴下部 2/3 底部完形	胴部外面ヘラナデ後 胴部内面ヘラナデ
28	土師器	費	18.6		(16.4)	10YR6/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄褐色	白色微粒 ガラス質片	ガラ ス質片 小石	良	口縁5/8 周 胴部上半 1/2周	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラミガキヘラナデ後 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ
29	土師器	瓶	22.8	10.3	25.0	7.5YR6/6 橙	5YR4/6 赤褐色	白色粗粒	小石	良	口縁から 胴部5/8 周 底部1/2 周	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後ヘラミガキヘラナデ後ヘラミガキ 口縁部内面ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラミガキ
30	土師器	瓶	8.3		(9.5)	5YR4/3 にぶい赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	白色粗粒		良	胴部下位	胴部外面ミガキヘラナデ後 胴部内面ミガキヘラナデ

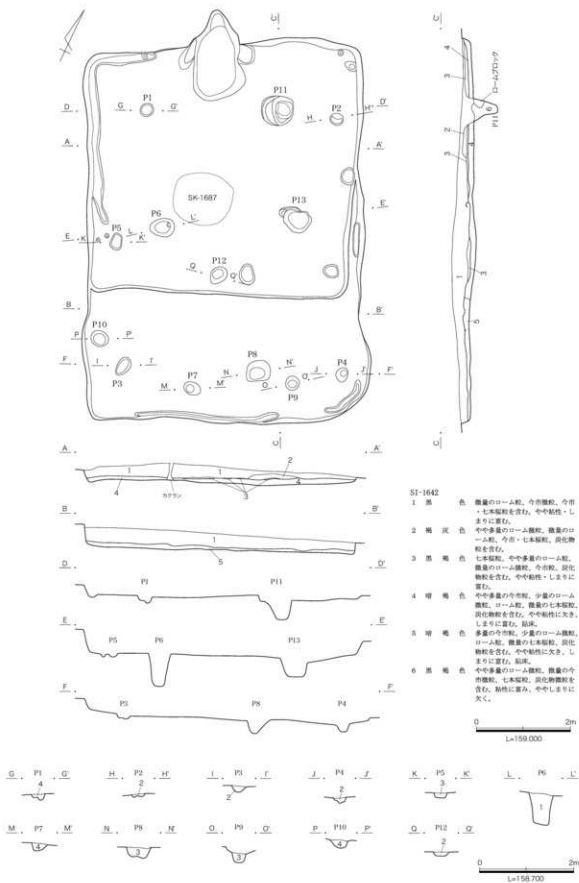
## SI-1642 (第395～399図、第118表、図版一九・三七・三八・四〇)

II区、グリット18区に位置する。8.16×5.84mの長方形を呈する、拡張を行った建物跡と考えられる。床は全面に貼床を施すが、南側の拡張部分の貼床の方が今市ローム粒を多く含むこと、南北セクションでは埋土の違いが見られないことから、南側部分を拡張によるものと判断した。拡張部分は微かながら床面が高い。カマドは北壁に設置し、灰褐色土で作られた両袖が遺存していた。周溝は各壁の一部で検出された。柱穴は本体部分に主柱穴と考えられる4本を検出した。いずれもしっかりとした掘方をもつ。拡張部分に主柱穴に当たる柱穴は見られない。確認面からの深さは0.38mである。

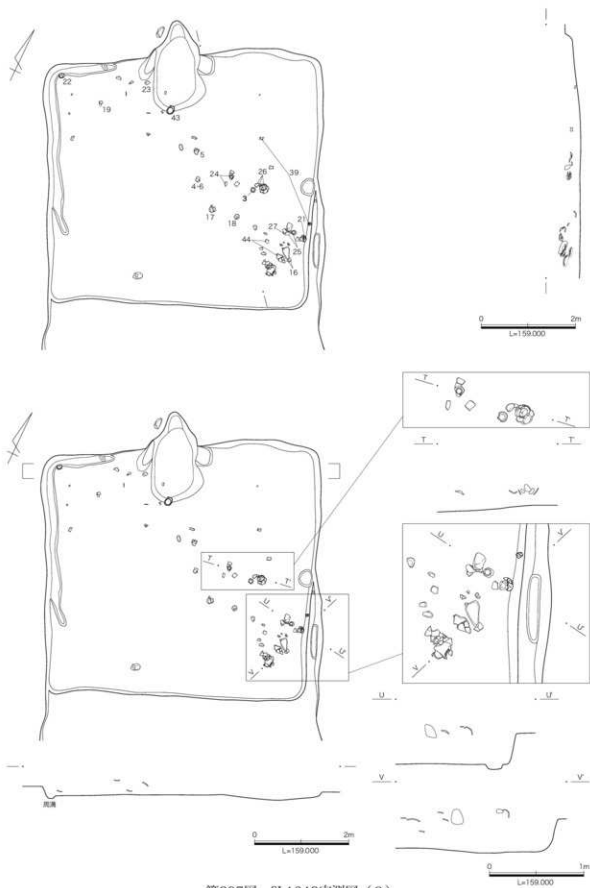
遺物は、カマド付近から南東コーナー方向に帯状に出土している。いずれも床面からは浮いた状態の出土である。1は土師器蓋、2・3は須恵器蓋である。4～13は土師器環で、体部と底部の境に段を有し、体部及び口縁は直線的に伸びる。底部外面は回転系切りと、回転系切り後回転ヘラケズリするものがある。全て内面黒色処理する。14～16は底部と体部の境に段を持たず直線的に体部が開くものである。底部外面は回転系切りで、16のみ不定方向にヘラケズリする。すべて内面黒色処理する。17・18は口径と底径の差が小さく箱形を呈する土師器環で、底部外面は回転系切り後回転ヘラケズリする。また内面黒色処理する。19は器厚があり直線的な体部と口縁を持つ土師器環。20はやや膨らんだ底部を持つ土師器環。21は平底で内湾する体部の土師器環。これらの環のうち、4～7・10・12・13・15・17・18に墨書が見られ、全てが「足」の墨書である。29～33は墨書の見られる土師器環の破片で、29は「足」の墨書と見られる。これらの土師器環は、多くが胎土に白針を含むが、7のみ白針を含まず、胎土は比較的精良で硬質である。22・23は須恵器環で、体部がやや内湾して立ち上がる。「足」を墨書する22は胎土に白針を含み南那須窯跡群産である。24～28は土師器高台付環である。25・26・28は碗形を呈し、高台は外反する。35～38は反軸陶器の壺である。39・40は土師器高環、41はハケ目の見られる土師器甕で古墳時代遺物の混入と考えられる。42は短く直立する口縁の土師器甕。43は須恵器甕、44は把手付き、多孔の土師器甕である。45は鉄斧である。環類は9世紀中葉の特徴を示すが、高台付環の存在からもう一時期新しい可能性を考慮し、建物の時期は9世紀中葉～後葉としておく。



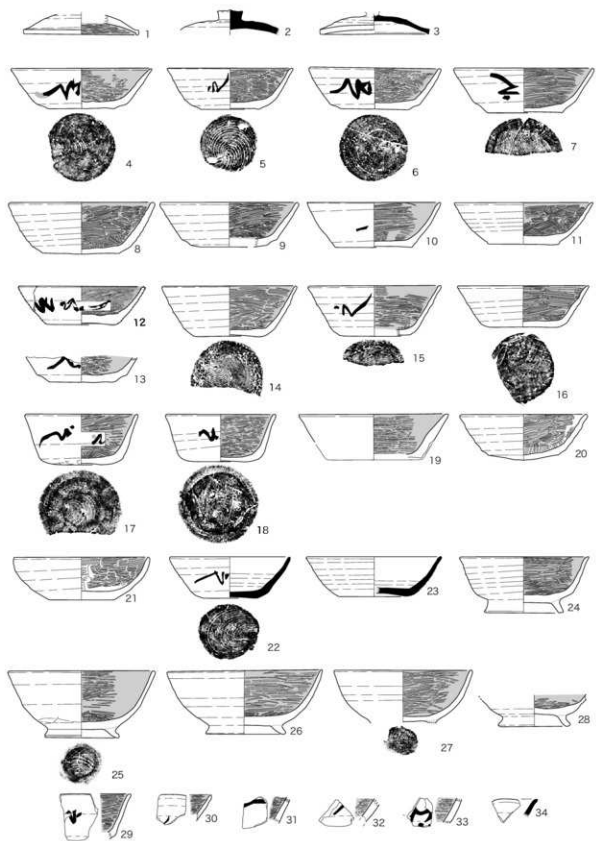
第395図 SI-1642実測図(1)



第396図 SI-1642実測図(2)



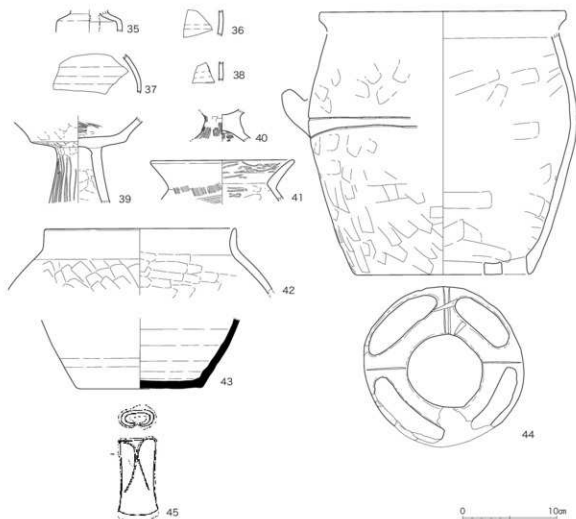
第397図 SI-1642実測図(3)



0 10cm

第398図 SI-1642出土遺物実測図(1)





第399図 SI-1642出土遺物実測図(2)

第118表 SI-1642出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師 器	蓋	11.6		(2.0)	10YR6/4 ~17/1 に赤い黄粉 ~黒	10YR1.7/1 黒	白色粒 雲母	良	1/4 つま み欠損	体から口縁部内面へラミ ガキ	内面黒色処理
2		須恵 器	蓋		(2.6)		5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粒 石英 黒色粒 小石混	良	1/4割	体部外面ロクロナデ後天 井部を3段に回転ヘラケ ズリ 体部内面ナデ	つまみ部割付
3		須恵 器	蓋	11.4		(2.0)	N4 灰	7.5Y4/1 ~ N3 灰~暗灰	白色粒	良	3/4	体部外面ロクロナデ後天 井部を2段に回転ヘラケ ズリ 体部内面ロクロナ デ	内面に重ね塊 き痕あり つ まみ部剥落
4	三七	土師 器	坏	14.6	7.2	4.2	5YR5/8 明赤褐	5YR2/1 黒	砂粒 雲母 霰細 破片	良	口縁から 体部1/4 周 底部一部 欠損	底部外面回転糸切り後ヘ ラケズリ 口縁から底部 内面へラミガキ	内面黒色処理 少量あり つ まみ部外面に 墨書「足」
5	三七	土師 器	坏	13.0	6.0	4.4	7.5YR5/4 に赤い斑	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 石英 白針	良	1/3	底部外面へラ切り 口縁 から底部内面へラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「足」
6	三七	土師 器	坏	13.4	7.2	4.2	2.5YR5/8 明赤褐 5YR5/8 橙	5YR2/1 黒褐	砂粒 少量の小 礫 微量の雲母 破片 白針	良	口縁から 体部3/4 周 底部全周	底部外面回転ヘラ切り (糸切り後へラで調整か) 体から底部内面へラミガ キ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「足」

7	三七	土師器	環	14.3	8.0	4.7	7.5YR6/6 ～2/1 橙～黒	10YR1.7/1 黒	雲母 赤色粒 白色粒 小石	良	1/4	口縁から体部内面ヘラミガキ 底部内面回転糸切り後処理ヘラケズリ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
8		土師器	環	14.9	(8.2)	5.5	7.5YR6/6 黒	10YR2/1 黒	黒雲母片 白色粗粒	良	口縁から底部1/3	底部外面時計回り糸切り口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
9		土師器	環	14.2	8.0	4.8	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 ガラス質粒	良	1/8	口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
10	三八	土師器	環	14.0	8.0	4.7	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 石英 白針多量	良	底部約1/2 口縁から体部1/8	底部外面ヘラ切り難し後ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書
11		土師器	環	14.6	7.4	4.3	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5Y2/1 黒	青灰色粗粒 赤褐色粗粒 白色細粒	良	口縁から体部1/5 底部1/2	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
12	三八	土師器	環	13.4	7.2	4.1	7.5YR5/4 にぶい橙	N1.5 黒	白色微～粗粒 黒色粗粒 雲母	良	体部1/2 欠損	底部外面回転糸切り難し口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
13	三八	土師器	環		6.6	(2.7)	7.5YR6/6 黒	7.5YR2/1 黒	砂粒 微量の雲母の微細破片 白針	良	体部1/8 底部3/4	底部外面回転ヘラ切り体から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
14		土師器	環	13.8	7.6	5.3	7.5YR5/4 にぶい橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 石英	良	1/2弱	底部回転糸切り後周囲ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
15	三八	土師器	環	13.7	7.4	5.4	7.5YR6/6 ～1.7/1 橙～黒	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒 雲母 白針	良	1/3	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
16		土師器	環	(13.6)	7.0	4.3	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR2/1 黒	白色粗粒 黒色粗粒 ガラス質片	良	口縁から体部3/5 周 底部一部欠損	底部回転糸切り後周囲ヘラケズリ 口縁から底部内面ミガキ	内面黒色処理
17	三八	土師器	環	11.6	8.6	5.4	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 雲母 白針	良	1/2	底部外面回転糸切り難し後外周ヘラケズリ 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
18	三八	土師器	環	11.4	6.0	5.0	10YR5/6 黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 赤色粒少量 雲母微片 ガラス質粒 白針	良	口縁一部 欠損	底部外面回転糸切り後周囲ヘラケズリ 口縁から底部内面ミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
19		土師器	環	15.3	10.0	(4.2)	10YR8/4 浅黄橙	10YR2/1 黒	砂粒 白色粒 ガラス質微粒含	良	口縁から体部下位 1/8周	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 内面落屑の墨書は黒色味を帯びる
20		土師器	環	13.4	6.8	(4.6)	7.5YR6/8 橙 7.5YR5/2 灰黄	7.5YR5/8 明 7.5YR5/3 にぶい橙	白色微粒 青灰 色細粒	良	口縁から体部1/5 底部1/2	底部外面時計回り糸切り後周囲ヘラケズリ 口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書「足」
21		土師器	環	14.0	6.8	4.5	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5Y2/1 黒 7.5YR7/6 橙	白色粗粒 青灰 色粗粒	良	口縁から体部1/3 欠損	底部外面回転糸切り口縁から体部内面ヘラミガキ	
22	三八	須恵器	環	12.4	5.6	4.4	2.5Y7/2 灰 5Y5/1 灰	2.5Y7/3 灰 5Y5/1 灰	砂粒少量 雲母 微片微量 白針	良	口縁から体部3/4 周 底部全周	底部外面回転糸切り	体部外面に墨書「足」
23		須恵器	環	13.9	7.4	4.2	5Y8/1 灰白 2.5Y7/2 灰黄	5Y7/1 灰白 5Y7/2 灰白	砂粒含む	良	口縁部 1/4 体部 1/5 底部 1/2周	体部外面一部ヘラナデ 底部外面回転糸切り	
24	三七	土師器	高台付環	13.4	7.4	5.9	7.5YR7/8 黄橙 7.5YR8/3 浅黄橙	7.5Y2/1 黒	白色微粒 青灰 色粗粒	良	口縁から体部高台 一部欠損	体部外面下位逆位回転ヘラケズリ 底部外面回転ヘラ切り後高台貼付 口縁から体部内面ヘラナデ	内面黒色処理
25		土師器	高台付環	15.0	7.8	7.0	10YR7/4 ～1.7/1 明黄橙～黒	10YR7/4 ～1.7/1 明黄橙～黒	白色粒 石英 雲母片	良	底部穴存 体部1/3	体部外面下位回転ヘラケズリ 底部外面回転糸切り後高台貼付 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面一部黒化 内面黒色処理
26	三八	土師器	高台付環	16.1	8.0	6.8	2.5Y7/2 黄灰	7.5Y2/1 黒	白色粒 赤色粒	良	ほぼ定形	底部外面高台貼付 指頭庄痕 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
27	三八	土師器	高台付環	14.2		(5.7)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	一部欠損	底部外面回転糸切り後高台貼付 口縁から底部内面ヘラミガキ	内面黒色処理
28		土師器	環		7.2	(3.3)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒	良	体部下位 から底部	底部回転糸切り後逆位で回転ヘラケズリ 高台貼付 体部内面ヘラミガキ 高台の内面回転ヘラナデ	外面体部下位にスズ附着 内面黒色処理

29	四〇	土師器	環		(4.8)	5YR6/6 黒	5YR1.7/1 黒	ガラス質粒 小石	良	破片	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「足」	
30	四〇	土師器	環		(2.8)	5YR6/6 黒	5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 ガラス質粒 白 針	良	破片	口縁から体部内面ヘラミ ガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「不明」	
31	四〇	土師器	環		(2.6)	7.5YR6/6 黒	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 ガラス質粒 白 針	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「不明」	
32	四〇	土師器	環		(2.8)	10YR8/3 浅黄緑	10YR2/1 黒	砂粒 少量のガ ラス質粒 少量 の赤色粒 白針	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「不明」	
33	四〇	土師器	環		(2.8)	5YR7/4 にぶい黄 5YR5/6明 赤褐	5YR2/1 黒	砂粒 白色粒含 む 白針	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「不明」	
34	須恵器	環			(1.9)	2.5YR1/ 灰白	2.5YR1/ 灰白	雲母	良	破片	口縁内外面ロクロナデ		
35	灰輪 陶器	壺			(2.4)	7.5Y2/2 オリーブ黒	N6 黒	白色粒 赤色粒 黒色粒	良	胴部1/4	ロクロナデ 外面に自然 釉附着	外面全面施釉 内面に釉重ね あり	
36	灰輪 陶器	壺			(3.0)	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/2 暗黄	赤色粒 黒色粒	良	破片	ロクロナデ 外面に施釉		
37	灰輪 陶器	壺			(4.2)	7.5YR4/3 暗褐 7.5Y4/3 褐	2.5Y5/2 黄灰	白色粒 黒色粒 赤色粒	良	破片	ロクロナデ 外面に施釉		
38	須恵器	壺			(1.9)	7.5YR3/4 暗褐	2.5Y5/2 暗灰黄	白色粒	良	破片	内外面ロクロナデ 外面 は赤褐色を呈し金属光沢 あり		
39	土師器	高環			(9.0)	10YR7/3 にぶい黄緑	10YR7/3 にぶい黄緑	石英 白色粒	良	脚部上半 完存 底 部1/4	環部外面ヘラナデ 脚部 外面ヘラナデ後ヘラミガ キ 環から脚部内面ヘラ ナデ		
40	土師器	高環			(3.4)	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y3/2 黒褐	白色粒 黒色粒 雲母微量	良	脚部上半 のみ全周 遺存	脚部外面ナデ後ハケ目 脚部内面ナデ後ハケ目		
41	土師器	費	14.6		(4.5)	10YR6/3 にぶい黄緑	7.5YR6/6 黒	白色粒 黒色粒 小石混入	良	1/6	口縁部外面ヨコナデ後ハ ケ目 体部外面ハケ目 口縁部内面ヨコナデ後ヘ ラミガキ 体部内面ヘラ ナデ後ヘラミガキ		
42	土師器	費	19.6		(7.0)	7.5YR7/4 にぶい黒	7.5YR7/4 にぶい黒	白色粒 赤色粒 微量 小礫	良	口縁部 1/6	口縁部外面ヨコナデ 体 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 体部内 面ヘラナデ		
43	須恵器	費		12.9	(7.5)	2.5Y7/1 ～ 7.5Y2/1 灰白～黒	2.5Y7/1 灰白	黒色粒	良	底部完形 胴部下位 1/2	底部外面ヘララ切り		
44	三八	土師器	瓶	25.3	18.0	(27.8)	10YR6/4 にぶい黄緑	10YR6/4 にぶい黄緑	砂粒 白色粒含	良	口縁一部 残存 胴 部中位 3/4周 胴部下位 から底部 全周	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面上ヘラナデ下半 ヘラケズリ 口縁部内面 ヨコナデ 胴部内面ヘラ ナデ	底部外面沈線
45	鉄製品	斧	長さ 8.8	幅 4.3	厚さ 1.2							重さ156.18g	

## SI-1643 (第400～403図、第119表、図版一九・二〇・三八～四〇)

Ⅱ区、グリットⅠ8区に位置する。重複する古代の竪穴建物跡SI-1644とSI-1645に切られる。当初1軒の建物跡と判断して調査を開始したが、西壁の状況とセクションから2軒と判断し、北側の新しい方をSI-1643 A、南側の古い方をSI-1643 Bとした。遺物は、遺構の重複状況や新旧関係を考慮せず取り上げてしまったため一括で図示したが、古代9世紀の遺物がSI-1643 A、古墳時代前期4世紀の遺物がSI-1643 Bの遺物とすることができる。

## SI-1643 A

Ⅱ区、グリットⅠ8区に位置する。重複する建物SI-1643 Bより新しく、SI-1644、1645より古い。南西および南東コーナー部分が壊されている。5.44×6.34mのやや扁平な方形を呈する。カマドは北壁に設置し、袖は残存していなかったが支脚が2本並列した状態で遺存していた。貼床は南側のみ一部施す。周溝は各壁に一部のみ検出した。確認面からの深さは0.44mである。

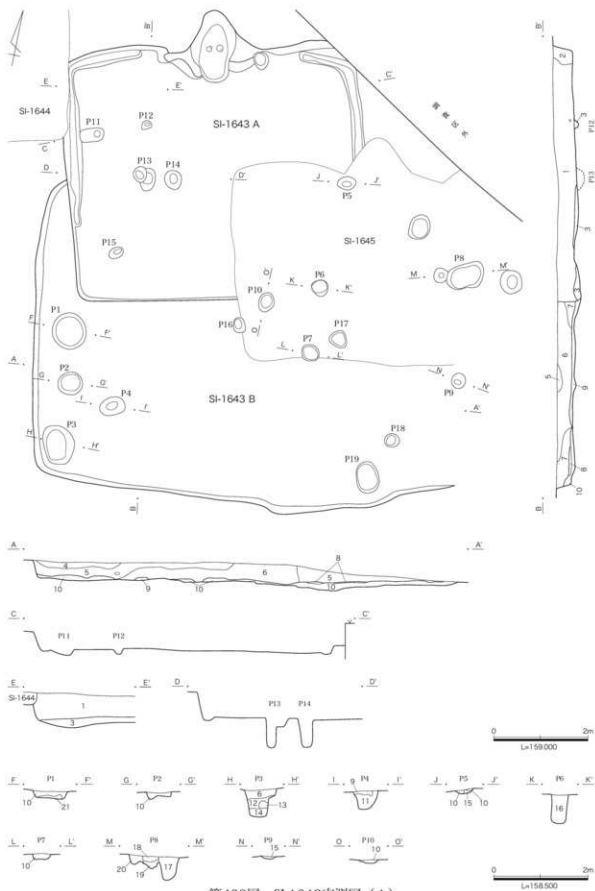
1～20がSI-1643 Aの出土遺物である。1は須恵器蓋である。2～8は土師器環である。2・4は内湾気味の体部を持ち、3・5は直線的な体部を持つ。6・7は土師器環の破片で墨書が見られる。6は「大口」、7は不明である。9は土師器皿で、高台は外傾する。10は須恵器高環、12は須恵器環である。11・16・17は土師器甕で、16はく字状の口縁、17は口縁端部をつまんだ下野型である。13は須恵器壺、15は須恵器蓋、14は灰釉陶器壺である。建物の時期は土師器環の特徴から9世紀中葉と考えられる。

## SI-1643 B

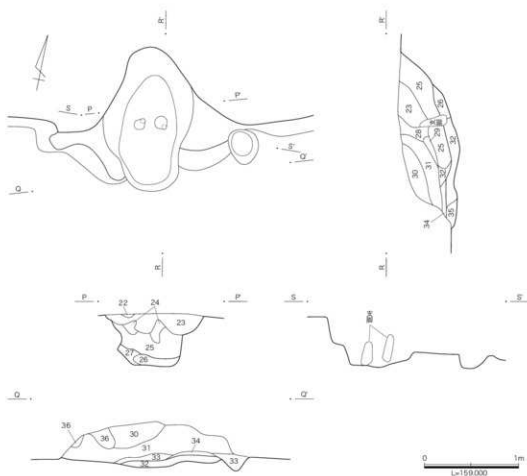
Ⅱ区、グリットⅠ8区に位置する。重複する建物SI-1643 A、1644、1645より古い。東側は削平により壁を検出できなかった。6.8×8.9mの範囲を検出し、扁平な方形を呈する。火処は検出されなかった。全面に貼床を施す。確認面からの深さは0.4mである。また南東コーナー部に貯蔵穴と思われる施設を検出した。この施設は0.81×0.66m、床面からの深さ0.56mで、底面はやや凹凸があるが平坦である。

21～29がSI-1643 Bの出土遺物である。21は土師器小型甕の胴部下半である。内外面ともにヘラミガキと赤彩を施す。底部外面は凹みのある平底である。22は台付甕の脚部である。胴部外面ハケ目、脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ハケ目調整する。23は土師器壺もしくは大型の甕で、胴部のみ完成品である。焼成が悪くまた摩耗が著しい。外面はハケ目調整後ヘラミガキする。底部は平底である。24・25は折り返した粘土を口縁に貼り付ける複合口縁の土師器壺である。24は外傾する頸部から口縁が外反する。口縁は丁寧にヨコナデされ、端部は丸く取られる。ハケ成形後頸部と体部外面をヘラミガキする。25は折り返した口縁端部に面を作りヘラミガキする。しかし貼り付け部のナデ調整は甘く、成形時のハケ目が覗いている。頸部から胴部は丁寧にヘラミガキする。26～29はハケ目を有する土師器甕である。26・28・29とも口縁は単口縁でのく字状に外反する。29は外面全面にハケ目が見られるが、26は下半にヘラケズリを施す。これらの遺物は、おおむね古墳時代前期最終段階に属すが、ハケ目の残る台付甕、外面全面にハケ目を有する甕など、若干の古い要素も含む。建物の時期は古墳時代前期最終段階で4世紀末と考えられる。

同様に古墳時代前期に比定した建物跡にはSI-1143があるが、SI-1643 B出土遺物の方がより古相を示している。



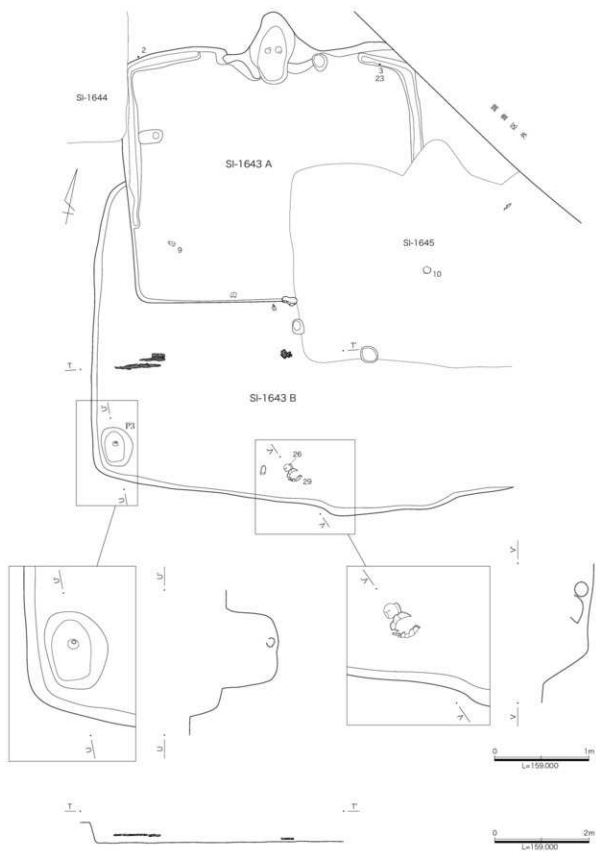
第400図 SI-1643実測図(1)



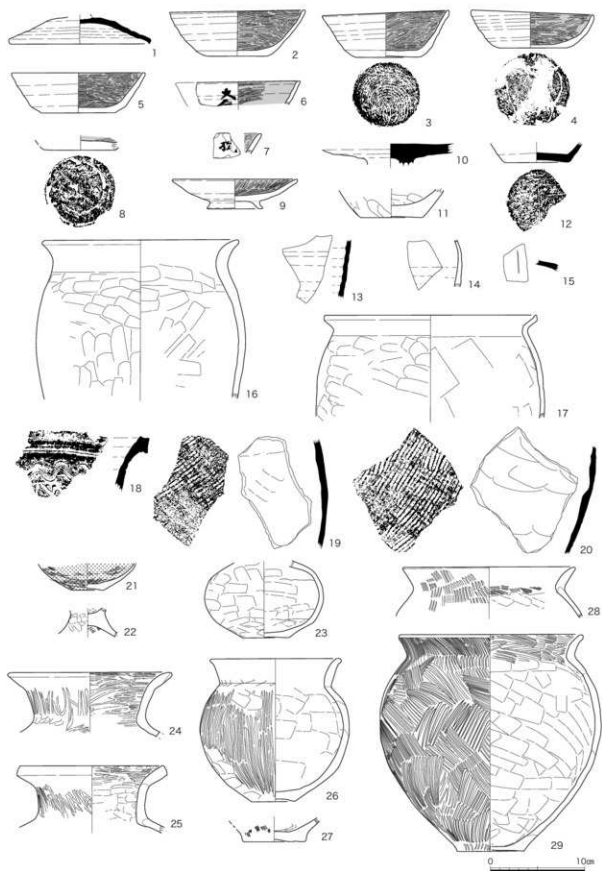
SI-1643

- 1 黒 褐色 ローム層、ローム粒。少量の今市・七本塚。少量のロームブロック。炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 2 に近い褐色 やや多量の灰。少量の粘土層。粘土粒。少量のローム粒。今市・七本塚。炭化物。粘土ブロックを含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 3 に近い褐色 少量のローム粒。少量のローム粒。今市・七本塚。炭化物。粘土ブロックを含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 4 黒 褐色 ローム層。粘土層。少量の今市・七本塚。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 5 に近い黄褐色 ローム層。粘土層。少量の今市・七本塚。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 6 黒 褐色 少量のローム層。今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 7 黒 褐色 少量のローム層。今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 8 黒 褐色 少量のローム層。今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 9 黒 褐色 少量のローム層。今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 10 黒 褐色 少量のローム層。今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 11 黒 褐色 少量のローム層。今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 12 に近い黄褐色 少量の今市・七本塚。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 13 明 褐色 ローム層。やや多量の粘土層。少量のローム粒。今市・七本塚。炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 14 黒 褐色 少量のローム層。ローム粒。炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 15 黒 褐色 ローム層。少量の粘土層。粘土ブロック。少量の七本塚。粘土層を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 16 黒 褐色 少量のローム層。少量のローム粒。炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 17 黒 褐色 少量のローム層。少量のローム粒。炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 18 黒 褐色 少量の七本塚。少量のローム層。ローム粒。今市。炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 19 黒 褐色 少量のローム層。少量のローム粒。七本塚。少量の今市。炭化物。粘土層を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 20 に近い黄褐色 少量のローム層。ローム粒。今市・七本塚。炭化物。少量の粘土層を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 21 明 褐色 少量のローム層。少量の今市ブロックを含む。粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 22 黒 褐色 少量の灰。少量の粘土層を含む。やや粘性に欠き。しなりに富む。
- 23 明 褐色 やや多量の灰。少量の粘土層。粘土ブロック。少量のローム層。少量のロームブロックを含む。やや粘性に欠き。しなりに富む。天井崩落土。
- 24 に近い黄褐色 灰。少量の粘土層。粘土層を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 25 に近い黄褐色 灰。粘土層。少量の粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 26 に近い黄褐色 灰。粘土層。少量の粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 27 に近い黄褐色 灰。粘土層。少量の粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 28 に近い黄褐色 灰。少量のローム粒。粘土層。粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 29 灰 少量のローム粒。少量の粘土層。粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 30 灰 少量の粘土層。少量のローム層。ローム粒。粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 31 黒 褐色 少量の灰。少量の粘土層。粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 32 明 褐色 少量の灰。少量の粘土層。粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 33 黒 褐色 少量の灰。少量の粘土層。粘土層を含む。やや粘性に富み。ややしなりに欠く。
- 34 灰 少量の粘土層。少量のローム層。少量の炭化物を含む。やや粘性・しなりに欠く。
- 35 黒 褐色 ローム層。少量のロームブロック。炭化物。粘土層。少量のローム粒を含む。やや粘性に欠き。しなりに富む。
- 36 に近い黄褐色 やや多量の灰。少量のローム層。ローム粒。粘土層。粘土層を含む。やや粘性に欠き。しなりに富む。

第401図 SI-1643実測図(2)



第402図 SI-1643実測図(3)



第403図 SI-1643出土遺物実測図



第119表 SI-1643出土遺物観察表

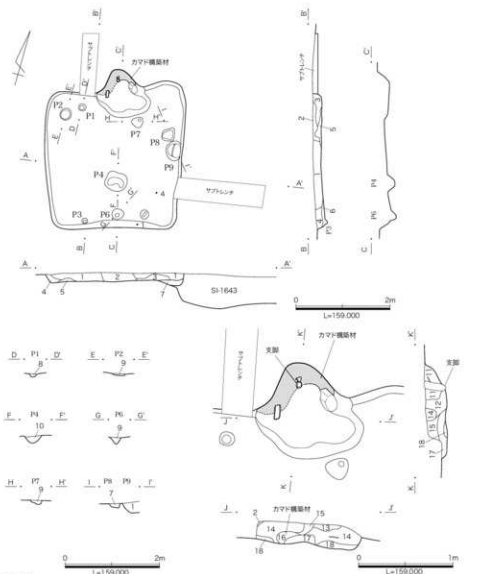
実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		須恵器	蓋	14.5		(2.8)	2.5GY6/1 オリブ灰	N4	白色粗粒	良	口縁部 1/3欠損 つまみ欠 損	頂部を下位にして時計廻りのクロナ水掻き→正位にして頂部を回転ヘラケズリ(時計廻り)	
2		土師器	杯	14.0	6.2	4.9	10YR87/3 にぶい黄緑 10YR1.7/1 黒	10YR1.7/1 黒	白色粗粒	良	口縁から 体部1/2 底部分存	体部外面下位から底部分ラケズリ 口縁から底部分内面ミガキ	内面黒色処理
3		土師器	杯	13.1	6.8	5.0	10YR6/4 にぶい黄緑	10YR1.7/1 黒	白色・黒色細粒	良	口縁から 体部1/2 底部分存	底部分外面回転糸切り 口縁から底部分内面ミガキ	内面黒色処理
4		土師器	杯	12.6	6.7	4.0	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y2/1 黒	白色・青灰色細粒	良	口縁部 2/3 体部 4/5 底部分 1/2欠存	底部分外面回転糸切り 口縁から底部分内面ミガキ	内面黒色処理
5		土師器	杯	13.8	7.8	4.3	7.5YR7/6 橙	7.5YR1.7/1 黒	白色粗粒 雲母 片	良	口縁から 体部1/4 底一部	底部分外面回転ヘラ切り 口縁から底部分内面ミガキ	内面黒色処理
6	四〇	土師器	杯	12.8		(2.4)	7.5YR6/6 橙	7.5YR1.7/1 黒	黒色粗粒	良	体部1/8	口縁から体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨書 「大」
7	四〇	土師器	杯			(2.2)	10YR7/3 にぶい黄緑	10YR1.7/1 黒	白色粗粒 雲母 石英	良	破片	口縁部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 外面に墨書 「平書」
8		土師器	杯			7.3	10YR8/4 浅黄橙	10YR1.7/1 黒	白色針状物質	良	底部分存	底部分外面回転ヘラ切り 底部分内面ミガキ	内面黒色処理
9	三八	土師器	皿	12.8	5.8	3.1	10YR7/4 にぶい黄緑	N1.5 灰	白色・黒色細粒 白色針状物質	良	口縁部 1/3割 体部1/3 周 底部分 1/8欠損	底部分外面回転ヘラ切り後 高台拵付 口縁から底部分内面ヘラミガキ	内面黒色処理
10		須恵器	高杯			(2.1)	N4 灰	5GY5/1 オリブ灰	白色粗粒～礫	良	坏部底面のみ遺存 脚部上端のみ遺存	坏部外面クロナナデ 内面クロナナデ	
11		土師器	甕			6.5	7.5YR6/6 橙	2.5Y6/2 灰黄	白色・黒色粗粒	良	胴部下位 一部 底部分1/2	胴部から底部分外面ヘラケズリ 胴部から底部分内面ヘラケズリ	
12	三九	須恵器	杯			6.7	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	白色粗粒 黒色 粗粒	良	体部下位 一部 底1/2埋	底部分外面静止ヘラ切り	
13		須恵器	壺?			(6.2)	10YR6/1 黒周 2.5YR3/1 黒周	10Y6/1 灰	青灰色粗粒	良	胴一部	内外面ともクロナナデ	
14		陶器	壺			(4.9)	10YR7/4 にぶい黄緑	10YR76/4 にぶい黄橙	微砂粒	良	口縁部 1/3割	内外面ともクロナナデ	
15	三九	須恵器	蓋			(1.1)	7.5GY5/1 緑灰	7.5GY5/1 緑灰	白色粗粒	良	破片	体部外面クロナナデ「ヘラ」記号「一」記す 体部内面クロナナデ	線刻あり
16		土師器	甕	20.0		(16.8)	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	白色粗粒 赤褐 色粗粒	良	口縁から 拵れ部 4/5残存 胴上部 1/6	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	
17		土師器	甕	22.0		(10.9)	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR5/4 にぶい黄	白色粗粒	良	口縁から 胴上部 1/3残存	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	
18		須恵器	甕			(5.6)	2.5GY6/1 オリブ灰	2.5GY6/1 オリブ灰	金雲母片	良	口縁から 胴上部に かけて一 部遺存	口縁部外面隆帯拵付 胴部外面線刻文	
19		須恵器	甕			(11.5)	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5YR/2 灰白	白色粗粒 金雲 母	良	破片	胴部外面上平格子タタキ 下平ヘラケズリ 胴部内面上半当て具痕 下平ヘラナデ	
20		須恵器	甕			(11.4)	7.5Y5/1 灰	7.5Y6/1 灰	青灰色粗粒 金 雲母片	良	破片	胴部外面平行タタキ目 胴部内面当て具痕	

21	土師器	埴		3.3	(2.9)	10R4/6 赤	5YR6/6 橙	白色微粒	良	胴下部一 部 底部 7/8周	胴から底部外面ヘラミガ キ 胴から底部内面ヘラ ミガキ	赤彩
22	土師器	台付 甕			(3.0)	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄	黑色微粒	良	坏部底面 から脚部 上位完存 脚部下位 欠損	胴部外面ハケ目 脚部外 面ヘラナデ 脚部内面ハ ケ目	
23	土師器	壺 (大型 埴)		4.9	(8.1)	10YR7/4 にぶい黄橙 2.5YR6/4 にぶい橙	10R6/6 赤橙	白色粗粒 赤褐色粗粒	赤褐色 不良	胴から底 部全周	胴部外面ハケ目、後ヘラ ミガキ 内面ヘラナデ 底部外面ヘラケズリ	
24	土師器	壺	16.2		(6.8)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	赤褐色粗粒	良	口縁から 括れ部 2/3残存	口縁部外面ヨコナデ後ミ ガキ 括れ部外面ハケ目 後ヘラミガキ 口縁部内 面ヨコナデ後ミガキ	
25	土師器	壺	14.9		(7.0)	2.5YR4/3 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	白色黄粒 金雲母	良	胴部一部	口縁ヘラミガキ 胴部外 面ハケ目後ヘラミガキ 内面ヨコナデ後ヘラミガ キ	
26	三九 土師器	甕	13.2	4.5	15.1	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/6 明褐	白色細粒 青灰色粗粒 雲母	良	完形	口縁外面ヨコナデ 胴部 外面タテ方向ヘラケズリ 後タテ方向ヘラミガキ 口縁内面ヨコナデ 胴部 から底部内面ヘラナデ	
27	土師器	甕		6.3	(2.6)	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	白色細粒 赤褐色粗粒	良	底部完存	胴下位ハケ目 底部摩耗 のため観察不能 底部内 面ヘラナデ 底面は厚状 の粘土板を貼付して作出 した可能性がある	底面摩耗 黄 い白の上に長 時間置かれて いた可能性が ある
28	土師器	甕	17. 7		(5. 5)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	青灰色粗粒 白色粗粒	良	口縁1/4	外面ハケ目 内面ヘラナ デ	
29	土師器	甕	18.8	6.8	22.9	5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	白色細～粗粒 小石 雲母片	良	1/3	口縁から胴部外面ハケ目 底部外面ヘラケズリ 口 縁内面ハケ目 胴部から 底部内面ヘラナデ 口縁 外面は特に細いハケ目を 丁寧に施す	

SI-1644 (第404・405図、第120表、図版二〇・三九)

II区、グリットH 8区に位置する。重複するSI-1643 Aよりも新しい。3.08×2.92mの小振りな方形を呈する。カマドは北壁に設置しカマド奥壁部分の構築材が遺存していた。また支脚と袖芯材に用いた自然礫も遺存していた。貼床はSI-1643 Aとの重複部分にのみ見られ、にぶい黄褐色土を充填している。柱穴は出入り口ビットP 6を検出したほか、P 4は主柱穴か。確認からの深さは0.2mである。

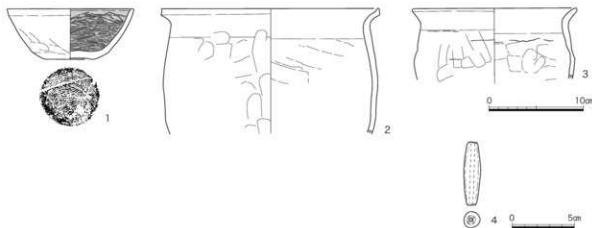
出土遺物は土師器の坏と甕が出土している。10世紀前葉頃の所産と考えられる。



SI-1644

- 1 黒 褐色 少量の今市・七本坂紀、微量のローム産紀。ローム紀、今市ブロックを含む。中中性に欠乏、しなりに置む。
- 2 黒 褐色 炭化物粒、少量の今市産紀。微量のローム産紀。ローム紀、今市・七本坂紀を含む。中中性に欠乏、中やしりに置む。
- 3 にぶい黄褐色 中々多量の灰、微量のローム産紀。今市・七本坂紀、焼土粒を含む。中中性に欠乏、しなりに置む。
- 4 黄 褐色 少量のローム産紀。今市・七本坂産紀。微量のローム紀、今市・七本坂紀、炭化物粒を含む。中中性に欠乏、中やしりに置む。
- 5 にぶい黄褐色 中々多量のローム産紀。少量のローム紀、今市紀。微量の七本坂紀を含む。中中性に置む。中やしりに欠乏。
- 6 褐色 ローム産紀。少量の今市・七本坂産紀。微量のローム紀。今市ブロックを含む。中中性・しなりに欠乏。
- 7 にぶい黄褐色 今市ブロック。少量の今市・七本坂産紀。今市・七本坂紀、焼土粒。微量のローム産紀。七本坂ブロックを含む。中中性に置む。中やしりに欠乏。粘状。
- 8 黄 褐色 今市・多量のローム産紀。微量の今市産紀を含む。中中性に置む。しなりに置む。
- 9 にぶい黄褐色 ローム産紀。少量のローム紀。ロームブロック。今市産紀を含む。中中性に欠乏、しなりに欠乏。
- 10 灰 褐色 ローム産紀。今市・七本坂産紀。少量の今市・七本坂紀。炭化物粒を含む。中中性・しなりに欠乏。
- 11 にぶい褐色 焼土産紀。中々多量の灰。微量の炭化物ブロック。焼土粒。焼土ブロックを含む。粘性に欠乏。中やしりに置む。カマド構築材、天井崩落土か。
- 12 にぶい黄褐色 多量の灰。微量の炭化物粒を含む。粘性に欠乏。中やしりに置む。カマド構築材。天井崩落土か。
- 13 にぶい黄褐色 中々多量の灰。微量の炭化物粒。焼土産紀。焼土を含む。粘性に欠乏。中やしりに置む。
- 14 にぶい黄褐色 炭化物粒。灰。焼土産紀。少量の七本坂紀。焼土粒。微量の今市紀。焼土ブロックを含む。粘性に欠乏。中やしりに置む。
- 15 黒 褐色 少量の灰。焼土産紀。微量の炭化物粒。焼土粒を含む。中中性・しなりに欠乏。
- 16 にぶい黄褐色 焼土産紀。少量の炭化物粒。微量の焼土ブロックを含む。粘性に欠乏。中やしりに置む。
- 17 にぶい黄褐色 微量の今市・七本坂紀。灰。焼土産紀。焼土粒を含む。中中性・しなりに欠乏。
- 18 黄 褐色 中々多量のローム産紀。焼土産紀。少量の炭化物粒を含む。中中性・しなりに欠乏。地山が崩壊・移行したため。上面が火灰。

第404図 SI-1644実測図



第405図 SI-1644出土遺物実測図

第120表 SI-1644出土遺物観察表

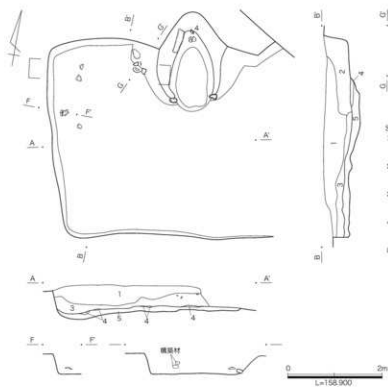
実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	杯	13.0	6.0	5.3	7.5YR4/3 黒	7.5YR17/1 黒	白色針状物質	良	口縁から 体部2/3 底部完存	口縁から体部外面ヘラナ デ 底部外面部断糸切り 口縁から底部内面ミガキ	内面黒色処理
2		土師器	甕	22.8		(13.3)			白色・青灰色細粒	良	口縁部 1/4	体部外面タテ方向ヘラケ ズリ後口縁部ヨコナデ 口縁内面ヨコナデ	
3		土師器	甕	17.0		(7.4)	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR6/4 にふい橙	白色・青灰色細粒	良	口縁部 1/4周	口縁部外面ヨコナデ 胴 部外面ヘラケズリ 口縁 部内面ヨコナデ 胴部内 面指環直・ヘラナデ	
4	三 九	土師	土師	長さ 5.1	最大幅 1.2	孔径 0.2	7.5YR5/6 明褐		少量の微砂粒 微量の ガラス質粒 を含む	良	完形		両端に平端面 作出 重さ 7.8g

SI-1645 (第406・407図、第121表、図版二〇・三九・四〇)

Ⅱ区、グリット18区に位置する。重複する建物SI-1643A、1643Bよりも新しい。東壁は削平により壁を検出できなかった。4.16×4.72mの範囲を検出し、方形を呈する。カマドは北壁に設置し、両袖が良く遺存していた。袖の先端には芯材に用いた自然礫が遺存し、カマド奥壁にも構築材として用いたと思われる自然礫が遺存していた。貼床は全面に厚く施される。柱穴、周溝は検出されなかった。確認面からの深さは0.58mである。

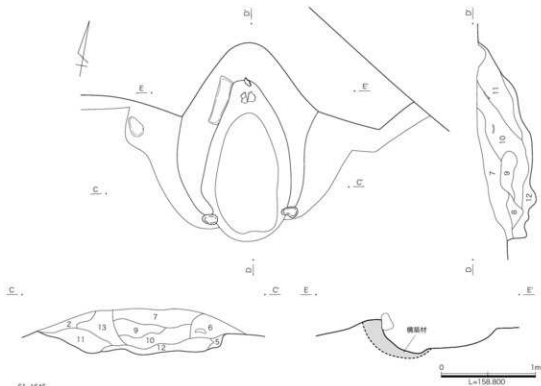
出土遺物は1～3が土師器杯である。2・3には墨書が見られる。4は高台の発達した皿と考えられる。5・6は土師器甕である。5は口縁端部に面をもち、6はくの字状に外反する。7は須恵器甕、8は灰袖陶器甕で、9は土鍾である。10は手鎌である。

建物の時期は決定しがたいが、4の高台の発達した皿は、中世的なロクロ使用の土師質土器へつながるものと見られ、10世紀後葉と考えられる。



SI-1645

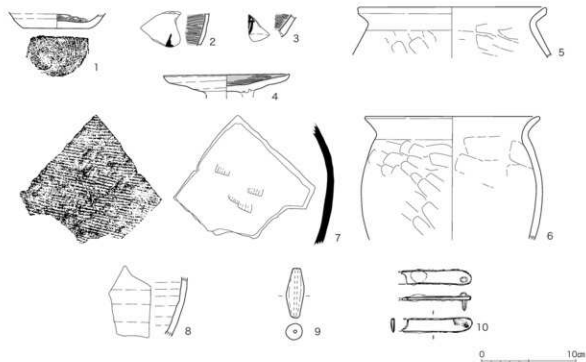
- 1 黒 褐色 少量の今昔・七本塚段、微量の炭化植物、灰、焼土層、焼土層を含む、やや粘性・しまりに富む。
- 2 に近い黄褐色 やや多量の灰、少量の今昔・七本塚段、焼土層、微量の炭化植物を含む、やや粘性・しまりに富む。
- 3 に近い黄褐色 灰、焼土層、少量の炭化植物、焼土層、微量の今昔・七本塚段、焼土ブロックを含む、やや粘性・しまりに富む。
- 4 明 赤 褐色 灰、やや多量の焼土層、少量の焼土、微量の炭化植物を含むやや粘性に欠き、しまりに富む。
- 5 黒 褐色 少量の炭化植物、焼土層、微量の今昔・七本塚段、今昔・七本塚ブロック、焼土層を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに富む。



SI-1645

- 6 黒 褐色 今昔、少量の今昔段、七本塚段、焼土層、焼土層、微量のローム段、ロームブロック、七本塚段を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
- 7 明 赤 褐色 灰、少量の焼土層、焼土層を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 8 明 赤 褐色 灰、焼土層、少量のローム段、ローム段、焼土層を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 9 明 赤 褐色 灰、やや多量の焼土層、少量の焼土層、微量の焼土ブロックを含む、やや粘性・しまりに富む。
- 10 暗 赤 褐色 焼土ブロック、多量の焼土層、少量の焼土層を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
- 11 に近い黄褐色 少量の焼土層、少量の焼土、微量の焼土ブロックを含む、やや粘性・しまりに欠く。
- 12 灰 赤 褐色 炭化植物、少量の焼土層、微量の焼土層を含む、やや粘性・しまりに欠く。
- 13 に近い黄褐色 焼土層、多量の灰を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに富む。

第406図 SI-1645実測図



第407図 SI-1645出土遺物実測図

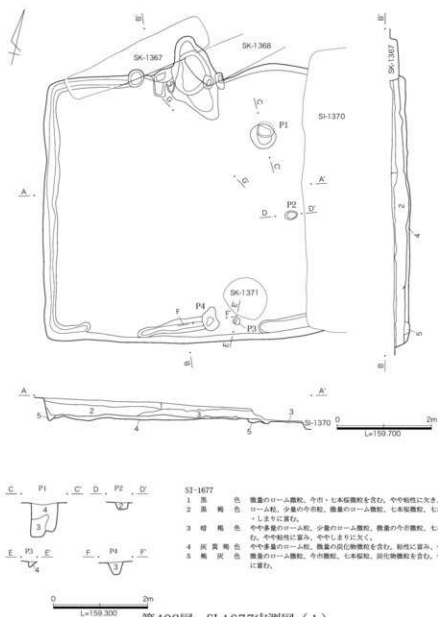
第121表 SI-1645出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)		色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外					
1		土師器	坏	7.0	(1.7)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	白色粒 黒色粒 石英	良	底部1/3	底部外面回転糸切り口縁から底部内面ヘラミガキ	褐色の附着物あり 割れ口にも附着しており破損後の附着と思われる
2		土師器	坏		(3.2)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR2/1 黒	少量の黄砂 少量のガラス質粒含	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 タール附着? 体部外面黒書
3	四〇	土師器	坏		(2.4)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	白色粒 ガラス質粒	良	破片	体部内面ヘラミガキ	内面黒色処理 体部外面に黒書
4		土師器	皿	13.2	(1.9)	2.5YR/4 淡黄	2.5Y2/1 黒	白色細粒	良	口縁部 1/10 体部 1/5 底部完存	口縁部内面ミガキ	内面黒色処理 沈線で底面に内を描き高台を貼付
5		土師器	甕	19.4	(5.4)	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	白色・黒色細粒 赤褐色粗粒	良	口縁部 1/5	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	
6	三九	土師器	甕	17.8	(13.0)	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	白色細粒～濃青灰色粗粒	良	口縁部 1/2強 胴部上半部	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	
7		須恵器	甕		(13.2)	7.5Y5/1 灰	7.5Y6/1 灰	青灰色粗粒	良	胴上部一部遺存	胴部外面平行タタキ目 胴部内面当て具痕	
8		陶器	壺		(6.3)	5YR3/2 暗赤褐	10YR6/2 灰黄褐	青灰色細粒	良	破片	胴部外面回転ヘラケズリ 胴部内面クロコナデ	
9	三九	土師	手織	長さ5.2 幅1.6	最大幅1.9 孔径0.2	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	少量の黄砂粒を含む	良	完形		重さ128g
10		鉄製品	手織	長さ(7.5) 幅1.6	厚さ0.35							重さ107g

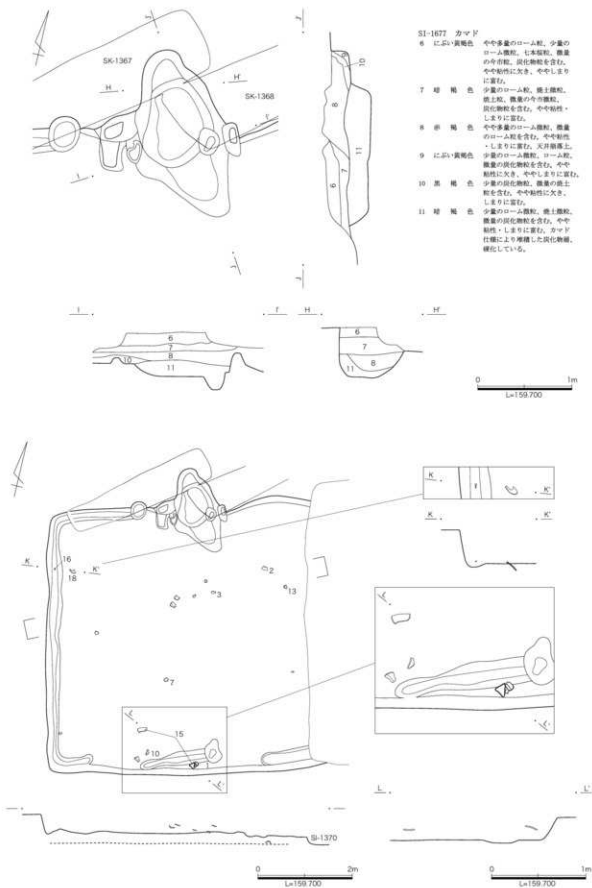
SI-1677 (第408～410図、第122表、図版二〇・三九・四〇)

II区、グリットH9区に位置する。東壁を重複するSI-1370により壊され、北壁とカマド周辺を重複する中世の土坑によって壊される。5.68×5.52mの範囲を検出し、方形を呈するものと考えられる。カマドは北壁に設置し、地山を削り残して構築された袖が残存していた。貼床はほぼ全面に施す。周溝は西壁全面と北壁、南壁の一部に見られる。柱穴はP1と、出入口ピットP4を検出した。確認面からの深さは0.36mで、自然堆積と考えられる。

出土遺物は、1～5が土師器環である。直線的な体部に2・4は僅かに口縁が外反する。1は「足」「罍」を墨書し、2は「罍」を墨書する。6～8は須恵器環である。直線的な体部と口縁を持ち、8は下端を手持ちヘラケズリする。また7は底部外面にヘラ記号が見られる。9～11・13・14は土師器甕、12は土師器壺、15は須恵器甕である。16～18は鉄製品で、16は刀子である。17は不明鉄製品で、コの字状に屈曲する。18は鋤先である。建物の時期は土師器環の特徴から9世紀中葉と考えられる。

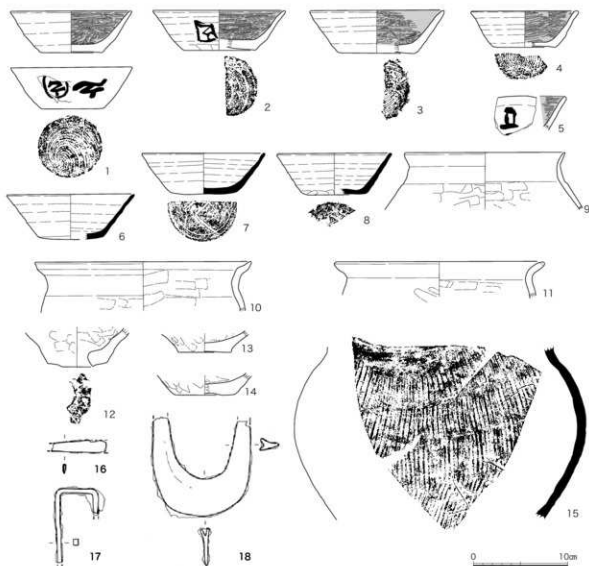


第408図 SI-1677実測図(1)



第409図 SI-1677実測図(2)





第410図 SI-1677出土遺物実測図

第122表 SI-1677出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三九	土器	坏	12.4	6.6	4.4	10YR8/4 浅黄粒 10YR8/3 浅黄粒	10YR2/1 黒	砂粒少量 雲母 片微量	良	口縁部 1/3 体 から底部 全周	底部外面回転系切り 口縁から底部内面へラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「足坐」
2	三九	土器	坏	13.7	7.6	4.2	2.5YR8/3 淡黄 2.5YR6/4 に赤い黄	2.5Y2/1 黒	砂粒 雲母片含 む	良	1/2周	体部外面墨書後へラケズリ 底部外面回転系切り 後逆位で時計廻りの回転 へラケズリ 口縁から底 部内面へラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書「置」
3		土器	坏	14.0	8.0	4.5	10YR8/4 淡黄粒 10YR7/4 に赤い黄粒	10YR2/1 黒	砂粒 微砂粒含 む	良	約1/4周	底部外面回転系切り 口縁から底部内面へラミガ キ	内面黒色処理 酸化しており 底部の一部に 黒痕あり
4		土器	坏	11.1	6.6	3.9	7.5YR6/3 に赤い黄	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 黒色粒 石英	良	1/2周	口縁から体部外面口クロ ナデ 口縁から底部内面 へラミガキ 底部外面回 転系切り	内面黒色処理
5	四〇	土器	坏			(3.8)	10YR7/4 に赤い黄粒	2.5Y2/1 黒	微砂粒微量 雲 母微片微量含む	良	破片	体部内面へラミガキ	内面黒色処理 体部外面に墨 書

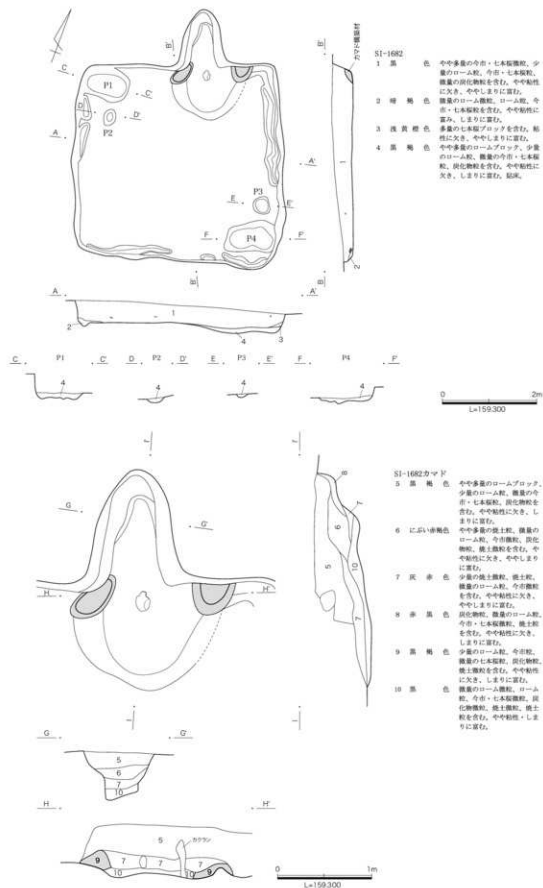
6	三九	須恵器	環	13.2	6.8	4.8	7.5YR5/1 灰	5Y6/1 灰	白色粒 赤色粒	小石	良	体部1/2 底部1/5	口縁から体部外面ロクロナデ 口縁から体部内面ロクロナデ 底部外面ヘラケズリ ヘラ記号記す	火葬痕あり
7	三九	須恵器	環	12.8	6.8	4.3	N4 灰	N5 灰	白色粒	黒色粒	良	1/2	口縁から体部外面ロクロナデ 口縁から体部内面ロクロナデ 底部外面回転ヘラ切り後周縁部をヘラケズリ ヘラ記号を記す	
8		須恵器	環	11.8	6.6	4.4	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	白色粒		良	口縁から 底部一部	時計廻りのロクロ水挽き後逆位にして体部下位回転ヘラケズリ	底面にヘラ記号
9		土師器	甕	16.6		(6.0)	5YR5/6 明赤褐 7.5YR6/4 にふい 7.5YR5/3 にふい 5YR6/6 にふい 黄褐色	7.5YR5/6 明赤褐 7.5YR6/4 にふい 黄褐色	微砂粒 質粒含	ガラス	良	口縁部 1/8	口縁部外面ヨコナデ 胴部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ	
10		土師器	甕	22.6		(5.2)	7.5YR5/6 明褐 7.5YR4/3 褐	7.5YR5/6 明褐 7.5YR4/3 褐	砂粒 多量の雲母の微細破片含む		良	口縁部 1/5周	口縁部外面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ後ヘラナデ	
11		土師器	甕	21.7		(3.9)	10YR7/6 明黄褐	10YR7/4 にふい 黄褐色 7.5YR5/8 橙	砂粒 雲母片含む		良	口縁部 1/5周	口縁部外面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ 口縁部内面ヨコナデ	
12		土師器	甕	6.4		(3.4)	2.5YR4/6 赤褐	5YR6/6 橙	小礫 砂粒含む		良	胴から 底部1/4周	胴部外面ヘラナデ 底部外面木葉痕 胴部内面ヘラナデ	二次的な被焼により赤変したと思われる
13		土師器	甕	5.6		(1.9)	10YR7/4 明黄褐	10YR6/1 明黄	小礫 質微粒含む		良	胴から 底部1/4周	胴部外面ヘラナデ 底部外面ヘラケズリ 胴から底部内面ヘラナデ	
14		土師器	甕	6.4		(2.0)	5YR4/8 赤褐	5YR6/8 橙	小礫 砂粒含む		良	底部1/2 周	胴から底部外面ヘラケズリ 胴から底部内面ヘラナデ	
15		須恵器	甕			(18.5)	10YR6/1 明黄	2.5Y6/1 黄灰	微量の砂粒含む		良	胴上位から 中位一部残存	胴部外面平打ちタキ目 胴部内面当て瓦痕	胴内面に1.5～2.5cm幅の接合痕あり 断面では観察できず
16		鉄製品	刀子	長さ (5.6)	幅 1.4	厚さ 0.3								重さ638g
17		鉄製品	刀子	長さ (8.1)	幅 1.9	厚さ 0.6								重さ2425g この字型
18		鉄製品	鋤先	長さ (10.6)	幅 10.7	厚さ 0.8								重さ13377g

SI-1682 (第411・412図、第123表、図版二〇)

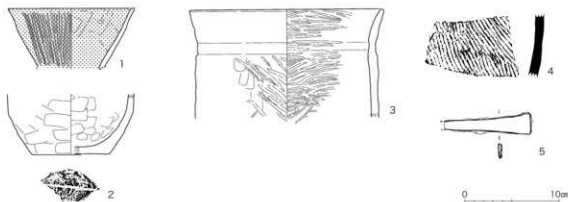
この遺構は第一章で述べた通り、小竈内I遺跡の調査範囲に入るが、前述の通り欠ノ上遺跡と小竈内遺跡は隣接しており調査区の設定は事業区分状の便宜的なものであるため、遺構のまとまりを優先してここで報告しておく。

Ⅱ区、グリット19区に位置する。4.16×4.44mの方形を呈する。カマドは北壁や東よりに設置し、両袖が遺存していた。カマドの壁への食い込みが0.6mと深いことが特徴である。貼り床は東半にのみ施される。これは、本調査区南東隅に北東から南西方向に埋没谷が存在するため、軟弱な部分に貼り床を施しているものである。周溝は西壁、東壁、南壁の一部に見られる。柱穴・出入り口施設は確認できなかった。確認からの深さは0.46mである。

出土遺物は、1が中型の土師器製の口縁である。口径12.8cm、直線的に伸び、外面ヘラミガキ、内面ヘラナデし、内外面赤彩する。2は土師器の小型甕の胴部下半である。底部外面に木葉痕が見られる。3は土師器甕で、頸部の括れが弱いもの。外面はヘラナデした後ヘラミガキ、内面はヘラミガキする。4は須恵器甕、5は刀子である。直線的な甕の口縁はやや古相を示すが、大型の甕の存在から、これらの遺跡の時期は古墳時代中期中葉と考えられる。しかし建物はカマドが設置され時期差が認められる。



第411図 SI-1682実測図



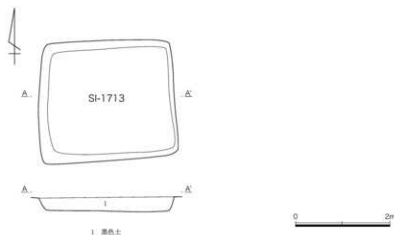
第412図 SI-1682出土遺物実測図

第123表 SI-1682出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	埴	12.8		(6.5)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR6/6 橙	白色粒 黒色粒	良	口縁1/4 弱	口縁部外面ミガキ 口縁部内面ヘラナデ	内外面赤彩
2		土師器	甕		8.0	(6.4)	7.5YR6/4 にふい橙	7.5YR4/1 にふい橙	砂粒 雲母片含 む	良	胴から底 部1/4	胴部外面ヘラケズリ 底部外面木炭痕 胴部内面指面任痕後ヘラナデ	
3		土師器	甕	19.8		(11.4)	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/4 褐	小礫少量 白色 粒	良	口縁から 胴部1/6 弱	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面タデ方向ヘラケズリ後粗いヘラミガキ 口縁から胴部丁寧なヨコ方向ヘラミガキ	
4		須恵器	甕			(6.7)	2.5YR3/1 黒褐	10YR4/3 にふい黄褐	砂粒含	良	破片	胴部外面平行タタキ目 胴部内面当て具痕	内面が酸化のためかやや赤色味を帯びる
5		鉄製品	刀子	長さ 9.9	幅 2.3	厚さ 0.5							重さ21.92g

SI-1713 (第413図)

泉道区、グリットE 6区に位置する。2.56×2.84mの方形を呈する。カマド等の施設は見られず、建物の詳細は不明である。確認面からの深さは0.3mである。出土遺物は無し。



第413図 SI-1713実測図

第124表 古代の竪穴建物跡一覧表

遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備 考	調査区	グリッド
SI-19	3.80	3.68	0.14	N-22° W			I	D3
SI-56	3.58	4.06	0.20	N-19° W	<SD-57		I	D2
SI-144	(2.88)	(2.66)	0.08	N-21° W			I	D2
SI-234	(4.12)	4.56	0.28	N-30° W			I	C1
SI-306	(6.24)	(6.12)	0.34	N-40° E			II	B3
SI-429	4.00	(3.00)	0.18	N-29° W			II	C3
SI-529	2.34	3.00	0.18	N-30° W			II	C4
SI-766	2.90	2.90	0.36	N-38° W			II	D5
SI-934	3.26	(2.90)	0.52	N-18° W			II	E6
SI-989	4.46	4.44	掘方のみ	N-52° W			II	E5
SI-1002	3.24	3.54	0.10	N-44° E	<SK-1001		II	F6
SI-1053	3.56	3.64	0.12	N-8° W			II	F7
SI-1083	6.16	5.88	0.50	N-47° E			II	G7
SI-1143	6.30	6.44	0.32	N-32° W	>SK-1681 >SI-1679		II	G6
SI-1370	6.48	6.52	0.18	N-15° W	>SI-1677		II	H8
SI-1641	5.96	6.12	0.48	N-46° E			II	I9
SI-1642	8.16	5.84	0.38	N-25° W	<SK-1687		II	I8
SI-1643A	5.44	6.34	0.44	N-11° W	>SI-1643B <SI-1645 <SI-1644		II	I8
SI-1643B	(6.80)	(8.90)	0.40	N-11° W	<SI-1643A <SI-1645		II	I8
SI-1644	3.08	2.92	0.20	N-15° W	>SI-1643A		II	H8
SI-1645	4.16	(4.72)	0.58	N-9° W	>SI-1643A >SI-1643B		II	I8
SI-1677	5.68	(5.52)	0.36	N-13° W	<SI-1370 <SK-1367 <SK-1368 <SK-1371		II	H9
SI-1682	4.16	4.44	0.46	N-19° W			II	I9
SI-1713	2.56	2.84	0.30	N-0° W		文化財課立ち会い	鼠道	E6

## 第二項 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は8棟を検出し、すべて古代に属する。SB-21を除き調査区南側のグリットG7、G8、H7、H8に集中している。いずれも2×3間程度の南北棟建物で、柱穴掘方は方形もしくは長方形で規模の大きなものと、やや小振りな円形のものが見られる。柱穴掘方規模が大きいのはSB-1074、SB-1207、SB-1343A、1343Bで、小さいのはSB-1311、SB-1314、SB-1343Cである。遺物が出土したのはSB-1074のみで、9世紀後葉の所産と考えられる土師器環が出土している。

### SB-21 (第414図、図版二〇)

I区、グリットD3区に位置する。調査区北部に位置する唯一の掘立柱建物である。2×2間を検出し、梁行5.22m、桁行5.46mを測る。柱穴掘方は他の掘立柱建物跡と違い円形、小規模で、検出位置が離れていることから、建物の性格に違いがあると考えられる。

### SB-1074 (第415・421図、第127表、図版二〇・三九)

II区、グリットG8区に位置する。2×3間の南北棟側柱建物である。梁行3.8m、桁行6.22mを測る。柱穴掘方は方形もしくは隅丸方形で、9本で柱痕跡を確認した。柱裏込めに黄褐色土を層状に充填している。

土師器環が1点出土している。口径12.5cm、底径6.5cm、器高5.05cmで、直線的な体部を持ち体部下端を手持ちヘラケズリする。底部外面は回転糸切り後2方向にヘラケズリする。内面黒色処理するほか、外面の一部にヘラミガキを施し、そこから墨書「足」を書き始めている。胎土は八溝山系の上に含まれる白針を含まず比較的精良で、焼成も良好である。同様な「足」を墨書する土師器環はSI-1642で多数出土しているが、SI-1642出土土師器環は、口径14cm前後、器高4～5cmで体部にヘラケズリを行わないなどの違いが見られる。SB-1074出土土師器環の方がより後出の要素を持っており、時期は9世紀後葉としておく。

### SB-1207 (第416図、図版二〇)

II区、グリットH8区に位置する。2×3間の南北棟側柱建物である。北東の隅柱は調査区外のため検出できていない。梁行4.0m、桁行6.62mを測る。柱穴掘方は方形もしくは長方形で、7本で柱痕跡を確認した。

### SB-1260 (第417図、図版二一)

II区、グリットH8区に位置する。2×3間の南北棟側柱建物である。梁行4.4m、桁行7.26mを測る。柱痕跡を1本確認した。調査区南部の掘立柱建物跡集中地点に位置するが、柱穴掘方は小規模である。

### SB-1314 (第418図)

II区、グリットG8区に位置する。2×3間の南北棟総柱建物である梁行3.74m、桁行7.38mを測る。柱穴掘方は円形、小規模で、屋内柱（もしくは床束柱）は柱筋からやや外れている。隣接するSB-1260も柱穴掘方が円形、小規模であり、同時期の建物であろうか。

### SB-1343A (第419・420図、図版二一)

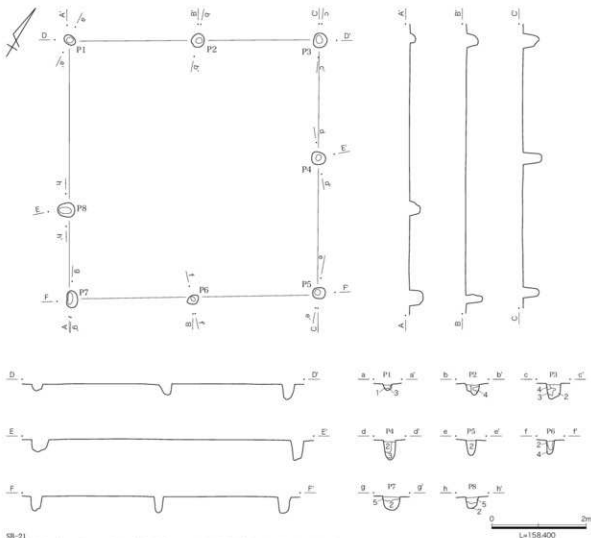
II区、グリットH7区に位置する。掘立柱建物跡SB-1343Bと重複するが、1343Aが新しい。2×3間の南北棟建物である。梁行4.98m、桁行7.64mを測る。柱穴掘方は長方形を呈し、5本で柱痕跡を確認した。

SB-1343 B (第419・420図、図版二一)

II区、グリットH7区に位置する。掘立柱建物跡SB-1343Aと重複するが、1343Aが新しい。2×2間分を検出したが、調査区外に伸びる可能性が高く南北棟側柱建物と考えられる。柱穴掘方は隅丸方形で、1343Aに比べるとやや貧弱である。柱痕跡は1本を確認した。

SB-1343 C (第419・420図、図版二一)

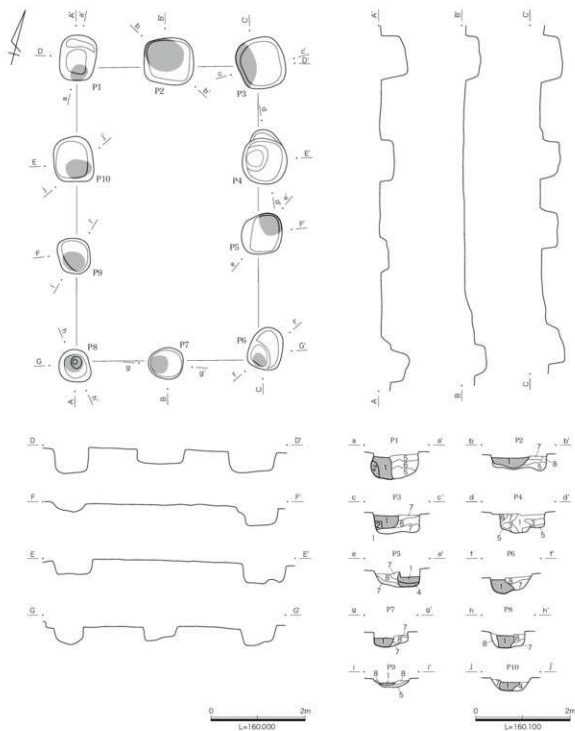
II区、グリットH7区に位置する。掘立柱建物跡SB-1343Bと重複するが、1343Cが新しい。1×2間分を検出したが調査区外に伸びる可能性が高い。柱穴掘方はやや小振りの円形で、1343Aや1343Bに比べ規模の縮小が見られる。



SB-21

- 1 黄 褐色 少量のローム層状、今市粒、礫層のローム状、七本塚粒を含む、やや粘性・しりに富む。
- 2 黄 色 礫層のローム層状、ローム状、今市・七本塚粒を含む。
- 3 に近い黄褐色 ローム層状、少量のローム状、礫層の今市・七本塚粒を含む、やや粘性・しりに富む。
- 4 に近い黄褐色 やや多量のローム層状、少量のロームブロック、礫層のローム状、今市粒を含む、やや粘性・しりに富む。
- 5 灰 黄 褐色 ローム層状、やや多量のローム状、少量の今市・七本塚粒、礫層のロームブロック、今市・七本塚塚粒を含む、やや粘性・しりに富む。

第414図 SB-21実測図

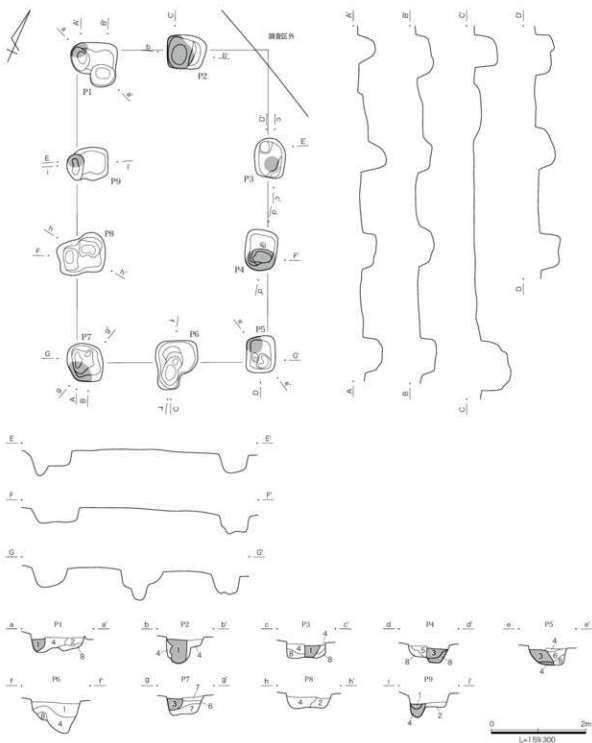


SB-1074

- 1 黒 褐色 ローム層状、ローム粒、微量のロームブロック、中粒砂を含む、やや粘性・しまりに欠く。
- 2 江い 黄褐色 ロームブロック、やや多量のローム層状、微量のローム粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 3 灰 黄 褐色 少量のローム層状、ローム粒、ロームブロック、微量の今形・七本堀粒、今形ブロックを含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 4 灰 黄 褐色 少量のローム層状、微量のローム粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 5 明 黄 褐色 やや多量のローム層状、ロームブロック、少量のローム粒を含む、やや粘性に富み、しまりに富む。
- 6 に近い黄褐色 ローム層状、ロームブロック、少量のローム粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 7 に近い黄褐色 ローム層状、ローム粒、少量のロームブロック、今形粒、微量の七本堀粒を含む、やや粘性・しまりに欠く。
- 8 灰 黄 褐色 少量のローム層状、ローム粒、微量のロームブロック、今形・七本堀粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

第415図 SB-1074実測図

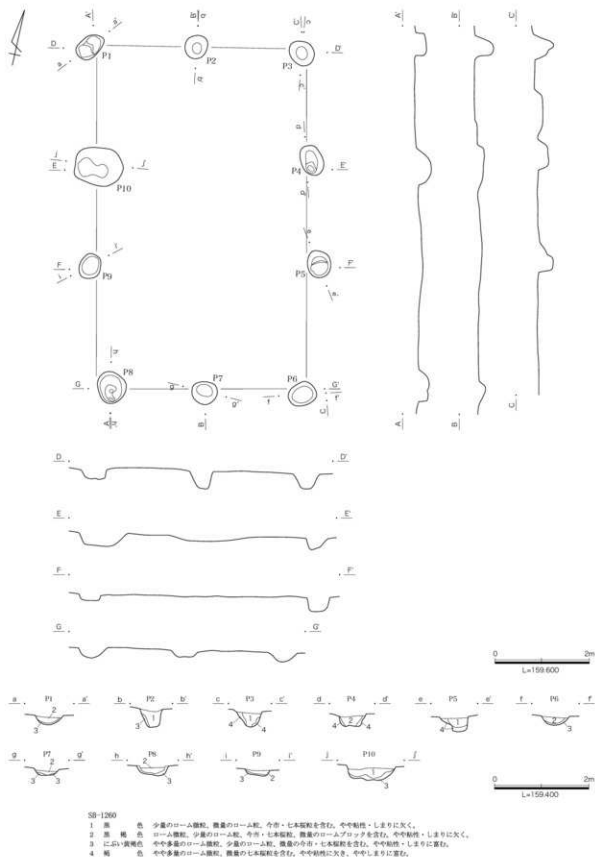




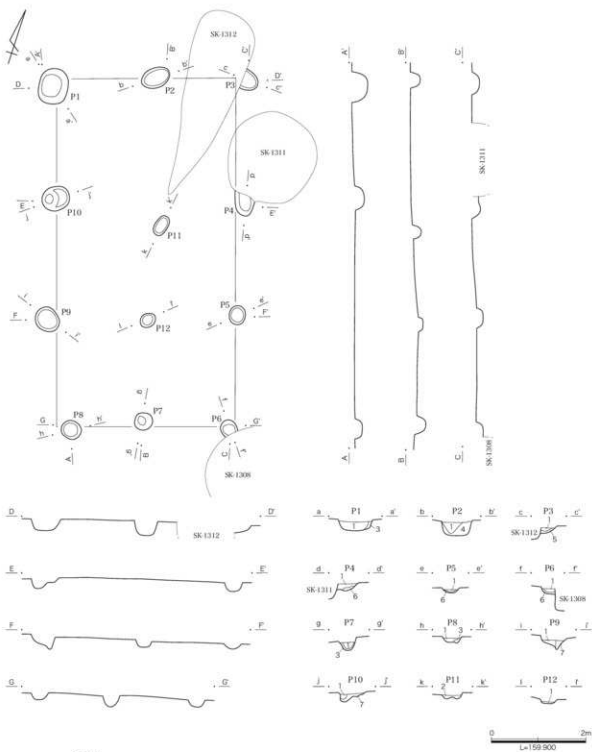
SB-1207

- 1 黒 褐色 少量のローム陶器、少量のローム錠、今市・七本塚を含む、中や粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 2 黒 褐色 少量のローム陶器、ローム錠を含む、やや粘性に富み、しなりに欠く。
- 3 黒 褐色 少量の七本塚錠、少量のローム陶器、ローム錠、今市錠を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 4 明 黄 褐色 ローム陶器、ロームブロック、少量のローム錠、今市・七本塚錠、少量の七本塚ブロックを含む、粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 5 に近い黄褐色 ローム陶器、少量のローム錠、ロームブロック、少量の今市・七本塚錠を含む、やや粘性・しなりに欠く。
- 6 黒 褐色 少量のローム陶器、七本塚錠、少量のローム錠、今市錠を含む、やや粘性に富み、ややしなりに欠く。
- 7 明 黄 褐色 ローム錠、少量のローム陶器、ロームブロック、今市・七本塚錠を含む、やや粘性に富み、ややしなりに富む。
- 8 に近い黄褐色 今市多量のローム陶器を含む、粘性に富み、ややしなりに欠く。

第416図 SB-1207実測図



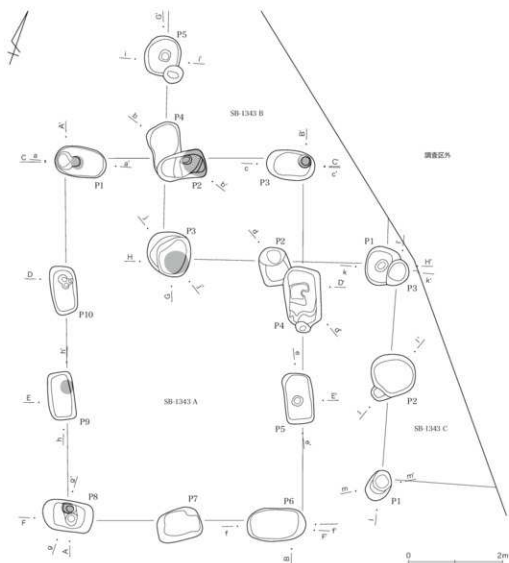
第417図 SB-1260実測図



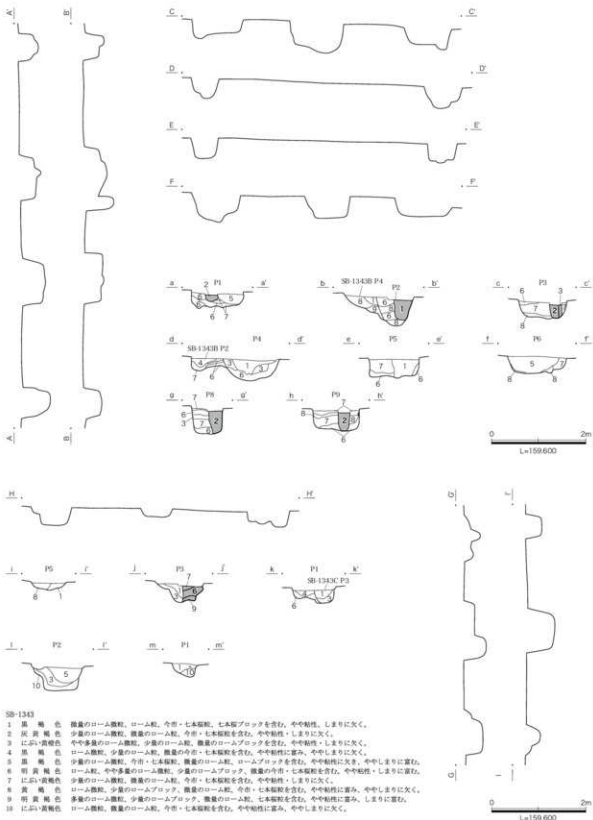
SB-1314

- 1 黒褐色 少量のローム層状。少量のローム粒。今治・七本塚型を含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。
- 2 に近い黄褐色 ローム層状。少量のローム粒。今治・七本塚型を含む。
- 3 黄褐色 ローム粒。やや多量のローム層状。少量の今治・七本塚型を含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。
- 4 に近い黄褐色 ローム層状。少量のローム粒。少量の今治・七本塚型を含む。やや粘性に欠き、ややしりに富む。
- 5 黄褐色 少量のローム粒。今治型。少量の今治型。小礫を含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。
- 6 黄褐色 少量のローム層状。少量のローム粒。今治・七本塚型を含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。
- 7 に近い黄褐色 ローム層状。ローム粒。少量のロームブロック。少量の今治型を含む。やや粘性に富み、ややしりに欠く。

第418図 SB-1314実測図



第419図 SB-1343実測図(1)



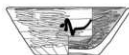
第420図 SB-1343実測図(2)

第125表 古代の掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	規模	築行 性相	築行長 (m)	桁行長 (m)	主軸方位	切り合い	柱遺跡	備考	調査区	グリッド
SB-21	2×2 側柱建物	2	2	5.22	5.46	N-31°-W				I D3
SB-1074	2×3 南北棟側柱建物	2	3	3.8	6.22	N-14°-W	9本 (P1,P2,P3,P5,P6, P7,P8,P9,P10)		II	G8
SB-1207	2×3 南北棟側柱建物	2	3	4.0	6.62	N-23°-W	7本 (P1,P2,P3,P4,P5, P7,P9)		II	H8
SB-1260	2×3 南北棟側柱建物	2	3	4.4	7.26	N-12°-W	1本(P4)		II	H8
SB-1314	2×3 南北棟側柱建物	2	3	3.74	7.38	N-18°-W			II	G8
SB-1343A	2×3 南北棟側柱建物	2	3	4.98	7.64	N-19°-W	>SB-1343B 5本 (P1,P2,P3,P8,P9)		II	H7
SB-1343B	南北棟側柱建物	2	(2)	4.7	(8.0)	N-17°-W	>SB-1343A >SB-1343C 1本(P3)		II	H7
SB-1343C	南北棟側柱建物	(1)	(2)	(2.4)	(5.0)	N-14°-W	>SB-1343B		II	H7

第126表 古代の掘立柱建物跡柱穴規模一覧表

遺構番号	ビット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	柱遺跡	ビット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	柱遺跡
SB-21	P1	0.26	0.18	0.12		P5	0.26	0.22	0.32	
	P2	0.28	0.26	0.26		P6	0.28	0.20	0.30	
	P3	0.30	0.30	0.32		P7	0.36	0.24	0.28	
	P4	0.32	0.28	0.42		P8	0.36	0.28	0.24	
SB-1074	P1	0.96	0.74	0.56	柱遺跡有り	P6	0.88	0.70	0.36	柱遺跡有り
	P2	1.04	0.98	0.32	柱遺跡有り	P7	0.72	0.66	0.32	柱遺跡有り
	P3	1.08	0.96	0.42	柱遺跡有り	P8	0.72	0.66	0.32	柱遺跡有り
	P4	1.16	0.94	0.40		P9	0.76	0.64	0.18	柱遺跡有り
	P5	0.88	0.84	0.36	柱遺跡有り	P10	0.92	0.82	0.26	柱遺跡有り
SB-1207	P1	0.94	0.66	0.36	柱遺跡有り	P6	0.88	0.68	0.70	
	P2	0.76	0.70	0.56	柱遺跡有り	P7	0.80	0.72	0.40	柱遺跡有り
	P3	0.82	0.64	0.34	柱遺跡有り	P8	0.96	0.74	0.30	
	P4	0.86	0.66	0.38	柱遺跡有り	P9	0.84	0.70	0.48	柱遺跡有り
	P5	0.76	0.60	0.38	柱遺跡有り					
SB-1260	P1	0.62	0.40	0.18		P6	0.58	0.48	0.20	
	P2	0.50	0.46	0.37		P7	0.32	0.44	0.14	
	P3	0.56	0.52	0.34		P8	0.64	0.60	0.20	
	P4	0.64	0.46	0.26	柱遺跡有り	P9	0.54	0.44	0.12	
	P5	0.58	0.48	0.32		P10	1.00	0.80	0.30	
SB-1314	P1	0.76	0.60	0.22		P7	0.40	0.38	0.24	
	P2	0.62	0.42	0.32		P8	0.42	0.36	0.14	
	P3	(0.32)	0.42	0.16		P9	0.54	0.44	0.24	
	P4	(0.46)	0.40	0.18		P10	0.58	0.54	0.20	
	P5	0.38	0.36	0.10		P11	0.44	0.26	0.14	
	P6	(0.30)	0.32	0.14		P12	0.36	0.28	0.10	
SB-1343A	P1	1.08	0.64	0.38	柱遺跡有り	P6	1.24	0.70	0.36	
	P2	1.02	0.58	0.62	柱遺跡有り	P7	0.92	0.66		
	P3	1.02	0.62	0.38	柱遺跡有り	P8	1.06	0.64	0.56	柱遺跡有り
	P4	1.36	0.76	0.46		P9	1.00	0.56	0.44	柱遺跡有り
	P5	1.06	0.60	0.42		P10	1.00	0.54		
SB-1343B	P1	0.82	(0.48)	0.34		P4	(0.70)	(0.68)	(0.50)	
	P2	0.82	0.64	0.26		P5	0.84	0.74	0.16	
	P3	1.00	0.92	0.42	柱遺跡有り					
SB-1343C	P1	0.68	0.48	0.28		P3	0.60	0.44	0.34	
	P2	0.92	0.88	0.54						



0 10m

第421図 SB-1074出土遺物実測図

第127表 SB-1074出土遺物観察表

実測 図No.	図版 No.	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1	三九	土師 器	杯	12.5	6.5	5.05	10YR5/4 ~17/1 浅黄橙~黒	7.5YR1.7/1 黒	白色粒 赤色粒 雲母片	黒色粒 雲母片	良	底部外面回転系切り 逆位にして体部外面下位時 計測りの回転ヘラケズリ 後5mm横位のヘラミガキ その箇所をややずらして 「足」の断面	内面黒色処理 体部外面に黒 部「足」

## 第三項 土 坑 (第422～425図、第128・129表、図版二一・四〇)

古墳時代・古代に属する土坑は、8基を検出した。SK-1286では古墳時代中期の壺が、SK-1685では壺器模倣の皿と鉢形土器が出土している。他の土坑に関しては、機能・性格とも詳細不明といわざるを得ない。SK-1286とSK-1685について詳細を述べ、他の土坑の規模については本項末の一覧表を参照願いたい。

## SK-1286

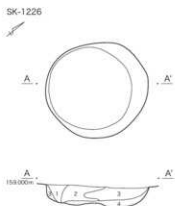
II区、グリットH 8に位置する。1.82×1.50mの不整形で浅い一段目と、0.85×0.65m、深さ0.68mの長方形の二段目をもつ土坑で、二段目の底面はさらに二段に段を形成する。遺物の出土状況から、削平された竪穴建物跡の貯蔵施設の可能性も考えられる。

遺物は、深い部分が一段目の底面と同じ高さまで埋まった高さから、遺存状態のよい土師器の壺3個体が出土した。3個体とも「く」の字に屈曲する口縁を持つ球胴壺である。3は口縁が「く」の字状に外反し、胴部中央に最大径を有す。底部は突出して僅かに凹み、外面ヘラケズリする。胴部外面はヘラケズリのちへらミガキし、内面はへらナデする。4は口縁の屈曲が強く、胴部下位に最大径を有す。底部は突出して凹み、外面ヘラケズリする。胴部外面はヘラケズリのちへらミガキする。ミガキはやや粗い。内面はへらナデする。5は口縁が「く」の字に外反し、胴部中央に最大径を有する。底部は突出した平底で、外面をヘラケズリする。胴部外面はヘラケズリのちへらミガキする。内面はへらナデし、口縁内部と胴部上位をへらミガキする。5は3個体中作りが最も丁寧である。これらの壺は、球胴で口縁が強く屈曲し、4は特に胴部下位に最大径を有するといった特徴から、古墳時代中期前葉もしくは中葉、すなわち5世紀前葉～中葉の所産と考えられる。

## SK-1685

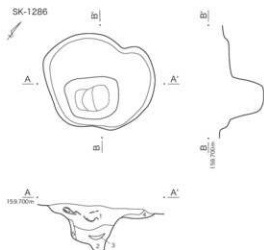
II区、グリットG 8に位置する。2.6×1.89m、深さ0.71mの不整形円形を呈する。底面は平坦で、北壁はオーバーハングし、南壁は0.25mほど潜り込む。

1は土師器皿で、口径13.8cm、底径6.1cm、器高3.0cm、内湾した体部が屈曲し、口縁が外反する。口縁に比べて底部は厚みがあり、高台は断面逆三角形を呈す。内面は丁寧にへらミガキと黒色処理され、摩耗具合から長期にわたって使用されたものと考えられる。作りは全体に丁寧である。口縁と高台の形状、底部と体部の厚さといった特徴は壺器を模倣したもので、胎土に八溝山系の土に見られる白針を含むことから、地元で作られた壺器模倣の皿と考えられる。9世紀前半の所産か。2は土師器の鉢で、内湾する体部で、口縁は肥厚して面を有する。外面は縦方向に、内面は横方向にへらミガキする。器形はよくわからないが、残存している外面下端部が、直角に曲がって生きており、そのまま底部を形成するものか、または脚が付くものと考えられる。



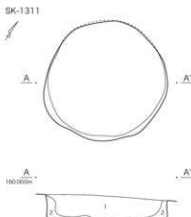
SK-1226

- 1 黒 褐色 微量のローム微粒、ローム粒、今市微粒、今市・七本桜粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
- 2 黒 褐色 少量のローム微粒、ローム粒、今市微粒、今市・七本桜粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
- 3 黒 褐色 今市微粒、今市粒、やや多量のローム微粒、少量のローム粒、七本桜粒、微量のロームブロックを含む。やや粘性・しまりに富む。
- 4 明 黄 褐色 ローム粒、ロームブロック、多量のローム微粒、微量の今市・七本桜粒を含む。粘性に富み、ややしまりに欠く。



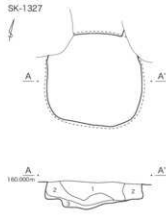
SK-1286

- 1 黒 褐色 微量のローム微粒、ローム粒、今市・七本桜粒、今市・七本桜ブロックを含む。粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 2 灰 黄 褐色 少量のローム微粒、ローム粒、今市・七本桜粒、七本桜ブロック、微量の今市ブロックを含む。粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 3 黒 褐色 微量のローム粒、今市粒を含む。粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 4 にぶい黄褐色 やや多量のローム微粒、少量のローム粒、ロームブロック、今市・七本桜粒を含む。粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 5 明 黄 褐色 やや多量のローム微粒、少量のロームブロック、微量のローム粒を含む。粘性に富み、ややしまりに欠く。



SK-1311

- 1 黒 褐色 少量のローム微粒、今市・七本桜微粒、微量のローム粒、今市・七本桜粒、今市・七本桜ブロックを含む。やや粘性・しまりに富む。
- 2 灰 黄 褐色 やや多量のローム微粒、少量のローム粒、今市微粒、今市粒、微量のロームブロック、七本桜微粒、七本桜粒を含む。やや粘性・しまりに富む。



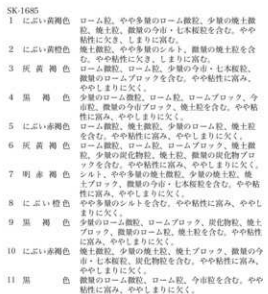
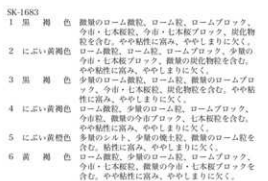
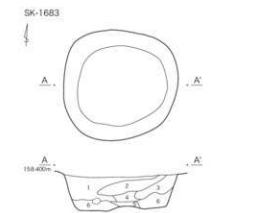
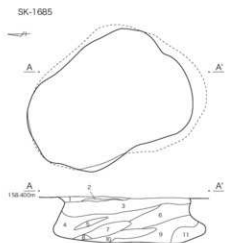
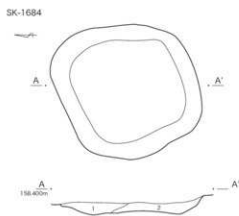
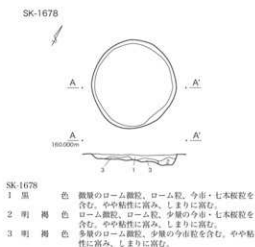
SK-1327

- 1 にぶい黄褐色 今市微粒、今市粒、少量のローム微粒、ローム粒、七本桜粒、微量の炭化物粒を含む。やや粘性に欠き、しまりに富む。
- 2 灰 黄 褐色 少量の今市微粒、今市粒、微量のローム微粒、ローム粒、七本桜粒、炭化物粒を含む。やや粘性に欠き、しまりに富む。
- 3 明 黄 褐色 少量のローム微粒、微量の今市粒を含む。やや粘性に富み、しまりに富む。

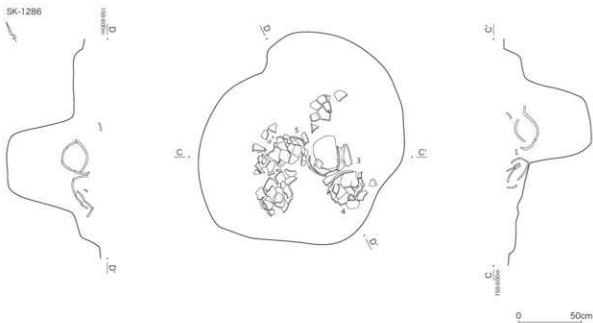
0 1m

第422図 古墳時代・古代の土坑実測図(1)





第423図 古墳時代・古代の土坑実測図(2)



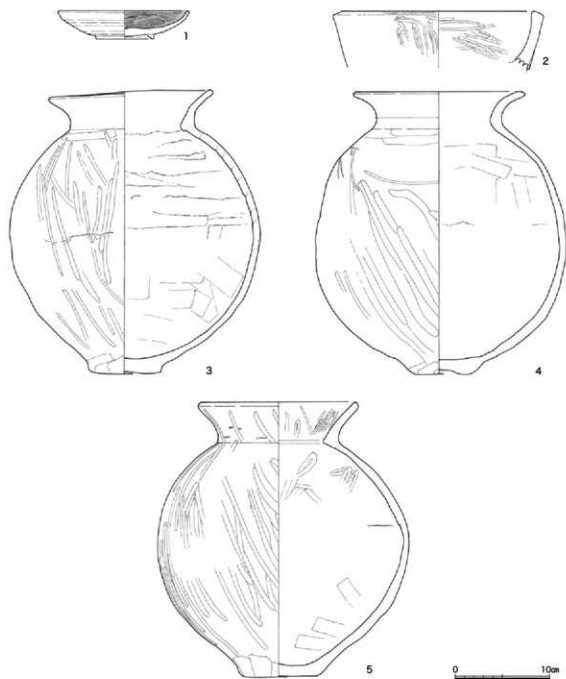
第424図 古墳時代・古代の土坑実測図(3)

第128表 古墳時代・古代の土坑一覧表

遺構番号	形態	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備 考	調査区	グリッド
SK 1226	円形	1.61		0.31		II	H8
SK 1286	楕円形	1.82	1.50	0.68		II	H8
SK 1311	円形	1.93		0.40		II	G8
SK 1327	方形	1.49	1.45	0.43	多量の縄文土器と少量の土師器出土。SK 1311と形態類似。古墳時代。	II	G8
SK 1678	円形	1.32		0.16	周囲の古墳時代の土坑と同形態。古墳時代以降。	II	G8
SK 1683	円形	1.80	1.75	0.56	SI-1643bの床下。古代。	II	I8
SK 1684	方形	2.19	2.15	0.20	SI-1643bの床下。古代。	II	I8
SK 1685	楕円形	2.60	1.89	0.71	古代(準方形)形土器出土。	II	I8

第129表 古墳時代・古代の土坑出土遺物観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			色調		胎土	焼成	残存率	調整	備考
				口径	底径	高さ	外	内					
1		土師器	皿	13.8	6.1	3.0	10YR8/3 浅黄緑	5Y2/1 黒色	白色微～粗粒	良	1/3欠損	口縁から胴部外面口クロナデ 底部外面回転ヘラ切り後高台貼り付け 口縁から底部内面ヘラミガキ。口縁から胴部は8分割して非常に丁寧にミガキを施す。底部内面は一方にミガキ	内面黒色処理
2		土師器	鉢	21.0		(6.0)	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	白色細粒 赤色 粗～粗粒 青灰 色細粒	良	口縁部 1/6周	口縁外面丁寧なタテ方向ヘラミガキ 口縁内面ナデ後やや粗いヨコ方向ヘラミガキ 口縁端面ナデ後ヘラミガキ	
3	四〇	土師器	甕	17.0	7.8	30.2	10YR6/2 灰黄緑	10YR6/2 灰黄緑	小石 白色粗粒	良	ほぼ完形	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ下部ヘラケズリーミガキ 胴部外面ケズリ	胴部上端をヨコ方向ヘラケズリ 胴部下部ヘラケズリ
4	四〇	土師器	甕	17.7	5.8	30.15	10YR4/2 灰黄緑	10YR4/2 灰黄緑	白色粗粒 小石 青灰色細粒	良	口縁部 3/4欠損 胴部欠 損	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリーミガキ 口縁部内面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ 底部内面ヘラナデ	胴部上端ヨコ方向にヨコナデ
5	四〇	土師器	甕	16.2	7.8	29.35	10YR6/3 にぶ黄緑	2.5Y5/1 黄灰	白色粗粒 青灰 色粗粒	良	口縁部 1/2欠損 胴部下位 1/4欠損	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリーヘラミガキ 底部外面ヘラケズリ 胴部内面ヨコナデ→ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ→上部ヘラミガキ 底部内面ヘラナデ	胴部下端ヘラケズリ 頸部ヨコナデ後にヘラ状工具端部を押し付ける



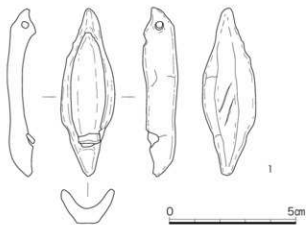
第425図 古墳時代・古代の土坑出土遺物実測図

## 第四項 埋没谷出土舟形土製品 (第426図、第130表、図版三九)

Ⅱ区北東部にあり江川の枝谷の痕跡である埋没谷は、主に縄文時代に埋没したと考えられる。古墳時代・古代に属する遺物も若干出土しているが、特異な遺物として舟形土製品が出土している。供伴遺物には縄文土器から平安時代の土師器まであり、時期の特定には至らない。

舟形土製品は、焼成良好、胎土は精良で白色粒と若干の赤色粒を含む。成形は指頭により、舟底外面のみヘラ状の工具によるケズリ痕が見られる。長さ6.7cm、最大幅2.1cm、高さ1.3cm、重さ10.2g、舟底厚0.6cm、側面厚0.40～0.45cmである。平面形は先端のどがった紡錘形で、舳(へさき・舟首)と鰻(とも・舟尾)をつまみ出している。舷(げん・側面)は外側へ押し広げて膨らませている。側面観は舟底、舷上端ともに平坦で、舳と鰻は上方へ揃み上げる。舳は横方向に穿孔されており紐で吊り下げたためのものと考えられるが、孔に擦痕は見られない。舟底外面はヘラ状工具で削っており平滑である。舟体断面は逆台形を呈し、舟底内面は指でナデて丸みを帯びる。舟内から舳へは押し広げた工具痕と、一旦貼り付けた粘土板が剥がれた痕跡が認められる。舳へは一旦なめらかに仕上げた後、粘土板を工具で押し付けて構造を表現している。この板状の構造物は堅板型準構造船の堅板を表現していると考えられ、この構造表現が本土製品を舟形とする根拠でもある。

正確な時期の特定はできないが、古墳時代前期末の竅穴建物跡が確認されていること、本章第六節で詳細を述べる出土類例から、埋没谷出土舟形土製品は古墳時代前期末～中期中葉に江川流域で行われた祭祀行為による遺物と考えられる。



第426図 舟形土製品実測図

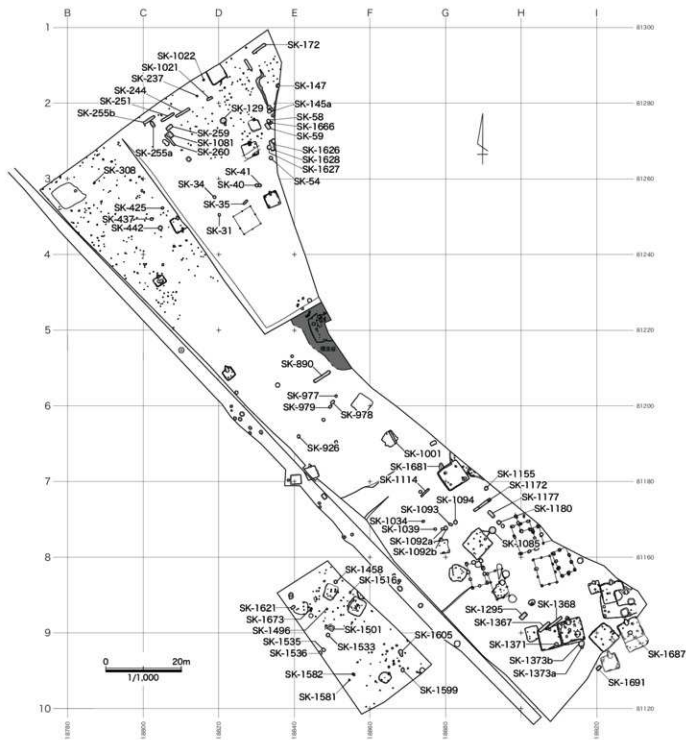
第130表 舟形土製品観察表

実測 図No	図版 No	種類	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	色調	胎土	焼成	残存率	備考
				長さ	幅	高さ						
1	三九	土製品	舟形	6.7	2.1	1.3	10.2g	10YR6/3 に赤い黄相	精良 白色粒と 微量の赤色粒を 含む	良	ほぼ完存	最大厚0.6 舳先部分は横方向に穿孔される。 紐で吊り下げたと考えられるが孔に擦れ痕 なし。舳の部分に構造物を造作。これにより 舟を表現したと想定できる。

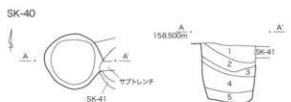
### 第四節 中世の遺構

#### 第一項 土 坑 (第428~437図、第131・132表)

中世の遺構は、土坑482基を確認し、このうち比較的大型のものを図示した。調査区北部、および南部に集中して見られるが、建物跡や井戸跡といった生活の痕跡は見られず、生活域とは考えられない。出土遺物もほとんどない。土坑は、円形、不整形円形、長方形、方形と小規模なビット状の小穴が見られる。円形土坑は、

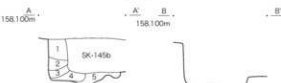
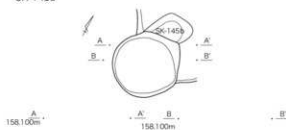


第427図 中世の遺構位置図



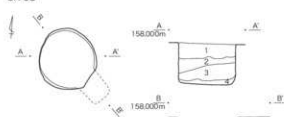
- SK-40
- 1 土色 赤褐色 やや多量のロームブロック、少量のローム粒、ローム粉、微量の今布粒、今布ブロックを含む。やや粘性・しまりに富む。
  - 2 灰 黄 褐色 ロームブロック、少量のローム粒、微量のローム粉、今布粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 3 土色 赤褐色 やや多量のロームブロック、少量のローム粒、微量のローム粉を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 4 土色 赤褐色 少量のロームブロック、微量のローム粒、ローム粉、今布粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 5 土色 赤褐色 少量のローム粒、微量のローム粉、ロームブロックを含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

SK-145a

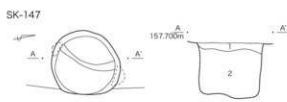


- SK-145a
- 1 土色 赤褐色 ロームブロック、やや多量のローム粉、少量のローム粒、微量の今布粒、今布ブロックを含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
  - 2 灰 黄 褐色 少量のローム粒、ロームブロック、微量のローム粉、今布粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 3 土色 赤褐色 ローム粉、やや多量のローム粒、微量のロームブロックを含む。やや粘性・しまりに富む。
  - 4 土色 赤褐色 少量のローム粒、微量のローム粉、ロームブロックを含む。粘性に富み、しまりに欠く。
  - 5 土色 赤褐色 少量のロームブロック、少量のローム粒、今布粒、微量のローム粉、今布ブロックを含む。粘性に富み、ややしまりに富む。

SK-58

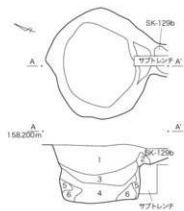


- SK-58
- 1 土色 赤褐色 やや多量のローム粒、少量のローム粉、微量のロームブロック、七本粒、微量の今布粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
  - 2 土色 赤褐色 微量のローム粒、ローム粉を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
  - 3 土色 赤褐色 ロームブロック、微量の七本粒粉を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
  - 4 土色 赤褐色 微量のローム粒、ローム粉を含む。やや粘性・しまりに富む。



- SK-147
- 1 土色 赤褐色 少量のローム粒、ローム粉、今布粒、七本粒、微量のロームブロックを含む。やや粘性・しまりに欠く。
  - 2 土色 赤褐色 ローム粒、ローム粉、ロームブロック、微量の今布粒、七本粒を含む。やや粘性・しまりに欠く。

SK-129a



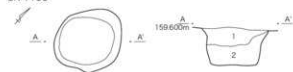
- SK-129a
- 1 土色 赤褐色 少量の今布・七本粒、微量のローム粒、ローム粉を含む。粘性に富み、ややしまりに富む。
  - 2 灰 黄 褐色 やや多量のローム粒、少量の七本粒、微量のローム粉、今布粒を含む。粘性に富み、ややしまりに富む。
  - 3 土色 赤褐色 少量のローム粒、今布・七本粒、微量のローム粉、炭化物を含む。粘性・しまりに富む。
  - 4 土色 赤褐色 今布粒、やや多量のローム粒、少量のローム粉、七本粒、微量の炭化物を含む。粘性・しまりに富む。
  - 5 土色 赤褐色 多量のローム粒、微量のローム粉、今布・七本粒を含む。粘性・しまりに富む。
  - 6 土色 赤褐色 ローム粉、少量のローム粒、ロームブロック、今布・七本粒、微量の今布ブロックを含む。粘性・しまりに富む。

SK-926



- SK-926
- 1 土色 赤褐色 ローム粒、少量のローム粉、ロームブロックを含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 2 土色 赤褐色 ローム粉、ロームブロック、やや多量のローム粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 3 土色 赤褐色 ローム粒、少量のローム粉、微量のロームブロックを含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

SK-1155



- SK-1155
- 1 土色 赤褐色 少量のローム粒、微量のローム粉、今布・七本粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
  - 2 土色 赤褐色 少量のローム粒、微量のローム粉、今布・七本粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

0 1m

第428図 中世の土坑実測図(1)

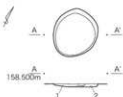
SK-1533



SK-1533

- 1 明黄褐色 今布粒、今布ブロッツ、やや多量のロームブロッツ、少量のローム微粒、ローム粒、七本形粒、微量の七本形ブロッツを含む。粘性に欠き、しまりに富む。
- 2 明黄褐色 多量のロームブロッツ、少量のローム微粒、ローム粒、今布粒、今布ブロッツ、微量の七本形粒を含む。粘性に欠き、しまりに富む、しまりに欠く。

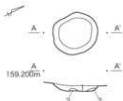
SK-31



SK-31

- 1 黒褐色 ローム粒、少量のローム微粒、今布粒を含む。やや粘性・しまりに富む。ローム粒、多量のローム微粒、少量のロームブロッツ、微量の今布・七本
- 2 に近い黄褐色 粘粒を含む。やや粘性・しまりに富む。

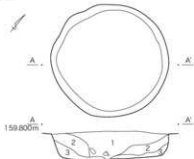
SK-425



SK-425

- 1 黒褐色 少量のローム微粒、ローム粒、微量の今布・七本形粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 2 に近い黄褐色 ローム微粒、微量のローム粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

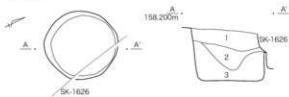
SK-1085



SK-1085

- 1 黒褐色 少量のローム微粒、今布・七本形粒、粘土粒、微量のローム粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに富む。
- 2 灰黄褐色 ローム微粒、少量の今布・七本形粒、微量のローム粒、粘土粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 3 に近い黄褐色 多量のローム微粒、微量の今布粒を含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

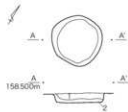
SK-1627



SK-1627

- 1 に近い黄褐色 ローム微粒、ローム粒、ロームブロッツ、微量の今布粒、粘土粒、粘土ブロッツを含む。やや粘性・しまりに欠く。
- 2 黒褐色 少量のローム微粒、ローム粒、微量のロームブロッツ、粘土粒を含む。やや粘性・しまりに欠く。
- 3 灰黄褐色 ローム微粒、少量のローム粒、ロームブロッツを含む。やや粘性・しまりに欠く。

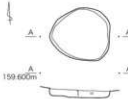
SK-34



SK-34

- 1 黒褐色 少量の今布・七本形粒、微量のローム微粒、ローム粒、今布・七本形ブロッツを含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
- 2 灰黄褐色 ローム微粒、微量のローム粒、今布・七本形粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。

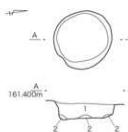
SK-1371



SK-1371

- 1 黒褐色 少量の七本形微粒、微量のローム微粒、今布微粒を含む。やや粘性・しまりに富む。

SK-1458

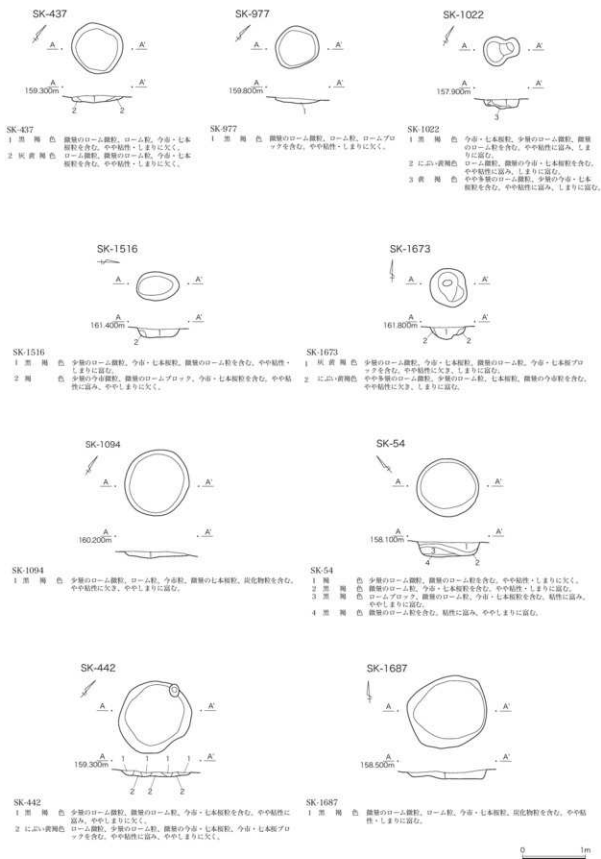


SK-1458

- 1 灰黄褐色 少量のローム微粒、今布・七本形粒、微量のローム粒、今布・七本形ブロッツ、粘土粒を含む。やや粘性・しまりに富む。
- 2 に近い黄褐色 少量のローム微粒、微量のローム粒、今布・七本形粒を含む。やや粘性・しまりに富む。

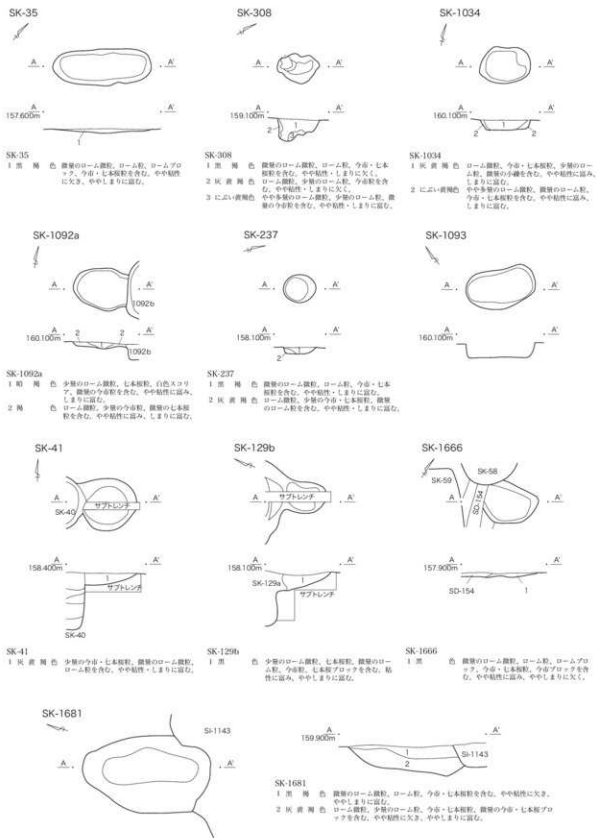
0 1m

第429図 中世の土坑実測図(2)

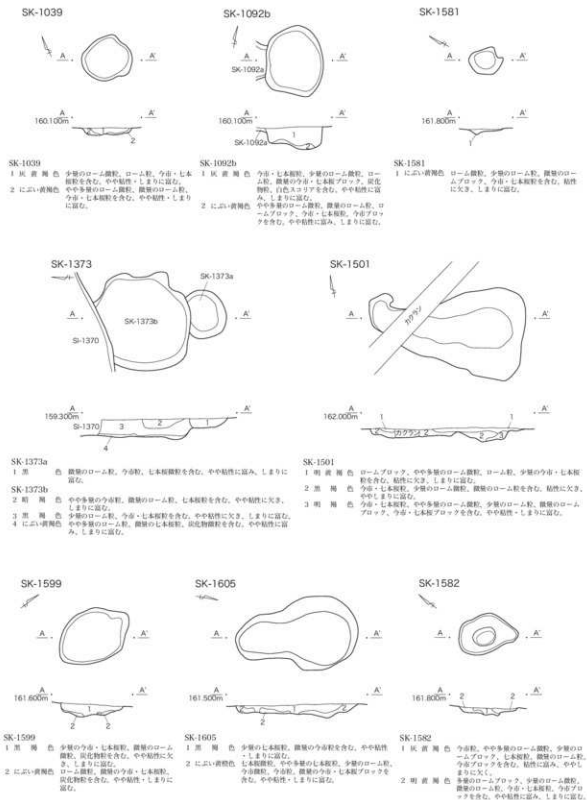


第430図 中世の土坑実測図(3)





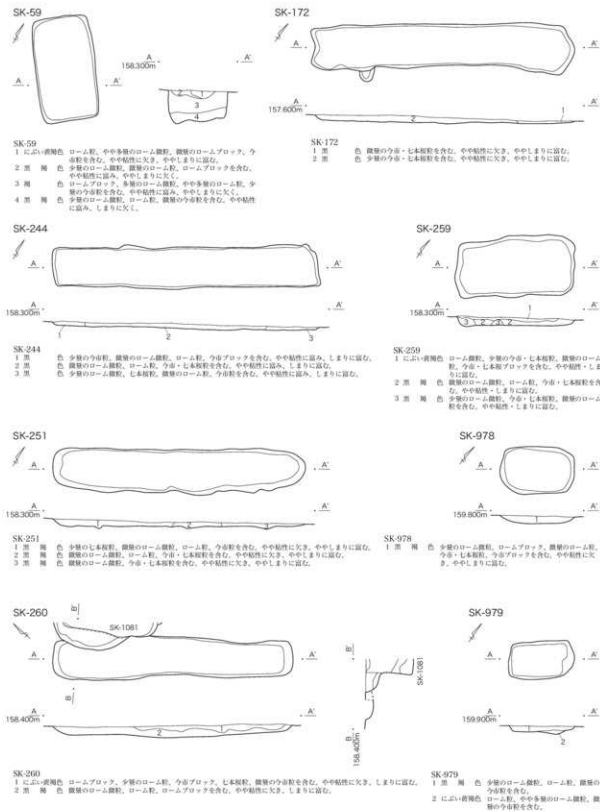
第431図 中世の土坑実測図(4)



0 1m

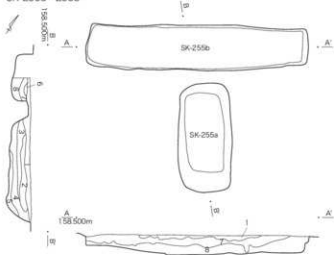
第432図 中世の土坑実測図(5)

第四章 欠ノ上日遺跡・欠ノ上日遺跡の調査



第433図 中世の土坑実測図(6)

SK-255a・255b



SK-255a-b

- 1 黒 褐色 少量のローム粒、今布粒、微量のローム微粒、七本炭粒を含む、やや粘性に欠き、しまりに富む。
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒、ロームブロック、やや多量のローム微粒、少量の今布・七本炭粒を含む、やや粘性に欠き、しまりに富む。
- 3 黒 褐色 少量のローム微粒、微量のローム粒、今布・七本炭粒を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに富む。
- 4 灰 褐色 少量のローム粒、今布・七本炭粒を含む、やや粘性・しまりに富む。
- 5 黒 褐色 少量のローム粒、微量のローム粒、ロームブロック、今布・七本炭粒を含む、やや粘性・しまりに富む。
- 6 黒 褐色 少量のローム微粒、微量のローム粒、今布・七本炭粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに富む。
- 7 明 褐色 少量のローム粒、今布・七本炭粒を含む、やや粘性・しまりに富む。
- 8 黒 褐色 少量の今布粒、微量のローム微粒、ローム粒、七本炭粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

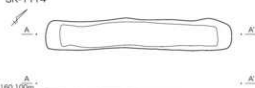
SK-1021



SK-1021

- 1 黒 褐色のローム微粒、今布・七本炭粒を含む、やや粘性に欠き、ややしまりに富む。

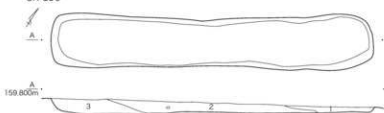
SK-1114



SK-1114

- 1 黒 褐色 少量のローム粒、今布粒、焼土粒、微量のローム微粒、ロームブロック、七本炭粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒、ロームブロック、今布粒、焼土粒、やや多量のローム微粒、少量の七本炭粒、焼土ブロックを含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。
- 3 黒 褐色 微量のローム微粒、ローム粒を含む、やや粘性に富み、ややしまりに欠く。

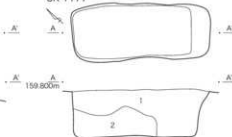
SK-890



SK-890

- 1 黒 褐色 微量のローム微粒、ローム粒、七本炭粒、炭化植物を含む、やや粘性・しまりに富む。
- 2 にぶい黄褐色 ローム微粒、ローム粒、少量のロームブロック、微量の今布・七本炭粒、今布ブロックを含む、やや粘性・しまりに富む。
- 3 黒 褐色 微量のローム微粒、ローム粒、今布粒を含む、やや粘性・しまりに富む。

SK-1177



SK-1177

- 1 にぶい黄褐色 ローム微粒、ローム粒、ロームブロック、少量の今布粒、今布ブロック、焼土粒、微量の七本炭粒を含む、やや粘性・しまりに欠く。
- 2 にぶい黄褐色 少量のローム微粒、ローム粒、ロームブロック、微量の今布・七本炭粒、今布ブロック、焼土粒を含む、やや粘性・しまりに欠く。

SK-1001

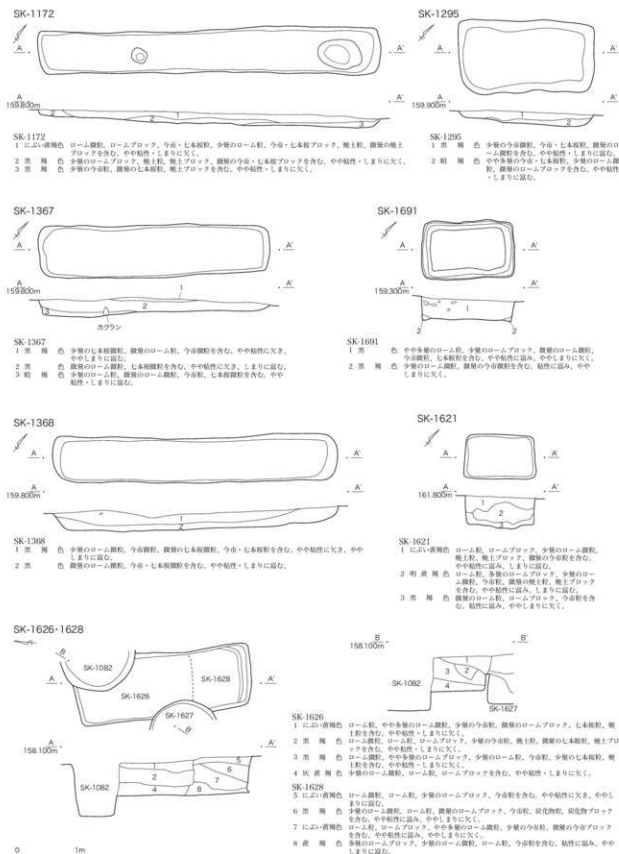


SK-1001

- 1 黒 褐色 微量のローム微粒、ローム粒、ロームブロック、今布・七本炭微粒、七本炭粒を含む、やや粘性・しまりに富む。



第434図 中世の土坑実測図(7)



第435図 中世の土坑実測図(8)

SK-1496



SK-1496

- 1 黒 褐色 ローム層状、今布・七本板状を含む。粘性に欠き、ややしまりに欠き。  
 2 灰 黄 褐色 少量のローム層状、今布・七本板状、微量のローム粒、今布アブロックを含む。やや粘性に欠き、しまりに欠き。

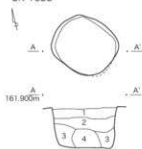
SK-1180



SK-1180

- 1 濃い黄褐色 ローム粒、やや多量のローム層状、少量の今布粒、焼土粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに欠き。  
 2 濃い黄褐色 ローム粒、ロームアブロック、やや多量のローム層状、少量の今布粒、焼土粒、微量の焼土アブロックを含む。やや粘性に欠き、ややしまりに欠き。  
 3 黒 褐色 微量のローム粒を含む。粘性に富み、ややしまりに欠き。  
 4 濃い黄褐色 ローム層状、少量のロームアブロック、微量のローム粒を含む。粘性に富み、ややしまりに欠き。

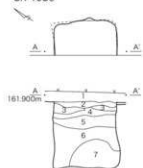
SK-1535



SK-1535

- 1 黄 褐色 ロームアブロック、やや多量のローム層状、ローム粒、微量の今布・七本板状、今布アブロックを含む。やや粘性に欠き、しまりに富む。  
 2 黄 褐色 多量のローム層状、やや多量のローム粒、ロームアブロック、微量の七本板状を含む。やや粘性に欠き、しまりに富む。  
 3 濃い黄褐色 ローム粒、やや多量のローム層状、少量のロームアブロック、微量の今布粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。  
 4 濃い黄褐色 やや多量のローム層状、ロームアブロック、少量のローム粒を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。

SK-1536



SK-1536

- 1 灰 黄 褐色 少量の今布粒、微量のローム粒、七本板状を含む。やや粘性に欠き、しまりに富む。表土。  
 2 黄 褐色 ローム層状、ローム粒、微量のロームアブロック、今布・七本板状を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。  
 3 黒 褐色 少量のローム層状、微量のローム粒、ロームアブロック、七本板状を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。  
 4 黄 褐色 やや多量のローム層状、少量のローム粒、ロームアブロック、微量の今布・七本板状を含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。  
 5 黄 褐色 少量のローム層状、ローム粒、ロームアブロックを含む。やや粘性に欠き、ややしまりに富む。  
 6 灰 黄 褐色 ローム層状、少量のローム粒、ロームアブロックを含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠き。  
 7 黒 灰 褐色 少量のローム層状、ロームアブロックを含む。やや粘性に富み、ややしまりに欠き。

0 3m

第436図 中世の土坑実測図(9)

第131表 中世の土坑一覧表

遺構番号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-31	円形	0.76	0.69	0.05				1	D3
SK-34	円形	0.80		0.15				1	C3
SK-35	長方形	1.55	0.59	0.07	N-47°-E			1	D3
SK-40	円形	(0.90)	0.89	0.91		-SK-41		1	D3
SK-41	円形	(0.82)	0.82	0.19		-SK-40		1	D3
SK-54	円形	0.98		0.24				1	D2
SK-58	円形	0.96	0.90	0.65				1	D2
SK-59	長方形	1.65	0.95	0.53	N-35°-W			1	D2
SK-129a	不整形円形	1.75	(1.48)	0.91	N-69°-E	-SK-129b		1	D2
SK-129b	不整形円形	(0.75)	0.50	0.25	N-22°-W	-SK-129a		1	D2
SK-145a	不整形円形	1.05		0.75	N-61°-E	-SK-145b		1	D2
SK-147	円形	1.14		0.89				1	D1
SK-172	長方形	4.10	0.65	0.11	N-54°-E			1	D1
SK-237	円形	0.52		0.10				1	C1
SK-244	長方形	4.19	0.66	0.07	N-60°-E			1	C2
SK-251	長方形	3.99	0.71	0.13	N-57°-E			1	C2
SK-255a	長方形	1.73	0.85	0.30	N-39°-W			1	C2
SK-255b	長方形	3.51	0.72	0.31	N-55°-E			1	C2
SK-259	長方形	1.87	0.99	0.16	N-53°-E			1	C2
SK-260	長方形	3.80	0.61	0.19	N-42°-W	-SK-1018		1	C2
SK-308	不整形円形	0.67	0.45	0.35	N-28°-E			■	B3
SK-425	不整形円形	0.70		0.09	N-28°-E			■	C3
SK-437	円形	0.80		0.11				■	C3
SK-442	不整形円形	1.12		0.09	N-50°-E			1	C3
SK-890	長方形	5.08	0.89	0.23	N-55°-E			■	E5
SK-926	不整形円形	0.95	0.79	0.55	N-33°-W			■	E6
SK-977	円形	0.69		0.08				■	E5
SK-978	長方形	1.18	0.75	0.12	N-49°-E			■	E5
SK-979	長方形	1.04	0.60	0.13	N-54°-E			■	E6
SK-1001	長方形	3.65	0.60	0.15	N-31°-W			■	P6
SK-1021	長方形	1.61	0.65	0.05	N-67°-E			1	C1
SK-1022	楕円形	0.57	0.46	0.15	N-44°-E			1	C2
SK-1034	楕円形	0.80	0.57	0.15	N-76°-E			■	F7
SK-1039	不整形円形	0.80	0.70	0.12	N-67°-W			■	F7
SK-1085	円形	1.85		0.45				■	G7
SK-1092a	楕円形	(0.85)	0.67	0.10	N-80°-E	-SK-1092b	博士研瓦	■	F7
SK-1092b	楕円形	1.09	(0.91)	0.35	N-3°-W	-SK-1092a	博士研瓦	■	F7
SK-1093	長方形	1.10	0.64	0.24	N-70°-W			■	G7
SK-1094	円形	1.01		0.10				■	F7
SK-1114	長方形	2.93	0.50	0.30	N-48°-E			■	F7
SK-1155	不整形円形	1.05	0.98	0.60	N-46°-E			■	G7
SK-1172	長方形	5.40	0.75	0.18	N-54°-E			■	G7
SK-1177	長方形	2.17	0.92	0.75	N-41°-W			■	G7
SK-1180	不整形円形	1.16	1.00	1.12	N-53°-W			■	G7
SK-1295	長方形	2.12	1.14	0.20	N-45°-E			■	H8
SK-1367	長方形	3.65	0.84	0.26	N-50°-E			■	H8
SK-1368	長方形	4.50	0.74	0.32	N-52°-E			■	H8
SK-1371	不整形円形	0.94	0.84	0.12	N-87°-W			■	H9
SK-1373a	楕円形	0.75	(0.59)	0.15	N-60°-E	-SK-1373b		■	H9
SK-1373b	不整形円形	(1.39)	1.49	0.32	N-2°-W	-SK-1373a		■	H9
SK-1458	円形	0.95		0.29				■	E8
SK-1496	方形	0.45	0.45	0.10				■	E8
SK-1501	不整形円形	2.45	1.43	0.21	N-68°-W			■	E8
SK-1516	楕円形	0.66	0.45	0.14	N-2°-W			■	E8
SK-1533	円形	0.95		0.73				■	E9
SK-1535	方形	0.99	0.87	0.64				■	E9
SK-1536	長方形	0.98	(0.54)	1.05	N-31°-W			■	E9
SK-1581	不整形円形	0.54	0.44	0.08	N-29°-W			■	E9
SK-1582	楕円形	0.94	0.62	0.12	N-34°-W			■	E9
SK-1599	楕円形	1.25	0.84	0.20	N-0°			■	F9
SK-1605	楕円形	1.92	1.17	0.22	N-10°-W			■	F9
SK-1621	長方形	1.11	0.70	0.50	N-49°-E			■	D8
SK-1626	長方形	(1.89)	1.07	0.54	N-15°-W	-SK-1628 -SK-1082,1627		1	D2
SK-1627	円形	1.15		0.83		-SK-1626,1628		1	D2
SK-1628	方形	(0.94)	1.00	0.60		-SK-1082,1626, 1627		1	D2
SK-1666	不整形円形	(0.78)	0.66	0.07	N-75°-E	-SK-58SD-145		1	D2
SK-1673	不整形円形	0.63	0.59	0.19	N-29°-W			■	E8
SK-1681	不整形楕円形	(1.65)	1.22	0.49	N-16°-W	-S1-1143		■	F6
SK-1687	不整形円形	1.25	1.12	0.14	N-88°-W			■	I8
SK-1691	長方形	1.46	0.91	0.37	N-48°-E			■	I9

深さがあり円筒形を呈するものと、浅く平べったいものがある。不整形土坑は、床面も平坦でなく凹凸が見られる。長方形土坑は、長軸4m程度のやや長大なものが多数を占める。方形土坑には深さ1mを越える深いものがある。小穴は最も数多く、調査区北部と西部に集中するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴となるものは確認できなかった。いずれの形態の土坑も、機能・用途不明といわざるを得ない。

遺物は鉄製品が出土している。1はSK-571出土の刀子、2はSK-233出土の鎌先である。



第437図 中世の土坑出土鉄製品実測図

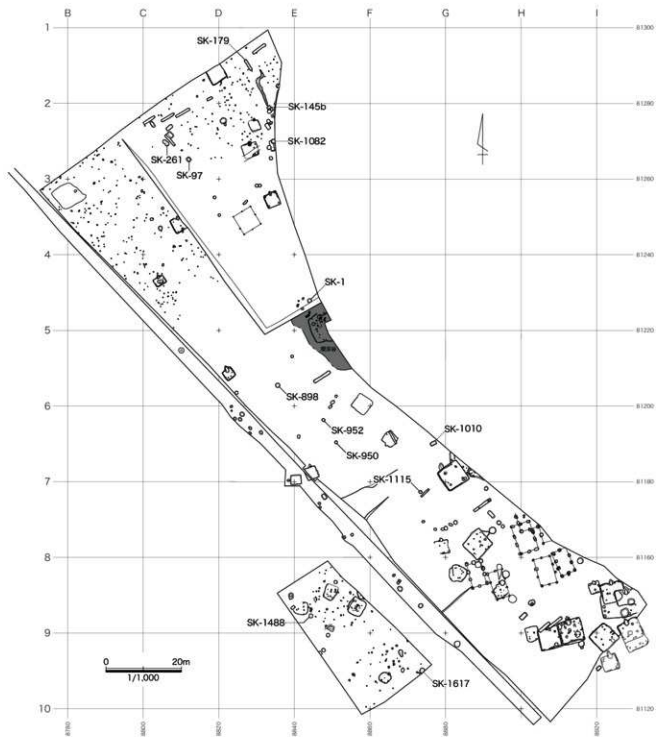
第132表 中世の土坑出土鉄製品観察表

実測 図No	遺構	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備 考
			長さ	幅	厚さ		
1	SK-571	刀子	(5.7)	2.25	0.6	12.57	
2	SK-233	鎌先	(13.6)	7.8	0.9	168.2	



### 第五節 近世の遺構

近世の遺構は近世墓2基、土坑136基を検出した。土坑は比較的大型のものを図示した。近世墓は埋没谷があり地盤の悪い調査区中央部に位置するが、集落縁辺の地盤の悪い地点が選ばれた結果であろう。その他の土坑は性格不明で調査区北部と西部に散在しており、中世同様生活域からは外れていると考えられる。



第438図 近世の遺構位置図

### 第一項 近世墓 (第439・440・443図、第133・134表)

SK-950は、径0.80mの平面円形、深さ0.96mで、底面が僅かにすぼまる円筒形を呈する。埋土は明黄褐色土で、床面近くには埋土のしまりが弱い隙間の多い部分が見られ、陥没前の棺による空間に由来すると考えられる。床面から人骨1体分が出土した。頭骨は床面近くに落ちていたが、座棺と考えられる。棺材等は出土していない。六道銭として副葬された銅銭(寛永通寶)が6枚出土している。

SK-952は、径0.90×0.79mの平面円形、深さ0.91mで、底面がすぼまる円筒形を呈する。埋土は明黄褐色土および黒褐色土で、黒褐色土層の高い位置で人骨1体分が出土した。座棺であったと思われる、体を左に傾けた状態を保っていた。棺材等は出土していない。六道銭として副葬された銅銭(寛永通寶)が6枚出土している。

SK-1はSK-950、952に比べると浅く、埋土にも棺の痕跡は認められないが、銅銭(寛永通寶)が1枚出土していることから、近世墓の可能性はある。

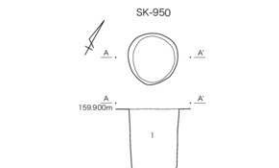
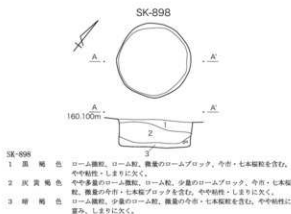
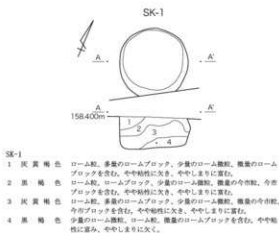
### 第二項 土坑 (第439・441・443図、第133・134表)

土坑は、平面形円形、不整形円形、長方形、方形と小規模なビット状の小穴が見られる。円形のもの、深さがあるものもあり、SK-950、SK-952に近似し、墓坑の可能性も指摘できる。SK-1からは銅銭(寛永通寶)が出土しており、その可能性が高い。長方形のものうちSK-145は、天井部を残して掘り込む地下構造を持つもので、地下式坑に代表されるような地下施設の可能性がある。小穴は最も数が多く、調査区北部と西部に集中するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴となるものは確認できなかった。またごく小規模のため図示していないものもある。

### 第三項 近世の遺物 (第442・443図、第134・135表)

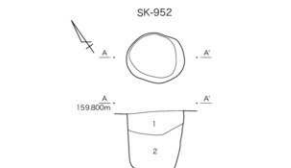
1はSK-649出土の泥面子(芥子面)である。長さ3.45cm、幅3.5cm、厚さ0.8cm、重さ8.08g、橙褐色を呈す。表面は膨らんだ頬と頭巾を表現しており、大黒の面と思われる。裏面は若干反った形状をしている。

鉄製品はSK-950、SK-952から六道銭として副葬された銅銭が出土している。1～6はSK-950出土のいずれも寛永通寶で、6枚壘着した状態で出土した。袋に入れて取めたと思われる繊維が依存していた。7～12はSK-952出土のいずれも寛永通寶で、1～5が壘着した状態で出土した。13は円形の土坑SK-1出土の寛永通寶で、SK-1が近世墓の可能性を示す。SK-950、952出土の六道銭は1枚づつ古寛永を含むが残りは新寛永であることから、両遺構は17世紀末以降の掘削である。



SK-950

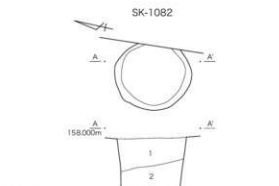
1 明 黄 褐色 ローム殻、多量のロームブロック、やや多量のローム微粒、少量の今市砂を含む。やや粘性に富み、しなりに富む。



SK-952

1 明 黄 褐色 多量のロームブロック、少量のローム微粒、ローム殻、今市砂、微量の七本塚砂を含む。やや粘性に欠き、しなりに富む。

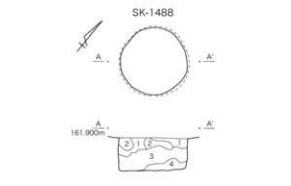
2 黒 褐色 ロームブロック、やや多量のローム微粒、少量のローム殻を含む。やや粘性に富み、ややしなりに欠く。



SK-1082

1 黒 褐色 ローム微粒、ローム殻、少量のロームブロック、微量の今市砂を含む。やや粘性に富み、ややしなりに欠く。

2 黒 褐色 少量のローム微粒、ローム殻、微量のロームブロック、今市砂を含む。やや粘性に富み、ややしなりに欠く。



SK-1488

1 灰 黄 褐色 ロームブロック、少量のローム微粒、ローム殻、微量の今市・七本塚砂、今市ブロックを含む。やや粘性に欠き、しなりに富む。

2 深い黄褐色 やや多量のロームブロック、少量のローム微粒、ローム殻、微量の今市・七本塚砂、今市ブロックを含む。やや粘性に欠き、しなりに富む。

3 明 黄 褐色 多量のロームブロック、少量のローム微粒、ローム殻、微量の今市・七本塚砂、今市ブロックを含む。やや粘性に欠き、しなりに富む。

4 灰 黄 褐色 ローム微粒、ローム殻、少量のロームブロック、微量の今市砂を含む。粘性に富み、ややしなりに欠く。



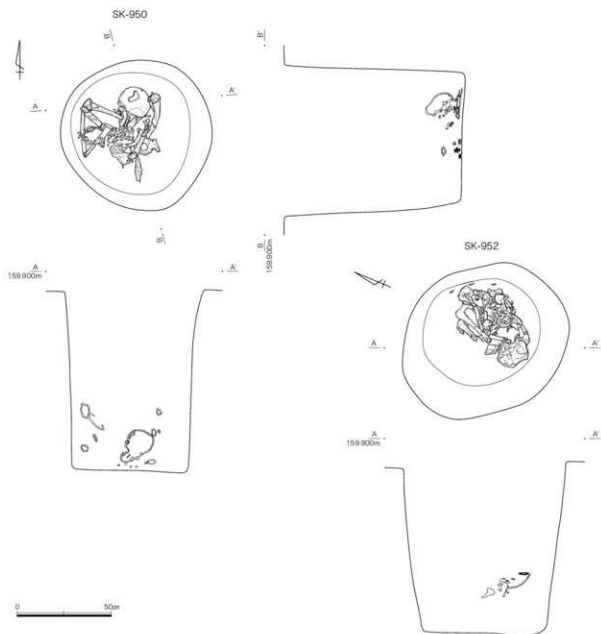
SK-1115

1 黒 褐色 少量のローム微粒、微量のローム殻、今市砂を含む。やや粘性・しなりに欠く。

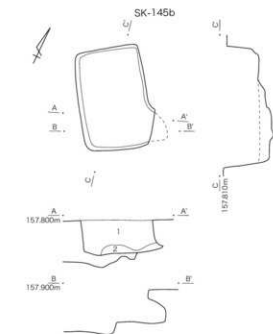
2 深い黄褐色 ローム殻、やや多量のローム微粒、微量の今市砂を含む。やや粘性・しなりに欠く。

0 1 2 3m

第439図 近世の土坑実測図(1)

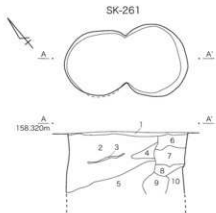


第440図 近世の土坑実測図(2)



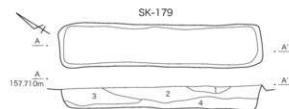
SK-145b

- 1 土色黄褐色 ローム地、少量のローム礫粒、ロームブロック、今市粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 2 灰黄褐色 少量のローム地、微量のローム礫粒、ロームブロック、今市粒を含む、やや粘性に乏む、ややしりに乏む。



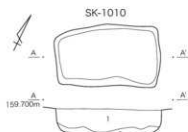
SK-261

- 1 土色黄褐色 ローム地粒、ローム地、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 2 明黄褐色 ロームブロック、やや多量のローム地粒、ローム地、少量の今市ブロック、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 3 黒褐色 微量のローム地、今市粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 4 灰黄褐色 少量のローム地、ローム地、ロームブロック、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 5 土色黄褐色 ローム地、ローム地、少量のロームブロック、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 6 土色黄褐色 やや多量のローム地粒、ローム地、少量のロームブロック、今市粒、微量の今市ブロック、七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 7 土色黄褐色 ローム地、やや多量のロームブロック、少量のローム地、今市・七本塚粒、今市ブロックを含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 8 灰黄褐色 今市多量のローム地粒、少量のローム地、今市ブロック、微量のロームブロック、七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 9 黒褐色 多量のロームブロック、少量のローム地、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 10 暗褐色 今市多量のローム地粒、少量のローム地、ロームブロック、微量の今市粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。



SK-179

- 1 明褐色 ロームブロック、多量のローム地粒、ローム地、微量の今市粒を含む、やや粘性に乏む、ややしりに乏む。
- 2 土色黄褐色 ローム地粒、ローム地、ロームブロック、今市粒を含む、やや粘性に乏む、ややしりに乏む。
- 3 土色黄褐色 多量のローム地粒、ロームブロック、少量のローム地を含む、やや粘性に乏む、ややしりに乏む。
- 4 黒褐色 少量のローム地、今市・七本塚粒を含む、粘性に乏む、ややしりに乏む。



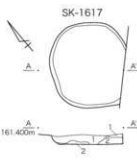
SK-1010

- 1 土色黄褐色 ローム地、ローム地、少量の今市粒、微量のロームブロック、七本塚粒、段状礫粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 2 明黄褐色 少量のローム地、ローム地、ロームブロック、微量の今市・七本塚粒、今市ブロックを含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。



SK-97

- 1 明黄褐色 微量のローム地粒、ローム地、ロームブロック、今市粒、今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 2 灰黄褐色 ロームブロック、少量のローム地粒、ローム地、今市・七本塚粒、微量の今市ブロックを含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 3 土色黄褐色 今市多量のローム地粒、ローム地、少量のロームブロック、微量の今市・七本塚粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 4 黒褐色 少量のローム地、微量のローム地粒、今市粒を含む、やや粘性に乏む、ややしりに乏む。
- 5 土色黄褐色 ローム地粒、ローム地を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。



SK-1617

- 1 黒褐色 少量の今市・七本塚粒、微量のローム地粒、ローム地、ロームブロック、今市・七本塚ブロックを含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。
- 2 土色黄褐色 ローム地粒、少量のローム地、今市ブロック、七本塚粒、微量のロームブロック、今市粒を含む、やや粘性に乏し、ややしりに乏む。



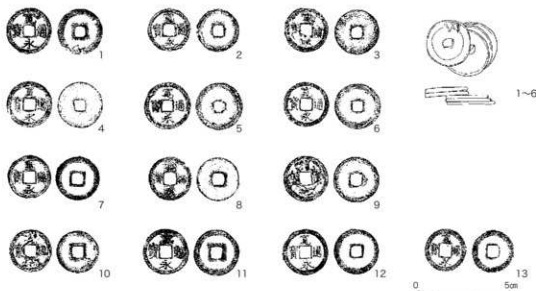
第441図 近世の土坑実測図(3)

第133表 近世の土坑一覽表

遺構番号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	切り合い	備考	調査区	グリッド
SK-1	円形	1.07		0.51			金属器による掘削	I	E4
SK-97	不整形	1.21	1.10	0.51	N-45° -W		陶磁器出土	I	C2
SK-145b	長方形	1.64	1.10	0.55	N-36° -W	>145a	陶磁器出土。切り合いで新しい方のSK-145bは確実に新しい時期。	I	D2
SK-179	長方形	3.20	0.65	0.40	N-30° -W		金属器による掘削	I	D1
SK-261	楕円形	1.91	1.15	(0.94)	N-56° -W		SK-261bより新しい	I	C2
SK-898	円形	1.15		0.45			金属器による掘削	II	D5
SK-950	円形	0.80	0.79	0.96			人骨出土：近世～近代の息塚	II	E6
SK-952	円形	0.90	0.79	0.91			人骨出土：近世～近代の息塚	II	E6
SK-1010	長方形	1.66	1.00	0.50	N-63° -E		甌土敷貫	II	F6
SK-1082	円形	1.20		0.82			甌土敷貫	I	D2
SK-1115	不整形	0.83	0.80	0.12	N-58° -E		甌土敷貫	II	F7
SK-1488	円形	1.05		0.51			金属器による掘削	III	E8
SK-1617	円形	(1.15)	1.35	0.15			甌土敷貫	III	F9



第442図 近世の土坑出土遺物実測図



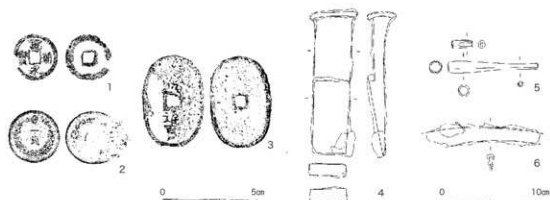
第443図 近世の土坑出土鉄製品実測図

第134表 近世の土坑出土鉄製品観察表

実測 図No	遺構	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備考	
			外径	内径	厚さ			
1	SK-950	銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.95	0.15	3.20	古寛永 織物附着 6枚附着	
2		銅銭 (寛永通寶)	2.30	1.80	0.15	2.54		
3		銅銭 (寛永通寶)	2.45	1.80	0.15	3.27		
4		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.90	0.15	3.02		
5		銅銭 (寛永通寶)	2.60	1.95	0.18	3.30		
6		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.90	0.13	2.88		
7	SK-952	銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.12	2.42	6枚附着	
8		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.95	0.13	2.50		
9		銅銭 (寛永通寶)	2.50	2.00	0.15	2.75		
10		銅銭 (寛永通寶)	2.40	1.80	0.15	3.10		
11		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.95	0.14	3.62		古寛永
12		銅銭 (寛永通寶)	2.50	1.90	0.14	2.64		
13		SK-1	銅銭 (寛永通寶)	2.30	1.70	0.10		

第四項 遺構外出土の近世遺物 (第444図、第135表)

1は銅銭(寛永通寶)で、2は2枚癒着した明治の一銭銅貨である。3は天保通寶で、天保6年(1835)から明治3年(1870)まで使用された。4は大型の楔である。5は煙管吸い口で、内部に羅字の差し込み部分が残存していた。また吸い口と羅字の間には炭化した紙もしくは布が残存している。6は鎌である。



第444図 遺構外出土の近世遺物実測図

第135表 遺構外出土の近世遺物観察表

実測 図No	種類	寸法 (cm)			重量(g)	備 考
		外径	内径	厚さ		
1	銅銭 (寛永通寶)	2.0	2.5	0.15	1.50	銅片
2	銅銭 (一銭)	2.9	2.5	0.33	16.14	2枚癒着
3	銅銭 (天保通寶)	4.9× 3.3	4.4× 2.7	0.34	19.39	
4	楔	長さ 15.4	幅 4.0	1.7	416.04	
5	煙管吸い口	長さ 9.6	太さ 1.25	吸い 口太 さ 0.6	14.25	厚さ 0.15
6	鎌	長さ (11.8)	幅 2.4	0.8	20.87	

## 第六節 まとめ

## 第一項 集落の動向 (第136表)

欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡で検出された古代の竪穴建物跡・掘立柱建物跡について、時期ごとの表を作成し、集落の動向について触れる。竪穴建物跡は、検出した25軒のうち21軒について出土遺物より時期を決定した。掘立柱建物跡は8棟のうち1棟で時期を決定した。

## 古墳時代・古代

欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡で最初に集落が形成されるのは、古墳時代前期末である。SI-1143・1643の2軒が見られる。山の神II遺跡でも古墳時代中期～後期に4軒が見られ、南に隣接する小鍋内遺跡では中期前葉～後葉の竪穴建物跡が確認されている。江川上流の上金枝遺跡でも前期の竪穴建物跡が確認されており、古墳時代前期末から小規模な集落が江川流域に展開していることがわかる。古墳時代終末期になると、喜連川丘陵では丘陵断崖を利用した横穴墓が多く作られるが、当遺跡周辺では集落遺跡が希薄になることが知られており、当遺跡でも竪穴建物跡2軒が検出されたのみである。

7世紀後葉～8世紀前葉は建物が見られず、8世紀中葉～後葉に2軒が見られる。山の神II遺跡同様寒村期と言える。

9世紀代には建物数が大幅に増加する。9世紀中葉～後葉が最盛期で、掘立柱建物跡SB-1074は9世紀後葉に属する。また埋没谷を挟んで単位集団の形成が見られる。第一章および第四章第三節でも述べたとおり、欠ノ上遺跡と小鍋内遺跡は便宜的に分かれているにすぎず、南側の単位集団は小鍋内I遺跡で集落を形成しているグループと同一の集団とみなされる。9世紀代に集落の最盛期を迎える点は山の神II遺跡と同様であるが、欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡では掘立柱建物跡が合計8棟確認されていることが異なる。遺物から時期が決定できたものはSB-1074のみだが、いずれの建物もそれに前後するものと考えられる。SI-1053・1370は次項で述べるとおり多数の墨書土器を出土しており、またSI-1370からは伝世品石製勾玉が出土していることから、集落の中でも重要な位置をしめる建物である。集落は10世紀前葉まで安定的に継続するが、その後10世紀でも新しい段階に属するSI-1645をもって、欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡の古代集落は終焉する。

第136表 古墳時代・古代建物跡時期一覧表

時期	遺構番号		
4世紀末	1143・1643		
5世紀前葉			
5世紀中葉			
5世紀後葉			
6世紀前葉			
6世紀中葉			
6世紀後葉			
7世紀前葉		1083・1641	
7世紀中葉			
7世紀後葉			
8世紀前半			
8世紀中葉	56		766
8世紀後半			
9世紀前葉	19		
9世紀中葉	144・529・934・1677・1643A	306・1642	
9世紀後葉	1053		SB-1074
10世紀前葉	429・1370・1644	234	
10世紀中葉			
10世紀後葉	1645		
不明SI	989・1002・1682・1713	不明SB	21・1207・1260・1314・1343A・1343B・1343C



## 第二項 墨書土器 (第445図、第137表)

古代の墨書土器は39点出土している。SB-1074出土の1点を除きすべて竪穴建物跡出土で、9世紀前葉～10世紀前葉に属する。墨書された土器の種類は、39点中37点が土師器環、2点が須恵器環で、部位は全て体部外面である。これらの墨書の主なものについて述べる。

「嶋」 地名か。調査区北寄りの小規模な竪穴建物跡のコーナー付近から出土している。

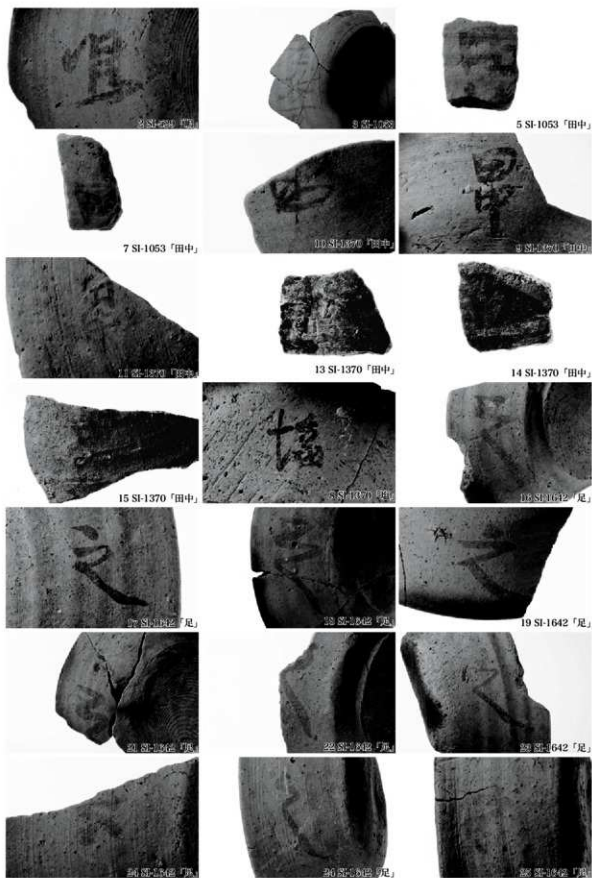
「田中」 地名か。SI-1053・1370から出土している。SI-1053は不明多文字の墨書土器を出土している9世紀後葉の建物跡である。SI-1370はそれに後続して7点がまとめて出土しているだけでなく、「壺」墨書や伝世品と見られる古墳時代前期の勾玉が出土し、「田中」墨書が集落の中でも特別な位置を占める建物に伴うことを示す。

「壺」 塩屋部の壺か。「田中」墨書と勾玉が出土しているSI-1370から出土している。山の神II遺跡でも「壺屋」か、の墨書が出土している。

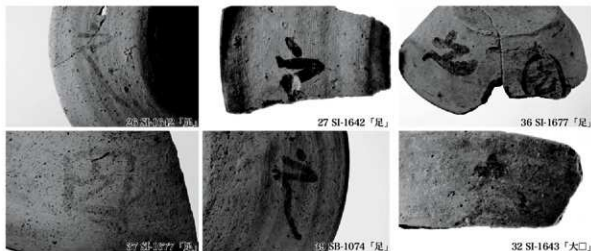
「足」 人名か。SI-1642・1677・SB-1074から出土している。SI-1642は拡張された縦長の建物跡で土師器環、土師器高台環が多量に出土している。その中から12点の「足」墨書が確認された。SB-1077は確認された掘立柱建物跡で唯一時期決定できた建物で、柱穴掘方は隅丸方形を呈す。

第137表 主な墨書土器一覧表

No	調査区	遺構	附録番号	釈文	種類・器種	部位	備考		
1	II区	I区	SI-56	1		土師器環	体部外面	9世紀前葉	
2			SI-529	1	「嶋」	土師器環	体部外面	9世紀中葉	
3			4	不明多文字	土師器環	体部外面			
4			5	「田中」か	土師器環	体部外面			
5			SI-1053	6		土師器環	底部外面	9世紀後葉	
6				7		土師器環	底部外面		
7				8	「田中」か	土師器環	底部外面		
8				3	「壺」	土師器環	体部外面		
9				4	「田中」	土師器環	体部外面		
10				8	「田中」	土師器環	体部外面		
11				13	「田中」	土師器環	体部外面		10世紀前葉 石製勾玉出土
12			14	「田中」か	土師器環	体部外面			
13			15	「田中」	土師器環	体部外面			
14			16	「田中」	土師器環	体部外面			
15			17	「田中」	須恵器環	体部外面			
16			SI-1642	4	「足」	土師器環	体部外面	9世紀中葉～後葉	
17				5	「足」	土師器環	体部外面		
18				6	「足」	土師器環	体部外面		
19				7	「足」	土師器環	体部外面		
20				10	「足」	土師器環	体部外面		
21				12	「足」	土師器環	体部外面		
22				13	「足」	土師器環	体部外面		
23				15	「足」	土師器環	体部外面		
24				17	「足」	土師器環	体部外面		
25				18	「足」	土師器環	体部外面		
26				22	「足」	須恵器環	体部外面		
27				29	「足」	土師器環	体部外面		
28				30		土師器環	体部外面		
29				31		土師器環	体部外面		
30				32		土師器環	体部外面		
31				33		土師器環	体部外面		
32				SI-1643A	6	「大口」	土師器環		体部外面
33			7		土師器環	体部外面			
34			SI-1645	2		土師器環	体部外面	10世紀後葉	
35				3		土師器環	体部外面		
36			SI-1677	1	「足」 「美」	土師器環	体部外面	9世紀中葉	
37				2	「美」	土師器環	体部外面		
38				5		土師器環	体部外面		
39			SB-1074	1	「足」	土師器環	体部外面	9世紀後葉	



第445図 主な墨書土器



### 第三項 舟形土製品 (第446～450図、第138・139表)

埋没谷出土の舟形土製品については、第四章第三節第四項で詳細を述べた。ここでは他の出土例にあたり、舟形土製品とそれが示す欠ノ上遺跡の性格について触れてみたい。

舟形土製品は、縄文時代から古代にまで見られ、祭祀に係わる模造品と考えられている。特に古墳時代においては、他の石製模造品・土製模造品・木製模造品とともに祭祀具として用いられる他、古墳副葬品として単独出土の例も存在する。弥生時代中期～古墳時代後期の計39点の出土例を第138表に示す。縄文時代の出土例、標文文化期の出土例、形態から本項では舟形とはしなかったもの、報告不詳の11点は参考として第139表に挙げた。

#### 舟形土製品の類例

##### 門前池遺跡 (岡山県赤磐市)

岡山平野を形成する河川のひとつ砂川は山間部に沖積平野を形成し、遺跡はその縁辺の低丘陵上に位置する。弥生時代中期後半～古墳時代前期の竪穴建物跡が検出され、弥生時代中期後半～後期前半が中心の集落遺跡である。1は約15m離れた2軒の弥生中期後半の建物跡から出土し、接合している。舳は三角形に尖らせて上方へ緩やかに上がり、舳は四角く箱型を呈す。船内は丸みを帯びる。なお、別地点では弥生時代後期前半の掘立柱建物跡付近の包含層から銅鐸形土製品が出土している。

##### 角江遺跡 (静岡県浜松市)

遺跡は、遠州灘に面する自然堤防と背後の丘陵部の境界に位置する。近隣の浜名湖や佐鳴湖の存在が示すとおりかつては潟を形成していたと思われる。弥生時代中期～後期、古代～中世の集落遺跡で、建物後は確認されていないが方形周溝墓が確認され、また自然流路内から木製品を含む多量の遺物が出土した。

2は弥生時代中期～後期の遺物を多量に出土した自然流路から出土した。舳のみの出土で、三角形に尖らせ先端を僅かに揃む。胴部は膨らまずに舳へとつながるものと考えられる。内外面に指頭痕が残り、内面は丸みを帯びる。同じ流路からは人面付土器、線刻土器、銅鐸形土製品、鳥形土製品が出土している。また竪板ではないが、丸木舟の上に取り付けた波よけ板と考えられる木製品も出土している。

### 文京遺跡（愛媛県松山市）

遺跡は重信川、右手川によって形成された扇状地の扇端付近に位置する、弥生時代中期～後期の集落遺跡である。3は遺物包含層の暗茶褐色土層から出土している。舳のみ出土し、胴部は膨らみ、舳は三角形を呈す。内面から舳はナデずに粘土を折り曲げて成形し厚みがある。また内面にハケ目状の工具痕が見られる。遺物包含層からは土偶形土製品が出土している。

### 三王山遺跡（愛知県名古屋市中区）

遺跡は、名古屋市内を見下ろす丘陵上に位置し、眼下には天白川流域の低地が広がる。弥生時代後期の方形周溝墓と環濠集落、古墳時代中期～後期の集落、中世の集落が確認されている。4は時期不詳の土坑から出土し、銅鐸形土製品、ミニチュア土器が伴伴している。舳と轡を積み出している。内面はナデ丸みを帯びる。

### 百間川原尾島遺跡（岡山県岡山市）

遺跡は岡山平野市街地の低地に位置する。弥生時代後期～古墳時代の集落と、若干の中近世遺構の確認された集落遺跡である。舟形土製品は弥生時代後期後半の竪穴建物跡から円盤状土製品、ガラス白玉とともに1点、後期後半の井戸の埋土中ほどから1点、包含層から1点出土している。なお、当遺跡からは銅鐸形土製品が4点出土している。5は三角形の舳に仕上げ、内面はナデで丸みを帯びる。6は船体中央が膨らみ舳と轡は小さく積み出す。内面はナデで丸みを帯びる。側面に線刻による文様を施す。7は船体中央が膨らみ舳と轡を揃えて尖らせ、上方へ持ち上げる。この積み上げ部分は内面をナデで成形する際に一緒に積み上げるのではなく、別部品として作り出している。舳・轡の付け根には欠損しているが粘土を貼り付け構造物を表現している。

### 中屋遺跡（広島県東広島市）

山間部に椋梨川によって形成された沖積地に位置する弥生時代後期～古墳時代前期の集落遺跡である。8は弥生時代後期末葉の焼土竪穴建物跡から出土し、ミニチュア土器が伴伴している。製品は被熱しているが、使用時のものか、建物焼失によるものか判断できない。船体中央が膨らみ舳と轡を三角形に尖らせる。粘土板を折り曲げて成形して船底は内外面ともに平坦で、断面形は逆台形を呈する。

### 漆町遺跡（石川県能美市）

柳川中流域の沖積平野に形成された自然堤防上に位置する。弥生時代後期～近世の複合遺跡である。舟形土製品は、古墳時代前期の溝、土坑及び包含層から4点出土している。114号土坑出土品は、略円形皿状の土坑の埋土上層より他の遺物と一括廃棄ないしは埋納されたものとされる。333A号土坑出土品も同種の土坑からやはり一括廃棄ないしは埋納されたものとされる。漆町遺跡では同種の遺構が多数検出されている。9は114号土坑出土で、船体中央やや上よりが膨らみ、舳と轡は積み出す。特に舳と考えられる図上方へは長く積み出し、独立した構造物を表現している。10は包含層出土で舳部分である。同様に舳先端を大きく積み出し手いる。11は333A号土坑出土で、幅広い楕円形から僅かに積み出して舳もしくは轡を作り出す。12は溝出土で、図下方が舳と考えられる。船体中央やや舳よりがもっとも膨らみ、舳と轡を楕円形のまま突出させ、舳下部を長く積み出す。

## 田井中遺跡（大阪府八尾市）

遺跡は河内平野内の自然堤防上に位置する。弥生時代前期～古墳時代中期の集落と中近世の畑跡からなる遺跡で、集落は弥生時代前期～中期が中心である。古墳時代前期は井戸のみが確認され、その埋土上層から遺存状態の良い土師器の甕、坏がまとまって出土した。その洗浄中に甕の内部に溜まった黒色粘土の中から13が出土している。甕内部に入っていたことが意図的なものかどうかは不明である。甕は三角形に作り出し先端を上方へと摘み上げる。甕は四角く箱型に仕上げる。内面はナデで丸みを帯び、甕と甕との境を高く摘み上げて構造を表現している。甕に横方向に穿孔する。

## 山中遺跡（福島県相馬市）

遺跡は、干拓によって陸地化された旧新沼浦緑辺の丘陵端に位置する。遺構は時期不明の掘立柱建物跡が1棟検出されたほかは土坑、溝で、多量の古墳時代前期遺物と少量の平安時代遺物が出土している。14は古墳時代前期末の遺物とともに溝から出土し、ミニチュア土器・土玉が供伴している。船体中央が膨らみ甕と甕は三角形に作り出す。図の下方はわずかに掘んである。浅く、船底は内外面ともにへう状工具でナデている。

## 月の輪古墳（岡山県美咲町）

古墳時代中期初頭、直径60m、高さ10mの円墳で、10×13mの方形の造出しを持つ。墳丘には葺石を施し墳頂縁辺と墳頂部に埴輪列をもつほか、墳頂中央から多数の形象埴輪が出土した。また墳頂に2基の主体部をもつほか、造出し部にも粘土槨が設けられ、その直上から舟形土製品が出土している。月の輪古墳は吉井川と吉野川の合流部の狭い平野を見下ろす丘陵上に位置する。岡山県北部の山間部にあたり平野は少なく、古くから船運が盛んに用いられていたと考えられる。特に月の輪古墳が見下ろす飯岡集落は船保有率が高く、昭和初期まで盛んに利用されていた。このことから月の輪古墳の被葬者は水運を統括する立場にあったとされている。16は、先端を丸く取めた紡錘形で、甕と甕は上方へと反り上がる。甕の下部を摘み出し構造物を表現している。

## 明ヶ島古墳群（静岡県磐田市）

明ヶ島古墳群は太田川を見下ろす台地縁辺部に位置する。古墳群に先行する5世紀前葉頃に、多量の土製模造品を用いた祭祀跡が形成されている。模造品の種類は多種多様で、人、動物、鏡、玉、装身具、武器・武具、紡織具、農具、漁具、什器、楽器、供物などが確認されている。舟形は2点出土している。17は甕もしくは甕のみの出土で先端を上方へ摘み上げる。18は甕と考えられるが、先端幅を減じつつ方形に仕上げ、上方へと反らせる。

## 古市2号遺跡（広島市東広島市）

遺跡は、東広島市街を望む丘陵上に位置する。一帯は弥生時代～古墳時代の集落遺跡が数多く見られ、5世紀中葉～後半に築造された前方後円墳の三ツ城古墳を中心に古墳群が形成される。古市2号遺跡からは5世紀中頃と6世紀後半の竪穴建物跡が検出され、19は5世紀中頃の竪穴建物跡から出土し、ミニチュア土器、鏡形土製品、管玉等とともに出土している。甕と甕を摘み出し鋭く尖らせ、上方へと反らせる。船底外面は中央部が凹み、甕と甕で接地する。断面はV字状を呈する。

## 姥ヶ谷遺跡（茨城県常総市）

遺跡は利根川と鬼怒川、及び大小の支流によって形成された自然堤防上に位置する集落遺跡である。弥生時代後期～古墳時代中期の竪穴建物跡のほか縄文式土器が出土している。舟形土製品20は古墳時代前期中葉の第12号住居跡から出土した。建物の壁際から、土玉とともに出土している。船のみの出土で、下部を積み出し構造物を表現する。全面に赤彩を施し、成形も丁寧である。

## 坂上遺跡（静岡県浜松市）

山間部に位置し、都田川の沖積地を望む丘陵上に位置する。開発に伴う偶然の発見にも係わらず、人形をはじめとする多量の土製模造品が採集されている。古墳時代中期の祭祀跡とされる。舟形土製品は4点確認されている。21は船と櫓を大きく作り出し、先端は丸く取めながら上方へと反らせる。22は船と櫓のつまみ方が弱くわずかに上方に積み上げる。成形はやや雑である。23は小型で成形は粗く、船と櫓はわずかに積みのみである。24は小型で成形は粗く、船は大きく積み出すが櫓は小さくまとめる。

## 貴船神社遺跡（兵庫県淡路市）

淡路島北部の海浜に位置する製塩遺跡である。主に古墳時代後期に製塩が行われており、同時代の包含層から舟形土製品が2点出土している。多量の製塩土器のほか、ミニチュア土器3点、円盤状土製品1点が供伴している。25は船体の幅が狭く、船は三角形でわずかに上方へと積み上げ、櫓は四角く箱形を呈す。成形はやや粗く指頭圧痕が見える。26は船部分で、上方へと強く積み上げる。成形はやや粗く指頭圧痕が見える。

## 大浦浜遺跡（香川県坂出市）

遺跡は、櫃石島の東部の海浜部に位置する。縄文時代～鎌倉時代の複合遺跡で、古墳時代～鎌倉時代まで製塩が行われている。製塩に関係する遺構・遺物のほか、祭祀関係遺物も古墳時代を中心に多数出土している。周辺の島嶼部は製塩遺跡とともに多数の祭祀遺跡が存在し、生産の場である海浜だけでなく、島の山頂部や丘陵上からも祭祀遺物が出土している。

舟形土製品は古墳時代後期の包含層から13点が出土しており、一遺跡の出土量としては最多である。27は船体幅が狭く、端部を方形のまま上方へ持ち上げる。成形はやや粗い。28は船体幅が狭く、端部は隅丸方形を呈す。成形はやや粗い。29は幅広の楕円形の両端を上方へと大きく積み上げる。平面では船・櫓の作り出しは僅かだが、側面視では垂直に立つ船と櫓となる。船と櫓の作り分けは不明だが一方に穿孔している。30は船と櫓を上方へと積み出すだけでなく、全体を弓なりに反らせる。成形はやや粗い。31は端部を縦に大きく平たく仕上げる。成形はやや粗い。32は船体幅は狭く弓なりに反らせる。端部は棒状のまま上方へ持ち上げる。成形は粗く舷の表現は僅かである。33は端部を縦に平たく積み上げる。34は端部を長く積み出し、上方へと反らせる。側面に線刻による文様を施す。35は大きく積み出された端部で、横方向に穿孔する。36・37は船体幅が狭く、端部を大きく上方へと積み出す。横方向に穿孔する。38は小型で、船を表現していると思われる一方の端部のみを大きく積み上げる。櫓は簡潔に方形に収める。船には横方向に穿孔する。39は小型で一方の端部のみ小さく積み出す。もう一方の端部は丸く取め、匙形とも言えるような形状を呈す。

## 舟形土製品の分類

以上16遺跡39点について平面形、船・櫓の形状から次のような分類を行い、一覧表中に記した。

- 1類 船体の幅が狭く、舳は三角形、艫を四角く箱形を呈するもの。  
明確に舳と艫を作り分ける。古墳時代前期の田井中遺跡出土品は、舳・艫に豎板を表現しており、豎板型準構造船を模していると考えられる。舳のみが二股構造になる豎板型準構造船は、兵庫県出石郡出石町袴狭遺跡から出土した線刻画木製品に多数描かれており（兵庫県教育委員会2000・2002、中村2003）、田井中遺跡出土品はこのタイプを模造しているであろう。
- 2類 幅広の紡錘形を呈するもの。  
大型で幅が広く、「船形容器」と言えるような形状。舳・艫に関する意識は低く、丸く取めるもの、僅かに揃むものがある。
- 3類 幅の狭い紡錘形を呈し、舳・艫を揃み出すもの。舳下部に板状の構造物を作り出すもの。  
舳下部に構造物を作り出す。舳のみが二股構造になる豎板型準構造船を模し、船底部先端が垂直方向に板状に作り出される。大型で成形は丁寧だが、表現の誇張と形式化が進んだものとする。茨城県姪ヶ谷津遺跡出土品は赤彩を施す。
- 4類 幅の狭い紡錘形を呈し、舳・艫を揃み出すもの。船体とは作り分けるもの。  
船体内部の表現とは別に舳と艫を揃み出してあり、豎板型準構造船を模していると考えられる。小型だがつくりは丁寧である。舳・艫が細く尖る紡錘形の豎板型準構造船は、滋賀県守山市下長遺跡・同赤野井遺跡・米原町入江内湖遺跡・彦根市松原内湖遺跡・能登川町石田遺跡・兵庫県姫路市長越遺跡で、舳・豎板・舷側板などの部材が出土し（横田2004、中村2008）、全長6 m程度の小型の準構造船が広く用いられていたことがうかがえる。4類はこれを模したのと考えられる（1）。欠ノ上I・II遺跡出土品では別作りの粘土を貼り付けて豎板を表現している。
- 5類 幅の狭い紡錘形を呈し、舳・艫を揃み出すもの。  
前後に揃み出し、上方へはあまり持ち上げない。形状に幅があり、成形も丁寧なものから粗雑なものまである。豎板構造や貫構造は表現されていないが、先端の細く尖る紡錘形状は4類に類似しており、同じく小型の準構造船を模していると考えられる。
- 6類 幅の狭い紡錘形を呈し、舳・艫を揃み出すもの。上方に大きく揃み上げるもの。  
強く揃んで平たくした端部を上方へ揃み上げる。ゴンドラ型と呼ばれるもの。舳・艫の表現が強調されたものとする。舳・艫の作り分けはあまり意識せず、幅のあるものから細いものまである。成形は粗い。3・4・5類のディフォルメされたものとする（2）。
- 7類 幅の狭い紡錘形を呈し、舳は大きく上方に揃み上げ、艫は四角または丸く取め、匙形を呈するもの。  
6類の片側の端部が完結になったもの。成形は粗い。6類の簡略化されたもの、もしくは1類のディフォルメ・簡略化されたものとする。
- 8類 幅が狭く、舳および艫を四角く取めるもの。  
舳は上方に反らせる。
- 1類は現在のドブネにも見られるような典型的な船形だが、弥生時代中期に既に見られ、弥生時代中期～古墳時代前期を中心に少量見られる。3～5類の紡錘形で舳・艫を揃み出すものは舟形土製品において主流になる形態で、弥生時代～古墳時代後期にまで見られる。しかし、より表現が細かく豎板型準構造船を模した4類は弥生時代後期～古墳時代前期に、同じく豎板型準構造船を模して大型品の3類は古墳時代前期～中期にのみ見られ、ディフォルメされた6類、さらに簡略化が進んだ7類は古墳時代後期に見られる。このように見てくると、4類→3類（これらの簡易型の5類）→6類→7類という変遷をたどることができる。そ

の変化は、小型ながらも準構造船の特徴をよく表現していた1・4類→大型・形式化した3類→小型・簡略化という変遷も表している。

### 舟形土製品の出土状況

弥生時代中期～後期は、角江遺跡・三王山遺跡で銅鐸形土製品が、角江遺跡で土人面付土器、文京遺跡で土偶状土製品が供伴し、祭祀行為や葬送に関連して用いられていることに特徴がある。また3例が単独の出土である。出土遺構は自然流路や包含層の他、竪穴建物跡・井戸・土坑から出土している。

古墳時代前期は、土坑からの土器の一括出土に特徴付けられる。漆町遺跡では、2点がそれぞれ溝と包含層から出土し、2点が土坑から出土している。土坑の形状は平面不正円形、断面皿状を呈する。114号土坑からは遺存状態の良い土師器の甕19個体以上・壺3個体以上・高坏8・器台2・小型丸底壺2・台付鉢1・鉄片とともに舟形土製品が出土した。333A号土坑からはやはり遺存状態の良い土師器の甕15個体以上・壺7個体以上・高坏8・器台1個体以上・小型丸底壺1・小型壺1・小型鉢3とともに舟形土製品が出土している。また333A号土坑の埋土には多量の木炭が見られた。漆町遺跡ではこの他にも多量の土器を出土する土坑が確認されており、114号・333A号土坑に一時期先行する4基の土坑からは管玉・勾玉が出土しており、単なる廃棄土坑ではない祭祀行為によるものと考えられる。同じく古墳時代前期出土例の田井中遺跡では、平面不整形、断面逆台形の井戸218の検出面から遺存状態のよい土師器の甕5・坏1が出土し、甕の内部から舟形土製品が出土している。古墳時代前期において土師器甕等を多量に一括廃棄もしくは埋納する祭祀形態が存在し、そこに舟形土製品が用いられる場合があることがわかる。

古墳時代中期は、大量の土製模造品を用いる祭祀に特徴付けられる。明ヶ島古墳群で確認された大量の土製模造品は、古墳群形成の前段階に行われた祭祀によるもので、人、動物、鏡、玉、装身具、武器・武具、紡織具、農具、漁労具、什器、楽器、供物など多様な模造品を出土したことで知られている。坂上遺跡は、人形を中心に多量の土製模造品が用いられている。古墳時代中期に多量の土製模造品を用いる祭祀形態が成立すると考えられているが、舟形土製品もその中に取り込まれたと理解できる。しかし、月の輪古墳、古市2号遺跡、姥ヶ谷津遺跡では舟形土製品を単独で用いる小規模な祭祀が行われていることに注意したい。

古墳時代後期は、瀬戸内海の島嶼部における製塩遺跡からの出土が特徴的である。貴船神社遺跡では包含層からミニチュア土器とともに舟形土製品が出土し、大浦浜遺跡では包含層から13点もの舟形土製品が出土している。製塩は高度に専門化された技術である一方、季節・天候に左右され、ゆえに自然への祭祀行為を必要とする。また大浦浜遺跡は、縄文時代～鎌倉時代までの遺物を出土し、古墳時代～鎌倉時代まで製塩を営む周辺島嶼部唯一の製塩遺跡である。祭祀遺物もミニチュア土器をはじめ奈良三彩小壺、二彩壺蓋、金銅製帯金具、和同開珎、神功開宝など一地域集団に取まらない高次の祭祀が行われたと見られている。製塩が長期にわたって営まれ、その活動に伴う祭祀もまた長期にわたって営まれたものと考えられる。このような祭祀に用いられることに古墳時代後期の舟形土製品の特徴があると言える。なお安久遺跡では竪穴建物跡から出土しており、依然小規模な集落内祭祀にも用いられている。

### 舟形土製品の意味

舟形土製品は、古墳時代後期の製塩遺跡における出土例から魚労・製塩等海での生産に直接係わる人々による祭祀が、月の輪古墳出土例から内陸部における水運を統括する人物への副葬品といった意味づけがされてきた。しかし弥生時代中期～古墳時代前期の出土遺跡は、河川氾濫原の自然堤防上や潟地形の縁辺部、さ



らに内陸部の河川周辺など、内海や河川に係わる集落遺跡からの出土が卓越しており、水辺の集落における祭祀に普遍的に用いられたと考えられる。古墳時代中期には月の輪古墳出土のほかでは明ヶ島古墳群・坂上遺跡での出土が特徴的である。内陸部の丘陵上の祭祀跡で、多種多様な土製模造品を用いる祭祀が成立した際に、その一つとして舟形土製品も扱われているものと考えられる。そして古墳時代後期には前述したように海での生産に直接係わる人々による祭祀に用いられたと考えられる。

#### 欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡出土品について

改めて欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡出土の舟形土製品を検査すると、船・艦に粘土板を貼り付けて堅板を表現している。さらに両端を積み出して列り舟先端を表現しており、堅板型準構造船を模した4類に該当する。前後に粘土板を貼り付けて堅板を表現した例は同じ4類に分類される弥生時代後期の岡山県岡田原尾島遺跡出土品があり、堅板型準構造船の構造を良く表現していると言える。堅板型準構造船を模した3・4類は弥生時代後期～古墳時代中期に見られるが、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では古墳時代前期末の堅穴建物跡が確認されており、この時期の所産であることに齟齬はない。

欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡は内陸県である栃木県でもさくら市の喜連川丘陵という、舟形土製品出土遺跡では最も内陸に位置する遺跡である。遺跡の前を流れる江川は、同じく喜連川丘陵を流れる荒川・内川とともに那珂川へ注ぐ那珂川水系である。江川は荒川と合流した直後那珂川へと注ぐが、その4kmほど手前には龍門の滝と呼ばれる落差12mの垂直な崖をもつ滝が存在する。江川と龍門の滝の関係についての研究によれば(吉田・池田1999)、江川は流量が少なく、また運搬する砂礫の量がきわめて少ないことがわかっている。江川は喜連川丘陵内に水源を持ち、幅1kmほどの谷底平野を発達させ、谷底平野と丘陵との間には沖積地が広く残され縄文時代～現在にいたるまで集落が立地しているが、この景観は3.5～2万年前には形成されたと考えられている。すなわち穏やかな江川の流れを背景に、船運と集落の安定的な経営が可能だったと言える。一方荒川や内川は高原山系を水源とし、周辺から水を集めたたびたび水害を引き起こしている。江川はまさに船運の利用に適した河川であったといえる。古代においてやや下流の低地に官衙的な集落である森後遺跡が形成されるのも、官道の存在とともに同様な条件を背景にしているのであろう(3)。欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡から出土した舟形土製品は、穏やかな江川を背景に集落を経営し船を利用した人々が、小規模な集落内祭祀に利用したものと考えられる。

#### 註

- (1) 大阪府高麗2号墳出土船形埴輪は、船・艦が二股構造になる準構造船の代表的な例であるが、あくまで古墳副葬品としての埴輪の表現であり、裝飾性を優先させ、またモデルは古墳被葬者にふさわしい大型船であっただろう。日常的に用いられた舟は小型の準構造船であり、舟形土製品の多くが小型準構造船を模した4・5類とその簡略化した6・7類であることも舟形土製品の特徴といえる。
- (2) 船形埴輪に見られるように、ゴンドラ型と呼ばれるような、船と艦が反り上がる貫型準構造船は存在したと考えられる。しかし6類としたものは船と艦を積み出して尖らせる構造が3・4・5類と共通している点を重視してそのディフォルメされたものとした。
- (3) 森後遺跡では人工的な大溝と埠頭状遺構が確認され、津の性格を有すると考えられる。また、龍門の滝のため荒川や那珂川に船を利用して乗り入れることは不可能であるから、船の利用範囲は江川上中流域が中心であっただろう。

## 参考文献

- 久保寿一郎 1987 「舟形模造品の基礎的研究」『東アジアの考古と歴史』下 同朋社出版
- 須藤利一編 1968 『舟』ものと人間の文化史1 法政大学出版局
- 高橋美久二 1991 「交通と運輸」『古墳時代の研究』雄山閣
- 杉山林継・篠原祐一 2006 「特集古墳時代の祭り」『季刊考古学』第96号 雄山閣
- 栃木県教育委員会・とちぎ生涯学習文化財団 2010 『森後遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告第328集
- 出口晶子 2001 『丸木船』ものと人間の文化史98 法政大学出版局
- 中村 弘 2003 「袴狹遺跡出土線刻画にみる古代の船団」  
『関西大学考古学研究室開設五十周年記念 考古学論叢』
- 中村 弘 2008 「播磨・長越遺跡出土の準構造船塹板について」  
『兵庫県立公庫博物館研究紀要』第1号 兵庫県立考古博物館
- 中村 弘 2012 「古墳時代準構造船の復元」『兵庫県立公庫博物館研究紀要』第5号 兵庫県立考古博物館
- 樋口尚武 1997 「渡海の考古学」『人類史研究』第9号 人類史研究会
- 東日本埋蔵文化財研究会 1993 『古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物—』
- 兵庫県教育委員会 2000 『袴狹遺跡』兵庫県文化財調査報告第197冊
- 兵庫県教育委員会 2002 『入佐川遺跡』兵庫県文化財調査報告第229冊
- 前田豊邦 2001 「舟形模造品について」『郵政考古紀要』30大阪郵政考古学会
- 山梨県考古学協会 2008 『山梨県考古学協会2008年度研究集会「土製模造品から見た古墳時代の神マツリ」資料集』
- 横田洋三 2004 「準構造船ノート」『紀要』第17号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 吉田美佳・池田宏 1999 「栃木県烏山町、龍門の滝の成因について」『筑波大学水理実験センター報告』No.24 筑波大学水理実験センター

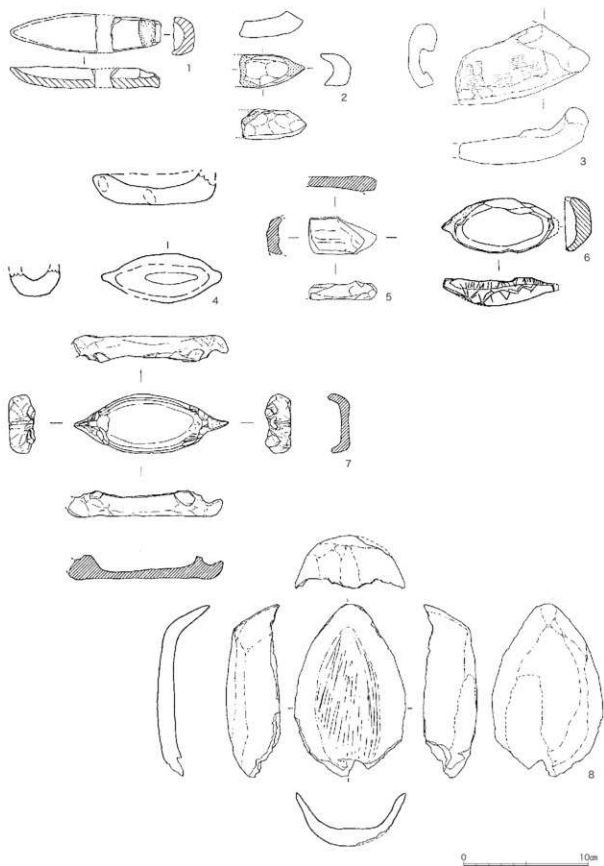


16	月の輪古墳	岡山県久米郡 那波原町	23.2	8.0	7.0	3類 粘土層直上	古墳時代中期前期	地長約20cm	古墳時代	山前部石段	古墳	月の輪古墳群 1960年7月の発掘調査
17	明ヶ島古墳群	静岡県静岡市	7.5	4.5	(3.6)	5類 5類	古墳時代中期前期 古墳時代中期前期		古墳時代中期前期	台地縁辺	5類 5類	静岡市教育委員会 2003「東海上地区南 部理事業地内埋蔵文化 財発掘調査報告書」
18	明ヶ島古墳群	静岡県静岡市	13.6	4.0	4.0	5類 5類	古墳時代中期前期 古墳時代中期前期	21.1の埋蔵か?	古墳時代中期前期		5類 5類	静岡市教育委員会 1992「西美第一土地区 域整理事業地内埋蔵 文化財発掘調査報告書 上」
19	占市2号遺跡	広島県 広島市	推定 12.0	3.2	1.5	5類 5類	古墳時代中期中期		古墳時代中期 後期後半	丘陵上	5類	岡山県教育財団 1994「姫ヶ谷津遺跡 調査報告書」
20	姫ヶ谷津遺跡	茨城県岩井市	(9.3)	(8.0)	(5.2)	3類 124.3	古墳時代中期	床面	弥生時代後期～ 古墳時代中期	傾斜川 川際によって 形成された自然 掘削跡上	5類	国立歴史民族博物館 1985「国立歴史民族 博物館研究報告」第7 集
21			13.6	5.5	4.2	5類	古墳時代中期	多量の土製埴輪 品				
22	坂上遺跡	静岡県浜松市	9.4	5.7	2.7	5類	古墳時代中期	多量の土製埴輪 品		丘陵上	5類	
23			5.5	2.3	1.8	5類	古墳時代中期	多量の土製埴輪 品				
24			(3.6)	2.0	(2.1)	7類	古墳時代中期	多量の土製埴輪 品				
25	眞龍神社遺跡	兵庫県津名郡 北沢町	(8.2)	(2.5)	1.5	1類	古墳時代後期	ミニチュア土器、 戸皿状土製品	弥生時代～奈良 時代		製塩遺跡	兵庫県教育委員会 2001「眞龍神社遺跡」
26			(3.1)	(1.9)	2.9	6類	古墳時代後期	ミニチュア土器、 戸皿状土製品				
27			(5.3)	2.25	2.65	包含層正 31層前期	古墳時代後期					
28			(4.3)	2.9	1.95	包含層 43.1～2	古墳時代後期					
29			8.15	4.7	2.6	包含層 118北側 ア～エ	古墳時代後期	布部土器				
30			7.2	2.9	2.9	包含層 F-20第2層	古墳時代後期	ミニチュア土器				
31	大瀬浜遺跡	香川県坂出市 瀬石島	(6.3)	(4.4)	6.2	包含層正 30層作土	古墳時代後期					
32			(5.5)	2.75	3.55	包含層 13第2層 F層	古墳時代後期					
33			(5.7)	3.95	3.5	包含層 20第2層 F層	古墳時代後期					
34			(4.9)	(3.2)	3.55	包含層 19第2層 F層	古墳時代後期					
35			(5.2)	(3.9)	(3.9)	包含層正 41.第1～ 2層	古墳時代後期					
36			(4.8)	2.8	3.9	包含層正 43第4層 上	古墳時代後期					

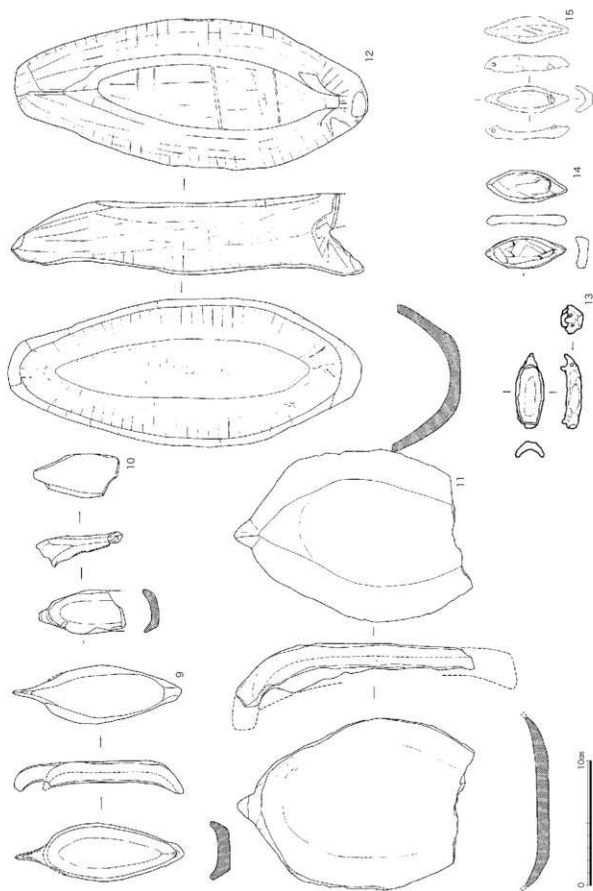
No	道跡名	所在地	全長 (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	分類	出土遺構	出土遺構の時代	供伴遺物	備考	道跡の時代	立地	道跡の性格	文献
37	人瀬川道跡	香川県坂出市 中瀬石島	(4.1)	(2.1)	4.5	6類 包 含 銅(洋 土中)	6類	古墳時代後期				縄文-鎌倉時代	海浜部	製塩道跡	香川県教育委員会 1988「人瀬川道跡」
38	人瀬川道跡	香川県坂出市 中瀬石島	6.3	2.7	3.75	7類 包 含 銅(洋 土中)	7類	古墳時代後期				縄文-鎌倉時代	海浜部	製塩道跡	香川県教育委員会 1988「人瀬川道跡」
39			5.1	2.75	2.35	7類 包 含 銅(洋 土中)	7類	古墳時代後期				縄文-鎌倉時代	海浜部	製塩道跡	香川県教育委員会 1988「人瀬川道跡」

第139表 舟形土製品(参考)一覽表

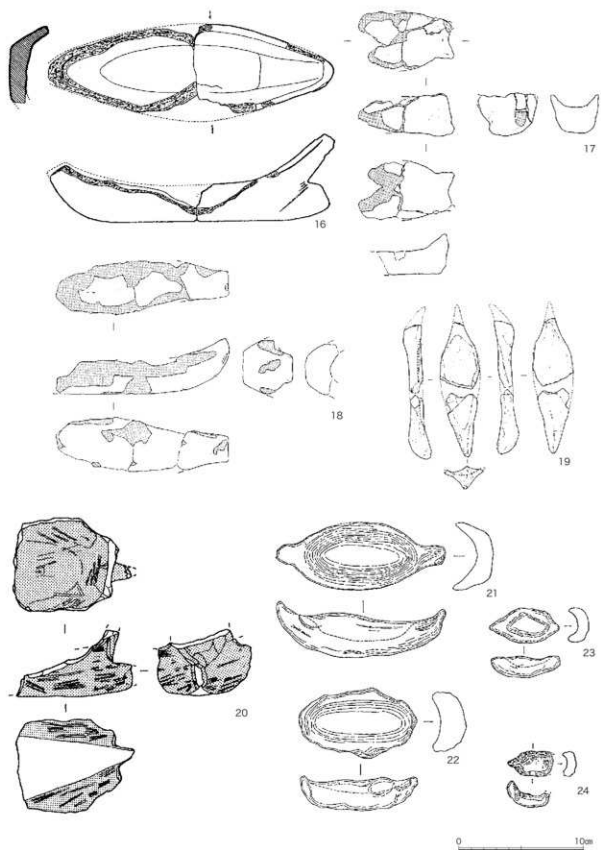
No	道跡名	所在地	全長 (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	分類	出土位置	出土遺構の時代	供伴遺物	備考	道跡の時代	立地	道跡の性格	文献
40	明花川道跡	埼玉県浦和市	6.4	1.1	1.8		包含物		縄文時代前期	縄文土器		縄文時代	付地上	集路	埼玉県歴史文化財調査 協会 1985「埼玉県 都市圏外周部 浦和地区 加地区 縄文文化施設 調査報告書」
41	三内道跡	青森県青森市 大字三内	(4.6) (3.6)	(6.7) (3.6)	(2.2) (1.2)	20.9 8.0	遺構外 住居		縄文時代前期	縄文土器・石器	IIc層 IIIa層	縄文時代・平安時代	集路跡、散佈地	集路	青森県教育委員会 2007「三内道跡」・ 三内山(9)道跡」
42	三内道跡	青森県青森市 大字三内	(4.0)	(2.7)	(1.2)	8.0	住居		縄文時代前期	縄文土器・石器 ミニチュア小 型土器		縄文時代	集路跡、散佈地	集路	青森県教育委員会 2007「三内道跡」・ 三内山(9)道跡」
43	三内丸山道跡	青森県青森市 大字三内	(2.5)	(7.1)	(2.1)	21.1	住居		縄文時代前期	縄文土器・石器 ミニチュア小 型土器		縄文時代	集路跡、散佈地	集路	青森県教育委員会 2007「三内道跡」・ 三内山(9)道跡」
44	三内丸山道跡	青森県青森市 大字三内	(2.5)	(7.1)	(2.1)	21.1	住居		縄文時代前期	縄文土器・石器 ミニチュア小 型土器		縄文時代	集路跡、散佈地	集路	青森県教育委員会 2007「三内道跡」・ 三内山(9)道跡」
45	下田道跡	群馬県太田市					惣穴建物跡 防藏穴		古墳時代前期		文獻中の写真 図版を解尺を 合わせてト レース	古墳時代前期	石田川に面す る台地裾部	集路	群馬県教育委員会・群馬 県歴史文化財調査事 業団 2002「水のめ ぐみ」
46	東沢中道跡	群馬県太田市	12.15	4.6	2.3		採集		古墳時代前期	古墳時代中期～後 期	文獻中の実測 図版をもとに採 回後使用	古墳時代前期	石田川に面す る台地裾部	集路	群馬県教育委員会・群馬 県歴史文化財調査事 業団 2002「水のめ ぐみ」
47	滝井清水町道跡	大分県南市	(4.1)	1.95	1.8		包含物		古墳時代中期～後 期	須賀瓦		中世	付地上	集路	大分県歴史文化財調査 センター 1986「落 井清水町道跡」
48	安久山崎道跡	静岡県三島市	4.4	2.3	0.9	11.4	惣穴建物跡		古墳時代後期			古墳時代前期～後 期	自然堤防の上	集路	三島市教育委員会 1989「安久山崎」
49	日置川道跡	北海道様寄郡 枝幸町	(3.2)	(3.0)	(2.2)		遺構外		古墳時代後期			縄文時代(オホー ツク文化期)		集路	枝幸町教育委員会 1988「日置川道跡」
50	日置川道跡	北海道様寄郡 枝幸町	(5.9)	(5.0)	(2.6)		遺構外		古墳時代後期			縄文時代(オホー ツク文化期)		集路	枝幸町教育委員会 1988「日置川道跡」
51	下道跡群	大分県大分市	(10.2)	3.9	3.4		土坑		古墳時代前期	土師器、石器		弥生時代・奈良時代		部断地帯地	大分県教育委員会 2009「下道跡群」 (注)



第446図 舟形土製品（弥生時代中～後期）

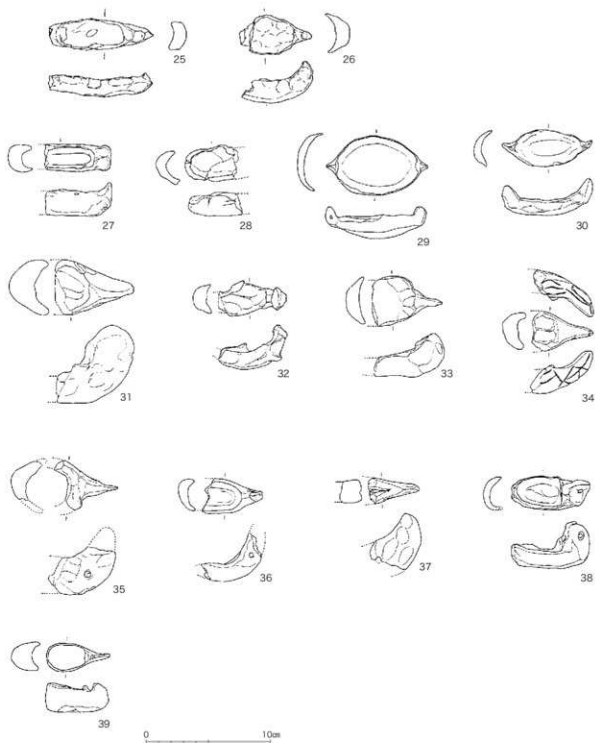


第447図 舟形土製品 (古墳時代前期)

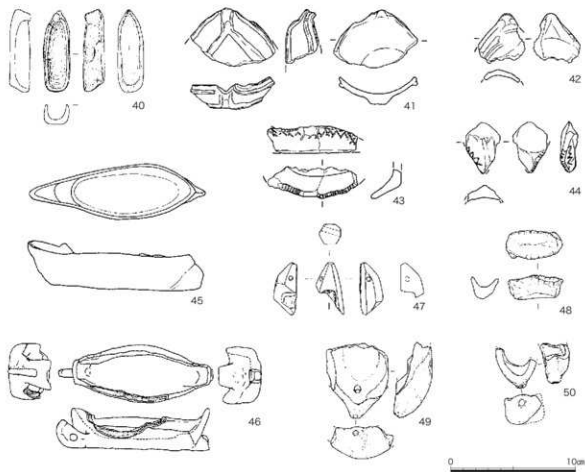


第448図 舟形土製品 (古墳時代中期)

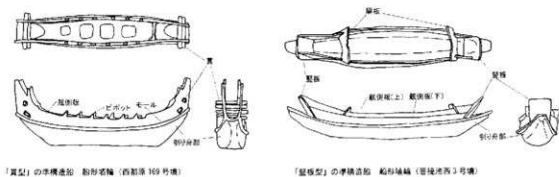




第449図 舟形土製品（古墳時代後期）

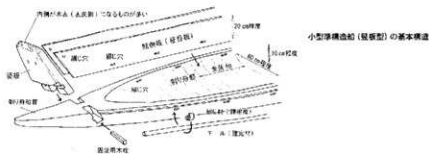


第450図 舟形土製品(参考)



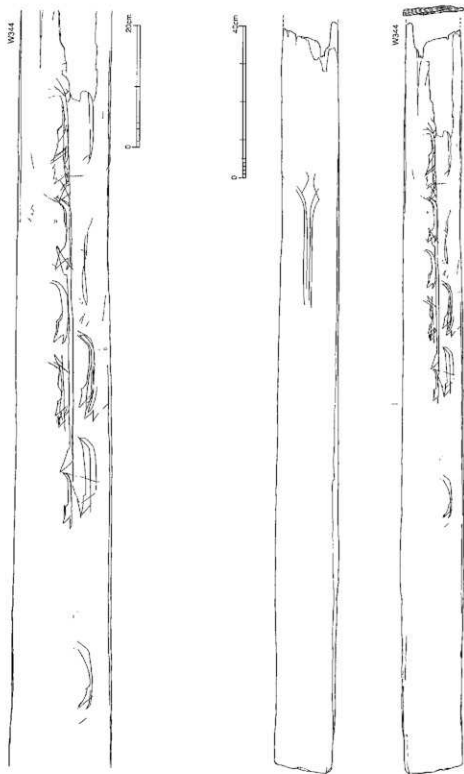
「真型」の準構造船 船形土輪(西宮原169号墳)

「型型」の準構造船 船形土輪(宮城野西3号墳)



小型準構造船(型型)の基本構造

第451図 準構造造船の構造(横田2004より変倍して転載)



第452図 袴狭遺跡出土線刻画木製品

## 付 章 石器の分析

## 石器の使用痕分析

(株) アルカ 高橋 哲

## 1. はじめに

欠ノ上1・II遺跡出土石器の使用痕観察を行った成果について以下報告する。

## 2. 分析方法

キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ (VH-7000) による高倍率ズームレンズ (VH-Z450) を用いて使用痕観察をおこなった。観察倍率は、200倍～450倍である。観察面は、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は梶原・阿子島の分類基準によっている (梶原・阿子島 1981)。微小剥離痕は、阿子島 (阿子島 1981, 89) を用いた。

石器刃部にみられる剥離面や刃部にみられる摩滅などの状態を観察するため、キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ (VH-7000) の低倍率ズームレンズ (10～40倍) による観察を行った。下記並びに属性表に用いた用語並びに記号などは、角張 (1998, 2000, 02, 07a, 07b)、高橋 (2008a)、竹岡 (1989)、山田・志村 (1989ab) によっている。

## 3. 分析結果

## 分析資料1 (第1図)

SB-1343出土の両面加工の縦形石匙である。

石器の剥離面は、3から5mm程度の剥離幅で (写真abc)、規則的であり、押圧剥離と思われる。写真cは写真aの打面側であり、剥離開始部の様相からソフトハンマーである。

高倍率で検鏡したところ、石器縁辺に光沢が広がるが、全体にまんべんなく広がるので (写真1, 2, 3, 4, 5)、使用に伴うかは不明である。特に中軸稜線の摩滅が顕著であり、縁辺に向かうにつれ、光沢などの発達 は弱まる。単純に表面が荒れているというだけでなく、長期間にわたって用いられ、刃部再生などの結果、特に古い剥離面が残る中軸稜上に強い光沢や摩滅が形成されたと考えられる。

## 分析資料2 (第2図)

SI-1459出土の両面加工の縦形石匙である。

横長剥片を素材とし、素材全縁辺の周辺を加工している。素材のバルブの発達具合からおそらくハードハンマーの直接打撃であろう。

右辺側は80度近くの急角度で加工され、剥離幅が9mm程度、開始部が砕けており (写真ab)、nHDの可能性が高い。縁辺の見通しは交互剥離である。

左辺は右辺に比べ剥離規模が小さい。65度程度で、薄い。裏面は平坦剥離である (写真cd)。こちらに素材バルブがある。

高倍率で検鏡したところ、摩滅が多少みられる程度である (写真1, 2)。右辺側はなにも確認できなかった。

加工の様相を踏まえても、刃部は左辺と思われる。

分析資料3 (第3図)

SI-1143出土の片面加工の横形石匙である。縦長剥片を素材としている。

刃部は、60度近くであり。開始部は潰れが顕著である(写真a)。

刃部には肉眼でもうっすらと光沢がみられる。高倍率で検鏡した所、やや明るい粗い表面を持つ光沢が確認でき(写真1)、Cタイプ光沢であろう。強度の摩擦を伴っている。表面にはこうした光沢はみられなかった(写真2)。線状痕は刃部に対して平行方向である。

分析資料4 (第3図)

SI-1143出土の片面加工の横形削器である。横長剥片を素材とし、コーンがあり、ハードハンマーの直接打撃で素材が剥離された。

刃部は、70度近くであり。開始部は微小剥離痕が顕著である(写真b)。分析資料3の刃部加工と類似している。

高倍率で検鏡した所、やや明るい粗い表面を持つ光沢が確認でき(写真3、4)、Cタイプ光沢であろう。強度の摩擦を伴っている。表面にはこうした光沢はみられなかった。

分析資料3、4は、同じ遺構出土であるだけでなく、同じような使用痕が確認できたことになる。光沢や微小剥離痕の様相、線状痕などから、角・骨などの切断・鋸引きのように用いられたと思われる。

分析資料5 (第4図)

SI-1067出土の削器である。末端は反方向で加工されている。高倍率では何も確認できなかった(写真2)。形態整形加工であろう。

左辺は二次加工と摩擦がみられる(写真ab)。光沢が確認できた(写真1)。粗く、鈍い光沢であり、摩擦を伴う。Eタイプであろう。線状痕は見られなかった。

動物の肉・皮類に関わる用途と思われる。

分析資料6 (第4図)

SK-1685出土の鉄石英製の石器である。縦長剥片を素材とし、コーンタイプであり、ハードハンマーの直接打撃である。

全面摩擦し(写真e)、高倍率でも石器表面には全体に粗い光沢が広がっている(写真3)。

こうした摩擦や光沢が広がらない範囲があり、右辺は剥離(写真c)で窪んでいる。左辺は先端が急角度の片面加工、基部側が両面加工の交互剥離である(写真d)が、古い面と新しい面が混在しており、意図的な加工かは判断できない。古い面には表面と同じ状態がみられるが(写真4)、摩擦のない剥離面は変化のないきれいな面である(写真5)。

全体に剥離面も意図的な加工かは不明であり、これ自体が石器であるかは判断できない。鉄石英という石材から遺跡内にもちこまれた素材剥片であろうか。

分析資料7 (第5図)

Ⅱ区出土のチャート製の石錐である。錐部に強度に発達した摩滅がみられる（写真a）。高倍率顕微鏡下でも強い摩滅が確認されている（写真1）。光沢タイプは不明である。錐部長軸に対して直交する線状痕が確認できた。

チャートの縁辺を摩滅させる研磨作用の強い被加工物であり、線状痕の方向と、刃部形態から、穿孔の用途が考えられる。

#### 分析資料8（第5図）

Ⅱ区埋没谷出土の剥片である。剥離開始部はコーンが形成されているが、なだらかであり（写真b）、ソフトハンマーと思われる。使用痕は確認できなかった（写真2）。

#### 分析資料9（第5図）

SI-306出土の横長剥片である。コーンが真っ二つの割れた縦折れ資料である（写真c）。表面は光沢など確認できない（写真4）。末端部に部分的に光沢がみられるが、石器表面にもみられるので使用によって生じたものかは断定できない（写真3）。

#### 分析資料10（第6図）

SK-1308出土のチャート製剥片である。点状打面であり、バルブの発達もなく、垂直打撃で剥離されたと思われる。

微小剥離痕がみられ（写真b）、光沢はあるが（写真1）、石器表面にもみられ（写真2）、使用によって生じたかは判断できない。

#### 分析資料11（第6図）

Ⅱ区埋没谷出土のチャート製剥片である。長軸両端に縁辺は潰れ、両端から剥離が発生し、バルブなどの発達がないことから、両極剥片であろう。高倍率で検鏡したところ、光沢はあるが（写真3）、石器表面にもみられ、使用によって生じたかは判断できない。

#### 分析資料12（第6図）

Ⅱ区埋没谷出土のチャート製剥片である。線状打面である。バルブは平である（写真d）。垂直打撃で剥離されたと思われる。

光沢はあるが（写真4）、石器表面にもみられ（写真5）、使用によって生じたかは判断できない。

#### 4. まとめ

- 両面加工の石匙分析資料1は使用の様相から、長期間にわたり用いられたとも思われ、また加工が、他の石器と比べて非常に丁寧であることから、この地域で製作されたというよりも、他地域からの搬入品の可能性もある。土器の様相と絡めて議論すれば、この遺跡でも他地域の関係にも議論できるであろう。
- SI-1143出土の石器は2点とも同じような用途が想定される。
- チャートはすべて垂直打ちの資料である。大形剥片には縦折れを起こしており、強い圧縮力によって

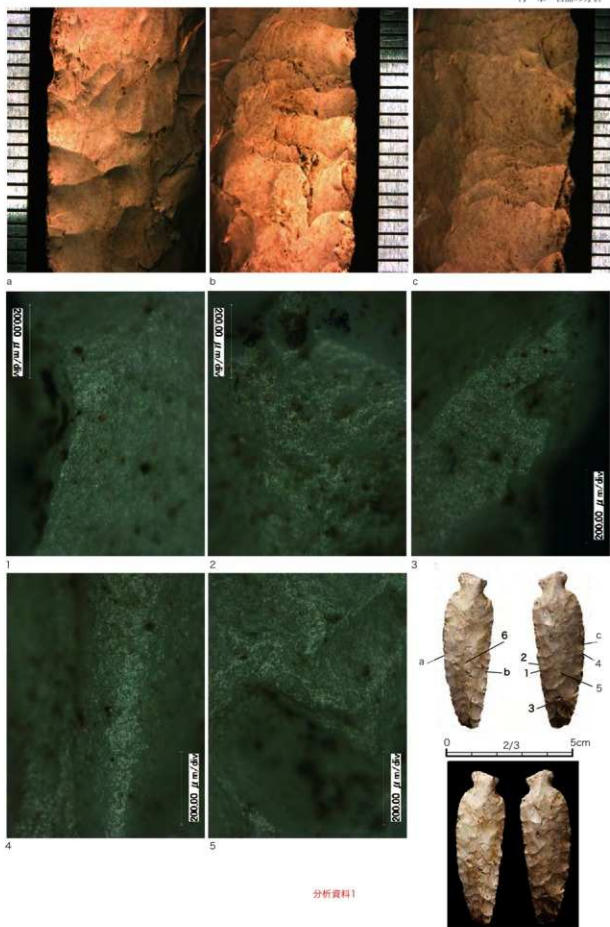
剥離されたと推定される。1点ソフトハンマーの直接打撃の剥片があった。

- ・ 二次加工のないチャート、鉄石英、頁岩などの剥片類は、使用した痕跡もないので、素材として遺跡に持ち込まれたと思われる。おそらく石礫、石錐や削器類などの素材剥片であろう。

同時期の東北地方では、大木式と円筒式でも差はあるが、石器にAタイプ光沢というイネ科植物に特有に生じる光沢が検出できる(高橋2007、08b)。しかしこの遺跡を含め関東以西では、動物関連の使用痕が確認できる傾向が強いので、石器の用途が土器文化とどのように関わったかなどの議論は今後の課題であろう。

#### 参考文献

- 阿子島香 1981 『マイクロフレイキングの実験的研究(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その1)』『考古学雑誌』 66-4 pp.1-27
- 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー 56 ニュー・サイエンス社
- 角張淳一 1998 『石器研究についての感想』『東京考古』16 pp.135-165
- 2000 『続・石器研究についての感想』『東京考古』18 pp.46-70
- 2002 『石器研究の展望』『利根川』23 pp.1-14
- 2003 『剥片剥離技術の検討および石器実測図の評価』『平成14年度 愛知県埋蔵文化財センター年報』愛知県埋蔵文化財センター pp.78-84
- 2007a 『石器の製作』『考古学ハンドブック』観書館 pp.104-105
- 2007b 『先土器時代石器技法論』『列島の考古学Ⅱ 渡辺誠先生古希記念論文集』 pp.263-276
- 梶原洋・阿子島香 1981 『頁岩製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試み—(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その2)』『考古学雑誌』67-1 pp.1-35
- 高橋哲 2003 『使用痕実験報告と使用痕研究の課題』『アルカ研究論集』1 pp.54-59
- 2007 『石匙の使用痕分析—植物加工道具としての石匙についての考察—』『考古学叢書』六一書房 pp.369-388
- 2008a 『押圧剥離実験報告—ネガ面の研究—』『宮城考古学』10 pp.129-144
- 2008b 『使用痕分析からみた縄文石器の機能についての考察』『アルカ研究論集』3 株式会社アルカ pp.1-25
- 竹岡俊樹 1989 『石器研究法』言叢社
- 山田しょう・志村宗昭 1989a 『石器の破壊力学(1)』『旧石器考古学』38 pp.157-170
- 1989b 『石器の破壊力学(2)』『旧石器考古学』39 pp.15-30



分析資料1





a b 写真aの打面側

c 写真dの打面側

d



1

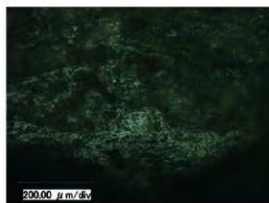
2

3 写真2の拡大

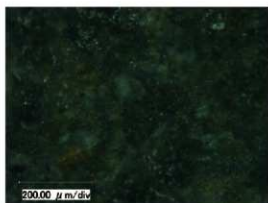




a



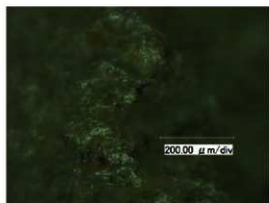
1



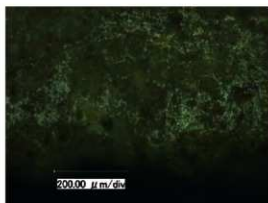
2



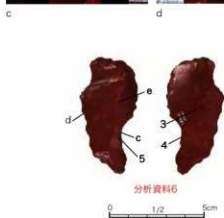
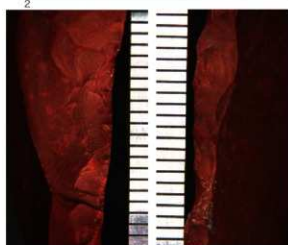
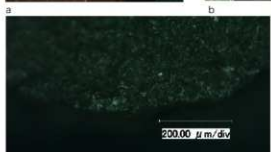
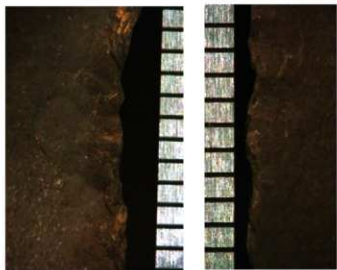
b

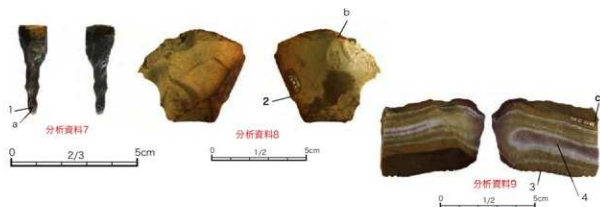
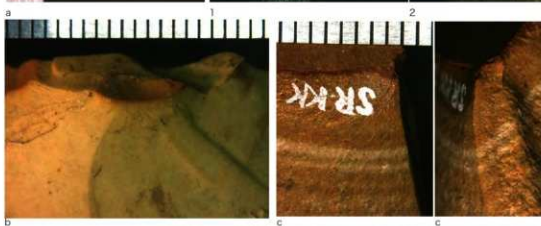


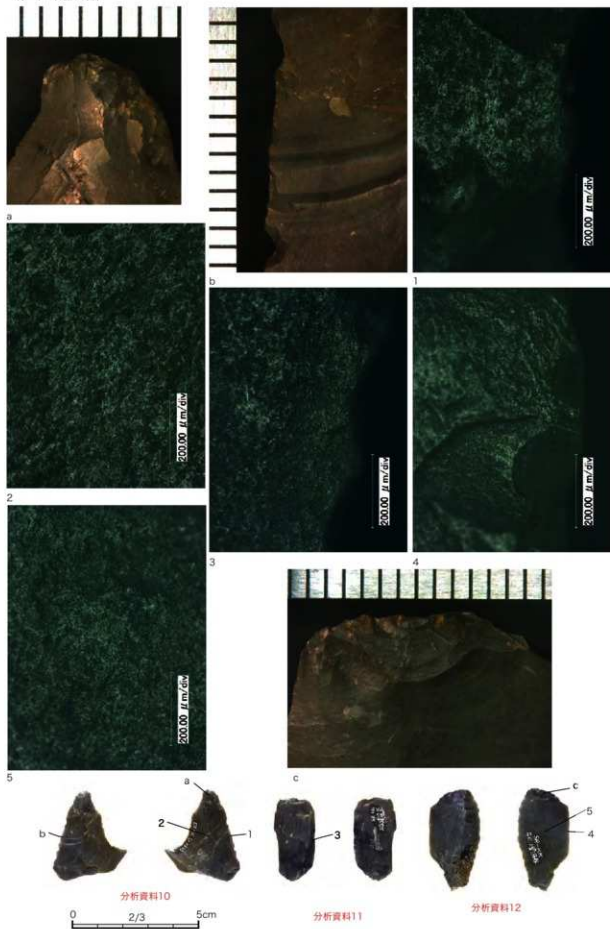
3



4







第6図

# 写 真 图 版



遺跡と周辺の環境（南から）



SK-1182 遺物出土状況（西から）



SK-1888 完掘（南から）



SK-1932 完掘（東から）



SK-2737 完掘（南東から）





SI-44 完掘（南東から）



SI-45 完掘（南西から）



SI-50 遺物出土状況（南から）



SI-62 床検出状況・SE-61 セクション（南から）



SI-65 遺物出土状況（南東から）



SI-81～83 掘方完掘（東から）



SI-81 遺物出土状況（南東から）



SI-82 カマド完掘（南から）





SI-82・83 遺物出土状況 (南から)



SI-83 カマド遺物出土状況 (南東から)



SI-90 完掘 (南西から)



SI-90 遺物出土状況 (南から)



SI-91・92 遺物出土状況 (南から)



SI-92 完掘 (南東から)



SI-114 完掘 (南東から)



SI-114 遺物出土状況 (東から)



SI-114 カマド遺物出土状況(南から)



SI-115 完掘(南東から)



SI-143 遺物出土状況(南から)



SI-143 張出しピット遺物出土状況(北から)



SI-157 完掘・セクション(南西から)



SI-925・1376 完掘(東から)



SI-925 完掘(南から)



SI-1035 完掘(南西から)



SI-1035 遺物出土状況 (南から)



SI-1035 遺物出土状況 (東から)



SI-1277 完掘 (南から)



SI-1306 掘方確認状況 (南から)



SI-1372 完掘 (南から)



SI-1372 漆容器出土状況 (南から)



SI-1372 カマド遺物出土状況 (南から)



SI-1373・1374 完掘 (南東から)





SI-1375 完掘 (北西から)



SI-1376 完掘 (南東から)



SI-1377 完掘 (北東から)



SI-1378 完掘 (南東から)



SI-1378 遺物出土状況 (東から)



SI-1425 掘方完掘 (南東から)



SI-1425 遺物出土状況 (南東から)



SI-1440 遺物出土状況 (南から)



SI-1465 完掘 (南から)



SI-1495・1496 完掘 (東から)



SI-1496 貯蔵穴 (東から)



SI-1498 完掘 (西から)



SI-1498 カマド遺物出土状況 (西から)



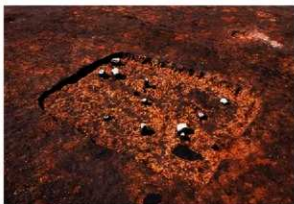
SI-1631・1672 完掘 (南から)



SI-1671 完掘 (南から)



SI-1690 完掘 (南東から)



SI-1716 遺物出土状況 (東から)



SI-1920 完掘 (南東から)



SI-2104 完掘 (南から)



SI-2594 完掘 (南東から)



SI-2595 完掘 (南から)



SI-2595 遺物出土状況 (南東から)



SI-2596 完掘 (南から)



SI-2700 遺物出土状況 (南西から)





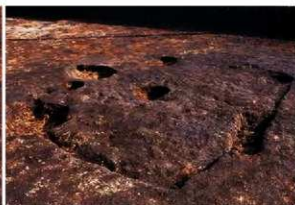
SI-2725 完掘（南から）



SI-2727 遺物出土状況（南東から）



SI-2735 完掘（南西から）



SI-2740 完掘（北西から）



SI-2743 完掘・セクション（北から）



SB-100 柱痕跡確認状況（南から）



SB-100 完掘（南から）



SK-1356 遺物出土状況（北から）



SK-1363 遺物出土状況（北から）



SK-1540 遺物出土状況（南から）



SD-1082・SE-1100 完掘（南から）



SB-167 完掘（南東から）



SB-169 完掘（北東から）



SB-1460 完掘（南西から）



SB-2068 完掘（南東から）



SB-2798・SA-2799 完掘（南西から）





SK-981 完掘（西から）



SK-1827 完掘（南から）



SK-1839 遺物出土状況（西から）



SK-1839 土師質土器皿出土状況（西から）



SK-1839 漆痕出土状況（北から）



SK-1980 セクション（南から）



SK-1986 完掘（東から）



SK-1995 完掘（南西から）



SK-2041 完掘（東から）



SK-2556 焼土堆積状況・セクション（北西から）



SE-61 完掘（南から）



SK-2~5 完掘（南東から）



SK-3・4 セクション（南から）



SK-1068 完掘（東から）



SD-1000 完掘（東から）



SD-1000 セクション A（南東から）



SD-1421 完掘（南から）



SZ-95 人骨出土状況（東から）



SZ-1412～1415 完掘状況（南西から）



SZ-1412 完掘（南から）



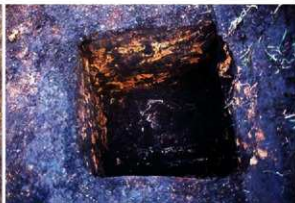
SZ-1413 完掘（南から）



SZ-1415 完掘（西から）



SZ-2645 焼土検出状況（南西から）



SZ-2679 人骨出土状況（西から）

図版一四 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡 全景



遺跡全景（北東から）



遺跡全景（北から）





SI-1067 遺物出土状況（南から）



SI-1309 遺物出土状況（西から）



SI-1366 完掘（南から）



SI-1459 完掘（東から）



SI-1518 完掘（南から）



SI-1592 完掘（東から）



SI-1672 完掘（東から）



SI-1674 完掘（南から）



SI-1680 完掘 (南から)



SI-1688 完掘 (北から)



SK-841 遺物出土状況 (南から)



SI-19 完掘 (南から)



SI-19 カマド完掘 (南から)



SI-56 完掘 (南から)



SI-144 完掘 (南から)



SI-234 完掘 (南から)



SI-306 完掘（西から）



SI-429 完掘（南から）



SI-529 完掘（南から）



SI-766 完掘（南から）



SI-989 完掘（南から）



SI-1002 完掘（南から）



SI-1053 完掘（南から）



SI-1083 土壁検出状況（南から）





SI-1083 完掘 (西から)



SI-1083 東コーナー遺物出土状況 (西から)



SI-1083P7 遺物出土状況 (西から)



SI-1083 遺物出土状況 (北西から)



SI-1143・1679 完掘 (南から)



SI-1143 遺物出土状況 (南西から)



SI-1370 完掘 (南東から)



SI-1641 完掘 (西から)





SI-1641 カマド (西から)



SI-1641 東壁付近遺物出土状況 (北西から)



SI-1641 カマド東側遺物出土状況 (東から)



SI-1641 カマド遺物出土状況 (南西から)



SI-1641 カマド遺物出土状況 (北東から)



SI-1642 完掘 (南から)



SI-1643A・1643B 完掘 (南から)



SI-1643P3 遺物出土状況 (南から)



SI-1643B 遺物出土状況（東から）



SI-1644 完掘（南から）



SI-1645 完掘（南から）



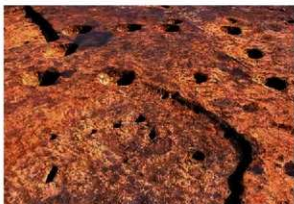
SI-1677 完掘（南から）



SI-1682 完掘（南から）



SB-21 完掘（南から）



SB-1074 完掘（西から）



SB-1207 完掘（南から）



SB-1260 完掘 (南から)



SB-1343 完掘 (南から)



SK-1286 遺物出土状況 (南から)



SK-54 完掘 (西から)



SK-58 完掘 (北西から)



SK-59 完掘 (西から)



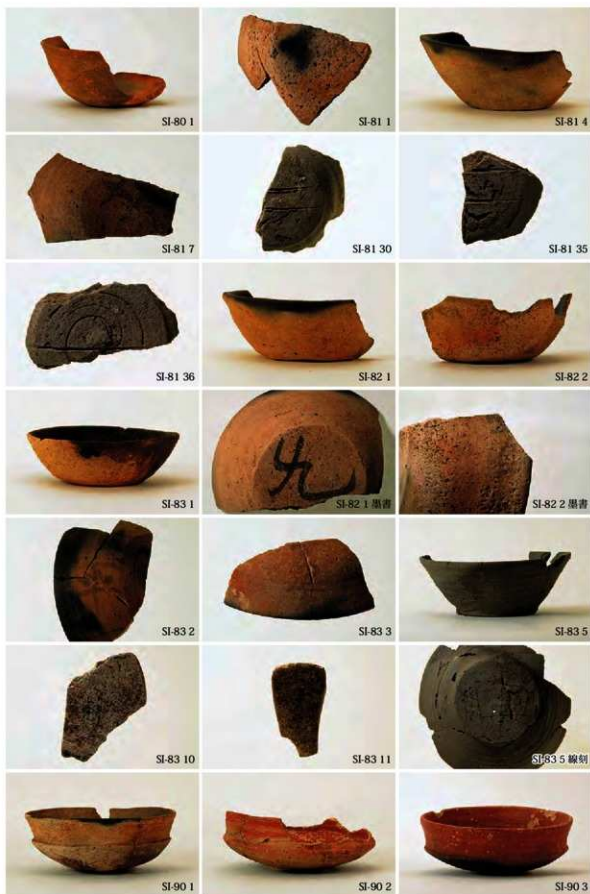
SK-145a・145b 完掘 (西から)



SK-950 人骨出土状況 (南から)









SI-114 2



SI-143 1



SI-90 8



SI-114 25



SI-143 10



SI-143 11



SI-143 12



SI-143 9



SI-143 13



SI-925 2



SI-925 3



SI-925 5



SI-925 2



SI-925 7



SI-925 8



SI-925 9



SI-925 14



SI-1035 6



SI-1035 1



SI-1035 5



SI-1035 10 皿大



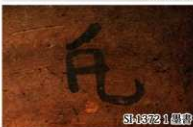
SI-1372 1



SI-1372 2 内面



SI-1372 16



SI-1372 1 皿書



SI-1372 2



SI-1372 18



SI-1374 1



SI-1378 1



SI-1378 6



SI-1425 1



SI-1425 2



SI-1440 1



SI-1440 4

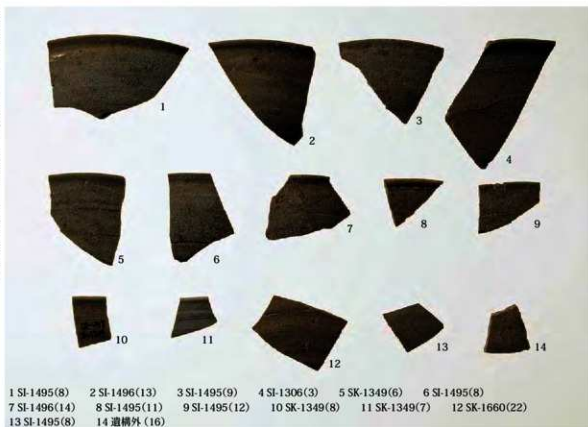


SI-1496 8









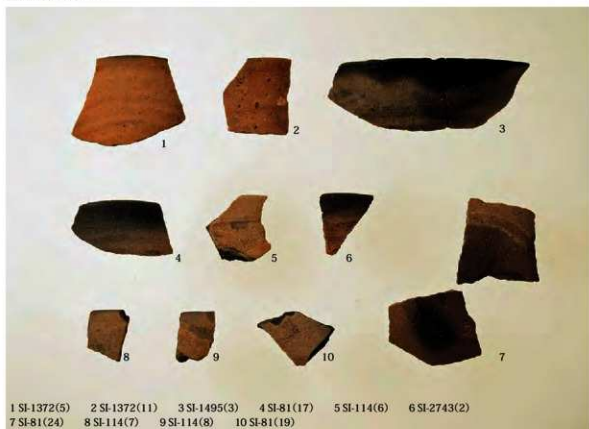
灰釉陶器 皿



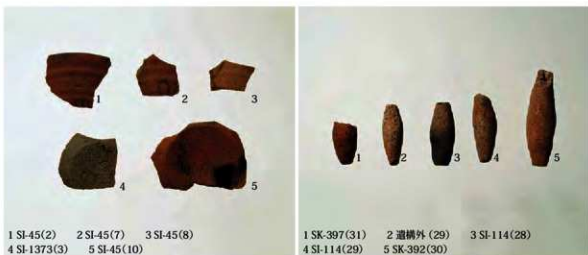
灰釉陶器 碗・壺



墨書土器 部分のみ



墨書土器 文字不明

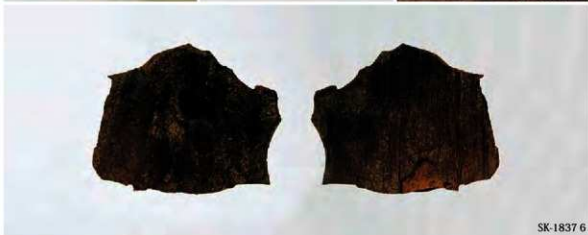


1 SI-45(2) 2 SI-45(7) 3 SI-45(8)  
4 SI-1373(3) 5 SI-45(10)

黒書土器 記号

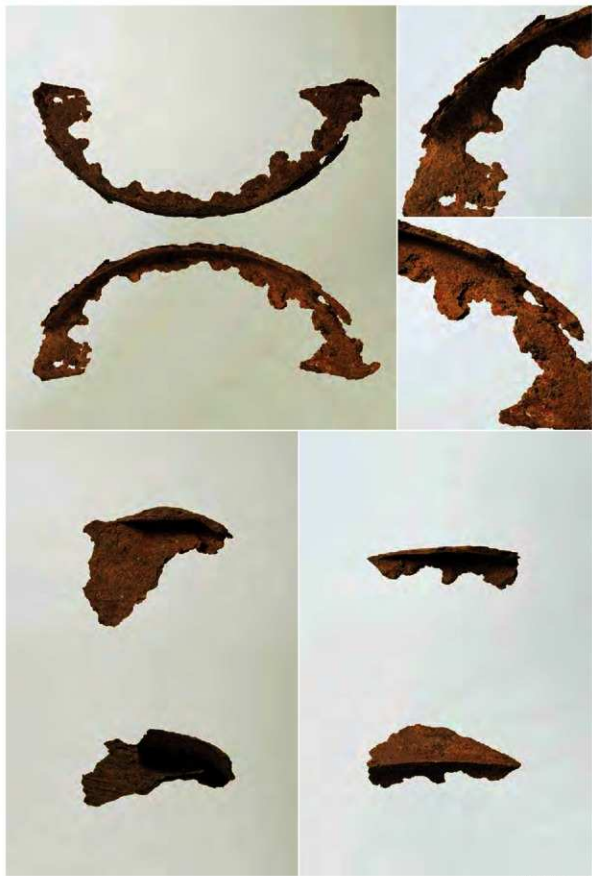
1 SK-397(31) 2 遺構外(29) 3 SI-114(28)  
4 SI-114(29) 5 SK-392(30)

土錐



SK-1837 6

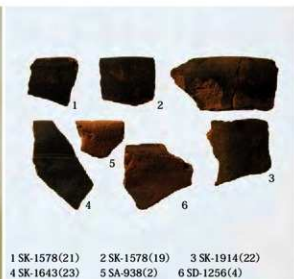
図版三一 山の神II遺跡 中近世の遺物





1 SK-56(14) 2 SD-1000(5) 3 SK-55(17)  
4 SE-60・61(1) 5 SK-1800(18) 6 SD-1000(6)

常滑



1 SK-1578(21) 2 SK-1578(19) 3 SK-1914(22)  
4 SK-1643(23) 5 SA-938(2) 6 SD-1256(4)

内耳土鍋



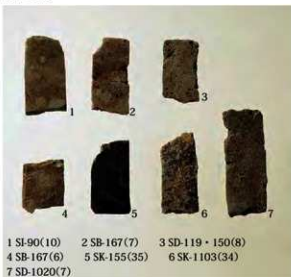
1 SD-1020(1) 2 遺構外(1) 3 SK-105(1)  
4 SK-101(12) 5 SK-105(6) 6 遺構外(2)

瀬戸美濃



1 SK-173(25) 2 SK-173(24) 3 SK-123(26)

埴埴鉢



1 SI-90(10) 2 SB-167(7) 3 SD-119・150(8)  
4 SB-167(6) 5 SK-155(35) 6 SK-1103(34)  
7 SD-1020(7)

砥石



1 SK-1883(15) 2 SK-1272(16) 3 SE-60・61(2)  
4 遺構外(3) 5 SA-258(3)

周縁研磨土器



図版三四 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡 縄文時代の遺物



SI-1067 29



SI-1688 1



SI-1674 1



SI-1679 2



SI-1679 3



SI-1679 4



SI-1688 2



土師遺構混在 202



SI-1067 10



SI-1067 12



SI-1067 13



埋没谷 10



埋没谷 71



包含層 7



土師遺構混在 59





石鏃



削器・搔器・石匙・石錐



1 土師遺構混在 (7) 2 包含層 (5) 3 表土・カク乱 (2)

石核



1 埋没谷 (5) 2 土師遺構混在 (13) 3 埋没谷 (2)  
4 土師遺構混在 (12) 5 SI-1518 (4) 6 包含層 (9)

剥片



1 包含層 (35) 2 包含層 (34) 3 埋没谷 (73)  
4 表土・カク乱 (19) 5 包含層 (32) 6 包含層 (36)

石斧



SI-529 1



SI-529 2



SI-1053 4



SI-529 1 器書



SI-1053 1



SI-1053 4 器書



SI-1083 3 内面



SI-1083 13 内面



SI-1083 20



SI-1083 3



SI-1083 13



SI-1083 16



SI-1083 17



SI-1143 1



図版三八 欠ノ上I遺跡・欠ノ上II遺跡 古代の遺物





SI-1643 12



SI-1643 15



SI-1643 29



SI-1643 26



SI-1645 6



SI-1645 9

SI-1644 4



SI-1677 6



SI-1677 1



SI-1677 2



SI-1677 7



SI-1677 1 墨書



SI-1677 2 墨書



SI-1677 7 へろ型跡



SB-1074 1

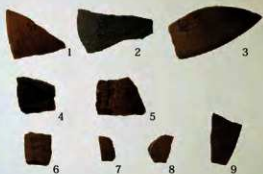


SB-1074 1 墨書

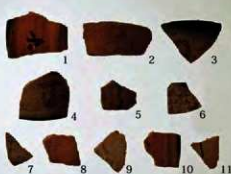


埋没谷 1 舟形土製品

図版四〇 欠ノ上ノ遺跡・欠ノ上ニ遺跡



1 SI-1370(13) 2 SI-1370(17) 3 SI-1370(8)  
 4 SI-1370(16) 5 SI-1370(15) 6 SI-1053(5)  
 7 SI-1053(8) 8 SI-1053(7) 9 SI-1370(14)



1 SI-1642(29) 2 SI-1643(6) 3 SI-56(1)  
 4 SI-1677(5) 5 SI-1642(33) 6 SI-1643(7)  
 7 SI-1645(3) 8 SI-1642(31) 9 SI-1642(32)  
 10 SI-1642(30) 11 SI-1053(6)

黒書土器「田中」

黒書土器 部分のみ

古代、中近世の遺物



SI-1083 出土遺物



SI-1641 出土遺物



SK-1286 3 ~ 5



SK-649 1

# 報告書抄録

ふりがな	やまのかみにいせき・かけのうえいちいせき・かけのうえにいせき
書名	山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡
副書名	経営体育成基整備事業江川南部Ⅱ地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第359集
編著者名	永井三郎
編集機関	財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2013年3月28日 (平成25年3月28日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまのかみにいせき 山の神Ⅱ遺跡	さくら市 かなえだちない 金枝地内	9214 旧宮瀬川 44		36°73'64"	140°04'10"	20070424 ～20090330	33.500	経営体育成基 整備事業
				36°73'18"	140°04'46"	20080423 ～20090330		
欠ノ上Ⅰ遺跡 欠ノ上Ⅱ遺跡								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
やまのかみにいせき 山の神Ⅱ遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代	竈穴 竈穴建物跡 竈立柱建物跡 欄干跡 方形竈穴・伏土坑 井戸 溝 近世墓 土坑	5 基 55 軒 38 棟 11 列 10 基 4 基 33 基 18 基 多数	縄文土器、土師器、須恵器、古瀬戸 常滑、瀬戸美濃、肥前系磁器、堺系雑鉢 鉄製品 (銅銭、煙管) 滑石製石硯、石製紡錘車 土製品 (土鐘)	平安時代の竈穴建物跡から「♀」および「丸」文字に類する「丸」墨書土器が出土。中世の土師質土器皿にも不明墨書がみられる。
欠ノ上Ⅰ遺跡 欠ノ上Ⅱ遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代	竈穴建物跡 竈立柱建物跡 近世墓 土坑	37 軒 8 棟 2 基 多数	縄文土器、土師器、須恵器 鉄製品 (銅銭、煙管) 石製品 (勾玉) 土製品 (舟形、泥面子)	平安時代の竈穴建物跡から伝製品と考えられる石製勾玉が出土。埋没谷から舟形土製品が出土。

要約	<p>山の神Ⅱ遺跡は、江川右岸の低位河岸段丘上に位置する。古墳時代前期前から小規模な集落が断続的に営まれ、平安時代前半に最も拡大する。最盛期の竈穴建物跡からは、類例のない「♀」墨書土器や、削天文字に類する「丸」墨書土器が出土している。中世～近世には竈立柱建物跡が断続的にみられるが、屋敷を構成するには至らない。15世紀から江川沿岸に金枝集落が形成され16世紀後半には金枝城が機能しており、金枝集落の枝村として経営されたものと考えられる。</p> <p>欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡は、江川右岸の低位河岸段丘上に位置する。縄文時代前期の集落が形成され、黒式土器・黒式土器を出土する。また埋没谷からは多数の縄文土器、石器が出土した。古墳時代前期～平安時代前半は断続的に集落が営まれ、平安時代前半に最も拡大する。竈穴建物跡から伝製品と考えられる石製勾玉が出土した。また埋没谷から古墳時代前期の舟形土製品が出土した。</p>
----	---

---

栃木県埋蔵文化財調査報告第359集

山の神Ⅱ遺跡・欠ノ上Ⅰ遺跡・欠ノ上Ⅱ遺跡

—経営体育成基盤整備事業(川南部Ⅱ地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市堀田1-1-20

TEL 028(623)3425

財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

TEL 028(643)1011

編集 財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

TEL 0285(44)8441

発行日 平成25年3月28日発行

印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷

---